

平成26年度
授業計画書

東京藝術大学

音楽学部
大学院音楽研究科
別科

注意事項

- (1) この授業計画書に掲載する情報は平成26年4月3日(木)現在のものであり、内容に訂正・変更があった場合は学内掲示のみで周知する。
- (2) 平成26年度の休講科目については、掲示板に休講科目一覧を掲載するので確認すること。
- (3) 科目名等の見方

科目名：授業科目の名称

代表教員：授業科目を担当する代表教員を表す

曜日時限：開設される曜日と時限。「その他」とあるものは、曜日時限に限定されない授業、もしくは3時限以上にまたがって授業が行われる授業を表す

学 期：「前期」、「後期」、「通年」、「集中講義」の区分に分かれる

単 位 数：授業科目の単位数を表す

ジャンル：授業科目の区分を表す

開設区分：授業科目を開設する学部等を表す

交流区分：「交流」とあるものは、他学部等との交流科目であることを表す

(例)

アートマネージメント概論

代表教員：枝川 明敬

曜日時限：火曜5限

学 期：通年

単 位 数：4単位

ジャンル：教養科目（一般教養科目）

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

※開設学部について

音楽学部：音楽学部生対象の科目

音楽併設：音楽学部生、音楽研究科（修士）学生対象の科目

美術学部：美術学部生対象の科目

美術併設：美術学部生、美術研究科（修士）学生対象の科目

目次

教養科目（一般教養科目）	1	心理学概説	21
アートマネジメント概論	2	生物学	22
英米文学	2	著作権概論	23
演劇論	3	ドイツ文学 I（詩）	24
音楽アウトリーチ	5	美学	24
音楽教育入門	5	フランス文学	25
音楽文化史	6	文化人類学	26
音楽療法概論	7	文章表現論	26
音楽療法入門	7	法学（含日本国憲法）	27
音響学	8	法学（含日本国憲法）	28
音声学	9	ポップ論	29
環境と防災の科学	10	ミュージカル概論	29
経済学	11	メディア・リテラシー	30
芸術史	12	メディア論	31
芸術文化環境論	13	臨床音楽入門	32
芸術論	14	倫理学	32
芸大生入門～大学生活とキャリアを考える～	15	歴史	33
思想史	16	専門基礎科目	35
社会学	16	オペラ史	36
社会基盤としての芸術 I	17	音楽学関係科目 1	37
社会基盤としての芸術 I	18	音楽学関係科目 2	38
社会基盤としての芸術 II	19	音楽分析	39
宗教学	20	音楽リサーチ法 I	40
		音楽リサーチ法 I	40

音楽リサーチ法Ⅱ	41	伊語演習B	59
音楽リサーチ法Ⅱ	41	伊語演習C	60
合奏Ⅲ-1	42	英語ⅠA	60
合奏Ⅲ-2	42	英語ⅠB	61
管楽器オーケストラスタディ	43	英語ⅠC	61
管弦楽概論	43	英語ⅠD	62
古典舞踏	44	英語ⅡA	63
古典舞踏Ⅰ	45	英語ⅡB	64
古典舞踏Ⅱ	46	英語ⅡC	64
作曲家作品研究A（声楽）	47	英語ⅡD	65
作曲家作品研究C（管弦楽）	48	英語演習A	66
西洋音楽史	49	英語演習B	67
即興創造講座	50	英語演習C	68
対位法	51	英語入門ⅠA	69
日本・東洋音楽史	51	英語入門ⅠB	69
邦楽概論A（雅楽）	52	英語入門ⅡA	70
邦楽概論C（能楽）	53	英語入門ⅡB	71
邦楽概論D（三曲）	54	韓国語初級	71
外国語科目	55	スペイン語（初級）	72
伊語（初級）A	56	スペイン語（中級）	72
伊語（初級）B	56	独語（初級）A	73
伊語（中級）A	57	独語（初級）B	74
伊語（中級）B	57	独語（初級）C	74
伊語（中級）C	58	独語（初級）D	75
伊語演習A	58	独語（初級）E	76
伊語演習B	59	独語（中級）A	76
		独語（中級）B	77

独語（中級）C	77	イタリア語朗読法演習	94
独語（中級）D	78	英語会話 I a	95
独語（中級）E	78	英語会話 I a	95
独語（中級）G	79	英語会話 I b	96
独語演習 B	79	英語会話 I b	98
独語演習 D	80	英語会話 I c	99
仏語（初級）A	80	英語会話 II a	100
仏語（初級）B	81	英語会話 II b	101
仏語（初級）C	82	英語会話 III a	102
仏語（中級）A	82	英語会話 III b	103
仏語（中級）B	83	英語原典指導 A	103
仏語（中級）C	84	英語原典指導 B	104
仏語（中級）D	84	英語作文 I	104
仏語演習 A	85	英語総合講座（言語学入門）	105
仏語演習 B	86	英語ディスカッション II	106
ラテン語	87	英語プレゼンテーション II	107
露語（初級）	87	実用イタリア語 II	107
露語（中級）	88	実用英語 I a	108
露語演習	89	実用英語 I b	109
		実用英語 I b	110
言語・音声トレーニングセンター開設科目		実用英語 I c	110
.....	90	実用英語 II a	111
Advanced Writing（英語作文Ⅲ）	91	実用英語 II b	112
伊語会話 I a	92	実用英語 II c	113
伊語会話 I b	92	実用ドイツ語 I a	114
伊語原典指導	93	実用ドイツ語 I b	115
イタリア語朗読法演習	93	実用ドイツ語 II	115

実用フランス語Ⅱ	116	体育Ⅰ（体操・球技）	134
ドイツ語歌詞演習A	116	体育Ⅰ（体操・球技）	135
ドイツ語歌詞演習B	117	体育Ⅰ（体操・球技）	135
ドイツ語朗読法演習	117	体育Ⅰ（フラッグフットボール・球技）	136
独語会話Ⅰa	118	体育Ⅱ	137
独語会話Ⅰb	118	体育Ⅱ	137
独語会話Ⅰc	119	体育Ⅱ	138
独語会話Ⅱ	119	体育Ⅱ	138
独語原典指導A	120	体育Ⅱ	139
独語原典指導B	120	体育Ⅱ	139
独語作文Ⅰ	121	体育Ⅱ	140
仏語原典指導	121	体育Ⅱ	140
仏語初級表現法	122	体育Ⅱ（取手）	141
フランス語朗読法演習	122	体育Ⅱ（剣道）	142
保健体育科目	123	体育Ⅱ（剣道）	143
体育Ⅰ（球技・ランニング&フィットネス）	124	体育Ⅱ（剣道）	144
体育Ⅰ（球技等スポーツ）	125	体育Ⅱ（剣道）	145
体育Ⅰ（球技等スポーツ・体操）	126	体育Ⅱ（剣道）	146
体育Ⅰ（球技等スポーツ・体操・ダンス）（取手）	127	企画展示論	146
体育Ⅰ（剣道）	128	留学生特別科目	148
体育Ⅰ（剣道）	129	日本語（初級）	149
体育Ⅰ（剣道）	130	日本語（初級）	150
体育Ⅰ（剣道）	131	日本語（中級）	151
体育Ⅰ（剣道）	132	日本語（入門）	152
体育Ⅰ（身体操法～身体を通して気づく～）	133	日本語（入門）	153
		日本事情（含日本語表現法）	154

大学美術館開設科目.....	155	アーカイブ概論	176
生涯学習概論	156	インタラクティブ・ミュージック I	177
博物館教育論	157	インタラクティブ・ミュージック II	178
博物館概論 A	158	映像演習 I 映画	179
博物館概論 B (取手)	159	映像演習 II アニメーション	180
博物館経営論	160	芸術情報概論 A	181
博物館情報・メディア論	161	芸術情報概論 B	182
美術館資料論 A	162	芸術と情報	183
美術館資料論 B	163	コードとデザイン	184
美術館実習 A	164	サウンド・デザイン概論	185
美術館実習 A	165	ジェネラティブ・デザイン	186
美術館実習 B	166	情報編集 (WEB)	187
博物館資料保存論	167	情報メディア学	188
		デジタル・サウンド演習	189
演奏芸術センター開設科目.....	168		
AVメディア	169	教職・教科に関する科目	190
アジアの伝統と現代	169	音楽教科教育法 I	191
音楽を伝えるメディア	170	音楽教科教育法 II	192
劇場技術論	170	音楽教科教育法 II	192
劇場芸術論	171	介護等体験	193
コンサート制作論	172	器楽合奏 (リコーダー合奏)	193
サウンドレコーディング基礎演習	173	教育課程論	194
障害とアーツ	173	教育原理	195
ホール音響概論	174	教育原理 II	196
		教育実習 (高等学校教諭)	197
芸術情報センター開設科目.....	175	教育実習 (中学校教諭)	197
		教育心理学	198

教育方法学	199	作曲実技	216
教職概論	199	作曲実技 I (学内演奏)	217
教職実践演習 (中・高)	200	作曲実技 I (管弦楽曲)	217
進路指導・教育相談	201	作曲実技 I (室内楽曲)	218
生徒指導の研究	202	作曲実技 I (声楽作品)	218
道德教育の研究	203	作曲実技 I (卒業作品)	219
特別活動の研究	204	作曲実技 I (二重奏曲)	219
日本の伝統的な歌唱	205	作曲実技 II (フーガ)	220
和楽器実技 (生田流箏曲 I)	205	作曲実技 II (和声)	220
和楽器実技 (生田流箏曲 I)	206	作曲理論 (楽曲解析)	221
和楽器実技 (尺八)	206	作曲理論 (管弦楽法 (実習))	221
和楽器実技 (尺八)	207	作曲理論 (厳格対位法とフーガ)	222
和楽器実技 (長唄三味線)	207	卒業作品 (作曲)	222
和楽器実技 (邦楽囃子)	208	専門科目 (声楽)	223
和楽器実技 (山田流箏曲 I)	208	オペラ基礎演技 A・B	224
和楽器実技 (山田流箏曲 II)	209	オペラ実習 I A・B・C	225
和楽器実技 (山田流箏曲 II)	209	オペラ実習 II A・B・C	226
専門科目 (作曲)	210	学内演奏 (声楽)	226
学内演奏 (作曲)	211	合唱 I	227
作曲研究 (音楽と言語)	211	合唱 II	228
作曲研究 (楽曲研究)	212	合唱 III	228
作曲研究 (管弦楽法 (分析))	213	声楽アンサンブル A	229
作曲研究 (現代音楽技法)	214	声楽アンサンブル B	229
作曲研究 (コンピュータ・ミュージック)	214	声楽演習 I (フランス歌曲)	230
作曲研究 (フーガ研究)	215	声楽演習 II (スペイン歌曲)	230
作曲研究 (和声研究)	216	声楽演習 III (ロシア歌曲)	231

声楽実技Ⅲ-1	232	オルガン様式研究Ⅲ	248
声楽実技Ⅲ-2	233	オルガン様式研究Ⅳ	249
声楽実技Ⅳ-1	234	学内演奏 (B V n)	249
声楽実技Ⅳ-2	235	学内演奏 (C b)	250
声楽実習Ⅰ (コレペティツィオーン)	236	学内演奏 (C e m b)	250
卒業演奏 (声楽)	237	学内演奏 (H p)	251
舞台語発音法	237	学内演奏 (O r g)	251
ボディテクニック	238	学内演奏 (P f)	252
専門科目 (器楽)	239	学内演奏 (R e c)	252
オルガンアンサンブルⅢ	240	学内演奏 (V a)	253
オルガンアンサンブルⅣ	240	学内演奏 (V c)	253
オルガン概論	241	学内演奏 (V n)	254
オルガン研究発表Ⅰ	241	学内演奏 (管打楽)	254
オルガン研究発表Ⅱ	242	合奏Ⅰ	255
オルガン研究発表Ⅲ	242	合奏Ⅱ	255
オルガン研究発表Ⅳ	243	弦楽合奏	256
オルガン実技Ⅰ	243	古楽アンサンブルⅠ	256
オルガン実技Ⅱ	244	古楽アンサンブルⅡ	257
オルガン実技Ⅲ	244	古楽アンサンブルⅢ	257
オルガン実技Ⅳ	245	古楽研究発表Ⅰ	258
オルガン即興実技Ⅲ	245	古楽研究発表Ⅱ	258
オルガン即興実技Ⅳ	246	古楽研究発表Ⅲ	259
オルガン通奏低音実習Ⅰ	246	古楽研究発表Ⅳ	259
オルガン通奏低音実習Ⅱ	247	古楽通奏低音実習Ⅰ	260
オルガン様式研究Ⅰ	247	古楽通奏低音実習Ⅱ	260
オルガン様式研究Ⅱ	248	古楽通奏低音実習Ⅲ	261
		古楽器概論	261

吹奏樂 I-1	262	專門実技 (弦樂) I-1.....	277
吹奏樂 I-2	262	專門実技 (弦樂) I-2.....	278
吹奏樂 II-1	263	專門実技 (弦樂) II-1.....	278
吹奏樂 II-2	263	專門実技 (弦樂) II-2.....	279
吹奏樂 III-1	264	專門実技 (弦樂) III-1.....	279
吹奏樂 III-2	264	專門実技 (弦樂) III-2.....	280
吹奏樂 IV-1	265	專門実技 (弦樂) IV-1.....	280
吹奏樂 IV-2	265	專門実技 (弦樂) IV-2.....	281
専攻外古楽実習.....	266	專門実技 (木管) III.....	281
専攻実技 (古楽) I	266	專門実技 (木管) IV-1.....	282
専攻実技 (古楽) II	267	專門実技 (木管) IV-2.....	282
専攻実技 (古楽) III	268	卒業演奏 (B V n)	283
専攻実技 (古楽) IV	269	卒業演奏 (C b)	283
専門実技 (打楽器) II-1	270	卒業演奏 (C e m b)	284
専門実技 (打楽器) II-2	271	卒業演奏 (H p)	284
専門実技 (打楽器) III-1	271	卒業演奏 (O r g)	285
専門実技 (打楽器) III-2	272	卒業演奏 (P f)	285
専門実技 (打楽器) IV-1	272	卒業演奏 (R e c)	286
専門実技 (打楽器) IV-2	273	卒業演奏 (V a)	286
専門実技 (金管) I-1.....	273	卒業演奏 (V c)	287
専門実技 (金管) I-2.....	274	卒業演奏 (V n)	287
専門実技 (金管) II-1.....	274	卒業演奏 (管打楽)	288
専門実技 (金管) II-2.....	275	伴奏 I - 1	288
専門実技 (金管) III-1.....	275	伴奏 I - 2	289
専門実技 (金管) III-2.....	276	伴奏 II	289
専門実技 (金管) IV-1.....	276	ピアノ演奏理論・楽曲分析.....	290
専門実技 (金管) IV-2.....	277	ピアノ実技	290

ピアノデュオ	291	雅楽合奏実技Ⅲ	304
ピアノ伴奏法	291	雅楽合奏実技Ⅳ	305
専門科目（指揮）	292	雅楽実技（笙）Ⅱ	305
指揮学内演奏	293	雅楽実技（笙）Ⅲ	306
指揮楽曲分析	293	雅楽実技（笙）Ⅳ	306
指揮楽曲分析	294	雅楽実技（箏）Ⅱ	307
指揮実技	294	雅楽実技（箏）Ⅲ	307
指揮実技	295	雅楽実技（箏）Ⅳ	308
指揮実技（含演奏理論・楽曲分析）Ⅰ-1	295	雅楽実技（龍笛）Ⅱ	308
指揮実技（含演奏理論・楽曲分析）Ⅰ-2	296	雅楽実技（龍笛）Ⅲ	309
指揮卒業演奏	296	雅楽実技（龍笛）Ⅳ	309
指揮法概論A	297	学内演奏（雅楽）	310
指揮法概論B	297	学内演奏（清元）	310
指揮理論・演奏理論	298	学内演奏（清元三味線）	311
指揮理論・演奏理論	298	学内演奏（清元三味線）	311
専門科目（邦楽）	299	学内演奏（尺八（琴古流））	312
唄実技（山田流）Ⅱ	300	学内演奏（尺八（都山流））	312
唄実技（山田流）Ⅲ	300	学内演奏（箏曲（生田流））	313
唄実技（山田流）Ⅳ	301	学内演奏（常磐津）	313
歌物実技Ⅰ	301	学内演奏（常磐津三味線）	314
歌物実技Ⅱ	302	学内演奏（常磐津三味線）	314
歌物実技Ⅲ	302	学内演奏（長唄）	315
歌物実技Ⅳ	303	学内演奏（長唄三味線）	315
雅楽合奏実技Ⅰ	303	学内演奏（長唄三味線）	316
雅楽合奏実技Ⅱ	304	学内演奏（能楽）	316
		学内演奏（能楽）	317
		学内演奏（能楽囃子（大鼓））	317

学内演奏（能楽囃子（小鼓））	318	三絃実技（山田流）IV	331
学内演奏（能楽囃子（太鼓））	318	地拍子（観世流）I	332
学内演奏（能楽囃子（笛））	319	地拍子（観世流）II	332
学内演奏（邦楽囃子（大鼓））	319	地拍子（観世流）III	333
学内演奏（邦楽囃子（小鼓））	320	地拍子（観世流）IV	333
歌唱（生田流）III-1	320	地拍子（宝生流）I	334
歌唱（生田流）III-2	321	地拍子（宝生流）II	334
歌唱（生田流）IV-1	321	地拍子（宝生流）III	335
歌唱（生田流）IV-2	322	地拍子（宝生流）IV	335
狂言小舞（日本舞踊）	322	仕舞実技（日本舞踊）	336
現代邦楽囃子演習I	323	仕舞実技（日本舞踊）	336
現代邦楽囃子演習III	323	仕舞実技（能楽）II	337
現代邦楽囃子演習IV	324	仕舞実技（能楽）II	337
古典文献研究法	324	仕舞実技（能楽）III	338
箏歌歌唱法	325	仕舞実技（能楽）III	338
箏実技（山田流）II	325	仕舞実技（能楽）IV	339
箏実技（山田流）III	326	仕舞実技（能楽）IV	339
箏実技（山田流）IV	326	尺八アンサンブル演習	340
小舞実技（能楽）II	327	尺八関連実技（三絃実技（生田流））	340
小舞実技（能楽）III	327	尺八関連実技（箏曲実技（生田流））	341
小舞実技（能楽）IV	328	三味線作曲法	341
三絃実技（生田流）III-1	328	主専攻（清元）II	342
三絃実技（生田流）III-2	329	主専攻（清元）III	342
三絃実技（生田流）IV-1	329	主専攻（清元）IV	343
三絃実技（生田流）IV-2	330	主専攻（清元三味線）II	343
三絃実技（山田流）II	330	主専攻（清元三味線）III	344
三絃実技（山田流）III	331	主専攻（清元三味線）IV	344

主專攻（常磐津）Ⅱ	345	主專攻外曲（都山流）Ⅱ	358
主專攻（常磐津）Ⅲ	345	主專攻外曲（都山流）Ⅲ	359
主專攻（常磐津）Ⅳ	346	主專攻外曲（都山流）Ⅳ	359
主專攻（常磐津三味線）Ⅱ	346	主專攻小鼓（能楽囃子）Ⅱ	360
主專攻（常磐津三味線）Ⅲ	347	主專攻小鼓（能楽囃子）Ⅲ	360
主專攻（常磐津三味線）Ⅳ	347	主專攻小鼓（能楽囃子）Ⅳ	361
主專攻（長唄）Ⅱ	348	主專攻太鼓（能楽囃子）Ⅱ	361
主專攻（長唄）Ⅲ	348	主專攻太鼓（能楽囃子）Ⅲ	362
主專攻（長唄）Ⅳ	349	主專攻太鼓（能楽囃子）Ⅳ	362
主專攻（長唄三味線）Ⅱ	349	主專攻笛（能楽囃子）Ⅱ	363
主專攻（長唄三味線）Ⅲ	350	主專攻笛（能楽囃子）Ⅲ	363
主專攻（長唄三味線）Ⅳ	350	主專攻笛（能楽囃子）Ⅳ	364
主專攻（日本舞踊）Ⅱ	351	主專攻本曲（琴古流）Ⅱ	364
主專攻（日本舞踊）Ⅲ	351	主專攻本曲（琴古流）Ⅲ	365
主專攻（日本舞踊）Ⅳ	352	主專攻本曲（琴古流）Ⅳ	365
主專攻謡（能楽）Ⅱ	352	主專攻本曲（都山流）Ⅱ	366
主專攻謡（能楽）Ⅱ	353	主專攻本曲（都山流）Ⅲ	366
主專攻謡（能楽）Ⅲ	353	主專攻本曲（都山流）Ⅳ	367
主專攻謡（能楽）Ⅲ	354	箏曲（生田流）尺八実技	367
主專攻謡（能楽）Ⅳ	354	箏曲（生田流・他様式）	368
主專攻謡（能楽）Ⅳ	355	箏曲（山田流・他様式）	368
主專攻大鼓（能楽囃子）Ⅱ	355	箏曲実技（生田流）Ⅲ-1	369
主專攻大鼓（能楽囃子）Ⅲ	356	箏曲実技（生田流）Ⅲ-2	369
主專攻大鼓（能楽囃子）Ⅳ	356	箏曲実技（生田流）Ⅳ-1	370
主專攻外曲（琴古流）Ⅱ	357	箏曲実技（生田流）Ⅳ-2	370
主專攻外曲（琴古流）Ⅲ	357	総合実習（生田流）Ⅰ-1	371
主專攻外曲（琴古流）Ⅳ	358	総合実習（生田流）Ⅰ-2	371

総合実習（生田流）Ⅱ-1	372	総合実習（常磐津）Ⅲ-2	385
総合実習（生田流）Ⅱ-2	372	総合実習（常磐津）Ⅳ-1	386
総合実習（生田流）Ⅲ-1	373	総合実習（常磐津）Ⅳ-2	386
総合実習（生田流）Ⅲ-2	373	総合実習（常磐津三味線）Ⅰ-1	387
総合実習（生田流）Ⅳ-1	374	総合実習（常磐津三味線）Ⅰ-2	387
総合実習（生田流）Ⅳ-2	374	総合実習（常磐津三味線）Ⅱ-1	388
総合実習（清元）Ⅰ-1	375	総合実習（常磐津三味線）Ⅱ-2	388
総合実習（清元）Ⅰ-2	375	総合実習（常磐津三味線）Ⅲ-1	389
総合実習（清元）Ⅱ-1	376	総合実習（常磐津三味線）Ⅲ-2	389
総合実習（清元）Ⅱ-2	376	総合実習（常磐津三味線）Ⅳ-1	390
総合実習（清元）Ⅲ-1	377	総合実習（常磐津三味線）Ⅳ-2	390
総合実習（清元）Ⅲ-2	377	総合実習（長唄）Ⅰ-1	391
総合実習（清元）Ⅳ-1	378	総合実習（長唄）Ⅰ-2	391
総合実習（清元）Ⅳ-2	378	総合実習（長唄）Ⅱ-1	392
総合実習（清元三味線）Ⅰ-1	379	総合実習（長唄）Ⅱ-2	392
総合実習（清元三味線）Ⅰ-2	379	総合実習（長唄）Ⅲ-1	393
総合実習（清元三味線）Ⅱ-1	380	総合実習（長唄）Ⅲ-2	393
総合実習（清元三味線）Ⅱ-2	380	総合実習（長唄）Ⅳ-1	394
総合実習（清元三味線）Ⅲ-1	381	総合実習（長唄）Ⅳ-2	394
総合実習（清元三味線）Ⅲ-2	381	総合実習（長唄三味線）Ⅰ-1	395
総合実習（清元三味線）Ⅳ-1	382	総合実習（長唄三味線）Ⅰ-2	395
総合実習（清元三味線）Ⅳ-2	382	総合実習（長唄三味線）Ⅱ-1	396
総合実習（常磐津）Ⅰ-1	383	総合実習（長唄三味線）Ⅱ-2	396
総合実習（常磐津）Ⅰ-2	383	総合実習（長唄三味線）Ⅲ-1	397
総合実習（常磐津）Ⅱ-1	384	総合実習（長唄三味線）Ⅲ-2	397
総合実習（常磐津）Ⅱ-2	384	総合実習（長唄三味線）Ⅳ-1	398
総合実習（常磐津）Ⅲ-1	385	総合実習（長唄三味線）Ⅳ-2	398

総合実習（長唄三味線）	399	総合実習（邦楽囃子（大鼓）Ⅲ-2）	412
総合実習（長唄三味線）	399	総合実習（邦楽囃子（大鼓）Ⅳ-1）	413
総合実習（日本舞踊）Ⅰ-1	400	総合実習（邦楽囃子（大鼓）Ⅳ-2）	413
総合実習（日本舞踊）Ⅰ-2	400	総合実習（邦楽囃子（小鼓）Ⅰ-1）	414
総合実習（日本舞踊）Ⅱ-1	401	総合実習（邦楽囃子（小鼓）Ⅰ-2）	414
総合実習（日本舞踊）Ⅱ-2	401	総合実習（邦楽囃子（小鼓）Ⅱ-1）	415
総合実習（日本舞踊）Ⅲ-1	402	総合実習（邦楽囃子（小鼓）Ⅱ-2）	415
総合実習（日本舞踊）Ⅲ-2	402	総合実習（邦楽囃子（小鼓）Ⅲ-1）	416
総合実習（日本舞踊）Ⅳ-1	403	総合実習（邦楽囃子（小鼓）Ⅲ-2）	416
総合実習（日本舞踊）Ⅳ-2	403	総合実習（邦楽囃子（小鼓）Ⅳ-1）	417
総合実習（能楽）Ⅰ	404	総合実習（邦楽囃子（小鼓）Ⅳ-2）	417
総合実習（能楽）Ⅰ	404	総合実習（邦楽囃子（太鼓）Ⅰ-1）	418
総合実習（能楽）Ⅱ	405	総合実習（邦楽囃子（太鼓）Ⅰ-2）	418
総合実習（能楽）Ⅱ	405	総合実習（邦楽囃子（太鼓）Ⅱ-1）	419
総合実習（能楽）Ⅲ	406	総合実習（邦楽囃子（太鼓）Ⅱ-2）	419
総合実習（能楽）Ⅲ	406	総合実習（邦楽囃子（太鼓）Ⅲ-1）	420
総合実習（能楽）Ⅳ	407	総合実習（邦楽囃子（太鼓）Ⅲ-2）	420
総合実習（能楽）Ⅳ	407	総合実習（邦楽囃子（太鼓）Ⅳ-1）	421
総合実習（能楽囃子）Ⅰ	408	総合実習（邦楽囃子（太鼓）Ⅳ-2）	421
総合実習（能楽囃子）Ⅱ	408	総合実習（邦楽囃子（笛）Ⅰ-1）	422
総合実習（能楽囃子）Ⅲ	409	総合実習（邦楽囃子（笛）Ⅰ-2）	422
総合実習（能楽囃子）Ⅳ	409	総合実習（邦楽囃子（笛）Ⅱ-1）	423
総合実習（邦楽囃子（大鼓）Ⅰ-1）	410	総合実習（邦楽囃子（笛）Ⅱ-2）	423
総合実習（邦楽囃子（大鼓）Ⅰ-2）	410	総合実習（邦楽囃子（笛）Ⅲ-1）	424
総合実習（邦楽囃子（大鼓）Ⅱ-1）	411	総合実習（邦楽囃子（笛）Ⅲ-2）	424
総合実習（邦楽囃子（大鼓）Ⅱ-2）	411	総合実習（邦楽囃子（笛）Ⅳ-1）	425
総合実習（邦楽囃子（大鼓）Ⅲ-1）	412	総合実習（邦楽囃子（笛）Ⅳ-2）	425

総合実習（山田流） I-1	426	総合実習本曲（都山流） IV	439
総合実習（山田流） I-2	426	総合実習本曲（琴古流） I	440
総合実習（山田流） II-1	427	総合実習本曲（琴古流） II	440
総合実習（山田流） II-2	427	総合実習本曲（琴古流） III	441
総合実習（山田流） III-1	428	総合実習本曲（琴古流） IV	441
総合実習（山田流） III-2	428	卒業演奏（雅楽）	442
総合実習（山田流） IV-1	429	卒業演奏（清元）	442
総合実習（山田流） IV-2	429	卒業演奏（清元三味線）	443
総合実習外曲（琴古流） I-1	430	卒業演奏（尺八（琴古流））	443
総合実習外曲（都山流） I-1	430	卒業演奏（尺八（都山流））	444
総合実習外曲（琴古流） I-2	431	卒業演奏（箏曲（生田流））	444
総合実習外曲（琴古流） II-1	431	卒業演奏（箏曲（山田流））	445
総合実習外曲（琴古流） II-2	432	卒業演奏（常磐津）	445
総合実習外曲（琴古流） III-1	432	卒業演奏（常磐津三味線）	446
総合実習外曲（琴古流） III-2	433	卒業演奏（長唄）	446
総合実習外曲（琴古流） IV-1	433	卒業演奏（長唄三味線）	447
総合実習外曲（琴古流） IV-2	434	卒業演奏（日本舞踊）	447
総合実習外曲（都山流） I-2	434	卒業演奏（能楽）	448
総合実習外曲（都山流） II-1	435	卒業演奏（能楽）	448
総合実習外曲（都山流） II-2	435	卒業演奏（能楽囃子（大鼓））	449
総合実習外曲（都山流） III-1	436	卒業演奏（能楽囃子（小鼓））	449
総合実習外曲（都山流） III-2	436	卒業演奏（能楽囃子（太鼓））	450
総合実習外曲（都山流） IV-1	437	卒業演奏（能楽囃子（笛））	450
総合実習外曲（都山流） IV-2	437	卒業演奏（邦楽囃子（打物））	451
総合実習本曲（都山流） I	438	卒業演奏（邦楽囃子（大鼓））	451
総合実習本曲（都山流） II	438	卒業演奏（邦楽囃子（小鼓））	452
総合実習本曲（都山流） III	439	卒業演奏（邦楽囃子（太鼓））	452

卒業演奏（邦楽囃子（笛））	453	副主専攻太鼓（能楽囃子）Ⅲ	466
他様式の浄瑠璃	453	副主専攻太鼓（能楽囃子）Ⅳ	467
他様式の能楽	454	副主専攻常磐津（三味線音楽）Ⅰ	467
他流派の尺八（琴古流）	454	副主専攻常磐津（三味線音楽）Ⅱ	468
他流派の尺八（都山流）	455	副主専攻常磐津（三味線音楽）Ⅲ	468
舞楽実技Ⅰ	455	副主専攻常磐津（三味線音楽）Ⅳ	469
舞楽実技Ⅱ	456	副主専攻常磐津三味線（三味線音楽）Ⅰ	469
舞楽実技Ⅲ	456	副主専攻常磐津三味線（三味線音楽）Ⅱ	470
舞楽実技Ⅳ	457	副主専攻常磐津三味線（三味線音楽）Ⅲ	470
副主専攻大鼓（能楽囃子）Ⅰ	457	副主専攻常磐津三味線（三味線音楽）Ⅳ	471
副主専攻大鼓（能楽囃子）Ⅱ	458	副主専攻長唄（三味線音楽）Ⅰ	471
副主専攻大鼓（能楽囃子）Ⅲ	458	副主専攻長唄（三味線音楽）Ⅱ	472
副主専攻大鼓（能楽囃子）Ⅳ	459	副主専攻長唄（三味線音楽）Ⅲ	472
副主専攻清元（三味線音楽）Ⅰ	459	副主専攻長唄（三味線音楽）Ⅳ	473
副主専攻清元（三味線音楽）Ⅱ	460	副主専攻長唄（日本舞踊）Ⅰ	473
副主専攻清元（三味線音楽）Ⅲ	460	副主専攻長唄（日本舞踊）Ⅱ	474
副主専攻清元（三味線音楽）Ⅳ	461	副主専攻長唄（日本舞踊）Ⅲ	474
副主専攻清元三味線（三味線音楽）Ⅰ	461	副主専攻長唄（日本舞踊）Ⅳ	475
副主専攻清元三味線（三味線音楽）Ⅱ	462	副主専攻長唄三味線（三味線音楽）Ⅰ	475
副主専攻清元三味線（三味線音楽）Ⅲ	462	副主専攻長唄三味線（三味線音楽）Ⅱ	476
副主専攻清元三味線（三味線音楽）Ⅳ	463	副主専攻長唄三味線（三味線音楽）Ⅲ	476
副主専攻小鼓（能楽囃子）Ⅰ	463	副主専攻長唄三味線（三味線音楽）Ⅳ	477
副主専攻小鼓（能楽囃子）Ⅱ	464	副主専攻長唄三味線（日本舞踊）Ⅰ	477
副主専攻小鼓（能楽囃子）Ⅲ	464	副主専攻長唄三味線（日本舞踊）Ⅱ	478
副主専攻小鼓（能楽囃子）Ⅳ	465	副主専攻長唄三味線（日本舞踊）Ⅲ	478
副主専攻太鼓（能楽囃子）Ⅰ	465	副主専攻長唄三味線（日本舞踊）Ⅳ	479
副主専攻太鼓（能楽囃子）Ⅱ	466	副主専攻笛（能楽囃子）Ⅰ	479

副主専攻笛（能楽囃子）Ⅱ	480	邦楽合奏研究	494
副主専攻笛（能楽囃子）Ⅲ	480	邦楽研究旅行	494
副主専攻笛（能楽囃子）Ⅳ	481	邦楽研究旅行	495
副専攻大鼓（三味線音楽）Ⅲ	481	邦楽囃子実技（笛）	495
副専攻長唄三味線（邦楽囃子）Ⅰ	482	山田流アンサンブル実技Ⅲ-1.	496
副専攻長唄三味線（邦楽囃子）Ⅱ	482	山田流アンサンブル実技Ⅲ-2.	496
副専攻長唄三味線（邦楽囃子）Ⅲ	483	山田流アンサンブル実技Ⅳ-1.	497
副専攻長唄三味線（邦楽囃子）Ⅳ	483	山田流アンサンブル実技Ⅳ-2.	497
副専攻謡曲（能楽囃子）Ⅰ	484	山田流箏曲演奏論	498
副専攻謡曲（能楽囃子）Ⅱ	484		
副専攻謡曲（能楽囃子）Ⅲ	485	専門科目（音楽学）	499
副専攻謡曲（能楽囃子）Ⅳ	485	音楽学実習Ⅲ	500
副専攻大鼓（能楽）Ⅰ	486	音楽学実習Ⅲ	500
副専攻大鼓（能楽）Ⅱ	486	音楽学実習Ⅲ	501
副専攻大鼓（能楽）Ⅲ	487	音楽学実習Ⅲ	501
副専攻大鼓（能楽）Ⅳ	487	音楽学実習Ⅲ	502
副専攻小鼓（能楽）Ⅰ	488	音楽学実習Ⅲ	502
副専攻小鼓（能楽）Ⅱ	488	音楽学実習Ⅳ	503
副専攻小鼓（能楽）Ⅲ	489	音楽学実習Ⅳ	503
副専攻小鼓（能楽）Ⅳ	489	音楽学実習Ⅳ	504
副専攻仕舞（能楽囃子）Ⅲ	490	音楽学実習Ⅳ	504
副専攻仕舞（能楽囃子）Ⅳ	490	音楽学実習Ⅳ	505
副専攻太鼓（能楽）Ⅰ	491	音楽学実習Ⅳ	505
副専攻太鼓（能楽）Ⅱ	491	音楽学特論Ⅰ	506
副専攻太鼓（能楽）Ⅲ	492	音楽美学演習	507
副専攻太鼓（能楽）Ⅳ	492	音楽美学概説	508
邦楽歌詞研究	493	音楽分析論	509

音楽民族学演習	510	東洋音楽史演習	527
音楽民族学概説	510	東洋音楽史概説	528
音楽理論概説	511	東洋音楽史講義	529
音楽理論史演習	512	日本音楽史 I 演習	530
楽書講読 (英)	512	日本音楽史 I 講義	531
楽書講読 (英)	513	日本音楽史概説	532
楽書講読 (露)	513	専門科目 (音楽環境創造)	534
楽書講読 (独)	514	DTP 出版編集演習	535
楽書講読 (日)	515	音楽環境創造概説 1	536
楽書講読 (仏)	516	音楽環境創造概説 2	536
楽書講読 (羅)	516	音楽環境創造概説 3	537
楽理科研究旅行	517	音楽環境創造概説 4	537
ガムラン演奏 I	518	音楽基礎演習・上級	538
ガムラン演奏 II	518	音楽基礎演習・初級	539
記譜法	519	音楽基礎演習・中級	540
現代音楽講義	519	音楽理論演習 A	541
初級演習 C (西洋音楽史)	520	音楽理論演習 B	541
大角のアドレス (G-net を参照) 初級演習 D (音楽民族学)	520	音響技術史	542
西洋音楽史 I 講義	521	音響心理研究法	543
西洋音楽史 II 演習	522	空間音響研究	543
西洋音楽史概説	523	芸術運営論 I : 音楽マネジメント 1	544
西洋古楽演奏 I	524	芸術運営論 I : 音楽マネジメント 2	545
西洋古楽演奏 II	525	芸術運営論 I : 著作権	545
総合ゼミナール	526	芸術運営論 II : 芸術支援	546
卒業論文	526	芸術運営論 II : 社会事業マネジメント	547
東洋音楽演奏 II	527	芸術環境創造特殊研究 (16) 身体芸術論	548

高臨場感音響設計概論.....	548	プロジェクト2Ⅱ.....	562
コマーシャルにおける映像と音楽.....	549	プロジェクト2Ⅲ.....	563
コンピュータ音楽基礎演習.....	549	プロジェクト3.....	563
サウンド・シンセシス.....	550	プロジェクト3Ⅱ.....	564
サウンドデザイン演習.....	550	プロジェクト3Ⅲ.....	564
視覚表現演習1.....	551	プロジェクト4.....	565
視覚表現演習2.....	552	プロジェクト4Ⅱ.....	565
ジャズ・ポピュラー音楽演習.....	552	プロジェクト4Ⅲ.....	566
ジャズ・ポピュラー音楽理論.....	553	プロジェクト5.....	566
身体芸術論.....	553	プロジェクト5Ⅱ.....	567
スタディスキル.....	554	プロジェクト5Ⅲ.....	567
音楽実技演習.....	554	プロジェクト6Ⅱ.....	568
卒業制作.....	555	プロジェクト6Ⅲ.....	568
卒業制作・研究.....	555	文献講読演習1.....	569
卒業制作・研究.....	556	ポピュラー音楽研究.....	569
卒業制作・研究.....	556	メディア・リテラシー.....	570
卒業制作・研究.....	557	録音技法研究.....	572
卒業制作・研究.....	557	専門科目（オーケストラ室内楽）.....	573
卒業制作・研究.....	558	オーケストラⅡ-1.....	574
ソルフェージュ（音楽基礎演習A）.....	558	オーケストラⅡ-2.....	575
ソルフェージュ（音楽基礎演習B）.....	559	オーケストラⅢ-1.....	576
日本音楽概論.....	559	オーケストラⅢ-2.....	577
日本音楽概論.....	560	オーケストラⅣ-1.....	578
プロジェクト1.....	560	オーケストラⅣ-2.....	579
プロジェクト1Ⅱ.....	561	室内楽（Va持ち替え）.....	580
プロジェクト1Ⅲ.....	561	室内楽（金管）Ⅰ-1.....	580
プロジェクト2.....	562		

室内楽（金管）Ⅰ-2.....	581	ソルフェージュC-b.....	595
室内楽Ⅰ（弦楽）.....	581	和声（上級）.....	595
室内楽Ⅱ.....	582	和声（初級）.....	596
室内楽Ⅲ.....	582	和声（初級）.....	596
室内楽Ⅳ.....	583	和声（初級）.....	597
チェンバーオーケストラⅡ-1.....	583	和声（初級）.....	597
チェンバーオーケストラⅡ-2.....	584	和声（初級）.....	598
チェンバーオーケストラⅢ-1.....	584	和声（初級）.....	598
チェンバーオーケストラⅢ-2.....	585	和声（初級）.....	599
チェンバーオーケストラⅣ-1.....	585	和声（初級）.....	599
チェンバーオーケストラⅣ-2.....	586	和声（中級）.....	600
		和声（中級）.....	600
専門科目（ソルフェージュ和声）.....	587	和声（中級）.....	601
		和声（中級）.....	601
現代音楽ソルフェージュ.....	588	和声（中級）.....	601
古楽ソルフェージュ.....	588	和声Ⅰ.....	602
スコアリーディングA.....	589	和声Ⅱ.....	602
スコアリーディングB.....	589		
スコアリーディングB.....	590	専門科目（副科実技）.....	603
即興演奏ソルフェージュ.....	590	副科B V c（初級）.....	604
ソルフェージュ（基礎）.....	591	副科B V c（中級）.....	604
ソルフェージュ（基礎）.....	591	副科B V n（初級）.....	605
ソルフェージュ（展開）.....	592	副科B V n（中級）.....	605
ソルフェージュ（展開）.....	592	副科C emb（初級）.....	606
ソルフェージュ（展開）.....	593	副科C emb（中級）.....	606
ソルフェージュ（展開）.....	593	副科C I（初級）.....	607
ソルフェージュC-a.....	594	副科F I（初級）.....	607
ソルフェージュC-a.....	594	副科F p（初級）.....	608

副科 F p (中級)	609	副科指揮法Ⅱ	623
副科 H r (初級)	610	副科指揮法Ⅲ	623
副科 O b (初級)	610	副科箏曲(生田流)(初級)	624
副科 O r g (初級)	611	副科箏曲(山田流)(初級)	624
副科 O r g (中級)	611	副科常磐津(初級)	625
副科 P c (初級) A	612	副科常磐津三味線(初級)	625
副科 P c (初級) B	612	副科独唱(初級)	626
副科 P f I	613	副科長唄(初級) A	626
副科 P f I	613	副科長唄(初級) B	627
副科 P f II	614	副科長唄(初級) C	627
副科 P f II	614	副科長唄三味線(初級) A	628
副科 S x (初級)	615	副科長唄三味線(初級) B	628
副科 T b (初級)	615	副科日本舞踊(初級) A	629
副科 T p (初級)	616	副科日本舞踊(初級) B	629
副科 V a (初級)	616	副科能楽(観世流)(初級)	630
副科 V a (中級)	617	副科能楽(宝生流)(初級)	630
副科 V c (初級)	617	副科能楽狂言(初級)	631
副科 V c (中級)	618	副科能楽囃子(大鼓)(初級)	631
副科 V n (初級) A	618	副科能楽囃子(小鼓)(初級)	632
副科 V n (中級)	619	副科能楽囃子(太鼓)(初級)	632
副科ヴィオラ・ダ・ガンバ(初級)	619	副科能楽囃子(笛)(初級)	633
副科ヴィオラ・ダ・ガンバ(中級)	620	副科フラウト・トラヴェルソ(初級)	633
副科雅楽(初級)	620	副科フラウト・トラヴェルソ(中級)	634
副科合唱	621	副科邦楽囃子(大鼓)(初級) A	634
副科清元(初級)	621	副科邦楽囃子(大鼓)(初級) B	635
副科清元三味線(初級)	622	副科邦楽囃子(小鼓)(初級) A	635
副科指揮法Ⅰ	622	副科邦楽囃子(小鼓)(初級) B	636

副科邦楽囃子（太鼓）（初級）A	636	大学院開設科目（作曲）	660
副科邦楽囃子（太鼓）（初級）B	637	原書講読 I	661
副科邦楽囃子（笛）（初級）A	637	作品演奏会	661
副科邦楽囃子（笛）（初級）B	638	作曲実技演習 I	662
美術学部開設科目	639	作曲実技演習 II	662
I MA 概論 A（取手）	640	大学院楽曲研究	663
I MA 概論 B（取手）	641	博士専門科目（作曲） I	663
I MA 概論 C（取手）	642	博士専門科目（作曲） II	664
アートプロジェクト運営論	642	博士特別研究（作曲） I	664
映像芸術論	643	博士特別研究（作曲） II	665
音表現論（取手）	644	大学院開設科目（声楽・オペラ）	666
絵画創作概論	645	オペラ実習（I・II・III）A	667
絵画創作概論	646	オペラ実習（I・II・III）B	668
現代芸術概論（取手）	647	オペラ総合実習 A	670
現代写真論	647	オペラ総合実習 B	670
色彩学	648	オペラ台本講読法	671
写真映像論	649	オペラ分析演習	671
写真史	650	歌曲分析演習	672
写真表現演習 II	651	歌曲分析演習	672
写真表現演習 II	652	歌曲分析演習	673
身体言語論（取手）	653	楽曲分析演習（オペラ）	674
図学 II（取手）	654	楽曲分析演習（独唱）	674
複合表現演習 I	655	重唱特別演習（アンサンブル特別演習）	675
複合表現演習 II	656	修士リサイタル（独唱）	676
複合表現演習 III（取手）	657	声楽実習（オペラ）	676
メディア概論（取手）	658		

声乐実習（独唱）	677	楽曲分析演習（T b）	693
声乐特殊研究Ⅰ（イタリア歌曲）	677	楽曲分析演習（T p）	693
声乐特殊研究Ⅰ（韻律学概論（イタリア詩））	678	楽曲分析演習（T u）	694
声乐特殊研究Ⅰ（英米歌曲）	678	楽曲分析演習（弦楽）Ⅰ	694
声乐特殊研究Ⅰ（オペラA）	679	楽曲分析演習（弦楽）Ⅱ	695
声乐特殊研究Ⅰ（オペラB）	679	器楽実習（C l）	695
声乐特殊研究Ⅰ（オペラ史）	680	器楽実習（E u p h）	696
声乐特殊研究Ⅰ（ドイツ歌曲）	681	器楽実習（F g）	696
声乐特殊研究Ⅰ（日本歌曲）	681	器楽実習（F l）	697
声乐特殊研究Ⅰ（フランス歌曲）	682	器楽実習（H r）	697
声乐特殊研究Ⅱ（宗教音楽）	683	器楽実習（O b）	698
大学院開設科目（器楽）	685	器楽実習（P c）	698
オルガン即興実技（大学院）Ⅰ	686	器楽実習（P f）	699
オルガン即興実技（大学院）Ⅱ	686	器楽実習（S x）	699
歌曲伴奏概論	687	器楽実習（T b）	700
楽曲分析演習（C l）	687	器楽実習（T p）	700
楽曲分析演習（E u p h）	688	器楽実習（T u）	701
楽曲分析演習（F g）	688	器楽実習（弦楽）Ⅰ	701
楽曲分析演習（F l）	689	器楽実習（弦楽）Ⅱ	702
楽曲分析演習（H r）	689	器楽特殊研究（2）	702
楽曲分析演習（O b）	690	器楽特殊研究（2）	703
楽曲分析演習（O r g）Ⅰ	690	器楽特殊研究（3）	703
楽曲分析演習（O r g）Ⅱ	691	器楽特殊研究（3）	704
楽曲分析演習（P c）	691	器楽特殊研究（4）	704
楽曲分析演習（P f）	692	器楽特殊研究（4）	705
楽曲分析演習（S x）	692	器楽特殊研究（5）	705
		器楽特殊研究（5）	706

器楽特殊研究（6）	706	修士リサイタル（バロック声楽）	720
器楽特殊研究（7）	707	修士リサイタル（フォルテピアノ）	721
器楽特殊研究（8）	707	専攻外古楽実習（大学院）	721
器楽特殊研究（O r g）	708	専攻実技（O r g）Ⅰ	722
器楽特殊研究（P f）	708	専攻実技（O r g）Ⅱ	722
古楽アンサンブルⅠ（大学院）	709	専攻実技（古楽）Ⅰ	723
古楽アンサンブルⅡ（大学院）	709	専攻実技（古楽）Ⅱ	724
古楽アンサンブルⅢ（大学院）	710	博士専門科目（古楽）Ⅰ	725
古楽特殊研究Ⅰ	710	博士専門科目（古楽）Ⅱ	726
古楽特殊研究Ⅱ	711	博士特別研究（古楽）Ⅰ	727
古楽分析演習Ⅰ	712	博士特別研究（古楽）Ⅱ	727
古楽分析演習Ⅱ	712	伴奏実技演習	728
室内楽演習	713	大学院開設科目（指揮）	729
室内楽実習	713	指揮演習	730
室内楽実習（室内楽専攻）	714	指揮楽書特殊研究	730
室内楽特殊研究	714	指揮実習	731
室内楽特殊研究	715	指揮特殊研究（1）	731
修士リサイタル（C b）	715	指揮特殊研究（2）	732
修士リサイタル（H p）	716	大学院開設科目（邦楽）	733
修士リサイタル（O r g）	716	三味線音楽関連実技	734
修士リサイタル（P f）	717	箏曲実技（演奏）論	734
修士リサイタル（V a）	717	日本舞踊関連実技	735
修士リサイタル（V c）	718	能楽関連実技	735
修士リサイタル（V n）	718	能楽関連実技	736
修士リサイタル（管打楽）	719	博士専門科目（邦楽）Ⅰ	736
修士リサイタル（チェンバロ）	719		
修士リサイタル（バロックヴァイオリン）	720		

博士専門科目（邦楽）Ⅱ	737	邦楽アンサンブル実習（邦楽囃子）Ⅱ	750
博士特別研究（邦楽）Ⅰ	737	邦楽演習（清元）Ⅰ	751
博士特別研究（邦楽）Ⅱ	738	邦楽演習（清元）Ⅱ	751
邦楽アンサンブル実習（清元）Ⅰ	738	邦楽演習（清元三味線）Ⅰ	752
邦楽アンサンブル実習（清元）Ⅱ	739	邦楽演習（清元三味線）Ⅱ	752
邦楽アンサンブル実習（清元三味線）Ⅰ	739	邦楽演習（尺八）Ⅰ	753
邦楽アンサンブル実習（清元三味線）Ⅱ	740	邦楽演習（尺八）Ⅰ	753
邦楽アンサンブル実習（尺八）Ⅰ	740	邦楽演習（尺八）Ⅱ	754
邦楽アンサンブル実習（尺八）Ⅰ	741	邦楽演習（尺八）Ⅱ	754
邦楽アンサンブル実習（尺八）Ⅱ	741	邦楽演習（箏曲（生田流））Ⅰ	755
邦楽アンサンブル実習（尺八）Ⅱ	742	邦楽演習（箏曲（生田流））Ⅱ	755
邦楽アンサンブル実習（箏曲（生田流））Ⅰ	742	邦楽演習（箏曲（山田流））Ⅰ	756
邦楽アンサンブル実習（箏曲（生田流））Ⅱ	743	邦楽演習（箏曲（山田流））Ⅱ	756
邦楽アンサンブル実習（箏曲（山田流））Ⅰ	743	邦楽演習（常磐津）Ⅰ	757
邦楽アンサンブル実習（箏曲（山田流））Ⅱ	744	邦楽演習（常磐津）Ⅱ	757
邦楽アンサンブル実習（常磐津）Ⅰ	744	邦楽演習（常磐津三味線）Ⅰ	758
邦楽アンサンブル実習（常磐津）Ⅱ	745	邦楽演習（常磐津三味線）Ⅱ	758
邦楽アンサンブル実習（常磐津三味線）Ⅰ	745	邦楽演習（長唄）Ⅰ	759
邦楽アンサンブル実習（常磐津三味線）Ⅱ	746	邦楽演習（長唄）Ⅱ	759
邦楽アンサンブル実習（長唄）Ⅰ	746	邦楽演習（長唄三味線）Ⅰ	760
邦楽アンサンブル実習（長唄）Ⅱ	747	邦楽演習（長唄三味線）Ⅱ	760
邦楽アンサンブル実習（長唄三味線）Ⅰ	747	邦楽演習（日本舞踊）Ⅰ	761
邦楽アンサンブル実習（長唄三味線）Ⅱ	748	邦楽演習（日本舞踊）Ⅱ	761
邦楽アンサンブル実習（日本舞踊）Ⅰ	748	邦楽演習（能楽）Ⅰ	762
邦楽アンサンブル実習（日本舞踊）Ⅱ	749	邦楽演習（能楽）Ⅰ	762
邦楽アンサンブル実習（邦楽囃子）	749	邦楽演習（能楽）Ⅱ	763
邦楽アンサンブル実習（邦楽囃子）Ⅰ	750	邦楽演習（能楽）Ⅱ	763

邦楽演習（能楽囃子）Ⅰ	764	大学院開設科目（音楽文化学）	777
邦楽演習（能楽囃子）Ⅱ	764	「ソルフェージュ実技」研究（１）	778
邦楽演習（邦楽囃子）	765	「ソルフェージュ実技」研究（２）	778
邦楽演習（邦楽囃子）Ⅰ	765	応用音楽学演習（１－１）	779
邦楽演習（邦楽囃子）Ⅱ	766	応用音楽学演習（１－２）	779
邦楽合奏関連実技	766	応用音楽学演習（３）	780
邦楽実習（能楽）Ⅰ	767	応用音楽学実習（１－１）	780
邦楽実習（能楽）Ⅱ	767	応用音楽学実習（１－２）	781
邦楽実習（能楽囃子）Ⅰ	768	応用音楽学実習（３）	781
邦楽実習（能楽囃子）Ⅱ	768	応用音楽学実習（４）	782
邦楽特殊研究（１）Ⅰ	769	応用音楽学特殊研究（３）	782
邦楽特殊研究（１）Ⅱ	769	応用音楽学特殊研究（８）	783
邦楽特殊研究（２）Ⅰ	770	応用音楽学特殊研究（１０）	784
邦楽特殊研究（２）Ⅱ	770	応用音楽学特殊研究（１１）	784
邦楽特殊研究（３）Ⅰ	771	応用音楽学特殊研究（１３）	785
邦楽特殊研究（３）Ⅱ	771	応用音楽学特殊研究（１４）	786
邦楽特殊研究（４）Ⅰ	772	応用音楽学特殊研究（１５）	787
邦楽特殊研究（４）Ⅱ	772	応用音楽学特殊研究（１７）	788
邦楽特殊研究（５）Ⅰ	773	応用音楽学特殊研究（１８）	789
邦楽特殊研究（５）Ⅱ	773	応用音楽学特殊研究（１９）	789
邦楽特殊研究（６）Ⅰ	774	応用音楽学特殊研究（２０）	790
邦楽特殊研究（６）Ⅱ	774	応用音楽学特殊研究（２３）	791
邦楽特殊研究（９）Ⅰ	775	応用音楽学特殊研究（３０）インターンシップ	792
邦楽特殊研究（９）Ⅱ	775	音楽アウトリーチ	792
邦楽特殊研究（１０）Ⅰ	776	音楽音響創造演習（１）Ⅰ	793
邦楽特殊研究（１０）Ⅱ	776	音楽音響創造演習（１）Ⅱ	793

音楽音響創造演習（2）Ⅰ	794	音楽学実習（2）Ⅱ	810
音楽音響創造演習（2）Ⅱ	794	音楽学実習（3）Ⅰ	810
音楽音響創造実習（1）Ⅰ	795	音楽学実習（3）Ⅱ	811
音楽音響創造実習（1）Ⅱ	795	音楽学実習（4）Ⅰ	811
音楽音響創造実習（2）Ⅰ	796	音楽学実習（4）Ⅱ	812
音楽音響創造実習（2）Ⅱ	796	音楽学実習（5）Ⅰ	812
音楽音響創造実習（3）Ⅰ	797	音楽学実習（5）Ⅱ	813
音楽音響創造実習（3）Ⅱ	797	音楽学実習（6）Ⅰ	813
音楽音響創造特殊研究（1）：創作技法	798	音楽学実習（6）Ⅱ	814
音楽音響創造特殊研究（2）：録音技法研究	798	音楽学特殊研究（西洋A）	814
音楽音響創造特殊研究（3）：楽器学	799	音楽学特殊研究（西洋B）	815
音楽音響創造特殊研究（4）：サウンドデザイン	799	音楽学特殊研究（東洋）	816
音楽音響創造特殊研究（7）：ライブ・エレクトロニクス演習	800	音楽学特殊研究（日本）	817
音楽音響創造特殊研究（8）音響心理研究法	800	音楽学特殊研究（美学）	817
音楽音響創造特殊研究（9）空間音響研究	801	音楽教育学演習	818
音楽音響創造特殊研究（10）音楽情報論演習	802	音楽教育学音楽学実習Ⅰ	818
音楽音響創造特殊研究（11）：高臨場感音響設計概論	803	音楽教育学音楽学実習Ⅱ	819
音楽音響創造博士専門研究	804	音楽教育学器楽実習（Org）Ⅰ	819
音楽学演習（第1・美学）	804	音楽教育学器楽実習（Org）Ⅱ	820
音楽学演習（第1・民族）	805	音楽教育学器楽実習（Pf）Ⅰ	820
音楽学演習（第2）	805	音楽教育学器楽実習（Pf）Ⅱ	821
音楽学演習（第3）	806	音楽教育学器楽実習（弦楽）Ⅰ	821
音楽学実験	807	音楽教育学器楽実習（弦楽）Ⅱ	822
音楽学実習（1）Ⅰ	808	音楽教育学器楽実習（古楽）Ⅰ	822
音楽学実習（1）Ⅱ	809	音楽教育学器楽実習（古楽）Ⅱ	823
音楽学実習（2）Ⅰ	809	音楽教育学作曲実習Ⅰ	823
		音楽教育学作曲実習Ⅱ	824

音樂教育學指揮實習 I	824	音樂文芸實習 (2) II	838
音樂教育學指揮實習 II	825	音樂文芸實習 (3) I	838
音樂教育學實習 A I	825	音樂文芸實習 (3) II	839
音樂教育學實習 A II	826	音樂文芸實習 (4) I	839
音樂教育學實習 B I	826	音樂文芸實習 (4) II	840
音樂教育學實習 B II	827	音樂文芸實習 (5) I	840
音樂教育學實習 C I	827	音樂文芸實習 (5) II	841
音樂教育學實習 C II	828	音樂文芸綜合演習	841
音樂教育學聲樂實習 I	828	音樂文芸特殊研究 (1)	842
音樂教育學聲樂實習 II	829	音樂文芸特殊研究 (2)	842
音樂教育學博士專門研究 (1)	829	音樂文芸特殊研究 (3)	843
音樂教育學博士專門研究 (2)	830	音樂文芸特殊研究 (6)	843
音樂教育學邦樂實習 I	830	教育學特殊研究 (1)	844
音樂教育學邦樂實習 II	831	教育學特殊研究 (2)	845
音樂文芸演習 (1) I	831	教育學特殊研究 (3)	845
音樂文芸演習 (1) II	832	教育學特殊研究 (4)	846
音樂文芸演習 (2) I	832	教育學特殊研究 (5)	847
音樂文芸演習 (2) II	833	教育學特殊研究 (6)	847
音樂文芸演習 (3) I	833	藝術環境創造演習 (1) I	848
音樂文芸演習 (3) II	834	藝術環境創造演習 (1) II	849
音樂文芸演習 (4) I	834	藝術環境創造演習 (2) I	849
音樂文芸演習 (4) II	835	藝術環境創造演習 (2) II	850
音樂文芸演習 (5) I	835	藝術環境創造演習 (3) I	850
音樂文芸演習 (5) II	836	藝術環境創造演習 (3) II	851
音樂文芸實習 (1) I	836	藝術環境創造實習 (1) I	851
音樂文芸實習 (1) II	837	藝術環境創造實習 (1) II	852
音樂文芸實習 (2) I	837	藝術環境創造實習 (2) I	852

芸術環境創造実習（２）Ⅱ	853	ソルフェージュ研究演習（３）Ⅰ	868
芸術環境創造実習（３）Ⅰ	853	ソルフェージュ研究演習（３）Ⅱ	869
芸術環境創造実習（３）Ⅱ	854	ソルフェージュ研究実習（１）Ⅰ	870
芸術環境創造特殊研究（１）：芸術運営	854	ソルフェージュ研究実習（１）Ⅱ	871
芸術環境創造特殊研究（６）：文化批評方法論	855	ソルフェージュ研究実習（２）Ⅰ	871
芸術環境創造特殊研究（１０）：社会事業マネジメント	856	ソルフェージュ研究実習（２）Ⅱ	872
芸術環境創造特殊研究（１１）：芸術支援	857	ソルフェージュ研究実習（３）Ⅰ	873
芸術環境創造特殊研究（１７）：アジア文化研究	858	ソルフェージュ研究実習（３）Ⅱ	873
芸術環境創造博士専門研究	859	ソルフェージュ作曲実習Ⅰ	874
総合演習（音楽音響創造）	859	ソルフェージュ作曲実習Ⅱ	874
総合演習（芸術環境創造）	860	ソルフェージュ指揮実習Ⅰ	875
総合ゼミナール（大学院）	860	ソルフェージュ指揮実習Ⅱ	875
ソルフェージュ器楽実習（O r g）Ⅰ	861	ソルフェージュ声楽実習Ⅰ	876
ソルフェージュ器楽実習（O r g）Ⅱ	861	ソルフェージュ声楽実習Ⅱ	876
ソルフェージュ器楽実習（P f）Ⅰ	862	ソルフェージュ特殊研究	877
ソルフェージュ器楽実習（P f）Ⅱ	862	ソルフェージュ邦楽実習Ⅰ	877
ソルフェージュ器楽実習（管打楽）Ⅰ	863	ソルフェージュ邦楽実習Ⅱ	878
ソルフェージュ器楽実習（管打楽）Ⅱ	863	博士専門科目（音楽音響創造）Ⅰ	878
ソルフェージュ器楽実習（弦楽）Ⅰ	864	博士専門科目（音楽音響創造）Ⅰ	879
ソルフェージュ器楽実習（弦楽）Ⅱ	864	博士専門科目（音楽音響創造）Ⅱ	879
ソルフェージュ器楽実習（古楽）Ⅰ	865	博士専門科目（音楽音響創造）Ⅱ	880
ソルフェージュ器楽実習（古楽）Ⅱ	865	博士専門科目（音楽学）Ⅰ	880
ソルフェージュ研究演習（１）Ⅰ	866	博士専門科目（音楽学）Ⅰ	881
ソルフェージュ研究演習（１）Ⅱ	866	博士専門科目（音楽学）Ⅰ	882
ソルフェージュ研究演習（２）Ⅰ	867	博士専門科目（音楽学）Ⅰ	882
ソルフェージュ研究演習（２）Ⅱ	867	博士専門科目（音楽学）Ⅰ	883
		博士専門科目（音楽学）Ⅰ	883

博士専門科目（音楽学）Ⅱ	884	博士特別研究（音楽学）Ⅱ	898
博士専門科目（音楽学）Ⅱ	884	博士特別研究（音楽学）Ⅱ	898
博士専門科目（音楽学）Ⅱ	885	博士特別研究（音楽学）Ⅱ	899
博士専門科目（音楽学）Ⅱ	886	博士特別研究（音楽学）Ⅱ	899
博士専門科目（音楽学）Ⅱ	886	博士特別研究（音楽教育）Ⅰ	900
博士専門科目（音楽学）Ⅱ	887	博士特別研究（音楽教育）Ⅰ	900
博士専門科目（音楽教育）Ⅰ	887	博士特別研究（音楽教育）Ⅱ	901
博士専門科目（音楽教育）Ⅰ	888	博士特別研究（音楽教育）Ⅱ	901
博士専門科目（音楽教育）Ⅱ	888	博士特別研究（芸術環境創造）Ⅰ	902
博士専門科目（音楽教育）Ⅱ	889	博士特別研究（芸術環境創造）Ⅰ	902
博士専門科目（芸術環境創造）Ⅰ	889	博士特別研究（芸術環境創造）Ⅱ	903
博士専門科目（芸術環境創造）Ⅰ	890	博士特別研究（芸術環境創造）Ⅱ	903
博士専門科目（芸術環境創造）Ⅰ	890	大学院開設科目（オーケストラ）	904
博士専門科目（芸術環境創造）Ⅱ	891	チェンバーオーケストラ（大学院）	905
博士専門科目（芸術環境創造）Ⅱ	891	チェンバーオーケストラ（大学院）	905
博士専門科目（芸術環境創造）Ⅱ	892	大学院開設科目（大学院共通）	906
博士特別研究（音楽音響創造）Ⅰ	892	Advanced Writing（英語作文Ⅲ・大学院）	907
博士特別研究（音楽音響創造）Ⅰ	893	音楽教育入門	908
博士特別研究（音楽音響創造）Ⅱ	893	音楽研究基礎（1）	908
博士特別研究（音楽学）Ⅰ	894	音楽研究基礎（2）	909
博士特別研究（音楽学）Ⅰ	894	音楽研究基礎（3）	909
博士特別研究（音楽学）Ⅰ	895	音楽研究基礎（4）	910
博士特別研究（音楽学）Ⅰ	895	音楽研究基礎（5）	911
博士特別研究（音楽学）Ⅰ	896	音楽研究基礎（6）	911
博士特別研究（音楽学）Ⅰ	896	音楽リサーチ法Ⅰ（大学院）	912
博士特別研究（音楽学）Ⅱ	897		
博士特別研究（音楽学）Ⅱ	897		

音楽リサーチ法Ⅰ（大学院）	912	大学院研究基礎（演習）	921
音楽リサーチ法Ⅱ（大学院）	913	大学院研究基礎（演習）	921
音楽リサーチ法Ⅱ（大学院）	913	大学院研究基礎（演習）	922
原典研究（英語）	914	大学院論文作成（実習）	922
原典研究（独語）B	914	大学院論文作成（実習）	923
原典研究（日本古典）	915	大学院論文作成（実習）	923
原典研究（仏語）	915	大学院論文作成（実習）	924
原典特殊講義（英語）A	916	レッスン研究	924
原典特殊講義（英語）B	917	別科開設科目	925
原典特殊講義（独語）A	917	器楽専修実技（古楽）Ⅰ	926
原典特殊講義（独語）B	918	器楽専修実技（古楽）Ⅱ	927
原典特殊講義（日本古典）	918	声楽専修実技Ⅰ	928
原典特殊講義（仏語）	919	声楽専修実技Ⅱ	928
原典特殊講義（露語）	919		
大学院研究基礎（演習）	920		

教養科目（一般教養科目）

アートマネージメント概論

代表教員：枝川 明敬

曜日時限：火曜5限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：教養科目（一般教養科目）

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

芸術経営の理念と役割，その制度的枠組み，芸術・文化支援活動の実態など

■授業計画及び内容

芸術文化活動が盛んになるにつれ，先進国を中心に，急速にその必要性が認識されるようになってきた「芸術経営＝アート・マネージメント」は，アメリカでは商業文化の著しい進展から，マーケティングを主体とした経営方策の一環として議論されている。本講義では，今日の芸術・文化の問題点を踏まえながら，芸術経営の理念と役割，その制度的枠組み，芸術・文化支援活動の実態などを考察するとともに，実演芸術，ファインアーツに分けながら，劇場，美術館等の歴史と運営方法をアメリカの流れをくむ経営手法を一つの切り口として考え，近年地方において多く開設されている文化会館，美術館等への地域文化振興の現状とあり方にも触れる。

■教材・参考書

枝川明敬『文化芸術の経営・政策論』小学館スクウェア【参】浅利慶太『四季 21世紀へのまなざし』慶応出版会，植田神爾『宝塚 百年の夢』文芸春秋，Bernstein, J., S. "Arts Marketing Insight", Throsby, D., "Economic \$ Culture", Toffler, A., "The Culture Consumers"

■成績評価の方法

出席状況，期末のレポートにより行なう。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

英米文学

代表教員：侘美 真理

曜日時限：火曜3限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：教養科目（一般教養科目）

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

小説『フランケンシュタイン』を読む。

19世紀初頭に英国の小説家メアリー・シェリーによって書かれた『フランケンシュタイン—あるいは現代のプロメテウス』は，現代も読み継がれる有名な英国小説の一つであり，かつ世界各国で映画・舞台・ミュージカル・漫画など実に多くの形で翻案化もされてきている。「人造人間」など現代的「怪物」のイメージの原点でもある原作に触れてもらい，「原作」ならではの面白さと，「小説」としての複雑さを体験してもらおう。さらに，一つの「文学テキスト」としての見方を提供し，歴史的・文学史的背景への理解や文学作品としての技法や解釈の重層性についての理解を深めることを目標とする。

■授業計画及び内容

毎回の授業を前半と後半に分ける。

前半は英語の原文の抜粋を読む。原作に触れるには原文を読む体験が必須である。表現を理解することで作品への理解が深まることはもちろん，作家が練り上げた文章を読むことは純粋に語学の勉強にもなり，一石二鳥である。但し，翻訳を参照することは可とし，受講者の英語レベルは全く問わない。後半は講義形式とし，毎回一つのテーマを取り上げて解説する。ゴシック小説の系譜や「怪物」の表象といった歴史的・文学史的背景，語りの手法やアイロニーなど文学テキストとしての技法や読み方，精神分析批評やジェンダー批評などの批評理論の紹介，映画や舞台作品との比較分析など，多岐に渡るアプローチから小説を多角的に読み込む視点を養う。

■教材・参考書

具体的には授業で指示する。

Frankenstein: Or the Modern Prometheus (Mary Shelley, Oxford World's Classics)

■成績評価の方法

出席（20%）、平常点（20%）、レポート（60%）

■履修上の指示事項

- ①自分の芸術性を豊かにするため、専門以外の分野も積極的に学ぶ姿勢が望まれる。
- ②初回の授業は授業の進め方や評価について詳細に説明するので、必ず出席すること。

■備考（オフィスアワー）

演劇論

代表教員：篠崎 光正

曜日時限：金曜3限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：教養科目（一般教養科目）

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

劇的な状況をめぐって

■授業計画及び内容

- ①第1回目はこの講義概要の説明。この演劇論の講義において、演劇とは何か、演劇批評とは何か、演技とは何かを考える講義内容の説明。
- ②ビデオ鑑賞①により、舞台演劇についての実際と演劇とは何かを考える。また、演劇批評を通して、演劇鑑賞方法を考える。
- ③シノザキシステム（篠崎光正演技術）の「呼吸」とは何かを考え、さらに「感動」を題材にして、演劇の「心のミラー現象」を論じる。この回はビデオ鑑賞②による演劇鑑賞。さらに次週までに鑑賞した舞台作品についての批判課題。
- ④「二つの神経」を題材にして、現実と虚構の世界について論じる。実際に二つの神経をどのように使うのかを実技で試しながら、演劇的創造方法を論じる。演劇では、他の芸術ジャンルと同様、イメージを使うことにより、演劇表現を行っているが、そのメカニズムについて検証する。この回はビデオ鑑賞は無い。
- ⑤「三つの間」を題材にして、演劇の最大の特徴である人間の心情について論じる。「受け演技」とは何か、「間合い」とは何か、3つの「間」とは何かを論じる。この回はビデオ鑑賞③による演劇鑑賞を含む。
- ⑥この回は「笑い」の演劇について論じる。「笑い」の演劇を鑑賞する場合、感情移入が起ることは、ニーチェの「悲劇の誕生」などでも論じられているが、ここでは実際に演劇と演技のもっとも不思議な、そして大きな劇的な感情を生むメカニズムを考える。さらに「ダゾデザドゼ」を題材に、セリフ表現について論じる。演劇は言葉を使う芸術であるが、その言葉を支える演劇的発音について検証する。特に日本語に隠された秘密について、その現象を含め考える。実技課題としては、「外郎売」を取り上げ、実際にそれを音声化しながら日本語の魅力と共に、演劇

のセリフ表現について論じるこの回はビデオ鑑賞による演劇鑑賞は無い。

⑦演技を受けることについてそのメカニズムを考える。「髪の毛をひっばる」を題材に想像力と演技の関係を演技により考える。「受ける」という意味を考えビデオ鑑賞④によりその演技的效果の実際を考える。さらに次週までに、今回鑑賞した舞台作品についての批判課題。

⑧「真似」は昔から演技の本質のように言われてきた。この理由と真似の持つ意味について、演技と比較しながら検証する。それと共に、リアリティとデフォルメについても考える。日常のリアリティと舞台のリアリティの違いを実際に演技で検証する。この回はビデオ鑑賞⑤によりその演劇的效果を考える。さらに次週までに、今回鑑賞した舞台作品についての批判課題。

⑨「スローモーション」演劇には、現実の時間の流れと、想像上の時間の流れが同時に存在する。その中で演劇的行為が時間軸を大きく揺るがず表現を行うのは何故かを考える。ビデオ鑑賞⑥によりその演劇的效果の実際を考える。さらに次週までに、今回鑑賞した舞台作品についての批判課題。

⑩「大学を落ちて浪人」演劇的な構造とは、どのような事をいうのかを考えると共に、その中で「ウソ」と「本当」の逆転現象を分析検証する。ビデオ鑑賞⑦によりその演劇的效果の実際を考える。さらに次週までに、今回鑑賞した舞台作品についての批判課題。

⑪「母親の涙」人間の心の働きについて、その基本的な構造を考える。その中で最も注目を集める「感動」について、そのメカニズムを解き明かす。「ミラー現象」として考えるものは一体何か。ビデオ鑑賞⑧によりその演劇的效果の実際を考える。さらに次週までに、今回鑑賞した舞台作品についての批判課題。

⑫以上総合まとめ

授業は講義とビデオ鑑賞、そして各自の批判作業という内容を主体とし、時には実際に演じてもらったり、あるいは朗読してもらったり、身体でも感じてもらう時間をつくります。

■教材・参考書

「篠崎光正演技術」晩成書房を使用

■成績評価の方法

筆記試験（前期後期）と出席状況

■履修上の指示事項

演劇未経験者、および演劇未体験者、感動少体験者歓迎

■備考（オフィスアワー）

講義終了後 30分

音楽アウトリーチ

代表教員：佐野 靖
曜日時限：水曜3限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：教養科目（一般教養科目）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

音楽によるアウトリーチ活動の実践・研究

■授業計画及び内容

「音楽アウトリーチ」とは、音楽家が学校や地域に出向き、コンサートやワークショップなどを構想、展開すること。実演者とコーディネーター、あるいは実践現場との双方向のコミュニケーションによって、様々な内容の取り組みが構想、展開される。本授業では、講義において音楽アウトリーチの先行事例などを検討しつつ、実践及び研究のための基礎的な知識を身に付けるとともに、学生自らが主体的・創造的に活動プログラムを企画、提案、実践する。実践編では、幼稚園や学校、病院等でコンサートやワークショップ、レクチャーや指導が展開された。

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

アウトリーチ活動への取り組みの内容、レポートなどから総合的に評価する。

■履修上の指示事項

学部3年生以上と大学院生を対象とする。

■備考（オフィスアワー）

佐野：水曜日 15:10～16:00

音楽教育入門

代表教員：佐野 靖
曜日時限：金曜3限
学 期：前期
単 位 数：2
ジャンル：教養科目（一般教養科目）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

音楽教育は、学校音楽教育や高度な技能習得をめざす専門音楽教育に限るものではない。幼児教育や障害児教育、あるいは成人を対象とした社会教育等においても音楽活動とその学習は重要な役割を果たしている。そうした広い意味での音楽教育の意義や基礎的な内容を学ぶ授業である。

■授業計画及び内容

授業内容の柱は、以下の通りである。授業の展開は、教員の講義、学生による発表や指導実践を組み合わせたものとなる。1. 音楽教育とは何か 2. 音楽教育の思想と歴史 3. 音楽と発達 4. 音楽・言葉・身体 5. 音楽の教授・学習過程の実際 6. 授業・レッスン研究 7. 音楽教育における実践と研究

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

発表内容やレポート等から総合的に評価する。

■履修上の指示事項

学部3年生以上で音楽教育への興味・関心が高い学生を対象とする。第1回目の授業（オリエンテーション）において詳細を指示するので、履修者は必ず出席すること。

■備考（オフィスアワー）

水曜日 15:10～16:00（佐野）、金曜日 16:15～16:45（山下）

音楽文化史

代表教員：坂崎 紀

曜日時限：月曜 4 限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：教養科目（一般教養科目）

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

古代から現代にいたるまでの西洋音楽の歴史を理解し、時代や様式の違いを聴きわける能力を身につけます。まず各時代の全般的傾向を把握し、それぞれの時代の音楽のありかたを考えます。また、音楽の発展に影響する外的要因（政治・経済などの社会状況や他の文化・芸術との関連）も考察します。ついでテキスト掲載の楽曲例の特徴を確認し、録音資料を聴くことによって具体的な音の変遷として西洋音楽史を理解します。

■授業計画及び内容

※ [] 内は予定回数

・前期：

1. ガイダンスと導入：音楽史の時代区分と、代表的楽曲について [1]

2. 先史時代と古代文明・古代ギリシャの音楽思想と音楽 [2]

3. 中世 [3]

4. 音楽におけるルネサンス：15世紀後半～16世紀 [3]

5. バロック [3]

前期試験 [1]

・後期：

6. 古典主義 [3]

7. ロマン主義 [3]

8. 近現代 [3]

9. ジャズと中南米の大衆音楽 [3]

後期試験 [1]

■教材・参考書

教科書：坂崎紀編著『西洋音楽史-譜例と解説』（アカデミア・ミュージック）

参考書：『カラー図解音楽事典』（白水社）、『音楽大事典』（平凡社）

■成績評価の方法

前期末および後期末に筆記試験を行います。録音資料を聴いて、時代・様式・形式などを判別する問題を出題します。

■履修上の指示事項

（１）教科書は毎回参照しますので必ず用意して下さい。1回目の授業時に申込みを受け付け、2回目の授業時に頒布します。（２）授業時には蛍光黄色、ピンクなど薄い色のマーカーを用意して下さい（楽譜などのポイントをマークします）。

■備考（オフィスアワー）

担当者メールアドレス：[メールアドレスはG-net シラバスに記載]

連絡用ウェブページ（携帯対応）：
<http://www.bekkoame.ne.jp/~sakazaki/mce/>

音楽療法概論

代表教員：蔭山 真美子
曜日時限：木曜3限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：教養科目（一般教養科目）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

音楽療法全般にわたって概観しつつ、障害への理解を深め音楽のもつ役割について考察をする。理論のみならず事例の紹介を通して音楽療法についての具体的イメージをもつことを目的とする。

■授業計画及び内容

さまざまな対象領域における音楽療法を紹介しながら、領域ごとの特性について講義をする。適宜ワークショップ形式での講義も実施しながら、音楽療法の基礎的な技法も学ぶ。

- ・ 音楽療法の基礎的理論
- ・ 音楽療法の基礎的技法
- ・ ワークショップ

■教材・参考書

適宜提示、配布する。

■成績評価の方法

授業への参加態度、レポートの提出等に基づいて評価する。

■履修上の指示事項

履修を希望する者はかならず初回に出席すること。

■備考（オフィスアワー）

音楽療法入門

代表教員：蔭山 真美子
曜日時限：木曜2限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：教養科目（一般教養科目）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

- ・ 音楽療法に関する基礎知識およびその理念や方法論について講義する。
- ・ 障害児・者をはじめ支援を必要とするさまざまな人々のみならず、社会や音楽家にとっての音楽のもつ意義や可能性について考察し、音楽療法に対する関心を高めることを目的とする。

■授業計画及び内容

主に以下の観点から音楽療法についての基礎的な理解を目指す

1. ガイダンス
2. 音楽療法の定義と歴史
3. 音楽の作用
4. 音楽療法のプロセス
5. 音楽療法の実際①
6. 音楽療法の実際②
7. 音楽療法の実際③
8. 音楽療法の実際④
9. 障害への理解
10. まとめ

■教材・参考書

教材・参考書：授業内で適宜紹介・指示する。

■成績評価の方法

授業への参加態度、レポートの提出等に基づいて評価する。

■履修上の指示事項

履修を希望する者はかならず初回に出席すること。

■備考（オフィスアワー）

音響学

代表教員：小泉 宣夫

曜日時限：木曜2限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：教養科目（一般教養科目）

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

音響学の基礎として、音の物理的性質、聴覚の機能（生理）、聴覚の感覚的性質（心理）について学ぶ。また、室内音響などの音環境の特徴について講義する。さらに、電気音響変換等のオーディオ技術や、デジタルオーディオの概要についても触れる。

■授業計画及び内容

1. 音と情報
音による情報と技術の発展、音とバーチャルリアリティ
2. 音波
音波の基本的性質、平面波と球面波、定在波と共振、音圧の測定
3. 音のスペクトル
周期信号の表現、スペクトルの特徴、基本周波数と音程
4. 室内音響
音の反射と残響、残響時間の推定、室内音場の特徴
5. 聴覚
聴覚のしくみ、音の知覚、ピッチ感覚と音色、方向知覚
6. アナログ・オーディオ
電気音響変換器、オーディオ信号の扱い、録音機器、音の編集と処理
7. デジタルオーディオ
音響信号とデジタル処理、オーディオの圧縮符号化、記録媒体
8. 空間オーディオ
バイノーラルシミュレーション、ステレオ方式、マルチチャンネル方式

■教材・参考書

教科書：『基礎 音響・オーディオ学』（小泉宣夫著、コロナ社、2005年）

参考書：『サウンドシンセシス 電子音響学入門』（小

泉宣夫・岩崎真、講談社、2011年）

■成績評価の方法

期末の試験成績に基づく

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

音声学

代表教員：三枝 英人

曜日時限：金曜 1限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：教養科目（一般教養科目）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

発声・発語・歌唱を行うための生命形態学と運動生理学について、その進化生物学的視点をもった歴史的な理解を深めたい。また、ここから科学的な視点を持って歌唱の基礎を知ることが目的とする。なお、これらの知識と視点は歌唱のみに関わらず、器楽演奏においても有用となるものと思われる。

■授業計画及び内容

意思や感情を込めて発声し、ことばを操り、歌唱を行う動物はヒトのみである。楽器を操るのもヒトのみである。鳥の唱や動物の鳴き声が、いくら美しく聞こえようとも、それは単に本能的要求に従った定型的なものである。ことばを操り、歌唱を行うためには、生物の進化とヒト特有の様々な身体的要因が関与するが、それを知るために、ただ外見から眺めても真の姿は見えてこない。本講義では、ヒトの姿を様々な角度から眺め、その真の意味を考察することで、発声・発語・歌唱の由来と現在、未来について考える礎としたい。これらは音楽の原型を知ることでもある。併せて、器楽演奏の原型についても触れていきたい。

■教材・参考書

(1) ヒトのからだ 生物史的考察：三木成夫（うぶすな書院）

(2) 新ことばの科学入門：広瀬肇訳（医学書院）

(3) 胃食道逆流による喉頭炎とその周辺：三枝英人・他訳

（インテルナ出版）

■成績評価の方法

主にレポートの提出によります。

■履修上の指示事項

・あまり硬くならず自由な発想で感じ、学んで下

さい。

・一生懸命にノートをとる必要もありません。

・発言は自由です。

・授業内容に関すること以外でも、歌声に関わらず、身体

やこころの不調や悩み等について心配なことがあればい

つでも相談して下さい。別に時間をとります。

■備考（オフィスアワー）

・月曜日午後を中心としますが、普段は本校に近い、根津

にある日本医科大学病院（tel：03-3822-2131）にお

りま

すので、いつでもご連絡ください。

メールアドレス：[メールアドレスはG-net シラバスに記載]

環境と防災の科学

代表教員：桐野 文良

曜日時限：水曜 5 限

学 期：前期

単 位 数：2

ジャンル：教養科目（一般教養科目）

開設区分：美術併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

21 世紀に活躍する芸術家にとって環境への配慮や安全配慮は必須である。そこで、本講義では創作活動を行う上での基本的な環境と防災の知識の習得が目標である。制作等をおこなう上で自らの安全を確保するとともに周囲の人への安全配慮の重要性および環境に関する社会的な要請と個人・組織の責任の基本的な事項について述べ、防災と環境に関する基礎的かつ自然科学的な知識と考え方の基本を身につける。一方的な講義としないで自ら考えることを基本として進める。

■授業計画及び内容

1. 安全の基礎
2. リスクアセスメント
3. 化学安全、機械安全および電気安全の具体例
4. 法的規制と安全衛生管理
5. 安全教育
6. 防災科学と消防の科学
7. 環境科学の基礎
8. 公害の歴史から学ぶこと
9. 『成長の限界』、『沈黙の春』をめぐって
10. 法的規制と自主的な取り組み (ISO14000 シリーズ)
11. 地球環境問題とエコ (環境と気象)
12. 環境アセスメントと環境社会学
13. 環境とエネルギー
14. ライフサイクルアセスメント (環境と廃棄物について)
15. 環境と防災の今後の展開—総括にかえて

■教材・参考書

講義時間中に適宜配布する。

■成績評価の方法

出席点と講義時間中の小テスト

■履修上の指示事項

学生の参加型授業とするのでゼミ形式を基本とします。講義中は互いに議論を展開するので自らの考えを述べるなど積極的な授業参加を希望します。

■備考 (オフィスアワー)

水曜日 9:00~17:00

経済学

代表教員：枝川 明敬

曜日時限：火曜 4 限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：教養科目（一般教養科目）

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

将来、文化芸術活動に携わる受講生に対し、経済活動と文化芸術活動との関連性を中心として、基礎的な経済学の知識や考え方について教授する。

■授業計画及び内容

前期期間

1. 社会における経済活動
2. 経済活動と経済学（主にミクロ経済学）及び経済学の基礎理論・知識・考え方
 - (1) 経済学とは
 - (2) 市場メカニズム
 - (3) 家計の行動と最適消費
 - (4) 需要と供給
 - (5) 完全競争と不完全競争
3. 経済活動と文化芸術活動
 - (1) 産業と文化芸術活動
 - (2) 文化産業と産業関連分析
 - (3) 地域振興（開発）と文化芸術活動
4. 現在の経済事象のトピックス
(注) 必要に応じ、経済政策面についても触れる。

後期期間

1. 企業戦略
 - (1) 戦略計画
 - (2) 事業戦略
2. マーケティング
 - (1) マーケティング機会－環境分析
 - (2) マーケティング戦略
 - ・市場と細分化
 - ・標的市場
 - (3) マーケティング戦略

■教材・参考書

教材：必要に応じて資料を配布。参考書：経済学の入門的な関係の書籍等 一例：伊藤善一『現代人の経済学』有斐閣選書（本著は、ミクロ・マクロ経済学の基礎的知識が習得できかつ数式も無いので理解

しやすい）、宇沢弘文『経済学の考え方』、奥村昭博『経営戦略』、木幡健一『マーケティングの基本がわかる本』

■成績評価の方法

前・後期 1回ずつの試験またはレポート及び出席回数

■履修上の指示事項

細かな知識の機械的な記憶より、経済学における考え方について習得することを重点とする。経済関係の新聞記事等を適宜読み、経済の動きを知っておくことが望ましい。

■備考（オフィスアワー）

芸術史

代表教員：木方 幹人

曜日時限：金曜 4 限

学 期：前期

単 位 数：2

ジャンル：教養科目（一般教養科目）

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

私たちの社会において「芸術」は、欠くべからざるものとして語られ理解されている。なぜそうなっているのかという基本的な思想的枠組みを歴史に沿って講じつつ、現代につながる芸術（アート）と社会のアクチュアルな問題を、絶えず聴講者に問いかけていきたい。難解な用語はなるべく避けて身近な例や最新的话题を挙げつつ説明していきたいと思いません。

■授業計画及び内容

- 1) 地に足の着いた具体性を持つための芸術史（「芸術」+「歴史」）の考え方へ。
- 2) 近代思想（「人間」の成立）と物理学を基礎とする我々の宇宙観。
- 3) カントによるエスティック（美的直感的）な次元の成立。
- 4) シラーの美学思想と現在にまで及ぶその影響（例：ベートーヴェン第9交響曲）
- 5) ロマン主義（広義）と自律する近代的芸術観の普及。
- 6) ヘーゲルによる「歴史（弁証法）」の成立と「時代」意識の成立。
- 7) 美的次元における分類概念から各芸術ジャンルにおける実証的研究成果へ。
- 8) 近代社会の現実（国民の創出）に寄与する芸術に関わる装置や制度。
- 9) 美的領域と新たな学問領域（実験心理学、文化人類学、精神分析など）。
- 10) 社会主義革命と「前衛」運動（芸術における自由と行為の問題）。
- 11) 現代芸術論（1）言語論的転回、批評理論、用語「パフォーマンス」。
- 12) 現代芸術論（2）後期資本主義と新たな芸術活動（アクティヴィズムなど）。

■教材・参考書

授業中に指示します。

■成績評価の方法

レポート（小論文）

■履修上の指示事項

ノートの準備

■備考（オフィスアワー）

芸術文化環境論

代表教員：伊志嶺 絵里子

曜日時限：木曜3限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：教養科目（一般教養科目）

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

芸術文化の創造と振興に必要な環境整備のあり方について考察する。

各受講生が芸術（家）と社会の関係について様々な角度から考察できるよう、基礎的な知識・理論の習得を目指す。

■授業計画及び内容

文化政策やアーツマネジメントの基礎的な理論を提供するとともに、現在、芸術文化分野で議論されているトピックスについて、実際の事例を取り上げながら解りやすく解説する。主なテーマは以下の通りです。

- 1) 芸術文化への財政支援は必要なのか？
- 2) 芸術文化の社会的意義と役割とは何か？
- 3) 芸術文化政策・アーツマネジメントとは何か？
- 4) 日本の芸術文化政策の歴史的変遷
- 5) 芸術文化政策を担う多様な主体
国・自治体の役割／企業メセナ／市民活動・アートNPOの役割
- 6) 芸術支援政策と評価
- 7) 地域社会とアートプロジェクト（音楽祭など）
- 8) 公立文化施設（主に音楽ホール）の運営状況と課題
- 9) 音楽アウトリーチ活動の意義と課題
- 10) 世界の芸術文化政策
ーアメリカ、イギリス、フランス、シンガポール等
- 11) 芸術文化を活用した国家ブランド戦略

■教材・参考書

教材：資料を授業ごとに配布する。

参考書：授業内で適宜紹介する。

■成績評価の方法

出席や授業参加への意欲、レポート等により総合的

に評価する。

■履修上の指示事項

- ・伊志嶺、朝倉の2人の教員で開設する。
- ・アートフォームは問わないが、教員の研究テーマが主に音楽であるため、授業の内容も音楽や舞台芸術を多く取り扱うことになる。そのことをあらかじめ了解のうえ履修していただきたい。

■備考（オフィスアワー）

メールにて受け付けます。

[メールアドレスはG-net シラバスに記載]

芸術論

最初の授業で指示する。

代表教員：恩地 元子

曜日時限：木曜 4 限

学 期：前期

単 位 数：2

ジャンル：教養科目（一般教養科目）

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

今日では日常的に使用されるようになっていく「コラボレーション」という様態について、20世紀初頭の芸術運動から今日の創作活動にいたる様々な事例を挙げながら、理解を深める。さらにそれが、作品の総合性、ハイブリディティにどのように関与しているか考える。

■授業計画及び内容

- ・共同性の思想について、主に哲学などを参照しながら知識を得る。
- ・20世紀の、複数のジャンルにわたる芸術運動、芸術活動を検証する。親密な共同体というより、個々の要員の差異を際立たせるような局面に注目する。具体的な事例は、戦前については未来派、ダダイスム、シュルレアリスム、ロシア・バレエ団とその周辺、戦後については、日本で上演に接することのできたパフォーマンス・アーツ領域の作品を採り上げる。
- ・受講者の顔ぶれによっては、ひとつの作品（あるいは一人の作者）を詳しく分析したい。

■教材・参考書

随時、資料などを配布し、視聴覚資料も用いる。テーマに即した催しがあれば、実際にクラスで鑑賞することもある。また、個別的な問題についての参考文献も、随時、指示する。

■成績評価の方法

出席状況、受講態度、レポートによって行う。

■履修上の指示事項

テーマに即した催しは、随時、紹介するので、可能な限り体験する。
詳細は、最初の授業で指示する。

■備考（オフィスアワー）

芸大生入門～大学生活とキャリアを

考える～

代表教員：安良岡 章夫

曜日時限：

学 期：集中講義

単 位 数：2

ジャンル：教養科目（一般教養科目）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

大学での学習に必要な基本的スキルや自校史、並びに今後のキャリア形成を考えるための自己理解等について。

主なトピックは、授業マナー、芸大史、健康管理、資料の検索、レポート・発表について、キャリアを考える、ロールモデル講演等。

■授業計画及び内容

1. ガイダンス、授業マナー等

科目の目的、授業の進行について 授業マナーについて（教務委員長、学部長等）

2～3. 芸大史

芸大の歴史、各科の成り立ちなど（音楽研究センタースタッフ）

4～5. 健康管理、精神衛生等

健康管理、飲酒・喫煙、心がめいった時・ストレスへの対応など（保健管理センター教員、外部講師）

6～7. 資料の検索等について

図書館や音研センターの使い方、資料・情報の収集方法について（音楽研究センタースタッフ、図書館職員）

8～9. レポートの書き方、発表の仕方

ノートの取り方、レポート作成上の注意、引用マナー、プレゼンテーションの方法等（教職課程運営委員長）

10～12. キャリアを考える

自己理解・自己管理、キャリアプランニングなど（音楽環境創造科教員、外部講師）

13～14. ロールモデル講演

教員の講演（学内教員）、卒業生の講演（卒業生）

15. まとめ

グループワーク・まとめ（教務委員長）

■教材・参考書

必要に応じ配布する。

■成績評価の方法

平常点とレポートなどから総合的に評価する。

■履修上の指示事項

学部1年生前期の履修を推奨。

大学院生は履修登録できない。

■備考（オフィスアワー）

思想史

代表教員：高山 守
曜日時限：火曜2限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：教養科目（一般教養科目）
開設区分：音楽併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

「思想」の凝縮である「哲学（西洋哲学）」の歴史を、芸術もしくは美の問題と関連させつつ、お話しする。

■授業計画及び内容

「思想」とは、大変広い概念である。政治思想、経済思想、社会思想、平和思想等と言われるし、また、孔子の思想、世阿弥の思想、ソクラテスの思想、ゲーテの思想等とも言われる。要するに、私たち人間の営みの根幹にいくぶんでも触れるような、ある程度まとまって展開される人々の考えは、すべて思想である。こうした幅広く多様な思想のなかで、その凝縮とも言われうるものがある。「哲学」である。それは、ひたすら人間の営みの根幹に迫ろうとする「思想」だと言えよう。しかも、こうした「思想」・「哲学」とは、実は意外にも芸術と近い関係にある。まずは、この哲学と芸術との親近性について、ドイツ近代の哲学（シェリングとヘーゲル）に即してお話しする。

その後、古代ギリシアから現代に至る哲学の歴史をたどるが、通り一遍の概説ではなく、哲学の奥行きあるおもしろさをお話しできればと思っている。

■教材・参考書

適宜プリントを配布する。

■成績評価の方法

前期末および後期末の筆記試験によるが、出席状況も考慮する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

社会学

代表教員：稲増 龍夫
曜日時限：
学 期：集中講義
単 位 数：2
ジャンル：教養科目（一般教養科目）
開設区分：美術併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

本講義は、教科書的な机上の社会学講義ではない、「生きた学問」を目指し、テレビからインターネットへという、映像メディアの進化を主たるテーマとして取り上げます。具体的には、さまざまなメディア文化現象を素材に、現代人のリアリティ感の変容が導く、今後の現代社会の動態を大胆に予測していきたいと思えます。

■授業計画及び内容

1. ポストモダン論 1) すみわけ社会と「格差」論争
2. 2) 記号消費と現代広告文化
3. 3) 現代社会における「自分探し」の構図
4. 4) アメコミヒーローの変遷にみる「正義」の変容
5. 5) 「おたく」文化とクールジャパン戦略
6. TV原論1) 「有名人の時代」の自己相対化戦略
7. 2) TV的リアリティとループ的世界観の構造
8. 3) 「やらせ」とメディアリテラシー
9. 4) AKB48にみるアイドル工学戦略
10. 5) MTVの映像美学
11. ポストTV論 1) テレビゲームの進化とゲーミフィケーション
12. 2) インターネットの誕生とグーグル化する社会
13. 3) デジタルコンテンツの時代における著作権と二次創作
14. 4) 動画投稿サイト文化と初音ミク現象
15. まとめ ポストモダン社会の位相とデジタルネイティブ

■教材・参考書

テーマごとに適宜指示します。

■成績評価の方法

毎時限、授業アンケートを提出してもらい、その出

席点のみで評価します。

■履修上の指示事項

9月上旬～中旬にかけての3日間15コマで3分の2以上の出席が単位取得の最低条件です。特に初回のガイダンスは絶対に出席してください。

■備考（オフィスアワー）

社会基盤としての芸術 I

代表教員：伊東 順二

曜日時限：木曜3限

学 期：前期

単 位 数：2

ジャンル：教養科目（一般教養科目）

開設区分：美術併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

従来、芸術もしくはその前提条件としての文化は社会の限定された層でのみの価値でしか問われることはなく、その領域における表現や活動も社会を構成する基盤としてではなく、その前提条件を満たした上での余剰的なものとして受け止められてきた。しかし、ここでは芸術文化という領域そしてその表現や活動を、社会の第一義的な構成要素とみなし、人間社会を支える基盤の一つとしてとらえ直すことによって、芸術文化に対する根本的な視点の転回を試みる。

■授業計画及び内容

全15回をそれぞれ3ブロックに分け、社会を構成する五つの領域それぞれにおける芸術文化の役割とそこから生み出される感性と知識、経験の社会的重要性を説いていく。講義形式とそれぞれのブロックにおいて現実に指導的な立場でマネジメントにあたる講師を招聘することで、現実社会の動向とリンクする実学としての芸術マネジメント技術の習得と芸大生が身につけている技術と知識を用いた社会参加、貢献へのビジョンを具体的に示唆していく。

第1回 芸術の原点と現在

第2,3回 情報拠点としての芸術文化施設(美術館、コンサートホール、文化コンプレックス)

第4,5,6回 まちづくり基盤としての芸術文化(地方行政、都市計画、文化資源)

第7,8,9回 国際関係プロトコルとしての芸術(外交、相互支援、環境問題)

第10,11,12回 経済産業基盤としての芸術(工芸、メディア芸術、デザイン)

第13,14回 未来予測基盤としての芸術(情報工学、科学技術)

第15回 総括

全体を通じて芸術文化が果たしうる社会貢献と、そ

のマネジメントの現在と未来を説くことによって、
芸術を学ぶ学生たちの人材資源としての重要性和そ
れについての自覚を促すものとしたい。

2013 年度のゲスト：隈研吾、恵良隆二、秋元雄史、
井上隆史、平田オリザ、河口洋一郎、本木克英、宮??
正明、森雅志、谷内正太郎、池宮中夫、上野景文

■教材・参考書

特になし。過去の芸術観を捨ててください。

■成績評価の方法

出席とレポート

■履修上の指示事項

授業ブロックごとに講義で示唆します。

■備考（オフィスアワー）

木曜日（社会連携センター）

社会基盤としての芸術 I

代表教員：伊東 順二

曜日時限：木曜 3 限

学 期：前期

単 位 数：2

ジャンル：教養科目（一般教養科目）

開設区分：美術併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

従来、芸術もしくはその前提条件としての文化は社会の限定された層でのみの価値でしか問われることはなく、その領域における表現や活動も社会を構成する基盤としてではなく、その前提条件を満たした上での余剰的なものとして受け止められてきた。しかし、ここでは芸術文化という領域そしてその表現や活動を、社会の第一義的な構成要素とみなし、人間社会を支える基盤の一つとしてとらえ直すことによって、芸術文化に対する根本的な視点の転回を試みる。

■授業計画及び内容

従来、芸術もしくはその前提条件としての文化は社会の限定された層でのみの価値でしか問われることはなく、その領域における表現や活動も社会を構成する基盤としてではなく、その前提条件を満たした上での余剰的なものとして受け止められてきた。しかし、ここでは芸術文化という領域そしてその表現や活動を、社会の第一義的な構成要素とみなし、人間社会を支える基盤の一つとしてとらえ直すことによって、芸術文化に対する根本的な視点の転回を試みる。

■教材・参考書

全 15 回をそれぞれ 3 ブロックに分け、社会を構成する五つの領域それぞれにおける芸術文化の役割とそこから生み出される感性と知識、経験の社会的重要性を説いていく。講義形式とそれぞれのブロックにおいて現実に指導的な立場でマネジメントにあたる講師を招聘することで、現実社会の動向とリンクする実学としての芸術マネジメント技術の習得と芸大生が身につけている技術と知識を用いた社会参加、貢献へのビジョンを具体的に示唆していく。

第 1 回 芸術の原点と現在

第 2,

■成績評価の方法

特になし。過去の芸術観を捨ててください。

■履修上の指示事項

出席とレポート

■備考（オフィスアワー）

授業ブロックごとに講義で示唆します。

社会基盤としての芸術Ⅱ

代表教員：伊東 順二

曜日時限：木曜3限

学 期：後期

単 位 数：2

ジャンル：教養科目（一般教養科目）

開設区分：美術併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

従来、芸術もしくはその前提条件としての文化は社会の限定された層でのみの価値でしか問われることはなく、その領域における表現や活動も社会を構成する基盤としてではなく、その前提条件を満たした上での余剰的なものとして受け止められてきた。しかし、ここでは芸術文化という領域そしてその表現や活動を、社会の第一義的な構成要素とみなし、人間社会を支える基盤の一つとしてとらえ直すことによって、芸術文化に対する根本的な視点の転回を試みる。

■授業計画及び内容

全15回をそれぞれ3ブロックに分け、社会を構成する五つの領域それぞれにおける芸術文化の役割とそこから生み出される感性と知識、経験の社会的重要性を説いていく。講義形式とそれぞれのブロックにおいて現実に指導的な立場でマネジメントにあたる講師を招聘することで、現実社会の動向とリンクする実学としての芸術マネジメント技術の習得と芸大生が身につけている技術と知識を用いた社会参加、貢献へのビジョンを具体的に示唆していく。

第1回 芸術の原点と現在

第2,3回 情報拠点としての芸術文化施設(美術館、コンサートホール、文化コンプレックス)

第4,5,6回 まちづくり基盤としての芸術文化(地方行政、都市計画、文化資源)

第7,8,9回 国際関係プロトコルとしての芸術(外交、相互支援、環境問題)

第10,11,12回 経済産業基盤としての芸術(工芸、メディア芸術、デザイン)

第13,14回 未来予測基盤としての芸術(情報工学、科学技術)

第15回 総括

全体を通じて芸術文化が果たしうる社会貢献と、そ

のマネジメントの現在と未来を説くことによって、
芸術を学ぶ学生たちの人材資源としての重要性とそ
れについての自覚を促すものとしたい。

2013年度のゲスト：隈研吾、恵良隆二、秋元雄史、
井上隆史、平田オリザ、河口洋一郎、本木克英、宮??
正明、森雅志、谷内正太郎、池宮中夫、上野景文

■教材・参考書

特になし。過去の芸術観を捨ててください。

■成績評価の方法

出席とレポート

■履修上の指示事項

授業ブロックごとに講義で示唆します。

■備考（オフィスアワー）

木曜日（社会連携センター）

宗教学

代表教員：市川 裕

曜日時限：

学 期：集中講義

単 位 数：4

ジャンル：教養科目（一般教養科目）

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

一神教の歴史と思想：近現代と宗教、そして芸術の
理解に向けて

■授業計画及び内容

一神教に属する3つの宗教、ユダヤ教、キリスト教、
イスラム教の特徴を把握するにあたり、ユダヤ教か
らの視点を中心に捉え、私たちが生きる近現代が人
類の宗教史において持っている特徴を考察する。集
中講義の前半で、「一神教の世界宗教史」を扱い、後
半では、「日本の宗教および現代の価値論」を取り上
げる。

視点は、私がユダヤ教を専門としていることから、
ユダヤ教を通して、他の2つの宗教の特徴を引き出
すというやり方を採用する。ユダヤ教は、旧約聖書
を唯一の「聖書」として、キリスト教とは異なる新
興態度を示し、法秩序を包摂する点でイスラム教と
類似した宗教共同体を形成して今日に至ったからで
ある。

また、日本に生きている以上、一神教とは異なる特
徴をもつ宗教伝統との比較考察に留意して特徴を把
握したい。

宗教儀礼や美術、歴史的イベントなどを知るために、
できるだけビデオやCDなど視聴覚教材を使いたい。

■教材・参考書

講義で指示する。

■成績評価の方法

レポートと出席。最後に、講義の感想を書いてもら
います。

■履修上の指示事項

とくになし

■備考（オフィスアワー）

心理学概説

代表教員：新美 亮輔

曜日時限：木曜 4 限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：教養科目（一般教養科目）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

心という、あいまいで捉えどころのないものを何とか科学的に探究しようとするのが心理学である。その基礎的な考え方と知識を紹介し、議論する。特段の予備知識は必要としない。認知心理学の話題を中心に、人間がいろいろなものを認識したり、考えたり、行動したりする根底にある心と脳の働きについて概説する。例えば、人間はリンゴを見てそれがリンゴだとすぐ認識できる。これは一見とても簡単なようだが、実は非常に複雑で高度な情報処理に支えられていて、そのしくみには未だに謎が多い。普段あまり意識することのない知覚や認知の奥深さの一端を感じてもらいたい。聴覚（音の知覚）についても数回で概説する。

■授業計画及び内容

以下のようなトピックについて、それぞれ1～3回程度で論じる。

- ・心は科学的に研究できるか
- ・心はどこにあるか
- ・人間の心と動物の心は違うか
- ・「見る」とは何か
- ・「聴く」とは何か
- ・人間は変わるのか
- ・人間はどうやってものを覚えるのか
- ・注意とは何か
- ・人間は理性的か
- ・人間は社会的か
- ・脳とは何か
- ・心は病気になるのか
- ・個人差とは何か

■教材・参考書

特に指定しない。講義資料は教室で配布する。より深く学習したい学生のために、毎回講義内容に関連する文献を紹介する。

■成績評価の方法

主に学年末試験によって評価するが、出席と小レポートの評価も加味する。

■履修上の指示事項

この講義では、臨床心理学や産業心理学のような応用心理学ではなく、基礎心理学を中心に概説する。知覚や認知、記憶といった心の基本的なはたらきを科学的に理解することが目的である。心理学に深く関わる神経科学（俗に言う脳科学）のトピックにも適宜言及する。基礎科学としての心理学に興味がある者の履修を勧める。

■備考（オフィスアワー）

授業中および授業終了後に、教室で質問を受け付ける。

生物学

代表教員：服部 淳彦

曜日時限：(前期) 木曜5限・(後期) 火曜5限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：教養科目 (一般教養科目)

開設区分：美術併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

ヒトを中心として様々な生物の遺伝子や各臓器の構造と機能について学び、「地球上で生きているとはどういうことか」を生物学的な視点から理解し、大学教育の大きな目標である、さまざまな視点を持つことに、生物学的な視点を加えられるようにする。

■授業計画及び内容

身の回りに起こるヒトをはじめ様々な生物の生命現象を入り口にして、ある程度生命科学を理解したのちに、「体内時計」や「老化と寿命」、さらには「生命と重力」(宇宙生物学)に関して学ぶ。講義は、以下のようなトピックスを中心にすすめる。

- 1 ヒトの遺伝子と遺伝病について
- 2 性格や能力はどこまで遺伝子で決まる？
- 3 兄弟姉妹が違うのはなぜか
- 4 遺伝子の突然変異の種類と異常が生じる頻度
- 5 芸術に遺伝子はどこまで関係するか。
- 6 細胞内で遺伝子からタンパク質が作られるまで
- 7 遺伝子組み換え植物とクローン技術の応用
- 8 遺伝子の診断技術と遺伝子治療の現状
- 9 生物の進化
—ダーウィンの自然淘汰説と分子進化の中立説
- 10 人類の進化と未来
- 11 細胞からどのようにして個体ができるのか
- 12 栄養の供給と消化管の役割
- 13 傷の修復と血液の成分
- 14 体液とイオンバランスと腎臓の働き
- 15 成長と軟骨・骨
- 16 血糖値・血圧の調節と内分泌系
- 17 病原体への対応と免疫系
- 18 生体リズム
- 19 体内時計
- 20 老化と寿命
- 21 宇宙生物学

1つのトピックに対して、およそ1～2回分の予定で授業をすすめる。

■教材・参考書

参考書：「ワークブックで学ぶ 生物学の基礎 (第2版)」、Greenwood et al. 共著、後藤監訳、オーム社 (2011)。

授業のときに、適宜、参考図書を紹介するとともに、コピー等も配布する。

■成績評価の方法

出席(重視)、レポートや試験等で総合的に評価する。

■履修上の指示事項

通年の授業です(前期のみ、後期のみは認められません)。

*前期と後期で開講される曜日(前期：木5、後期：火5)が異なりますので、注意して下さい。

■備考 (オフィスアワー)

講義を行う日の講義終了後、美術教育(美術学部中央棟地下1階)研究室

著作権概論

代表教員：桑野 雄一郎

曜日時限：月曜2限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：教養科目（一般教養科目）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

音楽を含む芸術と最も縁が深い法律である著作権法について、その基本的な考え方を習得すること。

■授業計画及び内容

法律の基本的な読み方、考え方を説明し、その上で著作権法の全体像について講義を行う。概ね以下のような内容である。詳細はガイダンスにおいて行う。

第1章 ガイダンス

第2章 著作権とはどんな権利だろうか

第1 はじめに

第2 著作物

第3 著作者

第4 著作権と著作者人格権

第3章 著作隣接権とはどんな権利だろうか

第4章 舞台芸術に関する法律

私は学者ではなく弁護士なので、机上の議論にとらわれず、裁判になった事例や私が携わった事件なども適宜紹介しながら、著作権法をめぐる紛争の実態も紹介したいと考えている。芸術に携わる者として社会に出た際には否が応でも著作権法と関わり合うことになるので、最低限の知識を習得してもらいたいと考えている。

■教材・参考書

（教材）

講義の際にレジュメを配布する。

（参考書）

前田哲男・谷口元「音楽ビジネスの著作権」

（著作権情報センター）

■成績評価の方法

後期終了時にある課題についてレポートを提出してもらう。課題の詳細は講義の際に指示をする。

なお、出典を明記するなど、引用のルールを守らず他人の論稿を流用したものは不可とする。

■履修上の指示事項

著作権法が問題になる事例は諸君にとっても身近な問題が多いので、関心をもって積極的に取り組む学生の参加を希望する。

■備考（オフィスアワー）

ドイツ文学 I (詩)

代表教員：檜山 哲彦

曜日時限：水曜 4 限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：教養科目（一般教養科目）

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

ドイツの詩を読む

■授業計画及び内容

リートなどの形で付曲されている詩（18世紀後半から20世紀初頭にいたるまでの詩）を主たる対象とする。

各時間ごとの担当者の作成するプリント（対訳、解釈、詩や詩人についての知見など）をもとにしつつ、以下の点に重点を置きながら、詩を多面的・多層的に読み進めてゆく。

1) 内容の読解、解釈、日本語への翻訳 2) 韻律法 3) 原詩の朗読

■教材・参考書

教材はコピーを配布する。参考書：「ドイツ名詩選」（岩波文庫）

■成績評価の方法

担当発表の平常点によるが、レポートを課すこともある。

■履修上の指示事項

ドイツ語の基礎的な読解力があることが望ましい。

■備考（オフィスアワー）

美学

代表教員：津上 英輔

曜日時限：水曜 2 限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：教養科目（一般教養科目）

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

芸術と美について考える

■授業計画及び内容

1. 導入
2. 芸術とは何か（1）：わざの中のわざ
3. 芸術とは何か（2）：わざのためのわざ
4. 芸術とは何か（3）：わざを超えるわざ
5. 芸術作品
6. 芸術の分類
7. 質問に答えて（1）
8. 芸術と娯楽
9. 芸術とスポーツ
10. 贋作
11. 芸術と猥褻（Blackwell Companion）
12. 感傷性（Blackwell Companion）
13. 音楽の政治性
14. 質問に答えて（2）
15. まとめ
16. 前期試験の解説
17. 美（1）
18. 美（2）
19. 美学（1）
20. 美学（2）
21. 美と美的
22. 質問に答えて（3）
23. 感性的質の変化（1）
24. 感性的質の変化（2）
25. 観光美学
26. 飲食美学（Blackwell Companion）
27. 環境美学
28. 日常美学
29. 質問に答えて（4）
30. まとめ

■教材・参考書

Stephen Davies et al., A Companion to Aesthetics,

2nd ed., Willey-Blackwell, 2009. 主題により、この本に依拠して授業を進めるが、履修者がこれを持っている必要はない。

■成績評価の方法

前期末と後期末に試験を行ない、その点数の平均を学年成績とする。

■履修上の指示事項

特になし。

■備考（オフィスアワー）

特になし。

フランス文学

代表教員：大森 晋輔

曜日時限：水曜 4限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：教養科目（一般教養科目）

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

フランス近代の代表的な文学作品の講読

■授業計画及び内容

19世紀中葉から20世紀前半にかけてフランス語で書かれた詩作品を一定の作法に従って読むことで、詩の醍醐味を多角的に味わう。作曲家によって詩に付曲された歌曲作品についても検討する。

■教材・参考書

大森晋輔『フランスの詩と歌の愉しみ』、東京藝術大学出版会、2012年（教員からの直接購入が可能。割引あり）を副読本とし、適宜プリントを配布する。

■成績評価の方法

出席、授業への参加度、レポート、発表。

■履修上の指示事項

詩という、原理的には翻訳不可能なものを味わうことを主な目的とするため、原文の参照なしには授業が成り立たない。初級程度のフランス語をすでに習得していること、あるいは習得中であることが望ましい。

■備考（オフィスアワー）

水曜 11時～。事前連絡のこと。

文化人類学

代表教員：加原 奈穂子
曜日時限：金曜 2限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：教養科目（一般教養科目）
開設区分：音楽併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

文化の多様性と現代

■授業計画及び内容

文化の多様性とは、如何なるものか。文化人類学という学問の特質は、どのようなものか。これらのことを念頭におきながら、“人間”、“文化”、“多様性”、“普遍性”などという語の意味を考察し、次いで、食べ物や装い、コミュニケーション、見る、聞く、触れる、といった身近な話題を例に挙げながら、世界の人々が外界の事物をどのようにとらえているのかを探る。また、人々は他者との関係をどのように持ち、自分の世界を如何に表現しているのか、そのためには、如何なる状況の中で何をどのように使っているのか、といったようなことをも考える。話題は、主に 20 世紀以降のことに絞る。この講義では、単なる概論的介绍にとどまらず、具体的な土地の事例を取り上げながら、近年の文化人類学の状況、現代の世界で文化が直面している諸問題についても考慮してゆきたい。

■教材・参考書

講義の際に紹介する。

■成績評価の方法

平常点（出席など）・レポート・試験

■履修上の指示事項

この授業は、いろいろなことを記憶することを目的とするものではなくて、自分で考える機会を持つためのものである。積極的な授業出席が望ましい。

■備考（オフィスアワー）

文章表現論

代表教員：杉本 和寛
曜日時限：月曜 4限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：教養科目（一般教養科目）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

日本語における文章表現力の向上をはかる。

■授業計画及び内容

毎時間、文章（小説・評論・随筆・新聞記事等）を読んだり、特定のテーマを与えたりして、それについての短い文章（600 字程度）を書き、日本語の作文能力の向上を目指す。履修する学生によって経験・能力に差があるので、まずは定期的に、様々な事柄について思考し、文章を書くという習慣を身につけるところから出発する。したがって、専門的な論文・レポートにおける文章能力の向上というレベルには至らないので、履修の際には注意してもらいたい。

■教材・参考書

随時プリント等を配布する。

■成績評価の方法

毎時間の作文の内容、授業中の態度、出席状況、および年度末の課題によって評価する。

■履修上の指示事項

上記のように継続して文章を書く練習を続けることが必要なので、一年を通じて出席可能な学生のみ履修可。無断で3回欠席した時点で履修放棄と判断する。

■備考（オフィスアワー）

月曜日Ⅱ時限目

法学（含日本国憲法）

代表教員：岩切 大地

曜日時限：金曜 4 限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：教養科目（一般教養科目）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

この授業では、法学、特に憲法についての講義を行います。

具体的には、授業は以下のことを目的として進められます。

- ①社会や国家の仕組みを、法を通して学ぶ
- ②法の理念を理解し、批判的視座を得る
- ③教職に必要な教育制度の理念への理解を図る

■授業計画及び内容

1 いくつかのテーマから法学を学ぶ（入門）

- ・法における「人」
- ・法における「我々」
- ・法における「生命」
- ・「罪と罰」
- ・戦争
- ・家族、 など

2 法・憲法の基本理念を学ぶ

- ・国家と立憲主義
- ・なぜ人権か
- ・国家統治のしくみ

3 教育と法、芸術と法

- ・教育をめぐる法の理念／教育の具体的な法制度
- ・芸術をめぐる法

■教材・参考書

- ・次の書籍を教科書として使用します。

駒村圭吾（編）『プレステップ憲法』（弘文堂、2014年刊行予定）

（なお、2014年9月刊行予定。授業では後期以降に使用します。）

- ・その他、レポート課題の際に参考となる文献を示します。

■成績評価の方法

- ・基本的にはレポートを成績評価の対象とします。
- ・また、不定期に小テスト等を行いますが、これも成績評価の上で勘案します。

■履修上の指示事項

初回授業で、受講に当たっての具体的な注意事項を伝えます。

■備考（オフィスアワー）

授業終了後に受け付けます。

法学（含日本国憲法）

代表教員：岩切 大地

曜日時限：金曜5限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：教養科目（一般教養科目）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

この授業では、法学、特に憲法についての講義を行います。

具体的には、授業は以下のことを目的として進められます。

- ①社会や国家の仕組みを、法を通して学ぶ
- ②法の理念を理解し、批判的視座を得る
- ③教職に必要な教育制度の理念への理解を図る

■授業計画及び内容

1 いくつかのテーマから法学を学ぶ（入門）

- ・法における「人」
- ・法における「我々」
- ・法における「生命」
- ・「罪と罰」
- ・戦争
- ・家族、 など

2 法・憲法の基本理念を学ぶ

- ・国家と立憲主義
- ・なぜ人権か
- ・国家統治のしくみ

3 教育と法、芸術と法

- ・教育をめぐる法の理念／教育の具体的な法制度
- ・芸術をめぐる法

■教材・参考書

- ・次の書籍を教科書として使用します。

駒村圭吾（編）『プレステップ憲法』（弘文堂、2014年刊行予定）

（なお、2014年9月刊行予定。授業では後期以降に使用します。）

- ・その他、レポート課題の際に参考となる文献を示します。

■成績評価の方法

- ・基本的にはレポートを成績評価の対象とします。
- ・また、不定期に小テスト等を行いますが、これも成績評価の上で勘案します。

■履修上の指示事項

初回授業で、受講に当たっての具体的な注意事項を伝えます。

■備考（オフィスアワー）

授業終了後に受け付けます。

ポップ論

代表教員：桜井 圭介

曜日時限：水曜 4 限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：教養科目（一般教養科目）

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

20 世紀の大衆文化、とりわけ、“規範的な・マジョリティの”文化に対する“マイナーな者たち”の対抗文化としての「ポップ・カルチャー」を考察する。

■授業計画及び内容

- ・1969 年（ウッドストック）にいたるまでのアメリカン・ポップ・ミュージック史
- ・1980 年代前半の日本のポップ・カルチャー概観
- ・「ポップ・アート」から始まるアートにおけるポップ（という語義矛盾）

■教材・参考書

■成績評価の方法

前期・後期にレポートを提出。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

ミュージカル概論

代表教員：青井 陽治

曜日時限：火曜 2 限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：教養科目（一般教養科目）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

《ミュージカルの基本》ミュージカルのどこが「？」ですか？

ミュージカルとは一体何か？

日本のミュージカルはどこを目指すべきなのか？

ミュージカルの歴史・発展の跡をたどり、現在の停滞の突破口を探り、さまざまな角度から、ミュージカルと向き合い、ミュージカルを考え、ミュージカルと遊ぶ。

■授業計画及び内容

〈前期〉

《西洋大衆音楽劇》としてのミュージカルの成立と特質を知る。映像資料によって、ミュージカルのさまざまな顔と出逢う。

《日本が産んだミュージカル》の素晴らしさに気づく。

〈後期〉

ミュージカルにおいて「歌う」とは？ ミュージカルにとって「音楽」とは？

実技を通して、体験的に学ぶ。

■教材・参考書

教科書的にまとめたものは、残念ながら、日本語ではありません。参考書になるものは、各人の必要やレベルに応じて、なるべく実践的なものを推薦します。

楽譜・台本など、実際に現場で使用しているものにも触れてもらいます。

■成績評価の方法

前期・後期とも、テーマを定めて小論文。

後期は、歌唱・演奏などの実技、もしくは、台本・歌詞・作曲などの作品づくりも評価の対象とする。

■履修上の指示事項

出席を重視して、点数に換算し成績に加味します。

後期の実技・作品の発表に関して、前期終了時に小論文と共に、その構想を提出してもらいます。

■備考（オフィスアワー）

メディア・リテラシー

代表教員：水越 伸

曜日時限：月曜5限

学 期：前期

単 位 数：2

ジャンル：教養科目（一般教養科目）

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

メディア・リテラシーとはメディアの特性を理解し、情報を批判的に読み解くとともに、主体的に表現、発信していくための複合的な力を意味します。メディアが多様化し、情報が溢れる社会になりつつある中、メディアと批判的かつ積極的に付き合っていくための素養や能力はますます大切になっていきます。ここでいう「表現」「発信」とは、狭い意味での音楽やアートなどの創作活動だけではなく、メディアに媒介されるコミュニケーション活動全般のことを広く指しています。本授業では、このような意味でのメディア・リテラシーの考え方の基本や応用を、講義とワークショップを織りまぜながら学んでいきます。

■授業計画及び内容

講義形式とグループによるワークショップを組み合わせ進める予定

(A) 講義形式

私たちが日ごろ無意識のうちに接しているメディアについて、その文化的・社会的特性を知ることは、今後の情報が溢れるのデジタル・メディア社会で生きていくため

に、また創造、発信活動をより豊かなものにしていくために、とても重要です。講義ではまず、メディア・リテラシーの概念や、メディアそのもの構造について、導入的かつ俯瞰的な概説をおこないます。

(B) ワークショップ形式

メディアの情報がどのように構成されているかを、頭だけではなく体を動かしながら体得していくために、メディア・リテラシーに関するミニワークショップも並行して行っていきます。その内容や進め方については、参加者の人数や状況を踏まえて決めていきたいと思いますが、参加者自らが主体的に活動をデザインしていくことが求められます。

■教材・参考書

水越伸『メディア・ピオトープ：メディアの生態系をデザインする』（紀伊国屋書店、2005年）

■成績評価の方法

出席、ワークショップの内容、最終レポートなどから総合的に判断します。

授業形態の特性上、出席を重視します。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

メディア論

代表教員：若林 幹夫

曜日時限：木曜2限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：教養科目（一般教養科目）

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

メディアと文化、社会の関係について、「話す／聴く」「書く／読む」「記録する／再生する」「蓄積する／流通する／共有する」といった点から、比較社会的かつ社会史的な視点から、理論的かつ具体的に検討する。

■授業計画及び内容

メディアと社会、文化についての導入的な解説を行った上で、上記のテーマに関連して、受講者の問題関心も考慮して、テキストを選択して輪読する。また、そのテキストと関連した映像・音響作品の鑑賞・検討や、参加者のレポートの検討などを通じて、上記のテーマについて多角的な議論と考察を進めてゆく。社会学的な視点や理論が考察の基軸となるが、社会学についての予備的な知識は必要としない。

■教材・参考書

受講者と相談のうえ決定する。

■成績評価の方法

出席、報告、討論、レポートを総合して評価する。

■履修上の指示事項

演習形式でおこなうので、継続的な出席、報告、討論への積極的な参加が求められる。

■備考（オフィスアワー）

非常勤なので、オフィスアワーは設定しない。質問等は授業時におこなうこと。教員の連絡先等は、授業で連絡する。

臨床音楽入門

代表教員：今野 貴子

曜日時限：水曜3限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：教養科目（一般教養科目）

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

音楽をノンバーバルコミュニケーションのツールとしてとらえ、音楽療法を含む様々な対象者にあわせ、音楽をいかに利用するかの実践方法を習得する。

■授業計画及び内容

授業では、様々な対象者にあわせて音楽を使う上での基本的な考え方や技法について説明するほか、実際に音を出したり意見交換をしたりしながら、音楽の使い方を実践的に習得する。

- 1, 臨床における音・音楽・楽器の使い方について
- 2, 対象者の観察、情報の重要性
- 3, 発達障害児を対象とした音楽療法技法
- 4, 高齢者を対象とした音楽療法技法
- 5, 乳幼児を対象とした音楽技法
- 6, 様々な施設、対象者に合わせた音楽療法、音楽活動および演奏会について
- 7, 即興について

■教材・参考書

■成績評価の方法

出席および授業参加態度
レポートの提出

■履修上の指示事項

千住校地開設。履修を希望する者はかならず初回に出席すること。

■備考（オフィスアワー）

倫理学

代表教員：山田 忠彰

曜日時限：金曜2限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：教養科目（一般教養科目）

開設区分：美術併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

芸術とはなにか、あるいは視点をかえて、いつ芸術は存在するのか。これは、いまだ確定的な了解が成立していない問いだといわざるをえない。

本講義では、この古くて新しい問題に、「人間の倫理的生とはなにか」という視角からアプローチして、芸術と人間との密接不可分なかわりについて検討してみたい。本年は、とりわけ、いわゆる芸術終焉論（前期）と自由の芸術美的変形（variant）論（後期）から考察を進めることにする。

■授業計画及び内容

第1回：イントロダクション

第2回：芸術終焉論一般について〈1〉古典ギリシャ・ルネサンス

第3回：芸術終焉論一般について〈2〉モダニズム

第4回：ヘーゲルの場合：芸術の学・記号の創造・芸術作

品の二重性

第5回：ヘーゲルの場合：三つの芸術様式

第6回：ヘーゲルの場合：音楽と詩文芸・芸術の自己超脱

第7回：「芸術の最高の使命」

第8回：ハイデガーの場合：芸術作品の根源

第9回：GeistとThe End-of-Art Thesis

第10回：芸術・宗教・哲学

第11回：芸術哲学がヘーゲルの哲学体系の heart か？

第12回：シェリングの場合

第13回：多元主義へ

第14回：「理性の新たな時代」

第15回：まとめ

第16回：主観的自由の基本的関係：ヘーゲルの場合

第17回：「能動的受動性」

第18回：カント、アドルノの場合

第19回：キャヴェルの場合

第20回：自己喪失から自己到達へ

- 第 21 回：他者依存を介しての自己自立
- 第 22 回：人間的自由のコア
- 第 23 回：芸術美学の領域
- 第 24 回：芸術美的実践と人間的自由のアリーナ
- 第 25 回：芸術美的知覚および制作と「能動的受動性」
- 第 26 回：芸術美的知覚と制作のプロセス
- 第 27 回：芸術美的感受性の中心的徳目
- 第 28 回：芸術美的実践の意味
- 第 29 回：芸術美的自由
- 第 30 回：まとめ

■教材・参考書

山田忠彰『エスト-エティカ 〈デザイン・ワールド〉と〈存在の美学〉』ナカニシヤ出版、2009 年

適宜、プリントを配布する。

参考書は、講義のなかで、適宜指示する。

■成績評価の方法

response sheet の提出と学期末の筆記試験（レポートに準じる）とによって、総合的に評価する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

歴史

代表教員：石井 規衛

曜日時限：木曜 2 限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：教養科目（一般教養科目）

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

おもに 20 世紀の世界で起った様々な事件をとりあげて多面的に検討しながら、それに人々がどのように対応し、また苦悩し、そしてどのように生き抜いてきたのか、という貴重な体験を、現代の私たちの生活とたえず突き合わすことを通して、歴史の重さと、「今、現在」の意味を問い直すこと。

■授業計画及び内容

- ・ 前史（18 世紀と 19 世紀）、世紀末の時代。
- ・ 第一次世界大戦とロシア革命。
- ・ 戦間期の世界。
- ・ 第二次世界大戦。
- ・ 冷戦期。
- ・ ソ連文明の崩壊と「グローバル」。
- ・ 「端緒的」現代の終焉か、現代のはじまりか。

以上のような時代ごとに、世界を、経済、政治、文化など多面的に説明する。

全体としては、（1）20 世紀という時代のあり方をつよく規程していたロシア・ソ連文明のあり方を、やや詳しく触れること、（2）つねに日本の歩みと関係づけること、の 2 点で、特色を出す。

■教材・参考書

必要に応じて映像資料を用いる。

■成績評価の方法

平常点 80%

課題の遂行 20%

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

專門基礎科目

オペラ史

代表教員：向井 大策

曜日時限：水曜5限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門基礎科目（音楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

一年間を通して、誕生から現代にいたるオペラの歴史を辿る。オペラは総合的な芸術である。講義では、オペラ史上の重要な作曲家とその作品を取り上げ、オペラ芸術の様式的な発展を追うが、それと同時に、歌唱史や劇場史を含むオペラ独特の制作システムの変遷や、それぞれの時代のオペラ固有の美学についても理解を深めることを目標とする。

■授業計画及び内容

<前期>

第1回：オペラとは何か？／第2回：モンテヴェルディ（1）／第3回：モンテヴェルディ（2）／第4回：オペラ・セリアの作法／第5回：トラジェディ・アン・ミュージック／第6回：ヘンデル／第7回：グルックのオペラ改革／第8回：モーツァルト（1）／第9回：モーツァルト（2）／第10回：モーツァルト（3）／第11回：フランス革命とオペラ／第12回：ロッシーニ／第13回：ベッリーニとドニゼッティ／第14回：グランド・オペラ／第15回：ドイツ・ロマン主義オペラ

<後期>

第16回：ヴェルディ（1）／第17回：ヴェルディ（2）／第18回：ヴェルディ（3）／第19回：ワーグナー（1）／第20回：ワーグナー（2）／第21回：ワーグナー（3）／第22回：19世紀フランスの叙情的オペラ／第23回：19世紀ロシアの叙事的オペラ／第24回：オペラにおける民族主義／第25回：ワグネリズムと象徴主義／第26回：ヴェリズモとブッチェーニ／第27回：R. シュトラウス／第28回：無調・表現主義オペラ／オペラの黄昏／第29回：新古典主義の時代／第30回：現代オペラの諸相？オペラの終焉？／学年末試験

■教材・参考書

授業内容を補完する参考書として、以下の図書を推薦する。

岡田暁生『オペラの運命—19世紀を魅了した「一夜の夢」』（中公新書）

ジル・ド・ヴァン『イタリアオペラ』森立子訳（文庫クセジュ）

スタンリー・セイディ『＜普及版＞新グローヴ オペラ事典』（白水社）

オペラ対訳ライブラリー（音楽之友社）

■成績評価の方法

後期学年末試験と平常点（出席）から評価する。

■履修上の指示事項

講義で取り上げる作曲家の代表的な作品について、あらすじや内容を予習しておくとうい。

■備考（オフィスアワー）

水曜日4限（楽理科教員室）

音楽学関係科目 1

代表教員：山田 高誌

曜日時限：

学 期：集中講義

単 位 数：2

ジャンル：専門基礎科目（音楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

集中講義

【社会の鏡としての古典オペラ：台本、楽譜、興業史料より】

西洋社会において作られてきた「オペラ」はなんと10万作近くにも上る。この数から、このジャンルが個人的な芸術活動とは異なり、メディア、あるいは社会における公器として国家に「君臨」していたかが示されよう。

本授業では、断片的に残されたオペラ関連史料が、当時の社会の三次元的な解明にとっていかに大きな手がかりと成り得るか、17-19世紀初頭までのイタリア語オペラを素材に、その歴史、社会的役割、音楽、台本、興業のシステム等、様々な観点、史料から概観し、そこにみられる「型」と変容、さらには背景にある社会の変化、また地域間、階級間の温度差を浮かび上がらせる。

■授業計画及び内容

1. ガイダンス
2. オペラの発祥と興業としての劇場： 17世紀ヴェネツィア
3. オペラ劇場と興業史料： 歌手、作曲家、興業師、バックステージ、衣装
4. 台本と歌詞の分析の基礎： 韻律とメロディー生成
5. 楽譜： 自筆譜、筆写譜、クリティカルエディション、紙（透かし、綴じ紙）
6. ナポリへのオペラの導入と発展
7. オペラ・セリア： 型と役割
8. オペラ・セリア： 地域差、個人差 ～ ハッセ、ヨンメッリ、ピッチェニ、グルック等を例に
9. 喜劇オペラ： 誕生と発展： 定型人物、様式
10. 喜劇オペラ： 女の歌、男の歌
11. ゴルドーニとメタ・テアトロ： さまざまなヴァリエーション

12. 異国物オペラ： 啓蒙思想、アメリカ独立戦争、英蘭海戦等の表象として

13. ウィーンのオペラ改革と、イタリアにおけるオペラの変容、社会の変容

上記を主な概要・キーワードとして順不同で扱い、CD、DVDによる作品鑑賞の機会も適宜設ける。

■教材・参考書

教材は、適宜印刷物を配布する。

以下の参考書を各自通読しておくことが望ましい。

戸口幸策『オペラの誕生』平凡社、2006

水谷彰良『イタリア・オペラ史』音楽之友社、2006

水谷彰良『消えたオペラ譜』音楽之友社、2003

■成績評価の方法

出席（30%）、レポート（50%）、および授業参加態度（20%）から総合的に判断する。

■履修上の指示事項

イタリア語の初歩を履修していることが望ましい。

■備考（オフィスアワー）

音楽学関係科目 2

代表教員：谷 正人

曜日時限：

学 期：集中講義

単 位 数：2

ジャンル：専門基礎科目（音楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

【音楽民族学講義】

音楽研究のための問題設定とその方法論：

「音楽を研究すること」には、一体どのような着眼点や問題意識の設定があるでしょうか。本講義ではその一例として、担当講師が研究対象として関わってきたイランの音楽を採りあげ、そこにこれまでどのような問題意識を設定していったのか、そしていかなる研究方法を採ったのか（そのために何が必要だったのか）、そしてそれをどのように研究成果としてアウトプットしていったのか、などについて講義を行なってゆきます。受講生はイラン音楽に興味がある必要は必ずしもなく、むしろ各自が持っている興味の対象を、いかに「研究」レベルに昇華させてゆくかを考えてゆくきっかけとして本講義を捉え、積極的に発言するなどして活用してもらいたいと思います。

■授業計画及び内容

【授業概要】

1. 講義のオリエンテーション：イスラームの音文化—宗教と音楽の関係、音楽家の社会的立場など。
2. 民族音楽学の成立史とその考え方：文化人類学の理論—文化相対主義・オリエンタリズムなど
3. フィールドワークの重要性とその方法をめぐる諸問題
4. 先行研究を知る必要性—いかに自分の立脚点を引き出すのか
5. 研究例：言葉と音楽の関係—イラン音楽のリズムとペルシア古典詩の韻律
6. （承前）理論編：音楽が「書かれる」とそれを「読む」ことの意味
7. 研究例：「微分音」と「終止感」
8. （承前）理論編：異文化理解における「わかる」「わからない」の意味

9. 研究例：イラン音楽の学習プロセス
10. （承前）理論編：近代教育と徒弟制的学びのありかた
11. 研究例：西洋音楽の流入とイラン音楽の近代化—音楽文化の「接触」と「変容」
12. （承前）理論編：「声の文化」的精神と「文字の文化」的精神
13. 研究例：イラン音楽の「即興」概念の研究
14. （承前）理論編：「作者」「作品」概念をめぐる様々な議論
15. 口頭発表および研究成果のアウトプットについて：「文化を書く」とはどういうことか

■教材・参考書

『イラン音楽—声の文化と即興』 谷正人著 青土社 2007年
ISBN-10: 4791763548

■成績評価の方法

レポート（50%）と出席状況・受講姿勢・口頭発表内容（50%）との総合評価を行ないます。前述のエッセイの内容は成績評価に関係しませんが、レポートの評価に際しては、どの程度本講義で取り扱った問題意識をつかみ出し論述することができているかということを基準とします。

■履修上の指示事項

上記シラバスに沿った講義を、必要に応じて参考資料などを配布・視聴覚機器も活用しながら行います。と同時に本講義は「授業のテーマ」で述べたように「演習」的側面をも強く持っているため、積極的な発言・討論への参加をも強く促します。必要に応じて参考文献の講読を行う場合もあります。また出欠を兼ねて講義内容のテーマに沿ったエッセイを綴ってもらいます。

■備考（オフィスアワー）

音楽分析

代表教員：鈴木 純明

曜日時限：金曜 5 限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門基礎科目（音楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

西洋音楽の形式と様式の概説、および楽曲分析。

■授業計画及び内容

西洋音楽史の流れに沿ってパール形式、変奏曲形式、リート形式、リトルネッロ形式、ソナタ形式、ロンド形式等について学ぶとともに、西洋音楽の諸様式を理解していく。対位法や和声法などの音楽理論、または作曲技法を参照しながら、バロック時代から 20 世紀前半までのさまざまな作品を分析し、西洋音楽の構造について考察したい。今年度は、以下の作品を分析する予定。

[前期]

J. S. バッハ オルガン小曲集 BWV599-644
フローベルガー パルティータ第 2 番ニ短調 FbWV
602

ヴィヴァルディ ヴァイオリン協奏曲ホ長調 春《和
声と創意の試み》より Op. 8-1

J. S. バッハ パッサカリア ハ短調 BWV. 582
C. P. E. バッハ 《識者と愛好家のためのクラヴィー
ア曲集》第 1 巻?ソナタ第 6 番

ベートーヴェン ピアノ・ソナタ 8 番 ハ短調《悲愴》
Op. 13

ベートーヴェン ピアノ・ソナタ 2 1 番 ハ長調《ヴ
ァルトシュタイン》Op. 53

[後期]

ベートーヴェン ピアノ・ソナタ 3 2 番 ハ短調
Op. 111

ベートーヴェン 交響曲第 5 番 ハ短調《運命》Op. 67
～第 2 楽章

シューベルト 交響曲第 7 番 ロ短調《未完成》
D. 759

フランク ヴァイオリン・ソナタ イ長調

ドビュッシー ヴァイオリン・ソナタ ト短調

ベルク 《弦楽四重奏のための抒情組曲》?第
1 楽章、第 2 楽章

■教材・参考書

授業内で適宜、指示する。

■成績評価の方法

学期末試験、および平常点（出席回数と授業態度）。

■履修上の指示事項

指揮・楽理科以外の学生は、「和声中級」の単位を取
得した者に限る。

■備考（オフィスアワー）

音楽リサーチ法 I

代表教員：関根 和江
曜日時限：水曜 4 限
学 期：前期
単 位 数：2
ジャンル：専門基礎科目（音楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

音楽資料探索

■授業計画及び内容

音楽研究にとって、資料との出会いは欠くことのできない出発点であるといえる。資料を効率よく探し当て、資料への道を開くことができるか否かが、その後の研究の発展を左右するといっても過言ではない。広く、音楽資料との出会いを図る。

実際のケーススタディを多用しながら、実践的に音楽資料検索方法を指導する。実際に資料のリサーチをしながら、資料検索の方向付けを行うため、授業は教室での講義にとどまらず、附属図書館、音楽研究センター等に出向く場合もある。

前期（音楽リサーチ法 I）は基礎編として主に講義による資料紹介を行い、後期（音楽リサーチ法 II）は応用編として実践的に資料の使い方を学ぶ。

大学院生対象の授業であるので、音楽事典の使い方等、初歩的文献探索方法をはじめ、レポート・修士論文作成を視野に入れた指導を行う。

■教材・参考書

授業の都度プリントを配布する。

■成績評価の方法

出席、平常点、レポート。特に出席を重視する。

■履修上の指示事項

前期・後期と併せて履修することが望ましい。
学部生の履修は、原則として5限の「音楽リサーチ法」を推奨する。

■備考（オフィスアワー）

木曜 10:00～12:00

音楽リサーチ法 I

代表教員：関根 和江
曜日時限：水曜 5 限
学 期：前期
単 位 数：2
ジャンル：専門基礎科目（音楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

音楽資料探索

■授業計画及び内容

音楽研究にとって、資料との出会いは欠くことのできない出発点であるといえる。資料を効率よく探し当て、資料への道を開くことができるか否かが、その後の研究の発展を左右するといっても過言ではない。広く、音楽資料との出会いを図る。

実際のケーススタディを多用しながら、実践的に音楽資料検索方法を指導する。実際に資料のリサーチをしながら、資料検索の方向付けを行うため、授業は教室での講義にとどまらず、附属図書館、音楽研究センター等に出向く場合もある。

前期（音楽リサーチ法 I）は基礎編として主に講義による資料紹介を行い、後期（音楽リサーチ法 II）は応用編として実践的に資料の使い方を学ぶ。

学部生対象の授業であるので、音楽事典の使い方等、初歩的文献探索方法から指導する。

■教材・参考書

授業の都度プリントを配布する。

■成績評価の方法

出席、平常点、レポート。特に出席を重視する。

■履修上の指示事項

前期・後期と併せて履修することが望ましい。

■備考（オフィスアワー）

木曜 10:30～12:00

音楽リサーチ法Ⅱ

代表教員：関根 和江
曜日時限：水曜 4 限
学 期：後期
単 位 数：2
ジャンル：専門基礎科目（音楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

音楽資料探索

■授業計画及び内容

音楽研究にとって、資料との出会いは欠くことのできない出発点であるといえる。資料を効率よく探し当て、資料への道を開くことができるか否かが、その後の研究の発展を左右するといっても過言ではない。広く、音楽資料との出会いを図る。

実際のケーススタディを多用しながら、実践的に音楽資料検索方法を指導する。実際に資料のリサーチをしながら、資料検索の方向付けを行うため、授業は教室での講義にとどまらず、附属図書館、音楽研究センター等に出向く場合もある。

前期（音楽リサーチ法Ⅰ）は基礎編として主に講義による資料紹介を行い、後期（音楽リサーチ法Ⅱ）は応用編として実践的に資料の使い方を学ぶ。

大学院生対象の授業であるので、音楽事典の使い方等、初歩的文献探索方法をはじめ、レポート・修士論文作成を視野に入れた指導を行う。

■教材・参考書

授業の都度プリントを配布する。

■成績評価の方法

出席、平常点、レポート。特に出席を重視する。

■履修上の指示事項

前期・後期と併せて履修することが望ましい。

■備考（オフィスアワー）

木曜 10:30～12:00

音楽リサーチ法Ⅱ

代表教員：関根 和江
曜日時限：水曜 5 限
学 期：後期
単 位 数：2
ジャンル：専門基礎科目（音楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

音楽資料探索

■授業計画及び内容

音楽研究にとって、資料との出会いは欠くことのできない出発点であるといえる。資料を効率よく探し当て、資料への道を開くことができるか否かが、その後の研究の発展を左右するといっても過言ではない。広く、音楽資料との出会いを図る。

実際のケーススタディを多用しながら、実践的に音楽資料検索方法を指導する。実際に資料のリサーチをしながら、資料検索の方向付けを行うため、授業は教室での講義にとどまらず、附属図書館、音楽研究センター等に出向く場合もある。

前期（音楽リサーチ法Ⅰ）は基礎編として主に講義による資料紹介を行い、後期（音楽リサーチ法Ⅱ）は応用編として実践的に資料の使い方を学ぶ。

学部生対象の授業であるので、音楽事典の使い方等、初歩的文献探索方法から指導する。

■教材・参考書

授業の都度プリントを配布する。

■成績評価の方法

出席、平常点、レポート。特に出席を重視する。

■履修上の指示事項

前期・後期と併せて履修することが望ましい。

■備考（オフィスアワー）

木曜 10:30～12:00

合奏Ⅲ－１

代表教員：江口 玲
曜日時限：その他
学 期：前期
単 位 数：2
ジャンル：専門基礎科目（音楽）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

ピアノと他楽器（ヴァイオリンもしくはチェロ）による室内楽実習

■授業計画及び内容

個人レッスンスタイルをとって弦楽器担当の講師と合奏する。

曲目例 ブラームス ヴァイオリンソナタ
チェロソナタ
ベートーヴェン ヴァイオリンソナタ
チェロソナタ
など

■教材・参考書

楽譜

■成績評価の方法

平常点と最終講義時の演奏による。

■履修上の指示事項

原則ピアノ科学生のみを対象とする。合奏Ⅱの単位を取得している学部３年生以上が履修可能。弦楽器担当の講師との合わせ以前に自己のパートを十分に準備すること。

希望者数によっては人数制限もありうる。

■備考（オフィスアワー）

合奏Ⅲ－２

代表教員：江口 玲
曜日時限：その他
学 期：後期
単 位 数：2
ジャンル：専門基礎科目（音楽）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

ピアノと他楽器（ヴァイオリンもしくはチェロ）による室内楽実習

■授業計画及び内容

個人レッスンスタイルをとって弦楽器担当の講師と合奏する。

曲目例 ブラームス ヴァイオリンソナタ
チェロソナタ
ベートーヴェン ヴァイオリンソナタ
チェロソナタ
など

■教材・参考書

楽譜

■成績評価の方法

平常点と最終講義時の演奏による。

■履修上の指示事項

原則ピアノ科学生のみを対象とする。合奏Ⅱの単位を取得している学部３年生以上が履修可能。弦楽器担当の講師との合わせ以前に自己のパートを十分に準備すること。

希望者数によっては人数制限もありうる。

■備考（オフィスアワー）

管楽器オーケストラスタディ

代表教員：岡崎 耕治

曜日時限：木曜 4 限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門基礎科目（音楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

広く芸術の知識を受けるとともに管楽器セクションの分奏を通じてオーケストラ奏法の指導を目的とする。

■授業計画及び内容

週一回の管楽器セクションの分奏により、オーケストラレパートリーの研究を行う。

曲によって編成が異なるが、時代別にさまざまな作曲家の作品を取りあげより多くの課題をこなしたい。

■教材・参考書

担当教員の指示

■成績評価の方法

授業態度および合奏能力、出席状況による。

■履修上の指示事項

いろいろな時代、作曲家の違いによる音符、記号の見方、扱い方等を通じて表現方法及び、慣例を会得すること。

■備考（オフィスアワー）

管弦楽概論

代表教員：鈴木 純明

曜日時限：火曜 5 限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門基礎科目（音楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

管弦楽作品の分析、オーケストレーションの基礎実習。

■授業計画及び内容

先ず初めに、バロック時代から近代までのオーケストラの楽器編成と楽器配置の移りかわり、各パートの役割等を解説していく。次に、可能な限り受講生の試奏を交えながら、弦楽器、管打楽器の機能、奏法や音色を紹介する。管弦楽の書法を分析するために、ベートーヴェンの《運命》とムソルグスキー＝ラヴェルの《展覧会の絵》の総譜を通年で使用する。これらの作品に加えて、ハイドンからリゲティにいたるさまざまな管弦楽作品を取り上げて、各時代における管弦楽法の様式や響きの特徴を理解していく。実習では、前期は管弦楽作品のピアノ・リダクション、後期はピアノ小品のオーケストラ編曲を行う。これらの学習を通じて、管弦楽の基礎知識とオーケストラ・スコアの読譜力を身につける。

■教材・参考書

[教材] ベートーヴェン 交響曲第 5 番ハ短調 Op. 67 《運命》（音楽之友社）、

ムソルグスキー（ラヴェル編曲）組曲《展覧会の絵》（オイレンブルク・スコア＝全音楽譜出版社）

[参考書] 『管弦楽技法』（音楽之友社）ゴードン・ヤコブ 著 宗像敬 訳、『管弦楽法』伊福部昭 著（音楽之友社）、『管弦楽法』ウォルター・ピストン 著 戸田邦雄 訳（音楽之友社）、『オーケストラ』アラン・ルヴィエ 著 山本省、小松敬明 訳（白水社）

■成績評価の方法

学期末試験、および平常点（出席回数と授業態度）。

■履修上の指示事項

指揮・楽理科以外の学生は、「和声初級」の単位を取得した者に限る。

■備考（オフィスアワー）

古典舞踏

代表教員：市瀬 陽子

曜日時限：

学 期：集中講義

単 位 数：2

ジャンル：専門基礎科目（音楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

古楽のアプローチに関心のある学生を対象とする（専攻は問わない）。そのため、ピアノ科必修科目として履修する場合は「古典舞踏Ⅰ」（前期）の選択が望ましい。

15世紀から19世紀までの主要な舞曲について、一次史料をもとにその変遷を概観する。音楽の専門教育において「古楽」のアプローチを知ることは既に常識となりつつある。その基本姿勢を広く共有するための集中講義である。

■授業計画及び内容

第1日

1. 身体を知る：姿勢、立ち方、歩き方
リズムとフレーズ
演奏におけるコミュニケーション
2. 様々な文献・資料：研究と実践の関係
3. 15～16世紀：イタリア、ブルゴーニュ、フランスの舞曲
4. 17～18世紀：フランスのダンス様式とその広がり
5. 19世紀の資料によるワルツ、カドリユー
6. 古楽演奏と演劇、オペラ、バレエ
7. 西洋の音楽と舞踏：日本における導入および教育の諸相

第2日

初日の内容をもとに、履修者の関心に応じてテーマを絞り、アンサンブルを組んで（あるいは個人的なテーマに従って）、アプローチを進めていく

第3日

前日からのアプローチを継続し、各々のテーマに即して最終発表を行う。

発表内容について相互に自由に意見を述べ、コミュニケーションを取り合って、新たな課題を発見する。史資料の扱いに慣れ、自ら問いを発し、厭わず研究

し、発信し、コミュニケーションを取り合う精神を
培いたい。

■教材・参考書

授業内でその都度指示する。

舞曲については『ニューグローヴ世界音楽事典』等
あらかじめ参照しておくことが望ましい。

■成績評価の方法

授業に出席の上、必ず発表（履修者各々の立場で、
器楽・声楽・ダンス・研究および企画マネジメント
など、自由に選択できる）を行い、発表後の意見交
換を経てレポートを作成、提出する。

■履修上の指示事項

古楽のアプローチに関心のある学生を対象とする
（専攻は問わない）。

ダンス実技に対応できる服装および靴を用意する。
不適切な服装での受講は認められないので注意する
こと。

■備考（オフィスアワー）

古楽研究室

[メールアドレスはG-net シラバスに記載]

古典舞踏 I

代表教員：市瀬 陽子

曜日時限：木曜 2限

学 期：前期

単 位 数：2

ジャンル：専門基礎科目（音楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

16世紀から19世紀の舞曲について、以下の観点から
取り組む。

1) 背景となる歴史を概観し、文化的・社会的な意
味を理解する。

2) 実際にダンスを体験することによって、様々な
舞曲のリズムやテンポ、キャラクターを体感し、演
奏表現との関連を見いだしていく。

3) 演奏表現、ステージマナー、あるいは舞台演技
など、「身体」による表現に関わる問題を論理的に考
える。

■授業計画及び内容

各回、以下のテーマに沿って展開する。

1. 身体を知る ～姿勢、立ち方、歩き方、演奏・演
技との関連から
2. ルネサンス期の音楽とダンス ～ブランル
3. ～パヴァ
ーヌ、ガイヤルド
4. イギリスのカントリーダンス
5. モーツァルト時代のコントルダンス
6. バロック期の音楽とダンス ～ダンスの基礎と舞
踏記譜法について
7. 18世紀の舞曲 I メヌエット
8. II その他の3拍子系舞曲
9. 18世紀の舞曲 III ガヴォット
10. IV その他の2拍子系舞曲
11. 19世紀の舞曲 I ドイツ舞曲とワルツ
12. 19世紀の舞曲 II ポルカ、マズルカ
13. ～14. 振付作品に取り組む（18世紀の舞踏譜を
読む）
15. 半期のまとめ

■教材・参考書

授業内でその都度指示する。

図書館で見ることのできる原典史料：

“Orchesographie”, 1588/89, T. Arbeau

“Choregraphie”, 1700, R.-A. Feuillet
“Le Maitre a Danser”, 1725, P. Rameau

■成績評価の方法

授業に出席の上、学期末に課すレポートを必ず提出しなければならない。

■履修上の指示事項

ダンス実技に対応できる服装および靴を用意すること。
サンダルやヒールの高い靴, など不適切な服装での受講は、安全管理上の観点からも認められない。

■備考 (オフィスアワー)

古楽研究室
[メールアドレスは G-net シラバスに記載]

古典舞踏Ⅱ

代表教員：市瀬 陽子

曜日時限：木曜 2 限

学 期：後期

単 位 数：2

ジャンル：専門基礎科目 (音楽)

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

舞曲の演奏において重要になる拍やテンポの問題、フレーズの表現、演奏におけるコミュニケーションの大切さなどについて、舞曲の実習を通して考えていく。

J.-F. Rebel による “Les Caracteres de la danse” を題材に、18 世紀の代表的な舞曲を順次取り上げる予定。アンサンブル演奏なども随時行い、ダンスと演奏、両面からのアプローチによって、さらに理解を深めていきたい。

■授業計画及び内容

1. 舞踏譜の読み方 ～記号の意味と動きの関係
2. ～ステップと音楽の関係、テンポについて
- 3～14. 18 世紀の振付作品に基づき、舞踏譜に従って、各自選択した課題曲を順次仕上げていく。
途中、随時アンサンブル演奏を取り入れる。
今期取り上げる舞曲は次の通り。
Courante/Menuet/Bourree/Chaconne
Sarabande/Gigue/Rigaudon
Passepied/Gavotte/Loure/Musette
15. 演奏と発表

■教材・参考書

その都度指示する。
舞曲に関しては、『ニューグローヴ世界音楽事典』などを参照して知識を得ておくことが望ましい。

■成績評価の方法

授業に出席の上、発表を行い、さらに発表に関するレポートを提出する。

■履修上の指示事項

ダンス実技に対応できる服装および靴を用意すること。
ヒールの高い靴、ブーツなど、不適切な服装での参

加は認められない。

なお、この科目は「古典舞踏 I」もしくは「古典舞踏（集中講義）」既修者を対象とする。

■備考（オフィスアワー）

古楽研究室

[メールアドレスは G-net シラバスに記載]

作曲家作品研究 A（声楽）

代表教員：沼口 隆

曜日時限：水曜 2 限

学 期：後期

単 位 数：2

ジャンル：専門基礎科目（音楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

ベートーヴェンの歌曲

～《ゲレルトの詩による六つの歌曲》Op. 48 を中心に～

■授業計画及び内容

ゲレルト Christian Furchtegott Gellert (1715～69) の《聖歌と頌歌 Geistliche Oden und Lieder》(1757) は、18 世紀において盛んに作曲をされており、ベートーヴェンの楽曲は、そうした流れの最後に位置しています。本講義では、一方では、C. Ph. E. バッハの作品との比較などを手掛かりにベートーヴェンの楽曲と伝統との関わりに注目し、他方では、この作品の位置づけを考察することを通してベートーヴェンの歌曲創作全体に目を向けていきます。

各回の概要（予定）

第 1 回：導入

第 2 回：ベートーヴェンの歌曲概観（1）《アデライーデ》を中心に

第 3 回：ゲレルトについて、《聖歌と頌歌》への作曲の歴史

第 4 回：第 1 曲＜祈り＞

第 5 回：第 2 曲＜隣人の愛＞

第 6 回：ベートーヴェンの歌曲概観（2）ゲーテの詩による歌曲

第 7 回：第 3 曲＜死について＞

第 8 回：第 4 曲＜自然における神の栄光＞

第 9 回：ベートーヴェンの歌曲概観（3）《遙かなる恋人に》を中心に

第 10 回：第 5 曲＜神の力と摂理＞

第 11 回：第 6 曲＜懺悔の歌＞

第 12 回：ベートーヴェンの宗教観への試論

第 13 回：ベートーヴェンの歌曲と編曲の問題

第 14 回：歌曲史におけるベートーヴェンの位置づけ

第 15 回：まとめ

■教材・参考書

教材： 適宜プリントを配布します。

参考書： 講義中に指示します。

■成績評価の方法

学期末レポート

■履修上の指示事項

特になし

■備考（オフィスアワー）

質問等は、原則として講義後に受け付けます。
連絡先等については、初回の講義でお伝えします。

作曲家作品研究 C（管弦楽）

代表教員：沼口 隆

曜日時限：水曜 2限

学 期：前期

単 位 数：2

ジャンル：専門基礎科目（音楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

ベートーヴェンのピアノ協奏曲第4番 Op. 58、第5番 Op. 73

■授業計画及び内容

ベートーヴェンのピアノ協奏曲第4番および第5番を対象とし、とりわけ独奏ピアノの扱いに着目しながら、楽曲分析を中心として進めてゆきます。それとともに、ベートーヴェンの協奏曲全般や、協奏曲の歴史にも目を向けてゆきます。

各回の概要（予定）

第1回：導入、ベートーヴェン以前の協奏曲

第2回：ベートーヴェンの協奏曲概観

第3回：ピアノ協奏曲第4番、成立と基本資料

第4回：ピアノ協奏曲第4番、第1楽章分析（1）

第5回：ピアノ協奏曲第4番、第1楽章分析（2）

第6回：ピアノ協奏曲第4番、第2楽章分析

第7回：ピアノ協奏曲第4番、第3楽章分析

第8回：ピアノ協奏曲第4番、演奏史と室内楽版

について

第9回：ピアノ協奏曲第5番、成立と基本資料

第10回：ピアノ協奏曲第5番、第1楽章分析（1）

第11回：ピアノ協奏曲第5番、第1楽章分析（2）

第12回：ピアノ協奏曲第5番、第2楽章分析

第13回：ピアノ協奏曲第5番、第3楽章分析

第14回：ピアノ協奏曲第5番、演奏史

第15回：まとめ

■教材・参考書

教材：

ベートーヴェンのピアノ協奏曲第4番 Op. 58 および同第5番 Op. 73 については各自で楽譜を用意して下さい。

そのほか、適宜プリントを配布します。

参考書： 講義中に指示します。

■成績評価の方法

学期末レポート

■履修上の指示事項

「教材」で指示した楽譜は、必ず各自で用意して下さい。

■備考（オフィスアワー）

質問等は、原則として講義後に受け付けます。
連絡先等については、初回の講義でお伝えします。

西洋音楽史

代表教員：福中 冬子

曜日時限：金曜3限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門基礎科目（音楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

西洋音楽史概説

■授業計画及び内容

〔前期〕

1. オリエンテーション、古代ギリシャ、中世の単旋聖歌
2. 中世の単旋律世俗歌曲、初期のポリフォニー音楽
3. ノートルダム楽派とアルス・アンティークワ
4. アルス・ノーヴァ
5. ルネサンス音楽総説とブルゴーニュ楽派
6. フランドル楽派
7. ローマ楽派とヴェネツィア楽派
8. ルネサンスの世俗曲と器楽曲
9. バロック音楽総説とオペラの成立
10. オペラの発展
11. オラトリオと教会音楽
12. バロックの鍵盤楽曲
13. バロックの室内楽曲
14. バロックの管弦楽曲
15. 前期期末試験

〔後期〕

1. 古典派総説とオペラ・セリア
2. 古典派の喜劇オペラ：オペラ・ブッフア、ジングシュピール、オペラ・コミーク
3. 古典派のピアノ音楽
4. 古典派の管弦楽曲
5. 19世紀ロマン主義
6. 19世紀のオペラ
7. 19世紀のピアノ音楽
8. 19世紀の管弦楽曲
9. 世紀末の音楽
10. 20世紀の音楽総説
12. 表現主義と十二音音楽
13. 新古典主義
14. 1950年以降の音楽

15. 後期期末試験

注) 上記はあくまで予定であり、変更する可能性もある。

■教材・参考書

講義内では使用しないが、U. ミヒェルス編『カラー図解音楽事典』(白水社)およびグラウト著『新西洋音楽史』(1998-2001)を参考書として指定するので、各自購入するなり、該当箇所をコピーするなりして用意すること。

■成績評価の方法

各学期末に実施する試験によって評価する。また後期には不定期に課すレポート(1?2枚程度)も評価の対象とする(これに関しては後期初回の講義で詳しく説明するので、必ず出席すること)。

■履修上の指示事項

講義中に私語をした者は即退室を命じる。減点や失格の対象とする場合もあるので十分注意すること。メールの送受信やインターネット使用等、授業中の携帯電話の使用は、即退室、評価は「不可」。なお如何なる理由があれど(レッスン等を含む)、途中入退室は認めない。

■備考(オフィスアワー)

毎回の授業終了後、または予約による。

前期・後期と担当教員が異なるので、注意すること。

即興創造講座

代表教員：平野 公崇

曜日時限：木曜5限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門基礎科目(音楽)

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

即興演奏の習得とそれに付随する室内楽力、アナリーゼカ、ソルフエージュカ、創造力等の向上を目指します。

■授業計画及び内容

授業は即興演奏の実演を基本に進めますが、瞬間の作曲と言われる即興演奏を習得するためには楽器の演奏能力以外にも、室内楽力、アナリーゼカ、ソルフエージュカ、創造力、美意識等、多くの知識や能力、感性も求められます。それらを適宜参考資料やエクササイズを通して身に付けながら即興演奏の実現を目指します。

また、年間で数回のコンサートを異ジャンルとのコラボレーションを視野に入れながら行う予定です。皆さんと新しい「何か」に出会えることを楽しみにしています。

■教材・参考書

特に準備はしなくて結構です。

■成績評価の方法

平常点とコンサート(試験の代わり)によって決めます。

■履修上の指示事項

まずは基本的に全員が初心者であることを前提に進めますので、経験の有無は心配せずに。但し、音楽、芸術、文化等に対し強く興味を持っていること。

■備考(オフィスアワー)

質問や相談が有れば直接授業に来て下さい。

対位法

代表教員：鈴木 純明
曜日時限：火曜3限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門基礎科目（音楽）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

対位法的楽曲の分析と厳格対位法の実習。

■授業計画及び内容

中世・ルネサンス時代からバロック時代までの対位法的楽曲を紹介しながら、多声音楽の歴史の変遷、及び各時代におけるポリフォニーの書法を解説する。楽曲分析では、J. S. バッハの《平均律クラヴィーア曲集》第1巻を取り上げる。実習では、対位法における諸規則を解説し、前期は、第1類（全音符）から第3類（四分音符）、後期は第4類（移勢）から第5類（華麗）までの二声対位法を学び、初歩的な対位法の技術を修得する。

■教材・参考書

[教材] 『パリ音楽院の方式による 厳格対位法』 山口博史 著（音楽之友社）
[参考書] 『対位法とフーガ講座』 ルイージ・ケルビニ 著 小鍛冶邦隆 訳（アルテスパブリッシング）、『対位法』ノエル＝ギャロン、マルセル・ビッチュ 共著 矢代秋雄 訳（音楽之友社）

■成績評価の方法

学期末試験、および平常点（出席回数と授業態度）。

■履修上の指示事項

指揮・楽理科以外の学生は、「和声初級」の単位を取得した者に限る。

■備考（オフィスアワー）

日本・東洋音楽史

代表教員：塚原 康子
曜日時限：月曜3限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門基礎科目（音楽）
開設区分：音楽併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

日本音楽およびアジア音楽の歴史と現状

■授業計画及び内容

（前期）

日本における音楽文化の展開を通史的に概観し、現代日本の多様な音楽文化にいたる道筋をたどる。あわせて、現存する主要な日本音楽種目の現状とその音楽的特質を把握する。各人が、日本という地域で培われてきた音楽文化との接点を見出し、意識化することを目標とする。

（後期）

アジア諸民族の音楽文化について、その歴史と現状を概観する。それぞれの音楽文化の特質を、その様式、社会的機能、成立と発展、相互の交流、伝統と近代化といった論題に沿って説明する。実演および視聴覚資料等を通じて、アジア音楽の多様性を体験的に理解することを目標とする。

■教材・参考書

（前期）月溪恒子『日本音楽との出会い—日本音楽の歴史と理論—』東京堂出版、2010年。
（後期）特に指定しない（参考書を授業時に紹介する）

■成績評価の方法

前期末および後期末に行う試験の得点を合算し、出席状況を加味して評価する。前期末の試験は日本音楽史に関する知識と理解を、後期末の試験はアジア諸民族の音楽と楽器に関する知識と理解を問うものとする。

■履修上の指示事項

出席を非常に重視する。前期・後期とも、出席回数が50%に満たない場合はその期の試験を受けることができない。

■備考（オフィスアワー）

(塚原) 火曜日 9:30~10:20。

(植村) 随時応じる。ただし原則として予約制とする。

[メールアドレスはG-net シラバスに記載]

邦楽概論 A（雅楽）

代表教員：近藤 静乃

曜日時限：木曜 3限

学 期：前期

単 位 数：2

ジャンル：専門基礎科目（音楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

雅楽概説

■授業計画及び内容

雅楽は、日本列島古来の歌舞や大陸から伝来した楽舞を源流として、1300年にわたって伝えられてきた我が国の誇るべき芸術であり、2009年にはユネスコの無形文化遺産にも登録されている。

本講義では、現在の雅楽伝承を主軸として、できるだけ多くの視聴覚資料を取り入れながら、雅楽の歴史、演奏の場、管絃・舞楽などの種別、楽器や記譜法の特徴など、様々な視点から概観する。そして、本校の前身である音楽取調掛や東京音楽学校においても、雅楽を伝承する伶人が主導的立場にあったことをふまえつつ、近代雅楽調査の足跡を辿る。また、雅楽器を用いた現代音楽の秀作（武満徹〈秋庭歌一具〉など）も取り上げることにしたい。

■教材・参考書

教科書：遠藤徹構成『別冊太陽 雅楽』平凡社。

参考書：遠藤徹『雅楽を知る事典』東京堂出版。

芝祐靖監修『図説 雅楽入門事典』柏書房ほか。

■成績評価の方法

平常点（ショートコメントの提出等）および期末試験により、総合的に評価する。

■履修上の指示事項**■備考（オフィスアワー）**

邦楽概論 C (能楽)

代表教員：三浦 裕子

曜日時限：水曜 4 限

学 期：前期

単 位 数：2

ジャンル：専門基礎科目（音楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

公演を紹介するつもりである。

■備考（オフィスアワー）

■授業のテーマ

能楽（能・狂言）は、室町時代に基礎を固めた古典芸能・伝統芸能であり、音楽・舞踊・演劇・文学・美術などの諸要素が不可分に融合した総合芸術とも言える。

本講義では能・狂言の作品を概観したうえで、特に音楽性に注目しつつ、その本質を理解することに務める。最終的には日本の音楽史・芸能史における能・狂言の役割・意味を考えたい。

■授業計画及び内容

能・狂言の諸作品の理解を深める。さらに、舞踊・演劇・文学・美術などの諸要素を概観し、続いて以下にあげるような音楽的特徴に関して考察する。講義では視聴覚資料を多用するが、楽器・面・扇などの道具類に関しては、なるべく実際のものに触れる機会を設ける予定である。

①能の謡 ②能の囃子 ③謡と囃子の関連 ④能面・狂言面・能装束・狂言装束 ⑤狂言の音楽性 ⑥日本の音楽史・芸能史における能・狂言の役割・意味

■教材・参考書

三浦裕子著『能・狂言』（シリーズ「学校で教えない教科書」、日本文芸社、1400円〈税抜き価格〉）

その他、必要に応じて適宜、プリントを配布する。

■成績評価の方法

平常点（出席および講義時の集中度）50%。

期末試験 50%。

■履修上の指示事項

時間厳守。私語厳禁。

講義時における質問・討論などは大歓迎。

なるべく能・狂言を実際に鑑賞する機会を得るよう努力してほしい。講義時に鑑賞に適当な能・狂言の

邦楽概論D（三曲）

代表教員：野川 美穂子

曜日時限：木曜4限

学 期：後期

単 位 数：2

ジャンル：専門基礎科目（音楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

三曲の歴史と魅力を探る

■授業計画及び内容

地歌、箏曲、胡弓楽、尺八楽は、総称して「三曲」と呼ばれ、歴史的にも音楽的にも深く結びついている。これらの種目には共通するレパートリーがあり、三味線と箏に、胡弓か尺八を加えた三種類の楽器編成による合奏を行ってきた。この授業では、地歌、箏曲、胡弓楽、尺八楽の歴史、それらの種目が合奏を通して関連を強めてきた経緯を概観するとともに、古典から現代曲にいたる三曲の音楽的魅力を探る。

■教材・参考書

授業時に指示する

■成績評価の方法

出席状況とレポート

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

外国語科目

伊語（初級）A

代表教員：野里 紳一郎・岡田 由美子
曜日時限：水曜2限・金曜2限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：外国語科目（音楽）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

イタリア語基礎文法の理解

■授業計画及び内容

1年間をかけてイタリア語の基礎文法を理解する。
（前期）
発音とつづりに始まり、動詞の過去時制までを学ぶ。
（後期）
動詞の様々な時制・法を学ぶとともに、比較表現や関係詞を用いた表現を学ぶ。
（なお授業は上記2名の教官がリレー式で行う。）

■教材・参考書

らくらくマスターイタリア語（白崎容子著）郁文堂
参考書は授業で紹介

■成績評価の方法

期末試験の結果に出席および平常点を加味して行う。

■履修上の指示事項

語学の授業は、とりわけ新しい外国語を初めて学ぶ場合には、欠かさず授業に出席することが必須である。また十分に時間をかけた予習・復習が望まれる。

■備考（オフィスアワー）

伊語（初級）B

代表教員：野里 紳一郎・岡田 由美子
曜日時限：水曜3限・金曜3限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：外国語科目（音楽）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

イタリア語初級文法の理解

■授業計画及び内容

1年間をかけてイタリア語の基礎文法を理解する。
（前期）
発音とつづりに始まり、動詞の過去時制までを学ぶ。
（後期）
動詞の様々な時制・法を学ぶとともに、比較表現や関係詞を用いた表現を学ぶ。
（なお授業は上記2名の教官がリレー式で行う。）

■教材・参考書

らくらくマスターイタリア語（白崎容子著）郁文堂
参考書は授業で紹介

■成績評価の方法

期末試験の結果に出席および平常点を加味して行う。

■履修上の指示事項

語学の授業は、とりわけ新しい外国語を初めて学ぶ場合には、欠かさず授業に出席することが必須である。また十分に時間をかけた予習・復習が望まれる。

■備考（オフィスアワー）

伊語（中級）A

代表教員：ジェレヴィーニ アレッサンドロ
曜日時限：金曜3限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：外国語科目（音楽）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

初級と復習と、さらなるグレードアップ。現実に用いられているイタリア語の文例に数多く接し、生きた言葉の感覚を身につけます。

■授業計画及び内容

指定テキストに沿って初級文法から、ある程度高度な文法知識まで説明していきます。イタリア語の発音練習や、文法事項を実際に応用したさまざまな表現の練習を繰り返すことで、会話や聞き取り能力の向上を図ります。規則動詞と不規則動詞の直説法現在形及び近過去を既に身につけている学生を対象とします。

■教材・参考書

教科書：
Mazzetti, Falcinelli, Servadio 著, 『Qui Italia, 1 Lingua e grammatica (Nuova Edizione)』, Le Monnier 出版社, 2002. (ISBN: 88-00-85356-0)

参考書：
Takeshi Tojo, Rie Inouchi 『Qui Italia. Note di grammatica italiana per studenti giapponesi (文法ハ

■成績評価の方法

年2回の期末テストのほか、出席回数、積極的な授業参加などを考慮して採点します。

■履修上の指示事項

対象：声楽・楽理科

■備考（オフィスアワー）

学生と相談の上、決める。

伊語（中級）B

代表教員：畑 瞬一郎
曜日時限：火曜4限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：外国語科目（音楽）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

イタリア語文法の理解、および、運用能力の向上

■授業計画及び内容

イタリア語文法の理解を深めると同時に、長文読解力を養い、イタリア語の全般的な運用能力の向上を目指す。

■教材・参考書

前期：初級で用いたテキストを継続する。『らくらくマスターイタリア語（白崎容子著）』（郁文堂）
後期：適宜プリントを配布する。

■成績評価の方法

学期末試験および平常点から総合的に判断する。

■履修上の指示事項

基本的に公欠以外の欠席は認めない。

■備考（オフィスアワー）

火曜日 13:30~14:00
（メール等による事前予約が望ましい[メールアドレスはG-net シラバスに記載]）

伊語（中級）C

代表教員：上西 明子

曜日時限：金曜 4 限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：外国語科目（音楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

- ・イタリア語基礎文法の理解と習得
- ・「読む・書く・話す・聞く」の総合力を養う

■授業計画及び内容

前期は unita' '12 から unita' '13（受動態、関係代名詞、条件法、ジェルンディオ）まで、後期は unita' '14 から unita' '16（接続法、直接法遠過去）までを学習する。初回はすでに学習した文法事項のおさらいをする。

授業は指定のテキスト及び配布プリントに沿って進める。

■教材・参考書

白崎容子『らくらくマスター イタリア語<教科用>』、郁文堂（2000 円＋税）

■成績評価の方法

小テスト、授業貢献度、前期・後期の筆記試験の結果を総合的に評価する。

■履修上の指示事項

原則として、授業日数の三分の二以上の出席を要する。

授業への積極的な参加を期待します。

■備考（オフィスアワー）

金曜 4 限後

伊語演習 A

代表教員：畑 瞬一郎

曜日時限：火曜 5 限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：外国語科目（音楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

- ・多様なイタリア語の文章を読み解く能力を身につける

■授業計画及び内容

- ・イタリア語のテキストを読解し、理解するためのトレーニングを行う
- ・テキストの和訳（翻訳）を基本的な課題とする
- ・受講生の状況をみながら、散文に加えて、適宜、韻文のテキストも利用する

■教材・参考書

教材：適宜、コピー等で配布する。

参考書：特になし。

■成績評価の方法

出席や授業参加への意欲、期末試験の成績から総合的に評価する。

■履修上の指示事項

学生の自主性を重視する。

■備考（オフィスアワー）

火曜日 13:30~14:00

（メール等による事前予約が望ましい）

[メールアドレスは G-net シラバスに記載]

伊語演習 B

代表教員：ジェレヴィーニ アレッサンドロ
曜日時限：月曜 4 限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：外国語科目（音楽）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

文法の中でも特に難しい点を集中的に勉強します。微妙な感情表現や意思伝達の方法を理解し、自分を表現する能力を身につけることが出来るよう練習します。

■授業計画及び内容

指定テキストに沿って中級文法から、ある程度高度な文法知識まで説明していきます。イタリア語の発音練習や、文法事項を実際に応用したさまざまな表現の練習を繰り返すことで、会話や聞き取り能力の向上を図ります。規則動詞、不規則動詞、再帰動詞の直説法現在形、近過去、半過去、未来形を既に身につけている学生を対象とします。

■教材・参考書

教科書：
Mazzetti, Falcinelli, Servadio 著、『Qui Italia, 1 Lingua e grammatica (Nuova Edizione)』, Le Monnier 出版社, 2002. (ISBN: 88-00-85356-0)

参考書：
Takeshi Tojo, Rie Inouchi 『Qui Italia. Note di grammatica italiana per studenti giapponesi (文法ハ

■成績評価の方法

年 2 回の期末テストのほか、出席回数、積極的な授業参加などを考慮して採点します。

■履修上の指示事項

対象：声楽科、楽理科学生

■備考（オフィスアワー）

学生と相談の上、決める。

伊語演習 B

代表教員：ジェレヴィーニ アレッサンドロ
曜日時限：月曜 4 限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：外国語科目（音楽）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

文法の中でも特に難しい点を集中的に勉強します。微妙な感情表現や意思伝達の方法を理解し、自分を表現する能力を身につけることが出来るよう練習します。

■授業計画及び内容

指定テキストに沿って中級文法から、ある程度高度な文法知識まで説明していきます。イタリア語の発音練習や、文法事項を実際に応用したさまざまな表現の練習を繰り返すことで、会話や聞き取り能力の向上を図ります。規則動詞、不規則動詞、再帰動詞の直説法現在形、近過去、半過去、未来形を既に身につけている学生を対象とします。

■教材・参考書

すでに学習した文法事項を手がかりに、平易なイタリア語の文章を実践的に読み解く。

■成績評価の方法

前期はイタリアの文化や生活などについての平易な文章を、後期はリブレットなどを含む少し高度なものを、じっくり読み解く。文の構造を把握し、適切な訳語を選ぶことなど、読むための基礎技術を確実に身につけ、あわせてイタリア文化に対する理解を深めてゆく。

■履修上の指示事項

授業でプリントを配布

■備考（オフィスアワー）

小テスト、授業貢献度、前期・後期の筆記試験の結果を総合的に評価する。

伊語演習 C

代表教員：上西 明子
曜日時限：金曜 3 限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：外国語科目（音楽）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

すでに学習した文法事項を手がかりに、平易なイタリア語の文章を実践的に読み解く。

■授業計画及び内容

前期はイタリアの文化や生活などについての平易な文章を、後期はリブレットなどを含む少し高度なものを、じっくり読み解く。文の構造を把握し、適切な訳語を選ぶことなど、読むための基礎技術を確実に身につけ、あわせてイタリア文化に対する理解を深めてゆく。

■教材・参考書

授業でプリントを配布

■成績評価の方法

小テスト、授業貢献度、前期・後期の筆記試験の結果を総合的に評価する。

■履修上の指示事項

原則として、授業日数の三分の二以上の出席を要する。授業への積極的な貢献を期待します。

■備考（オフィスアワー）

金曜日、4 限後

英語 I A

代表教員：木原 翠
曜日時限：火曜 4 限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：外国語科目（音楽）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

文法と読解を中心とした英語の総合的学習

■授業計画及び内容

この授業は、英文読解力の向上を目的とし、リーディングスキルの基礎となる重要な文法事項を確認して更なる定着を図ります。教科書の各課に沿って比較的簡潔で興味深い英文を読みながら、読解力と速読力を強化していきます。また、教科書と併せてプリント教材を配布し、文法力、語彙力の補強を行います。

■教材・参考書

Prism Rose Second Edition — 英文読解への多角的アプローチ [改訂新版]
キジェル・ティモシー/武藤 克彦 著 Macmillan Languagehouse
及びプリント教材を配布

■成績評価の方法

平常点及び試験。前期と後期に学期末試験を行います。

■履修上の指示事項

履修希望者は初回の授業に必ず出席してください。

■備考（オフィスアワー）

質問がある場合は、授業の後に申し出てください。

英語 I B

代表教員：河田 英介
曜日時限：木曜 4 限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：外国語科目（音楽）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

難易度が少々高めの英文を正確に且つスピーディーに読めるようになることがこのクラスの目標でもありテーマでもあります。

■授業計画及び内容

この授業は英語の発信能力ではなく、受容能力を高めることに重点を置きます。

指定されたテキストを細かく、深く、スピーディーに読み解くことが常に求められます。

<前期>

Unit 1 から Unit 6

<後期>

Unit 7 から Unit 12

■教材・参考書

Peaty, David. Confronting the Issues. Tokyo: Kinseido, 2009.

■成績評価の方法

前期・後期試験の素点、授業への貢献度、出席状況、などから総合的に判断いたします。

■履修上の指示事項

履修希望者は初回授業に必ず出席するようにしてください。

履修希望者は初回授業に必ず出席するようにしてください。

4 回欠席してしまった履修者は、例外なく評価の対象とせず「失格」といたします。

■備考（オフィスアワー）

毎授業後に相談に応じます。

英語 I C

代表教員：リチャード ネデルコフ
曜日時限：木曜 3 限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：外国語科目（音楽）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

聴覚／口述能力の向上と自信をつける

Jazz Up Your English with Idiomatic Expressions

■授業計画及び内容

<授業内容>

ネイティブ発想による英文作成、受身でない積極的な会話、英語特有のリズムと感覚を身につけながら英語の本質的な要素・構造を学ぶ。また現代的かつ日常的な語彙・言い回しを使った基本的構文を紹介（俗語と慣用句を学ばずして本当の英語をマスターしたとはいえない）。教材は、現代英会話を取り入れ語学能力を高めるようデザインされた内容になっている。

<授業計画>

- A) 聴き取りトレーニング（発音訓練による聴き取り能力の向上を含む）
- B) 流暢な口述エクササイズ
- C) 語彙構築エクササイズ
- D) フリースピーキング
- E) クリエイティブ・ライティング（英語と音楽の融合）

前期：

- 1. At the Party
- 2. At the Market
- 3. At the Movies
- 4. On Vacation
- 5. At the Airport

後期：

- 6. At the Restaurant
- 7. On the Road
- 8. At School
- 9. To Your Health

10. On a Date

■教材・参考書

* The Slangman Guide to Street Speak 1 (Slangman Publishing)

* Small Talk: More Jazz Chants (Oxford University Press)

■成績評価の方法

出席日数、参加態度、提出物、インタビュー形式のテストを総合評価する。

■履修上の指示事項

- レベル：中級(英語の基本が身につけている人向け)
- 授業への出席は肝要。
- 定員：30名。希望者が定員数を越えた場合、第一回目授業で選抜テストを実施する。

■備考 (オフィスアワー)

英語 I D

代表教員：源中 由記

曜日時限：金曜5限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：外国語科目 (音楽)

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

リーディング&ライティング。

■授業計画及び内容

基本的には毎回読みきり・書ききりで、みじかい読解と作文をおこなう。クラスの規模によるが、毎回提出物を課す予定なので、出席できない学生には履修をすすめない(履修は歓迎するが、単位取得は困難になる)。

規定の出席率をクリアし、なおかつB4回答用紙1枚前後の英作文を毎授業提出して一定の得点を獲得することを単位取得の条件とする。

■教材・参考書

教材：出題用紙・回答用紙ともハンドアウト形式にて配布。

参考書：必要なら英和辞典・和英辞典を持参すること。電子辞書も持ち込み可。ただし機械翻訳の使用は不可。

■成績評価の方法

出席点、平常点、試験の総合評価。(参考までに、昨年度は試験を実施しなかった。)成績評価の計算式を第1回の授業その他で告知する。

■履修上の指示事項

第1回の授業で詳細を指示するので、履修者はかならず出席すること。第1回・第2回の授業のいずれにも出席しなかった学生は履修登録しても成績の評価の対象としない。ただし、大学の定める公欠届ないしそれに準ずる理由があれば、公欠届の提出とともに成績評価の対象とする。

■備考 (オフィスアワー)

金曜日の4限から5限とその前後。ただし授業中はのぞく。

英語ⅡA

代表教員：雨宮 迪子

曜日時限：木曜3限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：外国語科目（音楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

アメリカのテレビドラマのセリフを聞きとり、書きとり、訳してみましよう。

■授業計画及び内容

<授業内容>

本授業の目的は、アメリカのテレビドラマに触れながら、主に英語のリスニングの能力を高めることです。ドラマの聞きとりは難しいですが、最初は短いセリフから始め、徐々に長めのやりとりを聞きとれるように学習をしていきましょう。授業では、私が事前に選んでおいた場面を皆さんに見ていただき、その中のいくつかのセリフを聞きとり、書きとり、和訳してもらいます。最終的には場面全体のセリフを書き起こした原稿をお配りします。一緒に原稿を見ながら、英語のリズムに慣れるために音読をし、基礎的な英語力の向上のために重要単語や文法事項の確認をします。扱う作品は、生活のワンシーンを切りとったシチュエーション・コメディとして知られる『フレンズ』です。本作をとおして、リスニング力の向上のみならず、アメリカの文化や日常風景を知ることでもできるでしょう。アメリカ人と自分たちとの共通点や相違点に興味を持ちながら、登場人物の発言に耳を傾けていただければ嬉しいです。また、物語の内容を追いながら聞きとりを行うので、話者が何を考えていて、何を言おうとしているのかということを常に推測してもらうことになります。このような、皆さんが実際に英語で会話をする際にも役立つ習慣を身につけていただくことも本授業の目標です。

<授業計画>

初回で詳しく説明しますが、授業は以下のとおり行われます。

1. ドラマの一場面の中のセリフを聞きとり、書きとり、和訳する。
2. 英文スクリプトを音読し、重要単語や文法事項の

確認をする。

3. セリフの書きとりと和訳、文法事項・重要語句の小テストを行う。

■教材・参考書

教科書を購入する必要はありません。英語の辞書（電子辞書可）を用意してください。

■成績評価の方法

- ・小テストや各学期末試験の成績を総合的に評価します。
- ・欠席が3分の1を超えると失格となりますので、注意してください。

■履修上の指示事項

履修上の指示事項

- ・履修希望者は初回の授業に必ず出席してください。
- ・すでに英語を聞く力が十分にある人（ネイティブ・スピーカーや外国生活の長い人）には、本授業をおすすめしません。

■備考（オフィスアワー）

英語ⅡB

代表教員：平田 佳子

曜日時限：水曜3限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：外国語科目（音楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

主として、リーディングとリスニング・スキルのレベルアップをめざす。

英語で書かれた、さまざまなトピックを扱った文章を読み、語彙力の増強を図るとともに、読解力の向上をめざす。また、映像を用いたり、英語の歌を聞くなどして、リスニング力の養成も図る。

■授業計画及び内容

幅広いジャンルのトピックを扱った英語テキストを使用する。

前期、後期ともに、毎回の授業で、一つのまとまった文章を読んでいく。その際、語句の意味、文法などを確認しながら、各文の意味をきちんと理解したうえで、全体の内容把握に努めていく。

また、リスニング・スキルの向上のために、適宜、映像や英語の歌もとり入れる予定。

なお、語彙力アップのために、定期的に単語の小テストを行う。

■教材・参考書

Catch the World-International Culture Magazine Voyager, Second Edition (Macmillan Language House)

■成績評価の方法

出席（20%）、平常点（20%）、前期、後期の期末試験（60%）

■履修上の指示事項

毎回きちんと予習をしてくること。

初回の授業で、授業の進め方について説明するので、履修希望者は出席すること。

授業には辞書を持ってくること。

■備考（オフィスアワー）

英語ⅡC

代表教員：リチャード ネデルコフ

曜日時限：木曜2限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：外国語科目（音楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

聴覚／口述能力の向上と自信をつける

Jazz Up Your English with Idiomatic Expressions

■授業計画及び内容

<授業内容>

ネイティブ発想による英文作成、受身でない積極的な会話、英語特有のリズムと感覚を身につけながら英語の本質的な要素・構造を学んでいく。また、語彙の拡張、広範囲にわたる慣用句、口語表現のしかたを紹介（俗語と慣用句を学ばずして本当の英語をマスターしたとはいえない）。教材は、現代英会話を取り入れ語学能力を高めるようデザインされた内容になっている。

<授業計画>

- A) 聴き取りトレーニング（発音訓練による聴き取り能力の向上を含む）
- B) 流暢な口述エクササイズ
- C) 語彙構築エクササイズ
- D) フリースピーキング
- E) クリエイティブ・ライティング（英語と音楽の融合）

前期：

- 1. At Work
- 2. At the Mall
- 3. Houseguest
- 4. At the Park
- 5. The Birthday Party

後期：

- 6. In the Subway
- 7. Aches & Pains
- 8. Babysitting
- 9. At the Bakery

10. On the Phone

■教材・参考書

* The Slangman Guide to Street Speak 2 (Slangman Publishing)

* Small Talk: More Jazz Chants (Oxford University Press)

■成績評価の方法

出席日数、参加態度、提出物、インタビュー形式のテストを総合評価する。

■履修上の指示事項

- レベル：中級 Plus
- 授業への出席は肝要。
- 定員：30名。希望者が定員数を超えた場合、第一回目授業で選抜テストを実施する。

■備考（オフィスアワー）

英語ⅡD

代表教員：侘美 真理

曜日時限：金曜3限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：外国語科目（音楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

生きた英語の総合的学習。

英語で書かれた散文（主に小説・論説・新聞記事など自然な英語で書かれた文章）を精読する。各英文の文法や構文を確認することはもちろん、文章全体の論点を正しく把握する英語の読解力を養う。授業の目的は読解力の向上をはじめ、様々なタイプの英語の文章に慣れ、かつ優れた英語文章の論理的な構造を学ぶことにある。また、英語の語彙を増やすことにも意識的に努める。さらに、補助教材を用いてリスニングの向上も目指したい。

■授業計画及び内容

フィクションとノンフィクションの両タイプの文章を扱った英語テキストを使用する。

前期はゆっくりと丁寧に進め、まずは読むことに慣れる。フィクションであれば出来事や情景・心理描写を正確に捉え、ノンフィクションであれば論旨を正確に理解することに努める。フィクションは恋愛もの、科学もの、古典小説など、ノンフィクションは精神と身体、愛とセクシュアリティなどをテーマにした記事を読む。基本的に1つの読み物を2週間程度かけて読む予定。内容確認や英語表現の問題もこなしていく。

後期は多少スピードアップしながら読み進め、それでも正確に内容を把握するリーディング・スキルを習得していく。また、受講者の興味に合わせたテーマの文章を選択し、各テーマについての考察も深めていきたい。

また、通年を通して、単語やイディオムの小テストを定期的に行い（10分～15分程度）、語彙を増やすことにも力を入れる。

その他適宜、補助教材を用意してリスニングの練習を行う。テレビやラジオの短いニュースを聞き、要点を理解する。ミュージカルや歌のリスニングなども行う。

■教材・参考書

(編) 前沢浩子など PRISM (研究社)

■成績評価の方法

出席点 (20%)、平常点 (20%)、期末試験 (60%)

■履修上の指示事項

- ①毎回必ず予習をしてこよう。辞書を用いながら自分で理解できる限り文章を読んでこようことが大事である。授業にも辞書を持てこよう。
- ②初回の授業は授業の進め方や評価について詳細に説明するので、履修希望者は初回の授業に必ず出席すること。出席しない場合は履修を認めないことがある。

■備考 (オフィスアワー)

英語演習 A

代表教員：磯部 美和

曜日時限：月曜 4 限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：外国語科目 (音楽)

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

文章や放送の内容を、正確に把握し、報告する能力の養成

■授業計画及び内容

新聞・雑誌記事や論文等の内容、および講演・放送などの要点を正確に理解し、その内容を報告したり、関連する質問に適切に回答できるようにする。また、それらの内容について自分の考えをまとめて議論する練習を行う。

主に以下の項目について扱っていく予定である。

1. 新聞・雑誌記事や論文、講演等についての報告や要約
2. 1に関連したディスカッション
3. 単語・表現の小テスト (毎回授業開始時に実施)

■教材・参考書

<教材>

受講者と相談のうえ決定する。初回から数回分はプリントを配布する。

<参考書>

授業時間内に紹介する。

■成績評価の方法

各学期末試験・毎回の小テスト・平常点 (遅刻回数を含む出席状況や授業への貢献度) を総合的に評価する。各学期、総授業回数の 1/3 以上の無断欠席は失格とする。

■履修上の指示事項

・初回の授業で、取り扱っていくトピックについて話し合い、発表担当者を決定するので、履修希望者は初回の授業に必ず出席すること。初回授業に出られない場合は、4月11日 (金) までに言語・音声トレーニングセンター教員室に相談し、指示を受けること。聴講は不可。

・受講者の発表や議論を中心とする「演習」の授業なので、十分な予習・復習、および授業への積極的な参加が求められる。

■備考（オフィスアワー）
金曜日 15:00-17:00

英語演習B

代表教員：侘美 真理
曜日時限：火曜2限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：外国語科目（音楽）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

英語のエッセー・論説文・新聞記事を読む。
社会・文化・科学について様々な最新トピックを扱った、質の高い英語の文章を読み、文章を論理的かつ集中的に読む練習を行う。丁寧に精読することを基本とするが、授業の目標は、英語文献や批評論文を読むために必要とされる英語の読み方を提供することにある。文章の内容は専門的なものに特化せず、比較的わかりやすいトピックを扱いながら、基本的なリーディング・スキルの習得に努め、またアカデミックな語彙を増やしたり、論理的な思考力を身につけることを目指す。

■授業計画及び内容

指定のテキストを使用し、例えば映画と科学技術、音楽と神経科学、スポーツと生理学、メディアと大衆などの現代的テーマを扱った文章を読み、個々のテーマについて正確に論旨を把握する。基本的な英文法や構文は既に理解されていることを前提に、一文ずつ正確に読み進める。同時に全体の議論の流れも確認し、そのために必要なリーディング・スキルを学習する。論の展開予測や単語の類推など基本的なスキルから始め、レベルに応じてスキミングや速読などの高度なスキルも学習する。また、単語とイディオムの小テスト（10～15分程度）を定期的に行い、確実に語彙を増やしていく。基本的には1つの読み物を2週間程度かけて読み進め、テキストに付随した内容理解や語彙の問題もこなしていく。最終的には各トピックについて自らの意見を持ち、批評的視点を持つことが重要であり、大学での主要研究形態である「演習」の仕方を身につけることも目標の一つである。

■教材・参考書

Inside Reading 4: The Academic Word List in Context (Second edition) (by Kent Richmond, Oxford University Press)

■成績評価の方法

出席 (20%)、平常点 (20%)、期末試験 (60%)

■履修上の指示事項

- ①受講資格は音楽学部では「英語Ⅰ」（楽理科と音環科は「英語Ⅱ」）4単位既習者、美術学部では「英語中級」4単位既習者、または教員が適当と認めた者。
- ②毎回必ず予習をしてこること。辞書を用いながら自分で理解できる限り文章を読んでこることが大事である。授業にも辞書を持ってこること。また「演習」の授業でもあるので、一人一人が積極的に課題を探求すること。
- ③初回の授業は授業の進め方や評価について詳細に説明するので、必ず出席すること。

■備考（オフィスアワー）

英語演習C

代表教員：平田 佳子

曜日時限：水曜2限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：外国語科目（音楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

英語圏の文学作品を多読し、その鑑賞を通して、読解力の向上をめざす。

■授業計画及び内容

英語で書かれたさまざまな文学作品を読む。ジェイン・オースティンの『高慢と偏見』、シェイクスピアの『夏の夜の夢』、オスカー・ワイルドの作品などを扱う予定である。原作と合わせて、映画、ドラマなどの映像も用いたいと考えている。必要に応じて、作品の背景となる文化、社会についても触れる。各作品の重要なシーンや、興味深い場面を抜粋して、まずは、精読して読解力を高めることをめざす。演習なので、その後は、担当者を決めて、作品について自由に発表してもらおう。授業のレベルに合わせて、読みやすい箇所を扱う予定。

■教材・参考書

指定教材およびプリント

■成績評価の方法

出席 (20%)、平常点 (授業の参加度および発表) (20%)、期末試験もしくはレポート (60%)

■履修上の指示事項

初回の授業で、授業の進め方について詳しく説明するので、必ず出席すること。
演習の授業なので、積極的に授業に参加することが求められる。
授業には辞書を持ってこること。

■備考（オフィスアワー）

英語入門 I A

代表教員：河田 英介

曜日時限：木曜 5 限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：外国語科目（音楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

英語の受容能力を高めることがこのクラスのテーマとなります。英語読解、英文法の確認、音読の練習、口述筆記の実践などを通じて、バランス良く英語と触れ合います。

■授業計画及び内容

英語の理解に必要な文法や表現、発音、聴き取りなどは最低限の課題ですが、英語を「細かく深く」読み、多面的に「感じとること」に専念します。

<前期>

Unit 1 から Unit 7

<後期>

Unit 8 から Unit 15

■教材・参考書

Weld, Peter. Issues of Our Age. Tokyo: Kinseido, 2013.

■成績評価の方法

前期・後期試験の素点、授業への貢献度、出席状況、などから総合的に判断いたします。

■履修上の指示事項

履修希望者は初回授業に必ず出席するようにしてください。

4 回欠席してしまった履修者は例外なく評価の対象とせず「失格」といたします。

■備考（オフィスアワー）

初回授業時に指示いたします。

英語入門 I B

代表教員：岡 真知子

曜日時限：水曜 4 限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：外国語科目（音楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

コミュニケーションに必要な基本的な文法事項を習得しつつ、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの 4 技能の基本スキルを学習し、総合的な英語力を身につける。

■授業計画及び内容

英語学習に必須の文法の基礎固めを行いつつ、4 技能すべての activity を行う。

初回の授業で授業計画及び内容についての説明を行い、2 回目以降は以下のような予定で授業を進める。また各単元が終わるごとに小テストを実施する。

<前期>

第 1 週目：ガイダンス

第 2、3 週目：Unit 1 It's Good to See You

第 4、5 週目：Unit 2 When Do You Sleep?

第 6、7 週目：Unit 3 A Baked Potato, Please

第 8、9 週目：Unit 4 That's Me

第 10、11 週目：Unit 5 These Look Really Fresh

第 12、13 週目：Unit 6 Don't Cut your

Finger! Unit 7 What's Everybody Doing? 第 14 週

目：前期試験

<後期>

第 15、16 週目：Unit 8 I'm Free on Saturday Afternoon

第 17、18 週目：Unit 9 Do They Have Any Smaller Ones?

第 19、20 週目：Unit 10 He Paid for Everything

第 21、22 週目：Unit 11 I Haven't Been There for a Long Time

第 23、24 週目：Unit 12 Thrilled by Universal Studios

第 25、26 週目：Unit 13 I'll Be Fine, Unit 14 Hopes and Dreams

第 27 週目：Unit 15 I'm Going to Miss You

第28週目：後期試験

■教材・参考書

指定教材：On Your Way! 『異文化体験で学ぶ大学英語の基礎』（金星堂）。教材は生協で購入すること。

■成績評価の方法

前期・後期試験、小テスト、出席状況などを総合的に評価する。

■履修上の指示事項

履修希望者は初回の授業に必ず出席すること。希望者が多い場合は人数制限をする。授業時数の3分の2以上出席しないと単位の認定ができないので注意すること。毎回、辞書を持参の上、積極的に授業に取り組むこと。

■備考（オフィスアワー）

英語入門ⅡA

代表教員：矢澤 智生

曜日時限：火曜3限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：外国語科目（音楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

英語による芸術鑑賞と学習

■授業計画及び内容

この授業では共通の題材を扱った様々な芸術作品を教材とし、その鑑賞を通じて読解、聞き取り、文法問題などの総合的な学習に取り組みます。本年度は「レ・ミゼラブル」を通年の題材として、まず前期にこの物語を英語で読み、後期にはこれまでに制作された映画やミュージカルを教材とする予定です。なお、授業の出席に際しては一定の準備が求められることを念頭に置いて受講してください。

■教材・参考書

Jennifer Bassett, *Les Miserables* (Oxford University Press, 2012).

ISBN: 978-0-19-479440-4

■成績評価の方法

平常点および試験。前期と後期に期末試験を実施します。

■履修上の指示事項

履修を予定する学生は初回の授業に必ず出席し、教員の指示を受けてください。

■備考（オフィスアワー）

英語入門ⅡB

代表教員：廣田 美玲

曜日時限：金曜2限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：外国語科目（音楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

『オペラ座の怪人』を読む

■授業計画及び内容

高校まで習った文法事項を確認しつつ、『オペラ座の怪人』を読むことを目標とする。アンドリュー・ロイド・ウェッバー版のミュージカルがもとになった映画を使い、リスニング力向上や内容理解に役立てたい。また、ミュージカルで使われている曲を実際に歌うことで、英語の発音やイントネーションの練習を試みようと考えている。使用するテキストは簡単な英語で書き直されたものになるが、長さはそれなりにあるので根気と十分な予習・復習が求められる。

■教材・参考書

Leroux, Gaston. The Phantom of the Opera. Retold by Coleen Dangan-Veness. Penguin Readers, 2008.
2回目の授業までに用意しておくこと。

■成績評価の方法

試験及び平常点（出席状況、授業での発言）を総合的に評価する。

全体の3分の2以上の出席が必須（遅刻3回で欠席1回のカウントになる）。出欠管理は厳しく行う。

■履修上の指示事項

第1回の授業で詳細を指示するので、履修者は必ず出席すること。第1回・第2回の授業のいずれにも出席しなかった学生は履修登録しても成績の評価の対象としない。

■備考（オフィスアワー）

金曜日5限の前後。

韓国語初級

代表教員：池 鳳花

曜日時限：金曜2限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：外国語科目

開設区分：美術併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

韓国語Ⅰ（前期） 韓国語Ⅱ（後期）

■授業計画及び内容

韓国語Ⅰ： 韓国語の文字と発音をメインに学習します。ハングル文字の構成を理解し、正しい書き方と読み方を身につけていきます。よって簡単な自己紹介や挨拶ことばが話せることを目指します。

韓国語Ⅱ： 韓国語Ⅰで学習した内容を復習したうえで、用言の連用形、過去形及び尊敬形など、より豊かな韓国語表現を習得し、場面に応じた一定の日常会話能力を養うことを目指します。

■教材・参考書

教科書： 生越直樹・チョヒテヨル 著 韓国朝鮮語初級テキスト『ことばの架け橋』改訂版 白帝社

参考書： 菅野裕臣『コスモス朝和辞典』 白水社
『小学館日韓辞典』 小学館

■成績評価の方法

出席率 20% 小テスト・宿題 30% 期末試験 50%

■履修上の指示事項

- (1) 指定の教科書を必ず持参すること
- (2) 韓国語Ⅰ・韓国語Ⅱにおいて出席が全授業回数
の1/3に満たさない場合は受験失格となります。但し体調不良・就職活動・研修旅行など、やむを得ない事情がある場合は除きます。（大学で発行する証明証が必要）

■備考（オフィスアワー）

都度相談のうえ調整します。

スペイン語（初級）

代表教員：石井 登
曜日時限：金曜 4 限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：外国語科目
開設区分：美術併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

スペイン語文法の習得

■授業計画及び内容

スペイン語の文法学習を中心に、簡単な日常会話の表現も学んでいきます。また、受講者の興味に合わせてスペイン語圏の関連資料等も見せていきます。教科書は全 20 課で、授業は各回 1 課ごとに進む予定ですが、受講者の理解に合わせていきます。

■教材・参考書

教科書は『スペイン語の基礎(Lo basico del espanol)』朝日出版社を使用します。
辞書は『西和中辞典』小学館など。
参考書については、学生のニーズに合わせて紹介します。

■成績評価の方法

平常点（出席・小テスト・レポート等）50%、試験（前期・後期）50%で評価します。

■履修上の指示事項

履修上の注意事項：初回授業にて詳細を案内しますので、必ず出席して下さい。

■備考（オフィスアワー）

スペイン語（中級）

代表教員：石井 登
曜日時限：金曜 5 限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：外国語科目（音楽）
開設区分：音楽併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

スペイン語文法の復習とスペイン語圏の文化を知る。

■授業計画及び内容

教科書の他に、サブテキスト等を用いて、スペイン語の文章に慣れていきます。初級の授業で学んだスペイン語の知識を用いて、スペイン語圏の文化について考えていきます。

■教材・参考書

教科書は『スペイン語の基礎(Lo basico del espanol)』朝日出版社を使用します。
辞書は『西和中辞典』小学館など。
参考書については、学生のニーズに合わせて紹介します。また、資料等も適宜配布します。

■成績評価の方法

平常点（出席・小テスト・レポート等）50%、試験（前期・後期）50%で評価します。

■履修上の指示事項

「スペイン語（初級）」履修済み、あるいはスペイン語初級
文法習得者向けの授業です。

■備考（オフィスアワー）

独語（初級）A

代表教員：手嶋 直彦・川嶋 均

曜日時限：水曜3限・金曜3限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：外国語科目（音楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

ドイツ語の初等文法を習得し、芸術表現の基礎となることばの力を養う。

■授業計画及び内容

水曜3限（文法／手嶋担当）と金曜3限（演習／川嶋担当）の二本立てです。

水曜（手嶋）：1年間をかけて文法教科書を仕上げます。ドイツ語文法は、1年目に覚えねばならない事柄がたくさんありますが、それを乗り越えて初等文法の全体像をつかめるようになれば、芸術性と論理的な緻密さをあわせもったドイツ語の美しさを実感できるでしょう。

金曜（川嶋）：水曜の文法授業で学んだことを生かしながら、絵本や音楽作品、演劇台本の会話、ラジオ音声など、生きたドイツ語素材を使って、発音の基礎や、ドイツ語特有の構文、やさしい日常的表現に馴れ親しんでもらいます。後期はより高度な読み物の読解や、芸術的テキストを実際に声に出して表現する作業にも挑戦してみましょう。文法のハンドブック（『ドイツ文法総まとめ』）以外の教材は、基本的にプリントを用意します。

■教材・参考書

1. 『Schulgrammatik für Studenten（岡田・岩崎ドイツ文法）』朝日出版社
2. 『必携ドイツ文法総まとめ』中島悠爾ほか著 白水社

■成績評価の方法

前・後期の学期末試験を主に、平常点などを加味した評価を、水・金総合して行う。

■履修上の指示事項

対象は、声楽科で学生番号が奇数の者。必ず水・金両

方の授業をあわせて履修してください。教材欄に指定した二点の教科書・参考書は、両曜日とも随時使用するので、毎回持参のこと。

ことばの勉強は、地道にコツコツ続ければ、世界がぐんと広がること間違いなしです。1年間を通して、頑張りましょう。

【辞書について／金曜川嶋】

1. なるべくカタカナによる発音表記のない辞書を使って欲しい。
2. 「初学者向け」を唱った辞書やポケット辞書は語彙数が少なくあまりオス

■備考（オフィスアワー）

独語（初級）B

代表教員：小野間 亮子・西脇 麻衣子
曜日時限：水曜2限・金曜2限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：外国語科目（音楽）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

ドイツ語の文法を一通り習得する。

■授業計画及び内容

二人の教員（水2限・小野間、金2限・西脇）によるリレー形式で、ドイツ語の初級文法を学びます。教科書は18章から構成されていますので、2～3回の授業で一つの課を終える予定です。必要に応じて、語彙や文法事項の確認テストを行います。教科書を通り学び終えたら、簡単な読み物を扱う予定です。

■教材・参考書

教材：『Schulgrammatik für Studenten? Die neueste und letzte Auflage? (岡田・岩崎 ドイツ文法)』
岡田朝雄・岩崎英二郎 著 朝日出版社
参考書：『改訂版 必携ドイツ文法総まとめ』中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧 著 白水社

■成績評価の方法

各学期末試験の結果に、平常点を加味して評価します。

■履修上の指示事項

対象は、声楽科で学生番号が偶数の者。

独和辞典はなるべく紙の辞書を用意してください。
（辞書については初回の授業で説明しますので、購入はそのあとで可。）

■備考（オフィスアワー）

授業後

独語（初級）C

代表教員：小野間 亮子・川嶋 均
曜日時限：水曜4限・金曜2限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：外国語科目（音楽）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

ドイツ語の初級文法を習得し、辞書を使ってやさしい読み物を読める程度の力を養成する。

■授業計画及び内容

水曜Ⅳ限（小野間講師／文法）と金曜Ⅱ限（川嶋講師／演習）の二本立てで進めます。

水曜（小野間）：ドイツ語学習の基礎となる初級文法を一通り身に付けてもらう授業です。初めの内は覚えることが多く大変かもしれませんが、復習をしっかりすれば大丈夫です。毎回、授業のはじめには前回の内容についての確認テストを行います。

金曜（川嶋）：水曜の文法授業で学んだことを生かしながら、絵本や音楽作品、演劇台本の会話、ラジオ音声など、生きたドイツ語素材を使って、発音の基礎や、ドイツ語特有の構文、やさしい日常的表現に馴れ親しんでもらいます。後期はより高度な読み物の読解や、芸術的テキストを実際に声に出して表現する作業にも挑戦してみましょう。文法のハンドブック（『ドイツ文法総まとめ』）以外の教材は、基本的にプリントを用意します。

■教材・参考書

- 『Schulgrammatik für Studenten (岡田・岩崎 ドイツ文法)』朝日出版社
- 『必携ドイツ文法総まとめ』中島悠爾ほか著 白水社

■成績評価の方法

前・後期の学期末試験を主に、出席状況などを加味した評価を、水・金総合して行う。必ず水・金両方の授業をあわせて履修してください。分割履修不可！

■履修上の指示事項

基本的に楽理科1年を対象とした授業ですが、他学

科からの履修も可能です。初回までに上記2つの教材を用意して授業に臨んでください。

ことばの勉強は、地道にコツコツ続ければ、世界がぐんと広がること間違いなしです。1年間を通して最後まで出席し続けられるよう、頑張りましょう。

【辞書について】

1. なるべくカタカナによる発音表記のない辞書を使って欲しい。
2. 「初学者向け」を唱った辞書やポケット辞書は語彙数が少なくあまりオススメできない。中型以上のサイズの、例

■備考（オフィスアワー）

独語（初級）D

代表教員：泉谷 千尋・山村 浩

曜日時限：月曜2限・水曜3限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：外国語科目（音楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

使えるドイツ語文法

■授業計画及び内容

この授業では、泉谷（月2限）、山村（水3限）のペアで、1年間でドイツ語の文法を一通り学び、基礎的な文章読解・口頭表現の力を養うことを目的とします。格変化や人称変化の複雑さは既習外国語である英語との大きな違いですが、できるだけ丁寧に理解の進度に応じた授業を心がけるつもりです。また同時にドイツの文化や社会についての知識も身につけていきましょう。

■教材・参考書

『ドイツ文法スマート』（横谷文孝 他 著・郁文堂）

■成績評価の方法

平常点および試験

■履修上の指示事項

対象：弦楽器・管楽器・打楽器専攻者

■備考（オフィスアワー）

独語（初級） E

代表教員：松木 篤也・藤田 総平
曜日時限：月曜4限・水曜3限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：外国語科目（音楽）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

初級文法の学習

■授業計画及び内容

一冊の教科書を、二人の教官によるリレー形式で進めてゆきます。教科書による学習を早目に終わらせ、その後は、簡単な読み物を読んだり作文をすることによって、文法の知識をさらに確かなものにしてゆきます。

■教材・参考書

中島・平尾・朝倉『練習中心 初級ドイツ文法（コンパクト版）』
白水社、2,300円＋税

■成績評価の方法

筆記試験と平常点による。

■履修上の指示事項

対象：作曲・ピアノ・オルガン・古楽・邦楽専攻者

■備考（オフィスアワー）

独語（中級） A

代表教員：シュタイン ミヒャエル
曜日時限：水曜3限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：外国語科目（音楽）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

ドイツ語の文章に対する理解力を徹底させる。

■授業計画及び内容

さほど難しくない現代の短編小説を読みながら、そのテキストを使って、語彙を増やし、文法を復習し、会話をする。学理2年生向けのコースだが、他の学科の学生も受講可能。

■教材・参考書

Johannes Mario Simmel: Die verschwundene Grosmutter.
プリントを配布する。

■成績評価の方法

年2回の期末テストの他、予習や出席率を評価の対象とする。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

学生と相談の上、決める。

独語（中級）B

代表教員：泉谷 千尋

曜日時限：月曜3限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：外国語科目（音楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

一通りドイツ文法の知識をもつ人を対象に、購読中心にドイツ語力の錬成を図る。

■授業計画及び内容

文法事項の復習もしながら、読み、書き、聞き、話すためのドイツ語力を養うことをめざす。文章の読解だけでなく、簡単な独作文や、CDなどの音声教材を利用した聞き取りの練習も行う。語学学習と並行して、ドイツ語圏の文化・生活についての知識も深めていく。

■教材・参考書

受講者の力を考慮し、希望も聞きながらテキストを決めていく。参考書などは初回に指示する。

■成績評価の方法

基本的に平常点を重視するが、必要に応じて学期末試験を行う。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

毎週月曜日の昼休み、および授業後。

独語（中級）C

代表教員：檜山 哲彦

曜日時限：金曜4限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：外国語科目（音楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

初級終了程度のドイツ語能力を対象にして、言語表現能力の錬成をはかる。

■授業計画及び内容

毎時間、ドイツ語のディクテーション、作文、読解を併行しておこなう。ディクテーションによって聴取能力を養い、作文によって初級文法の復習をしつつ平易なドイツ語表現力を養い、読解によって初級文法以上の読解力を養いつつ上級への道をひらく。あわせて母国語たる日本語の表現力が養われれば幸い。

■教材・参考書

コピーを配布する予定

■成績評価の方法

出席と予習を重視する。

■履修上の指示事項

主に楽理科・音楽環境創造科の学生を対象とするが、全回出席し、完全な予習が行える者に限る。

■備考（オフィスアワー）

水・金曜日の17時以降

独語（中級）D

代表教員：松木 篤也
曜日時限：月曜5限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：外国語科目（音楽）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

読解のコツと会話表現を学ぶ

■授業計画及び内容

授業は2部から成ります。
前半は、ドイツ語文読解。さまざまなスタイル（随筆、物語、インタビュー、笑い話、WEB サイト、歌曲の歌詞、等々）の文章を精読します。まずは単語力、熟語力、構文力の向上を目指そう。
後半は、ドイツ語会話を学ぶ。日常生活上のさまざまなシチュエーションで「口に出して使える表現」を紹介し、発音や抑揚、さらに受け答えのヴァリエーションを練習します。
とくに読解に関しては、精密な予習を課します。

■教材・参考書

その都度プリント教材を配布する。

■成績評価の方法

前期・後期の期末試験。平常点。

■履修上の指示事項

公欠の場合は届けを出すこと。卒業が当科目の単位取得にかかっている学生は、初回に必ず出席し、その旨を報告すること。

■備考（オフィスアワー）

授業の前後

独語（中級）E

代表教員：手嶋 直彦
曜日時限：水曜4限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：外国語科目（音楽）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

作文と読解による中級ドイツ語

■授業計画及び内容

- 1) 初級文法の確認と補足のため独作文の練習
- 2) リートの歌詞とそれに関する文章の読解

■教材・参考書

プリント配布。初級の際使った教科書は毎回持って来ること。

■成績評価の方法

試験

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

独語（中級）G

代表教員：西脇 麻衣子
曜日時限：金曜3限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：外国語科目（音楽）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

ドイツ語の文法を一通り学んだ学生を対象に、基礎文法の復習と表現力の向上をめざします。

■授業計画及び内容

現代ドイツの生活事情についての短い文章を読み、関連した文法・作文の演習を行います。履修者数によりますが、なるべく学生に発表・発言してもらうかたちで授業を進めます。

■教材・参考書

『CD付き ドイツ人の生活を知る11章』、大谷弘道、三修社

■成績評価の方法

各学期末試験の結果に、平常点を加味して評価します。

■履修上の指示事項

テキストはあらかじめ読んでから出席してください。また、教科書付属のCDを活用し、ドイツ語に耳から慣れる練習をしてください。

■備考（オフィスアワー）

授業後

独語演習B

代表教員：満留 伸一郎
曜日時限：月曜5限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：外国語科目（音楽）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

文法事項を反芻しつつドイツ語を丁寧に読み、そして味わう。

■授業計画及び内容

チェコのドイツ語作家フランツ・カフカと、彼が終生離れることのなかった街プラハの関係を描いたテクストを読む。50ページ少々あるが、平易な文章なので、できれば1年で読み終えたいところ。日本語として自然な訳文を作る力を身につけることも、目標のひとつである。

受講人数によるが、ひとり4回程度は担当がまわるようにしたい。

■教材・参考書

Egmont HelmeI 著、有賀健編『フランツ・カフカ — ユダヤ人のプラハ—』朝日出版社

■成績評価の方法

試験は行わず平常点で評価する。出席3割、担当箇所訳出その他7割。

■履修上の指示事項

ポケット辞書は授業内容に不十分なので不可。文章を読む際は、例文の多い辞書が不可欠です。

■備考（オフィスアワー）

独語演習 D

代表教員：藤田 総平
曜日時限：水曜 4 限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：外国語科目（音楽）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

ドイツ語の文章の構造

■授業計画及び内容

ドイツ語の作文を行うことと短いテキストを読むことを交互に行うことによって、作文で学んだ文の構造をテキストの読解に生かすと同時に、テキストで読み取った文章構造を、作文をするときに応用する。

■教材・参考書

コピーを配布する。読解のテキストについては、参加者と相談して決めたい。

■成績評価の方法

平常点と期末試験によって評価します。

■履修上の指示事項

ドイツ語中級文法を学んでいること。

■備考（オフィスアワー）

仏語（初級） A

代表教員：陶山 大一郎・大森 晋輔
曜日時限：水曜 4 限・金曜 2 限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：外国語科目（音楽）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

フランス語初級文法の学習・習得

■授業計画及び内容

フランス語の基礎文法を学習します。発音の習得を重視しますので、教科書以外のプリント等も用いながら、教科書付属の CD を繰り返し聞いて練習します。また、既習事項を定着させるための小テストや発音チェックなどを時間の許すかぎり行う予定です。

■教材・参考書

教科書：佐藤久美子・佐藤領時『アベセデ フランセ（CD 付・改訂版）』白水社

■成績評価の方法

平常点・小テスト・定期試験

■履修上の指示事項

水曜 4 時限（陶山）と金曜 2 時限（大森）に行われるリレー形式の授業なので、併せて履修すること。積極的な参加を期待します。

■備考（オフィスアワー）

質問は授業前後、または授業中にすることを推奨しますが、必要に応じてそれ以外にも時間を設けますので、気兼ねなく相談してください。
教科書付属の CD は授業外でも繰り返し聞いて、発音・聞き取りの練習をしてください。

仏語（初級）B

代表教員：神田 浩一・陶山 大一郎

曜日時限：月曜4限・水曜5限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：外国語科目（音楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

フランス語の基礎文法を習得することで、簡単な意思疎通ができる程度のフランス語運用能力を身につけることを目標とします。

■授業計画及び内容

「パリに住む中学生のピエールとユゴーがヴァカンスを利用して二人で出かける」という設定の教科書を用いて、基礎的な会話と文法事項を学んでいきます。授業は、DVDを見ながら基本的な会話を学び、その会話に関連した新しい文法事項を解説した後、対応する練習問題を解いていくというかたちで進めていきます。

また、時間の許す限り小テストなどをおこない、習熟度を確認します。

■教材・参考書

小笠原洋子『新版 ピエールとユゴー』白水社
その他、必要に応じてプリント教材が配布されます。

なお、「ポッドキャストと行くフランス旅行！」
<http://www.las.osakafu-u.ac.jp/podcast-lang/fr/travel/>
などを用いて、自分でも積極的にフランス語に触れてください。

■成績評価の方法

平常点（小テストと普段の授業態度）・定期試験（前期と後期の終わりに二回あります）

■履修上の指示事項

月曜4時限（神田）と水曜5時限（陶山）に行われるリレー形式の授業なので、併せて履修すること。積極的な参加を期待します。

また、付属のDVDを授業外でも繰り返し視聴して、発音・聞き取りの練習をしてください。

なお、授業内での飲食・私語・無断退出（レッス

ンなどの場合は申し出ること）は成績評価の際に減点の対象としますので、注意してください。

■備考（オフィスアワー）

初回の授業時に指示します。なお質問はいつでも気軽にしてください。

仏語（初級）C

代表教員：檜垣 嗣子・大森 晋輔
曜日時限：月曜4限・水曜3限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：外国語科目（音楽）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

フランス語の初級文法を学習し、次の段階へ進むための確実な基礎固めをします。

■授業計画及び内容

月曜（檜垣）と水曜（大森）で交互に授業を進めます。まずはフランス語の綴りと発音の関係をおぼえ、音読できるようになりましょう。また、平易な文章をとおしてフランス語の仕組みを理解し、自分でもつくれるように練習します。積極的な授業参加を求めます。

■教材・参考書

教科書：佐藤久美子・佐藤領時『アベセデ フランセ（CD付・改訂版）』白水社

■成績評価の方法

前・後期の試験。授業への出席・参加。

■履修上の指示事項

対象：楽理科。

■備考（オフィスアワー）

仏語（中級）A

代表教員：新谷 淳一
曜日時限：水曜5限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：外国語科目（音楽）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

初級の文法と語彙を復習し、それを応用して簡単な文章を読む。これに加えて、音声教材を利用したヒアリングや会話の訓練を行なう。

■授業計画及び内容

前期には、初級の復習と延長のような授業を行いません。まずは、初級で学んだことがらについて、練習問題をたくさん解いて徹底的にトレーニングします。さらに、初級ではふれられなかった／軽くふれただけの項目について、補足的な説明を行ないたいです。この期間中に各自が、不足している事項をあらいだし、疑問点については、積極的に質問したり自分で調べるなどして、土台を固めることが目的です。

後期には、音楽に関するかんたんな文章を読むことと、初歩的な会話教材の2本立てで進めます。文章は、子供向けに音楽や楽器の成り立ちを説明するものです。

前期・後期を通じ、気分転換に、フランス語の音楽を聴くこともあるかと思えます。

■教材・参考書

プリント

■成績評価の方法

期末の筆記試験2回＝7割。出席と授業への参加度＝3割。

■履修上の指示事項

仏和辞典を、つねに参照する習慣をつけること。

■備考（オフィスアワー）

仏語（中級）B

代表教員：谷本 道昭

曜日時限：金曜4限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：外国語科目（音楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

フランス語の理解を深め、語学力を向上させる。
フランス語の学習を通じてフランス語圏の文化や歴史にふれる。

■授業計画及び内容

教科書、音声教材を用いて、読解、発音、役割練習、聞き取り、書き取りを行うことで、フランス語を総合的に学習する。日常的に用いられるフランス語表現に親しみ、ある程度の長さの文章を読む練習を行う。すでに学習した文法事項のおさらいをしながら、さらに語彙を増やし、基礎的な表現力を身につけることを目指します。

教科書には練習問題がふくまれているので、必ず予習を行うこと。教科書に出てきた単語の意味をあらかじめ調べておくと、授業に集中することができて、効率よくフランス語を学べるようになると思います。

教科書を用いた学習を終えたら、映像や音楽、音声、文字資料などを通じて、フランス語圏の文化、歴史を紹介していく予定です。受講者の希望があれば、音楽を聞いたり、音楽に関するテキストを読むことも考えています。フランス語の学習を通じて世界を広げていきましょう。

■教材・参考書

教科書として『Amicalement bis アミカルマン・ビス』（駿河台出版社）を使用します。

■成績評価の方法

前期、後期に行う期末試験の点数を重視しつつ、出席や授業態度を平常点として加味して評価します。

■履修上の指示事項

受講者には基礎的なフランス語（初級文法）の知識が求められますが、適宜文法の解説を行うので、語

学力に自信のない方でも受講は可能です。
語学の学習では辞書（電子辞書も可。ポケット版の小型辞書はおすすめしません）をひく習慣を身につけることが決定的に重要です。授業にもなるべく辞書を持参してください。

■備考（オフィスアワー）

相談、質問等は授業後に受けつけます。

仏語（中級）C

代表教員：ヴィエル エリック
曜日時限：木曜2限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：外国語科目（音楽）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

この一般フランス語の授業では、特に DELF の A2 を受けられるレベルに到達することを目指します（詳細はサイト delfdalf.jp を参照）。フランスの大学で授業についていくには、最低でも B1 レベルは要求されます。

■授業計画及び内容

フランス語の初歩をマスター。身近な分野での単文を理解できる。慣れた状況でならコミュニケーションが可能。自分に関する問題を単純な手段で表現できる。

■教材・参考書

《 Le nouveau Taxi 1 》. Editeur : Hachette.
3,780 円 (CD-ROM 付)

■成績評価の方法

平常点、出席、授業への参加度。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

学生と相談の上、決める。

仏語（中級）D

代表教員：神田 浩一
曜日時限：月曜5限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：外国語科目（音楽）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

様々なテーマについて書かれた短い文章の読解を軸として、その文章が取り上げたテーマに関する視聴覚資料を用いて、語彙の強化、発音、聞き取り、読解、作文をバランス良く学習します。また、それらの練習を通して、フランス語やフランス文化に対する理解を深めることも目指します。

■授業計画及び内容

90 分の授業内に多くの内容を盛り込むので、学生のみなさんの積極的な参加が必要になります。

まずは、テキストの仏文和訳を担当した学生に行ってもらいます。その仏文和訳に関して、説明を加えた後で、関連する視聴覚資料を用いて、聞き取り、会話、作文の練習を行います。授業の終わりには、授業内容の小テストを行い、リアクションペーパーを書いてもらいます。

■教材・参考書

『GLE POUR LA FRANCE フランスを読み解く鍵』
(Hachette 社)

また、テキストの文章に関連した練習問題のプリントと視聴覚資料を用います。

なお教科書の音声ファイルは
<https://www.hachette-japaon.jp>
からダウンロードできます。

■成績評価の方法

宿題、小テストからなる平常点を中心に評価を定めます（全体評価の7割程度）。その他、前期と後期の期末試験と出席を参考にします（残り3割）。ただし、各学期末の試験を受けるためには、以下の二つの条件を満たす必要があります。

1. 毎週出す課題（10 分程度で終わる簡単なものです）をすべて提出すること
2. 各学期の授業中に最低一回は仏文和訳を担当すること

■履修上の指示事項

現時点でのフランス語の能力は問いませんが、この授業では、学生の積極的な参加が求められます。学生には文章の読解を予習してきてもらい、あてられた学生は担当者には授業中に自分の担当する文章を訳してもらいます。

必ず辞書を持参してください。

■備考（オフィスアワー）

初回の授業で指示します。気軽に質問に来てください。

仏語演習 A

代表教員：ヴィエル エリック

曜日時限：月曜 4 限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：外国語科目（音楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

この一般フランス語の授業では、特に DELF の B1 を受けられるレベルに到達することを目指します（詳細はサイト delfdalf.jp を参照）。フランスの大学で授業についていくには、最低でも B1 レベルは要求されます。

■授業計画及び内容

フランス語を効果的にマスターしているが、限界がある。身近な分野の明快で標準的な表現であれば理解できる。旅行先で会話をこなし、自分に興味のあることを話すことができる。計画やアイデアに関して短く説明することも可能。

■教材・参考書

《 Le nouveau Taxi 2 》. Editeur : Hachette.
3,990 円（CD-ROM 付）

■成績評価の方法

平常点、授業への参加度、出席点。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

学生と相談の上、決める。

仏語演習B

代表教員：新谷 淳一

曜日時限：水曜4限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：外国語科目（音楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

フランス語評論文の読解。

■授業計画及び内容

ミシェル・セール（Michel Serres）のいくつかのテキストから、あるテーマにそって抜粋したものを読みます。出典とするのは次の4つです。

I « Musique et bruit de fond » in L'Interference. Hermes II, 1972.

II Esthétiques sur Carpaccio, 1975.

III Carpaccio. Les esclaves liberes, 2007.

IV Musique, 2011.

タイトルから見てとれるように、軸となるのは「音楽」「ノイズ」「カルパッチョ」の3項です。最後の固有名詞がどう関係するのか、常人には想像しにくいのですが、セールの頭のなかではリンクしています（たとえばIIの最終章はノイズ／音楽を論じています）。そのリンクの意味合いが常人にもわかるように、抜粋をうまく配列して読み進めたいと考えています。

I・IIには邦訳があります。I・IIとIII・IVの執筆時期はへだたっており、著者が一貫して関心を持ち続けてきたテーマだとわかります。I・IIは、若さと時代ゆえに、かなり尖った読みにくい文章です。III・IVでは著者も丸くなり、時流にそくしたソフトな語り口になっています。授業で読むのは、III・IVからのものが多くなるでしょう。

著者セールは、理科と文科を自在に越境する、スケールの大きな思想家です。あまりにスケールが大きいため、常人には、大風呂敷を広げているだけとも見えます。ところが、一九九〇年代までは胡散臭く思えたセールの「アナロジック」で「非実証的」なヴィジョンが、「デジタル」による世界像の変貌とともに、ある種の現実味を持つようになった感があります。いわば「時代がセールに追いついた」ことが、今セールを読もうとする理由のひとつです。

ついでにひとこと。セールのデビュー作は『ライ

プニッツのシステム』という大著です。「二進法＝デジタル」と「微積分法＝連続」という2つの方法の生みの親であるライプニッツは、理科と文科の統合的ヴィジョンを体現する名です。セールの思考の根底にあるライプニッツは、この授業にとっての「隠れキャラ」的な存在かもしれません。

■教材・参考書

プリント配布。

■成績評価の方法

期末の試験＝7割。出席・授業への参加＝3割。

■履修上の指示事項

対象：楽理科。（美）上級Aと共通。

語学的な説明を十分に行ないながらも、内容も楽しめるものにしたいと思います。和訳のプリントを配布し、上級なみの語学力がなくとも受講可能ですので、興味のある方は気軽に出てみてください。

■備考（オフィスアワー）

ラテン語

代表教員：宮城 徳也

曜日時限：火曜5限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：外国語科目（音楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

ラテン語の読み方と文法の習得

■授業計画及び内容

前期 1～10 課。文字と発音、名詞の変化と形容詞の変化、動詞の変化（完了形まで）。

後期 11～20 課。残りの名詞形容詞の変化、関係代名詞、動詞の受動形や分詞の用法など。

教室では、毎回、文法事項の理解と確認のために練習問題を行います。

その一部が宿題になることもあります。

ラテン語は古代ローマの言語ですので、理解するためには周辺知識が必要になることがあります。それらは授業時に随時紹介する予定です。

■教材・参考書

テキストは、岩崎務『CD エクスプレス ラテン語』を使用します。辞書や参考書は授業時に紹介します。その他必要に応じてプリントを配布します。

■成績評価の方法

教室では、毎回、文法事項の理解と確認のために練習問題を行いますので、平常点を重視して評価します。

■履修上の指示事項

テキストを各自購入しておいてください。

■備考（オフィスアワー）

露語（初級）

代表教員：三宅 美栄・木村 敦夫

曜日時限：月曜3限・水曜3限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：外国語科目（音楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

ロシア文化、社会についての豊かなイメージを喚起しつつ、「初めてのロシア語」に必要な基礎を学習します。辞書を引いてロシア語の文章を読めること、簡単な日常ロシア語会話を楽しめることを目標とします。

■授業計画及び内容

授業では、ロシアのウェブページ、ビデオなどを用いて、生きたロシア語に触れながら、文法、発音、読むこと、書くことといったロシア語の基礎を学習します。受講者参加型の授業を通して、思う存分！楽しみつつロシア語に慣れてください。

また、時間の許す限り、「ロシア語」を通してうかがうことのできる、ロシア文化、ロシア的思考、更にニュース、トピックスなども紹介していきます。

■教材・参考書

教科書は、『ロシア語へのパスポート』 中島由美他著（白水社）を用います。

辞書は授業中に指示します。

■成績評価の方法

授業への出席、授業への積極的参加、前後期末試験の成績によって評価します。

■履修上の指示事項

語学学習の土台、初級文法を週二コマでマスターします。文法は積み重ねていくものですので欠席は学習の大きな妨げとなります。出席は必須条件です。

■備考（オフィスアワー）

月曜 1:00pm～

水曜 1:00pm～

露語（中級）

代表教員：木村 敦夫

曜日時限：月曜4限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：外国語科目（音楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

「初級」の授業を通じて身につけたロシア語にさらに磨きをかけ、さらにいっそうロシア人（気持ちとか気合いの面で）になる。

ロシア語独特の美しさを味わう。

■授業計画及び内容

「初級」段階では取り上げることのできなかった文法事項を学習し、ロシア語を読み、理解し、ロシア語によるコミュニケーションができるようになることを目指す。

簡単な読み物を読みつつ、ロシア語特有の文構造、論展開に触れる。

■教材・参考書

教材・参考書：授業中に指示する。コピーを配ることもある。

辞書：すでに持っている人は、それを使う。新たに購入予定の人には授業中に指示する。

■成績評価の方法

前期・後期の期末試験

ロシア語学習にかける熱情（熱情の表しかたは、ひと様々なので各人各様にアピールのこと）

授業への貢献（質問・コメントなど）

■履修上の指示事項

授業は週に1回しかないと考えて、予習・復習の量・頻度は各自が判断して欲しい。判断しかねる人は、相談すること。全般的に疑問に思ったことは、なんでもかんでも、いつでも、どこでも相談すること。待ってるよ。

具体的な題材は、履修者の希望に沿って選んでいくのでどんどんリクエストして欲しい。

■備考（オフィスアワー）

月曜 2:30pm～

露語演習

代表教員：木村 敦夫

曜日時限：水曜 4 限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：外国語科目（音楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

「ロシア文化（広い意味での）」を読む
ロシア語特有の文章構造を理解し、そこからうかがえる、ロシア人の思考展開・論展開の特徴を味わう

■授業計画及び内容

この授業は、ロシア語文法を修得した（自分としては一通り身につけたつもり、でももちろん OK!）学習者を対象として、各自が「ロシア語を読む」力を培うことを目指している。

講読文献としては、特にジャンルにはこだわらず、「ロシア文化」を反映しているもの（ロシア語で書かれているもの）を広く取りあげる。

授業方法は、テキスト（ロシア語文献）の講読とその内容に関するディスカッションとする。

参考までに、今までに取り上げたテーマを記しておく：
Дягилев（ディアギレフ）の活動—
Мир искусства～Ballets Russes 時代；スターリン時代のソヴィエト全体主義芸術；ロシア・アヴァンギャルド芸術；文化・芸術活動における「伝統」の意味；モンゴル民族音楽における歌謡と旋律；1920～30 年代のソ連音楽文化；チェチェンをはじめとするロシア国内の民族問題；チャーホフ劇における時間の概念；アクーニン論（おもに三島由紀夫との比較において）；Шостаковичの後期声楽曲；タルコフスキー作『スタルケル』脚本；Татьяна Толстаяのエッセイ；Андрей Курковの短編小説；Акунинの長編小説 Азazel である。

今年度のテーマ（テキスト）は、受講希望者との話し合いによって決めたい。

■教材・参考書

テキストは、授業中に配布する（冊子体のもを用いるか、プリントを用いるかは、とりあげるテーマによって異なる）。

参考書などは、授業中に適宜紹介する。

■成績評価の方法

平常点（試験は課さない、希望があれば課す）

■履修上の指示事項

厳密な知識は要求しないが、解説を聞いてそれを理解できる程度に、ロシア語初等文法を一通り修めていることが望ましい（ロシア語テキストを用いるので）が、必須ではない。

それにまさるとも劣らず必要なのは、学問に対する情熱と知的好奇心！ようするに、授業を楽しんでほしい。

疑問に思ったこと、相談したいことは、なんでも、いつでも、どこでも、迷わず訊いてほしい。待っている。

■備考（オフィスアワー）

月曜 2:30pm～

水曜 1:00pm～

言語・音声トレーニングセンター開設

科目

Advanced Writing (英語作文Ⅲ)

代表教員：磯部 美和

曜日時限：水曜3限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：言語・音声トレーニングセンター

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

パラグラフやエッセイの書き方

■授業計画及び内容

パラグラフやエッセイの構成法を学習しながら、実際に自分でパラグラフやエッセイを作成する。これにより、英語の文章で自分の意見や研究内容をわかりやすく論理的に表現する能力を養う。

■教材・参考書

<教材>

Oshima, A. and A. Hogue (2007) Writing Academic English. Longman.

<参考書>

授業中に紹介する。

■成績評価の方法

各学期末試験・毎回の課題提出・平常点（遅刻回数を含む出席状況および授業態度）を総合的に評価する。各学期、総授業回数の1/3以上無断欠席した場合、および出席は十分であっても、決められた課題を提出しない場合は失格とする。また、課題の作成時に翻訳ソフトの使用や剽窃が認められた場合は、その時点で失格とする。

■履修上の指示事項

- ・履修希望者は、初回の授業に必ず出席すること（履修人数を制限することがある）。初回授業に出られない場合は、4月11日（金）までに言語・音声トレーニングセンター教員室に相談し、指示を受けること。聴講は不可。
- ・このクラスのレベルは、「英語上級」（美術学部）・「英語演習」（音楽学部）に相当するので、高等学校までで学習した英文法・表現を復習済みであることを前提とする。
- ・課題は文書作成ソフトで作成し、電子メールで提

出することが求められる。

■備考（オフィスアワー）

金曜日 15:00-17:00

伊語会話 I a

代表教員：ジェレヴィーニ アレッサンドロ
曜日時限：月曜5限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：言語・音声トレーニングセンター
開設区分：音楽併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

日常の伊語会話のスピードに慣れ、自然な言葉の受け答えができるよう練習します。

■授業計画及び内容

教科書を使い、日常的なイタリア語会話の練習をします。初級～中級の基本的な文法を身につけていることと、ある程度の語彙力を備えていることが必要です。

■教材・参考書

教科書：
Mazzetti, Falcinelli, Servadio 著、『Qui Italia, 1 Lingua e grammatica (Nuova Edizione)』, Le Monnier 出版社, 2002. (ISBN: 88-00-85356-0)

参考書：
Takeshi Tojo, Rie Inouchi 『Qui Italia. Note di grammatica italiana per studenti giapponesi (文法ハ

■成績評価の方法

年2回の期末テストの他、出席回数、授業中の勉強意欲などを参考にして採点する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

学生と相談した上、決める。

伊語会話 I b

代表教員：ジェレヴィーニ アレッサンドロ
曜日時限：金曜2限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：言語・音声トレーニングセンター
開設区分：音楽併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

日常の伊語会話のなかで、意思伝達のために役立つ基本的な表現や言い回しを覚えます。

■授業計画及び内容

教科書にそって、イタリア語の基本的言い回しを勉強します。伊語初級の単位を取得し、イタリア語文法の知識をひとつおりに身につけている学生を対象とします。教室での勉強に積極的に参加すること。

■教材・参考書

教科書：
Mazzetti, Falcinelli, Servadio 著、『Qui Italia, 1 Lingua e grammatica (Nuova Edizione)』, Le Monnier 出版社, 2002. (ISBN: 88-00-85356-0)

参考書：
Takeshi Tojo, Rie Inouchi 『Qui Italia. Note di grammatica italiana per studenti giapponesi (文法ハン

■成績評価の方法

年2回の期末テストの他に、出席回数、授業中の勉強意欲などを参考にして採点します。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

学生と相談の上、決める。

伊語原典指導

代表教員：ジェレヴィーニ アレッサンドロ
曜日時限：水曜2限
学 期：通年
単 位 数：0
ジャンル：言語・音声トレーニングセンター
開設区分：音楽併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

学生の個人的問題に即した指導を行う。

■授業計画及び内容

個別指導を必要とする学生を対象とする。論文執筆のための準備、留学のための必要書類添削、語学検定試験のための準備、演奏会のための歌詞の発音チェックなど、あらかじめ学生が準備してきた内容を個別に指導する。原則として一人あたり30分の指導が受けられる。

■教材・参考書

■成績評価の方法

無単位の授業であり、成績評価の対象外である。(この授業を履修登録することはできない。)

■履修上の指示事項

指導を希望する学生はその都度、言語・音声トレーニングセンター教員室(音楽学部1号館2-22)にて予約をすること。都合が悪くなった場合は、必ず当センターに連絡をすること。

■備考(オフィスアワー)

イタリア語朗読法演習

代表教員：ジェレヴィーニ アレッサンドロ
曜日時限：水曜4限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：言語・音声トレーニングセンター
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

舞台語としてのイタリア語の発音を学びます。イタリア語の文法を少なくとも一年学習したことのある学生に限りますが、低学年生でも参加できます。

■授業計画及び内容

イタリア語のアクセント、母音、2重母音、子音の発音を練習します。オペラの台本や歌曲の歌詞を読んで、解釈をします。またアリアなどを実際に歌ってもらったり、レチタティーヴォを演じてもらったりして、徹底した発音チェックをしたいと思います。オペラの映像資料などを適宜使用します。

■教材・参考書

イタリア・オペラのリブレットなど。

■成績評価の方法

平常授業での勉強意欲や出席状況を基に採点します。

■履修上の指示事項

■備考(オフィスアワー)

学生と相談した上、決める。

イタリア語朗読法演習

代表教員：ジェレヴィーニ アレッサンドロ

曜日時限：水曜 4 限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：言語・音声トレーニングセンター

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

舞台語としてのイタリア語の発音を学びます。イタリア語の文法を少なくとも一年学習したことのある学生に限りますが、低学年生でも参加できます。

■授業計画及び内容

一年間を通して、誕生から現代にいたるオペラの歴史を辿る。オペラは総合的な芸術である。講義では、オペラ史上の重要な作曲家とその作品を取り上げ、オペラ芸術の様式的な発展を追うが、それと同時に、歌唱史や劇場史を含むオペラ独特の制作システムの変遷や、それぞれの時代のオペラ固有の美学についても理解を深めることを目標とする。

■教材・参考書

<前期>

第 1 回：オペラとは何か？／第 2 回：モンテヴェルディ（1）／第 3 回：モンテヴェルディ（2）／第 4 回：オペラ・セリアの作法／第 5 回：トラジェディ・アン・ミュージック／第 6 回：ヘンデル／第 7 回：グルックのオペラ改革／第 8 回：モーツァルト（1）／第 9 回：モーツァルト（2）／第 10 回：モーツァルト（3）／第 11 回：フランス革命とオペラ／第 12 回：ロッシーニ／第 13 回：ベッリーニとドニゼッティ／第 14 回：グラント・オペラ／第 15 回：ドイツ・ロマン主義オペラ

<後期>

第 16 回：ヴ

■成績評価の方法

授業内容を補完する参考書として、以下の図書を推薦する。

岡田暁生『オペラの運命—19世紀を魅了した「一夜の夢」』（中公新書）

ジル・ド・ヴァン『イタリアオペラ』森立子訳（文庫クセジュ）

スタンリー・セイディ『<普及版>新グローヴ オ

ペラ事典』（白水社）

オペラ対訳ライブラリー（音楽之友社）

■履修上の指示事項

後期学年末試験と平常点（出席）から評価する。

■備考（オフィスアワー）

講義で取り上げる作曲家の代表的な作品について、あらすじや内容を予習しておくとうい。

英語会話 I a

代表教員：平田 アンナ
曜日時限：月曜3限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：言語・音声トレーニングセンター
開設区分：音楽併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

このクラスでは基礎を踏まえて、実際に使える英語に慣れることを目指します。具体的には、英語のリズム、抑揚、間のおき方、日常英語の言い回し、などです。リラックスして、自信を持って英語を聞いたり話したり出来るように毎回練習を重ねます。

■授業計画及び内容

様々な Class Activities を通して、英語を総合的に（リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング）学びます。英語圏と日本の文化的背景が異なるために生じる微妙なニュアンスの違いや、文法の説明などは、日本語で説明しますが、授業全体は基本的に英語で行います。

■教材・参考書

プリントを随時配布します。

■成績評価の方法

出席、授業参加率、授業態度、課題、小テスト（クイズ）の成果によって総合的に評価しますが、このうち出席と授業参加態度を最も重要視します。

■履修上の指示事項

このクラスは中級のクラスです。初級、あるいは中級の上～上級と自己判断した学生は遠慮してください。聴講は認めません。授業初日に Placement Test を行います。初日に出席出来ない学生は、必ず言語・音声トレーニングセンター（音トレ）に連絡してください。出席は非常に重要です。通年、2回連続無断欠席、および10回以上の欠席は失格です。授業には必ず辞書、B5のルーズリーフを持参のこと。

■備考（オフィスアワー）

メールでアポイントメントを取ってください。連絡先は、言語・音声トレーニングセンター（音トレ）に問い合わせてください。

英語会話 I a

代表教員：平田 アンナ
曜日時限：月曜3限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：言語・音声トレーニングセンター
開設区分：音楽併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

このクラスでは基礎を踏まえて、実際に使える英語に慣れることを目指します。具体的には、英語のリズム、抑揚、間のおき方、日常英語の言い回し、などです。リラックスして、自信を持って英語を聞いたり話したり出来るように毎回練習を重ねます。

■授業計画及び内容

様々な Class Activities を通して、英語を総合的に（リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング）学びます。英語圏と日本の文化的背景が異なるために生じる微妙なニュアンスの違いや、文法の説明などは、日本語で説明しますが、授業全体は基本的に英語で行います。

■教材・参考書

プリントを随時配布します。

■成績評価の方法

出席、授業参加率、授業態度、課題、小テスト（クイズ）の成果によって総合的に評価しますが、このうち出席と授業参加態度を最も重要視します。

■履修上の指示事項

このクラスは中級のクラスです。初級、あるいは中級の上～上級と自己判断した学生は遠慮してください。聴講は認めません。授業初日に Placement Test を行います。初日に出席出来ない学生は、必ず言語・音声トレーニングセンター（音トレ）に連絡してください。出席は非常に重要です。通年、2回連続無断欠席、および10回以上の欠席は失格です。授業には必ず辞書、B5のルーズリーフを持参のこと。

■備考（オフィスアワー）

First Term:

1. Introduction to the class.
2. Question and Answer, begin Unit 1, "To be,"

“Personal Information.”

3. Question and Answer, complete Unit 1, “Meeting People.”

4. Question and Answer, begin Unit 2, “To be?location a

英語会話 I b

代表教員：グリブル ジョン

曜日時限：火曜 2限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：言語・音声トレーニングセンター

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

The purpose of this class is to help students be able to understand and communicate easily in useful English. The goal is to have each student develop an English communication strategy which works.

This is a speaking and listening class. In order to be successful, students must attend class regularly, do all the exercises and activities, have their textbooks, dictionaries and other supplies with them in class, practice their English on their own, and be ready for in-class interviews.

The class will follow a similar format each week. There will be a Question and Answer (“Q & A”) session. Each student answers one of several conversation questions, such as, “What did you do last Saturday?” or, “What’s your favorite class? Why?” This will be followed by a review. The students will then work as a class, in groups, or in pairs on that week’s textbook material.

There will also be other activities, which may include games, songs, pronunciation drills, or a group activity. There will be occasional in-class interviews.

This is an English-only class.

■授業計画及び内容

First Term:

1. Introduction to the class.
2. Question and Answer, begin Unit 1, “To be,” “Personal Information.”
3. Question and Answer, complete Unit 1,

“Meeting People.”

4. Question and Answer, begin Unit 2, “To be? location and objects.”

5. Question and Answer, complete Unit 2, “Around town, around the world.”

6. Question and Answer, begin Unit 3, Continuous verb tense, “Activities.”

7. Question and Answer, Complete Unit 3, “More Activities,” Review.

8. Question and Answer, begin Unit 4, Possessive adjectives, “Activities.”

9. Question and Answer, complete Unit 4, More Possessives

10. Question and Answer, begin Unit 5, “Yes/No questions and answers.”

11. Question and Answer, complete Unit 5, Review.

12. Question and Answer, begin Unit 6, Prepositions of location, “Family.”

13. Question and Answer, complete Unit 6, prepositions, “Activities and Events,” Review.

14. Final Interview Examination

Second Term:

1. Introduction and Review.

2. Question and Answer, begin Unit 7, plurals, “Locating places.”

3. Question and Answer, complete Unit 7, “Describing places.”

4. Question and Answer, begin Unit 8, more plurals, “Clothes.”

5. Question and Answer, complete Unit 8, “This, That, These, Those.”

6. Question and Answer, begin Unit 9, present tense, “Languages and Nationalities.”

7. Question and Answer, complete Unit 9, Review.

8. Question and Answer, begin Unit 10, present tense, “Activities.”

9. Question and Answer, complete Unit 10, “Special Interests.”

10. Question and Answer, begin Unit 11, adverbs of frequency, “How often...?”

11. Question and Answer, complete Unit 11, “Describing people.”

12. Question and Answer, begin Unit 12, “Feelings.”

13. Question and Answer, complete Unit 12, “Unusual Activities,” Review.

14. Final Interview Examination

■教材・参考書

Molinsky and Bliss, Side By Side, Third Edition, Student Book One, Pearson Longman.

■成績評価の方法

出席状況と授業活動への参加具合をみて採点します。

■履修上の指示事項

英和辞典、和英辞典、英語学習者用辞典、筆記用具とノート類を持参すること。

■備考（オフィスアワー）

教室で指示する。

英語会話 I b

代表教員：グリブル ジョン

曜日時限：火曜 2限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：言語・音声トレーニングセンター

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

The purpose of this class is to help students be able to understand and communicate easily in useful English. The goal is to have each student develop an English communication strategy which works.

This is a speaking and listening class. In order to be successful, students must attend class regularly, do all the exercises and activities, have their textbooks, dictionaries and other supplies with them in class, practice their English on their own, and be ready for in-class interviews.

The class will follow a similar format each week. There will be a Question and Answer ("Q & A") session. Each student answers one of several conversation questions, such as, "What did you do last Saturday?" or, "What' s your favorite class? Why?" This will be followed by a review. The students will then work as a class, in groups, or in pairs on that week' s textbook material.

There will also be other activities, which may include games, songs, pronunciation drills, or a group activity. There will be occasional in-class interviews.

This is an English-only class.

■授業計画及び内容

このクラスの目的は、英語を積極的に使うことにより、会話能力を高めることです（中級）。コミュニケーション技能を向上させるために、読む、書く、聞く、話すことを通じて、英語に習熟しましょう。

■教材・参考書

<授業内容>

このコースは、レベルチェックテストと自己紹介から始まります。英語で課題に取り組んでもらいます。単語の小テストを授業の始めに行います。授業中の話題や課題のため、新聞やブログの記事を使います。年度末に、一年のまとめの提出とインタビューがあります。

<授業計画>

Tasks include:

Introductions - talking about likes/dislikes/personalities/family<

■成績評価の方法

テキストは使いませんが、プリントや課題をまとめる A4 ファイルが必要。

■履修上の指示事項

出席、授業への参加具合、課題の達成度、単語テストと、ポートフォリオとインタビューに基づき採点します。

■備考（オフィスアワー）

このクラスのレベルは、「英語中級」（美術学部）・「英語Ⅱ」（音楽学部）に相当します。

最初の授業でレベルチェックテストを行います。毎回出席し、欠席する場合には、欠席届を提出すること。課題をやり遂げること、積極的な参加姿勢が求められます。欠席する場合には、教師に授業進度を確認してください。

英語会話 I c

代表教員：コリンズ キム ソノコ

曜日時限：水曜3限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：言語・音声トレーニングセンター

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

このクラスの目的は、英語を積極的に使うことにより、会話能力を高めることです（中級）。コミュニケーション技能を向上させるために、読む、書く、聞く、話すことを通じて、英語に習熟しましょう。

■授業計画及び内容

<授業内容>

このコースは、レベルチェックテストと自己紹介から始まります。英語で課題に取り組んでもらいます。単語の小テストを授業の始めに行います。授業中の話題や課題のため、新聞やブログの記事を使います。年度末に、一年のまとめの提出とインタビューがあります。

<授業計画>

Tasks include:

Introductions - talking about likes/dislikes/personalities/family

Presentations/show and tell on a topic such as travel/food/culture

Writing a diary/blog

Powerpoint/visual presentation of an inspirational person/movie

Discuss/express opinions on a topic - Example: The Future/Environment

Interview

■教材・参考書

テキストは使いませんが、プリントや課題をまとめる A4 ファイルが必要。

■成績評価の方法

出席、授業への参加具合、課題の達成度、単語テストと、ポートフォリオとインタビューに基づき採点します。

■履修上の指示事項

このクラスのレベルは、「英語中級」（美術学部）・「英語Ⅱ」（音楽学部）に相当します。

最初の授業でレベルチェックテストを行います。毎回出席し、欠席する場合には、欠席届を提出すること。課題をやり遂げること、積極的な参加姿勢が求められます。欠席する場合には、教師に授業進度を確認してください。

■備考（オフィスアワー）

Email: [メールアドレスは G-net シラバスに記載]

英語会話Ⅱa

代表教員：グリブル ジョン

曜日時限：火曜3限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：言語・音声トレーニングセンター

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

このクラスの目的は、学生の英語を話す能力、読み、書く能力を、会話Ⅰのクラスに引き続き練習を通して上達させることである。初回授業で担当教員による面接をし、英語力が十分に達しているか判断する。主な教材としては、さまざまなアーティストとのコラボレーションをするチェリスト、ヨー・ヨー・マのビデオ教材、「Inspired By Bach」を用いる。学生はこのビデオについて議論をするほか、芸術をテーマとした短い発表を2回おこなう。授業では、教科書“Side by Side, Third Edition, Book 1”も使用する。

■授業計画及び内容

First Term, Week:

1. Introduction to the class, Student Interviews
2. Video, “Struggle For Hope” (1) textbook exercise
3. Video, “Struggle For Hope” (2) textbook exercise
4. Video, “Falling Down Stars” (1) textbook exercise
5. Presentation Demonstration and Topics
6. Video, “Falling Down Stars” (2) textbook exercise
7. Video, “The Music Garden” (1) Foreigner interview questions
8. Video, “The Music Garden” (2) Foreigner interview questions
9. Presentation skills and practice
10. Presentations (1)
11. Presentations (2)
12. Foreigner interview questionnaire distributed, interview strategies discussed.
13. Review of the videos
14. Final discussion? Ranking the three videos

Second Term, Week:

1. Review of the First Term materials.
2. Video, “Six Gestures” (1) textbook exercise
3. Video, “Six Gestures” (2) textbook exercise
4. Foreigner Interview presentations
5. Presentation Demonstration and Topics
6. Video, “Sarabunde” (1) textbook exercise
7. Video, “Sarabunde” (2) textbook exercise
8. Video, “The Sound of the Garceri” (1) textbook exercise
9. Video, “The Sound of the Garceri” (2) textbook exercise
10. Presentations
11. Presentations
12. Review of Second Term videos
13. Review of First Term videos.
14. Final meeting? Review and ranking all six videos

■教材・参考書

Molinky, Steven J. and Bill Bliss, Side By Side, Third Edition, Book 1.

■成績評価の方法

出席回数、授業への参加度、課題の提出具合によって成績が付与される。

■履修上の指示事項

学生は毎回授業に出席し、クラスの活動やディスカッションに参加すること。また、期日内に課題を提出すること。

■備考（オフィスアワー）

学生と相談して決める。

英語会話Ⅱb

代表教員：コリンズ キム ソノコ

曜日時限：木曜3限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：言語・音声トレーニングセンター

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

このクラスの目的は、英語を積極的に使うことにより、会話能力を高めることです（上級）。コミュニケーション技能を向上させるために、読む、書く、聞く、話すことを通じて、英語能力を高めましょう。

■授業計画及び内容

<授業内容>

このコースは、レベルチェックテストと自己紹介から始まります。英語で課題に取り組んでもらいます。単語の小テストを授業の始めに行います。授業中の話題や課題のため、新聞やブログの記事を使います。年度末に、一年のまとめの提出とインタビューがあります。

<授業計画>

Tasks include:

Introductions - talking about likes/dislikes/personalities/family

Presentations/show and tell on a topic such as travel/food/culture

Writing a diary/blog

Powerpoint/visual presentation of an inspirational person/movie

Discuss/express opinions on a topic - Example: The Future/Environment

Interview

■教材・参考書

テキストは使いませんが、プリントや課題をまとめる A4 ファイルが必要。

■成績評価の方法

出席、授業への参加度、課題の達成、単語テストと、ポートフォリオとインタビューに基づき採点します。

■履修上の指示事項

このクラスのレベルは、「英語上級」（美術学部）・「英語演習」（音楽学部）に相当します。

最初の授業でレベルチェックテストを行います。毎回出席し、欠席する場合には、欠席届を提出すること。課題をやり遂げること、積極的な参加姿勢が求められます。欠席する場合には、教師に授業進捗と課題を確認してください。

■備考（オフィスアワー）

Email: [メールアドレスは G-net シラバスに記載]

英語会話Ⅲa

先は言語・音声トレーニングセンター（音トレ）に
問い合わせてください。

代表教員：平田 アンナ

曜日時限：月曜4限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：言語・音声トレーニングセンター

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

日常会話はもとより、時事問題、歴史・文化など多岐に渡る話題についてある程度自由に会話ができる学生の為の上級のクラスです。レベルは月曜・5限、英語会話ⅡIbの一つ下になります。様々な状況に対応出来るように英語のコミュニケーションスキルを総合的に向上させるのが目的です。

■授業計画及び内容

主教材を基にボキャブラリーや慣用表現を増やし、新聞、雑誌、テレビドラマ、エッセーなどの副教材を通して、英語圏の文化を学び、文化比較など、様々なテーマについて日常会話、およびディスカッションの練習を重ねます。又、話すのみでなく、書く事によって自分の意見や感想をよりの確に表現出来るようにします。

■教材・参考書

プリントを随時配布します。

■成績評価の方法

出席、授業参加率、授業態度、課題、小テスト(クイズ)の成果によって総合的に評価しますが、このうち「出席と授業参加」を最も重視します。

■履修上の指示事項

このクラスは上級のクラスです。聴講は認めません。初日に Placement Test を行います。どうしても初日に出席できない場合は、前もって言語・音声トレーニングセンター(音トレ)に連絡すること。以後、公欠、その他の理由でやむを得ず欠席する場合は、必ず前もって届け出ること。年間9回まで欠席可。二度連続無断欠席は失格。B5 のルーズリーフと辞書を必ず持参すること。

■備考 (オフィスアワー)

メールでアポイントメントを取ってください。連絡

英語会話Ⅲb

代表教員：平田 アンナ
曜日時限：月曜5限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：言語・音声トレーニングセンター
開設区分：音楽併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

日常会話はもとより、時事問題、歴史・文化など多岐に渡る話題についてかなり自由に会話ができる学生の為の上級のクラスです。レベルは月曜・4限、英語会話Ⅲaの一つ上になります。様々な状況に対応できるように英語のコミュニケーションスキルを総合的に向上させるのが目的です。

■授業計画及び内容

主教材を基にボキャブラリーや慣用表現を増やし、新聞、雑誌、映画、エッセーなどの副教材を通して、英語圏の文化を学び、文化比較など、様々なテーマについて高度なディスカッションの練習を重ねます。又、話すのみでなく、書く事によって自分の意見や感想をよりの確に表現出来るようにします。

■教材・参考書

プリントを随時配布します。

■成績評価の方法

出席、授業参加率、授業態度、課題、小テスト（クイズ）の成果によって総合的に評価しますが、このうち「出席と授業参加」を最も重視します。

■履修上の指示事項

このクラスは上級のクラスです。聴講は認めません。初日に Placement Test を行います。どうしても初日に出席できない場合は、前もって言語・音声トレーニングセンター（音トレ）に連絡すること。以後、公欠、その他の理由でやむを得ず欠席する場合は、必ず前もって届け出る。年間9回まで欠席可。二度連続無断欠席は失格。B5 のルーズリーフと辞書を必ず持参すること。

■備考（オフィスアワー）

メールでアポイントメントを取ってください。

英語原典指導A

代表教員：グリブル ジョン
曜日時限：火曜5限
学 期：通年
単 位 数：0
ジャンル：言語・音声トレーニングセンター
開設区分：音楽併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

学生の個人的問題に即した指導を行う。

■授業計画及び内容

個別指導を必要とする学生を対象とする。論文執筆のための準備、留学のための必要書類添削、語学検定試験のための準備、演奏会のための歌詞の発音チェックなど、あらかじめ学生が準備してきた内容を個別に指導する。原則として一人あたり30分の指導が受けられる。

■教材・参考書

■成績評価の方法

無単位の授業であり、成績評価の対象外である。（この授業を履修登録することはできない。）

■履修上の指示事項

指導を希望する学生はその都度、言語・音声トレーニングセンター教員室（音楽学部4号館4-209）にて予約をすること。都合が悪くなった場合は、必ず当センターに連絡をすること。

■備考（オフィスアワー）

英語原典指導 B

代表教員：コリンズ キム ソノコ
曜日時限：水曜 4 限
学 期：通年
単 位 数：0
ジャンル：言語・音声トレーニングセンター
開設区分：音楽併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

学生の個人的問題に即した指導を行う。

■授業計画及び内容

個別指導を必要とする学生を対象とする。論文執筆のための準備、留学のための必要書類添削、語学検定試験のための準備、演奏会のための歌詞の発音チェックなど、あらかじめ学生が準備してきた内容を個別に指導する。原則として一人あたり 30 分の指導が受けられる。

■教材・参考書

■成績評価の方法

無単位の授業であり、成績評価の対象外である。(この授業を履修登録することはできない。)

■履修上の指示事項

指導を希望する学生はその都度、言語・音声トレーニングセンター教員室(音楽学部 4 号館 4-209)にて予約をすること。都合が悪くなった場合は、必ず当センターに連絡をすること。

■備考 (オフィスアワー)

英語作文 I

代表教員：グリブル ジョン
曜日時限：火曜 4 限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：言語・音声トレーニングセンター
開設区分：音楽併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

このクラスの主目的は、学生の英語を書く能力を練習によって伸ばすことです。受講生は、毎週、クラスの中でさまざまな話題について書く練習をし、学生同士で間違いを訂正します。また、自分が前週に書いた文章もチェックします。アイデアを生みだし、それを効果的に表現するテクニックを学んでいきます。

■授業計画及び内容

First term, Week:

1. Introduction to the class. Discussion: "Why do we write?"
2. Self Introduction
3. Introduce a Classmate
4. "Morning Person/Night Person"
5. "My Family"
6. "A Family Member"
7. "The Weekend"
8. A Scary or Funny Story (1)
9. A Scary or Funny Story (2)
10. My Favorite Holiday
11. The Best (or Worst) Part of the Holiday Vacation.
12. "A Person Important to Me"
13. Plans for the Semester Break.
14. Group Haiku translation

Second term, Week:

1. Best (or Worst) of Summer
2. My Best (or Worst) Day ever (1)
3. My Worst (or Best) Day Ever (2)
4. My Favorite Place (1)
5. My Favorite Place (2)
6. Write a Story (1)
7. Write a Story (2)
8. The Ideal Spouse

- 9. “My Other Career”
- 10. Why I Came to Geidai
- 11. My Opinion
- 12. Poems in English (1)
- 13. Poems in English (2)
- 14. Final Class Meeting? Writing a Song

■教材・参考書

Singleton, Jill. Writers at Work: The Paragraph.

和英辞典、英和辞典、筆記用具（赤ペンか赤鉛筆を含む）

また、英語学習者用辞典 (Longman or Oxford) の使用を薦める。

■成績評価の方法

出席と課題の提出具合により採点する。

■履修上の指示事項

学生は毎回出席し、与えられた作文の課題を仕上げるように。

■備考（オフィスアワー）

教室で指示する。

英語総合講座（言語学入門）

代表教員：磯部 美和

曜日時限：水曜 2限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：言語・音声トレーニングセンター

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

英語から見た日本語とその獲得

■授業計画及び内容

私たちが母語として身につけている日本語の興味深い特徴を、英語や他の外国語、日本語の方言と比較しながら検討する。また、人間がどのように母語を獲得するのか、という問いも取り上げる。

（したがって、この授業では、他の英語科目で行うような英語の運用能力を高める練習等を行わない。）

具体的には、主に以下の項目について順次解説していく予定である。受講者とのディスカッションを多く取り入れる。

1. 英語・日本語の持つ性質とその共通性
2. 英語・日本語の獲得過程

■教材・参考書

<教材>

適宜プリントを配布する。

<参考書>

適時指示する。

■成績評価の方法

・各学期末レポート・（遅刻回数を含む）出席状況・授業への貢献度を総合的に評価する。特に、ディスカッションへの積極的な参加、および自分の頭でよく考える姿勢を高く評価する。

・各学期、総授業回数の 1/3 以上の無断欠席は失格とする。

■履修上の指示事項

・履修希望者は初回の授業に必ず出席すること。初回授業に出られない場合は、4月14日（月）までに言語・音声トレーニングセンター教員室にて、指示を受けること。聴講は不可。

・単位は「自由科目」（音楽学部）・「教養科目」（美術学部）として認定される。

■備考（オフィスアワー）

金曜日 15:00-17:00

英語ディスカッションⅡ

代表教員：コリンズ キム ソノコ

曜日時限：火曜2限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：言語・音声トレーニングセンター

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

このクラスの目的は、英語でディスカッションやディベートをする技能を向上させることです。

■授業計画及び内容

<授業内容>

レベルチェックテストと自己紹介から授業を始めます。

授業活動には、ディスカッション、ディベートの練習とともにライティングも含まれます。インターネットや新聞で調べることが求められます。

読む、書く、聴く、話す能力を向上させることや、語彙を増やすことも授業の目的のひとつです。

ディスカッションやディベートの論題について、小論を書くことも求められます。

年度末に自己評価、インタビューがあります。

■教材・参考書

テキストは使いません。インターネットを元にしたハンドアウトや調査（学生のものを含む）を使います。小論を書く際、A4 ファイルが必要。

■成績評価の方法

出席、授業への参加具合、課題の達成度、自己評価、インタビューにより、採点します。

■履修上の指示事項

このクラスのレベルは、「英語上級」（美術学部）・「英語演習」（音楽学部）に相当します。

最初の授業でレベルチェックテストをします。毎回授業に出席し、欠席する場合には欠席届を提出すること。課題をやり遂げること、積極的な参加姿勢が求められます。

■備考（オフィスアワー）

Email: [メールアドレスはG-net シラバスに記載]

英語プレゼンテーションⅡ

代表教員：コリンズ キム ソノコ
曜日時限：水曜2限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：言語・音声トレーニングセンター
開設区分：音楽併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

このクラスの目的は、英語でプレゼンテーションを行う技能を向上させることです。

■授業計画及び内容

<授業内容>

レベルチェックテストと自己紹介から授業を始めます。

授業活動には、プレゼンテーション技術の練習とともにスピーチ原稿を書くことも含まれます。

読む、書く、聴く、話す力を向上させることや、語彙を増やすことも授業の目的のひとつです。

授業では、視聴覚教材も使用します。

授業期間中、スピーチやプレゼンテーションを書くことも求められます。

年度末に、最終プレゼンテーションと自己評価をしてもらいます。

■教材・参考書

教科書は使いません。スピーチ原稿を書く際に、A4ファイルを持ってくること。

■成績評価の方法

出席、授業活動への参加具合、課題の達成度や、学期末のプレゼンテーションにより、採点します。

■履修上の指示事項

このクラスのレベルは、「英語上級」(美術学部)・「英語演習」(音楽学部)に相当します。

最初の授業でレベルチェックテストをします。毎回授業に出席し、欠席する場合には欠席届を提出すること。課題をやり遂げ、授業活動に十分参加するように。

■備考(オフィスアワー)

Email:[メールアドレスはG-net シラバスに記載]

実用イタリア語Ⅱ

代表教員：ジェレヴィーニ アレッサンドロ
曜日時限：水曜3限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：言語・音声トレーニングセンター
開設区分：音楽併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

挨拶よりさらに踏み込んだ内容の会話を持続させることができるように、練習します。

■授業計画及び内容

イタリア語文法の基礎的知識をすでに身につけ、会話も出来るけれど、さらに磨きをかけたいと思っている学生、あるいは奨学金を獲得し、イタリアの大学で勉強したいと思っている学生などを対象とします。

教科書にそって授業を進めます。

またイタリアの大衆文化に対する理解を深める目的でポップス、映画などを紹介することを考えています。

■教材・参考書

教科書：

『Nuovo Progetto italiano 1』 Edilingua.

参考書：

クラウドイオ・マネッラ『Ecco!イタリア語文法』
Progetto Lingua.

辞書：

『伊和中辞典・第2版』小学館；

『和伊中辞典・第2版』小学館；

『ポケット・プログレッシブ 伊和・和伊辞典』小学館

■成績評価の方法

年2回の期末テストの他、出席回数、積極的な授業参加などを参考にして採点します。

■履修上の指示事項

■備考(オフィスアワー)

学生と相談した上、決める。

実用英語 I a

代表教員：磯部 美和

曜日時限：月曜 2限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：言語・音声トレーニングセンター

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

英語による自己表現能力の養成

■授業計画及び内容

これまでの英語学習で身につけてきた基本的な知識を基に、「話す」「書く」といった能動的な活動を行うことで、日常会話能力・自己表現能力をさらに養う。主に以下の項目について扱っていく予定である。

1. 基本的な構文・文法事項などの学習
2. 身近なトピックに関する会話・ディスカッション
3. 単語・表現の小テスト（毎回授業開始時に実施）
4. 自分の研究領域についてのプレゼンテーション

■教材・参考書

<教材>

受講者と相談のうえ決定する。

<参考書>

授業時間内に紹介する。

■成績評価の方法

各学期末試験・毎回の小テスト・平常点（遅刻回数を含む出席状況および授業態度）を総合的に評価する。各学期、総授業回数の 1/3 以上の無断欠席は失格とする。

■履修上の指示事項

・履修希望者は初回の授業に必ず出席してレベルチェックテストを受けること。初回授業に出られない場合は、4月11日（金）までに言語・音声トレーニングセンター教員室に相談し、指示を受けること。聴講は不可。

・このクラスのレベルは、「英語中級」（美術学部）・「英語Ⅱ」（音楽学部）に相当するので、基本的な英文法や語彙を身につけていることを前提とする。

・原則として、実用英語 I b, II a, II b との重複履修不可。

・授業への積極的な参加姿勢、および十分な予習・復習が要求される。

■備考（オフィスアワー）

金曜日 15:00-17:00

実用英語 I b

代表教員：磯部 美和

曜日時限：金曜 2 限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：言語・音声トレーニングセンター

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

英語による自己表現能力の養成

■授業計画及び内容

これまでの英語学習で身につけてきた基本的な知識を基に、「話す」「書く」といった能動的な活動を行うことで、日常会話能力・自己表現能力をさらに養う。主に以下の項目について扱っていく予定である。

1. 基本的な構文・文法事項などの学習
2. 身近なトピックに関する会話・ディスカッション
3. 単語・表現の小テスト（毎回授業開始時に実施）
4. 自分の研究領域についてのプレゼンテーション

■教材・参考書

<教材>

受講者と相談のうえ決定する。

<参考書>

授業時間内に紹介する。

■成績評価の方法

各学期末試験・毎回の小テスト・平常点（遅刻回数を含む出席状況および授業態度）を総合的に評価する。各学期、総授業回数の 1/3 以上の無断欠席は失格とする。

■履修上の指示事項

・履修希望者は初回の授業に必ず出席してレベルチェックテストを受けること。初回授業に出られない場合は、4月16日（水）までに言語・音声トレーニングセンター教員室に相談し、指示を受けること。聴講は不可。

・このクラスのレベルは、「英語中級」（美術学部）・「英語Ⅱ」（音楽学部）に相当するので、基本的な英文法や語彙を身につけていることを前提とする。

・原則として、実用英語 I a, II a, II b との重複履修不可。

・授業への積極的な参加姿勢、および十分な予習・復習が要求される。

■備考（オフィスアワー）

金曜日 15:00-17:00

実用英語 I b

代表教員：磯部 美和
曜日時限：金曜 2限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：言語・音声トレーニングセンター
開設区分：音楽併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

英語による自己表現能力の養成

■授業計画及び内容

ベートーヴェンのピアノソナタの研究

■教材・参考書

ベートーヴェンのピアノソナタ第 1～11 番を題材にして読譜と演奏を考察する。

■成績評価の方法

ベートーヴェン ピアノソナタ集
他についてはその都度指示する。

■履修上の指示事項

平常点

■備考（オフィスアワー）

学年末に簡単なレポート提出を求める。

実用英語 I c

代表教員：コリンズ キム ソノコ
曜日時限：火曜 3限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：言語・音声トレーニングセンター
開設区分：音楽併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

このクラスの目的は、学術のために実践的な能力（中級）を身につけることです。読む、書く、話す、聞く、語彙を増やすことで英語に習熟しましょう。

■授業計画及び内容

<授業内容>

最初の授業でレベルチェックテストと導入を行います。

読む、書く、語彙を増やすことや、話す能力に焦点を当てます。

学期中、単語テストを行います。

学期末には、プレゼンテーション、自己評価、インタビューが求められます。

<授業計画>

Topics (based on Text)

1st Semester:

Study Abroad - filling forms/writing emails

Countries - descriptions/presentation

Modern Technology - discussion for and against

Conferences and visits - formal writing/speech

2nd Semester:

Science and the world - paraphrasing, summarizing/expressing opinions

People: past and present - research on internet-presentation

IT/Computers - linking ideas/abbreviations/crediting sources/written report

Inventions, process - describing a process

Travel and tourism - interpreting data and presenting graphs, charts.

■教材・参考書

New Headway Academic Skills, Reading, Writing,

and Study Skills Level 2 (Sarah Philpot/ Series Editors John and Liz Soars: 2010 Oxford)

■成績評価の方法

出席、授業への参加具合、課題の達成度、単語テスト、プレゼンテーション、学期末のインタビューによって採点します。

■履修上の指示事項

このクラスのレベルは、「英語中級」(美術学部)・「英語 II」(音楽学部)に相当します。

最初の授業でレベルチェックテストを行います。毎回授業に出席し、欠席する場合には欠席届を提出すること。課題をやり遂げ、授業活動に十分参加するように。欠席した時は、授業の進捗を教師に確認して下さい。

■備考 (オフィスアワー)

Email: [メールアドレスは G-net シラバスに記載]

実用英語 II a

代表教員: 磯部 美和

曜日時限: 月曜 3限

学 期: 通年

単 位 数: 2

ジャンル: 言語・音声トレーニングセンター

開設区分: 音楽併設

交流区分: 交流

■授業のテーマ

英語による自己表現能力の養成

■授業計画及び内容

これまでの英語学習で身につけてきた運用能力を基に、「話す」「書く」といった能動的な活動を行うことで、より高度な日常会話能力・自己表現能力を養う。主に以下の項目について扱っていく予定である。

1. 実用的な表現方法や論理的に意見を述べる方法
2. 身近なトピックに関するディスカッション
3. 自分の研究領域についてのプレゼンテーション
4. 単語・表現の小テスト (毎回授業開始時に実施)

■教材・参考書

<教材>

新聞記事やインターネット上の講演ビデオを利用する予定であるが、詳細は受講者と相談のうえ決定する。

<参考書>

授業時間内に紹介する。

■成績評価の方法

各学期末試験・毎回の小テスト・平常点(遅刻回数を含む出席状況および授業への貢献度)を総合的に評価する。各学期、総授業回数の 1/3 以上の無断欠席は失格とする。

■履修上の指示事項

・履修希望者は初回の授業に必ず出席してレベルチェックテストを受けること。初回授業に出られない場合は、4月11日(金)までに言語・音声トレーニングセンター教員室に相談し、指示を受けること。聴講は不可。

・このクラスのレベルは、「英語上級」(美術学部)・「英語演習」(音楽学部)に相当するので、高等学校

までで学習した英文法・表現を復習済みであることを前提とする。

・原則として、実用英語 I a, I b, II b との重複履修不可。

・授業への積極的な参加姿勢、および十分な予習・復習が要求され

■備考（オフィスアワー）

金曜日 15:00-17:00

実用英語 II b

代表教員：磯部 美和

曜日時限：金曜 3限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：言語・音声トレーニングセンター

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

英語による自己表現能力の養成

■授業計画及び内容

これまでの英語学習で身につけてきた運用能力を基に、「話す」「書く」といった能動的な活動を行うことで、より高度な日常会話能力・自己表現能力を養う。主に以下の項目について扱っていく予定である。

1. 実用的な表現方法や論理的に意見を述べる方法
2. 身近なトピックに関するディスカッション
3. 自分の研究領域についてのプレゼンテーション
4. 単語・表現の小テスト（毎回授業開始時に実施）

■教材・参考書

<教材>

新聞記事やインターネット上の講演ビデオを利用する予定であるが、詳細は受講者と相談のうえ決定する。

<参考書>

授業時間内に紹介する。

■成績評価の方法

各学期末試験・毎回の小テスト・平常点（遅刻回数を含む出席状況および授業態度）を総合的に評価する。各学期、総授業回数の 1/3 以上の無断欠席は失格とする。

■履修上の指示事項

・履修希望者は初回の授業に必ず出席してレベルチェックテストを受けること。初回授業に出られない場合は、4月16日（水）までに言語・音声トレーニングセンター教員室に相談し、指示を受けること。聴講は不可。

・このクラスのレベルは、「英語上級」（美術学部）・「英語演習」（音楽学部）に相当するので、高等学校

までで学習した英文法・表現を復習済みであることを前提とする。

・原則として、実用英語 I a, I b, II b との重複履修不可。

・積極的な参加姿勢、および十分な予習・復習が要求される。

■備考（オフィスアワー）

金曜日 15:00-17:00

実用英語ⅡC

代表教員：コリンズ キム ソノコ

曜日時限：木曜4限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：言語・音声トレーニングセンター

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

このクラスの目的は、(上級)英語における実践的な能力を身につけることです。読み書きの課題とプレゼンテーションに加え、話す／聞く／語彙を増やすことで英語に習熟しましょう。

■授業計画及び内容

<授業内容>

最初の授業でレベルチェックテストと導入を行います。

話す、聞く、そして読み書き能力に焦点を当てます。単語小テストやプレゼンテーションを課します。

<授業計画>

トピック (based on Text)

前期:

1. Moving on : new places , new people - Introductions
2. Island States: talking about countries
3. Careers in the media: talking about jobs and studies
4. Innovations from nature: using visuals , describing objects
5. Conversations: making conversation

後期:

6. Food Science: listening for gist, taking notes, checking understanding.
7. Great Lives: Listening for details, giving opinions and presentation.
8. Communication: surveys, talking to strangers
9. Significant objects: supporting an argument
10. Responsible Tourism: longer listening , transitions , dealing with questions and presentation.

■教材・参考書

Headway Academic Skills Listening, Speaking and Study Skills Level 2 (Sarah Philpot and Lesley Curnick: Oxford 2011)

■成績評価の方法

このクラスのレベルは、「英語上級」(美術学部)・「英語演習」(音楽学部)に相当します。

出席、授業への参加度、課題の達成度、単語小テスト、プレゼンテーション、期末口頭試験によって評価します。

■履修上の指示事項

最初の授業でレベルチェックテストを行います。毎回授業に出席し、欠席する場合には欠席届を提出すること。課題をやり遂げ、授業活動に十分参加するように。欠席した時は、授業の進度を教師に確認して下さい。

■備考 (オフィスアワー)

Email: [メールアドレスは G-net シラバスに記載]

実用ドイツ語 I a

代表教員: シュタイン ミヒャエル

曜日時限: 水曜 4限

学 期: 通年

単 位 数: 2

ジャンル: 言語・音声トレーニングセンター

開設区分: 音楽併設

交流区分: 交流

■授業のテーマ

初級で勉強した文法・語彙などが、実際に文章や会話でいかに使われるかを知り、体験する。

■授業計画及び内容

初級を終え、さらにドイツ語を続けたいと思う学生のためのコース。イラスト付きのやさしいテキストを使い、会話と練習問題に挑戦する。主にドイツ語をし始めて2年目の学生を対象とする。

■教材・参考書

「蜂蜜瓶の中に消えた指輪」『Der Ring im Honigglas』、同学者

■成績評価の方法

予習・宿題・勉強への積極性・テスト・出席率を基に、成績をつける。

■履修上の指示事項

■備考 (オフィスアワー)

学生と相談の上、決める。

实用ドイツ語 I b

代表教員：ククリンスキ アンドレア
曜日時限：金曜 2 限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：言語・音声トレーニングセンター
開設区分：音楽併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

初級で身についたドイツ語能力を実際の練習において運用させ、ドイツ語による自己表現能力（話す・聞く・読む・書く）を養成する。

■授業計画及び内容

ドイツ語（主に文法）を 1 年以上学んだ学生を対象とする。この授業の第一目的は、学習者があらゆるシチュエーションにおいて、自分から積極的にドイツ語でコミュニケーションを取る能力の養成にある。ドイツ語会話に重点を置く教科書を基盤に、学生全員が参加する実際の練習によってドイツ語の運用能力を高める。発音練習、パートナーとの練習やゲーム等々、数多く取り入れる。練習の第一目的は、学生の日常生活に必要な語彙を増やすことにある。

■教材・参考書

- (1) Menschen “ A1/1, Kursbuch, Hueber-Verlag
- (2) Menschen “ A1/1, Arbeitsbuch, Hueber-Verlag

■成績評価の方法

授業への参加・宿題・出席率・随時行われる小テストを総合的に評価する。中でも授業への積極的な参加を高く評価する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

学生と相談の上、決める。

实用ドイツ語 II

代表教員：ククリンスキ アンドレア
曜日時限：火曜 2 限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：言語・音声トレーニングセンター
開設区分：音楽併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

ドイツ語の能力（読む・書く・聞く・話す）をさらに伸ばし、ドイツ語圏諸国での長期滞在に必要なコミュニケーション・スキルの養成を図る。特に留学や研究を目的とする学生向けへの授業である。

■授業計画及び内容

ドイツ語会話 I や实用ドイツ語 I を終えた学生、またはそれと同等のドイツ語能力を身についた学生を対象とする。実際の練習によって読む・書く・聞く・話す能力を同時に伸ばす。授業の重点は語彙の拡大にあるが、そのために必要な文法練習も含める。特に留学を考える学生にとり、留学先の日常・学生生活に必要な言語能力を養う有益な授業である。

■教材・参考書

- (1) “Menschen “ A1/2, Kursbuch, Hueber-Verlag
- (2) “ Menschen “ A1/2, Arbeitsbuch, Hueber-Verlag

■成績評価の方法

授業への参加・宿題・出席率・たまに行われる小テストを総合的に評価する。中でも授業への積極的な参加を高く評価する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

学生と相談の上、決める。

実用フランス語Ⅱ

代表教員：ヴィエル エリック
曜日時限：月曜5限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：言語・音声トレーニングセンター
開設区分：音楽併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

この授業の到達目標は DELF の B1/B2 を取得できるレベルを養うことにあります。語学試験の準備など、参加する学生の要望、関心、必要性に沿って授業が行われます。

■授業計画及び内容

一年の間に、各自の専門に関連したテーマを選んでフランス語で発表を行っていただきます。この発表は専門的な意味でも実践的な意味でも役に立つでしょう。勉強したことを説明するために、目を引くようなハンドアウト、パソコン、テレビ、ピアノなど、さまざまな手段を自由に用いて発表を行ってください。

DELF の B1/B2 の到達目標は以下の通り。
フランス語を全般に渡って自主的に運用できる。複雑なテキストの要点を理解すると同時に、一般的あるいは専門的な内容の会話に参加し、筋通の通った意見を明確に詳細に述べるができる。

■教材・参考書

教室で配布する。

■成績評価の方法

小テスト、授業への積極的な参加度。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

質問は、授業の前後に受け付ける。

ドイツ語歌詞演習A

代表教員：シュタイン ミヒャエル
曜日時限：火曜3限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：言語・音声トレーニングセンター
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

ロマン主義時代の歌で、「恐怖」や「喜び」がどのような形で表わされるかを今年のごドイツ・リート>のテーマにする。

■授業計画及び内容

ロマン主義時代のドイツ歌詞に見られる「恐怖」や「喜び」が、その時代の歌曲の中でどのように自然現象に結び付けられているかを学ぶ。その際に歌詞の構造・形式・リズム・韻律・解釈なども勉強する。

■教材・参考書

プリントを配布する。

■成績評価の方法

年2回の期末テストの他、予習や出席率も評価の対象にする。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

学生と相談の上、決める。

ドイツ語歌詞演習B

代表教員：シュタイン ミヒャエル
曜日時限：月曜4限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：言語・音声トレーニングセンター
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

A. ベルクが作曲したオペラの傑作「ルル」の歌詞を読み、分析する。

■授業計画及び内容

作品の歌詞を、近代ドイツのドラマとして読む。Wedekindの原作は戯曲で、ドイツ藝術の黄金時代と言われる20世紀初期の政治的・社会的な思想を代表する。

■教材・参考書

プリントを配布する。

■成績評価の方法

年2回の期末テストの他、予習や出席率も評価の対象にする。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

学生と相談の上、決める。

ドイツ語朗読法演習

代表教員：シュタイン ミヒャエル
曜日時限：月曜3限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：言語・音声トレーニングセンター
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

舞台語としてのドイツ語の正しい発音を習得し、歌手にとって適切な発音の仕方や工夫を学ぶ。

■授業計画及び内容

ドイツの舞台芸術家のための教科書を使って、声楽科の学生の発音・朗読の能力を高める演習。ドイツ語の母音・子音をひとつずつ集中的に発音練習していく。2年生から履修できるが、ドイツ語を習った人に限る。

■教材・参考書

Der kleine Hey / Die Kunst des Sprechens

“Sprecherzieherisches Übungsbuch ”

(毎回、教科書を貸与する)

■成績評価の方法

学生の発音能力の進歩具合を基に採点する。継続的な練習が必要なので出席率も重視する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

学生と相談の上、決める。

独語会話 I a

代表教員：シュタイン ミヒヤエル
曜日時限：火曜 4 限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：言語・音声トレーニングセンター
開設区分：音楽併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

ドイツ語は、読み書きだけのものではなく、話し言葉である。特に留学を考えれば、早めに言葉の壁を乗り越えよう。

■授業計画及び内容

初級・中級向きのドイツ語会話。日常的なドイツ語会話の能力をグレード・アップする。ドイツ語をコミュニケーションの手段と見て、おしゃべりするのがこのコースの目的です。

■教材・参考書

プリントを配布する。

■成績評価の方法

授業中の勉強意欲・予習・出席率を基に成績をつけます。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

学生と相談の上、決める。

独語会話 I b

代表教員：ククリンスキ アンドレア
曜日時限：木曜 3 限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：言語・音声トレーニングセンター
開設区分：音楽併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

ドイツ語圏諸国での日常生活に必要な基礎的な会話ができる運用能力を養う。会話の授業であるため、重点は口頭の練習にある。

■授業計画及び内容

ドイツ語（主に文法）を 1 年以上学んだ学生を対象とする。簡単な挨拶などのような身近な場面からスタートし、数多くの練習によってドイツ語の実際の会話能力を養う。授業の重点は「話す・聞く」の能力の養成にあるため、練習の第一目的は、学生の日常生活に必要な語彙を増やすことにある。場合によっては、解読と作文練習も行う。この授業に 1 年間続けて参加することで、ドイツ語圏諸国での日常生活ができる程度のコミュニケーション能力を身につけることを目指す。

■教材・参考書

?studio [21] “ A1/1: Das Deutschbuch, Cornelsen-Verlag

■成績評価の方法

授業への参加・宿題・出席率・随時行われる小テストを総合的に評価する。中でも授業への積極的な参加を高く評価する。さらに、各学期末には、口頭試験を行う。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

学生と相談の上、決める。

独語会話 I c

代表教員：ククリンスキ アンドレア
曜日時限：金曜3限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：言語・音声トレーニングセンター
開設区分：音楽併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

ドイツ語圏諸国での日常生活に必要な基礎的な会話ができる運用能力を養う。会話の授業であるため、重点は口頭の練習にある。

■授業計画及び内容

ドイツ語（主に文法）を1年以上学んだ学生を対象とする。簡単な挨拶などのような身近な場面からスタートし、数多くの練習によってドイツ語の実際の会話能力を養う。授業の重点は「話す・聞く」の能力の養成にあるため、練習の第一目的は、学生の日常生活に必要な語彙を増やすことにある。場合によっては、解読と作文練習も行う。この授業に1年間続けて参加することで、ドイツ語圏諸国での日常生活ができる程度のコミュニケーション能力を身につけることを目指す。

■教材・参考書

?studio [21] “ A1/1: Das Deutschbuch, Cornelsen-Verlag

■成績評価の方法

授業への参加・宿題・出席率・随時行われる小テストを総合的に評価する。中でも授業への積極的な参加を高く評価する。さらに、各学期末には、口頭試験を行う。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

学生と相談の上、決める。

独語会話 II

代表教員：ククリンスキ アンドレア
曜日時限：木曜4限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：言語・音声トレーニングセンター
開設区分：音楽併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

ドイツ語会話の能力をさらに伸ばし、ドイツ語圏諸国での長期滞在に必要なコミュニケーション・スキルの養成を図る。

■授業計画及び内容

ドイツ語の基礎的な会話能力を身につけた学生を対象とし、その能力を実際の会話練習によってさらに伸ばす。ごく簡単な文法を基に、広範囲に渡る内容をドイツ語で表現する能力を習得する。授業の重点は「話す・聞く」の能力の養成にあるため、練習の第一目的は、学生の日常生活に必要な語彙を増やすことにある。場合によっては、解読と作文練習も行う。特に留学を考える学生にとり、留学先の日常・学生生活に必要な言語能力を身につける有益な授業である。また、声楽の学生へ向けて、発音練習も数多く行う。

■教材・参考書

studio d A1, Teilband 2, Cornelsen-Verlag

■成績評価の方法

授業への参加・宿題・出席率・随時行われる小テストを総合的に評価する。中でも授業への積極的な参加を高く評価する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

学生と相談の上、決める。

独語原典指導A

代表教員：シュタイン ミヒヤエル
曜日時限：月曜5限
学 期：通年
単 位 数：0
ジャンル：言語・音声トレーニングセンター
開設区分：音楽併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

学生の個人的問題に即した指導を行う。

■授業計画及び内容

個別指導を必要とする学生を対象とする。論文執筆のための準備、留学のための必要書類添削、語学検定試験のための準備、演奏会のための歌詞の発音チェックなど、あらかじめ学生が準備してきた内容を個別に指導する。原則として一人あたり30分の指導が受けられる。

■教材・参考書

■成績評価の方法

無単位の授業であり、成績評価の対象外である。(この授業を履修登録することはできない。)

■履修上の指示事項

指導を希望する学生はその都度、言語・音声トレーニングセンター教員室(音楽学部4号館4-209)にて予約をすること。都合が悪くなった場合は、必ず当センターに連絡をすること。

■備考(オフィスアワー)

独語原典指導B

代表教員：ククリンスキ アンドレア
曜日時限：木曜2限
学 期：通年
単 位 数：0
ジャンル：言語・音声トレーニングセンター
開設区分：音楽併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

学生の個人的問題に即した指導を行う。

■授業計画及び内容

個別指導を必要とする学生を対象とする。論文執筆のための準備、留学のための必要書類添削、語学検定試験のための準備、演奏会のための歌詞の発音チェックなど、あらかじめ学生が準備してきた内容を個別に指導する。原則として一人あたり30分の指導が受けられる。

■教材・参考書

■成績評価の方法

無単位の授業であり、成績評価の対象外である。(この授業を履修登録することはできない。)

■履修上の指示事項

指導を希望する学生はその都度、言語・音声トレーニングセンター教員室(音楽学部4号館4-209)にて予約をすること。都合が悪くなった場合は、必ず当センターに連絡をすること。

■備考(オフィスアワー)

独語作文 I

代表教員：ククリンスキ アンドレア
曜日時限：火曜 3 限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：言語・音声トレーニングセンター
開設区分：音楽併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

ドイツ語圏諸国において生活ができるように、書く練習を数多く行い、ドイツ語の作文能力を身につける授業である。留学や研究を目的とする学生のために、基礎的な書く能力を養成する。

■授業計画及び内容

ドイツ語を 1 年以上学んだ学生を対象とする。簡単なメモや短い挨拶からスタートし、メール、葉書、手紙等の一般的な文通、日記、描写、報告書、詩や物語等々、数多くの具体的な練習を行い、ドイツ語で文章を作る能力を習得する。言語ゲームなども頻繁に行い、学生の創造力を増やししながらドイツ語の能力を伸ばす。特に留学を考える学生にとり、留学先の日常・学生生活に必要な言語能力を身につける有益な授業である。

■教材・参考書

プリントを配布する。

■成績評価の方法

授業への参加・宿題・出席率を総合的に評価する。テストは行わないが、毎週宿題を課する。

■履修上の指示事項

和独辞典を授業へ持参する必要がある。電子辞書を薦める（ネット上の辞書可）。

■備考（オフィスアワー）

学生と相談の上、決める。

仏語原典指導

代表教員：ヴィエル エリック
曜日時限：木曜 4 限
学 期：通年
単 位 数：0
ジャンル：言語・音声トレーニングセンター
開設区分：音楽併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

学生の個人的問題に即した指導を行う。

■授業計画及び内容

個別指導を必要とする学生を対象とする。論文執筆のための準備、留学のための必要書類添削、語学検定試験のための準備、演奏会のための歌詞の発音チェックなど、あらかじめ学生が準備してきた内容を個別に指導する。原則として一人あたり 30 分の指導が受けられる。

■教材・参考書

■成績評価の方法

無単位の授業であり、成績評価の対象外である。（この授業を履修登録することはできない。）

■履修上の指示事項

指導を希望する学生はその都度、言語・音声トレーニングセンター教員室（音楽学部 4 号館 4-209）にて予約をすること。都合が悪くなった場合は、必ず当センターに連絡をすること。

■備考（オフィスアワー）

仏語初級表現法

代表教員：ヴィエル エリック
曜日時限：火曜 4 限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：言語・音声トレーニングセンター
開設区分：音楽併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

この授業では、将来的に DELF の B1 レベルを取得することを視野に入れていきます。これは、フランスに留学する際に大学から求められるレベルです。この一般フランス語の授業では、特に DELF の A1 を受けられるレベルに到達することを目指します（詳細はサイト delfdalf.jp を参照）。

■授業計画及び内容

フランス語の基本レベル。日常生活での単純で具体的な状況を理解できる。相手がゆっくり話すなら、簡単なコミュニケーションが可能。

■教材・参考書

Crepieux, Callens. "Spirale" Pearson Education Japan. (2450 円)

■成績評価の方法

平常点、出席、授業への参加度。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

学生と相談の上、決める。

フランス語朗読法演習

代表教員：ヴィエル エリック
曜日時限：火曜 3 限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：言語・音声トレーニングセンター
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

この授業はフランス語で歌を歌えるようになるのを望む歌い手のためのものです。フランス語の予備知識は必要ではありませんが、既習であることに越したことはありません（会話の授業を参照）。

■授業計画及び内容

毎回、基本的な発音練習から始め、それから韻律法に入ります。最後に、学生が自分で選んだ作品についてグループで取り組んでももらいます。

■教材・参考書

コピーを配ります。

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

質問は、授業の前後に受け付ける。

保健体育科目

体育 I (球技・ランニング&フィット

ネス)

代表教員：大林 太郎

曜日時限：月曜5限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：保健体育科目

開設区分：美術併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

身体運動の実践を通じて、自己の健康や体力に対する認識を深めるとともに、健康・体力づくりの方法を理解する。また、様々なスポーツ種目の基礎的な動きなどを習得する。さらに、講義を通して、「身体を育む」ことの意義や価値の理解を深める。

■授業計画及び内容

- ・球技：学内施設において、テニス、卓球、フットサル、バスケットボール、バレーボール等を行い、各種目の基礎的な実践能力を身につける。
- ・ランニング&フィットネス：大学周辺（上野公園等）でのランニング&ウォーキング、雨天時には体育館にてストレッチ、レジスタンストレーニング等を行い、それぞれの運動が身体に与える効果について理解する。
- ・なお、本授業では実技だけでなく、スポーツの歴史（古代～近代）や各競技・種目の特徴、および健康科学の理論に関する講義も行う。

■教材・参考書

特に指定しない。

■成績評価の方法

- ・一年間を通じた出席状況及び、積極的な受講態度を評価する。

■履修上の指示事項

- ・週一回、通年で授業を開講する。
- ・運動に適した服装、シューズを準備すること。
- ・基本的には学生が自由に選択する科目であるが、定員を超えた場合にはやむを得ず抽選を行うこともある。
- ・詳細については4月の体育授業ガイダンス時に説明する。

■備考（オフィスアワー）

・月、水、金：13時00分?17時00分（上野校地体育館教員室）

体育 I (球技等スポーツ)

代表教員：数馬 広二
曜日時限：水曜 3限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：保健体育科目
開設区分：美術併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

「身体を育む」ことの意義や価値の理解を深める。

様々なスポーツ種目の基礎的な動きの習得を通して、自己の健康や体力に対する認識を深めるとともに、健康・体力づくりの方法を理解する。また、自らが備えている身体感覚を高める。

■授業計画及び内容

実技だけでなく、各種目の歴史、ルール、競技特性等を踏まえながら、講義も行う。

- ・バドミントンの歴史とルール、シングルス・ゲーム、ダブルス・ゲーム
- ・バレーボールのルール、基礎技能（トス、レシーブなど）、応用技能（レシーブからスパイクへ）、ゲーム
- ・卓球の歴史とルールと基礎技能（ラケットの握り方、ドライブ、バックspin）、シングルス・ゲーム、ダブルス・ゲーム
- ・ユニホックの歴史とルールおよびゲーム（5対5）
- ・アルティメットのルールとゲーム
- ・まとめ

■教材・参考書

特に指定しない。

■成績評価の方法

・1年間を通じた出席状況及び、積極的な受講態度を評価する。

■履修上の指示事項

- ・週1回、通年で授業を開講する。
- ・運動シューズ、運動に適した服装を準備すること。
- ・基本的には学生が自由に選択する科目であるが、定員を超えた場合はやむを得ず抽選を行うこともある。

・詳細については4月の体育授業ガイダンス時に説明する。

■備考（オフィスアワー）

月、水、金：13時00分～17時00分（上野校地体育館教員室）

体育 I (球技等スポーツ・体操)

代表教員：数馬 広二

曜日時限：水曜 4 限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：保健体育科目

開設区分：美術併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

「身体を育む」ことの意義や価値の理解を深める。
様々なスポーツ種目の基礎的な動きの習得を通して、
自己の健康や体力に対する認識を深めるとともに、
健康・体力づくりの方法を理解する。また、自らが
備えている身体感覚を高める。

■授業計画及び内容

実技だけでなく、各種目の歴史、ルール、競技特性
等を踏まえながら、講義も行う。

- ・バトミントンの歴史とルール
- ・バトミントン (シングルス・ダブルス ゲーム)
- ・卓球の歴史とルールと基礎技能 (ラケットの握り方、ドライブ、バックスピン)
- ・卓球 (シングルス・ダブルス ゲーム)
- ・バレーボールのルール、基礎技能 (トス、レシーブなど)
- ・バレーボールの応用技能 (レシーブからスパイクへ) ゲーム
- ・ユニホックの歴史とルールおよびゲーム
- ・ユニホックのゲーム (5 対 5)
- ・コミュニケーションプログラム
- ・柔軟性のチェック、ボールを使った動き
- ・G ボールを使った動き
- ・棒とボールを使った動き
- ・輪や縄を使った動き
- ・姿勢のチェック、ステップ・ワルツ

履修状況に応じて講義内容を変更する場合があります。

■教材・参考書

特に指定しない。

■成績評価の方法

出席状況及び受講態度

■履修上の指示事項

- ・週 1 回、通年で授業を開講する。
- ・運動シューズ、運動に適した服装を準備すること。
- ・基本的には学生が自由に選択する科目であるが、定員を超えた場合は抽選を行う。詳細については 4 月の体育授業ガイダンス時に説明する。

■備考 (オフィスアワー)

月、水、金：13 時 00 分～17 時 00 分 (上野校地体育館教員室)

体育 I (球技等スポーツ・体操・ダン

ス) (取手)

代表教員：熊谷 紀子

曜日時限：木曜 1 限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：保健体育科目

開設区分：美術併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

身体運動の実践を通じて、自己の健康や体力に対する認識を深めるとともに、健康・体力づくりの方法を理解する。また、様々なスポーツ種目の基礎的な動きなどを習得する。さらに、講義を通して、「身体を育む」ことの意義や価値の理解を深める。

■授業計画及び内容

・室内にて、音楽を使いながら気軽に取り組めるダンスムーブメントやステップ、エクササイズを初歩から段階的に行っていく。よりよい動き、よりよい姿勢、そして身体作りの為の運動プログラム（呼吸法、身体調整法、ストレッチング、種々トレーニング、リラクゼーション、マッサージ法）を身につけていく。

・屋外グラウンドにて、各種スポーツ（サッカー、バレーボール、バスケットボール、ソフトボール、ハンドボール、アルティメット等）を実践する。雨天時には、室内でヨガやピラティス、ストレッチ等を行う。

・実技だけでなく、各種目の歴史、ルール、競技特性等を踏まえながら、講義も行う。

■教材・参考書

特に指定しない。

■成績評価の方法

出席状況及び受講態度

■履修上の指示事項

週 1 回、通年で授業を開講する。基本的には学生が自由に選択する科目であるが、定員を超えた場合は抽選を行う。詳細については 4 月の体育授業ガイダンス時に説明する。

■備考 (オフィスアワー)

・授業はすべて取手キャンパスにて行う。

・月、水、金：13 時 30 分～17 時 00 分（上野校地体育館教員室）

体育 I (剣道)

月、水、金：13時30分～17時00分（上野校地体育館教員室）

代表教員：高橋 亨
曜日時限：月曜4限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：保健体育科目
開設区分：美術併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

1. 「一眼二足三胆四力」
技術を自分のものにする為には、常に自分自身の目付けを安定させ、足さばきを中心とした姿勢を正し、そして意図的に呼吸をコントロールしていく訓練が必要である。
2. 「調身→調息→調心」
どっしりと柔軟な身構えをつくりながら、吐く息を長く繰り返し、息詰まらない心の置きどころを求めていく。その過程で相手とのコミュニケーションの糸口が見えてくる。

■授業計画及び内容

- ・稽古衣と袴の着用を合理的に美しく装う。
- ・身体軸を大事にした歩き方を学ぶ。
- ・基本的な木剣の構え方、振り方を学ぶ。
- ・「日本剣道形」を通して、伝統的な「型」を理解する。
- ・発声の種類と意味を理解する。
- ・相手との「気」のぶつかり合いを実感する。
- ・残心とは何か。
- ・姿勢をかえることによって技が変わることを知る。

■教材・参考書

特に指定しない。

■成績評価の方法

出席状況および受講態度

■履修上の指示事項

- ・稽古衣、袴、木剣、竹刀は貸与する。
- ・週1回、通年で授業を開講する。基本的には学生が自由に選択する科目であるが、定員を超えた場合は抽選を行う。詳細については4月の体育授業ガイダンス時に説明する。

■備考（オフィスアワー）

体育 I (剣道)

月、水、金：13時30分～17時00分（上野校地体育館教員室）

代表教員：高橋 亨
曜日時限：月曜5限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：保健体育科目
開設区分：美術併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

1. 「一眼二足三胆四力」
技術を自分のものにする為には、常に自分自身の目付けを安定させ、足さばきを中心とした姿勢を正し、そして意図的に呼吸をコントロールしていく訓練が必要である。
2. 「調身→調息→調心」
どっしりと柔軟な身構えをつくりながら、吐く息を長く繰り返し、息詰まらない心の置きどころを求めていく。その過程で相手とのコミュニケーションの糸口が見えてくる。

■授業計画及び内容

- ・稽古衣と袴の着用を合理的に美しく装う。
- ・身体軸を大事にした歩き方を学ぶ。
- ・基本的な木剣の構え方、振り方を学ぶ。
- ・「日本剣道形」を通して、伝統的な「型」を理解する。
- ・発声の種類と意味を理解する。
- ・相手との「気」のぶつかり合いを実感する。
- ・残心とは何か。
- ・姿勢をかえることによって技が変わることを知る。

■教材・参考書

特に指定しない。

■成績評価の方法

出席状況及び受講態度

■履修上の指示事項

- ・稽古衣、袴、木剣、竹刀は貸与する。
- ・週1回、通年で授業を開講する。基本的には学生が自由に選択する科目であるが、定員を超えた場合は抽選を行う。詳細については4月の体育授業ガイダンス時に説明する。

■備考（オフィスアワー）

体育 I (剣道)

月、水、金：13時30分～17時00分（上野校地体育館教員室）

代表教員：高橋 亨
曜日時限：水曜3限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：保健体育科目
開設区分：美術併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

1. 「一眼二足三胆四力」

技術を自分のものにする為には、常に自分自身の目付けを安定させ、足さばきを中心とした姿勢を正し、そして意図的に呼吸をコントロールしていく訓練が必要である。

2. 「調身→調息→調心」

どっしりと柔軟な身構えをつくりながら、吐く息を長く繰り返し、息詰まらない心の置きどころを求めていく。その過程で相手とのコミュニケーションの糸口が見えてくる。

■授業計画及び内容

- ・稽古衣と袴の着用を合理的に美しく装う。
- ・身体軸を大事にした歩き方を学ぶ。
- ・基本的な木剣の構え方、振り方を学ぶ。
- ・「日本剣道形」を通して、伝統的な「型」を理解する。
- ・発声の種類と意味を理解する。
- ・相手との「気」のぶつかり合いを実感する。
- ・残心とは何か。
- ・姿勢をかえることによって技が変わることを知る。

■教材・参考書

特に指定しない。

■成績評価の方法

出席状況及び受講態度

■履修上の指示事項

・稽古衣、袴、木剣、竹刀は貸与する。
・週1回、通年で授業を開講する。基本的には学生が自由に選択する科目であるが、定員を超えた場合は抽選を行う。詳細については4月の体育授業ガイダンス時に説明する。

■備考（オフィスアワー）

体育 I (剣道)

月、水、金：13時30分～17時00分（上野校地体育館教員室）

代表教員：高橋 亨
曜日時限：水曜4限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：保健体育科目
開設区分：美術併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

1. 「一眼二足三胆四力」

技術を自分のものにする為には、常に自分自身の目付けを安定させ、足さばきを中心とした姿勢を正し、そして意図的に呼吸をコントロールしていく訓練が必要である。

2. 「調身→調息→調心」

どっしりと柔軟な身構えをつくりながら、吐く息を長く繰り返し、息詰まらない心の置きどころを求めていく。その過程で相手とのコミュニケーションの糸口が見えてくる。

■授業計画及び内容

- ・稽古衣と袴の着用を合理的に美しく装う。
- ・身体軸を大事にした歩き方を学ぶ。
- ・基本的な木剣の構え方、振り方を学ぶ。
- ・「日本剣道形」を通して、伝統的な「型」を理解する。
- ・発声の種類と意味を理解する。
- ・相手との「気」のぶつかり合いを実感する。
- ・残心とは何か。
- ・姿勢をかえることによって技が変わることを知る。

■教材・参考書

特に指定しない。

■成績評価の方法

出席状況及び受講態度

■履修上の指示事項

・稽古衣、袴、木剣、竹刀は貸与する。
・週1回、通年で授業を開講する。基本的には学生が自由に選択する科目であるが、定員を超えた場合は抽選を行う。詳細については4月の体育授業ガイダンス時に説明する。

■備考（オフィスアワー）

体育 I (剣道)

月、水、金：13時30分～17時00分（上野校地体育館教員室）

代表教員：高橋 亨
曜日時限：金曜4限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：保健体育科目
開設区分：美術併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

1. 「一眼二足三胆四力」

技術を自分のものにする為には、常に自分自身の目付けを安定させ、足さばきを中心とした姿勢を正し、そして意図的に呼吸をコントロールしていく訓練が必要である。

2. 「調身→調息→調心」

どっしりと柔軟な身構えをつくりながら、吐く息を長く繰り返し、息詰まらない心の置きどころを求めていく。その過程で相手とのコミュニケーションの糸口が見えてくる。

■授業計画及び内容

- ・稽古衣と袴の着用を合理的に美しく装う。
- ・身体軸を大事にした歩き方を学ぶ。
- ・基本的な木剣の構え方、振り方を学ぶ。
- ・「日本剣道形」を通して、伝統的な「型」を理解する。
- ・発声の種類と意味を理解する。
- ・相手との「気」のぶつかり合いを実感する。
- ・残心とは何か。
- ・姿勢をかえることによって技が変わることを知る。

■教材・参考書

特に指定しない。

■成績評価の方法

出席状況及び受講態度

■履修上の指示事項

・稽古衣、袴、木剣、竹刀は貸与する。
・週1回、通年で授業を開講する。基本的には学生が自由に選択する科目であるが、定員を超えた場合は抽選を行う。詳細については4月の体育授業ガイダンス時に説明する。

■備考（オフィスアワー）

体育 I (身体操法～身体を通して気づ

く～)

代表教員：林 久仁則

曜日時限：月曜3限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：保健体育科目

開設区分：美術併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

「身体を育む」ことの意義や価値の理解を深める。

1. 「力をぬく」

単純に力をぬくことは誰にでもできる。ここでの力のぬきとは、力をぬくことから新たに気づく自分自身の内側から起こる身体感覚そのものである。自由闊達な状態とは肩肘に力が漲った状態であるだろうか。力が強いことに注目しがちな身体を、力のぬきという観点で捉え直す。自己の身体の硬い部分にこそ、力をぬく感覚を養う必要がある。

2. 「ありのままに動く」

抵抗、反発、押す、引く、掴まれる、外力として自分の身体に加わった作用に対して、身体は意識的・無意識的に反応をしてしまう。その反応を身体操作という点で吟味すると、これらの外力や抵抗と向き合っている自分自身の在り方に注目せざるをえなくなる。ありのままに動くにはどうあればよいのか。その時の身体をどうしていくことが抵抗を障害とせず、自由に動けるのか。すぐには出来ないもどかしさも含め、自分の癖や動きに注目していく。

■授業計画及び内容

具体的な内容は身体に外力が加わった状況下での対人での動きや、ペアを組んで互いの動きや感覚の検証をするといった地味な動作の検証が中心となる(時に杖やヒモなどの道具を使用するが、各自で準備する必要はない)。受講生の学習進度に応じて内容を進める予定だが、授業の後半では身体の使い方のコツを基に、その状態でバスケットボールのシュートを打ってみたり、綱引きをしたり、実際の動きへの応用時にパフォーマンスがどのように変わるかも検証していく。動作の内省を通して身体操作感覚を育み、「力をぬく」と「ありのままに動く」ことがスポーツ場面へどう応用できるかを、年間を通

して取組んでいく。

なるべく多くの気づきが受講生から引き出されるよう、授業で記述する個人ノートを活用する。器用でもあり不器用でもある身体と向き合いながらも、自由に伸びやかに動ける自分自身との出会いを体験して欲しい。

■教材・参考書

身体操作と深い関連のある武道に注目をし、その特徴・身体観・古人の言葉について資料を配布する。これらを読み進め、教養としての身体観も身につけていく。

■成績評価の方法

- ・出席状況及び受講態度
- ・評価に関して、初回のガイダンス時に明確な成績評価基準を説明する。

授業中の開始と終了の時間を丁寧にし、5分以上の遅刻は厳しく対応する。ただし、正当な理由は受け付ける。授業の終了は余裕をもって終えることを約束する。

■履修上の指示事項

週1回、通年で授業を開講する。基本的には学生が自由に選択する科目であるが、定員を超えた場合は抽選を行う。詳細については4月の体育授業ガイダンス時に説明する。

■備考(オフィスアワー)

月、水、金：13時30分～17時00分(上野校地体育館教員室)

体育 I (体操・球技)

代表教員：鈴木 由起子

曜日時限：水曜 5 限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：保健体育科目

開設区分：美術併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

身体運動の実践を通じて、自己の健康や体力に対する認識を深めるとともに、健康・体力づくりの方法を理解する。また、様々なスポーツ種目の基礎的な動きなどを習得する。さらに、講義を通して、「身体を育む」ことの意義や価値の理解を深める。

■授業計画及び内容

・実技だけでなく、各種目の歴史、ルール、競技特性等を踏まえながら、講義も行う。

前期

1. ボールを使った動き①、バレーボール①
2. コミュニケーションプログラム、バレーボール②
3. 柔軟性のチェック、バレーボール③
4. ボールを使った動き②、バレーボール④
5. 棒とボールを使った動き、バレーボール⑤
6. Gボールを使った動き①、バレーボール⑥
7. Gボールを使った動き②、バレーボール⑦
8. 姿勢のチェック、ステップ・ワルツ①、バドミントン①
9. ステップ・ワルツ②、バドミントン②
10. ステップ・ワルツ③、バドミントン③
11. トレーニング機器の使い方①、バドミントン④
12. トレーニング機器の使い方②、バドミントン⑤
13. バドミントン⑥
14. バドミントン⑦
15. まとめ

後期

1. フリスビー
2. 輪を使った動き①、バスケットボール①
3. 輪を使った動き②、バスケットボール②
4. なわを使った動き①、バスケットボール③
5. なわを使った動き②、ユニホック①
6. 長縄を使った動き、ユニホック②

7. コーディネーショントレーニング、ユニホック③
8. Gボールを使った動き③、卓球①
9. Gボールトレーニング①、卓球②
10. Gボールトレーニング②、卓球③
11. サーキット・エクササイズ①、卓球④
12. サーキット・エクササイズ②、卓球⑤
13. 卓球⑥
14. 卓球⑦
15. まとめ

都合により変更することがある。

■教材・参考書

特に指定しない。

■成績評価の方法

出席状況及び受講態度

■履修上の指示事項

週 1 回、通年で授業を開講する。基本的には学生が自由に選択する科目であるが、定員を超えた場合は抽選を行う。詳細については 4 月の体育授業ガイダンス時に説明する。

■備考 (オフィスアワー)

月、水、金：13 時 00 分～17 時 00 分 (上野校地体育館教員室)

体育 I (体操・球技)

代表教員：亀田 まゆ子
曜日時限：金曜 3 限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：保健体育科目
開設区分：美術併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

身体運動の実践を通じて、自己の健康や体力に対する認識を深めるとともに、健康・体力づくりの方法を理解する。また、様々なスポーツ種目の基礎的な動きなどを習得する。さらに、講義を通して、「身体を育む」ことの意義や価値の理解を深める。

■授業計画及び内容

- ・実技だけでなく、各種目の歴史、ルール、競技特性等を踏まえながら、講義も行う。
- ・それぞれの種目特性を捉えて、各種スポーツ（バレーボール、バスケットボール、バドミントン、インディアカ、アルティメット、テニス、卓球、Gボール等）を実践する。
- ・なわ、フープ、ボール等の手具を使った運動を行なう。
- ・ヒトのからだの構造を、自分のからだを通して覚え、日常動作からそれぞれの専門分野における動作まで、その「動き」の捉え方（動かし方）について考え、各々に応じたセルフコンディショニング法を学ぶ。

■教材・参考書

特に指定しない。

■成績評価の方法

出席状況及び受講態度

■履修上の指示事項

週 1 回、通年で授業を開講する。基本的には学生が自由に選択する科目であるが、定員を超えた場合は抽選を行う。詳細については 4 月の体育授業ガイダンス時に説明する。

■備考（オフィスアワー）

月、水、金：13 時 00 分～17 時 00 分（上野校地体育館教員室）

体育 I (体操・球技)

代表教員：亀田 まゆ子
曜日時限：金曜 4 限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：保健体育科目
開設区分：美術併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

身体運動の実践を通じて、自己の健康や体力に対する認識を深めるとともに、健康・体力づくりの方法を理解する。また、様々なスポーツ種目の基礎的な動きなどを習得する。さらに、講義を通して、「身体を育む」ことの意義や価値の理解を深める。

■授業計画及び内容

- ・実技だけでなく、各種目の歴史、ルール、競技特性等を踏まえながら、講義も行う。
- ・それぞれの種目特性を捉えて、各種スポーツ（バレーボール、バスケットボール、バドミントン、インディアカ、アルティメット、テニス、卓球、Gボール等）を実践する。
- ・なわ、フープ、ボール等の手具を使った運動を行なう。
- ・ヒトのからだの構造を、自分のからだを通して覚え、日常動作からそれぞれの専門分野における動作まで、その「動き」の捉え方（動かし方）について考え、各々に応じたセルフコンディショニング法を学ぶ。

■教材・参考書

特に指定しない。

■成績評価の方法

出席状況及び受講態度

■履修上の指示事項

週 1 回、通年で授業を開講する。基本的には学生が自由に選択する科目であるが、定員を超えた場合は抽選を行う。詳細については 4 月の体育授業ガイダンス時に説明する。

■備考（オフィスアワー）

月、水、金：13 時 00 分～17 時 00 分（上野校地体育館教員室）

体育 I (フラッグフットボール・球技)

代表教員：林 久仁則

曜日時限：月曜 4 限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：保健体育科目

開設区分：美術併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

「身体を育む」ことの意義や価値の理解を深める。

1. 「チームコミュニケーション」

多くの球技チームスポーツでは、自分がどうしたいか、相手がどう動くのかといった意思疎通が非常に重要である。時に出しゃばることや自分の意志を伝えることの躊躇がチームを生かせない原因となってしまう。他者をどう扱い、自分の役をどう見極めるか。その点に意識を置き、チームとしてのコミュニケーションを重視し、チーム力を高める工夫や知恵を出し合う。

2. 「真剣勝負」

準備を徹し、作戦を遂行し、結果として味わう達成感をチームで共有することがチームスポーツの魅力の一つ。そのためには各自が有している真剣さをいかに前面に出し、主体性ある取組みが出来るかが求められる。その真剣さと表裏一体の充足感に、スポーツの魅力を再認識する。

■授業計画及び内容

- ・実技だけでなく、各種目の歴史、ルール、競技特性等を踏まえながら、講義も行う。
- ・年間のうち前期はフラッグフットボールを中心に実施し、後期は幅広く球技を中心に実施する。球技の内容は「バスケットボール、バレーボール、フットサル、ユニホック、アルティメット」などを予定し、受講生の希望にも対応する。
- ・楕円球のボールのスローイング、キャッチング
- ・フラッグ取り、相手のかかし方、コート設置、ルールの理解
- ・1対1、3対3、ミニゲーム、戦略の基礎
- ・リーグ戦形式のゲーム、戦術の立案
- ・チーム固定によるリーグ戦は5週目以降
- ・有志による大学対抗の遠征試合（予定：夏季休暇中）

■教材・参考書

授業中に配布するプリント、およびゲームの映像などの振り返りの時間を設ける。

■成績評価の方法

- ・出席状況及び受講態度
 - ・評価に関して、初回のガイダンス時に明確な成績評価基準を説明する。
- 授業中の開始と終了の時間を丁寧にし、5分以上の遅刻は厳しく対応する。ただし、正当な理由は受け付ける。授業の終了は余裕をもって終わることを約束する。

■履修上の指示事項

週1回、通年で授業を開講する。基本的には学生が自由に選択する科目であるが、定員を超えた場合は抽選を行う。詳細については4月の体育授業ガイダンス時に説明する。

■備考（オフィスアワー）

月、水、金：13時00分～17時00分（上野校地体育館教員室）

体育Ⅱ

代表教員：林 久仁則
曜日時限：月曜3限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：保健体育科目
開設区分：美術併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

アーティストとしての技術を習得していく過程と同様に、各種スポーツの実践を捉えてみることによって、人と技、人と人との間柄を深く追及する契機としてほしい。各自が作成する授業記録を活用しながら、より多様な視点から自己の「身体を育む」ことについて認識するとともに、スポーツに対する多角的な態度を養う。

■授業計画及び内容

・球技、体操、ダンスを中心として、各種スポーツを実践する。
（バレーボール、バスケットボール、バトミントン、テニス、卓球、ハンドボール、フットサル、ユニホック、アルティメット、体操、ダンス、器械体操、筋力トレーニング等）
・実技だけでなく、各種目の歴史、ルール、競技特性等を踏まえながら、講義も行う。
・各種スポーツ実践及び、講義の内容を踏まえて、授業記録を作成する。

■教材・参考書

特に指定しない。

■成績評価の方法

出席状況及び受講態度

■履修上の指示事項

体育Ⅰの単位取得者に限る。各授業の定員を超えた場合には、抽選を行うことがある。

■備考（オフィスアワー）

月、水、金：13時30分～17時00分（上野校地体育館教員室）

体育Ⅱ

代表教員：林 久仁則
曜日時限：月曜4限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：保健体育科目
開設区分：美術併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

アーティストとしての技術を習得していく過程と同様に、各種スポーツの実践を捉えてみることによって、人と技、人と人との間柄を深く追及する契機としてほしい。各自が作成する授業記録を活用しながら、より多様な視点から自己の「身体を育む」ことについて認識するとともに、スポーツに対する多角的な態度を養う。

■授業計画及び内容

・球技、体操、ダンスを中心として、各種スポーツを実践する。
（バレーボール、バスケットボール、バトミントン、テニス、卓球、ハンドボール、フットサル、ユニホック、アルティメット、体操、ダンス、器械体操、筋力トレーニング等）
・実技だけでなく、各種目の歴史、ルール、競技特性等を踏まえながら、講義も行う。
・各種スポーツ実践及び、講義の内容を踏まえて、授業記録を作成する。

■教材・参考書

特に指定しない。

■成績評価の方法

出席状況及び受講態度

■履修上の指示事項

体育Ⅰの単位取得者に限る。各授業の定員を超えた場合には、抽選を行うことがある。

■備考（オフィスアワー）

月、水、金：13時30分～17時00分（上野校地体育館教員室）

体育Ⅱ

代表教員：大林 太朗
曜日時限：月曜5限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：保健体育科目
開設区分：美術併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

アーティストとしての技術を習得していく過程と同様に、各種スポーツの実践を捉えてみることによって、人と技、人と人との間柄を深く追及する契機としてほしい。各自が作成する授業記録を活用しながら、より多様な視点から自己の「身体を育む」ことについて認識するとともに、スポーツに対する多角的な態度を養う。

■授業計画及び内容

・球技、体操、ダンスを中心として、各種スポーツを実践する。
（バレーボール、バスケットボール、バトミントン、テニス、卓球、ハンドボール、フットサル、ユニホック、アルティメット、体操、ダンス、器械体操、筋力トレーニング等）
・実技だけでなく、各種目の歴史、ルール、競技特性等を踏まえながら、講義も行う。
・各種スポーツ実践及び、講義の内容を踏まえて、授業記録を作成する。

■教材・参考書

特に指定しない。

■成績評価の方法

出席状況及び受講態度

■履修上の指示事項

体育Ⅰの単位取得者に限る。各授業の定員を超えた場合には、抽選を行うことがある。

■備考（オフィスアワー）

月、水、金：13時30分～17時00分（上野校地体育館教員室）

体育Ⅱ

代表教員：数馬 広二
曜日時限：水曜3限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：保健体育科目
開設区分：美術併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

アーティストとしての技術を習得していく過程と同様に、各種スポーツの実践を捉えてみることによって、人と技、人と人との間柄を深く追及する契機としてほしい。各自が作成する授業記録を活用しながら、より多様な視点から自己の「身体を育む」ことについて認識するとともに、スポーツに対する多角的な態度を養う。

■授業計画及び内容

・球技、体操、ダンスを中心として、各種スポーツを実践する。
（バレーボール、バスケットボール、バトミントン、テニス、卓球、ハンドボール、フットサル、ユニホック、アルティメット、体操、ダンス、器械体操、筋力トレーニング等）
・実技だけでなく、各種目の歴史、ルール、競技特性等を踏まえながら、講義も行う。
・各種スポーツ実践及び、講義の内容を踏まえて、授業記録を作成する。

■教材・参考書

特に指定しない。

■成績評価の方法

出席状況及び受講態度

■履修上の指示事項

体育Ⅰの単位取得者に限る。各授業の定員を超えた場合には、抽選を行うことがある。

■備考（オフィスアワー）

月、水、金：13時30分～17時00分（上野校地体育館教員室）

体育Ⅱ

代表教員：数馬 広二
曜日時限：水曜 4 限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：保健体育科目
開設区分：美術併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

アーティストとしての技術を習得していく過程と同様に、各種スポーツの実践を捉えてみることによって、人と技、人と人との間柄を深く追及する契機としてほしい。各自が作成する授業記録を活用しながら、より多様な視点から自己の「身体を育む」ことについて認識するとともに、スポーツに対する多角的な態度を養う。

■授業計画及び内容

・球技、体操、ダンスを中心として、各種スポーツを実践する。
(バレーボール、バスケットボール、バトミントン、テニス、卓球、ハンドボール、フットサル、ユニホック、アルティメット、体操、ダンス、器械体操、筋力トレーニング等)
・実技だけでなく、各種目の歴史、ルール、競技特性等を踏まえながら、講義も行う。
・各種スポーツ実践及び、講義の内容を踏まえて、授業記録を作成する。

■教材・参考書

特に指定しない。

■成績評価の方法

出席状況及び受講態度

■履修上の指示事項

体育Ⅰの単位取得者に限る。各授業の定員を超えた場合には、抽選を行うことがある。

■備考（オフィスアワー）

月、水、金：13時30分～17時00分（上野校地体育館教員室）

体育Ⅱ

代表教員：鈴木 由起子
曜日時限：水曜 5 限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：保健体育科目
開設区分：美術併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

アーティストとしての技術を習得していく過程と同様に、各種スポーツの実践を捉えてみることによって、人と技、人と人との間柄を深く追及する契機としてほしい。各自が作成する授業記録を活用しながら、より多様な視点から自己の「身体を育む」ことについて認識するとともに、スポーツに対する多角的な態度を養う。

■授業計画及び内容

・球技、体操、ダンスを中心として、各種スポーツを実践する。
(バレーボール、バスケットボール、バトミントン、テニス、卓球、ハンドボール、フットサル、ユニホック、アルティメット、体操、ダンス、器械体操、筋力トレーニング等)
・実技だけでなく、各種目の歴史、ルール、競技特性等を踏まえながら、講義も行う。
・各種スポーツ実践及び、講義の内容を踏まえて、授業記録を作成する。

■教材・参考書

特に指定しない。

■成績評価の方法

出席状況及び受講態度

■履修上の指示事項

体育Ⅰの単位取得者に限る。各授業の定員を超えた場合には、抽選を行うことがある。

■備考（オフィスアワー）

月、水、金：13時30分～17時00分（上野校地体育館教員室）

体育Ⅱ

代表教員：亀田 まゆ子
曜日時限：金曜3限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：保健体育科目
開設区分：美術併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

アーティストとしての技術を習得していく過程と同様に、各種スポーツの実践を捉えてみることによって、人と技、人と人との間柄を深く追及する契機としてほしい。各自が作成する授業記録を活用しながら、より多様な視点から自己の「身体を育む」ことについて認識するとともに、スポーツに対する多角的な態度を養う。

■授業計画及び内容

・球技、体操、ダンスを中心として、各種スポーツを実践する。
(バレーボール、バスケットボール、バドミントン、テニス、卓球、ハンドボール、フットサル、ユニホック、アルティメット、体操、ダンス、器械体操、筋力トレーニング等)
・実技だけでなく、各種目の歴史、ルール、競技特性等を踏まえながら、講義も行う。
・各種スポーツ実践及び、講義の内容を踏まえて、授業記録を作成する。

■教材・参考書

特に指定しない。

■成績評価の方法

出席状況及び受講態度

■履修上の指示事項

体育Ⅰの単位取得者に限る。各授業の定員を超えた場合には、抽選を行うことがある。

■備考（オフィスアワー）

月、水、金：13時30分～17時00分（上野校地体育館教員室）

体育Ⅱ

代表教員：亀田 まゆ子
曜日時限：金曜4限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：保健体育科目
開設区分：美術併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

アーティストとしての技術を習得していく過程と同様に、各種スポーツの実践を捉えてみることによって、人と技、人と人との間柄を深く追及する契機としてほしい。各自が作成する授業記録を活用しながら、より多様な視点から自己の「身体を育む」ことについて認識するとともに、スポーツに対する多角的な態度を養う。

■授業計画及び内容

・球技、体操、ダンスを中心として、各種スポーツを実践する。
(バレーボール、バスケットボール、バドミントン、テニス、卓球、ハンドボール、フットサル、ユニホック、アルティメット、体操、ダンス、器械体操、筋力トレーニング等)
・実技だけでなく、各種目の歴史、ルール、競技特性等を踏まえながら、講義も行う。
・各種スポーツ実践及び、講義の内容を踏まえて、授業記録を作成する。

■教材・参考書

特に指定しない。

■成績評価の方法

出席状況及び受講態度

■履修上の指示事項

体育Ⅰの単位取得者に限る。各授業の定員を超えた場合には、抽選を行うことがある。

■備考（オフィスアワー）

月、水、金：13時30分～17時00分（上野校地体育館教員室）

体育Ⅱ（取手）

代表教員：熊谷 紀子
曜日時限：木曜1限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：保健体育科目
開設区分：美術併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

アーティストとしての技術を習得していく過程と同様に、各種スポーツの実践を捉えてみることによって、人と技、人と人との間柄を深く追及する契機としてほしい。各自が作成する授業記録を活用しながら、より多様な視点から自己の「身体を育む」ことについて認識するとともに、スポーツに対する多角的な態度を養う。

■授業計画及び内容

- ・室内にて、音楽を使いながら気軽に取り組めるダンスムーブメントやステップ、エクササイズを初歩から段階的に行っていく。よりよい動き、よりよい姿勢、そして身体作りの為の運動プログラム（呼吸法、身体調整法、ストレッチング、種々トレーニング、リラクゼーション、マッサージ法）を身につけていく。
- ・屋外グラウンドにて、各種スポーツ（サッカー、バレーボール、バスケットボール、ソフトボール、ハンドボール、アルティメット等）を実践する。雨天時には、室内でヨガやピラティス、ストレッチ等を行う。
- ・実技だけでなく、各種目の歴史、ルール、競技特性等を踏まえながら、講義も行う。
- ・各種スポーツ実践及び、講義の内容を踏まえて、授業記録を作成する。

■教材・参考書

特に指定しない。

■成績評価の方法

出席状況及び受講態度

■履修上の指示事項

体育Ⅰの単位取得者に限る。各授業の定員を超えた場合には、抽選を行うことがある。

■備考（オフィスアワー）

授業はすべて取手キャンパスで行う。
月、水、金：13時半～17時（上野校地体育館教員室）

体育Ⅱ（剣道）

代表教員：高橋 亨
曜日時限：月曜4限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：保健体育科目
開設区分：美術併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

自分にとっての「自然体」を作るには

1. 身体意識（身体軸の作り方）と身体感覚
身体のあらゆる分野に対する気の配りからカンやコツを養う。
2. 「先をとる」一連の動作
自分自身の内面からでる「気」の充実をはかる。
3. 「上虚下実」の自然体
「合気」となって相手を受け入れ、自分のリズム感や拍子の感覚を磨く。

■授業計画及び内容

- ・「五行の形」を通して「無声」で技を決めることの深さを知る。
 - ・技と技のつなぎ目に位置する「間」の感覚をつかむ。
 - ・「合気」になって相手の心を予測する。
 - ・『五輪書』（水の巻）にみる身体（腰肚）観を実践してみる。
- <心が動作に引きずられることなく、動作が心にとらわれない。>
- <平常の身のこなし方と戦いの時の身のこなし方>
- ・「四病」（驚、恐、疑、惑）からの脱出をどう図るかについて考える。
 - ・「守破離」の意味を理解し、基本練習の大切さに気づく。

■教材・参考書

特に指定しない。

■成績評価の方法

出席状況及び受講態度

■履修上の指示事項

- ・稽古衣、袴、木剣、竹刀は貸与する。
- ・体育Ⅰの単位取得者に限る。各授業の定員を超えた場合には、抽選を行うことがある。

■備考（オフィスアワー）

月、水、金：13時30分～17時00分（上野校地体育館教員室）

体育Ⅱ（剣道）

代表教員：高橋 亨
曜日時限：月曜5限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：保健体育科目
開設区分：美術併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

自分にとっての「自然体」を作るには

1. 身体意識（身体軸の作り方）と身体感覚
身体のあらゆる分野に対する気の配りからカンやコツを養う。
2. 「先をとる」一連の動作
自分自身の内面からでる「気」の充実をはかる。
3. 「上虚下実」の自然体
「合気」となって相手を受け入れ、自分のリズム感や拍子の感覚を磨く。

■授業計画及び内容

- ・「五行の形」を通して「無声」で技を決めることの深さを知る。
 - ・技と技のつなぎ目に位置する「間」の感覚をつかむ。
 - ・「合気」になって相手の心を予測する。
 - ・『五輪書』（水の巻）にみる身体（腰肚）観を実践してみる。
- <心が動作に引きずられることなく、動作が心にとらわれない。>
- <平常の身のこなし方と戦いの時の身のこなし方>
- ・「四病」（驚、恐、疑、惑）からの脱出をどう図るかについて考える。
 - ・「守破離」の意味を理解し、基本練習の大切さに気づく。

■教材・参考書

特に指定しない。

■成績評価の方法

出席状況及び受講態度

■履修上の指示事項

- ・稽古衣、袴、木剣、竹刀は貸与する。
- ・体育Ⅰの単位取得者に限る。各授業の定員を超えた場合には、抽選を行うことがある。

■備考（オフィスアワー）

月、水、金：13時30分～17時00分（上野校地体育館教員室）

体育Ⅱ（剣道）

代表教員：高橋 亨
曜日時限：水曜3限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：保健体育科目
開設区分：美術併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

自分にとっての「自然体」を作るには

1. 身体意識（身体軸の作り方）と身体感覚
身体のあらゆる分野に対する気の配りからカンやコツを養う。
2. 「先をとる」一連の動作
自分自身の内面からでる「気」の充実をはかる。
3. 「上虚下実」の自然体
「合気」となって相手を受け入れ、自分のリズム感や拍子の感覚を磨く。

■授業計画及び内容

- ・「五行の形」を通して「無声」で技を決めることの深さを知る。
 - ・技と技のつなぎ目に位置する「間」の感覚をつかむ。
 - ・「合気」になって相手の心を予測する。
 - ・『五輪書』（水の巻）にみる身体（腰肚）観を実践してみる。
- <心が動作に引きずられることなく、動作が心にとらわれない。>
- <平常の身のこなし方と戦いの時の身のこなし方>
- ・「四病」（驚、恐、疑、惑）からの脱出をどう図るかについて考える。
 - ・「守破離」の意味を理解し、基本練習の大切さに気づく。

■教材・参考書

特に指定しない。

■成績評価の方法

出席状況及び受講態度

■履修上の指示事項

- ・稽古衣、袴、木剣、竹刀は貸与する。
- ・体育Ⅰの単位取得者に限る。各授業の定員を超えた場合には、抽選を行うことがある。

■備考（オフィスアワー）

月、水、金：13時30分～17時00分（上野校地体育館教員室）

体育Ⅱ（剣道）

代表教員：高橋 亨
曜日時限：水曜4限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：保健体育科目
開設区分：美術併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

自分にとっての「自然体」を作るには

1. 身体意識（身体軸の作り方）と身体感覚
身体のあらゆる分野に対する気の配りからカンやコツを養う。
2. 「先をとる」一連の動作
自分自身の内面からでる「気」の充実をはかる。
3. 「上虚下実」の自然体
「合気」となって相手を受け入れ、自分のリズム感や拍子の感覚を磨く。

■授業計画及び内容

- ・「五行の形」を通して「無声」で技を決めることの深さを知る。
 - ・技と技のつなぎ目に位置する「間」の感覚をつかむ。
 - ・「合気」になって相手の心を予測する。
 - ・『五輪書』（水の巻）にみる身体（腰肚）観を実践してみる。
- <心が動作に引きずられることなく、動作が心にとらわれない。>
- <平常の身のこなし方と戦いの時の身のこなし方>
- ・「四病」（驚、恐、疑、惑）からの脱出をどう図るかについて考える。
 - ・「守破離」の意味を理解し、基本練習の大切さに気づく。

■教材・参考書

特に指定しない。

■成績評価の方法

出席状況及び受講態度

■履修上の指示事項

- ・稽古衣、袴、木剣、竹刀は貸与する。
- ・体育Ⅰの単位取得者に限る。各授業の定員を超えた場合には、抽選を行うことがある。

■備考（オフィスアワー）

月、水、金：13時30分～17時00分（上野校地体育館教員室）

体育Ⅱ（剣道）

代表教員：高橋 亨
曜日時限：金曜4限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：保健体育科目
開設区分：美術併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

自分にとっての「自然体」を作るには

1. 身体意識（身体軸の作り方）と身体感覚
身体のあらゆる分野に対する気の配りからカンやコツを養う。
2. 「先をとる」一連の動作
自分自身の内面からでる「気」の充実をはかる。
3. 「上虚下実」の自然体
「合気」となって相手を受け入れ、自分のリズム感や拍子の感覚を磨く。

■授業計画及び内容

- ・「五行の形」を通して「無声」で技を決めることの深さを知る。
 - ・技と技のつなぎ目に位置する「間」の感覚をつかむ。
 - ・「合気」になって相手の心を予測する。
 - ・『五輪書』（水の巻）にみる身体（腰肚）観を実践してみる。
- <心が動作に引きずられることなく、動作が心にとられない。>
<平常の身のこなし方と戦いの時の身のこなし方>
・「四病」（驚、恐、疑、惑）からの脱出をどう図るかについて考える。- ・「守破離」の意味を理解し、基本練習の大切さに気づく。

■教材・参考書

特に指定しない。

■成績評価の方法

出席状況及び受講態度

■履修上の指示事項

- ・稽古衣、袴、木剣、竹刀は貸与する。
- ・体育Ⅰの単位取得者に限る。各授業の定員を超えた場合には、抽選を行うことがある。

■備考（オフィスアワー）

月、水、金：13時30分～17時00分（上野校地体育館教員室）

企画展示論

代表教員：薩摩 雅登
曜日時限：月曜2限
学 期：後期
単 位 数：2
ジャンル：大学美術館開設科目
開設区分：美術併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

単なる展示技術論ではなく、本学理論系の学生が展覧会を企画して実施できるまで、および、本学実技系の学生が個展やグループ展を独自で開催するために必要な基礎的な知識の習得を目標とする。

■授業計画及び内容

実際に多種多様な展覧会を企画実施している経験を踏まえて、企画展示（展覧会）の立案、計画から実施、図録の編集、会期中の会場管理までの具体的な方法を受講生に習得させる。本科目の内容は博物館実習へと継続発展する。本科目の評価は出席とレポート（展覧会企画書）で行う。

- 第1回-講義-展示公開の意義 研究・創作成果の発表
- 第2回-講義-展覧会の歴史①博覧会
- 第3回-講義-展覧会の歴史②企画展
- 第4回-講義-展覧会の歴史③我が国の特殊事情 デパートとメディア
- 第5回-講義-展覧会の形態と方法
- 第6回-講義-展覧会の企画と予算
- 第7回-講義-展覧会場の施設と環境 ファシリティーレポートなど
- 第8回-講義-展示道具の基本
- 第9回-講義-展示計画と会場施工
- 第10回-講義-展示技術の基礎（平面系）
- 第11回-講義-展示技術の基礎（立体系）
- 第12回-講義-照明技術の基礎 電気と光の基礎知識
- 第13回-講義-図録の編集
- 第14回-講義-展覧会会期中の作品解説 ギャラリートーク 解説シートなど
- 第15回-講義-展覧会会期中の危機管理

■教材・参考書

■成績評価の方法

出席とレポート

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

留学生特別科目

日本語（初級）

代表教員：石田 恵里子

曜日時限：月曜 4 限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：留学生特別科目

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

初級(しょきゅう)文法(ぶんぽう)の後半(こうはん)を学習(がくしゅう)するクラス

Curriculum: Overview of basic grammar and practice stepping up to intermediate level

■授業計画及び内容

○日本語(にほんご)を半年(はんとし)前後(ぜんご)勉強(べんきょう)したことがある学生(がくせい)のためのクラスです。

(初級(しょきゅう)前半(ぜんはん)終了(しゅうりょう)程度(ていど))

This course is designed for international students who have studied Japanese for around 6 months and have learned basic sentence patterns.

○初級(しょきゅう)後半(こうはん)の文法(ぶんぽう)項目(こうもく)(いろいろな活用形(かつようけい)や表現(ひょうげん))を学習(がくしゅう)します。

Objectives: To introduce and summarize the basic level of Japanese grammar and expressions.

○特(とく)に会話(かいわ)の力(ちから)をつける活動(かつどう)をします。

The course emphasizes the development of conversational skill.

■教材・参考書

「Basic Japanese for Students はかせ 2」
(ISBN: 4-88319-406-x)

■成績評価の方法

出席(しゅっせき)と 授業(じゅぎょう)でのようすと試験(しけん)の結果(けっか)をあわせて成績(せいせき)をだします。

Grades are mainly decided through students'

attendance, demonstration, and result of end-term exam.

■履修上の指示事項

月曜(げつよう)と金曜(きんよう)両方(りょうほう)のクラスに毎回(まいかい)出席(しゅっせき)してください。

Course requirement: Students are required to attend all Monday and Friday classes.

ただし、参加者(さんかしゃ)の人数(にんずう)などにより週1回(しゅう1かい)のクラスになる可能性(かのうせい)もあります。

However, the schedule subject to be cha

■備考(オフィスアワー)

日本語（初級）

代表教員：茶谷 恭代

曜日時限：金曜 4 限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：留学生特別科目

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

初級(しょきゅう)文法(ぶんぽう)の後半(こうはん)を学習(がくしゅう)するクラス

Curriculum : Overview of basic grammar and practice stepping up to intermediate level

■授業計画及び内容

○日本語(にほんご)を半年(はんとし)前後(ぜんご)勉強(べんきょう)したことがある学生(がくせい)のためのクラスです。(初級(しょきゅう)前半(ぜんはん)終了(しゅうりょう)程度(ていど))

This course is designed for international students who have studied Japanese for around 6 months and have learned basic sentence patterns.

○初級(しょきゅう)後半(こうはん)の文法(ぶんぽう)項目(こうもく)(いろいろな活用形(かつようけい)や表現(ひょうげん))を学習(がくしゅう)します。

Objectives: To introduce and summarize the basic level of Japanese grammar and expressions.

○特(とく)に会話(かいわ)の力(ちから)をつける活動(かつどう)をします。

The course emphasizes the development of conversational skills.

■教材・参考書

「Basic Japanese for Students はかせ2」(ISBN 4-88319-406-x)

■成績評価の方法

出席(しゅっせき)と 授業(じゅぎょう)でのようすと学期末試験(がっきまつしけん)の結果(けっか)を総合(そうごう)して評価(ひょうか)します。

Grades are mainly decided through students' attendance, demonstration, and the result of the

end-term exam.

■履修上の指示事項

○月曜(げつよう)・金曜(きんよう)、両方のクラスに毎回(まいかい)出席(しゅっせき)してください。ただし、参加者(さんかしゃ)の人数(にんずう)などによっては週一回(しゅう1かい)のクラスになる可能性(かのうせい)もあります。

Course requirement: Students are required to attend all Monday and Friday classes.

However, the schedule subject

■備考(オフィスアワー)

日本語（中級）

■備考（オフィスアワー）

代表教員：茶谷 恭代
曜日時限：金曜5限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：留学生特別科目
開設区分：音楽併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

日本語の中級レベル

■授業計画及び内容

○日本語の初級～初中級レベルの学習を修了している学生を対象とする。

○中級レベルの語彙や文法を学習し、理解・運用ができるようになることを目標とする。

授業では中級以上のレベルの読解教材を一定のペース（2回で1課分を目標）で進める予定。

（履修する学生のレベルに応じて変更する可能性もある。）

○テキストのトピックを題材に、適宜話す活動も取り入れる。

○まとまった量の文章を書く練習については、希望があれば個別に対応する。

■教材・参考書

出席者のレベルとニーズを考慮し、相談の上、クラスで指示する。

■成績評価の方法

出席状況・授業態度・議論への参加と試験の結果を総合して評価する。

■履修上の指示事項

留学生は単位取得に関係なく自由に参加することができる。初中級レベルの知識はある程度前提として進めるため、毎回事前に予習をして授業に参加することが望ましい。単位が必要な学生は2/3以上出席し、前期、後期1回ずつ、計2回の試験を受けること。（出席者のレベル等に応じてレポートの提出に振り替える場合もある。）

日本語（入門）

代表教員：石田 恵里子

曜日時限：月曜3限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：留学生特別科目

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

日本語(にほんご)をはじめて勉強(べんきょう)する留学生(りゅうがくせい)のための入門(にゅうもん)クラス

Introductory course for international students who study Japanese for the first time

■授業計画及び内容

○いままで日本語(にほんご)を勉強(べんきょう)したことがない留学生(りゅうがくせい)を対象(たいしょう)に、基礎(きそ)から学習(がくしゅう)を始(はじ)めます。

This course is for international students who have little or no knowledge of Japanese.

○日常(にちじょう)生活(せいかつ)に必要(ひつよう)なコミュニケーションができるようになることが目標(もくひょう)です。

Objectives of this course is acquisition of daily / survival communication skills.

○授業(じゅぎょう)では会話(かいわ)活動(かつどう)が中心(ちゅうしん)です。ひらがな・カタカナも学習(がくしゅう)します。

This course emphasizes the development of conversational skills.

Students will also learn how to read and write Japanese syllabic characters: Hiragana and Katakana.

■教材・参考書

「Basic Japanese for Students はかせ1・2」スリーエーネットワーク

(ISBN 4-88319-405-1 / 4-88319-406-x)

■成績評価の方法

出席(しゅっせき)と授業(じゅぎょう)でのよう

すと試験(しけん)をあわせて成績(せいせき)をだします。

Grades are mainly decided through students' attendance, demonstration and result of end-term exam.

■履修上の指示事項

月曜(げつよう)・金曜(きんよう)毎回(まいかい)出席(しゅっせき)してください。

Course requirement: Students are required to attend all Monday (1:00-2:30) and Friday (1:00-2:30) classes.

留学生(りゅうがくせい)はだれでもでることができます。単位(たんい)が必要(ひつよう)な学生(がくせい)は、2/3以上(いじょう)出席(しゅっせき)し、学期末(がっきまつ)におこな

■備考(オフィスアワー)

日本語（入門）

代表教員：茶谷 恭代

曜日時限：金曜3限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：留学生特別科目

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

日本語(にほんご)をはじめて勉強(べんきょう)する留学生(りゅうがくせい)のための入門(にゅうもん)クラス

Introductory course for international students who study Japanese for the first time

■授業計画及び内容

○いままで日本語(にほんご)を勉強(べんきょう)したことがない留学生(りゅうがくせい)を対象(たいしょう)に、基礎(きそ)から学習(がくしゅう)を始(はじ)めます。

This course is for international students who have little or no knowledge of Japanese.

○日常(にちじょう)生活(せいかつ)に必要な(ひつよう)なコミュニケーションができるようになることが目標(もくひょう)です。

Objectives of this course is acquisition of daily / survival communication skills.

○授業(じゅぎょう)では会話(かいわ)活動(かつどう)が中心(ちゅうしん)です。ひらがな・カタカナも学習(がくしゅう)します。

This course emphasizes the development of conversational skills.

Students will also learn how to read and write Japanese syllabic characters: Hiragana and Katakana.

■教材・参考書

「Basic Japanese for Students はかせ1・2」スリーエーネットワーク

(ISBN 4-88319-405-1 / 4-88319-406-x)

■成績評価の方法

出席(しゅっせき)と授業(じゅぎょう)でのよう

すと学期末試験(がっきまつしけん)の結果(けっか)を総合(そうごう)して評価(ひょうか)します。

Grades are mainly decided through students' attendance, demonstration, and the result of the end-term exam.

■履修上の指示事項

月曜(げつよう)・金曜(きんよう)、両方(りょうほう)のクラスに毎回(まいかい)出席(しゅっせき)してください。

Course requirement: Students are required to attend all Monday(1:00-2:30) and Friday(1:00-2:30) classes.

留学生(りゅうがくせい)はだれでも出(で)ることができます。単位(たんい)が必要(ひつよう)な学生(がくせい)は2/3以上(いじょう)出席(しゅっせき)し、学期末(がっき

■備考 (オフィスアワー)

日本事情（含日本語表現法）

代表教員：杉本 和寛

曜日時限：金曜3限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：留学生特別科目

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

日本の歴史及び社会事情に関する簡単なレクチャー、および、日本語における文章表現能力の修得

■授業計画及び内容

1. 文章・画像・映像などを通して、日本の歴史や現代の社会事情について理解を深める。

2. 1. についての学生たち自身の知識や体験を話し合い、理解を共有すると共に、現代日本の諸問題について考える。

3. 定期的に文章を書き、日本語表現能力の向上を目指す。

■教材・参考書

特に指定せず、適宜プリント等を配布する。

■成績評価の方法

出席状況、および、授業時間内の発表内容や文章の内容により成績を判断する。

■履修上の指示事項

授業の内容上、中級以上の日本語能力を持つ学生であることが望ましい。

■備考（オフィスアワー）

月曜日Ⅱ限目

大学美術館開設科目

生涯学習概論

代表教員：奥村 高明

曜日時限：月曜5限

学 期：後期

単 位 数：2

ジャンル：大学美術館開設科目

開設区分：美術併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

- ・生涯学習の概念や成立過程、生涯学習の実際等を検討することを通して、生涯学習の意義と必要性について理解する。
- ・美術的な視点から生涯学習をとらえ、美術的な実践例の検証やアートプロジェクトの立案を通して、生涯学習に主体的に取り組むための実践力を高める。

■授業計画及び内容

- ・生涯学習の概念が成立した社会背景や歴史的なプロセスを理解するとともに、審議会答申や関連法等を踏まえながら行政的な施策の実際を検討し、生涯学習の意義と必要性について考察する。
- ・生涯学習を美術家や美術教育、美術館等から分析し、生涯学習における美術的な取組の実際と効果を検証するとともに、アートプロジェクトの立案を通して生涯学習に関わる具体的な方法について検証する。

第1回-講義-生涯学習とは何か(1)-生涯学習の基礎知識

第2回-講義-生涯学習とは何か(2)-生涯学習の概念の成立と社会背景

第3回-講義-生涯学習の実際(1)-生涯学習と行政組織

第4回-講義-生涯学習の実際(2)-生涯学習に関する答申と関連法①

第5回-講義-生涯学習の実際(3)-生涯学習に関する答申と関連法②

第6回-講義-生涯学習の実際(4)-生涯学習に関する団体と活動の実際

第7回-講義-生涯学習の実際(5)-社会教育施設と生涯学習事業①

第8回-講義-生涯学習の実際(5)-社会教育施設と生涯学習事業②

第9回-講義-生涯学習と美術(1)-美術館の発見と

成立

第10回-講義-生涯学習と美術(2)-美術館における普及活動の実際と効果

第11回-講義-生涯学習と美術(3)-アートプロジェクトの実際

第12回-講義・演習-生涯学習のデザイン(1)-アートプロジェクトの立案

第13回-講義・演習-生涯学習のデザイン(2)-アートプロジェクトの立案と協議

第14回-講義・演習-生涯学習のデザイン(3)-アートプロジェクトの立案と協議

第15回-講義-教育の生態系としての生涯学習のデザイン”

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考(オフィスアワー)

博物館教育論

代表教員：真住 貴子

曜日時限：

学 期：集中講義

単 位 数：2

ジャンル：大学美術館開設科目

開設区分：美術併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

博物館の強みは、なんといっても『本物に出会える』ということでしょう。博物館では収蔵品を利用してすばらしい教育活動を行っています。この授業では特に芸大生にかかわりの深い美術館を中心に、価値ある博物館教育をどのように行うかについて、学生自身に考え、企画してもらいます。博物館教育の意義と機能を学び、実践的に行うための具体的な知識を身につけることを目標といたします。

■授業計画及び内容

講義だけでなく、上野公園内の美術館博物館の教育活動を実際に見学し、それらを学生自身で分析し、最終的に美術館・博物館の教育活動を他学科の学生とグループになって企画・発表してもらいます。講義では、一方通行の講義ではなく、全員に発言を求めて授業を進めます。試験は行わず、出席とレポート提出で成績を評価します。

第1回-講義-博物館教育概論 歴史と現在

第2回-講義-博物館と学校、地域をつなぐボランティアとファシリテーター

第3回-講義-教育活動の実際、企画、予算、準備、実施まで

第4回-見学-美術館、博物館の視察1（予定）

第5回-グループ演習-前回の視察の振り返りと分析

第6回-見学-美術館、博物館の視察2（予定）

第7回-グループ演習-前回の視察の振り返りと分析

第8回-見学-美術館博物館の視察3（予定）

第9回-グループ演習-前回の視察の振り返りと分析

第10回-見学-美術館博物館の視察4（予定）

第11回-グループ演習-前回の視察の振り返りと分析

第12回-講義-4つの美術館博物館の比較から見える今日の博物館教育の課題

第13回-グループ演習-学生による企画立案

第14回-グループ演習-学生による企画立案

第15回-グループ演習-企画発表

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

質問は授業時間内をお願いいたします。

博物館概論 A

代表教員：薩摩 雅登

曜日時限：月曜 2限

学 期：前期

単 位 数：2

ジャンル：大学美術館開設科目

開設区分：美術併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

博物館学学芸員課程への入門講座として、博物館・美術館に関する基礎的な知識の習得を目的とする。

■授業計画及び内容

高等学校までは本科目に類する教科がないように、受講生の多くは展覧会を通してのみ博物館・美術館に接していることが多い。本科目では、美術館の現場で仕事をしている経験を踏まえて、文献資料に偏ることなく、画像映像を多用して、今日の我が国における博物館・美術館の総体的・本質的な実態を伝えていく。東京藝術大学という特性から、美術資料を所蔵する博物館すなわち美術館に重点を置く。

第 1 回-講義（ガイダンス）-博物館学・学芸員課程とは

第 2 回-講義-博物館・美術館の定義と種類

第 3 回-講義-博物館・美術館の機能と施設

第 4 回-講義-美術館設立の具体例①東京都現代美術館

第 5 回-講義-美術館設立の具体例②東京藝術大学大学美術館

第 6 回-講義-博物館の歴史①ミュージアムのルーツ
西洋古典古代文明

第 7 回-講義-博物館の歴史②西洋近世近代

第 8 回-講義-博物館の歴史③日本の書院・茶室・絵馬堂など

第 9 回-講義-博物館の歴史④日本近代

第 10 回-講義-博物館の歴史⑤日本の現状

第 11 回-講義-博物館の組織と職員

第 12 回-講義-学芸員の職務

第 13 回-講義-博物館関係法規

第 14 回-講義-ユニヴァーシティー・ミュージアム(大学博物館)

第 15 回-試験- (授業内容から出題する)

■教材・参考書

■成績評価の方法

出席と試験

■履修上の指示事項

博物館学学芸員課程を履修する者は、この博物館概論を最初に受講することが望ましい。

■備考（オフィスアワー）

博物館概論 B (取手)

代表教員：薩摩 雅登

曜日時限：金曜 1 限

学 期：前期

単 位 数：2

ジャンル：大学美術館開設科目

開設区分：美術併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

博物館学学芸員課程への入門講座として、博物館・美術館に関する基礎的な知識の習得を目的とする。

■授業計画及び内容

高等学校までは本科目に類する教科がないように、受講生の多くは展覧会を通してのみ博物館・美術館に接していることが多い。本科目では、美術館の現場で仕事をしている経験を踏まえて、文献資料に偏ることなく、画像映像を多用して、今日の我が国における博物館・美術館の総体的・本質的な実態を伝えていく。東京藝術大学という特性から、美術資料を所蔵する博物館すなわち美術館に重点を置く。

第 1 回-講義 (ガイダンス) -博物館学・学芸員課程とは

第 2 回-講義-博物館・美術館の定義と種類

第 3 回-講義-博物館・美術館の機能と施設

第 4 回-講義-美術館設立の具体例①東京都現代美術館

第 5 回-講義-美術館設立の具体例②東京藝術大学大学美術館

第 6 回-講義-博物館の歴史①ミュージアムのルーツ
西洋古典古代文明

第 7 回-講義-博物館の歴史②西洋近世近代

第 8 回-講義-博物館の歴史③日本の書院・茶室・絵馬堂など

第 9 回-講義-博物館の歴史④日本近代

第 10 回-講義-博物館の歴史⑤日本の現状

第 11 回-講義-博物館の組織と職員

第 12 回-講義-学芸員の職務

第 13 回-講義-博物館関係法規

第 14 回-講義-ユニヴァーシティー・ミュージアム(大学博物館)

第 15 回-試験- (授業内容から出題する)

■成績評価の方法

出席と試験

■履修上の指示事項

博物館学学芸員課程を履修する者は、この博物館概論を最初に受講することが望ましい。

■備考 (オフィスアワー)

■教材・参考書

博物館経営論

代表教員：安藤 美奈

曜日時限：

学 期：集中講義

単 位 数：2

ジャンル：大学美術館開設科目

開設区分：美術併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

前半の6回では、博物館を運営する上で重要と思われる基礎的なテーマを取りあげ、博物館経営について幅広い理解を図る。中盤の6回では、博物館にとどまらず視点を広く据えて、美術をとりまくマーケットについての理解を図る。最後の3回では、美術館運営に建築家がどのように関わり得るかを理解することで、美術館の新設・改設時にとどまらず、展覧会の企画など日常的な美術館運営において、実際に生かせる技能を身につけることを目標とする。

■授業計画及び内容

様々な社会・経済情勢の変化は、博物館を取り巻く環境にも影響を及ぼしている。そうした状況を踏まえながら、前半では、博物館経営に関わる基礎的な知識を解説し、博物館が抱える課題について理解を深める。後半では美術マーケットの現場で仕事をしている人を講師に招いて、年毎に変化する現況を直接に伝えてもらう。

1日3コマ（回）、5日間の集中講義で行う。

第1回-集中講義-博物館経営について-ミュージアム・マネジメントとは何か

第2回-集中講義-博物館の成り立ちについて— 組織、人材、財政、設備 —

第3回-集中講義-博物館のサービス、プログラムについて

第4回-集中講義-博物館におけるマーケティングとは何か

第5回-集中講義-博物館評価について

第6回-集中講義-博物館経営の現在とこれから

第7回-集中講義-インディペンデント・キュレーターのマネージメント

第8回-集中講義-アートの価値、評価額、保険額

第9回-集中講義-アート・アドバイザーという仕事

第10回-集中講義-アート・マーケット

第11回-集中講義-ギャラリー・マネージメント

第12回-集中講義-オークションハウス

第13回-集中講義-設計競技時における建築家として思想

第14回-集中講義-設計中における美術館準備室との協議

第15回-集中講義-開館後における美術館との関係、展覧会企画の実際”

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

博物館情報・メディア論

代表教員：川口 雅子

曜日時限：木曜 4 限

学 期：前期

単 位 数：2

ジャンル：大学美術館開設科目

開設区分：美術併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

博物館・美術館における情報活動全般を対象とする。とくに情報発信の前提となる情報収集・整理活動の実際を具体例と共に学ぶ。博物館・美術館の社会的責務に照らし、情報活動に関して何が最も重要な課題であるかを論理的に思考し、説明することができるようになる。

■授業計画及び内容

現代の美術館における情報部門の役割、収蔵品の登録管理（コレクション・マネジメント）、収蔵品情報管理システム、美術館活動と作品調査研究、美術館図書室の活動、美術館における情報発信などの諸問題を取り上げ、具体的事例を織り交ぜながら現状や課題について検討する。美術館が扱うさまざまな情報のなかでも収蔵作品の資料・情報に重点を置き、スライド等を通じてその実際への理解を促進する。とりあげる事例は西洋美術分野が中心になる。

第 1 回～第 2 回（講義）－ 導入～美術館の情報資料部門とは

第 3 回～第 4 回（講義）－ 美術館における情報活動の課題

第 5 回～第 6 回（講義）－ 収蔵作品の登録管理（コレクション・マネジメント）

第 7 回～第 8 回（講義）－ 美術館における情報発信（インターネット、新たなメディアの活用）

第 9 回～第 10 回（講義）－ 収蔵作品のドキュメンテーション

第 11 回～第 12 回（講義）－ 美術館と作品調査研究、美術館図書室の役割

第 13 回～第 14 回（講義）－ 情報公開と美術の著作権

第 15 回（講義）－ 総括

■教材・参考書

国立西洋美術館所蔵作品データベース

<http://collection.nmwa.go.jp/artizeweb/>

国立西洋美術館研究資料センター学術情報案内
<http://www.nmwa.go.jp/jp/education/resources.html>

Timothy Ambrose, Crispin Paine 『博物館の基本』
東京：日本博物館協会，1995.

日本博物館協会編 『資料取り扱いの手引き』 東京：
日本博物館協会，2004.

S. A. ホルム 『博

■成績評価の方法

平常点およびレポートによる。平常点は授業への参加状況、コメントペーパーの提出状況で総合的に判断する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

美術館資料論 A

代表教員：薩摩 雅登

曜日時限：月曜 4 限

学 期：前期

単 位 数：2

ジャンル：大学美術館開設科目

開設区分：美術併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

博物館・美術館における資料の収集、保管、調査、研究などに関する理論や方法を学ぶ。大学美術館常勤教員の現場経験に基づくさまざまな実例をとりあげ、大学美術館の資料を教材として利用しながら、資料の扱い方、調査研究の意義、具体的な調査研究の方法を受講生に習得させる。

■授業計画及び内容

- 第 1 回目 博物館・美術館における資料とは
- 第 2 回目 東京藝術大学大学美術館のコレクション
- 第 3 回目 資料収集の方法・収蔵庫
- 第 4 回目 美術資料の取り扱いかたの基本と心構え
- 第 5 回目 日本における美術品のコレクションと鑑賞の歴史
- 第 6 回目 諸外国の博物館の資料の扱い方と展示について①
- 第 7 回目 諸外国の博物館の資料の扱い方と展示について②
- 第 8 回目 絵画資料① それは何で記されたか。筆記素材について
- 第 9 回目 絵画資料② それは何時記されたか。年記の読み方
- 第 10 回目 絵画資料③ それは何故のこされたか。資料の意味について
- 第 11 回目 資料収集の実際－美術館の所蔵品になるまで
- 第 12 回目 資料公開－理念と方法
- 第 13 回目 所蔵資料の調査研究① 一次資料と二次資料の活用
- 第 14 回目 所蔵資料の調査研究② モチーフ
- 第 15 回目 所蔵資料の調査研究③ デザインと技法

■教材・参考書

■成績評価の方法

出席を重視する

■履修上の指示事項

実物を取り扱うこともあり、場所も異なることもあるので、遅刻をすると参加できない場合がある。

■備考（オフィスアワー）

原則として授業後

美術館資料論 B

代表教員：薩摩 雅登

曜日時限：月曜 4 限

学 期：後期

単 位 数：2

ジャンル：大学美術館開設科目

開設区分：美術併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

博物館・美術館における資料の収集、保管、調査、研究などに関する理論や方法を学ぶ。大学美術館常勤教員の現場経験に基づくさまざまな実例をとりあげ、大学美術館の資料を教材として利用しながら、資料の扱い方、調査研究の意義、具体的な調査研究の方法を受講生に習得させる。

■授業計画及び内容

- 第 1 回目 博物館・美術館における資料とは
- 第 2 回目 東京藝術大学大学美術館のコレクション
- 第 3 回目 資料収集の方法・収蔵庫
- 第 4 回目 美術資料の取り扱いかたの基本と心構え
- 第 5 回目 日本における美術品のコレクションと鑑賞の歴史
- 第 6 回目 諸外国の博物館の資料の扱い方と展示について①
- 第 7 回目 諸外国の博物館の資料の扱い方と展示について②
- 第 8 回目 絵画資料① それは何で記されたか。筆記素材について
- 第 9 回目 絵画資料② それは何時記されたか。年記の読み方
- 第 10 回目 絵画資料③ それは何故のこされたか。資料の意味について
- 第 11 回目 資料収集の実際－美術館の所蔵品になるまで
- 第 12 回目 資料公開－理念と方法
- 第 13 回目 所蔵資料の調査研究① 一次資料と二次資料の活用
- 第 14 回目 所蔵資料の調査研究② モチーフ
- 第 15 回目 所蔵資料の調査研究③ デザインと技法

■教材・参考書

■成績評価の方法

出席を重視する

■履修上の指示事項

実物を取り扱うこともあり、場所も異なることもあるので、遅刻をすると参加できない場合がある。

■備考（オフィスアワー）

原則として授業後

美術館実習 A

代表教員：薩摩 雅登

曜日時限：

学 期：集中講義

単 位 数：3

ジャンル：大学美術館開設科目

開設区分：美術併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

東京藝術大学という特性を考慮して、美術資料を実際に調査、研究、梱包、展示するために必要な、「作品取り扱い」の方法と技術の基礎を受講生に習得させる。

■授業計画及び内容

東京藝術大学大学美術館常勤教員および非常勤講師が、それぞれの専門を踏まえて、大学美術館の施設と所蔵資料を使用して、受講生に古美術品から電気機器までの取り扱い方を実践的・具体的に指導する。夏期集中講義期間中に実施するが、少人数を維持するためと受講生の都合を考慮して、AコースとBコースに分けて実施する。成績は出席とレポート（作品解説実習）による。

第 1 回-講義-美術資料を扱う心構え、服装、必要な道具などの説明

第 2 回-見学-美術館収蔵庫・収蔵方法の見学

第 3 回-実習-箱の種類と特性、紐の結び方、風呂敷の扱い方など

第 4 回-実習-梱包材料の種類と特性-梱包の方法

第 5 回-実習-古美術（掛福装、卷子装など）の取り扱い

第 6 回-実習-茶道具の取り扱い

第 7 回-実習-額絵の取り扱い

第 8 回-実習-刀剣の取り扱い

第 9 回-実習-照明器具・電気機器の取り扱い

第 10 回-実習-照明・シューティング実習

■教材・参考書

■成績評価の方法

出席とレポート

■履修上の指示事項

博物館学芸員課程の総仕上げであるから、他の必

修 8 科目を全て受講してから履修することが望ましい。実習であるから出席を重視し、遅刻は厳しく採点する。

■備考（オフィスアワー）

美術館実習 A

代表教員：薩摩 雅登

曜日時限：

学 期：集中講義

単 位 数：3

ジャンル：大学美術館開設科目

開設区分：美術併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

東京藝術大学という特性を考慮して、美術資料を実際に調査、研究、梱包、展示するために必要な、「作品取り扱い」の方法と技術の基礎を受講生に習得させる。

■授業計画及び内容

東京藝術大学大学美術館常勤教員および非常勤講師が、それぞれの専門を踏まえて、大学美術館の施設と所蔵資料を使用して、受講生に古美術品から電気機器までの取り扱い方を実践的・具体的に指導する。夏期集中講義期間中に実施するが、少人数を維持するためと受講生の都合を考慮して、AコースとBコースに分けて実施する。成績は出席とレポート（作品解説実習）による。

第 1 回-講義-美術資料を扱う心構え、服装、必要な道具などの説明

第 2 回-見学-美術館収蔵庫・収蔵方法の見学

第 3 回-実習-箱の種類と特性、紐の結び方、風呂敷の扱い方など

第 4 回-実習-梱包材料の種類と特性-梱包の方法

第 5 回-実習-古美術（掛福装、卷子装など）の取り扱い

第 6 回-実習-茶道具の取り扱い

第 7 回-実習-額絵の取り扱い

第 8 回-実習-刀剣の取り扱い

第 9 回-実習-照明器具・電気機器の取り扱い

第 10 回-実習-照明・シューティング実習

■教材・参考書

■成績評価の方法

出席とレポート

■履修上の指示事項

博物館学芸員課程の総仕上げであるから、他の必

修 8 科目を全て受講してから履修することが望ましい。実習であるから出席を重視し、遅刻は厳しく採点する。

■備考（オフィスアワー）

東京藝術大学という特性を考慮して、美術資料を実際に調査、研究、梱包、展示するために必要な、「作品取り扱い」の方法と技術の基礎を受講生に習得させる。

美術館実習 B

代表教員：薩摩 雅登

曜日時限：

学 期：集中講義

単 位 数：3

ジャンル：大学美術館開設科目

開設区分：美術併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

東京藝術大学という特性を考慮して、美術資料を実際に調査、研究、梱包、展示するために必要な、「作品取り扱い」の方法と技術の基礎を受講生に習得させる。

■授業計画及び内容

東京藝術大学大学美術館常勤教員および非常勤講師が、それぞれの専門を踏まえて、大学美術館の施設と所蔵資料を使用して、受講生に古美術品から電気機器までの取り扱い方を実践的・具体的に指導する。夏期集中講義期間中に実施するが、少人数を維持するためと受講生の都合を考慮して、AコースとBコースに分けて実施する。成績は出席とレポート（作品解説実習）による。

第 1 回-講義-美術資料を扱う心構え、服装、必要な道具などの説明

第 2 回-見学-美術館収蔵庫・収蔵方法の見学

第 3 回-実習-箱の種類と特性、紐の結び方、風呂敷の扱い方など

第 4 回-実習-梱包材料の種類と特性-梱包の方法

第 5 回-実習-古美術（掛福装、卷子装など）の取り扱い

第 6 回-実習-茶道具の取り扱い

第 7 回-実習-額絵の取り扱い

第 8 回-実習-刀剣の取り扱い

第 9 回-実習-照明器具・電気機器の取り扱い

第 10 回-実習-照明・シューティング実習

■教材・参考書

■成績評価の方法

出席とレポート

■履修上の指示事項

博物館学芸員課程の総仕上げであるから、他の必

修 8 科目を全て受講してから履修することが望ましい。実習であるから出席を重視し、遅刻は厳しく採点する。

■備考（オフィスアワー）

博物館資料保存論

代表教員：稲葉 政満

曜日時限：木曜 5 限

学 期：前期

単 位 数：2

ジャンル：大学美術館開設科目

開設区分：美術併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

博物館における資料保存及びその保存・展示環境及び収蔵環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得することを通じて、資料の保存に関する基礎的能力を養う。

■授業計画及び内容

博物館における資料保存の意義、美術資料および建造物の保全、博物館資料の保存環境、文化財の保存と活用に焦点をあてて行う。

その年度の講義順序は初回時に配布する

- ① -講義-ガイダンス-博物館における資料保存の意義
- ② -講義-博物館資料の保存環境-保存環境 (IPM を含む)
- ③ -講義-博物館資料の保存環境-材料の劣化と分析
- ④ -講義-博物館資料の保存環境-災害の防止と対策
- ⑤ -講義-資料の保全-日本画
- ⑥ -講義-資料の保全-日本画
- ⑦ -講義-資料の保全-油画
- ⑧ -講義-資料の保全-油画
- ⑨ -講義-資料の保全-彫刻
- ⑩ -講義-資料の保全-彫刻
- ⑪ -講義-資料の保全-工芸
- ⑫ -講義-資料の保全-工芸
- ⑬ -講義-資料の保全-建造物
- ⑭ -講義-文化財の保存と活用-建造物
- ⑮ -講義-文化財の保存と活用-博物館と地域のかかわり

■教材・参考書

参考書：

石崎武志 編著：博物館資料保存論 講談社 (2012)

森田稔：博物館資料保存論 (放送大学教材) (2012)

佐野千絵、呂俊民、吉田直人、三浦定俊：博物館資料保存論 ?文化財と空気汚染- みみずく舎 (2010)

■成績評価の方法

出席を重視する

■履修上の指示事項

■備考 (オフィスアワー)

原則として授業後

[メールアドレスはG-net シラバスに記載] (保存科学研究室 稲葉)

演奏芸術センター開設科目

AVメディア

代表教員：岩下 哲也

曜日時限：木曜5限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：演奏芸術センター開設科目

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

レコーディング機器、ビデオ撮影機器、編集機器の基礎を知り、スタジオ、ステージでの録音・録画作業の基本を学ぶ。それらを通じ、自己の音楽表現への助けになる、何かを学び取っていただきたいと思っている。

■授業計画及び内容

- ・スタジオでの実習が中心。
- ・レコーディング機器（マイク、ミキサー、エフェクタ、録音機）、ビデオ機器（カメラ、VTR、ミキサー、タイ틀ー）などの他、コンピュータによる編集や分析機を使い、主に「実習」の形で学ぶ。
- ・時として芸大定期演奏会などの収録スタッフとしても参加する。
- ・後期はテーマを決め、自主制作映像作品を作る予定である。

■教材・参考書

- ・必要に応じ資料を配付する。

■成績評価の方法

- ・実習の部分が多いため出席を重視する。
- ・年度末にレポートを課す予定である。

■履修上の指示事項

- ・音響学、サウンドレコーディング、など他の基礎科目と併せて（また順次に）履修することを進める。

■備考（オフィスアワー）

アジアの伝統と現代

代表教員：安田 茂美

曜日時限：月曜5限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：演奏芸術センター開設科目

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

日本・アジア、そして世界へ伝統と現代の狭間で生きる我々にとって、アジアは「可能性の宝庫」である。日本、アジア、そして世界の伝統と現代の芸術的要素を取り入れた、創造芸術の可能性を考察する。

■授業計画及び内容

アジアの音楽・美術は、その音響、色彩、舞台、衣装等、空間芸術としても多くの魅力に溢れている。この授業では、現代のアジアの芸術界の状況とその魅力を、考察していくとともに、21世紀を担う空間芸術の可能性を探っていく。担当する美術プロデューサー、NHKプロデューサー、作曲家により、毎回、Video、CD、スライド等を用いてアジアの神秘的でエネルギー的な芸術の魅力について講義を行う。

■教材・参考書

そのつど指示する

■成績評価の方法

出席率とレポート内容

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

音楽を伝えるメディア

代表教員：新井 隼子

曜日時限：木曜 4 限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：演奏芸術センター開設科目

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

一般に「音楽メディア」と言えば楽譜等の印刷物や録音媒体を指すが、この授業では、言葉・絵画・映像など音楽を伝える多種多様なメディアの在り方や功罪について考える。

音楽を伝達する手段・方法の可能性を探ることは、コンサートの構成や自己プロデュースの実践において最も重要な知識となる。

■授業計画及び内容

授業は、講義および履修者による議論を中心とするゼミ形式。

以下3つのテーマを中心に、音楽を伝えるメディアの機能・目的がどのように変わるのかを分析し比較する。

1 音楽と映像（音楽に関する映像・映画・番組の分析）

2 音楽と言葉（ポップスからオペラまでの作詞・訳詞の試作）

3 音楽と場所（コンサートの構成・プロデュースの実践指導）

■教材・参考書

「あたらしい教科書8音楽」（プチグラ・パブリッシング）小沼純一・新井?子他著。「携帯で聴けるクラシックの名旋律」（実業之日本社）新井?子著。

他随時提示。

■成績評価の方法

出席率、および議論参加の積極性。

■履修上の指示事項

オペラ、コンサート、番組の制作現場の見学など課外授業もあり。

■備考（オフィスアワー）

木曜日 14：00～14：30、16：20～17：00

劇場技術論

代表教員：西川 信廣

曜日時限：水曜 2 限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：演奏芸術センター開設科目

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

戯曲や台本を視覚化、立体化するための照明・音響・美術などの舞台技術、ならびにそれらが総合された舞台芸術について、各分野の専門家がワークショップなどを交えながら講義する。また、舞台稽古見学なども随時行う。

■授業計画及び内容

総論を西川、大石が担当し、下記の講師陣（予定）による講義、ワークショップ、舞台稽古の見学を行う。

舞台美術論＝石井強司（舞台美術家）、松井るみ（舞台美術家）

舞台照明論＝海藤春樹（舞台照明家）、中山奈美（舞台照明家）

衣装論＝合田瀧秀（衣装デザイナー）、前田文子（衣装プランナー）

音響論＝山北史郎（音響デザイナー）

劇場運営論＝衛 紀生（演劇評論家）、吉井澄雄（舞台照明家・劇場コンサルタント）

舞台技術論＝金井勇一郎（舞台美術家）

オペラ＝高島 勲（オペラ演出家）

ミュージカル＝上田 亨（作曲家）

地域劇場論＝高萩 宏（東京芸術劇場副館長）他

■教材・参考書

その都度指示する。

■成績評価の方法

平常点（出席率）を基本として、レポートの提出を求めることもある。

■履修上の指示事項

休講や、舞台稽古見学の集合時間、集合場所の連絡などがあるので、事前に掲示を注意して見ること。問い合わせは、演奏芸術センター教員室 050-5525-2465、または内線 6150 へ。

■備考（オフィスアワー）

授業時間の前後30分間、演奏芸術センター教員室（4-101）

劇場芸術論

代表教員：松下 功

曜日時限：火曜5限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：演奏芸術センター開設科目

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

舞台芸術を、総合芸術としての演劇を中心に、戯曲、台本、演出、演技、音楽など、様々な面から分析的にとらえ、それらが劇場空間の中で、どのように融合し、立体化されるのか、実践も交えながら講義する。

■授業計画及び内容

総論を西川と松下が担当し、下記の講師陣（予定）による講義と実践を行う。

演出論＝鶴山 仁（演出家）、栗山民也（新国立劇場演劇部門芸術監督・演出家）、

池内美奈子（演出家）、西川信廣（演出家）

戯曲論＝古城十忍（演出家）、鴻上尚史（劇作家）

演技論＝角野卓造（俳優）

劇場音楽＝岩代太郎（作曲家）、

ミュージカル論＝小池修一郎（宝塚歌劇団作家・演出家）、横山由和（作家・演出家）

落語論＝三遊亭遊之介（落語家）

ダンス＝室町あかね（舞踊家）

ファイティング・コリオグラフ＝渥美 博（ファイティング・コーディネーター）

演奏論＝林 英哲（和太鼓奏者）他

■教材・参考書

そのつど指示する

■成績評価の方法

平常点（出席率）を基本として、レポートの提出を求めることもある。

■履修上の指示事項

休講や、舞台稽古見学の集合時間、集合場所の連絡などがあるので、事前に掲示を注意して見ること。問い合わせは、演奏芸術センター教員室 050-5525-2465、または内線 6150 へ。

■備考（オフィスアワー）

授業時間の前後30分間、演奏芸術センター教員室（4-101）

コンサート制作論

代表教員：大石 泰

曜日時限：水曜3限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：演奏芸術センター開設科目

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

東京藝術大学演奏芸術センター企画のコンサートを手がかりとして、コンサートの制作とはどういうことか、その理念と実際を理論的体系的な学問としてではなく、現場制作者の立場で学ぶ。

■授業計画及び内容

演奏芸術センターは、今年度も下記のような3つの柱を立ててコンサートの企画を進めている。

1 音楽学部各科の枠を越えた藝大ならではの《藝大プロジェクト》シリーズ

2 各科の専門性、独自性を活かした《奏楽堂》シリーズ

3 「今」という時代を見つめる《藝大21》シリーズ

これらのコンサートの企画・運営を学ぶとともに、打合せから本番までコンサート制作の流れを実習する。

具体的には、コンサートを企画するとはどういうことかという総論から始めて、徐々に具体的な事例を取り上げ、最終的には履修者ひとりひとりにコンサートの企画書を作成してもらう。

■教材・参考書

その都度指示する。

■成績評価の方法

出席率に平常の授業態度を加味する。

■履修上の指示事項

演奏芸術センター企画のコンサートにおいて、課外授業もある。

■備考（オフィスアワー）

水曜日 15:00~17:00

サウンドレコーディング基礎演習

代表教員：松田 賢一

曜日時限：木曜3限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：演奏芸術センター開設科目

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

楽器別、演奏形態別にマイクロホンによる收音技術の基礎を、演習により習得する。CD、放送等で聞かれる音楽表現は收音技術の方法により大きく異なることを体験する。

■授業計画及び内容

1. サウンドレコーディングとは
 - ア. 既存CDにより録音手法、音楽表現の事例を聞く
 - イ. 録音、收音とはどのような技術なのか
 - ウ. 再生音声を想定したサウンドステージ、音声空間の作り方
 - エ. マイクアレンジの方法

2. 演習

楽器別、演奏形態による收音をスタジオ及びホールにて実習

■教材・参考書

若林駿介 著 レコーディング技法入門 オーム社

■成績評価の方法

出席率を重視します。評価試験はレポート提出によります。

■履修上の指示事項

積極的に演習作業に参加して下さい。録音の音源となる楽器演奏に、積極的に参加して下さい。機材の取り扱いには指示に従ってください。

■備考（オフィスアワー）

障害とアーツ

代表教員：松下 功

曜日時限：水曜4限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：演奏芸術センター開設科目

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

人に温かさを、地球にやさしさを求められている今、藝術を志すものに何が求められ、また我々は何を為すことができるだろうか？本授業では、「障がい者から学ぶアーツ」をテーマに芸術の果たす役割を考察し、奏楽堂で開催する「藝大アーツ・スペシャル」の企画を立案・実行していく。

■授業計画及び内容

本授業では障がいを越えた芸術のあり方について論じるとともに、「共に生きる」の理念の基に、福祉施設等の現場においてワークショップ等を行う。障がいを持つ人たちと一緒に音楽・美術などの芸術活動を行い、提供する側と受ける側という境をなくし、真に心の交流による芸術空間の創造の可能性を洞察する。《聞こえる色、見える音》という発想のもと、視覚・聴覚・知的の特別支援学校や福祉施設との交流を行う。また、国内外の障がいとアーツに取り組む大学・組織との交流を行う。本年は、ベトナムから視覚障がいをもつダンバウ（ベトナムの伝統楽器）奏者らを招へいする。

平成26年12月6日、7日に、奏楽堂で開催する《藝大アーツ・スペシャル》～障がいとアーツ～では、芸術活動を行っている障がい者、研究者、アーティストらを招き、展覧会、コンサート、シンポジウム等を行う。その企画・構成・運営を演奏芸術センター・社会連携センターの教員らと共に実行していく。

■教材・参考書

そのつど指示する

■成績評価の方法

授業、《藝大アーツ・スペシャル》への参加度

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

ホール音響概論

代表教員：福地 智子

曜日時限：

学 期：集中講義

単 位 数：2

ジャンル：演奏芸術センター開設科目

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

コンサートホールをはじめとするホールの音響設計の概要と手法を習得する。響きの良さや静けさがホールには必要だが、これらがどのような方法で得られているか。またホールの音響特性がどのような建築条件に関係しているかなどを学ぶ。

■授業計画及び内容

1. 音の基礎
2. 室内音響設計
室形状や仕上げ材料と響きの関係について学ぶ
 - ・室形状と音響条件
 - ・残響時間と音響条件
3. 遮音設計
周辺室からの騒音・振動を防ぐ方法について学ぶ
 - ・静けさの基準と評価方法
 - ・遮音構造と遮音性能
 - ・防振構造
4. 電気音響設備設計
5. 設備騒音・振動の防止
6. いろいろなホールの音響設計例
海外やわが国の代表的なホールの紹介と音響設計について
7. 奏楽堂の音響設計、見学
舞台、客席、奈落、天井裏などを見学し、総合的な音響設計の内容を学ぶ

■教材・参考書

永田穂著「新版 建築の音響設計」オーム社
適時プリント

■成績評価の方法

出席率重視
評価方法はレポート提出

■履修上の指示事項

講義を受ける前にできるだけいろいろなホールでコ

ンサートや芝居などを聞いたり見たりすること。奏楽堂の見学では、可動する天井をいろいろなパターンでセットして聴感的な確認をするので、その時には楽器演奏をしてください。

■備考（オフィスアワー）

芸術情報センター開設科目

アーカイブ概論

代表教員：西澤 徹夫

曜日時限：木曜3限

学 期：前期

単 位 数：2

ジャンル：芸術情報センター開設科目

開設区分：美術併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

ポストモダニズムにおける「メディア論」の問題構制を念頭に置きつつ、主に「アーカイヴ」と呼ばれる知の在り方そのものを扱う。アーカイヴとはなにか。いかにしてアーカイヴは可能となるのか。アーカイヴはなにと異なり、またなにとどう似ているのか。本講座は資料体 (corpus) の編成として実現される知のカルトグラフィを芸術学の範疇において捉え、アーカイヴをめぐる問いの束と、「芸術（芸術作品）とはなにか」という問いとの接続を試す知的実践の場である。アーカイヴを形成する思考／アーカイヴに内在する思考としてのいわば〈アーカイヴ的思考〉の所在を、然るべき芸術作品への視座の内に求めること——本講座の課題は、そのような〈思考〉の類推的かつ外延的な質の探求であり、アーカイヴ・モデルとしての芸術作品の分析である。

■授業計画及び内容

1. アーカイヴと芸術作品（導入と問題設定）
2. 分類について／一覧化について
3. 記録について／写真について／反復について
4. 断片について／類似について
5. 非永続性（儻さ ephemerality）と「エフェメラ」
6. 全体と部分（ワークショップ①）
7. アーカイヴと歴史的唯物論
8. 時間について／場所（Site/Nonsite）について
9. 「レイアウト」について
10. 内容と容器（ワークショップ②）
11. コラージュとモンタージュ
12. アーカイヴの建築的条件
14. アーカイヴと隣接性
13. アーカイヴの界面 interfaces（ワークショップ③）
15. アーカイヴと出来事（結語と問題の再設定）

担当教員：上崎千、西澤徹夫、松井茂

■教材・参考書

教材、参考書は適宜、配布ないし指定する。

■成績評価の方法

出席数、履修態度、課題提出の内容を総合的に評価する。

■履修上の指示事項

授業の進捗状況等により授業計画及び内容は変更することがある。

■備考（オフィスアワー）

インタラクティブ・ミュージック I

代表教員：松村 誠一郎

曜日時限：木曜 5 限

学 期：前期

単 位 数：2

ジャンル：芸術情報センター開設科目

開設区分：美術併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

この講義では、オープンソースのグラフィカルプログラミング環境である Pure Data の拡張版、Pd-extended を使ってサウンドプログラミングの基礎を学びます。音のデータの取り扱いと加工、シンセサイザープログラムの制作、アルゴリズムを使った作曲などが主なテーマですが、後半は Pure Data+GEM による CG 映像や画像の生成を行ったり、MIDI キーボード、Web カメラ、ネットワーク、iPhone 等との連携を行なって、音以外の要素の表現やコンピュータの外部と内部のインタラクシオンを実現させる制作を行ないます。

■授業計画及び内容

1. ガイダンス、Pure Data の紹介
2. Pure Data の基本操作
3. サンプリングの基礎と応用
4. シンセサイザープログラムの制作（音の合成と発振）
5. エフェクターを作る
6. アルゴリズムでシーケンスを作る
7. データの格納、保存、呼び出し
8. 中間課題発表
9. GEM で映像と画像を扱う-入門編
10. GEM で映像と画像を扱う-応用編
11. 物理モデルと映像を扱う
12. Web カメラを使う
13. ネットワーク接続 (Open Sound Control)
14. iPhone で Pure Data を動かす (MobMuPlat)
15. 最終講評会

■教材・参考書

毎回の授業資料は Web に掲載し、サンプルプログラムはダウンロード可能とします。

<http://puredatalesson.blogspot.jp/>

参考書：

松村誠一郎著『Pd Recipe Book Pure Data ではじめるサウンドプログラミング』BNN 新社、2012 年（初級者向け）

美山千香士著『Pure Data -チュートリアル&リファレンス』ワークスコーポレーション、2013 年（中上級者向け）

■成績評価の方法

授業の履修態度、課題提出（中間課題・最終課題）の内容を総合的に評価します。

■履修上の指示事項

Mac の基本操作（マウスの操作、文字入力、ファイルやフォルダの操作）は理解している前提で授業を行います。作曲のスキル、音楽経験はまったく問いません。

■備考（オフィスアワー）

Pd-extended は最新版（バージョン 0.43.4 : 2014 年 1 月 21 日時点）の Mac 版を使用します。

Windows 版、Linux 版もあり、無料です。
<http://puredata.info> からダウンロードし、自宅の PC にインストール可能です。

Mac 版は XQuartz のインストールが必要です。
質問はメール（G-net 参照）で受け付けます。

インタラクティブ・ミュージック II

代表教員：田所 淳

曜日時限：木曜 5 限

学 期：後期

単 位 数：2

ジャンル：芸術情報センター開設科目

開設区分：美術併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

インタラクティブなサウンドプログラミングの応用と実践。

この講義では、前期に開講される「インタラクティブ・ミュージック I」の内容を踏まえて、さらに実践的にサウンドプログラミング技術の理解を深めます。演習は教室での講義と AMC ウッドデッキでのパフォーマンス実習を交互に行いながら、実践的にサウンドプログラミングを習得します。プログラミングの環境としては、フリーウェア (GPL ライセンス) として入手可能な音響合成用プログラミング環境および言語である SuperCollider を用います。

演習の後半では、学外でのイベントを企画してライブパフォーマンスを発表します。

■授業計画及び内容

- * ガイダンス
- * SuperCollider 入門 1
- * SuperCollider 入門 2 関数と UGen
- * SuperCollider 入門 3 音を混ぜる (Mix)、楽器を定義 (SynthDef)
- * SuperCollider 入門 4 楽器を定義、変調合成 (RM, AM, FM)
- * SuperCollider 入門 5 時間構造をつくる
- * SuperCollider 入門 6 オリジナルの楽器を作ろう!
- * 中間講評会
- * SuperCollider 応用 1 SuperCollider と OSC (Open Sound Control)
- * SuperCollider 応用 2 SuperCollider と Processin 連携 1
- * SuperCollider 応用 3 SuperCollider と Processin 連携 2
- * SuperCollider 応用 4 SuperCollider と Processin 連携 3
- * ライブイベントの企画 1
- * ライブイベントの企画 2

* 最終講評会

■教材・参考書

授業資料は Web サイト (<http://yoppa.org/>) に掲載します。

“The SuperCollider Book”, James McCartney, Scott Wilson, David

Cottle, Nick Collins, The MIT Press, 2011

Curtis Roads (著) 青柳龍也 (訳) 後藤真孝 (訳) 『コンピュータ音楽-歴史・テクノロジー・アート』東京電機大学出版局、2001 年

Nicolas Collins (著) 久保田晃弘 (監訳) 船田巧 (訳)

『Handmade Electronic Music 手作り電子回路から生まれる音と音楽』オライリージャパン、2013 年

■成績評価の方法

出席数、履修態度、課題提出 (中間課題・最終課題) の内容を総合的に評価します。

■履修上の指示事項

Mac の基本操作 (マウスの操作、文字の入力、ファイルやフォルダの操作) は理解している前提で授業を行います。

■備考 (オフィスアワー)

映像演習Ⅰ 映画

代表教員：長 篤 寛幸

曜日時限：火曜5限

学 期：前期

単 位 数：2

ジャンル：芸術情報センター開設科目

開設区分：美術併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

現在のあらゆる芸術表現において、映像は表現の記録装置としても、表現の一部としても、あるいは表現そのものとしても不可欠な存在となった。本演習では20世紀の映像表現を牽引した「劇映画制作」の行程を学ぶことから、映像制作の実践的知識と技術の習得を目指す。具体的にはグループごとに数分間の短編劇映画作品を制作する。

■授業計画及び内容

- 第1回：オリエンテーション（長 篤 寛幸）
- 第2回：映画脚本概論（大石三知子）
- 第3回：映画撮影／照明概論（柳島克己）
- 第4回：映画編集概論（筒井武文）
- 第5回：映画音響概論（長 篤 寛幸）
- 第6回：映画美術概論（磯見俊裕）
- 第7回：映画撮影基礎 1（カメラ撮影の基本技術 1）
（飯岡幸子）
- 第8回：映画撮影基礎 2（カメラ撮影の基本技術 2）
（飯岡幸子）
- 第9回：映像編集基礎（ノンリニア編集について）（山崎梓）
- 第10回：作品制作準備（加藤直輝、酒井耕）
- 第11回：作品制作（加藤直輝、酒井耕）
- 第12回：作品制作（加藤直輝、酒井耕）
- 第13回：作品制作（加藤直輝、酒井耕、山崎梓）
- 第14回：講評会、総論

■教材・参考書

教科書／参考書は適宜、配布ないし指定する。

■成績評価の方法

出席数、履修態度、課題提出の内容を総合的に評価する。

■履修上の指示事項

学部、学科、学年、大学院を問わず参加可能。

授業の進捗状況等により授業計画及び内容は変更されることがある。

■備考（オフィスアワー）

映像演習Ⅱ アニメーション

代表教員：岡本 美津子

曜日時限：月曜5限

学 期：前期

単 位 数：2

ジャンル：芸術情報センター開設科目

開設区分：美術併設

交流区分：交流

履修者数は40名を上限とする予定。

■備考（オフィスアワー）

■授業のテーマ

アニメーションは、様々な素材やキャラクター、ストーリー、音声等により成り立つ複合化された総合芸術である。本授業では、入門的な講義と演習を通じて、アニメーション表現の多様性と可能性を理解してもらう。

■授業計画及び内容

- 第1回：オリエンテーション（布山タルト）
- 第2回：アニメーション概論?技法とプロセス①（山村浩二）
- 第3回：アニメーション概論?技法とプロセス②（山村浩二）
- 第4回：アニメーション基礎技術演習①（布山タルト）
- 第5回：アニメーション基礎技術演習②（布山タルト）
- 第6回：平面アニメーション制作演習①（布山タルト）
- 第7回：平面アニメーション制作演習②（山村浩二）
- 第8回：平面アニメーション制作演習③（山村浩二）
- 第9回：立体アニメーション概論（伊藤有壱）
- 第10回：立体アニメーション制作演習①（伊藤有壱）
- 第11回：立体アニメーション制作演習②（伊藤有壱）
- 第12回：立体アニメーション制作演習③（伊藤有壱）
- 第13回：アニメーション研究概論（布山タルト）
- 第14回：企画・プロデュース講座①（岡本美津子）
- 第15回：企画・プロデュース講座②（岡本美津子）

■教材・参考書

参考文献は適宜、配布ないし指定する。

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

学部、学科、学年、大学院を問わず参加可能。

芸術情報概論 A

代表教員：苅宿 俊文

曜日時限：金曜 5 限

学 期：前期

単 位 数：2

ジャンル：芸術情報センター開設科目

開設区分：美術併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

本授業のテーマは、芸術による教育、学校教育の芸術科目、情報としてのメディア表現の3つの重なりの部分に現在の教育実践の課題を打開する糸口があるのでないかという仮説の共有である。打開すべき課題としては「思考停止社会」で起こっている学習からの逃走を挙げたい。そして、その打開策こそが芸術系科目に埋め込まれているコミュニティ形成につながる表現と対話としている。受講生は、「まなびを学ぶ」というコンセプトでデザインされた「体験-モニタリング-省察-理論的意味づけ」の授業を通して、自らが学ぶべき「学び方」を経験してもらいたい。

授業の具体はメディア表現をグループワークで「体験」すること。「体験」したことを意味と仕組みをグループワークで「省察」すること。体験や省察での生成される事柄を教育的な視点で「意味づけ」をすること。の3つを3回繰り返してもらおう。

■授業計画及び内容

- 1 この講座の学び方
- 2 教養としての教育学-近代の学校とこれからの学校
- 3 「体験 1」グループワークでメディア表現に取り組む。
- 4 「省察 1」メディア表現の体験から見いだせることをグループワークで省察する。
- 5 「意味づけ 1」体験-省察の関係をショーンの省察的实践として解説する。
- 6 「体験 2」グループワークでメディア表現に取り組む。
- 7 「省察 2」メディア表現の体験から見いだせることをグループワークで省察する。
- 8 「意味づけ 2」ゲーゲンの社会構成主義を通して相互作用を解説する。
- 9 「交流」リアルコミュニケーションツールを利用して受講生同士のコミュニケーションを深める。

10 「体験 3」グループワークでメディア表現に取り組む。

11 「省察 3」メディア表現の体験から見いだせることをグループワークで省察する。

12 「意味づけ 3」体験-省察の関係をショーンの省察的实践として解説する。

13 この講座を学んだ自分を俯瞰する 1

14 この講座を学んだ自分を俯瞰する 2

15 この講座の振り返り

■教材・参考書

苅宿俊文他編著『まなびほぐしのデザイン』（ワークショップと学び3）東大出版会、2012年

N. ベーリー『キッズ・サバイバル 生き残る子供たちの「アートプロジェクト」』フィルムアート社、2001年

矢野智司『贈与と交換の教育学 漱石、賢治と純粋贈与のレッスン』東大出版会、2008年

佐藤学他『子どもの想像力を育む アート教育の思想と実践』東大出版会、2003年

■成績評価の方法

レポート、講義やグループワークへの貢献など総合的に評価する。

■履修上の指示事項

* ワークショップ形式の授業のため履修者の定員を50名とする（履修登録に際して、芸術情報センターHP等で連絡を行うことがあるので、随時確認のこと）。

前向きな姿勢と批判的な姿勢のバランスを考えていくことを可能なら求めていきたい。

■備考（オフィスアワー）

芸術情報概論B

代表教員：苅宿 俊文

曜日時限：金曜 5 限

学 期：後期

単 位 数：2

ジャンル：芸術情報センター開設科目

開設区分：美術併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

本授業のテーマは、芸術による教育、学校教育の芸術科目、情報としてのメディア表現の3つの重なりの部分に現在の教育実践の課題を打開する糸口があるのでないかという仮説の共有である。打開すべき課題としては「思考停止社会」で起こっている学習からの逃走を挙げたい。そして、その打開策こそが芸術系科目に埋め込まれているコミュニティ形成につながる表現と対話としている。受講生は、「まなびを学ぶ」というコンセプトでデザインされた「体験-モニタリング-省察-理論的意味づけ」の授業を通して、自らが学ぶべき「学び方」を経験してもらいたい。

授業の具体はメディア表現をグループワークで「体験」すること。「体験」したことを意味と仕組みをグループワークで「省察」すること。体験や省察での生成される事柄を教育的な視点で「意味づけ」をすること。の3つを3回繰り返してもらおう。

■授業計画及び内容

- 1 この講座の学び方
- 2 教養としての教育学-近代の学校とこれからの学校
- 3 「体験 1」グループワークでメディア表現に取り組む。
- 4 「省察 1」メディア表現の体験から見いだせることをグループワークで省察する。
- 5 「意味づけ 1」体験-省察の関係をショーンの省察的实践として解説する。
- 6 「体験 2」グループワークでメディア表現に取り組む。
- 7 「省察 2」メディア表現の体験から見いだせることをグループワークで省察する。
- 8 「意味づけ 2」ゲーゲンの社会構成主義を通して相互作用を解説する。
- 9 「交流」リアルコミュニケーションツールを利用して受講生同士のコミュニケーションを深める。

10 「体験 3」グループワークでメディア表現に取り組む。

11 「省察 3」メディア表現の体験から見いだせることをグループワークで省察する。

12 「意味づけ 3」体験-省察の関係をショーンの省察的实践として解説する。

13 この講座を学んだ自分を俯瞰する 1

14 この講座を学んだ自分を俯瞰する 2

15 この講座の振り返り

■教材・参考書

苅宿俊文他編著『まなびほぐしのデザイン』（ワークショップと学び3）東大出版会、2012年

N. ベーリー『キッズ・サバイバル 生き残る子供たちの「アートプロジェクト」』フィルムアート社、2001年

矢野智司『贈与と交換の教育学 漱石、賢治と純粋贈与のレッスン』東大出版会、2008年

佐藤学他『子どもの想像力を育む アート教育の思想と実践』東大出版会、2003年

■成績評価の方法

レポート、講義やグループワークへの貢献など総合的に評価する。

■履修上の指示事項

* ワークショップ形式の授業のため履修者の定員を50名とする（履修登録に際して、芸術情報センターHP等で連絡を行うことがあるので、随時確認のこと）。

前向きな姿勢と批判的な姿勢のバランスを考えていくことを可能なら求めていきたい。

■備考（オフィスアワー）

芸術と情報

代表教員：桐山 孝司

曜日時限：水曜3限

学 期：後期

単 位 数：2

ジャンル：芸術情報センター開設科目

開設区分：美術併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

芸術と情報のかかわりについて、作品についてだけでなく創作活動を支える情報技術や思考という面での理論化について解説する。またこれから芸術活動を行っていくために、芸術のためのアーカイブの維持構築などの活動を知るとともに、現代の社会基盤を動かしている情報技術を意識して目に見えない部分にも問題意識を持つ。併せて情報について理解を深めるためのワークショップを行う。

■授業計画及び内容

芸術と情報入門（1）	イントロダクション
芸術と情報入門（2）	創作活動を支える情報技術
芸術と情報入門（3）	モノづくりの思考、特にエンジニアはどこを見ているか
芸術と情報入門（4）	芸術の歴史と情報の関係：対話
ワークショップ（1）	砂と数理曲線：モノが作り出す情報
現代社会と情報（1）	インフラストラクチャ：カメラ、センサ、認識
ワークショップ（2）	データの視覚化：情報から発見する
現代社会と情報（2）	インタフェース
ワークショップ（3）	エンコーディング：モノと情報のマッピング
現代社会と情報（3）	モノを扱う情報システム：見学
ワークショップ（4）	暗号解読：情報から推測する仮説思考
現代社会と情報（4）	論理的思考の美しさ：公開鍵暗号を例に
芸術情報の利用（1）	芸術情報のアーカイブ：見学
芸術情報の利用（2）	芸術情報のオーガナイズ：対話
芸術と情報（最終回）	まとめ

■教材・参考書

教科書、参考書は適宜、配布ないし指定する。

■成績評価の方法

出席数、履修態度、課題提出の内容を総合的に評価する。

■履修上の指示事項

授業の進捗状況等により授業計画及び内容は変更することがある。

■備考（オフィスアワー）

コードとデザイン

代表教員：鈴木 太郎

曜日時限：水曜 4 限・5 限

学 期：前期

単 位 数：4

ジャンル：芸術情報センター開設科目

開設区分：美術併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

本演習は、テクノロジーを使用した表現・コミュニケーションのための、技術習得及び感覚デザインに関する基礎原理を学ぶことを目的とする。具体的には、レーザーカッター、3D プリンタ、Arduino といった、近年、表現に使用されるテクノロジーによって生み出された物体・体験の質感（光、立体、触テクスチャ等）を体系的に分析し、表現の基盤にある感覚原理をより深く理解し、表現の視点を広げる契機とする。

* 使用機材の関係から履修者は15名程度に限定する。

* 履修申し込みを初回授業（履修登録の前）に行うので希望者は必ず出席のこと。

■授業計画及び内容

第1回：

イントロダクション、教員紹介

第2回－第5回：渡邊・鈴木

レーザーカッターで作った触覚テクスチャの体系的理解

第6回－9回：鈴木・渡邊

Arduino を使った光の制御と素材感の体系的理解

第10回：（外部講師予定）

立体に関する、概念、3D ソフトウェアの基本的な使用法

第11回－14回：藤木

3D プリンタを使った立体制作と立体構造のみえの体系的理解

担当教員：鈴木太郎、渡邊淳司、藤木淳

■教材・参考書

・渡邊淳司（編著）、田中浩也、藤木淳、丸谷和史、坂倉杏介、ドミニク・チェン

『いきるためのメディア 知覚・環境・社会の改編に向けて』（春秋社、2010年）

・『心理学研究法1 感覚・知覚』村上郁也編著（誠信書房、2011年）

■成績評価の方法

出席数、履修態度、課題提出の内容を総合的に評価する。

■履修上の指示事項

授業の進捗状況等により授業計画及び内容は変更することがある。

■備考（オフィスアワー）

サウンド・デザイン概論

代表教員：長 寛 幸

曜日時限：火曜 4 限

学 期：前期

単 位 数：2

ジャンル：芸術情報センター開設科目

開設区分：美術併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

現代の芸術表現全般に関わる音響に関して、音楽、美術、映像それぞれの立場から、実践的な事例を基に、身体、メディア技術、理論をサウンド・デザインという観点から講義する。

■授業計画及び内容

◎長 寛 幸（映像研究科） 4 月 8、15、22 日（3 回）
・映画におけるサウンドデザインとは？ウォルター・マーチを出発点として
・自作解説：シニギワ『Roadside Picnic』（2013 年）
・Buchla シンセサイザーとソフト／ハードウェア DSP を用いたリアルタイム・サウンドデザインの実演

◎古川 聖（先端芸術表現科）5 月 13、20、27 日（3 回）

・「数による音楽：想像力のためのツールとしてのコンピュータ」1990 年代から 2006 年にかけて、様々なアルゴリズム作曲（音楽をモデル化、数式化し音を生成する）をおこなった。それらをまとめ CD「数による音楽」として出版したが、そこで使われた方法や作品を問題点とともに紹介、検証する。

・「sound travels by composer Hans Tutschku」ゲスト：Hans Tutschku

・「Brain dreams music」プロジェクトの紹介 ゲスト：濱野峻行

脳波の実時間解析と音楽的想起内容の分別、音響化、視覚化のためのシステムの開発プロジェクトとそれをつかった作品、‘it’ s almost a song…’ の解説、実演を行う。また、その技術の延長上にある複数の人間、つまり複数の脳波（現在は 5 台だが、もっと多数にする計画もある）を同時計測し、そのデータを実時間で分析し相互に比較、関係づけ、可聴化、視覚化しインスタレーションとして展示する現在進行中のプロジェクトを解説、実演する。

◎野平一郎（作曲科） 5 月 27 日、6 月 10、17 日（3

回）

・楽器と電子音響のミックス作品の歴史と魅力
・ピアノとコンピュータのための「ベートーヴェンの記憶」について
・サクソとコンピュータのための「息の道」について

◎久保田晃弘（多摩美術大学）7 月 1、8 日（2 回）

・code composition について
・live coding について

◎畠中実（NTT インターコミュニケーション・センター）7 月 15、22 日（2 回）

・サウンド・アートをめぐる

■教材・参考書

教材、参考書は適宜、配布ないし指定する。

■成績評価の方法

出席数、履修態度、課題提出の内容を総合的に評価する。

■履修上の指示事項

授業の進捗状況等により授業計画及び内容は変更することがある。

■備考（オフィスアワー）

ジェネラティブ・デザイン

代表教員：金田 充弘

曜日時限：月曜 4 限・5 限

学 期：後期

単 位 数：4

ジャンル：芸術情報センター開設科目

開設区分：美術併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

ジェネラティブ・デザインとはどういうことか、を意識し文脈や基本的な原理を解説しつつ、クリエイターが手だけでは作りきれない（複雑 性や量）を扱う術を紹介していきます。参加者は 3D スキャナ、3D プリンタなどのファブリケーション実習を交えながら、CAD（作図）、モデリング、プログラミングが習得できます。

今回はフラクタル（自己相似）の基礎で、植物など自然物の構造を記述・表現することができる Lindenmayer system(L-system)を中心に解説・演習し、各自の創作に応用していきます。基本的な説明以後は、それぞれのアイデアを制作に移し、エスキースを行いながら実践的に講師がサポート対応する形で進行します。

ワークショップホームページ：

<http://gd.d-xx.com/>

このコースに向いている人：

やる気や興味が強ければ、プログラミングの知識や経験は無くても可能。

論理思考が得意な人。

表現を裏打ちする数学に興味がある人。

最終アウトプット：

平面もしくは立体作品を各自（もしくは各グループ）一つ以上。

使用予定プログラミング言語：

主に python

使用予定ソフト：

ライノセラス + グラスホッパー + GH python

adobe 系グラフィックソフト

使用予定設備：

3D スキャナ

3D プリンタ

NC カッター

■授業計画及び内容

解説 ジェネラティブとは。

解説 Lindenmayer system(L-system) について。

演習 L-system 解説、記述演習、手書き

演習 L-system のルール作り

演習 ビジュアライジング、コーディング python

演習 CAD、モデリングソフト 演習 rhinoceros の基本的な使い方

演習 パラメトリック モデリング rhinoceros + グラスホッパー + python = GH python によるパラメトリックな操作

演習 パラメトリック/ジェネラティブ モデリング グラスホッパー + python = GH python L-system

演習 ファブリケーション演習 3D スキャン (Rexcan) rhinoceros

演習 ファブリケーション演習 3D プリント rhinoceros

演習 作品制作

■教材・参考書

教材、参考書は適宜、配布ないし指定する。

■成績評価の方法

出席数、履修態度、課題提出の内容を総合的に評価する。

■履修上の指示事項

* 使用機材の関係から履修者を限定する場合があります（履修登録に際して、芸術情報センターHP 等で連絡を行うことがあるので、随時確認のこと）。

授業の進捗状況等により授業計画及び内容は変更することがある。

■備考（オフィスアワー）

情報編集 (WEB)

代表教員：田所 淳

曜日時限：火曜3限

学 期：前期

単 位 数：2

ジャンル：芸術情報センター開設科目

開設区分：美術併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

Webの技術を駆使して、情報を表現し発信する。現在、情報を伝達するための手段としてWebは欠かすことのできないメディアとなっています。しかし、Webは単純な情報の伝達手段を越えた表現のためのメディアとしての大きな可能性を秘めています。Webブラウザの進化、Webに関連する様々なテクノロジーの進歩によって、Webを用いた表現の幅は日々拡張されています。この授業では、Webを表現のためのメディアと捉え、様々な技術を学びながらその可能性を探っていきます。最終的に自分自身でWebを用いて表現し発信できることを目標とします。

■授業計画及び内容

- * オリエンテーション: Webをめぐるここ数年の状況
- * HTML、CSSの基礎についての確認
- * HTML5 (1): 文書の構造化のための新要素
- * HTML5 (2): 音声、動画などマルチメディアのための新要素
- * CSS 3 (1): CSS3によるWebデザイン1
- * CSS 3 (2): CSS3によるWebデザイン2
- * 中間課題「HTML5とCSS3によるWebデザイン」講評
- * Webサービスの活用 (1): 写真、動画の共有
- * Webサービスの活用 (2): ソーシャルメディアの活用
- * jQuery (1): jQueryとは、簡単なアニメーションを作成
- * jQuery (2): jQueryのプラグインの活用
- * jQuery (3): フォトギャラリーを作る
- * jQuery (4): jQueryを活用したGUIの制作
- * 様々なメディアを利用した、Web表現の実践
- * 最終課題講評会

■教材・参考書

授業資料はWebサイト (<http://yoppa.org/>) に掲載します。

羽田野太巳『徹底解説 HTML5 マークアップガイドブック 最終草案対応版 全要素・全属性完全収録』秀和システム、2011年

西畑一馬『Web制作の現場で使うjQueryデザイン入門』アスキー・メディアワークス、2013年

■成績評価の方法

出席数、履修態度、課題提出(中間課題・最終課題)の内容を総合的に評価します。

■履修上の指示事項

HTMLとCSSの初歩について、理解していることを前提にします。また、Macの基本操作(マウスの操作、文字の入力、ファイルやフォルダの操作)は理解している前提で授業を行います。

■備考 (オフィスアワー)

情報メディア学

代表教員：桂 英史

曜日時限：水曜3限

学 期：前期

単 位 数：2

ジャンル：芸術情報センター開設科目

開設区分：美術併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

メディアとは何か。それを考えるために Twitter や Facebook といったソーシャルメディアは必要ない。

「本とは何か」を考えることから始めよう。なぜ本を考えるか。この 500 年余りで最強のメディアであり、未だに言論やコミュニケーションの基礎となっているからだ。もちろん歴史的には本はさまざまな芸術の発生源となってきた。

情報メディアとしての本はどのように市場や学問を形成し、芸術や文化を支えてきたのか。さらに近代社会がどのように複製技術と寄り添いながら成熟してきたか。それらの問いを検証しながら、情報メディアとしてのコンピュータやインターネットについて考察する。最終的には、アート、テクノロジー、アーバニズムという3つのコンテキストがメディア表現の必要条件であることを理解しよう。

■授業計画及び内容

1. はじめに：メディアはどう語られるべきか
2. 本は読む物ではない：メディアとしての本
3. 本はどうして人間に影響を与えてきたのか：本の存在感
4. 印刷というテクノロジー：印刷革命がもたらしたものの
5. 誰が挿絵を描いたのか：エイク兄弟・ティツツイアーノ・デューラー
6. 楽譜と図面：建築と音楽が必要としたドキュメント(資料)
7. イザベラ・デステの部屋：グロッタ・ストウディオーロ・ヴンダーカマー
8. 権威の誕生：著者と芸術家
9. 人間機械論としての複製技術：写真の誕生と近代社会
10. イメージは物理か心理か：アニメーション・映画・動画
11. 世界というインデックス：ムンダニウムとル・コルビュジェ

12. 知の森羅万象：ヴァネーバー・ブッシュとマンハッタン計画

13. ダイナブックの意味論：アラン・ケイのコミュニケーション論

14. ハックとナード：「メディアの破壊工作」という表現

15. 端末市民のゆくえ：距離と時間を改良し世界を構想する表現者であれ

■教材・参考書

桂英史『メディア論的思考』（青弓社・1995年）

桂英史『新版 インタラクティブ・マインド』（NTT出版・2002年）

■成績評価の方法

出席とレポートの総合評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

授業後に時間を設ける予定

デジタル・サウンド演習

代表教員：野平 一郎

曜日時限：火曜 4 限

学 期：後期

単 位 数：2

ジャンル：芸術情報センター開設科目

開設区分：美術併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

作品「～の記憶」を創作する。

■授業計画及び内容

Pure Data あるいは、Max/MSP を使用して、音楽作品（器楽＋電子音響作品、電子音響作品、マルチメディア作品など）の創作を行なう。昨年度「サウンド・デザイン概論」（AMC）で演奏した野平「ベートーヴェンの記憶」にならって、各自が「～の記憶」という創作のテーマを設定する。勿論「～」に入るのは作曲者名だけではなく、他の分野の人物でも良いし、さらには人に限らず、物、歴史、時代等々、各自の自由な発想とする。作品の素材としての音資料、映像資料等々については最初の授業までに各自がそろえておくことが望ましい。作品は授業の範囲を考慮して、時間的にそれほど長くないものとする。1月に発表会を予定している。

10 月 概論

11 月 創作 音楽面から技術面からのアドバイスを行なう（2回は行う）

12 月 プレゼンと、創作の完成

1 月 2 回 リハーサルと発表会 ホールないしマルチチャンネルのスタジオ

■教材・参考書

随時授業内で指示する。

■成績評価の方法

創作実習の授業であり、各々の作品を最終的な発表会で判断する。

■履修上の指示事項

* 「サウンド・デザイン概論」（前期・火 4 限）、「インタラクティブ・ミュージック I」（前期・木 5 限）、「インタラクティブ・ミュージック II」（後期・木 5 限）、作曲研究（コンピュータ・ミュージック）など

を履修していることが望ましい。

* 履修者の定員を 10 名程度と予定している（履修登録に際して、芸術情報センターHP 等で連絡を行うことがあるので、随時確認のこと）。

* 授業の進捗状況等により授業計画及び内容は変更することがある。

■備考（オフィスアワー）

教職・教科に関する科目

音楽教科教育法 I

水曜日 15:10~16:00 (佐野)、金曜日 16:15~16:45
(山下)

代表教員：佐野 靖

曜日時限：水曜 2限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：教職・教科に関する科目（音楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

中等科音楽の枠組みと理論的・実践的基礎

■授業計画及び内容

中学校および高等学校における音楽教育の意義、カリキュラムおよび指導方法等について学ぶ授業である。

1. 音楽教育の歴史
2. 音楽教育の枠組みと基準
3. 音楽授業の実際
4. 題材設定
5. 教材分析と教材開発
6. 授業展開の基礎
7. 指導計画等の作成
8. 模擬授業

■教材・参考書

中等科音楽教育研究会編『中学校・高等学校教員養成課程用 最新 中等科音楽教育法 [改訂版]』（音楽之友社）

『中学校学習指導要領（平成 20 年）解説 音楽編』

『高等学校学習指導要領（平成 21 年）解説—芸術編、音楽編、美術編—』

■成績評価の方法

学期末の試験とレポート、指導計画の作成、模擬授業やプレゼンテーションおよび他者の発表に対するコメント等を総合して評価する。

■履修上の指示事項

2年次に、通年のレギュラー授業を履修すること。前期・後期のどちらか一方では、単位を修得することができない。また、この単位が未修得の者は、音楽教科教育法Ⅱと教育実習の履修をすることができない。

■備考（オフィスアワー）

音楽教科教育法Ⅱ

代表教員：山下 薫子

曜日時限：水曜5限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：教職・教科に関する科目（音楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

中等科音楽の授業構想とその展開

■授業計画及び内容

講義を通して中学・高等学校における音楽教育の目的論と教材論、方法論、授業論を概観するとともに、学生自らが主体的に教材研究・指導法研究等を進め、模擬授業を実施する。具体的な年間計画は授業開始時に配布する。

■教材・参考書

中等科音楽教育研究会編『中学校・高等学校教員養成課程用 最新 中等科音楽教育法 [改訂版]』（音楽之友社）

『中学校学習指導要領解説（平成20年）』（文部科学省）

『高等学校学習指導要領（平成21年）解説—芸術編、音楽編、美術編—』（文部科学省）

■成績評価の方法

試験レポート、模擬授業の内容、模擬授業に対するコメント等を総合して評価する。

■履修上の指示事項

前年度までに音楽教科教育法Ⅰの単位を修得済みである者に限る。4年次における教育実習のベースになる科目であるため、3年次で履修すること。

なお、金曜5限に開講される同科目（佐野靖先生担当）の出席をもって本授業の出席に代えることはできない。

■備考（オフィスアワー）

金曜日 16:15～16:45

音楽教科教育法Ⅱ

代表教員：佐野 靖

曜日時限：金曜5限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：教職・教科に関する科目（音楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

中等科音楽の展開と展望

■授業計画及び内容

講義を通して中学・高校における音楽教育の目的論・教材論・方法論・授業論を概観するとともに、学生自らが主体的に教材研究・指導法研究等を進め、模擬授業を実施する。具体的な年間計画は授業開始後配布する。

■教材・参考書

中等科音楽教育研究会編『中学校・高等学校教員養成課程用 最新 中等科音楽教育法 [改訂版]』（音楽之友社）

『中学校学習指導要領（平成20年）解説』（文部科学省）

『高等学校学習指導要領（平成21年）解説—芸術編、音楽編、美術編—』（文部科学省）

■成績評価の方法

試験レポート、グループ発表内容、発表に対するコメントなどを総合して評価する。

■履修上の指示事項

前年度までに音楽教科教育法Ⅰの単位を修得済みである者に限る。4年次における教育実習のベースになる科目であるため、3年次で履修すること。

なお、水曜5限に開講される同科目（山下薫子先生担当）の出席をもって本授業の出席に代えることはできない。

■備考（オフィスアワー）

水曜日 16:10～17:00

介護等体験

代表教員：佐野 靖
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：0
ジャンル：教職・教科に関する科目（音楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

特別支援学校および社会福祉施設における介護などの体験活動

■授業計画及び内容

教育職員免許法によって定められた7日間（特別支援学校2日間、社会福祉施設5日間）の体験活動である。中学校教員免許状取得希望者は、必ず行うこと。事前指導の内容は次の通りである。

- ・介護等体験の理念と目的
- ・介護等体験の心得
- ・介護等体験までの準備
- ・介護等体験の実際
- ・介護等体験の記録

■教材・参考書

『介護等体験マニュアルノート—社会福祉施設』東京都社会福祉協議会（事前指導時に配布する）

■成績評価の方法

教員免許状の申請時に、各施設等が発行する体験に関する証明書の提出が必要となる。この証明書は再発行されないので、保管に注意すること。

■履修上の指示事項

事前指導に出席しない者は、体験を行うことができない。

■備考（オフィスアワー）

水曜日 15:10～16:00（佐野）、金曜日 16:30～17:20（山下）

器楽合奏（リコーダー合奏）

代表教員：吉澤 実
曜日時限：
学 期：集中講義
単 位 数：1
ジャンル：教職・教科に関する科目（音楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

・リコーダーの演奏法やアンサンブルを含めた指導法を学ぶことを通して、リコーダーの教育的特性を理解する。

■授業計画及び内容

（1日目）

1. 演奏を聴き、リコーダーの歴史、種類、教育的特性を学ぶ。（教科書 p. 6～17）
2. リコーダーの基礎的な演奏法について知る。（教科書 p. 20～32）
3. ソプラノ・リコーダーを演習する。（教科書 p. 34～41）
4. アルト・リコーダーを演習する。（教科書 p. 42～49）
5. リコーダー・アンサンブルの基礎を演習する。（教科書 p. 50～56）

（2日目）

6. リコーダー・アンサンブルを演習する。（教科書 p. 50～56、他）
（ソプラノ、アルト、テノール、バス・リコーダー4重奏の基礎練習）
7. リコーダー・アンサンブルを演習する。（教科書 p. 50～56、他）
（声楽曲の演奏による言葉と音楽の関係を知る。）
8. リコーダー・アンサンブルを演習する。（教科書 p. 50～56、他）
（メヌエットやパヴァーヌなど、舞曲を踊ったり演奏したりして、身体表現と音楽の関係を知る。）
9. リコーダーのオリジナル作品に触れる。
（ヘンデルのソナタやオトテールの組曲など）
10. リコーダー・アンサンブルの現代作品に触れる。
（チャリンガー、斉藤恒芳、廣瀬量平の作品など）

（3日目）

11. オルフの学校作品等の器楽曲を演習する。

(器楽アンサンブルと即興表現の導入を行う。)

12. 絵本による音楽物語を創作する。

(絵本を朗読し、その音楽づくりを行い、音楽物語を創作する。)

13. 中世、ルネサンス、バロック音楽を演習する。

(教員採用試験の実技試験に対応できる作品の演習を行う。)

14. 現代音楽を演習する。

(教員採用試験の実技試験に対応できる作品の演習を行う。)

15. 筆記試験と実技試験を行う。

■教材・参考書

○教科書

『基礎から学ぶ みんなのリコーダー 楽しくウェルネス!』吉澤実、市江雅芳 編著 (音楽之友社)

○参考書

『リコーダー・アンサンブルの基礎と技法』吉澤実 著 (全音楽譜出版社)

『二重奏による アルトリコーダーエチュード 第1巻』吉澤実著 (全音楽譜出版社)

『いい音見つけた! ガイドブック』吉澤実著 (教育芸術社)

『絶対リコーダーがうまくなる 100のコツ』吉澤実著 (Yamaha Music Media)

■成績評価の方法

授業の取り組み方、実技を総合して評価する。

授業での演習内容 50% 実技試験 50%

■履修上の指示事項

ソプラノ・リコーダー (バロック式) とアルト・リコーダー (バロック式) を持参する。

テノール、バス・リコーダーの所有者は、任意に持参する。

■備考 (オフィスアワー)

教育課程論

代表教員：上野 正道

曜日時限：

学 期：集中講義

単 位 数：1

ジャンル：教職・教科に関する科目 (音楽)

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

この授業では、教育課程の原理、歴史、実践について、多角的な視点から吟味し探求することを目的とする。具体的には、教育課程の編成、立案、計画、実践、評価などの課題を検討する。そして、それらを通して、教育課程とは何か、授業をどのようにデザインするか、といった実践的な課題を追究していくことにする。この授業は、受講者によるグループ討論やレポート課題を課すことにより、学生たちが自ら考え実践する契機になるよう努めることにしたい。

■授業計画及び内容

次の内容を中心とする。

1. 教育課程の原理
2. 教育課程の歴史
3. 教育課程の編成と立案
4. 教育課程とカリキュラム
5. 教師と教育課程
6. 国際理解教育の課題
7. 環境教育の課題
8. 教育課程の今日的課題

■教材・参考書

上野正道『民主主義への教育』東京大学出版会、2013年

柏木恭典、上野正道、藤井佳世、村山拓『学校という対話空間』北大路書房、2011年

ガート・ビースタ『民主主義を学習する』勁草書房、2014年

■成績評価の方法

平常点と試験

■履修上の指示事項

■備考 (オフィスアワー)

教育原理

代表教員：上野 正道

曜日時限：火曜3限

学 期：前期

単 位 数：2

ジャンル：教職・教科に関する科目（音楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■成績評価の方法

平常点、試験、レポート

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

■授業のテーマ

今日、学校教育は転換点に位置している。社会の変容とともに、人間と教育のあり方が変化を促されている。この授業では、人が学び育ち生きることを軸に据えて、教育の原理や今日的な課題を追究することにする。具体的には、教育の理論と歴史、発達と学習、教師と子ども、カリキュラムと学力、世界の教育などについて検討し、それによって、教育とは何か、人間とは何か、といった主題に迫ることしたい。この授業では、受講者が教育の理解と思想を深める契機となるようにするために、参加者によるグループでの話し合いやレポート課題などを取り入れることにする。

■授業計画及び内容

次の内容を中心に講義する。

1. オリエンテーション
2. 教育の歴史と思想（西洋）
3. 教育の歴史と思想（日本）
4. 教育課程と方法
5. 学校教育の制度
6. 教職とは何か
7. 発達と教育
8. 世界の学校改革（アメリカ）
9. 世界の学校改革（ヨーロッパ）
10. 世界の学校改革（アジア）
11. 教育の今日的課題
12. まとめ

■教材・参考書

上野正道『民主主義への教育』東京大学出版会、2013年

柏木恭典、上野正道、藤井佳世、村山拓『学校という対話空間』北大路書房、2011年

ガート・ビースタ『民主主義を学習する』勁草書房、2014年

教育原理Ⅱ

代表教員：櫻井 欽

曜日時限：

学 期：集中講義

単 位 数：2

ジャンル：教職・教科に関する科目（音楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

人類社会は近代以降、次世代の人を育てるため学校教育という制度を発達させるに至った。本科目では、教育を社会的・制度的な営みとして捉え、現代日本の教育に対する「ものの見方」を鍛えていくことを目指す。学校教育の理念と制度の歴史的変遷、現代社会における教育の諸問題などについて扱う。

■授業計画及び内容

1. 開講にあたって（ガイダンス）
2. 社会的営みとしての教育
3. 学校教育という制度
4. 近代日本の教育理念
5. 学校教育制度の変遷
6. 現代日本の教育理念(1)——教育基本法（旧法と新法）
7. 現代日本の教育理念(2)——学習権の保障
8. 現代日本の教育理念(3)——教育の自律性
9. 現代社会と学校教育(1)——教育課程と学力の問題
10. 現代社会と学校教育(2)——子どもの貧困
11. 現代社会と学校教育(3)——学校で培われるジェンダー
12. 教員養成の理念と制度
13. 教職の専門性をどう捉えるか
14. 教育に関する社会的・制度的・経営的事項
15. 筆記試験

■教材・参考書

教材：授業時にプリントを配布する。

参考書：授業時に紹介する。

■成績評価の方法

出席状況、授業時の課題、筆記試験（授業時間内）等により総合的に評価する。

■履修上の指示事項

子ども・青年と関わる教師の資格を目指す科目であるため、成績評価は厳格に行う。学生諸君には授業参加への意欲と覚悟をもって受講されることを望む。なお、受講希望者は初回の授業より出席すること。

■備考（オフィスアワー）

教育実習（高等学校教諭）

代表教員：佐野 靖

曜日時限：金曜 4 限

学 期：前期

単 位 数：3

ジャンル：教職・教科に関する科目（音楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

教育実習に関する事前指導及び事後指導（高等学校教員免許状のみ取得希望の者）

■授業計画及び内容

1. 概要・手引・手続等
2. 音楽科教育の今日的動向
3. 教育法規及び学習指導要領
4. 研究授業
5. 学習指導案の個別指導
6. 総括

■教材・参考書

中等科音楽教育研究会編『中学校・高等学校教員養成課程用 最新 中等科音楽教育法』（音楽之友社）
『中学校学習指導要領（平成 20 年）解説—音楽編—』（文部科学省）

『高等学校学習指導要領（平成 11 年）解説—芸術編、音楽編、美術編—』（文部省）

『高等学校学習指導要領（平成 21 年）解説—芸術編、音楽編、美術編—』（文部科学省）

■成績評価の方法

実習校における評定と実習記録簿の記述内容、本授業における平常点（提出物等）を総合して評価する。

■履修上の指示事項

- ・前年度までに音楽教科教育法 I を修得していない者は、履修することができない。
- ・実習校の校種に応じた学習指導要領解説を用意すること。

■備考（オフィスアワー）

水曜日 15:10～16:00（佐野）、金曜日 16:30～17:20（山下）

教育実習（中学校教諭）

代表教員：佐野 靖

曜日時限：金曜 4 限

学 期：前期

単 位 数：5

ジャンル：教職・教科に関する科目（音楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

教育実習に関する事前指導及び事後指導（中学校教員免許状を取得希望の者）

■授業計画及び内容

1. 概要・手引・手続等
2. 音楽科教育の今日的動向
3. 教育法規及び学習指導要領
4. 研究授業
5. 学習指導案の個別指導
6. 総括

■教材・参考書

中等科音楽教育研究会編『中学校・高等学校教員養成課程用 最新 中等科音楽教育法』（音楽之友社）
『中学校学習指導要領（平成 20 年）解説—音楽編—』（文部科学省）

『高等学校学習指導要領（平成 11 年）解説—芸術編、音楽編、美術編—』（文部省）

『高等学校学習指導要領（平成 21 年）解説—芸術編、音楽編、美術編—』（文部科学省）

■成績評価の方法

実習校における評定と実習記録簿の記述内容、本授業における平常点（提出物等）を総合して評価する。

■履修上の指示事項

- ・前年度までに音楽教科教育法 I を修得していない者は、履修することができない。
- ・実習校の校種に応じた学習指導要領解説を用意すること。

■備考（オフィスアワー）

水曜日 15:10～16:00（佐野）、金曜日 16:30～17:20（山下）

教育心理学

■備考（オフィスアワー）

代表教員：桂 瑠以

曜日時限：

学 期：集中講義

単 位 数：2

ジャンル：教職・教科に関する科目（音楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

教育心理学と現代の学校における諸問題

教育現場における児童・生徒を理解するために必要な、発達・学習・動機づけなどの心理学的なテーマについて学ぶとともに、現代の教育現場における諸問題についても考える。

教育心理学のさまざまな領域について概観し、基本的な知識を身につける。また、社会の中で生じている教育心理学的な諸問題について学び、対策と改善点を考察する。

■授業計画及び内容

- 1 オリエンテーション
- 2 発達について（1）乳幼児期の発達
- 3 発達について（2）児童期・青年期の発達
- 4 認知発達
- 5 知能の歴史と測定
- 6 社会性の発達
- 7 自我の発達
- 8 記憶と知識獲得
- 9 現代の学校における諸問題（1）不登校
- 10 青年期の対人的関係
- 11 動機づけの発達
- 12 発達障害と特別支援教育
- 13 現代の学校における諸問題（2）いじめ
- 14 青年期が抱える諸課題
- 15 総括

■教材・参考書

講義の中で紹介していく。必要な資料は配布する。

■成績評価の方法

学期末に提出するレポートにより評価する。

■履修上の指示事項

教育実践において教育心理学が果たす役割を考えつつ学んでほしい。

教育方法学

代表教員：西島 央

曜日時限：

学 期：集中講義

単 位 数：1

ジャンル：教職・教科に関する科目（音楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

“学校で教えること”について「当然だ」と思ってきたようなことを社会的な観点から相対化する作業を通して、音楽科の教育方法についてクリティカルに考える力を身につけることを目的とする。

■授業計画及び内容

講義は、音楽の教授－学習過程で起きる相互作用のいくつかの場面を取りあげて、「グループワークによる検討」「グループ発表と、教員からの講評と解説」という内容構成で進めながら、その場面で起きていることを読み解き、“音楽を教えること”の特徴を考察する。

講義でとりあげるトピックは以下のとおりである。

1. 教師とはどのような存在か
2. 授業でなにを教えているのか -「教える」と「伝える」-
3. 「わかる」とはどういうことか
4. 「教えたいこと／伝えたいこと」はどうしたら「わかって」もらえるか
5. 今日の文化と音楽科教育 -情報機器及び教材の活用を通して-

■教材・参考書

テキストは特になし プリント配布

■成績評価の方法

グループワークと発表への参加（50%）

講義終了後 10 日程度のうちにレポート提出（50%）

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

教職概論

代表教員：金本 正武

曜日時限：

学 期：集中講義

単 位 数：2

ジャンル：教職・教科に関する科目（音楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

中学校及び高等学校を中心とした学校教育の教員としての職務を認識し、学校教育の現状と課題についての理解を深めるとともに、音楽科教員としての資質・能力を高める基礎を養う。また、自己理解を踏まえた適性と進路選択を考える機会とする。教員採用状況、採用選考についても触れる。

■授業計画及び内容

1. 学校教育の法的位置づけ
2. 学校教育の目的・内容
法令から学校へ、教育課程の編成、学習指導要領
3. 学校と教員
学校の設置者、教員、教員の服務、具体的な仕事、義務と命令、その他
4. 中・高校生の実態
児童から生徒へ
思春期・青年期、発達課題、問題行動
5. 学校・家庭・地域の役割と連携
学校の役割、家庭教育の重要性、地域社会の教育力
6. 教員に必要とされる資質・能力
学校教員としての資質・能力
音楽科教員に求められる資質・能力
7. 自己理解と教員への適性
8. 教員採用試験

■教材・参考書

教材はプリントを配布するほか、授業内に指示する。参考書として次のものを挙げる。

- ・教職の意義と教員の職務（篠田信司著 三省堂）
- ・要説教職の基礎・基本（牧昌見著 樹書房）

■成績評価の方法

授業への参加状況（出席が3分の2以上及び受講状

況)と試験によって評価する。

■履修上の指示事項

出席が規定に達していて、事情で試験を受けられない場合は、試験の代わりにレポートを指示する。

■備考 (オフィスアワー)

教職実践演習 (中・高)

代表教員：佐野 靖

曜日時限：

学 期：集中講義

単 位 数：2

ジャンル：教職・教科に関する科目 (音楽)

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

- ・これまで教職課程で獲得した知識・技能を振り返り、その意義を理解すること
- ・教員としてさらに必要となる学習課題について理解すること
- ・自分自身の教科・教職に関する知識・技能を客観的に評価できるようにすること

■授業計画及び内容

- ・イントロダクション：これまでに修得した知識・技能についての振り返り
- ・教育実習記録簿や体験記録票に基づく、教育実習と介護等体験の振り返り
- ・現代的な教育課題についての講義
- ・現職教員，指導主事，退職校長等による講義
- ・現職教員，指導主事，退職校長等へのインタビュー
-
- ・生徒理解および学級経営についての演習
- ・社会性や対人関係に関するロールプレイング
- ・ロールプレイングの経験を踏まえた，社会性や対人関係能力についてのグループ討論
- ・教科内容論のテーマ別演習①
- ・教科内容論のテーマ別演習②
- ・教科内容論のテーマ別演習③
- ・テーマ別演習を踏まえた，教科の指導力についてのグループ討論
- ・理想の教師像：教員の役割と職務内容，資質・能力についてのまとめ
- ・ポートフォリオの提出

■教材・参考書

- ・中等科音楽教育研究会編『中学校・高等学校教員養成課程用 最新 中等科音楽教育法』音楽之友社
- ・『中学校学習指導要領解説—音楽編—』
- ・『高等学校学習指導要領解説—芸術科編—』

■成績評価の方法

次の1～3を総合的に評価する。

1. 本演習における体験と学習内容をまとめたポートフォリオ
2. グループ討論およびグループワークへの取り組み
3. 教科内容論のテーマ別演習への取り組み

■履修上の指示事項

平成21年度以前の入学生のうち、前年度までに総合演習を履修しなかった者は、この授業を履修すること

■備考（オフィスアワー）

- ・水曜日 15:10～16:00（佐野）
- ・金曜日 16:15～16:45（山下）

進路指導・教育相談

代表教員：桂 瑠以

曜日時限：

学 期：集中講義

単 位 数：2

ジャンル：教職・教科に関する科目（音楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

現代の子ども・青年は、家庭・学校・地域社会における生活や人間関係などに多くの問題、課題を抱えている。こうした問題、課題と関わりながら、学校生活、仲間関係・人間関係の創造、自己実現と社会化、人間形成と発達、学業・進路の諸問題等についての治療的・予防的・開発的援助の観点も含めて、進路指導および教育相談の理念、理論、技法について学ぶ。

■授業計画及び内容

- 1 現代の子ども・青年の発達特性、直面する問題、課題。
- 2 学校教育の現代的課題、人間形成の場としての学校のあり方。
- 3 学校における教育相談の意味、役割。教育相談と学校教育。
- 4 学校における教育相談の体制、教育相談とスクールカウンセラー制度。
- 5 学校に適したカウンセリングのあり方、カウンセリングの基本ルールの変更。
- 6 カウンセリングマインドの理念、態度、ラポール。
- 7 カウンセラーの基本的な態度1。
- 8 カウンセラーの基本的な態度2。
- 9 カウンセリングの諸理論、応答技法1。
- 10 応答技法2。
- 11 自己実現、アイデンティティの確立と進路指導。自己実現と社会化、相談・援助の目的。
- 12 組織的・計画的な援助、個別支援計画、チーム援助。
- 13 学校における予防的・開発的援助の実際、育てるカウンセリングの技法1。
- 14 学校における予防的・開発的援助の実際、育てるカウンセリングの技法2。
- 15 人間教育の諸課題、学校における出会いの関係。

■教材・参考書

授業内で指示

■成績評価の方法

出席と提出物（レポートや論述テストなど）

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

生徒指導の研究

代表教員：桂 瑠以

曜日時限：

学 期：集中講義

単 位 数：2

ジャンル：教職・教科に関する科目（音楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

現代の学校の中で起こっている諸問題を解決しつつ、生徒指導を行うこと、また生徒たちの卒業後の進路選択まで導いていくためには、どのようなことを学ぶ必要があるだろうか。本講義では、ドキュメンタリーやDVDを用いて現代の学校を取り巻く諸問題および現代の子どもたちが置かれている現状を学び、現代の学校における諸課題の理解と指導について習得してゆく。

「生徒理解の基礎、あるいは生徒指導の出発点は、教師自身の共感的な態度や共感的な理解の成否にかかっている」といわれている（『生徒指導の手引き』）。本講義では、生徒指導に大きく関わる教育相談のあり方についても学ぶ。

■授業計画及び内容

- 1 オリエンテーション
- 2 生徒指導の定義と目標
- 3 生徒指導と教育課程との関連
- 4 生徒指導・進路指導の組織と計画
- 5 生徒理解と教育相談
- 6 問題行動の理解と生徒指導（1）非行
- 7 生徒指導とスクールカウンセリング
- 8 集団指導法
- 9 個別指導法
- 10 問題行動の理解と生徒指導（2）いのちの教育
- 11 進路指導の定義と目標
- 12 進路指導とライフコース
- 13 家庭、地域、関係機関との連携
- 14 生徒指導といじめへの対処
- 15 総括

■教材・参考書

講義の中で紹介していく。必要な資料は配布する。

■成績評価の方法

学期末に提出するレポートにより評価する。

■履修上の指示事項

現代の子どもたちが抱えている問題とどのように向き合っていけばよいのか、現代の教育を取り巻く諸問題をふまえつつ考察してほしい。

■備考（オフィスアワー）

道徳教育の研究

代表教員：上野 正道

曜日時限：火曜3限

学 期：後期

単 位 数：2

ジャンル：教職・教科に関する科目（音楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

道徳教育とは何か、道徳は何に立脚し、どのように構想され展開してきたのか。この授業では、今日の道徳教育が依って立っている原理と歴史的な変遷について考察を加える。そのうえで、道徳のもつ意味と状況、課題を検討する。また、授業の後半では、グループをつくって、具体的な授業展開を研究し、発表を行うものとする。

■授業計画及び内容

次の項目を中心にする。

1. 道徳教育の意味と役割
2. 道徳教育の歴史
3. 道徳教育の歴史
4. 道徳教育の内容と方法
5. 道徳教育の内容と方法
6. 世界の道徳教育
7. 道徳教育と他教育の関係
8. 道徳教育の実践
9. 道徳教育の実践
10. 道徳教育の実践
11. 道徳教育の実践
12. 道徳教育の課題

■教材・参考書

学習指導要領（中・高）

■成績評価の方法

平常点、発表、レポート

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

特別活動の研究

■備考（オフィスアワー）

代表教員：西島 央

曜日時限：

学 期：集中講義

単 位 数：1

ジャンル：教職・教科に関する科目（音楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

我が国の学校教育では、教科教育と並んで特別活動が大きな比重を占めてきた。特別活動が中学校や高校において、どのような役割を期待され、どのようにその役割を果たしてきたのかを、具体的な事例を題材に整理する作業を通して、これからの学校教育における特別活動のあり方や学校教育の果たす役割についてクリティカルに考える力を身につけることを目的とする。

■授業計画及び内容

講義は、特別活動で実際に起こりうる課題・問題を事例として取り上げ、その課題・問題をどのような考え方に基づいて解決するかについて、事例ごとに「グループワークによる検討」「グループ発表と、教員からの講評と解説」という内容構成を進めて、特別活動の特徴を考察する。

講義でとりあげるトピックは以下のとおりである。

1. 学校教育の中に特別活動はどのように位置づいているのか
2. 集団の構成の問題：代表やレギュラーはどうやって選ぶのか？
3. 集団の目標の問題：大会やコンクールは勝利か楽しみか？
4. 機会の均等の問題：鑑賞教室は削減してよいか？
5. 社会の中の学校、個人にとっての学校-公教育と文化政策-

■教材・参考書

テキストは特になし プリント配布

■成績評価の方法

グループワークと発表への参加（50%）

講義終了後10日程度のうちにレポート提出（50%）

■履修上の指示事項

日本の伝統的な歌唱

代表教員：武田 孝史

曜日時限：

学 期：集中講義

単 位 数：1

ジャンル：教職・教科に関する科目（音楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

日本の伝統的な歌唱である謡曲・長唄の歌唱技術、理論の解説

■授業計画及び内容

3日間の集中講義で、観世流謡曲・宝生流謡曲・長唄に分けて実践を含みながらの講義

■教材・参考書

授業時に配布するテキストを使用

■成績評価の方法

出席を考慮した平常点とレポート

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

和楽器実技（生田流箏曲Ⅰ）

代表教員：平野 裕子

曜日時限：金曜4限

学 期：前期

単 位 数：1

ジャンル：教職・教科に関する科目（音楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

小・中学校における和楽器導入に対応した生田流箏曲の基礎的技法の習得。

■授業計画及び内容

箏の基本奏法、簡単な楽曲の演奏・弾き歌いを通じて生田流箏曲の基礎的演奏力の習得を目指す。

○ 内容

- ・ 箏の歴史・特徴・取扱方法など
- ・ 調絃法
- ・ 基本的な奏法
- ・ 各種奏法

■教材・参考書

箏爪【必須】：象牙製の生田流角爪。
楽譜：授業にて配布。

■成績評価の方法

出席率、平常点、試験。特に出席率を重視する。

■履修上の指示事項

爪は各自持参。希望者は初回授業時に購入可（爪：4500円。）

■備考（オフィスアワー）

和楽器実技（生田流箏曲Ⅰ）

代表教員：平野 裕子

曜日時限：金曜4限

学 期：後期

単 位 数：1

ジャンル：教職・教科に関する科目（音楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

小・中学校における和楽器導入に対応した生田流箏曲の基礎的技法の習得。

■授業計画及び内容

箏の基本奏法、簡単な楽曲の演奏・弾き歌いを通じて生田流箏曲の基礎的演奏力の習得を目指す。

○ 内容

- ・ 箏の歴史・特徴・取扱方法など
- ・ 調絃法
- ・ 基本的な奏法
- ・ 各種奏法

■教材・参考書

箏爪【必須】：象牙製の生田流角爪。

楽譜：授業にて配布。

■成績評価の方法

出席率、平常点、試験。特に出席率を重視する。

■履修上の指示事項

爪は各自持参。希望者は初回授業時に購入可（爪：4500円）。

■備考（オフィスアワー）

和楽器実技（尺八）

代表教員：青木 彰時

曜日時限：水曜5限

学 期：前期

単 位 数：1

ジャンル：教職・教科に関する科目（音楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

小・中学校の現場教師として対応しうる尺八の基礎実習

■授業計画及び内容

個々に楽器を貸し出し、団体でのレッスン形式で授業を行う。

- 1、楽器について
- 2、楽譜の読み方
- 3、基本的な奏法
- 4、演奏（さくら、荒城の月 ほか）

■教材・参考書

楽器は個々に貸し出し、テキストは適宜配布する。

■成績評価の方法

出席及び平常点（実技試験を行う場合もある）

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

和楽器実技（尺八）

代表教員：青木 彰時

曜日時限：水曜5限

学 期：後期

単 位 数：1

ジャンル：教職・教科に関する科目（音楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

小・中学校の現場教師として対応しうる尺八の基礎実習

■授業計画及び内容

個々に楽器を貸し出し、団体でのレッスン形式で授業を行う。

- 1、楽器について
- 2、楽譜の読み方
- 3、基本的な奏法
- 4、演奏（さくら、荒城の月 ほか）

■教材・参考書

楽器は個々に貸し出し、テキストは適宜配布する。

■成績評価の方法

出席及び平常点（実技試験を行う場合もある）

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

和楽器実技（長唄三味線）

代表教員：新井 康子

曜日時限：月曜5限

学 期：前期

単 位 数：1

ジャンル：教職・教科に関する科目（音楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

三味線の基礎知識及び実技の基本の取得

■授業計画及び内容

三味線のルーツ及び日本の伝統芸能の成り立ち等の講義を織りまぜながら、実技授業を進める。

○実技・調弦法・糸のかけ方、巻き方・撥の持ち方、弾き方・三味線の構え方、姿勢・糸の押さえ方
実技では、上記の事にゆっくり時間をかけながら、簡単な練習曲などにも挑戦し、日本音楽独特の「間」について勉強する。

■教材・参考書

授業中に指示

■成績評価の方法

出席及び授業時における平常点（実技試験を行う場合もある）

■履修上の指示事項

実習に必要な物は全て揃っている。

■備考（オフィスアワー）

和楽器実技（邦楽囃子）

代表教員：盧 慶順
曜日時限：月曜5限
学 期：後期
単 位 数：1
ジャンル：教職・教科に関する科目（音楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

邦楽囃子の打ち物の基礎知識及び基本実技の習得

■授業計画及び内容

テキストに添って進行

- 1 基礎知識・楽器の構造・楽器の扱い方
- 2 実技・各楽器の構え方、打ち方・楽譜の読み方

■教材・参考書

■成績評価の方法

出席率・平常点

■履修上の指示事項

楽器、テキスト等全て揃っている。

■備考（オフィスアワー）

和楽器実技（山田流箏曲Ⅰ）

代表教員：大谷 真為
曜日時限：木曜3限
学 期：前期
単 位 数：1
ジャンル：教職・教科に関する科目（音楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

箏の基礎を学ぶことによって日本の伝統音楽に親しむ。

■授業計画及び内容

- ①楽器について（名称・扱い方）
- ②調弦法
- ③楽譜の読み方
- ④基本的な奏法
- ⑤演奏（さくら、六段調 他）

■教材・参考書

プリント・箏爪（貸出し・持参も可）

■成績評価の方法

出席及び授業時における平常点（実技試験を行う場合もある）

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

和楽器実技（山田流箏曲Ⅱ）

代表教員：萩岡 未貴

曜日時限：水曜5限

学 期：前期

単 位 数：1

ジャンル：教職・教科に関する科目（音楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

箏の基礎を学ぶことによって日本の伝統音楽に親しむ。

■授業計画及び内容

- ①楽器について（名称・扱い方）
- ②調弦法
- ③楽譜の読み方
- ④基本的な奏法
- ⑤演奏（さくら、六段調 他）

■教材・参考書

プリント・箏爪（貸出し・持参も可）

■成績評価の方法

出席及び授業時における平常点（実技試験を行う場合もある）

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

和楽器実技（山田流箏曲Ⅱ）

代表教員：萩岡 未貴

曜日時限：水曜5限

学 期：後期

単 位 数：1

ジャンル：教職・教科に関する科目（音楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

箏の基礎を学ぶことによって日本の伝統音楽に親しむ。

■授業計画及び内容

- ①楽器について（名称・扱い方）
- ②調弦法
- ③楽譜の読み方
- ④基本的な奏法
- ⑤演奏（さくら、六段調 他）

■教材・参考書

プリント・箏爪（貸出し・持参も可）

■成績評価の方法

出席及び授業時における平常点（実技試験を行う場合もある）

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

專門科目（作曲）

学内演奏（作曲）

代表教員：小鍛冶 邦隆
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（作曲）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

4年次に自作品を提出し演奏する。

■教材・参考書

■成績評価の方法

演奏審査

■履修上の指示事項

3年次までの専攻実技の単位をすべて取得していること。

また演奏する作品は、演奏審査、および木曜コンサートで演奏された作品を除く。

■備考（オフィスアワー）

担当教員に問い合わせのこと。

作曲研究（音楽と言語）

代表教員：日野原 秀彦
曜日時限：金曜3限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（作曲）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

古典から現代に至る声楽作品を、音楽・文学・音声学等多元的な見地から分析し、音楽と言語の関係についての考察を深める。最終的には日本語による声楽作品創作のための問題点を把握し、それに対処し得る技術的・芸術的素養を育むことを視野に入れた研究を行う。

■授業計画及び内容

次に挙げるような論点を取り上げる。
発声及び発音に関する基礎知識。韻律・詩作技法に関する基礎知識。声楽作品の記譜法に関する考察。古典イタリア歌曲、ドイツ・リート、フランス歌曲、日本歌曲等声楽作品の総合的分析。欧米及び日本に於ける声楽作品の歴史。伝統邦楽に於ける声の扱いに関する考察。20世紀以降の声楽作品に関する概説。J-Popに於ける日本語と音楽の関係。オペラ等、舞台芸術の中での声楽についての考察。

加えて、実際に短い声楽作品の創作を行うことにより、その多岐にわたる問題点を実践的に把握し分析する。

また、前期・後期に一回ずつ、活動中の声楽家を招いた特別授業を予定している。

■教材・参考書

C. モンテヴェルディ、F. シューベルト、H. ヴォルフ、A. ベルク、G. フォーレ、C. ドビュッシー、F. プーランク、I. ピッツェッティ、L. ダッラピッコラ、G. ガーシュイン、L. バーンスタイン等の歌曲及び声楽作品。

G. ロッシーニ、V. ベッリーニ、G. ヴェルディ、G. プッチーニ等のオペラ作品よりの抜粋。

J. ケージ、L. ノーノ、L. ベリオ、S. ブッソッティ等の現代声楽作品。

詳細は授業内で適宜指示をする。

■成績評価の方法

任意の声楽作品（自作を含む）の総括的分析レポートによる。

■履修上の指示事項

作曲科学部生のみ履修可。

（作曲科2年次に習得することが望ましい。）

■備考（オフィスアワー）**作曲研究（楽曲研究）**

代表教員：安良岡 章夫

曜日時限：火曜2限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（作曲）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

ウェーベルンとベルクの作品研究

■授業計画及び内容

シェーンベルクのもとで学んだウェーベルン、ベルクの2人は、ウィーン楽派の伝統の中であって、「急進的」、「ロマン主義の残響」などと対照的に語られてきた。

特に1950年代の語法の規範はウェーベルンであり、ベルクの音楽はブレーズらによって否定され続けた。

しかし、1960年代に入るとベルクの評価は変化し、彼の極めて個別的な書法（ロマン的な身振りに捉われずに）に対し、「幾度の分析と検証に耐えうる、深く濃く豊かな宇宙（ブレーズ）」と肯定されるようになった。

この授業では、絶対宇宙とも言えるウェーベルンの諸作品と、ベルクの作品を作曲年代順に研究し、「比較する」というレベルを超えて、両者の創作上の規律の原理（時には違反の原理）を探ってみたい。

■教材・参考書

ウェーベルン：作品1、5、7、9、10、14、21、24、27、30

ベルク：作品1（ピアノ・ソナタ）、3（弦楽四重奏曲）、6（3つのオーケストラ曲より）、7（ヴォツェック）、抒情組曲、オペラ「ルル」、ヴァイオリン協奏曲

（以上予定）

■成績評価の方法

受講者には研究発表を課すことがある。発表しなかった者にはレポートを課す。

■履修上の指示事項

作曲科学部生のみ履修可。出席状況を重視する。

■備考（オフィスアワー）

火曜、木曜、金曜のⅡ限以降

作曲研究（管弦楽法（分析））

代表教員：小鍛冶 邦隆

曜日時限：水曜 2限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（作曲）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

20世紀の管弦楽法の分析。

■授業計画及び内容

前期はシェーンベルク《5つの管弦楽小品》Op. 16、
後期は湯浅譲二《クロノプラスチック》(1972)の分析を行う

■教材・参考書

シェーンベルク《5つの管弦楽小品》Op. 16(1949年??・ペータース社刊)

湯浅譲二《クロノプラスチック》(全音楽譜)

■成績評価の方法

平常点(無断欠席と遅刻は厳禁)

■履修上の指示事項

作曲科 2年次必修の管弦楽法実習を履修した学生を対象とした、授業である(作曲科選択必修科目)。
上記作品のスコアを各自で必ず用意すること。

■備考（オフィスアワー）

担当教員に問い合わせのこと。

作曲研究（現代音楽技法）

代表教員：野平 一郎

曜日時限：火曜3限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（作曲）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

音楽言語の探求とユートピア1：1950～60年代の西洋音楽の主要な作曲技法を、今日的視点から分析する。具体的には全面的セリー音楽がどのように準備され、どのように実践され、どのように各作曲家がそこから分岐、離散していったのかを探る。

■授業計画及び内容

まず出発点として、ウェーベルン「カンタータ第2番」作品31を分析し、さらにブーレーズ「構造第1巻」、「ル・マルトー・サン・メートル」、シュトックハウゼン「クロイツシュピール」ほかを詳しく分析しながら進める。さらに分析対象は周辺の作曲家へと拡大して行く。後期には時間が許せば70年代のスペクトル楽派へ言及する。

■教材・参考書

できれば上記4作品の楽譜は用意することが望ましい。それ以外の作品については、適宜授業中に指示を与える。

■成績評価の方法

出席を重視し、平常点で行う。レポートは課さない予定。

■履修上の指示事項

作曲科学部生のみ履修可能。

■備考（オフィスアワー）

担当教員へ問い合わせ。

作曲研究（コンピュータ・ミュージック

ク)

代表教員：折笠 敏之

曜日時限：木曜5限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（作曲）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

コンピュータ音楽 導入

■授業計画及び内容

対象を作曲科の学部生に限定し（定員10名）、西洋音楽の伝統的な作曲・演奏実践の文脈を前提としてのコンピュータを用いた創作に関する導入的指導を行う。いわゆる電子音響音楽としての「コンピュータ・ミュージック」にとどまらず、歴史的な創作の延長上にあるとも言える、コンピュータを介した厳密な（定量的）手法に基づく器楽曲等の創作の基礎的方法論をも射程におく。実習では主にMax/MSPおよびOpenMusicの入門～基礎レベルの事項を扱う。具体的には下記項目を考えているが（順不同）、到達目標については状況に応じて変更する。

- ・電子音響音楽の歴史概観（適宜、作品とともに紹介）
 - ・電子音響についての基本的事項
 - ・Max/MSP環境を使用したリアルタイム処理を伴う作品演奏実践への導入的事項（簡易なコンサート・パッチの制作まで）
 - ・OpenMusicを用いた「コンピュータ支援作曲」による「楽譜化」への導入的事項。
 - etc.
- ※楽譜浄書ソフトやDAWの使用方法についてはこの講義では扱わない。

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

出席による。実習成果の発表は随時求める。

■履修上の指示事項

作曲科の学部生のみ履修可。Mac OS の基本的操作についての習熟を前提とする。AMC (芸術情報センター) 演習室内の端末を使用するため、ソフトウェアについては各自が準備する必要はない。

■備考 (オフィスアワー)

担当教員に問い合わせのこと。

作曲研究 (フーガ研究)

代表教員：林 達也

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目 (作曲)

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

フーガ書法の継続的学習

■授業計画及び内容

より高度なエクリチュールの熟練

■教材・参考書

プリント

■成績評価の方法

フーガ作品の提出と試験及び平常点との総合評価。

■履修上の指示事項

3 4 年次必修選択科目。年度始めに (面談日) 当該科目担当教員と相談の上、3、4 年次において各年度のどちらか 1 つを選択できる。フーガ A を履修済みの者に限る。

出席率重視。

■備考 (オフィスアワー)

担当教員に問い合わせのこと。

作曲研究（和声研究）

代表教員：林 達也
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（作曲）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

和声書法の技術的修練

■授業計画及び内容

より高度な和声書法の熟練と課題の作成

■教材・参考書

プリント

■成績評価の方法

平常点、および試験の成績。

■履修上の指示事項

3、4年次の必修選択科目。年度始め（面談日）に当該科目担当教員と相談の上、3、4年次において各年度どちらか1つを選択できる。

作曲実技 II 和声 A フーガ A を履修済みのこと。
出席率重視。

■備考（オフィスアワー）

担当教員に問い合わせのこと。

作曲実技

代表教員：小鍛冶 邦隆
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：8
ジャンル：専門科目（作曲）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

1年次：ピアノとピアノ以外の任意の楽器による二重奏曲。

2年次：前期・日本語のテキストによる歌曲。後期・室内楽曲（奏者3～6人まで）

3年次：2管編成以上の管弦楽曲。

4年次：卒業作品（任意のジャンルの作品）。

各年次に上記の作品を提出する。

また4年次の学内演奏会に於いて自作品を演奏する。

なお平成25年度入学生より、室内楽曲は2年次、歌曲と管弦楽曲はそれぞれ3年次前期、後期の提出となる。

■教材・参考書

■成績評価の方法

1年・3年次は通年で各8単位、2年次は前期・後期各4単位。4年次は卒業作品12単位、学内演奏会2単位。

なお平成25年度入学生より、2年次は8単位、3年次は前期・後期各4単位となる。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

担当教員に問い合わせのこと。

作曲実技 I (学内演奏)

代表教員：小鍛冶 邦隆
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（作曲）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

4年次に自作品を提出して演奏する。

■教材・参考書

■成績評価の方法

演奏審査

■履修上の指示事項

3年次までの専攻実技の単位をすべて取得していること。
また演奏する作品は、演奏審査、あるいは木曜コンサートで演奏された作品を除く。

■備考（オフィスアワー）

担当教員に問い合わせのこと。

作曲実技 I (管弦楽曲)

代表教員：小鍛冶 邦隆
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：8
ジャンル：専門科目（作曲）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

2管編成以上の管弦楽作品。

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

譜面審査

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

担当教員に問い合わせのこと。

作曲実技 I (室内楽曲)

代表教員：小鍛冶 邦隆

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：8

ジャンル：専門科目（作曲）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

3年次後期：室内楽曲(奏者3～6人まで)。

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

譜面による審査を行う。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

担当教員に問い合わせのこと。

作曲実技 I (声楽作品)

代表教員：小鍛冶 邦隆

曜日時限：その他

学 期：前期

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（作曲）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

3年次前期：器楽1名を伴う、日本語のテキストによる独唱作品。

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

3年次後期に演奏審査を行う。

■履修上の指示事項

3年次は前期・後期各4単位。

前期の単位を修得していない学生は、後期の作品提出が出来ない。

■備考（オフィスアワー）

担当教員に問い合わせのこと。

作曲実技 I (卒業作品)

代表教員：小鍛冶 邦隆

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：12

ジャンル：専門科目（作曲）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

卒業作品

■授業計画及び内容

任意のジャンル、編成の作品を提出する。

■教材・参考書

■成績評価の方法

譜面審査

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

担当教員に問い合わせのこと。

作曲実技 I (二重奏曲)

代表教員：小鍛冶 邦隆

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：8

ジャンル：専門科目（作曲）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

1 年次：ピアノと鍵盤楽器以外の任意の楽器による
2 重奏
作品。

■教材・参考書

■成績評価の方法

演奏審査。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

担当教員に問い合わせのこと。

作曲実技Ⅱ（フーガ）

代表教員：林 達也
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（作曲）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

フーガによるエクリチュールの技術的修練とその向上

■授業計画及び内容

実技としてのフーガ書法の基礎学習と応用

■教材・参考書

■成績評価の方法

平常点、および試験の成績。
出席率が満たされている者にのみ試験の受験資格が与えられる。

■履修上の指示事項

作曲科2年次生必修科目
出席率が満たされている者にのみ試験の受験資格が与えられる。

■備考（オフィスアワー）

担当教員に問い合わせのこと。

作曲実技Ⅱ（和声）

代表教員：林 達也
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（作曲）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

和声によるエクリチュールの技術的修練とその向上

■授業計画及び内容

実技としての和声書法の技術的基礎とその熟達

■教材・参考書

■成績評価の方法

平常点、および試験の成績。
出席率を満たしている者にのみ試験受験資格が与えられる。

■履修上の指示事項

作曲科1年次必修科目。
出席率を満たしている者にのみ試験受験資格が与えられる。

■備考（オフィスアワー）

担当教員に問い合わせのこと。

作曲理論（楽曲解析）

代表教員：小鍛冶 邦隆
曜日時限：火曜 2 限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（作曲）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

歴史的な作曲法の様式と技法の理解。
バッハからウェーベルン-18 世紀から 20 世紀に至る
音楽の作曲技法の分析。

■授業計画及び内容

前期 バッハからワーグナーまで。
後期 ドビュッシー以降、ウェーベルンまで。

■教材・参考書

小鍛冶邦隆『作曲の技法 バッハからウェーベルン
まで』音楽之友社。

■成績評価の方法

出席と授業態度（無断欠席と遅刻は厳禁）。

■履修上の指示事項

作曲科 1 年次の必修科目。

■備考（オフィスアワー）

担当教員に問い合わせのこと。

作曲理論（管弦楽法（実習））

代表教員：小鍛冶 邦隆
曜日時限：火曜 5 限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（作曲）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

楽器法の理解と、管弦楽法の実習。

■授業計画及び内容

ピアノ作品を題材に、2 管編成による標準的な管弦
楽法を学ぶ。
管弦楽研究部（芸大フィルハーモニア）による試演会
のため、分担してオーケストレーションを行う。
試演予定日 12 月 1 日（月）

■教材・参考書

参考書：ペルリオーズ、R. シュトラウス『管弦楽法』
小鍛冶邦隆監修・広瀬大介訳、音楽之友社。
ウォルター・ピストン『管弦楽法』戸田邦
雄訳、音楽之友社。

■成績評価の方法

平常点（無断欠席と遅刻は厳禁）、および実習の評価。

■履修上の指示事項

芸大フィルのリハーサル見学（モーニングコンサート）や、パート譜作成の指導等、実習にいたる年間ス
ケジュールに従うこと。無断欠席と遅刻は厳禁。
作曲科 2 年次の必修科目。

■備考（オフィスアワー）

担当教員に問い合わせのこと。

作曲理論（厳格対位法とフーガ）

代表教員：林 達也
曜日時限：金曜2限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（作曲）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

厳格対位法の実習および学習フーガ作曲の理論と実践。対位法的作品の解析。

■授業計画及び内容

転回対位法、模倣、4、5声厳格対位法の実習を行う。
また、学習フーガの理論。また、18世紀までの対位法的作品の研究。

■教材・参考書

教科書：ノエル・ギャロン、マルセル・ビィチュ『対位法』（音楽之友社）
参考図書：ケルビーニ 著：小鍛冶邦隆：訳 [対位法とフーガ教程] 出版社：アルテスパブリッシング

■成績評価の方法

平常点と学年末実習試験による。

■履修上の指示事項

作曲科専攻一年次の必修科目

■備考（オフィスアワー）

担当教員と相談のこと

卒業作品（作曲）

代表教員：小鍛冶 邦隆
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（作曲）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

卒業作品

■授業計画及び内容

任意のジャンル、編成の作品を提出する。

■教材・参考書

■成績評価の方法

譜面審査

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

担当教員に問い合わせのこと。

専門科目（声楽）

オペラ基礎演技A・B

代表教員：柴田 恵理子

曜日時限：木曜3限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（声楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

オペラ演技の基礎

■授業計画及び内容

声楽科2年全履修生を2クラスに分けて、二人の担当教員が前後期交代して授業を行う。

◇声楽家（オペラ歌手）として、表現のための正しい身体の使い方や、心の解放の仕方等オペラ演技の基礎を学び、演技の本質について理解を深める。

- ・立ち姿のチェック
- ・さまざまな精神状態での歩行訓練
- ・いろいろな感覚の集中や開発
- ・身体訓練のエチュードを通して、集中力や感情の解放を行う。
- ・他（三輪えり花）

◇オペラは勿論のこと、ステージ上での所作全般に関わる最も基本的な問題を丁寧に取り上げ、舞台上で演じるための基礎を培う。次のテーマを軸に、実践的に進める。

- 1) 身体の成り立ち、動作の基本
- 2) 姿勢のポイント、歩き方のヴァリエーション
- 3) 舞台空間、対人空間
- 4) 15世紀から19世紀に至る西洋史概観：衣装・所作・ダンス（市瀬陽子）

■教材・参考書

資料・教材は適宜配布する。（市瀬）

■成績評価の方法

出席重視だが、平常点も考慮する。遅刻厳禁。

■履修上の指示事項

実際に身体を動かすので、動きやすい服装で参加すること。スカート不可。（三輪）

動きやすい服装、底の柔らかいシューズ（バレエシュ

ーズなど）を用意すること。（市瀬）

■備考（オフィスアワー）

昼休み

オペラ実習 I A・B・C

■備考（オフィスアワー）

昼休み

代表教員：直井 研二

曜日時限：火曜 1～2限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（声楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

オペラの歌唱・演技の基礎

■授業計画及び内容

履修者全員をパート別人数が均等になる様、4月の開講時に3クラスに分けて授業を行う。モーツァルトオペラの重唱曲を取上げ、簡単な小道具等を使用し、実際に歌い演ずることを通して、オペラの歌唱及び演技表現の基礎を学ぶ。尚、秋のオペラ定期公演には原則として合唱としての出演を義務づけ、実際の舞台を経験することで、後期オペラ実習での役作りを解釈・表現ともに充実させ、単位の取得を可とする。*オペラ定期公演のための練習日程は、変則的に進行するため年度初めの日程発表等に充分注意すること。<曲目と授業に関して>〔前期〕「フィガロの結婚」「コシ・ファン・トゥッテ」の中から選曲する。（日本語中心）定期公演合唱曲の音楽稽古は、原則授業内で行う。〔後期〕「フィガロの結婚」「コシ・ファン・トゥッテ」「魔笛」「ドン・ジョヴァンニ」の中から選曲する。（原語）<試験>前期：クラス毎にチェックを行う。後期末に3クラス合同で、第3ホールで行う。

■教材・参考書

実習用の楽譜は、前・後期始めにクラス毎に配布し各自作成する。定期公演合唱譜は各自へ配布する。

■成績評価の方法

実習及び定期公演の出席、及び後期末試験の点数を合算した評価。（出席重視）

■履修上の指示事項

2年次に、オペラ基礎演技を取得した学生が履修できる。重唱曲の授業であるから、欠席の無いように留意すること。（通常授業、オペラ定期とも出席は重視される）動きやすい服装で授業にのぞむこと。

オペラ実習Ⅱ A・B・C

代表教員：直井 研二
曜日時限：木曜4～5限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（声楽）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

オペラの歌唱及び演技表現の実際

■授業計画及び内容

履修者全員をパート別人数が均等になる様、4月の開講時に3クラスに分けて授業を行う。
オペラ実習Ⅰで取得したオペラの歌唱及び演技表現を更に探求する。
前期・後期とも、古典から現代までのオペラ重唱曲を幅広く採り上げ、原語で演習する。

<試験>後期末に3クラス合同で、第3ホールで行う。

■教材・参考書

前後期始めに、候補曲を参考にクラス内で各自の声種等を考慮し選曲する。楽譜は各自用意することとする。

■成績評価の方法

出席点と後期末試験の点数の合算によって評価する。
(出席を重視する)

■履修上の指示事項

3年生でオペラ実習Ⅰの単位を取得した学生が履修できる。
重唱曲の授業であるから、欠席しないように留意すること。
怪我等を防ぐためにも動きやすい服装で授業にのぞむこと。(特に立ち稽古時)

■備考 (オフィスアワー)

学内演奏 (声楽)

代表教員：佐々木 典子
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（声楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

学内において聴衆のまえて演奏する機会を出来るだけ多く経験する事は、演奏家にとってレッスン室だけでは学べない重要なことを気付かせてくれるものである。この「学内演奏」は、その貴重な体験を与えてくれる。

■授業計画及び内容

学内外に公開である演奏会に、定められた時間内で声楽曲を自由に選び、原則的にピアノによる伴奏で演奏する。ピアノ伴奏以外の歌唱を希望する場合には、声楽実技担当教員と声楽科部会の許可を必要とする。声楽実技担当教員の指導を受けていることが、この「学内演奏Ⅰ」履修の前提である。声楽科では現在、声楽実技担当教員の所属する講座ごとに、その教員の担当学生がこの公開演奏会に出演する事になっている。年度内に声楽科3講座が計3回の学内演奏会を行っている。

■教材・参考書

声楽実技担当教員の指示による。

■成績評価の方法

その演奏に対して、声楽実技担当教員の所属する各講座の教員による合議による評価。

■履修上の指示事項

学内外に対して公開される演奏会であり、履修者は各々およそ8分程度の自由に選んだ曲目を演奏してこれに出演する。「学内演奏Ⅰ」は通常、4年次に履修するものとするが、3年次に履修する事も可能である。但しその場合、声楽実技担当教員の指示と、さらに声楽科部会の承認が必要である。10月頃に講座別に学内演奏会の日程を設定しているので学事歴等に注意すること。「学内演奏Ⅱ」を履修する場合には、やはり声楽実技指導教員の指示と声楽科部会の承認が必要である。すでに他大学で学士号学位を

受けている学部生などが、4年次以前に大学

■備考（オフィスアワー）

各実技担当教員の空き時間に対応する。（要予約）

合唱 I

代表教員：阿部 純

曜日時限：月曜2限・木曜2限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（声楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

演奏会を目標としての合唱演習。声楽家としての合唱技術の習得，そして集団芸術におけるマナーを考える場でもあります。

■授業計画及び内容

ひとりひとりの豊かな感性が集まってこそ，芸術的な合唱が生まれます。また，合唱団はひとつの小さな社会でもあります。自分の個性を生かしながら，社会の一員としての全てを大切にして参加をして下さい。合唱は声楽でもあります。声楽家にとって，合唱は大切な音楽表現の一部です。合唱指導者としての技術も学んで下さい。

■教材・参考書

■成績評価の方法

出席，授業態度

■履修上の指示事項

履修資格は問わない。

■備考（オフィスアワー）

合唱Ⅱ

代表教員：阿部 純
曜日時限：月曜2限・木曜2限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（声楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

演奏会を目標としての合唱演習。声楽家としての合唱技術の習得，そして集団芸術におけるマナーを考える場でもあります。

■授業計画及び内容

ひとりひとりの豊かな感性が集まってこそ，芸術的な合唱が生まれます。また，合唱団はひとつの小さな社会でもあります。自分の個性を生かしながら，社会の一員としての全てを大切にしながら参加して下さい。合唱は声楽でもあります。声楽家にとって，合唱は大切な音楽表現の一部です。合唱指導者としての技術も学んで下さい。

■教材・参考書

■成績評価の方法

出席，授業態度

■履修上の指示事項

履修資格は問わない。

■備考（オフィスアワー）

合唱Ⅲ

代表教員：阿部 純
曜日時限：月曜2限・木曜2限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（声楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

演奏会を目標としての合唱演習。声楽家としての合唱技術の習得，そして集団芸術におけるマナーを考える場でもあります。

■授業計画及び内容

ひとりひとりの豊かな感性が集まってこそ，芸術的な合唱が生まれます。また，合唱団はひとつの小さな社会でもあります。自分の個性を生かしながら，社会の一員としての全てを大切にしながら参加して下さい。合唱は声楽でもあります。声楽家にとって，合唱は大切な音楽表現の一部です。合唱指導者としての技術も学んで下さい。

■教材・参考書

■成績評価の方法

出席，授業態度

■履修上の指示事項

履修資格は問わない。

■備考（オフィスアワー）

声楽アンサンブルA

代表教員：清水 雅彦
曜日時限：月曜3限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（声楽）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

ルネッサンス・バロックから現代までの声楽アンサンブルの実際と実践（基礎編）

■授業計画及び内容

アンサンブルの基本である音程、和音、リズム、アーティキュレーションやブレスの統一などを、楽曲をもとに考察し、実際の演奏に結びつける。

アンサンブルを作るための指揮法入門。

前期、後期とも最終回をコンサート形式として成果発表を行う。

■教材・参考書

木下牧子/愛する歌（音楽之友社）
W. A. モーツァルト/ミサ曲ハ長調「戴冠式ミサ」K. 317（ペータース） 等

他にルネッサンスマドリガルや、ロマン派作品、現代作品などの楽譜を、適宜こちらで用意する。

■成績評価の方法

出席率と授業に臨む姿勢を重視し評価を行う。

■履修上の指示事項

授業前にアンサンブルグループで十分に備えて演奏に臨むこと。

■備考（オフィスアワー）

月曜昼休み

声楽アンサンブルB

代表教員：清水 雅彦
曜日時限：月曜2限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（声楽）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

ルネッサンス・バロックから現代までの声楽アンサンブルの実際と実践（応用編）

■授業計画及び内容

アンサンブルに求められる基本を整理し、作品に内在する思いを実際の演奏に結びつける中で、アンサンブルをすることの喜びを体感する。

アンサンブルを作るための指揮法研究。

前期、後期とも最終回をコンサート形式として成果発表を行う。

■教材・参考書

木下牧子/愛する歌（音楽之友社）
W. A. モーツァルト/レクイエム K. 626（全音楽譜出版社）
J. ブラームス/Liebeslieder und Neue Liebeslieder op. 52、op. 62（ペータース） 等。

他にルネッサンスマドリガルや現代作品などの楽譜を、受講人数などを考慮しながら適宜こちらで用意する。

■成績評価の方法

出席率と授業に臨む姿勢を重視し評価を行う。

■履修上の指示事項

授業前にアンサンブルグループで十分に備えてから演奏に臨むこと

■備考（オフィスアワー）

月曜日昼休み

声楽演習Ⅰ（フランス歌曲）

代表教員：坂本 知亜紀
曜日時限：金曜2限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（声楽）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

フランス歌曲の演奏法と解釈

■授業計画及び内容

個々の学生の習熟度に応じて、歌唱実技レッスンを中心に、演奏上の諸問題について考察し、テキストの特徴に相応しい音楽表現、より音楽的なフランス語による歌唱表現の習得を目指す。

以下の作曲家の歌曲作品より、各自、自由に選曲。
Berlioz, Gounod, Duparc, Chabrier, Chausson, Faure, Debussy, Ravel, Poulenc, Messiaen

■教材・参考書

各自が演奏する曲の楽譜とテキストの日本語訳を用意。使用楽譜については個別に相談に応ずる。

■成績評価の方法

出席、演奏評価をもとに総合的に評価を行う。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

特に設定しない。e-mailにて個人的に相談を受けつける。

声楽演習Ⅱ（スペイン歌曲）

代表教員：服部 洋一
曜日時限：火曜5限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（声楽）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

スペイン歌曲の演奏法と演奏解釈についての実習～スペイン・中南米の音楽作品の実技レッスン（舞台後としてのスペイン語・カタルーニャ語・ガリシア語・バスク語・ポルトガル語の発音・発声法も含む）を通してその特徴的演奏スタイル・演奏解釈法等を学ぶこと、またそれらを育んだ背景であるスペインの国土・民族・歴史・風俗習慣などの講義を視聴覚教材を用いつつ学ぶ。

■授業計画及び内容

昨年度はロドリゴやロドルフォ・ハルフトル、ガリシア語をテキストとする20世紀スペインの歌曲作品、ファリャ、トゥリーナの代表作品を取り上げたが、今年度はガルシーア・ロルカ編スペイン古謡集、モンポウ、トゥリーナの作品なども取り上げる。モレーノ・トローバなどのギター伴奏による作品も取り上げ、担当曲によっては、スペインの国民的楽器であるギターの伴奏による歌唱体験もすることが出来る。スペイン語初心者でも授業で、カスティージャ語（共通スペイン語）やカタルーニャ語等の読み方についても扱うので気軽に受講できよう。

■教材・参考書

近年スペイン歌曲関係の楽譜は比較的入手しやすくなったので、受講生が買い求めことのできるものに関しては授業で紹介し購入してもらおうが、入手しにくい楽譜・訳詩等に関しては、授業担当者が用意する。

■成績評価の方法

出席を重視し、担当曲の練習度、技術向上度等を総合的に評価する。特に出席不良者は不可となるので要注意。この授業は通年であるので、途中リタイヤなどのないよう、一年間受講し続ける見通しを立てて受講すること。またすでに2年間受講してしまった人でも聴講生として受講することが出来、本人の

希望があれば実技レッスンを受けることができる。実技レッスンを受けるときだけ出席をするのではなく、他の人がレッスンを受ける様子を見聞きすることも大変勉強になるので会出席を目指すように。

■履修上の指示事項

受講生によるスペイン歌曲発表会を行うので必ず参加しスペイン歌曲演奏技法に磨きをかけること。毎年取り上げる作曲家・作品を替えていき単位の積み上げもできるので、是非続けて受講しスペイン歌曲の多面的な魅力に触れてほしいと願う。実技では受講生(聴講生を含む)に担当曲をあてがい公開レッスン形式で行うので、担当学生は授業前に必ず読みの練習やピアノ伴奏助手との合わせを十分にやり、レッスンに臨むこと。レッスンを録音してもかまわないので用意は各自に任せる。

■備考 (オフィスアワー)

オフィスアワーとしての特定の曜日・時間は設けていないが、質問・相談等ある学生は事前に担当教員とアポイントを取り日時時間を約束してこれにあてるものとする。担当教員・TA 連絡先は初回授業において知らせる。

声楽演習Ⅲ (ロシア歌曲)

代表教員：一柳 富美子

曜日時限：木曜3限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目 (声楽)

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

ロシア声楽曲(歌曲・オペラ)の実習と歴史、および演奏・作品解釈。習熟度別の個人指導と全体講義を組み合わせて、ロシア音楽の全体像を紹介する。

■授業計画及び内容

ロシア声楽曲の歴史・歌唱・ディクシオンを学習する。講義は16世紀の聖歌から、実技は19世紀前半のロシア歌曲から始めて、習熟度に合わせて選曲する。アリャービエフからショスタコーヴィチまで対応できるので、参加者の要望には出来るだけ応えたい。年2回の発表会を開催して、成績の評価対象の一部とする。前期は歌曲の発表会、後期はオペリアアを中心とするプログラムの予定。具体的な詳細シラバスは、初回授業アンケートを取ってから決める。

■教材・参考書

必携の教科書はない。全音の楽譜は間違いが多いので、予習で使用する時は注意すること。講義に使用する楽譜・訳詩・解説・関連資料その他は、授業で適宜配布する。

参考図書：一柳富美子著「ムソルグスキー」(東洋書店、ユーラシア・ブクレットNo.115)、同「ラフマニノフ」(同No.180)

■成績評価の方法

学習態度や演奏などをもとに総合的に評価する。

■履修上の指示事項

最初に文字と発音について解説するので、ロシア文字が全く読めない学生も受講可能。但し、初心者は初回授業に必ず出席すること。

■備考 (オフィスアワー)

木曜日は3-1-23が控え室。アポイントを取れば、随時応じる。

声楽実技Ⅲ-1

代表教員：佐々木 典子

曜日時限：その他

学 期：前期

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（声楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

声楽専門実技を、学部の4年間を通して基礎から上級まで計画的に指導していくものである。

■授業計画及び内容

1学年次においては、正しい発声技術の基本の教授とともに、ヴォカリーゼによるエチュード（Concone, Panofka, Vaccaj, Marchesi, Lutgen, 等）を適宜使用し、歌唱の基本を習得させる。同時にイタリア古典アリア集等の基本的な曲から、学生の進度に合わせて、特定の作曲家による歌曲集及びオペラ・アリア集等からレパートリーを作り始める。原則的にはイタリア語のテキストによる曲を中心とするが、各学生の学習進度によっては、これにこだわらない。2学年次以降では、各実技担当教員の指示により、イタリア語だけに留まらず、他の言語（ドイツ、フランス、等）による歌曲・オペラアリアにもレパートリーを拡げる。3、4学年次においては、声楽曲におけるバロック・古典・ロマン・近現代のそれぞれ異なる様式感を身につけるように指導する。実技担当教員の指示により、テキストの言語も日・英・スペイン・ロシア・ラテン等の各言語に拡げることがある。各学生の日頃の研究成果を披露し、またその進捗状況を測るために、各学年の学期末に実技試験を課す。ただし、1、2学年次においては前期末実技試験を課さない。

■教材・参考書

レッスンで使用する楽譜（歌唱エチュード、各作曲家による歌曲集、オペラ・アリア集等）の購入については、実技担当教員のアドバイスを受けて、出来るだけ信頼性の高い版を購入すること。

■成績評価の方法

期末実技試験の採点結果をもとに成績を評価する。

■履修上の指示事項

学部4年次の「声楽実技Ⅱ」のレッスンは、3年次までの「声楽実技Ⅰ」のレッスンを引き継ぐものであり、実技担当教員の特別な指示がないかぎり、通常においては必修すべきものである。また、正当な理由無く実技レッスンの出席回数が不足した場合、期末実技試験を受験出来ないことがある。各期末実技試験の曲目提出期限は通常実技試験実施日の10日前までを原則とするが、詳細は掲示等の指示に従い、遅れないように提出すること。

■備考（オフィスアワー）

各実技担当教員の空き時間に対応する。（要予約）

声楽実技Ⅲ-2

代表教員：佐々木 典子

曜日時限：その他

学 期：後期

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（声楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

声楽専門実技を、学部の4年間を通して基礎から上級まで計画的に指導していくものである。

■授業計画及び内容

1学年次においては、正しい発声技術の基本の教授とともに、ヴォカリーゼによるエチュード（Concone, Panofka, Vaccaj, Marchesi, Lutgen, 等）を適宜使用し、歌唱の基本を習得させる。同時にイタリア古典アリア集等の基本的な曲から、学生の進度に合わせて、特定の作曲家による歌曲集及びオペラ・アリア集等からレパートリーを作り始める。原則的にはイタリア語のテキストによる曲を中心とするが、各学生の学習進度によっては、これにこだわらない。2学年次以降では、各実技担当教員の指示により、イタリア語だけに留まらず、他の言語（ドイツ、フランス、等）による歌曲・オペラアリアにもレパートリーを拡げる。3、4学年次においては、声楽曲におけるバロック・古典・ロマン・近現代のそれぞれ異なる様式感を身につけるように指導する。実技担当教員の指示により、テキストの言語も日・英・スペイン・ロシア・ラテン等の各言語に拡げることがある。各学生の日頃の研究成果を披露し、またその進捗状況を測るために、各学年の学期末に実技試験を課す。ただし、1、2学年次においては前期末実技試験を課さない。

■教材・参考書

声楽専門実技を、学部の4年間を通して基礎から上級まで計画的に指導していくものである。

■成績評価の方法

1学年次においては、正しい発声技術の基本の教授とともに、ヴォカリーゼによるエチュード（Concone, Panofka, Vaccaj, Marchesi, Lutgen, 等）を適宜使用し、歌唱の基本を習得させる。同時にイタリア古典アリア集等の基本的な曲から、学生の進度に

合わせて、特定の作曲家による歌曲集及びオペラ・アリア集等からレパートリーを作り始める。原則的にはイタリア語のテキストによる曲を中心とするが、各学生の学習進度によっては、これにこだわらない。2学年次以降では、各実技担当教員の指示により、

■履修上の指示事項

レッスンで使用する楽譜（歌唱エチュード、各作曲家による歌曲集、オペラ・アリア集等）の購入については、実技担当教員のアドヴァイスを受けて、出来るだけ信頼性の高い版を購入すること。

■備考（オフィスアワー）

期末実技試験の採点結果をもとに成績を評価する。

声楽実技Ⅳ-1

代表教員：佐々木 典子

曜日時限：その他

学 期：前期

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（声楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

声楽専門実技を、学部の4年間を通して基礎から上級まで計画的に指導していくものである。

■授業計画及び内容

1学年次においては、正しい発声技術の基本の教授とともに、ヴォカリーゼによるエチュード（Concone, Panofka, Vaccaj, Marchesi, Lutgen, 等）を適宜使用し、歌唱の基本を習得させる。同時にイタリア古典アリア集等の基本的な曲から、学生の進度に合わせて、特定の作曲家による歌曲集及びオペラ・アリア集等からレパートリーを作り始める。原則的にはイタリア語のテキストによる曲を中心とするが、各学生の学習進度によっては、これにこだわらない。2学年次以降では、各実技担当教員の指示により、イタリア語だけに留まらず、他の言語（ドイツ、フランス、等）による歌曲・オペラアリアにもレパートリーを拡げる。3、4学年次においては、声楽曲におけるバロック・古典・ロマン・近現代のそれぞれ異なる様式感を身につけるように指導する。実技担当教員の指示により、テキストの言語も日・英・スペイン・ロシア・ラテン等の各言語に拡げることがある。各学生の日頃の研究成果を披露し、またその進捗状況を測るために、各学年の学期末に実技試験を課す。ただし、1、2学年次においては前期末実技試験を課さない。

■教材・参考書

レッスンで使用する楽譜（歌唱エチュード、各作曲家による歌曲集、オペラ・アリア集等）の購入については、実技担当教員のアドバイスを受けて、出来るだけ信頼性の高い版を購入すること。

■成績評価の方法

期末実技試験の採点結果をもとに成績を評価する。

■履修上の指示事項

学部4年次の「声楽実技Ⅱ」のレッスンは、3年次までの「声楽実技Ⅰ」のレッスンを引き継ぐものであり、実技担当教員の特別な指示がないかぎり、通常においては必修すべきものである。また、正当な理由無く実技レッスンの出席回数が不足した場合、期末実技試験を受験出来ないことがある。各期末実技試験の曲目提出期限は通常実技試験実施日の10日前までを原則とするが、詳細は掲示等の指示に従い、遅れないように提出すること。

■備考（オフィスアワー）

各実技担当教員の空き時間に対応する。（要予約）

声楽実技Ⅳ-2

代表教員：佐々木 典子

曜日時限：その他

学 期：後期

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（声楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

声楽専門実技を、学部の4年間を通して基礎から上級まで計画的に指導していくものである。

■授業計画及び内容

1 学年次においては、正しい発声技術の基本の教授とともに、ヴォカリーゼによるエチュード (Concone, Panofka, Vaccaj, Marchesi, Lutgen, 等) を適宜使用し、歌唱の基本を習得させる。同時にイタリア古典アリア集等の基本的な曲から、学生の進度に合わせて、特定の作曲家による歌曲集及びオペラ・アリア集等からレパートリーを作り始める。原則的にはイタリア語のテキストによる曲を中心とするが、各学生の学習進度によっては、これにこだわらない。2 学年次以降では、各実技担当教員の指示により、イタリア語だけに留まらず、他の言語（ドイツ、フランス、等）による歌曲・オペラアリアにもレパートリーを拡げる。3, 4 学年次においては、声楽曲におけるバロック・古典・ロマン・近現代のそれぞれ異なる様式感を身につけるように指導する。実技担当教員の指示により、テキストの言語も日・英・スペイン・ロシア・ラテン等の各言語に拡げることがある。各学生の日頃の研究成果を披露し、またその進捗状況を測るために、各学年の学期末に実技試験を課す。ただし、1, 2 学年次においては前期末実技試験を課さない。

■教材・参考書

レッスンで使用する楽譜（歌唱エチュード、各作曲家による歌曲集、オペラ・アリア集等）の購入については、実技担当教員のアドバイスを受けて、出来るだけ信頼性の高い版を購入すること。

■成績評価の方法

期末実技試験の採点結果をもとに成績を評価する。

■履修上の指示事項

学部4年次の「声楽実技Ⅱ」のレッスンは、3年次までの「声楽実技Ⅰ」のレッスンを引き継ぐものであり、実技担当教員の特別な指示がないかぎり、通常においては必修すべきものである。また、正当な理由無く実技レッスンの出席回数が不足した場合、期末実技試験を受験出来ないことがある。各期末実技試験の曲目提出期限は通常実技試験実施日の10日前までを原則とするが、詳細は掲示等の指示に従い、遅れないように提出すること。

■備考（オフィスアワー）

各実技担当教員の空き時間に対応する。（要予約）

声楽実習 I (コレペティツィオーン)

代表教員：佐々木 典子

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（声楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

本学声楽科の学生が、様々な声楽作品※の演奏について、豊富な知識と経験を持つピアニストによるコレペティツィオーン指導を受けることの出来るように開設したのが、この[声楽演習 I] (コレペティツィオーン)である。 ※歌曲や重唱曲、オペラ・宗教的作品のアリアやアンサンブル曲。

■授業計画及び内容

歌劇場やコンサート主催機関等での Korrepetitor コレペティートル (コレペティートルとは発音しないことに注意) は、ピアノを用いて音楽指導することによって、歌手に十分な音楽表現力を身に付けさせ、かつその曲を歌手自身のレパートリーとすることが出来るよう、繰り返し指導する。その行為を Korrepetition コレペティツィオーンと呼ぶ Korrepetitor コレペティートルとは：欧米の歌劇場や音楽大学では既に確立されている音楽指導システムによる用語である。ラテン語の (con=共に) と (repetitor レペティートル=繰り返す人) の複合語である。ドイツ圏の歌劇場等では、Korrepetitor コレペティートル 又は単に Repetitor レペティートル とも呼ばれる確立した職種である。本来オペラ指揮者 (指揮者見習いも含む) 自身によって行われる仕事であるが、近年はピアニストがそれを行うことが多い。因みにイタリア国内では maestro del collaboratore、英語圏では coach コーチと呼ぶこともある。声楽科では上記の趣旨の指導をレッスン形式で行う。声楽専門実技レッスンの予習・復習の機能をも果たす故、専門実技担当教員の指示による履修を原則とするが、指示がなくても履修して良い。

■教材・参考書

受講者自身が受講希望のピアノヴォーカルスコア等出版譜 (またはその写譜等) を譜めくりしやすい状態にして各 2 部持参すること。楽譜は出来るだけ信頼性の高い版を選ぶこと。

■成績評価の方法

A, B, C, D, E, F, G, H, I のうち、どの各教官のレッスンをも自由に選択して受ける事が出来るが、年度内の各教官のレッスン回数を総合してカウントし、一定の回数以上の受講を条件として 2 単位を与える。その場合、年度内の延べ受講回数と理解度を根拠として成績評価を行う。

■履修上の指示事項

履修希望者は必ず、年度初めに教務係での履修届を済ませておく事。履修届を済ませていない場合は、一定の回数以上受講していても年度末に単位を与える事は出来ないので注意する事。声楽教員室に備え付けの所定の申込用紙に、レッスンを希望する学生の氏名 (重唱の場合は複数) ・希望する教官名 ・希望日時 ・曲目などを記入し、遅くとも 1 週間前までに各担当教員、又は声楽教教室に提出する。詳細は声楽科研究室助手または各担当教員に問い合わせる事。

■備考 (オフィスアワー)

卒業演奏（声楽）

代表教員：佐々木 典子

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（声楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

4年次後期末における声楽実技試験は、学内外に対し公開演奏会のなかで演奏し、これを「卒業演奏」と呼ぶ。

■授業計画及び内容

「卒業演奏」にさいし、履修者は声楽実技担当教員の指導のもと、曲目を自由に選定し、その曲目を定められた時間内で、ピアノ伴奏により暗譜で演奏する。「卒業演奏」は、学部における声楽実技レッスンを軸とした研鑽の集大成ともいうべきもので、4年次の「声楽実技Ⅱ」と一体をなすものである。

■教材・参考書

声楽実技担当教員のアドバイスを受けて、出来るだけ信頼性の高い楽譜を使用する事。

■成績評価の方法

「卒業演奏会」において採点する声楽実技担当教員全員の採点の平均点を基礎として評価。

■履修上の指示事項

現在、卒業演奏においては、「アリア」（オペラ作品のアリア・カヴァティーナ・ロンド等、またはオラトリオ・カンタータ等の声楽作品からのアリア等を原語・原調で演奏する事）1曲と、「歌曲」（移調は自由であるが、原語で演奏する事）1曲の計2曲を8分以内（曲間も含む）にまとめて、ピアノ伴奏により暗譜で演奏する事が義務づけられている。注1：原語あるいは原調以外で歌う場合は、声楽実技担当教員の指示と声楽科部会の許可がある場合にのみ、これを認める。注2：曲間を含む演奏時間の制限である「8分以内」は厳格に守り、それを越え

■備考（オフィスアワー）

各実技担当教員の空き時間に対応する。（要予約）

舞台語発音法

代表教員：永井 和子

曜日時限：金曜5限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（声楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

舞台における発音法を、歌唱の場合を中心に講義し演習する授業である。

■授業計画及び内容

舞台から客席に、如何にして明瞭な言語を届けられるかは舞台人として必須のテーマである。ここで扱う言語は、日本語・ドイツ語・フランス語・イタリア語・英語の五カ国語である。それぞれの言語に対し、3～4週ずつネイティブを含む各教員が、歌唱における発音法を講義・演習する。声楽科学生として知らねばならないことが満載の必修科目である。

■教材・参考書

各担当教員の指示による。各外国語の辞書等は、履修者が授業に持参する事。

■成績評価の方法

出席重視の評価。

■履修上の指示事項

なるべく3学年次に履修すること。

■備考（オフィスアワー）

ボディテクニク

代表教員：安達 悦子

曜日時限：木曜3限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（声楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

身体で音楽を感じ 自由に表現できることをめざして

■授業計画及び内容

バレエは全身で観客に話しかける言葉、まさしくボディランゲージです。

音楽やドラマ、感性を表現するために、ダンサーにとっては身体が楽器です。

楽器である身体を作り上げ、調整するための毎日のトレーニングがバレエのレッスンです。

このクラシックバレエの基本レッスンを通して、オペラに必要な姿勢、立ち居振る舞い音楽的な動き（リズム・メロディー）、呼吸法、エレガンス等が身につくようにする。

また、簡単な踊りを通して、ペア、アンサンブル、プレイメント等の感覚が身につくようにする。

そして、舞台上で表現するための身体の自由を得られるように毎週のレッスン（授業）を行います。

■教材・参考書

■成績評価の方法

出席を重視します。

■履修上の指示事項

レオタード、バレエシューズ等を各自用意する。身体で感じる授業なので、積み重ねの効果を体感して欲しい。

■備考（オフィスアワー）

專門科目（器樂）

オルガンアンサンブルⅢ

代表教員：椎名 雄一郎
曜日時限：金曜5限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（器楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

オルガンを含む声楽および器楽のアンサンブルの可能性の研究

■授業計画及び内容

- ① 1～2年次に修得した通奏低音奏法を前提に17～18世紀のアンサンブル音楽のレパートリーを研究
- ② 現代に至るその他オルガンのアンサンブル音楽のレパートリーを研究

■教材・参考書

教員の指導のもとに、履修者がアンサンブル作品、共演者を自主的にさがし、授業において演奏する。

■成績評価の方法

実技試験による。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

オルガンアンサンブルⅣ

代表教員：椎名 雄一郎
曜日時限：金曜5限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（器楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

オルガンを含む声楽および器楽のアンサンブルの可能性の研究

■授業計画及び内容

- ① 1～2年次に修得した通奏低音奏法を前提に17～18世紀のアンサンブル音楽のレパートリーを研究
- ② 現代に至るその他オルガンのアンサンブル音楽のレパートリーを研究

■教材・参考書

教員の指導のもとに、履修者がアンサンブル作品、共演者を自主的にさがし、授業において演奏する。

■成績評価の方法

実技試験による。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

オルガン概論

代表教員：廣江 理枝

曜日時限：火曜 4 限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（器楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

- ①オルガンの発音原理と構造の理解
- ②オルガンの外観、音色構成の特質、地域別発展史の概観

■授業計画及び内容

- ①文献、図表、画像等によりオルガンの発音原理を理解するとともに、楽器内部を実際に観察し、響きを聴いて内容をさらに実践的に把握する。これによって、演奏メカニズム、音色の構成（ディスポジション）、楽器の正しい使い方（レジストレーション）の基本を理解する。
- ②オルガンの起源、15 世紀から現代におよぶオルガンの歴史を概観し、地域と時代による楽器の建造と音響の様式の特徴を研究する。

■教材・参考書

「オルガン音楽のふるさと」（NHK出版）、ハンス・クロット「オルガンのすべて」（パックス ビジョン）等のほか授業での配付資料

■成績評価の方法

出席率と筆記試験

■履修上の指示事項

オルガン専門学生を優先する。教室の収容能力により定員 8～10 名とする。

■備考（オフィスアワー）

オルガン科研究室

オルガン研究発表 I

代表教員：廣江 理枝

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：1

ジャンル：専門科目（器楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

平常の実技授業の成果を、オルガン科全教員、学生の前で発表する。

■授業計画及び内容

前期および後期に 1 回ずつコンサート形式（非公開）で行う。

■教材・参考書

各自担当教員と相談して決める。

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

オルガン研究発表Ⅱ

代表教員：廣江 理枝

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：1

ジャンル：専門科目（器楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

平常の実技授業の成果を、オルガン科全教員、学生の前で発表する。

■授業計画及び内容

前期および後期に1回ずつコンサート形式（非公開）で行う。

■教材・参考書

各自担当教員と相談して決める。

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

オルガン研究発表Ⅲ

代表教員：廣江 理枝

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：1

ジャンル：専門科目（器楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

平常の実技授業の成果を、オルガン科全教員、学生の前で発表する。

■授業計画及び内容

前期および後期に1回ずつコンサート形式（非公開）で行う。

■教材・参考書

各自担当教員と相談して決める。

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

オルガン研究発表Ⅳ

代表教員：廣江 理枝
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（器楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

平常の実技授業の成果を、オルガン科全教員、学生の前で発表する。

■授業計画及び内容

前期および後期に1回ずつコンサート形式（非公開）で行う。

■教材・参考書

各自担当教員と相談して決める。

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

オルガン実技Ⅰ

代表教員：廣江 理枝
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：8
ジャンル：専門科目（器楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

16世紀～21世紀のオルガン音楽の研究と演奏実技

■授業計画及び内容

学部在学の4年間で、時代と地域ごとの基本的レパートリーを、実技レッスンにより可能な限り幅広く且つバランス良く習得する。目標達成のための各年次の研究内容および手順は、各履修者が担当教員と協議の上決める。

■教材・参考書

担当教員と相談の上、適宜決める。

■成績評価の方法

実技試験による。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

オルガン実技Ⅱ

代表教員：廣江 理枝
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：8
ジャンル：専門科目（器楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

16世紀～21世紀のオルガン音楽の研究と演奏実技

■授業計画及び内容

学部在学の4年間で、時代と地域ごとの基本的レパートリーを、実技レッスンにより可能な限り幅広く且つバランス良く習得する。目標達成のための各年次の研究内容および手順は、各履修者が担当教員と協議の上決める。

■教材・参考書

担当教員と相談の上、適宜決める。

■成績評価の方法

実技試験による。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

オルガン実技Ⅲ

代表教員：廣江 理枝
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：8
ジャンル：専門科目（器楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

16世紀～21世紀のオルガン音楽の研究と演奏実技

■授業計画及び内容

学部在学の4年間で、時代と地域ごとの基本的レパートリーを、実技レッスンにより可能な限り幅広く且つバランス良く習得する。目標達成のための各年次の研究内容および手順は、各履修者が担当教員と協議の上決める。

■教材・参考書

担当教員と相談の上、適宜決める。

■成績評価の方法

実技試験による。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

オルガン実技Ⅳ

代表教員：廣江 理枝
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：8
ジャンル：専門科目（器楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

16世紀～21世紀のオルガン音楽の研究と演奏実技

■授業計画及び内容

学部在学の4年間で、時代と地域ごとの基本的レパートリーを、実技レッスンにより可能な限り幅広く且つバランス良く習得する。目標達成のための各年次の研究内容および手順は、各履修者が担当教員と協議の上決める。

■教材・参考書

担当教員と相談の上、適宜決める。

■成績評価の方法

実技試験による。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

オルガン即興実技Ⅲ

代表教員：近藤 岳
曜日時限：月曜4限
学 期：通年
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（器楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

オルガン即興演奏の理論と実践。

■授業計画及び内容

- ①オルガン即興演奏の技術向上を軸に、それらに必須な総合的な音楽力（和声力、ソルフェージュ力、アナリーゼ力、等）や、実現するための発想力・演奏力を同時に高めることを主眼とする。また「作曲＝演奏＝即興」という不可分な音楽行為を体現することで、それによって得られるオルガニストの音楽的資質を磨くことを目的とする。
- ②授業では、理論のための「和声、作曲、作品アナリーゼ」、実践のための「オルガンにおける技術習練」、これら2つの内容を常に並行して行う。
- ③上記①②に基づき、授業展開は基本的にグループで行う。また、定期的に研究課題テーマを設け、学生・教員ともに演奏とディスカッションを積極的に行い、個々に研究の成果を発表する。

■教材・参考書

授業中の配布資料による。また、参考資料や文献についてもその都度指示し、研究課題の一環とする。

■成績評価の方法

出席率、研究課題への自発的な取り組み（発表・演奏）に従って評価。

■履修上の指示事項

オルガン専攻生対象

■備考（オフィスアワー）

オルガン即興実技Ⅳ

代表教員：近藤 岳
曜日時限：月曜 4限
学 期：通年
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（器楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

オルガン即興演奏の理論と実践。

■授業計画及び内容

- ①オルガン即興演奏の技術向上を軸に、それらに必須な総合的な音楽力（和声力、ソルフェージュ力、アナリーゼ力、等）や、実現するための発想力・演奏力を同時に高めることを主眼とする。また「作曲＝演奏＝即興」という不可分な音楽行為を体現することで、それによって得られるオルガニストの音楽的資質を磨くことを目的とする。
- ②授業では、理論のための「和声、作曲、作品アナリーゼ」、実践のための「オルガンにおける技術習練」、これら2つの内容を常に並行して行う。
- ③上記①②に基づき、授業展開は基本的にグループで行う。また、定期的に研究課題テーマを設け、学生・教員ともに演奏とディスカッションを積極的に行い、個々に研究の成果を発表する。

■教材・参考書

授業中の配布資料による。また、参考資料や文献についてもその都度指示し、研究課題の一環とする。

■成績評価の方法

出席率、研究課題への自発的な取り組み（発表・演奏）に従って評価。

■履修上の指示事項

オルガン専攻生対象

■備考（オフィスアワー）

オルガン通奏低音実習Ⅰ

代表教員：椎名 雄一郎
曜日時限：金曜 4限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（器楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

通奏低音理論とその基礎を修得する。

■授業計画及び内容

通奏低音理論をふまえて17～18世紀のアンサンブル音楽演奏のための基礎を修得する。

■教材・参考書

配付資料

■成績評価の方法

実技試験による。

■履修上の指示事項

オルガン専門生対象

■備考（オフィスアワー）

オルガン通奏低音実習Ⅱ

代表教員：椎名 雄一郎
曜日時限：金曜4限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（器楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

通奏低音理論とその基礎を修得する。

■授業計画及び内容

通奏低音理論をふまえて17～18世紀のアンサンブル音楽演奏のための基礎を修得する。

■教材・参考書

配付資料

■成績評価の方法

実技試験による。

■履修上の指示事項

オルガン専門生対象

■備考（オフィスアワー）

オルガン様式研究Ⅰ

代表教員：廣江 理枝
曜日時限：水曜3限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（器楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

オルガン音楽を、楽器、楽譜、演奏法の側面から研究し、個々の作品の時代別、国別の様式をふまえたパフォーマンス・プラクティスを修得する。

■授業計画及び内容

①16～18世紀におけるオルガン音楽の演奏実践上の理論を研究する。J. Laukvik: Orgelschule zur historischen Aufführungspraxis Teil 1を主な研究資料とし、学生・教員で原文を翻訳しながら授業を進める。

②上記①の研究成果を、実際の演奏実践においてこころみる。同時に様々な作品をとりあげ、レパートリー研究にも役立てる。

■教材・参考書

J. ラウクヴィック「歴史的演奏実践のためのオルガン教本」(J. Laukvik: Orgelschule zur historischen Aufführungspraxis Teil I および配付資料

■成績評価の方法

出席率、授業での発表および演奏の成果に従い評価。

■履修上の指示事項

オルガン専門生（1～4年次）対象

■備考（オフィスアワー）

オルガン科研究室

オルガン様式研究Ⅱ

代表教員：廣江 理枝

曜日時限：水曜3限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（器楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

オルガン音楽を、楽器、楽譜、演奏法の側面から研究し、個々の作品の時代別、国別の様式をふまえたパフォーマンス・プラクティスを修得する。

■授業計画及び内容

①16～18世紀におけるオルガン音楽の演奏実践上の理論を研究する。J. Laukvik: Orgelschule zur historischen Aufführungspraxis Teil 1を主な研究資料とし、学生・教員で原文を翻訳しながら授業を進める。

②上記①の研究成果を、実際の演奏実践においてこころみる。同時に様々な作品をとりあげ、レポーター研究にも役立てる。

■教材・参考書

J. ラウクヴィック「歴史的演奏実践のためのオルガン教本」(J. Laukvik: Orgelschule zur historischen Aufführungspraxis Teil I および配付資料

■成績評価の方法

出席率、授業での発表および演奏の成果に従い評価。

■履修上の指示事項

オルガン専門生（1～4年次）対象

■備考（オフィスアワー）

オルガン科研究室

オルガン様式研究Ⅲ

代表教員：廣江 理枝

曜日時限：水曜3限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（器楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

オルガン音楽を、楽器、楽譜、演奏法の側面から研究し、個々の作品の時代別、国別の様式をふまえたパフォーマンス・プラクティスを修得する。

■授業計画及び内容

①16～18世紀におけるオルガン音楽の演奏実践上の理論を研究する。J. Laukvik: Orgelschule zur historischen Aufführungspraxis Teil 1を主な研究資料とし、学生・教員で原文を翻訳しながら授業を進める。

②上記①の研究成果を、実際の演奏実践においてこころみる。同時に様々な作品をとりあげ、レポーター研究にも役立てる。

■教材・参考書

J. ラウクヴィック「歴史的演奏実践のためのオルガン教本」(J. Laukvik: Orgelschule zur historischen Aufführungspraxis Teil I および配付資料

■成績評価の方法

出席率、授業での発表および演奏の成果に従い評価。

■履修上の指示事項

オルガン専門生（1～4年次）対象

■備考（オフィスアワー）

オルガン科研究室

オルガン様式研究Ⅳ

代表教員：廣江 理枝

曜日時限：水曜3限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（器楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

オルガン音楽を、楽器、楽譜、演奏法の側面から研究し、個々の作品の時代別、国別の様式をふまえたパフォーマンス・プラクティスを修得する。

■授業計画及び内容

①16～18世紀におけるオルガン音楽の演奏実践上の理論を研究する。J. Laukvik: Orgelschule zur historischen Aufführungspraxis Teil 1を主な研究資料とし、学生・教員で原文を翻訳しながら授業を進める。

②上記①の研究成果を、実際の演奏実践においてこころみる。同時に様々な作品をとりあげ、レパートリー研究にも役立てる。

■教材・参考書

J. ラウクヴィック「歴史的演奏実践のためのオルガン教本」(J. Laukvik: Orgelschule zur historischen Aufführungspraxis Teil I および配付資料

■成績評価の方法

出席率、授業での発表および演奏の成果に従い評価。

■履修上の指示事項

オルガン専門生（1～4年次）対象

■備考（オフィスアワー）

オルガン科研究室

学内演奏（BVn）

代表教員：若松 夏美

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（器楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

古楽科学部4年生前期に行われる学内での演奏試験（30分）。

■授業計画及び内容

学部4年生が行う演奏試験である。

そのレパートリーなどについては、担当専攻実技教員と相談すること。

■教材・参考書

■成績評価の方法

演奏試験

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

古楽研究室

学内演奏（C b）

代表教員：永島 義男
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（器楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

習得した専門技術の総合的実習

■授業計画及び内容

3年次秋に、奏楽堂にて15分以内の楽曲を演奏する。本格的なコンサートホールの舞台での演奏を体験することにより、大きな空間での演奏における自己のコントロールを学ぶ。公開演奏におけるステージマナーも重要なポイントである。

■教材・参考書

各教員が個別に指定する

■成績評価の方法

演奏の成績により評価する

■履修上の指示事項

内規の注意事項を参照すること

■備考（オフィスアワー）

学内演奏（C e m b）

代表教員：大塚 直哉
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（器楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

古楽科学部4年生前期に行われる学内での演奏試験（30分）。

■授業計画及び内容

学部4年生が行う演奏試験。そのレパートリーなどについては、担当専攻実技教員と相談すること。

■教材・参考書

■成績評価の方法

演奏試験

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

古楽研究室

学内演奏（H p）

代表教員：早川 りさこ
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（器楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

習得した専門技術の総合的実習

■授業計画及び内容

3年次秋に、奏楽堂にて15分以内の楽曲を演奏する。本格的なコンサートホールの舞台での演奏を体験することにより、大きな空間での演奏における自己のコントロールを学ぶ。公開演奏におけるステージマナーも重要なポイントである。

■教材・参考書

各教員が個別に指定する

■成績評価の方法

演奏の成績により評価する

■履修上の指示事項

内規の注意事項を参照すること

■備考（オフィスアワー）

学内演奏（O r g）

代表教員：廣江 理枝
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（器楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

演奏会形式による小コンサート

■授業計画及び内容

平素の研究成果を、公開演奏により発表する。

■教材・参考書

■成績評価の方法

実技試験として評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

学内演奏（P f）

代表教員：東 誠三
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（器楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

公開演奏会で聴衆を前にしたピアノ演奏を経験する。

■授業計画及び内容

年次に行われる学外公開の演奏会。原則、奏楽堂で行われる。

■教材・参考書

適宜 各担当教官の指示による。

■成績評価の方法

演奏内容の評価

■履修上の指示事項

日程など詳細については担当教員に確認すること。

■備考（オフィスアワー）

学内演奏（R e c）

代表教員：山岡 重治
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（器楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

古楽科学部4年生前期に行われる学内での演奏試験。

■授業計画及び内容

学部4年生が行う演奏試験である。
そのレパートリーなどについては、担当専攻実技教員と相談すること。

■教材・参考書

■成績評価の方法

演奏試験

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

古楽研究室

学内演奏（V a）

代表教員：川崎 和憲
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（器楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

習得した専門技術の総合的実習

■授業計画及び内容

3年次秋に、奏楽堂にて15分以内の楽曲を演奏する。本格的なコンサートホールの舞台での演奏を体験することにより、大きな空間での演奏における自己のコントロールを学ぶ。公開演奏におけるステージマナーも重要なポイントである。

■教材・参考書

各教員が個別に指定する

■成績評価の方法

演奏の成績により評価する

■履修上の指示事項

内規の注意事項を参照すること

■備考（オフィスアワー）

学内演奏（V c）

代表教員：河野 文昭
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（器楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

習得した専門技術の総合的実習

■授業計画及び内容

3年次秋に、奏楽堂にて15分以内の楽曲を演奏する。本格的なコンサートホールの舞台での演奏を体験することにより、大きな空間での演奏における自己のコントロールを学ぶ。公開演奏におけるステージマナーも重要なポイントである。

■教材・参考書

各教員が個別に指定する

■成績評価の方法

演奏の成績により評価する

■履修上の指示事項

内規の注意事項を参照すること

■備考（オフィスアワー）

学内演奏（Vn）

代表教員：清水 高師

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（器楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

習得した専門技術の総合的実習

■授業計画及び内容

3年次秋に、奏楽堂にて15分以内の楽曲を演奏する。本格的なコンサートホールの舞台での演奏を体験することにより、大きな空間での演奏における自己のコントロールを学ぶ。

公開演奏におけるステージマナーも重要なポイントである。

■教材・参考書

各教員が個別に指定する

■成績評価の方法

演奏の成績により評価する

■履修上の指示事項

内規の注意事項を参照すること

■備考（オフィスアワー）

学内演奏（管打楽）

代表教員：山本 正治

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（器楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

4年次の必修科目として実技レッスン授業で習得した成果を発表する。

■授業計画及び内容

専門実技レッスン授業の成果を奏楽堂で発表する。無伴奏あるいはピアノ伴奏付きを原則とする。

■教材・参考書

指導教員の指示による。

■成績評価の方法

授業態度及び演奏の評価

■履修上の指示事項

公開演奏会形式とする。あらかじめ十分に準備をしておくこと。

■備考（オフィスアワー）

合奏Ⅰ

代表教員：東 誠三

曜日時限：

学 期：集中講義

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（器楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

基礎的なアンサンブル能力の育成およびアンサンブルを通じた音楽性の涵養
（1年生対象）

■授業計画及び内容

四手連弾もしくはピアノデュオ

■教材・参考書

適宜ピアノ教官室前に掲示する。

■成績評価の方法

各教員がレッスン中に判定する。

■履修上の指示事項

十分な準備（個人として、また合奏として）を以ってレッスンに臨むこと

■備考（オフィスアワー）

9:00-17:00

合奏Ⅱ

代表教員：東 誠三

曜日時限：

学 期：集中講義

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（器楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

基礎的なアンサンブル能力の育成およびアンサンブルを通じた音楽性の涵養
（2年生対象）

■授業計画及び内容

弦楽器もしくは管楽器とのソナタ（もしくはそれに準ずるもの）に関する個人レッスン

■教材・参考書

適宜ピアノ教官室前に掲示する。

■成績評価の方法

各教官がレッスン中に判定する。

■履修上の指示事項

十分な準備（個人として、また合奏として）を以ってレッスンに臨むこと

■備考（オフィスアワー）

弦楽合奏

代表教員：永島 義男
曜日時限：水曜 1～2 限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（器楽）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

バロック、古典から現代までの弦楽合奏のレパートリーを用いて、合奏の基礎を学ぶとともに、合奏やオーケストラのリハーサルの際の基本的な常識（時間厳守、楽譜の管理、事前準備等）を徹底させる。

■授業計画及び内容

まずバロック、古典の構造のシンプルな曲で合奏技術の基礎を学び、その後ロマン派、近代・現代の複レパートリーにも挑む。コンサートマスターや首席奏者としての役割をできるだけ多くの学生に体験させるため、席順は曲毎のローテーションで変動させる。11 月下旬には管弦ミニコンサートで公開演奏の体験をさせる。

■教材・参考書

担当教官の指定した楽曲のパート譜を、弦楽科のライブラリーよりその都度貸し出す。インスペクター（年度初めに弦楽部会により 2 名を指名する）が、担当教官との連絡をとり、ライブラリー担当より授業の少なくとも 1 週間前には準備すること。当該曲のポケットスコアを学生各自が用意することが望ましい。

■成績評価の方法

出席状況（遅刻、早退はそれぞれ 2 分の 1 の欠席に算定）により評価する。

■履修上の指示事項

授業開始を 9 時 30 分としているが、リハーサル前の準備として通常始業時刻の 9 時には第 1 ホールに集合すること。合奏授業は、全員出席が基本となるので遅刻や早退、欠席については厳格に取り扱う。やむを得ない遅刻、欠席については、速やかにインスペクターに連絡すること。

■備考（オフィスアワー）

古楽アンサンブル I

代表教員：大塚 直哉
曜日時限：水曜 2 限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（器楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

古楽アンサンブルの基礎を学ぶ。

■授業計画及び内容

鍵盤楽器（Cemb, Org, Fp）やリコーダー、オーボエ、フルートなどを中心とした小編成の古楽器および声楽によるアンサンブルの実習を行う。履修者は各自でアンサンブルを組み、各回 2 組ずつのレッスンを割り当てる。レッスン後各自でさらに仕上げ、前期末、学年末の勉強会で演奏する。

レパートリーについては初回の授業でガイダンスを行う。

■教材・参考書

■成績評価の方法

バロック時代の声楽と器楽を中心としたアンサンブルの実習
歌詞の持つ修辭的意味と様式を反映させる演奏をめざす。

■履修上の指示事項

受講生の専攻や声種に従ってアンサンブルを組み、毎回 1～2 組ずつ演奏する。

■備考（オフィスアワー）

適宜指示する

古楽アンサンブルⅡ

代表教員：野々下 由香里
曜日時限：火曜5限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（器楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

バロック時代の声楽と器楽を中心としたアンサンブルの実習
歌詞の持つ修辭的意味と様式を反映させる演奏をめざす。

■授業計画及び内容

受講生の専攻や声種に従ってアンサンブルを組み、
毎回1～2組ずつ演奏する。

■教材・参考書

適宜指示する

■成績評価の方法

この授業では出席を重視する。
平常点および年度末の試験（発表演奏会）の評価による。

■履修上の指示事項

各回の演奏者は楽譜を履修者全員分用意すること。
また声楽曲の場合はかならず訳を書き込むこと。

■備考（オフィスアワー）

古楽研究室
履修登録：学部生
古楽科の学生は、古楽アンサンブルⅠ～Ⅲのうち一つを一年間履修する。
なお古楽アンサンブル（集中）は、古楽科のプロジェクトとして企画される。

古楽アンサンブルⅢ

代表教員：若松 夏美
曜日時限：木曜3限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（器楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

後期バロック～初期古典派の弦楽器を中心としたアンサンブルの実習

■授業計画及び内容

グループを組織し、バロック時代から古典派にかけての室内楽、小規模なオーケストラ音楽などを実際に演奏して、当時の基礎的な演奏法、語法などを探る。現代一般的な演奏法との違い、その背景にある美観の違い等について考え、それらを反映しつつ活きた演奏をする方法を目指す。

■教材・参考書

必要に応じて授業中に指示する。

■成績評価の方法

平常点と学年末の試験およびレポート提出

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

古楽研究室
履修登録：学部生
古楽科の学生は、古楽アンサンブルⅠ～Ⅲのうち一つを一年間履修する。

古楽研究発表Ⅰ

代表教員：大塚 直哉
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（器楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

専攻実技授業の成果を発表する機会として、公開演奏の形で、勉強会を行う。

「研究発表」の評価の対象は学部生のみ（バロックヴァイオリン、リコーダー、チェンバロ）。

■授業計画及び内容

これは、古楽科の各専攻実技ごとに、特定の日を定めて学生が行う学内の公開演奏会である。その日程とレパトリーなどについては、各担当教員より授業中に指示する。年間2～3回行うものとする。

■教材・参考書

授業中に指示する。

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

各専攻実技担当教員に連絡すること。

古楽研究発表Ⅱ

代表教員：大塚 直哉
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（器楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

専攻実技授業の成果を発表する機会として、公開演奏の形で、勉強会を行う。

「研究発表」の評価の対象は学部生のみ（バロックヴァイオリン、リコーダー、チェンバロ）。

■授業計画及び内容

これは、古楽科の各専攻実技ごとに、特定の日を定めて学生が行う学内の公開演奏会である。その日程とレパトリーなどについては、各担当教員より授業中に指示する。年間2～3回行うものとする。

■教材・参考書

授業中に指示する。

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

各専攻実技担当教員に連絡すること。

古楽研究発表Ⅲ

代表教員：大塚 直哉
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（器楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

専攻実技授業の成果を発表する機会として、公開演奏の形で、勉強会を行う。

「研究発表」の評価の対象は学部生のみ（バロックヴァイオリン、リコーダー、チェンバロ）。

■授業計画及び内容

これは、古楽科の各専攻実技ごとに、特定の日を定めて学生が行う学内の公開演奏会である。その日程とレパトリーなどについては、各担当教員より授業中に指示する。年間2～3回行うものとする。

■教材・参考書

授業中に指示する。

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

各専攻実技担当教員に連絡すること。

古楽研究発表Ⅳ

代表教員：大塚 直哉
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（器楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

専攻実技授業の成果を発表する機会として、公開演奏の形で、勉強会を行う。

「研究発表」の評価の対象は学部生のみ（バロックヴァイオリン、リコーダー、チェンバロ）。

■授業計画及び内容

これは、古楽科の各専攻実技ごとに、特定の日を定めて学生が行う学内の公開演奏会である。その日程とレパトリーなどについては、各担当教員より授業中に指示する。年間2～3回行うものとする。

■教材・参考書

授業中に指示する。

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

各専攻実技担当教員に連絡すること。

古楽通奏低音実習Ⅰ

代表教員：廣沢 麻美

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（器楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

チェンバロ上での数字付き低音の実習

■授業計画及び内容

古楽科 BVn および Rec 専攻の1年生を対象とし、17~18世紀の西洋音楽の基本的文法ともいべき数字付き低音に習熟し、アンサンブルにおける簡単な通奏低音パートを受け持って演奏する力を身につける。また、ヴァイオリンやリコーダーレパートリーの中の無伴奏作品を取り上げ、それらを数字付き低音に直す課題などを通じて、この時代の和声感を演奏につなげるセンスを磨く。

■教材・参考書

授業中に指示、又は受講生が持参。

■成績評価の方法

平常点（授業への参加の積極度）と実技試験による。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

古楽研究室

古楽通奏低音実習Ⅱ

代表教員：廣沢 麻美

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（器楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

チェンバロでの通奏低音奏法の基礎習得と応用

■授業計画及び内容

通奏低音奏法の基礎の確認と、そこからより自由に、かつ様式にのっとり弾けるようになることを目指す。
宿題としてあらかじめ準備させる課題と共に、初見の課題も実習する。
実際の曲としてはヘンデル、テレマン、J. S. バッハなどの作品を用いるが、授業の進行状況や履修学生の希望によって、他の国や時代の作品あるいは現在各々が専攻実技において学んでいる曲なども扱う。
最終的にはできるだけ多くのアンサンブルのレッスンに繋げたい。

■教材・参考書

■成績評価の方法

出席率と平常点に実技試験等の成績を加味して行う。

■履修上の指示事項

アンサンブルの機会を増やすために、ぜひ各自で共演者を同伴すること。

■備考（オフィスアワー）

古楽研究室

古楽通奏低音実習Ⅲ

代表教員：大塚 直哉

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（器楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

チェンバロ、オルガンによる通奏低音奏法のより一層の向上を目指す

■授業計画及び内容

さまざまな様式の作品による30分のプログラムを組み、12月初めの公開演奏試験において演奏する。

■教材・参考書

■成績評価の方法

30分の公開演奏（12月初め）試験による。

■履修上の指示事項

プログラムを組むうえで以下の点に注意すること。

- 1) チェンバロとオルガンの両方を用いること（割合は専攻による）。
- 2) 初期バロックの作品と盛期バロックの作品をどちらも含んでいること、また全体として3つ以上の異なる様式を含んでいること。
- 3) レチタティーヴォないしはレチタール・カンタンド様式の作品（または楽章）を1つ以上含んでいること。

■備考（オフィスアワー）

古楽器概論

代表教員：大塚 直哉

曜日時限：

学 期：集中講義

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（器楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

古楽器の構造・歴史、メンテナンスの基礎知識について、実習を交えながら、演奏者に必要な知識と楽器を取り扱う上での経験を積む。また各学生にとって自らの専攻ではない楽器についても積極的に理解を深められる場としたい。

■授業計画及び内容

今年度は「チェンバロ」と「リコーダー」を取り上げ、3日間の集中講義の形で行う。

- 1日目 チェンバロの構造と歴史、さまざまな歴史的調律法の基礎（1）
- 2日目 チェンバロの構造と歴史、さまざまな歴史的調律法の基礎（2）
- 3日目 リコーダーの歴史と構造、楽器メンテナンスの基礎

■教材・参考書

授業時間に指示する。

■成績評価の方法

平常点（授業への参加の積極度）とレポートによる。

■履修上の指示事項

単位の修得を希望する者は、3日間すべてに出席すること。

■備考（オフィスアワー）

古楽研究室

吹奏楽 I -1

代表教員：山本 正治
曜日時限：水曜 4 限・水曜 5 限
学 期：前期
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（器楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

学部 2 年生及び 3 年生の必修授業として毎週水曜日の 4 限～5 限に合奏授業を行う。吹奏楽のオリジナル作品及び編成に応じて編曲された作品等を研究し成果を発表する。学内演奏会及び定期演奏会には学部 4 年（選択科目）、別科、大学院生も参加することが出来る。

■授業計画及び内容

毎週水曜日の 4、5 限に授業を行う。

「前期授業計画」

4 月 15 日、22 日

5 月 13 日、20 日、27 日

6 月 3 日、10 日、15 日（特別練習）、16 日（特別練習）

学内演奏会：6 月 17 日奏楽堂

■教材・参考書

■成績評価の方法

出席日数及び授業態度

■履修上の指示事項

その都度指示

■備考（オフィスアワー）

吹奏楽 I -2

代表教員：山本 正治
曜日時限：水曜 4 限・水曜 5 限
学 期：後期
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（器楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

学部 2 年生及び 3 年生の必修授業として毎週水曜日の 4 限～5 限に合奏授業を行う。吹奏楽のオリジナル作品及び編成に応じて編曲された作品等を研究し成果を発表する。学内演奏会及び定期演奏会には学部 4 年（選択科目）、別科、大学院生も参加することが出来る。

■授業計画及び内容

毎週水曜日の 4、5 限に授業を行う。

「後期授業計画」10 月 14 日、21 日、28 日 11 月 4 日、11 日、18、24 日（特別練習）

吹奏楽第 74 回定期演奏会：11 月 25 日奏楽堂

■教材・参考書

■成績評価の方法

出席日数及び授業態度

■履修上の指示事項

その都度指示

■備考（オフィスアワー）

吹奏楽Ⅱ-1

代表教員：山本 正治
曜日時限：水曜4限・水曜5限
学 期：前期
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（器楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

学部2年生及び3年生の必修授業として毎週水曜日の4限～5限に合奏授業を行う。吹奏楽のオリジナル作品及び編成に応じて編曲された作品等を研究し成果を発表する。学内演奏会及び定期演奏会には学部4年（選択科目）、別科、大学院生も参加することが出来る。

■授業計画及び内容

毎週水曜日の4、5限に授業を行う。

「前期授業計画」

4月15日、22日

5月13日、20日、27日

6月3日、10日、15日（特別練習）、16日（特別練習）

学内演奏会：6月17日奏楽堂

■教材・参考書

■成績評価の方法

出席日数及び授業態度

■履修上の指示事項

その都度指示

■備考（オフィスアワー）

吹奏楽Ⅱ-2

代表教員：山本 正治
曜日時限：水曜4限・水曜5限
学 期：後期
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（器楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

学部2年生及び3年生の必修授業として毎週水曜日の4限～5限に合奏授業を行う。吹奏楽のオリジナル作品及び編成に応じて編曲された作品等を研究し成果を発表する。学内演奏会及び定期演奏会には学部4年（選択科目）、別科、大学院生も参加することが出来る。

■授業計画及び内容

毎週水曜日の4、5限に授業を行う。

「後期授業計画」10月14日、21日、28日 11月4日、11日、18、24日（特別練習）

吹奏楽第74回定期演奏会：11月25日奏楽堂

■教材・参考書

■成績評価の方法

出席日数及び授業態度

■履修上の指示事項

その都度指示

■備考（オフィスアワー）

吹奏楽Ⅲ-1

代表教員：山本 正治
曜日時限：水曜4限・水曜5限
学 期：前期
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（器楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

学部2年生及び3年生の必修授業として毎週水曜日の4限～5限に合奏授業を行う。吹奏楽のオリジナル作品及び編成に応じて編曲された作品等を研究し成果を発表する。学内演奏会及び定期演奏会には学部4年（選択科目）、別科、大学院生も参加することが出来る。

■授業計画及び内容

毎週水曜日の4、5限に授業を行う。

「前期授業計画」

4月15日、22日

5月13日、20日、27日

6月3日、10日、15日（特別練習）、16日（特別練習）

学内演奏会：6月17日奏楽堂

■教材・参考書

■成績評価の方法

出席日数及び授業態度

■履修上の指示事項

その都度指示

■備考（オフィスアワー）

吹奏楽Ⅲ-2

代表教員：山本 正治
曜日時限：水曜4限・水曜5限
学 期：後期
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（器楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

学部2年生及び3年生の必修授業として毎週水曜日の4限～5限に合奏授業を行う。吹奏楽のオリジナル作品及び編成に応じて編曲された作品等を研究し成果を発表する。学内演奏会及び定期演奏会には学部4年（選択科目）、別科、大学院生も参加することが出来る。

■授業計画及び内容

学部2年生及び3年生の必修授業として毎週水曜日の4限～5限に合奏授業を行う。吹奏楽のオリジナル作品及び編成に応じて編曲された作品等を研究し成果を発表する。学内演奏会及び定期演奏会には学部4年（選択科目）、別科、大学院生も参加することが出来る。

■教材・参考書

毎週水曜日の4、5限に授業を行う。

「後期授業計画」10月14日、21日、28日 11月4日、11日、18日、24日（特別練習）

吹奏楽第74回定期演奏会：11月25日奏楽堂

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

出席日数及び授業態度

■備考（オフィスアワー）

その都度指示

吹奏楽IV-1

代表教員：山本 正治
曜日時限：水曜4限・水曜5限
学 期：前期
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（器楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

学部2年生及び3年生の必修授業として毎週水曜日の4限～5限に合奏授業を行う。吹奏楽のオリジナル作品及び編成に応じて編曲された作品等を研究し成果を発表する。学内演奏会及び定期演奏会には学部4年（選択科目）、別科、大学院生も参加することが出来る。

■授業計画及び内容

毎週水曜日の4、5限に授業を行う。

「前期授業計画」

4月15日、22日

5月13日、20日、27日

6月3日、10日、15日（特別練習）、16日（特別練習）

学内演奏会：6月17日奏楽堂

■教材・参考書

■成績評価の方法

出席日数及び授業態度

■履修上の指示事項

その都度指示

■備考（オフィスアワー）

吹奏楽IV-2

代表教員：山本 正治
曜日時限：水曜4限・水曜5限
学 期：後期
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（器楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

学部2年生及び3年生の必修授業として毎週水曜日の4限～5限に合奏授業を行う。吹奏楽のオリジナル作品及び編成に応じて編曲された作品等を研究し成果を発表する。学内演奏会及び定期演奏会には学部4年（選択科目）、別科、大学院生も参加することが出来る。

■授業計画及び内容

毎週水曜日の4、5限に授業を行う。

「後期授業計画」10月14日、21日、28日 11月4日、11日、18、24日（特別練習）

吹奏楽第74回定期演奏会：11月25日奏楽堂

■教材・参考書

■成績評価の方法

出席日数及び授業態度

■履修上の指示事項

その都度指示

■備考（オフィスアワー）

専攻外古楽実習

代表教員：野々下 由香里
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（器楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

学部生向け「専攻外古楽」は、下記の7つの専修を含むが、教授能力に余力のある時のみ開設される。バロック声楽を除き、原則として副科中級を終了したものを対象とする。

■授業計画及び内容

「専攻外古楽」は、下記の8つの専修を含むが、教授能力に余力のある時のみ開設される。バロック声楽を除き、原則として副科中級を終了したものを対象とする。内容については、各楽器の副科実技の項を参照すること。チェンバロ、バロック声楽、バロックヴァイオリン、バロックチェロ、フォルテピアノ、フラウト・トラヴェルソ（バロックフルート）、ヴィオラ・ダ・ガンバ（上記の中から1人1年度につき1つの専修を選択すること）

■教材・参考書

■成績評価の方法

平常点および学年末の実技試験による。

■履修上の指示事項

履修に際しては、副科履修と同じ時期（前年度の11月ごろ）に履修届けをすること。また、4月初めに行われる面談日（副科と同じ日）に注意し、必ず参加すること。

■備考（オフィスアワー）

古楽研究室

専攻実技（古楽）Ⅰ

代表教員：大塚 直哉
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：8
ジャンル：専門科目（器楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

古楽演奏家としての演奏技術ならびに表現力の向上を目指す

■授業計画及び内容

授業の概要

- ・バロックヴァイオリン：1600年頃から1800年頃のヴァイオリンのレパートリーにおいて、その時代の様式に適した演奏を実践する。
- ・リコーダー：中世、ルネッサンス、バロック、現代に至るまで幅広いレパートリーを持つリコーダーの演奏法とその音楽を各時代の様式とともに学び、真のプロフェッショナルを育成する。
- ・チェンバロ：チェンバロの基礎的な演奏技術を身につけるとともに、歴史的な観点から、チェンバロ音楽の各時代各地域の音楽の再現に求められる様式感を身につける。

授業計画

- ・各教員が学生を一人ずつ担当し、個人レッスンを行う。
- ・学生一人一人の能力に応じ、適宜個々の学生にふさわしい課題を選択し、指導する。
- ・バロックヴァイオリン：前期と後期に1回ずつ勉強会を開く。テーマはそれぞれ約1ヶ月前に決定する。
- ・リコーダー：必修分野（イタリアバロック、ドイツバロック、フランスバロック、イタリア初期バロック、イタリアのディミニューションとリチェルカータ、J. van Eyck）及びオプション（中世の音楽、現代音楽その他）において、各分野から生徒が自主的に優先順位をつけ、レッスンを行う。前期及び後期に発表の機会を設ける。
- ・チェンバロ：学生各自が目標を設定し、その達成を目指してレッスンを行う。常に科内の公開とし、なるべく他の学生のレッスンを見学していることが望ましい。また、特定のテー

マを設けて前期と後期それぞれ2回程度の学生の研究発表会を行う。各回の日程およびテーマは、レッスン時に指示する。

■教材・参考書

・授業時に指示する。

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

専攻実技（古楽）Ⅱ

代表教員：大塚 直哉

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：8

ジャンル：専門科目（器楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

古楽演奏家としての演奏技術ならびに表現力の向上を目指す

■授業計画及び内容

授業の概要

・バロックヴァイオリン：1600年頃から1800年頃のヴァイオリンのレパートリーにおいて、その時代の様式に適した演奏を実践する。

・リコーダー：中世、ルネッサンス、バロック、現代に至るまで幅広いレパートリーを持つリコーダーの演奏法とその音楽を各時代の様式とともに学び、真のプロフェッショナルを育成する。

・チェンバロ：チェンバロの基礎的な演奏技術を身につけるとともに、歴史的な観点から、チェンバロ音楽の各時代各地域の音楽の再現に求められる様式感を身につける。

授業計画

・各教員が学生を一人ずつ担当し、個人レッスンを行う。

・学生一人一人の能力に応じ、適宜個々の学生にふさわしい課題を選択し、指導する。

・バロックヴァイオリン：前期と後期に1回ずつ勉強会を開く。テーマはそれぞれ約1ヶ月前に決定する。

・リコーダー：必修分野（イタリアバロック、ドイツバロック、フランスバロック、イタリア初期バロック、イタリアのディミニューションとリチェルカータ、J. van Eyck）及びオプション（中世の音楽、現代音楽その他）において、各分野から生徒が自主的に優先順位をつけ、レッスンを行う。前期及び後期に発表の機会を設ける。

・チェンバロ：学生各自が目標を設定し、その達成を目指してレッスンを行う。常に科内の公開とし、なるべく他の学生のレッスンを見学していることが望ましい。また、特定のテー

マを設けて前期と後期それぞれ2回程度の学生の研究発表会を行う。各回の日程およびテーマは、レッスン時に指示する。

■教材・参考書

・授業時に指示する。

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

専攻実技（古楽）Ⅲ

代表教員：大塚 直哉

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：8

ジャンル：専門科目（器楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

古楽演奏家としての演奏技術ならびに表現力の向上を目指す

■授業計画及び内容

授業の概要

- ・バロックヴァイオリン：1600年頃から1800年頃のヴァイオリンのレパートリーにおいて、その時代の様式に適した演奏を実践する。
- ・リコーダー：中世、ルネッサンス、バロック、現代に至るまで幅広いレパートリーを持つリコーダーの演奏法とその音楽を各時代の様式とともに学び、真のプロフェッショナルを育成する。
- ・チェンバロ：チェンバロの基礎的な演奏技術を身につけるとともに、歴史的な観点から、チェンバロ音楽の各時代各地域の音楽の再現に求められる様式感を身につける。

授業計画

- ・各教員が学生を一人ずつ担当し、個人レッスンを行う。
- ・学生一人一人の能力に応じ、適宜個々の学生にふさわしい課題を選択し、指導する。
- ・バロックヴァイオリン：前期と後期に1回ずつ勉強会を開く。テーマはそれぞれ約1ヶ月前に決定する。
- ・リコーダー：必修分野（イタリアバロック、ドイツバロック、フランスバロック、イタリア初期バロック、イタリアのディミニューションとリチェルカータ、J. van Eyck）及びオプション（中世の音楽、現代音楽その他）において、各分野から生徒が自主的に優先順位をつけ、レッスンを行う。前期及び後期に発表の機会を設ける。
- ・チェンバロ：学生各自が目標を設定し、その達成を目指してレッスンを行う。常に科内の公開とし、なるべく他の学生のレッスンを見学していることが望ましい。また、特定のテー

マを設けて前期と後期それぞれ2回程度の学生の研究発表会を行う。各回の日程およびテーマは、レッスン時に指示する。

■教材・参考書

・授業時に指示する。

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

専攻実技（古楽）Ⅳ

代表教員：大塚 直哉

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：8

ジャンル：専門科目（器楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

古楽演奏家としての演奏技術ならびに表現力の向上を目指す

■授業計画及び内容

授業の概要

- ・バロックヴァイオリン：1600年頃から1800年頃のヴァイオリンのレパートリーにおいて、その時代の様式に適した演奏を実践する。
- ・リコーダー：中世、ルネッサンス、バロック、現代に至るまで幅広いレパートリーを持つリコーダーの演奏法とその音楽を各時代の様式とともに学び、真のプロフェッショナルを育成する。
- ・チェンバロ：チェンバロの基礎的な演奏技術を身につけるとともに、歴史的な観点から、チェンバロ音楽の各時代各地域の音楽の再現に求められる様式感を身につける。

授業計画

- ・各教員が学生を一人ずつ担当し、個人レッスンを行う。
- ・学生一人一人の能力に応じ、適宜個々の学生にふさわしい課題を選択し、指導する。
- ・バロックヴァイオリン：前期と後期に1回ずつ勉強会を開く。テーマはそれぞれ約1ヶ月前に決定する。
- ・リコーダー：必修分野（イタリアバロック、ドイツバロック、フランスバロック、イタリア初期バロック、イタリアのディミニューションとリチェルカータ、J. van Eyck）及びオプション（中世の音楽、現代音楽その他）において、各分野から生徒が自主的に優先順位をつけ、レッスンを行う。前期及び後期に発表の機会を設ける。
- ・チェンバロ：学生各自が目標を設定し、その達成を目指してレッスンを行う。常に科内の公開とし、なるべく他の学生のレッスンを見学していることが望ましい。また、特定のテーマを設けて前期と後期

それぞれ2回程度の学生の研究発表会を行う。各回の日程およびテーマは、レッスン時に指示する。

■教材・参考書

・授業時に指示する。

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

専門実技（打楽器）Ⅱ-1

代表教員：藤本 隆文

曜日時限：その他

学 期：前期

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（器楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

打楽器全般の基本実技の習得およびその応用

■授業計画及び内容

様々な打楽器の奏法を学び、独奏や室内楽、オーケストラ等の現場で、柔軟に対応・演奏できるように指導する。

■教材・参考書

各教員より指示

■成績評価の方法

平常点・実技試験

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

専門実技（打楽器）Ⅱ-2

代表教員：藤本 隆文

曜日時限：その他

学 期：後期

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（器楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

打楽器全般の基本実技の習得およびその応用

■授業計画及び内容

様々な打楽器の奏法を学び、独奏や室内楽、オーケストラ等の現場で、柔軟に対応・演奏できるように指導する。

■教材・参考書

各教員より指示

■成績評価の方法

平常点・実技試験

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

専門実技（打楽器）Ⅲ-1

代表教員：藤本 隆文

曜日時限：その他

学 期：前期

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（器楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

打楽器全般の基本実技の習得およびその応用

■授業計画及び内容

様々な打楽器の奏法を学び、独奏や室内楽、オーケストラ等の現場で、柔軟に対応・演奏できるように指導する。

■教材・参考書

各教員より指示

■成績評価の方法

平常点・実技試験

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

専門実技（打楽器）Ⅲ-2

代表教員：藤本 隆文

曜日時限：その他

学 期：後期

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（器楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

打楽器全般の基本実技の習得およびその応用

■授業計画及び内容

様々な打楽器の奏法を学び、独奏や室内楽、オーケストラ等の現場で、柔軟に対応・演奏できるように指導する。

■教材・参考書

各教員より指示

■成績評価の方法

平常点・実技試験

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

専門実技（打楽器）Ⅳ-1

代表教員：藤本 隆文

曜日時限：その他

学 期：前期

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（器楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

打楽器全般の基本実技の習得およびその応用

■授業計画及び内容

様々な打楽器の奏法を学び、独奏や室内楽、オーケストラ等の現場で、柔軟に対応・演奏できるように指導する。

■教材・参考書

各教員より指示

■成績評価の方法

平常点・実技試験

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

専門実技（打楽器）IV-2

代表教員：藤本 隆文

曜日時限：その他

学 期：後期

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（器楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

打楽器全般の基本実技の習得およびその応用

■授業計画及び内容

様々な打楽器の奏法を学び、独奏や室内楽、オーケストラ等の現場で、柔軟に対応・演奏できるように指導する。

■教材・参考書

各教員より指示

■成績評価の方法

平常点・実技試験

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

専門実技（金管）I-1

代表教員：古賀 慎治

曜日時限：その他

学 期：前期

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（器楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

金管楽器の演奏法に関わる基礎、レパートリー等について幅広く学び、演奏能力を向上させる。

■授業計画及び内容

金管楽器の基礎奏法、さらにその展開をもとに作品等を幅広く学び見識を深める。ソロ・アンサンブル・オーケストラ等の表現方法を様々な視点から捉え、演奏に反映させる。

■教材・参考書

各教員の指示による。

■成績評価の方法

出席及び実技試験による。担当教員によっては、演奏法に対するレポートを提出させることもある。

■履修上の指示事項

資料収集に対する自主性、研究態度を重視する。週一回の実技レッスン授業に対して十分に準備しておくこと。

■備考（オフィスアワー）

専門実技（金管）Ⅰ-2

代表教員：古賀 慎治

曜日時限：その他

学 期：後期

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（器楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

金管楽器の演奏法に関わる基礎、レパートリー等について幅広く学び、演奏能力を向上させる。

■授業計画及び内容

金管楽器の基礎奏法、さらにその展開をもとに作品等を幅広く学び見識を深める。ソロ・アンサンブル・オーケストラ等の表現方法を様々な視点から捉え、演奏に反映させる。

■教材・参考書

各教員の指示による。

■成績評価の方法

出席及び実技試験による。担当教員によっては、演奏法に対するレポートを提出させることもある。

■履修上の指示事項

資料収集に対する自主性、研究態度を重視する。週一回の実技レッスン授業に対して十分に準備しておくこと。

■備考（オフィスアワー）

専門実技（金管）Ⅱ-1

代表教員：古賀 慎治

曜日時限：その他

学 期：前期

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（器楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

金管楽器の演奏法に関わる基礎、レパートリー等について幅広く学び、演奏能力を向上させる。

■授業計画及び内容

金管楽器の基礎奏法、さらにその展開をもとに作品等を幅広く学び見識を深める。ソロ・アンサンブル・オーケストラ等の表現方法を様々な視点から捉え、演奏に反映させる。

■教材・参考書

各教員の指示による。

■成績評価の方法

出席及び実技試験による。担当教員によっては、演奏法に対するレポートを提出させることもある。

■履修上の指示事項

資料収集に対する自主性、研究態度を重視する。週一回の実技レッスン授業に対して十分に準備しておくこと。

■備考（オフィスアワー）

専門実技（金管）Ⅱ-2

代表教員：古賀 慎治

曜日時限：その他

学 期：後期

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（器楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

金管楽器の演奏法に関わる基礎、レパートリー等について幅広く学び、演奏能力を向上させる。

■授業計画及び内容

金管楽器の基礎奏法、さらにその展開をもとに作品等を幅広く学び見識を深める。ソロ・アンサンブル・オーケストラ等の表現方法を様々な視点から捉え、演奏に反映させる。

■教材・参考書

各教員の指示による。

■成績評価の方法

出席及び実技試験による。担当教員によっては、演奏法に対するレポートを提出させることもある。

■履修上の指示事項

資料収集に対する自主性、研究態度を重視する。週一回の実技レッスン授業に対して十分に準備しておくこと。

■備考（オフィスアワー）

専門実技（金管）Ⅲ-1

代表教員：古賀 慎治

曜日時限：その他

学 期：前期

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（器楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

金管楽器の演奏法に関わる基礎、レパートリー等について幅広く学び、演奏能力を向上させる。

■授業計画及び内容

金管楽器の基礎奏法、さらにその展開をもとに作品等を幅広く学び見識を深める。ソロ・アンサンブル・オーケストラ等の表現方法を様々な視点から捉え、演奏に反映させる。

■教材・参考書

各教員の指示による。

■成績評価の方法

出席及び実技試験による。担当教員によっては、演奏法に対するレポートを提出させることもある。

■履修上の指示事項

資料収集に対する自主性、研究態度を重視する。週一回の実技レッスン授業に対して十分に準備しておくこと。

■備考（オフィスアワー）

専門実技（金管）Ⅲ-2

代表教員：古賀 慎治

曜日時限：その他

学 期：後期

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（器楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

金管楽器の演奏法に関わる基礎、レパートリー等について幅広く学び、演奏能力を向上させる。

■授業計画及び内容

金管楽器の基礎奏法、さらにその展開をもとに作品等を幅広く学び見識を深める。ソロ・アンサンブル・オーケストラ等の表現方法を様々な視点から捉え、演奏に反映させる。

■教材・参考書

各教員の指示による。

■成績評価の方法

出席及び実技試験による。担当教員によっては、演奏法に対するレポートを提出させることもある。

■履修上の指示事項

資料収集に対する自主性、研究態度を重視する。週一回の実技レッスン授業に対して十分に準備しておくこと。

■備考（オフィスアワー）

専門実技（金管）Ⅳ-1

代表教員：古賀 慎治

曜日時限：その他

学 期：前期

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（器楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

金管楽器の演奏法に関わる基礎、レパートリー等について幅広く学び、演奏能力を向上させる。

■授業計画及び内容

金管楽器の基礎奏法、さらにその展開をもとに作品等を幅広く学び見識を深める。ソロ・アンサンブル・オーケストラ等の表現方法を様々な視点から捉え、演奏に反映させる。

■教材・参考書

各教員の指示による。

■成績評価の方法

出席及び実技試験による。担当教員によっては、演奏法に対するレポートを提出させることもある。

■履修上の指示事項

資料収集に対する自主性、研究態度を重視する。週一回の実技レッスン授業に対して十分に準備しておくこと。

■備考（オフィスアワー）

専門実技（金管）IV-2

代表教員：古賀 慎治

曜日時限：その他

学 期：後期

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（器楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

金管楽器の演奏法に関わる基礎、レパートリー等について幅広く学び、演奏能力を向上させる。

■授業計画及び内容

金管楽器の基礎奏法、さらにその展開をもとに作品等を幅広く学び見識を深める。ソロ・アンサンブル・オーケストラ等の表現方法を様々な視点から捉え、演奏に反映させる。

■教材・参考書

各教員の指示による。

■成績評価の方法

出席及び実技試験による。担当教員によっては、演奏法に対するレポートを提出させることもある。

■履修上の指示事項

資料収集に対する自主性、研究態度を重視する。週一回の実技レッスン授業に対して十分に準備しておくこと。

■備考（オフィスアワー）

専門実技（弦楽）I-1

代表教員：清水 高師

曜日時限：その他

学 期：前期

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（器楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

演奏法、指導法を演奏テクニック、様式感、和声感などから多角的に検討しながらプロフェッショナルな演奏家、教師としての基礎を作る。また室内楽や合奏、オーケストラ授業とも連携してアンサンブル能力の充実をはかる。

■授業計画及び内容

教官と学生による週1校時の個人指導を基本とするが、適宜、少人数によるゼミナール形式により行われる場合がある。学年末の実技試験、学内演奏試験（3年次）、卒業試験（4年次）以外に各クラス単位での演奏実習などを通じて演奏体験を積む。また4年次には選抜された学生によるオーケストラとの協奏曲実習もある。

■教材・参考書

各教官が個別に指定する。

■成績評価の方法

前期は授業（レッスン）での平常点、後期は実技試験の成績により評価する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

専門実技（弦楽）Ⅰ-2

代表教員：清水 高師
曜日時限：その他
学 期：後期
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（器楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

前期は授業（レッスン）での平常点、後期は実技試験の成績により評価する。

■授業計画及び内容

教官と学生による週1校時の個人指導を基本とするが、適宜、少人数によるゼミナール形式により行われる場合がある。学年末の実技試験、学内演奏試験（3年次）、卒業試験（4年次）以外に各クラス単位での演奏実習などを通じて演奏体験を積む。また4年次には選抜された学生によるオーケストラとの協奏曲実習もある。

■教材・参考書

各教官が個別に指定する。

■成績評価の方法

前期は授業（レッスン）での平常点、後期は実技試験の成績により評価する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

専門実技（弦楽）Ⅱ-1

代表教員：清水 高師
曜日時限：その他
学 期：前期
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（器楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

前期は授業（レッスン）での平常点、後期は実技試験の成績により評価する。

■授業計画及び内容

教官と学生による週1校時の個人指導を基本とするが、適宜、少人数によるゼミナール形式により行われる場合がある。学年末の実技試験、学内演奏試験（3年次）、卒業試験（4年次）以外に各クラス単位での演奏実習などを通じて演奏体験を積む。また4年次には選抜された学生によるオーケストラとの協奏曲実習もある。

■教材・参考書

各教官が個別に指定する。

■成績評価の方法

前期は授業（レッスン）での平常点、後期は実技試験の成績により評価する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

専門実技（弦楽）Ⅱ-2

代表教員：清水 高師
曜日時限：その他
学 期：後期
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（器楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

前期は授業（レッスン）での平常点、後期は実技試験の成績により評価する。

■授業計画及び内容

教官と学生による週1校時の個人指導を基本とするが、適宜、少人数によるゼミナール形式により行われる場合がある。学年末の実技試験、学内演奏試験（3年次）、卒業試験（4年次）以外に各クラス単位での演奏実習などを通じて演奏体験を積む。また4年次には選抜された学生によるオーケストラとの協奏曲実習もある。

■教材・参考書

各教官が個別に指定する。

■成績評価の方法

前期は授業（レッスン）での平常点、後期は実技試験の成績により評価する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

専門実技（弦楽）Ⅲ-1

代表教員：清水 高師
曜日時限：その他
学 期：前期
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（器楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

前期は授業（レッスン）での平常点、後期は実技試験の成績により評価する。

■授業計画及び内容

教官と学生による週1校時の個人指導を基本とするが、適宜、少人数によるゼミナール形式により行われる場合がある。学年末の実技試験、学内演奏試験（3年次）、卒業試験（4年次）以外に各クラス単位での演奏実習などを通じて演奏体験を積む。また4年次には選抜された学生によるオーケストラとの協奏曲実習もある。

■教材・参考書

各教官が個別に指定する。

■成績評価の方法

前期は授業（レッスン）での平常点、後期は実技試験の成績により評価する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

専門実技（弦楽）Ⅲ-2

代表教員：清水 高師
曜日時限：その他
学 期：後期
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（器楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

前期は授業（レッスン）での平常点、後期は実技試験の成績により評価する。

■授業計画及び内容

教官と学生による週1校時の個人指導を基本とするが、適宜、少人数によるゼミナール形式により行われる場合がある。学年末の実技試験、学内演奏試験（3年次）、卒業試験（4年次）以外に各クラス単位での演奏実習などを通じて演奏体験を積む。また4年次には選抜された学生によるオーケストラとの協奏曲実習もある。

■教材・参考書

各教官が個別に指定する。

■成績評価の方法

前期は授業（レッスン）での平常点、後期は実技試験の成績により評価する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

専門実技（弦楽）Ⅳ-1

代表教員：清水 高師
曜日時限：その他
学 期：前期
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（器楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

前期は授業（レッスン）での平常点、後期は実技試験の成績により評価する。

■授業計画及び内容

教官と学生による週1校時の個人指導を基本とするが、適宜、少人数によるゼミナール形式により行われる場合がある。学年末の実技試験、学内演奏試験（3年次）、卒業試験（4年次）以外に各クラス単位での演奏実習などを通じて演奏体験を積む。また4年次には選抜された学生によるオーケストラとの協奏曲実習もある。

■教材・参考書

各教官が個別に指定する。

■成績評価の方法

前期は授業（レッスン）での平常点、後期は実技試験の成績により評価する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

専門実技（弦楽）Ⅳ-2

代表教員：清水 高師
曜日時限：その他
学 期：後期
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（器楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

前期は授業（レッスン）での平常点、後期は実技試験の成績により評価する。

■授業計画及び内容

教官と学生による週1校時の個人指導を基本とするが、適宜、少人数によるゼミナール形式により行われる場合がある。学年末の実技試験、学内演奏試験（3年次）、卒業試験（4年次）以外に各クラス単位での演奏実習などを通じて演奏体験を積む。また4年次には選抜された学生によるオーケストラとの協奏曲実習もある。

■教材・参考書

各教官が個別に指定する。

■成績評価の方法

前期は授業（レッスン）での平常点、後期は実技試験の成績により評価する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

専門実技（木管）Ⅲ

代表教員：高木 綾子
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：8
ジャンル：専門科目（器楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

木管奏法の基礎と応用

■授業計画及び内容

木管楽器の為に書かれた作品について幅広く学び、見識を深める。その表現の可能性を様々な視点から捉え、実際の演奏に反映させる。

■教材・参考書

各教員より指示

■成績評価の方法

実技試験

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

専門実技（木管）IV-1

代表教員：高木 綾子

曜日時限：その他

学 期：前期

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（器楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

木管奏法の基礎と応用

■授業計画及び内容

木管楽器の為に書かれた作品について幅広く学び、見識を深める。その表現の可能性を様々な視点から捉え、実際の演奏に反映させる。

■教材・参考書

各教員より指示

■成績評価の方法

実技試験

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

専門実技（木管）IV-2

代表教員：高木 綾子

曜日時限：その他

学 期：後期

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（器楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

木管奏法の基礎と応用

■授業計画及び内容

木管楽器の為に書かれた作品について幅広く学び、見識を深める。その表現の可能性を様々な視点から捉え、実際の演奏に反映させる。

■教材・参考書

各教員より指示

■成績評価の方法

実技試験

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

卒業演奏（B V n）

代表教員：若松 夏美

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（器楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

古楽科の学部卒業の際の演奏試験。

■授業計画及び内容

学部卒業に際して行われる演奏試験である。そのレパートリーなどについては、担当専攻実技教員と相談すること。

■教材・参考書

■成績評価の方法

演奏試験

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

古楽研究室

卒業演奏（C b）

代表教員：永島 義男

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（器楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

習得した専門技術の総合的実習

■授業計画及び内容

4年次、1月に奏楽堂にて10～20分以内の楽曲を演奏する。

一般公開される。

大学オケの定期演奏会、読売新人演奏会、桃華楽堂（宮中御前演奏会）、その他の新人演奏会の出演者の推薦試験を兼ねる。

■教材・参考書

各教員が個別に指定する

■成績評価の方法

演奏の成績により評価する

■履修上の指示事項

内規の注意事項を参照すること

■備考（オフィスアワー）

卒業演奏（Cemb）

代表教員：大塚 直哉

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（器楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

古楽科の学部卒業の際の演奏試験。

■授業計画及び内容

学部卒業に際して行われる演奏試験である。そのレパートリーなどについては、担当専攻実技教員と相談すること。

■教材・参考書

■成績評価の方法

演奏試験による。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

古楽研究室

卒業演奏（Hp）

代表教員：早川 りさこ

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（器楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

習得した専門技術の総合的実習

■授業計画及び内容

4年次、1月に奏楽堂にて10～20分以内の楽曲を演奏する。

一般公開される。

大学オケの定期演奏会、読売新人演奏会、桃華楽堂（宮中御前演奏会）、その他の新人演奏会の出演者の推薦試験を兼ねる。

■教材・参考書

各教員が個別に指定する

■成績評価の方法

演奏の成績により評価する

■履修上の指示事項

内規の注意事項を参照すること

■備考（オフィスアワー）

卒業演奏（O r g）

代表教員：廣江 理枝
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（器楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

学部における研究の総括

■授業計画及び内容

学部における研究成果を公開演奏により発表する。

■教材・参考書

■成績評価の方法

実技試験として評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

卒業演奏（P f）

代表教員：東 誠三
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（器楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

ピアノ公開演奏およびレパートリー試験

■授業計画及び内容

4年次に行われる試験で、奏楽堂で行われる学外公開の演奏会と学内公開のレパートリー試験の2回。

■教材・参考書

適宜 各担当教官の指示による。

■成績評価の方法

演奏内容の評価

■履修上の指示事項

詳細についてはピアノ科の掲示板を参照のこと。

■備考（オフィスアワー）

卒業演奏（R e c）

代表教員：山岡 重治

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（器楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

古楽科の学部卒業の際の演奏試験。

■授業計画及び内容

学部卒業に際して行われる演奏試験である。そのレパートリーなどについては、担当専攻実技教員と相談すること。

■教材・参考書

■成績評価の方法

演奏試験による。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

古楽研究室

卒業演奏（V a）

代表教員：川崎 和憲

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（器楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

習得した専門技術の総合的実習

■授業計画及び内容

4年次、1月に奏楽堂にて10～20分以内の楽曲を演奏する。

一般公開される。

大学オケの定期演奏会、読売新人演奏会、桃華楽堂（宮中御前演奏会）、その他の新人演奏会の出演者の推薦試験を兼ねる。

■教材・参考書

各教員が個別に指定する

■成績評価の方法

演奏の成績により評価する

■履修上の指示事項

内規の注意事項を参照すること

■備考（オフィスアワー）

卒業演奏（Vc）

代表教員：河野 文昭
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（器楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

習得した専門技術の総合的実習

■授業計画及び内容

4年次、1月に奏楽堂にて10～20分以内の楽曲を演奏する。
一般公開される。
大学オケの定期演奏会、読売新人演奏会、桃華楽堂（宮中御前演奏会）、その他の新人演奏会の出演者の推薦試験を兼ねる。

■教材・参考書

各教員が個別に指定する

■成績評価の方法

演奏の成績により評価する

■履修上の指示事項

内規の注意事項を参照すること

■備考（オフィスアワー）

卒業演奏（Vn）

代表教員：清水 高師
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（器楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

習得した専門技術の総合的実習

■授業計画及び内容

4年次、1月に奏楽堂にて10～20分以内の楽曲を演奏する。
一般公開される。
大学オケの定期演奏会、読売新人演奏会、桃華楽堂（宮中御前演奏会）、その他の新人演奏会の出演者の推薦試験を兼ねる。

■教材・参考書

各教員が個別に指定する

■成績評価の方法

演奏の成績により評価する

■履修上の指示事項

内規の注意事項を参照すること

■備考（オフィスアワー）

卒業演奏（管打楽）

代表教員：山本 正治

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（器楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

個人実技レッスン授業の成果を発表する。

■授業計画及び内容

各自の研究テーマに基づいた作品を教授・研究しさまざまな演奏法を理解する。再現芸術として音楽表現方をあらゆる角度から検証し、表現技術の向上を目指す。

■教材・参考書

各楽器の指導教員と相談して決めること。

■成績評価の方法

授業態度及び演奏評価

■履修上の指示事項

4年生の必修科目。無伴奏またはピアノ伴奏による。あらかじめ十分に準備をしておくこと。

■備考（オフィスアワー）

伴奏Ⅰ－1

代表教員：平島 誠也

曜日時限：水曜2限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（器楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

歌曲伴奏の在り方について

■授業計画及び内容

アンサンブルの基本を声楽の伴奏という形で学ぶ。歌手の呼吸とフレージングの可能性を常に意識した、流れのある伴奏を目指す。指によるレガートの徹底と細かいペダリングをもとに、美しい響きと曲の内容に相応しいピアノパートの在り方を探す。
前期：日本歌曲、イタリア古典歌曲
後期：シューベルトの有節歌曲。

■教材・参考書

プリント配布を基本とするが、開講後必要に応じて楽譜の指示をする。

■成績評価の方法

出席率及び授業における演奏の質

■履修上の指示事項

ピアノが弾けるとは伴奏もできるというのが一般的評価だということを意識し、日常の伴奏に対する疑問を積極的に解決する場とする。

■備考（オフィスアワー）

9時～17時

伴奏Ⅰ－２

代表教員：平島 誠也

曜日時限：水曜 1限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（器楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

歌曲伴奏法

■授業計画及び内容

1年次で学んだことの応用発展である。

テキストの朗読を経験し、深い文学的理解からピアノパートを考える。

より創造的な響きの追及に努め、緻密なアンサンブルを目指す。

前期：モーツァルト、ベートーヴェン、ロッシニーなどの歌曲から。

後期：シューベルトのバラードを中心に。

■教材・参考書

プリント配布を基本とするが、開講後必要に応じて楽譜の指示をする。

■成績評価の方法

出席率及び授業における演奏の質

■履修上の指示事項

初見で弾けることより、想像力のあるピアノ伴奏に価値を置く。

伴奏も予習、復習あつてのレパートリーだということを認識する。

■備考（オフィスアワー）

9時～17時

伴奏Ⅱ

代表教員：平島 誠也

曜日時限：木曜 5限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（器楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

歌曲伴奏法

■授業計画及び内容

1, 2年次に学んだ作曲家にヴォルフ、R・シュトラウス、さらに近代イタリア歌曲を含めた歌曲群の中から希望する曲を選び、レパートリーになるまで時間をかけて取り組む。

作曲家と作品のスタイルの違いに留意し、その個性を最大限に生かす伴奏を試みる。

■教材・参考書

開講後最も信頼できる楽譜を各々の希望曲に応じて指示する。

またはプリントによる提供。

■成績評価の方法

演奏におけるアンサンブル力と自発的表現。

■履修上の指示事項

目的意識を持って曲を選び、自分のソロピアノにも生かすような深い音楽的内容表現を目指す。

他人の演奏に興味を持ち、幅広い歌曲知識につなげる。

■備考（オフィスアワー）

9時～17時

ピアノ演奏理論・楽曲分析

代表教員：東 誠三
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（器楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

ピアノ実技レッスン

■授業計画及び内容

4年間の個人実技レッスンを通して、ピアノ諸作品を研究しピアノ音楽への理解を深め、それを演奏表現するための高度な技術を習得する。実技試験は2年次末（学内公開）と4年次の卒業試験（学外および学内公開）の2回。他に3年次に参加できるコンチェルトオーディションを実施、合格者には芸大フィルとの共演の機会を与える。また、3年次の学内演奏会は奏楽堂で行われ、学外公開とし、広い空間での演奏体験を積む。

■教材・参考書

適宜 各担当教員の指示による。

■成績評価の方法

1年次 平常点および演奏実習の結果 3年次 平常点 学内演奏会の評価 2年次 年度末試験 4年次 卒業公開演奏、およびレパートリー試験の評価

■履修上の指示事項

「ピアノ実技」と「演奏理論・楽曲分析」は実技レッスンの中で並行して行われる。半期ごとの単位修得は認めない。試験の詳細についてはピアノ科前の掲示板を参照のこと。

■備考（オフィスアワー）

9:00～17:00

ピアノ実技

代表教員：東 誠三
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：8
ジャンル：専門科目（器楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

ピアノ実技レッスン

■授業計画及び内容

4年間の個人実技レッスンを通してピアノ諸作品を研究し、ピアノ音楽への理解を深め、それを演奏表現するための高度な技術を習得する。実技試験は2年次末（学内公開）と4年次の卒業試験（学外および学内公開）の2回。他に3年次に参加できるコンチェルトオーディションを実施、合格者には芸大フィルとの共演の機会を与える。また、3年次の学内演奏会は奏楽堂で行われ、学外公開とし、広い空間での演奏体験を積む。

■教材・参考書

適宜 各担当教員の指示による。

■成績評価の方法

1年次 平常点および演奏実習の結果 3年次 平常点 学内演奏会の評価 2年次 年度末試験 4年次 卒業公開演奏、およびレパートリー試験の評価

■履修上の指示事項

「ピアノ実技」と「演奏理論・楽曲分析」は実技レッスンの中で並行して行われる。半期ごとの単位修得は認めない。試験の詳細についてはピアノ科前の掲示板を参照のこと。

■備考（オフィスアワー）

9:00～17:00

ピアノデュオ

代表教員：角野 裕
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（器楽）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

ピアノ 4手用および2台のピアノのための作品の演奏。ピアノデュオとして密度の濃いアンサンブルの習得を目標とする。

■授業計画及び内容

2人でデュオを組み、実技レッスン形式の授業を行う。前期・後期 各1回 発表演奏会を行う。

■教材・参考書

取り上げる作品については、面談の上決定する。

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

ピアノ科3・4年生を対象。1人での履修および1人で複数のデュオを掛け持つことはできない。この授業は1年間のみ履修できる。

■備考（オフィスアワー）

ピアノ伴奏法

代表教員：平島 誠也
曜日時限：
学 期：集中講義
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（器楽）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

伴奏法

■授業計画及び内容

主に歌曲伴奏を題材に、詩と音楽の関係を考え、それに相応しい音楽を奏でることができるように、タッチ、ブレス、フレージング、ペダリング等細やかに意識しながら豊かな音楽表現を習得する。必要に応じて器楽伴奏も取り上げる。

■教材・参考書

開講時に指示する

■成績評価の方法

出席、演奏

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

專門科目（指揮）

指揮学内演奏

代表教員：尾高 忠明
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（指揮）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

実際のオーケストラを前に、4年間（学部）で指揮実技（レッスン）等で、学習、実習してきたものの、確認、評価。

■授業計画及び内容

芸大フィルハーモニアの演奏による、リハーサル及び演奏会

■教材・参考書

（特になし）

■成績評価の方法

リハーサル及び演奏の評価による。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

指揮楽曲分析

代表教員：尾高 忠明
曜日時限：その他
学 期：前期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（指揮）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

管弦楽曲の分析を通して、演奏解釈を深める。

■授業計画及び内容

実技レッスン、学生オーケストラ、芸大フィルハーモニアのリハーサル（授業）を通して和声・リズム・テクスチャ等スコアリーディングによる分析をする。

■教材・参考書

オーケストラスコア 他

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

オーケストラのリハーサルには可能な限り立ち会うこと。

■備考（オフィスアワー）

学生オーケストラ、芸大フィルハーモニアのリハーサル後など。

指揮楽曲分析

代表教員：尾高 忠明

曜日時限：その他

学 期：後期

単 位 数：1

ジャンル：専門科目（指揮）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

管弦楽曲の分析を通して、演奏解釈を深める。

■授業計画及び内容

実技レッスン、学生オーケストラ、芸大フィルハーモニアのリハーサル（授業）を通して和声・リズム・テクスチュア等スコアリーディングによる分析をする。

■教材・参考書

オーケストラスコア 他

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

オーケストラのリハーサルには可能な限り立ち会うこと。

■備考（オフィスアワー）

学生オーケストラ、芸大フィルハーモニアのリハーサル後など。

指揮実技

代表教員：尾高 忠明

曜日時限：その他

学 期：前期

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（指揮）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

管弦楽、合唱、弦楽・管楽合奏、オペラ等の指揮法において、各自の演奏解釈が明確に反映されるような指揮法のテクニック、及びリハーサルテクニックなどレッスンを通じて実習する。

■授業計画及び内容

・平常のレッスンは二台ピアノによる実習。・学年末試験は、管弦楽研究部によるオーケストラ実習とする。

■教材・参考書

オーケストラスコア 他

■成績評価の方法

平常点及び試験

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

指揮実技

代表教員：尾高 忠明

曜日時限：その他

学 期：後期

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（指揮）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

管弦楽、合唱、弦楽・管楽合奏、オペラ等の指揮法において、各自の演奏解釈が明確に反映されるような指揮法のテクニック、及びリハーサルテクニックなどレッスンを通じて実習する。

■授業計画及び内容

・平常のレッスンは二台ピアノによる実習。・学年末試験は、管弦楽研究部によるオーケストラ実習とする。

■教材・参考書

オーケストラスコア 他

■成績評価の方法

平常点及び試験

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

指揮実技（含演奏理論・楽曲分析）Ⅰ

-1

代表教員：尾高 忠明

曜日時限：その他

学 期：前期

単 位 数：7

ジャンル：専門科目（指揮）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

管弦楽、合唱、弦楽・管楽合奏、オペラ等の指揮法において、各自の演奏解釈が明確に反映されるような指揮法のテクニック、及びリハーサルテクニックなどレッスンを通じて実習する。

■授業計画及び内容

管弦楽、合唱、弦楽・管楽合奏、オペラ等の指揮法において、各自の演奏解釈が明確に反映されるような指揮法のテクニック、及びリハーサルテクニックなどレッスンを通じて実習する。

■教材・参考書

・平常のレッスンは二台ピアノによる実習。・学年末試験は、管弦楽研究部によるオーケストラ実習とする。

■成績評価の方法

オーケストラスコア 他

■履修上の指示事項

平常点及び試験

■備考（オフィスアワー）

指揮実技（含演奏理論・楽曲分析）Ⅰ

-2

代表教員：尾高 忠明

曜日時限：その他

学 期：後期

単 位 数：7

ジャンル：専門科目（指揮）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

管弦楽、合唱、弦楽・管楽合奏、オペラ等の指揮法において、各自の演奏解釈が明確に反映されるような指揮法のテクニック、及びリハーサルテクニックなどレッスンを通じて実習する。

■授業計画及び内容

・平常のレッスンは二台ピアノによる実習。・学年末試験は、管弦楽研究部によるオーケストラ実習とする。

■教材・参考書

オーケストラスコア 他

■成績評価の方法

平常点及び試験

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

指揮卒業演奏

代表教員：尾高 忠明

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（指揮）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

実際のオーケストラを前に、指揮実技（レッスン）等で、学習、実習してきたものの確認、評価。

■授業計画及び内容

芸大フィルハーモニアの演奏による、リハーサル及び演奏会

■教材・参考書

（特になし）

■成績評価の方法

リハーサル及び演奏の評価による。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

指揮法概論 A

代表教員：鈴木 織衛

曜日時限：

学 期：集中講義

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（指揮）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

指揮法の基礎と表現法の習得

■授業計画及び内容

基本的な技術をマスターするとともに、実際に曲を取り上げて指揮をすることを試みる。オーケストラの指揮法を中心に学び、簡単な楽曲を指揮してみる。授業内で、春の祭典などの拍子が変わるものも学ぶ。

■教材・参考書

授業時に指示する。

■成績評価の方法

試験による。

■履修上の指示事項

各自、指揮棒を用意すること。

■備考（オフィスアワー）

指揮法概論 B

代表教員：三河 正典

曜日時限：

学 期：集中講義

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（指揮）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

指揮法の基礎とその実践

■授業計画及び内容

基礎的な指揮法の指導は指揮の技術に偏りがちであるが、本講ではテクニックはあくまで表現の手段であるという観点から、さまざまな楽曲の指揮で直面する問題をできるだけ具体的にとりあげ、いくつかの解釈の可能性にも触れながら研究していく。これまで、ベートーヴェンの交響曲、シュトラウスのワルツ、「展覧会の絵」、バルトークのピアノ曲などを扱った。履修者には演奏家として特に音楽表現上の積極性がのぞまれる。ピアノを指揮する実技指導を基本とする。

■教材・参考書

授業中に指示する。

■成績評価の方法

試験による。

■履修上の指示事項

各自、指定されたスコアおよび指揮棒を用意すること。

■備考（オフィスアワー）

指揮理論・演奏理論

代表教員：尾高 忠明

曜日時限：その他

学 期：前期

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（指揮）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

指揮者として必要な知識を、資料・図版等を用いながら学習する。

■授業計画及び内容

実技レッスン、学生オーケストラ、芸大フィルハーモニアのリハーサル（授業）を通して以下のことを学習する。

- ・指揮法の歴史の変遷
- ・オーケストラの演奏様式の歴史の変遷
- ・オーケストラ各楽器の演奏法（ボウイング、フィンガリング、フレージング）

その他

■教材・参考書

その都度指示する。

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

オーケストラのリハーサルには可能な限り立会うこと。

■備考（オフィスアワー）

学生オーケストラや芸大フィルハーモニアのリハーサル後など。

指揮理論・演奏理論

代表教員：尾高 忠明

曜日時限：その他

学 期：後期

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（指揮）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

指揮者として必要な知識を、資料・図版等を用いながら学習する。

■授業計画及び内容

実技レッスン、学生オーケストラ、芸大フィルハーモニアのリハーサル（授業）を通して以下のことを学習する。

- ・指揮法の歴史の変遷
- ・オーケストラの演奏様式の歴史の変遷
- ・オーケストラ各楽器の演奏法（ボウイング、フィンガリング、フレージング）

その他

■教材・参考書

その都度指示する。

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

オーケストラのリハーサルには可能な限り立会うこと。

■備考（オフィスアワー）

学生オーケストラや芸大フィルハーモニアのリハーサル後など。

專門科目（邦楽）

唄実技（山田流）Ⅱ

代表教員：萩岡 松韻
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

山田流箏曲における唄の演奏技術の習得

■授業計画及び内容

発生及び曲の解釈も含めて歌唱法を学ぶ。1年次～4年次までの専攻学生レッスン。

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

出席状況、平常点及び年度末の試験による。（1年次のみ前期にも試験を課す）

■履修上の指示事項

1年次は前期・後期各2単位。2年次以降は通年で4単位。（平成20年度以降の入学生のみ）

■備考（オフィスアワー）

唄実技（山田流）Ⅲ

代表教員：萩岡 松韻
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

山田流箏曲における唄の演奏技術の習得

■授業計画及び内容

発生及び曲の解釈も含めて歌唱法を学ぶ。1年次～4年次までの専攻学生レッスン。

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

出席状況、平常点及び年度末の試験による。（1年次のみ前期にも試験を課す）

■履修上の指示事項

1年次は前期・後期各2単位。2年次以降は通年で4単位。（平成20年度以降の入学生のみ）

■備考（オフィスアワー）

唄実技（山田流）Ⅳ

代表教員：萩岡 松韻

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

山田流箏曲における唄の演奏技術の習得

■授業計画及び内容

発声及び曲の解釈も含めて歌唱法を学ぶ。1年次～4年次までの専攻学生レッスン。

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

出席状況、平常点及び年度末の試験による。（1年次のみ前期にも試験を課す）

■履修上の指示事項

1年次は前期・後期各2単位。2年次以降は通年で4単位。（平成20年度以降の入学生のみ）

■備考（オフィスアワー）

歌物実技Ⅰ

代表教員：増山 誠一

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

雅楽歌物唱法の演奏技術の習得

■授業計画及び内容

雅楽歌物の発声・音型等の唱法を厳密な指導により技術習得

■教材・参考書

明治撰定譜ほか

■成績評価の方法

試験及び平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

歌物実技Ⅱ

代表教員：増山 誠一
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

雅楽歌物唱法の演奏技術の習得

■授業計画及び内容

雅楽歌物の発声・音型等の唱法を厳密な指導により
技術習得

■教材・参考書

明治撰定譜ほか

■成績評価の方法

試験及び平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

歌物実技Ⅲ

代表教員：増山 誠一
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

各人の専門楽器（笙・箏・龍笛のうち一つ）の唱
歌と演奏法を習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで、個人指導による技術習得

■教材・参考書

明治撰定譜ほか

■成績評価の方法

試験及び平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

歌物実技Ⅳ

代表教員：増山 誠一
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

雅楽歌物唱法の演奏技術の習得

■授業計画及び内容

雅楽歌物の発声・音型等の唱法を厳密な指導により
技術習得

■教材・参考書

明治撰定譜ほか

■成績評価の方法

試験及び平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

雅楽合奏実技Ⅰ

代表教員：新谷 恵
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

唐楽管絃の構造理解と合奏技術の習得

■授業計画及び内容

雅楽合奏を総合的に習得する

■教材・参考書

明治撰定譜ほか

■成績評価の方法

試験及び平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

雅楽合奏実技Ⅱ

代表教員：新谷 恵
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

唐楽管絃の構造理解と合奏技術の習得

■授業計画及び内容

雅楽合奏を総合的に習得する

■教材・参考書

明治撰定譜ほか

■成績評価の方法

試験及び平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

雅楽合奏実技Ⅲ

代表教員：新谷 恵
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

唐楽管絃の構造理解と合奏技術の習得

■授業計画及び内容

雅楽合奏を総合的に習得する

■教材・参考書

明治撰定譜ほか

■成績評価の方法

試験及び平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

雅楽合奏実技Ⅳ

代表教員：新谷 恵
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

唐楽管絃の構造理解と合奏技術の習得

■授業計画及び内容

雅楽合奏を総合的に習得する

■教材・参考書

明治撰定譜ほか

■成績評価の方法

試験及び平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

雅楽実技（笙）Ⅱ

代表教員：増田 千斐
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：8
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

各人の専門楽器（笙・箏・龍笛のうち一つ）の唱歌と演奏法を習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで、個人指導による技術習得

■教材・参考書

明治撰定譜ほか

■成績評価の方法

試験及び平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

雅楽実技（笙）Ⅲ

代表教員：増田 千斐
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：8
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

各人の専門楽器（笙・箏・龍笛のうち一つ）の唱歌と演奏法を習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで、個人指導による技術習得

■教材・参考書

明治撰定譜ほか

■成績評価の方法

試験及び平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

雅楽実技（笙）Ⅳ

代表教員：増田 千斐
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：8
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

各人の専門楽器（笙・箏・龍笛のうち一つ）の唱歌と演奏法を習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで、個人指導による技術習得

■教材・参考書

明治撰定譜ほか

■成績評価の方法

試験及び平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

雅楽実技（箏箏）Ⅱ

代表教員：新谷 恵
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：8
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

各人の専門楽器（笙・箏箏・龍笛のうち一つ）の唱歌と演奏法を習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで、個人指導による技術習得

■教材・参考書

明治撰定譜ほか

■成績評価の方法

試験及び平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

雅楽実技（箏箏）Ⅲ

代表教員：新谷 恵
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：8
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

各人の専門楽器（笙・箏箏・龍笛のうち一つ）の唱歌と演奏法を習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで、個人指導による技術習得

■教材・参考書

明治撰定譜ほか

■成績評価の方法

試験及び平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

雅楽実技（箏箏）Ⅳ

代表教員：新谷 恵
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：8
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

各人の専門楽器（笙・箏箏・龍笛のうち一つ）の唱歌と演奏法を習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで、個人指導による技術習得

■教材・参考書

明治撰定譜ほか

■成績評価の方法

試験及び平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

雅楽実技（龍笛）Ⅱ

代表教員：上 研司
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：8
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

各人の専門楽器（笙・箏箏・龍笛のうち一つ）の唱歌と演奏法を習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで、個人指導による技術習得

■教材・参考書

明治撰定譜ほか

■成績評価の方法

試験及び平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

雅楽実技（龍笛）Ⅲ

代表教員：上 研司
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：8
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

各人の専門楽器（笙・箏・龍笛のうち一つ）の唱歌と演奏法を習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで、個人指導による技術習得

■教材・参考書

明治撰定譜ほか

■成績評価の方法

試験及び平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

雅楽実技（龍笛）Ⅳ

代表教員：上 研司
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：8
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

各人の専門楽器（笙・箏・龍笛のうち一つ）の唱歌と演奏法を習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで、個人指導による技術習得

■教材・参考書

明治撰定譜ほか

■成績評価の方法

試験及び平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

学内演奏（雅楽）

代表教員：増田 千斐
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

習得した専門技術の総合的実習

■授業計画及び内容

4年次後期に行う、公開演奏会形式の試験

■教材・参考書

■成績評価の方法

演奏会での成績

■履修上の指示事項

曲目の選定にあたっては、指導教員と十分に相談すること。

■備考（オフィスアワー）

学内演奏（清元）

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

習得した専門技術の総合的実習

■授業計画及び内容

4年次後期に行う、学外からの助演者を認めた公開演奏会形式の試験

* 助演者の選定にあたっては指導教員との十分な相談の上、決定すること。

■教材・参考書

■成績評価の方法

演奏会での成績

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度以降に入学の者は 2 単位。平成 19 年度以前に入学の者は 4 単位とする。

学内演奏（清元三味線）

代表教員：小島 直文
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

習得した専門技術の総合的実習

■授業計画及び内容

4年次後期に行う、学外からの助演者を認めた公開演奏会形式の試験

* 助演者の選定にあたっては指導教員との十分な相談の上、決定すること。

■教材・参考書

■成績評価の方法

演奏会での成績

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度以降に入学の者は 2 単位。平成 19 年度以前に入学の者は 4 単位とする。

学内演奏（清元三味線）

代表教員：小島 直文
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

習得した専門技術の総合的実習

■授業計画及び内容

4年次後期に行う、学外からの助演者を認めた公開演奏会形式の試験

* 助演者の選定にあたっては指導教員との十分な相談の上、決定すること。

■教材・参考書

■成績評価の方法

演奏会での成績

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度以降に入学の者は 2 単位。平成 19 年度以前に入学の者は 4 単位とする。

学内演奏（尺八（琴古流））

代表教員：徳丸 裕二

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

習得した専門技術の総合的実習

■授業計画及び内容

公開による演奏会形式の試験

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

舞台での演奏による

■履修上の指示事項

曲目の選定にあたっては、指導教員と十分に相談すること

■備考（オフィスアワー）

学内演奏（尺八（都山流））

代表教員：藤原 圭太

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

習得した専門技術の総合的実習

■授業計画及び内容

公開による演奏会形式の試験

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

舞台での演奏による

■履修上の指示事項

曲目の選定にあたっては、指導教員と十分にそうだんすること

■備考（オフィスアワー）

学内演奏（箏曲（生田流））

代表教員：吉川 さとみ

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

演奏経験を積む。独奏の他、箏・十七絃・三味線との合奏を行うこともある。

■授業計画及び内容

4年次の10月～11月頃に公開で行われる。
伴奏が必要な場合には、原則として助手・大学院生が行う。

■教材・参考書

大日本家庭音楽会発行楽譜
邦楽社発行楽譜

■成績評価の方法

演奏の成果

■履修上の指示事項

選曲は教員の指定による。

■備考（オフィスアワー）

メールで問い合わせること。

学内演奏（常磐津）

代表教員：味見 純

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

習得した専門技術の総合的実習

■授業計画及び内容

4年次後期に行う、学外からの助演者を認めた公開演奏会形式の試験

* 助演者の選定にあたっては指導教員との十分な相談の上、決定すること。

■教材・参考書

■成績評価の方法

演奏会での成績

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成20年度以降に入学の者は2単位。平成19年度以前に入学の者は4単位とする。

学内演奏（常磐津三味線）

代表教員：小島 直文
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

習得した専門技術の総合的実習

■授業計画及び内容

4年次後期に行う、学外からの助演者を認めた公開演奏会形式の試験

* 助演者の選定にあたっては指導教員との十分な相談の上、決定すること。

■教材・参考書

■成績評価の方法

演奏会での成績

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度以降に入学の者は 2 単位。平成 19 年度以前に入学の者は 4 単位とする。

学内演奏（常磐津三味線）

代表教員：小島 直文
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

習得した専門技術の総合的実習

■授業計画及び内容

4年次後期に行う、学外からの助演者を認めた公開演奏会形式の試験

* 助演者の選定にあたっては指導教員との十分な相談の上、決定すること。

■教材・参考書

■成績評価の方法

演奏会での成績

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度以降に入学の者は 2 単位。平成 19 年度以前に入学の者は 4 単位とする。

学内演奏（長唄）

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

習得した専門技術の総合的実習

■授業計画及び内容

4年次後期に行う、学外からの助演者を認めた公開演奏会形式の試験

* 助演者の選定にあたっては指導教員との十分な相談の上、決定すること。

■教材・参考書

■成績評価の方法

演奏会での成績

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度以降に入学の者は 2 単位。平成 19 年度以前に入学の者は 4 単位とする。

学内演奏（長唄三味線）

代表教員：小島 直文
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

習得した専門技術の総合的実習

■授業計画及び内容

4年次後期に行う、学外からの助演者を認めた公開演奏会形式の試験

* 助演者の選定にあたっては指導教員との十分な相談の上、決定すること。

■教材・参考書

■成績評価の方法

演奏会での成績

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度以降に入学の者は 2 単位。平成 19 年度以前に入学の者は 4 単位とする。

学内演奏（長唄三味線）

代表教員：小島 直文

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

習得した専門技術の総合的実習

■授業計画及び内容

4年次後期に行う、学外からの助演者を認めた公開演奏会形式の試験

* 助演者の選定にあたっては指導教員との十分な相談の上、決定すること。

■教材・参考書

■成績評価の方法

演奏会での成績

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度以降に入学の者は 2 単位。平成 19 年度以前に入学の者は 4 単位とする。

学内演奏（能楽）

代表教員：関根 知孝

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

能楽の公開演奏。

■授業計画及び内容

仕舞など。

■教材・参考書

■成績評価の方法

演奏会における実演の採点。

■履修上の指示事項

4 年次の履修を原則とする。

■備考（オフィスアワー）

学内演奏（能楽）

代表教員：武田 孝史
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

習得した専門技術の総合的実習

■授業計画及び内容

舞台での演奏にとる試験

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

演能・演奏を評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成20年度入学の者は2単位。平成19年度以前に入学の者は4単位とする。

学内演奏（能楽囃子（大鼓））

代表教員：佃 良勝
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

習得した専門技術の総合的実習

■授業計画及び内容

舞台での演奏による試験

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

演奏を評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成20年度入学の者は2単位。平成19年度以前の入学の者は4単位。

学内演奏（能楽囃子（小鼓））

代表教員：曾和 正博

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

習得した専門技術の総合的実習

■授業計画及び内容

舞台での演奏による試験

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

演奏を評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成20年度入学の者は2単位。平成19年度以前に入学の者は4単位とする。

学内演奏（能楽囃子（太鼓））

代表教員：観世 元則

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

習得した専門技術の総合的実習

■授業計画及び内容

舞台での演奏による試験

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

演奏を評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成20年度入学の者は2単位。平成19年度以前に入学の者は4単位とする。

学内演奏（能楽囃子（笛））

代表教員：藤田 次郎

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

習得した専門技術の総合的実習

■授業計画及び内容

舞台での演奏による試験

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

演奏を評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成20年度入学の者は2単位。平成19年度以前に入学の者は4単位とする。

学内演奏（邦楽囃子（大鼓））

代表教員：盧 慶順

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

習得した高度な専門技術の総合的実習

■授業計画及び内容

教員が許可する助演者と舞台形式で演奏する公開試験（4年次）

■教材・参考書

平常点を加味しつつ公開試験を重視する評価法

■成績評価の方法

曲目の選定にあたっては、指導教員と十分に相談すること。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

技術面と精神面の訓育を重視

学内演奏（邦楽囃子（小鼓））

代表教員：盧 慶順
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

習得した高度な専門技術の総合的実習

■授業計画及び内容

教員が許可する助演者と舞台形式で演奏する公開試験（4年次）

■教材・参考書

平常点を加味しつつ公開試験を重視する評価法

■成績評価の方法

曲目の選定にあたっては、指導教員と十分に相談すること。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

技術面と精神面の訓育を重視

歌唱（生田流）Ⅲ-1

代表教員：吉川 さとみ
曜日時限：その他
学 期：前期
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

生田流箏曲の伝統的な歌唱法。

■授業計画及び内容

箏・三味線の実技レッスンとともに習得する。

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

歌唱（生田流）Ⅲ-2

代表教員：吉川 さとみ

曜日時限：その他

学 期：後期

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

生田流箏曲の伝統的な歌唱法。

■授業計画及び内容

箏・三味線の実技レッスンとともに習得する。

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

歌唱（生田流）Ⅳ-1

代表教員：吉川 さとみ

曜日時限：その他

学 期：前期

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

生田流箏曲の伝統的な歌唱法。

■授業計画及び内容

箏・三味線の実技レッスンとともに習得する。

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

歌唱（生田流）Ⅳ-2

代表教員：吉川 さとみ

曜日時限：その他

学 期：後期

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

生田流箏曲の伝統的な歌唱法。

■授業計画及び内容

箏・三味線の実技レッスンとともに習得する。

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

狂言小舞（日本舞踊）

代表教員：野村 武司

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

3年次で必修で狂言の小舞の実技を行う。

■授業計画及び内容

狂言小舞の基本的な型の実践を通して身体表現を学ぶ。

■教材・参考書

授業で指示

■成績評価の方法

平常点及び出席を重視

■履修上の指示事項

白足袋着用

■備考（オフィスアワー）

現代邦楽囃子演習Ⅰ

代表教員：盧 慶順
曜日時限：火曜4限
学 期：通年
単 位 数：3
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

現代邦楽の指導

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

笛専攻生は現代邦楽(笛)の担当教員の指導を受けること

■備考（オフィスアワー）

現代邦楽囃子演習Ⅲ

代表教員：盧 慶順
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：3
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

現代邦楽の指導

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

笛の専攻生は、現代邦楽(笛)の担当教員の指導を受けること

■備考（オフィスアワー）

現代邦楽囃子演習Ⅳ

代表教員：盧 慶順
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：3
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

現代邦楽の指導

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

笛専攻生は、現代邦楽(笛)の担当教員の指導を受けること

■備考（オフィスアワー）

古典文献研究法

代表教員：杉本 和寛
曜日時限：月曜3限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

日本の古典文献の読解と、くずし字解読能力の習得

■授業計画及び内容

我々が日本の古典作品として現在の活字で読んでいるものの多くは、草書・行書体で書かれている。そうした原典の形で古典文献を読解することを通して、日本文化のあり方や、古典作品そのものに対する理解を深めてもらいたい。

毎時間、主として江戸時代の版本（出版された本）や写本（手書きされた本）のコピーを配布し、説明を加えながら読解してもらう。内容としては、古典芸能の歴史に関するものや、筋書きを理解しやすい小説類、あるいは、江戸時代に起きた事件を書き留めたものなどを予定している。

■教材・参考書

随時プリントを配布する。

■成績評価の方法

前・後期ともに主として文字の解読に関わる試験を行い、出席状況と併せて評価を行う。

■履修上の指示事項

本授業は邦楽・楽理対象の「国語（古文）」に相当。

■備考（オフィスアワー）

月曜日Ⅱ時限目

箏歌歌唱法

代表教員：萩岡 松韻
曜日時限：水曜4限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

山田流箏曲にとって重要である箏歌の歌唱法及び表現法を学ぶ。

■授業計画及び内容

山田流箏曲は他のジャンルと異なり、弾き歌いが原則です。そのため、うたう姿勢に無理があり、正しい発声がしづらくなります。この講座では、演奏をしながら如何に発声し、声を響かせ、届かせるかを、口の開け方、声の出し方を皆様と研究して行きます。

■教材・参考書

『歌暦』楽譜、その他、適宜指示する。

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

対象は山田流箏曲専攻学生とする。

■備考（オフィスアワー）

箏実技（山田流）Ⅱ

代表教員：萩岡 松韻
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

山田流箏曲における箏の演奏技術の習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次までの専攻学生個人レッスン

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

出席状況、年度末の試験による。（1年次のみ前期にも試験を課す）

■履修上の指示事項

1年次は前期・後期各2単位。2年次以降は通年で4単位。（平成20年度入学生以降）

■備考（オフィスアワー）

平成19年度以前に入学の者は通年で8単位。

箏実技（山田流）Ⅲ

代表教員：萩岡 松韻

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

山田流箏曲における箏の演奏技術の習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次までの専攻学生個人レッスン

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

出席状況、年度末の試験による。（1年次のみ前期にも試験を課す）

■履修上の指示事項

1年次は前期・後期各2単位。2年次以降は通年で4単位。（平成20年度入学生以降）

■備考（オフィスアワー）

平成19年度以前に入学の者は通年で8単位。

箏実技（山田流）Ⅳ

代表教員：萩岡 松韻

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

山田流箏曲における箏の演奏技術の習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次までの専攻学生個人レッスン

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

出席状況、年度末の試験による。（1年次のみ前期にも試験を課す）

■履修上の指示事項

1年次は前期・後期各2単位。2年次以降は通年で4単位。（平成20年度入学生以降）

■備考（オフィスアワー）

平成19年度以前に入学の者は通年で8単位。

小舞実技（能楽）Ⅱ

代表教員：野村 武司
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

和泉流狂言現行曲中の小舞の基本技術習得

■授業計画及び内容

個人指導による技術習得

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

試験と平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度入学の者は前期・後期各 2 単位。平成 19 年度以前に入学の者は 1 年次は前期・後期各 3 単位。2 年次以降は通年で 6 単位。

小舞実技（能楽）Ⅲ

代表教員：野村 武司
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

和泉流狂言現行曲中の小舞の基本技術習得

■授業計画及び内容

個人指導による技術習得

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

試験と平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度入学の者は前期・後期各 2 単位。平成 19 年度以前に入学の者は 1 年次は前期・後期各 3 単位。2 年次以降は通年で 6 単位。

小舞実技（能楽）Ⅳ

代表教員：野村 武司
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

和泉流狂言現行曲中の小舞の基本技術習得

■授業計画及び内容

個人指導による技術習得

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

試験と平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度入学の者は前期・後期各 2 単位。平成 19 年度以前に入学の者は 1 年次は前期・後期各 3 単位。2 年次以降は通年で 6 単位。

三絃実技（生田流）Ⅲ-1

代表教員：吉川 さとみ
曜日時限：その他
学 期：前期
単 位 数：3
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

1 年次：古典曲、宮城曲の基礎的な弾き方、歌い方の技術を習得する。

2 年次：古典曲、宮城曲のより高度な技術を習得する。

3 年次：1・2 年で習得した基礎を基に、豊かな演奏力を養う。

4 年次：演奏家としての資質を養い、多方面にわたって経験を積む。

■授業計画及び内容

1 年次：《六段の調》《夕顔》《末の契》《遠砧》《都踊》《軒の雫》など。および合奏曲。

2 年次：《四季の眺》《茶音頭》《けしの花》《磯千鳥》《楫枕》《唐砧》《比良》など。および合奏曲。

3 年次：《石橋》《吾妻獅子》《吼?》《御山獅子》《高麗の春》《四季の柳》など。および合奏曲。

4 年次：《笹の露》《残月》《尾上の松》など。および合奏曲。

■教材・参考書

宮城道雄著 大日本家庭音楽会発行楽譜

安藤政輝編著 大日本家庭音楽会発行楽譜

宮城道雄著 邦楽社発行楽譜

安藤政輝著『生田流の箏曲』（講談社）

■成績評価の方法

平常点・出席、及び試験の結果

■履修上の指示事項

選曲は教員の指示による。

■備考（オフィスアワー）

メール：[メールアドレスは G-net シラバスに記載]で問い合わせること。

三絃実技（生田流）Ⅲ-2

代表教員：吉川 さとみ

曜日時限：その他

学 期：後期

単 位 数：3

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

1 年次：古典曲、宮城曲の基礎的な弾き方、歌い方の技術を習得する。

2 年次：古典曲、宮城曲のより高度な技術を習得する。

3 年次：1・2 年で習得した基礎を基に、豊かな演奏力を養う。

4 年次：演奏家としての資質を養い、多方面にわたって経験を積む。

■授業計画及び内容

1 年次：《六段の調》《夕顔》《末の契》《遠砧》《都踊》《軒の雫》など。および合奏曲。

2 年次：《四季の眺》《茶音頭》《けしの花》《磯千鳥》《楫枕》《唐砧》《比良》など。および合奏曲。

3 年次：《石橋》《吾妻獅子》《吼?》《御山獅子》《高麗の春》《四季の柳》など。および合奏曲。

4 年次：《笹の露》《残月》《尾上の松》など。および合奏曲。

■教材・参考書

宮城道雄著 大日本家庭音楽会発行楽譜

安藤政輝編著 大日本家庭音楽会発行楽譜

宮城道雄著 邦楽社発行楽譜

安藤政輝著『生田流の箏曲』（講談社）

■成績評価の方法

平常点・出席、及び試験の結果

■履修上の指示事項

選曲は教員の指示による。

■備考（オフィスアワー）

メール：[メールアドレスは G-net シラバスに記載]で問い合わせること。

三絃実技（生田流）Ⅳ-1

代表教員：吉川 さとみ

曜日時限：その他

学 期：前期

単 位 数：3

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

1 年次：古典曲、宮城曲の基礎的な弾き方、歌い方の技術を習得する。

2 年次：古典曲、宮城曲のより高度な技術を習得する。

3 年次：1・2 年で習得した基礎を基に、豊かな演奏力を養う。

4 年次：演奏家としての資質を養い、多方面にわたって経験を積む。

■授業計画及び内容

1 年次：《六段の調》《夕顔》《末の契》《遠砧》《都踊》《軒の雫》など。および合奏曲。

2 年次：《四季の眺》《茶音頭》《けしの花》《磯千鳥》《楫枕》《唐砧》《比良》など。および合奏曲。

3 年次：《石橋》《吾妻獅子》《吼?》《御山獅子》《高麗の春》《四季の柳》など。および合奏曲。

4 年次：《笹の露》《残月》《尾上の松》など。および合奏曲。

■教材・参考書

宮城道雄著 大日本家庭音楽会発行楽譜

安藤政輝編著 大日本家庭音楽会発行楽譜

宮城道雄著 邦楽社発行楽譜

安藤政輝著『生田流の箏曲』（講談社）

■成績評価の方法

平常点・出席、及び試験の結果

■履修上の指示事項

選曲は教員の指示による。

■備考（オフィスアワー）

メール：[メールアドレスは G-net シラバスに記載]で問い合わせること。

三絃実技（生田流）Ⅳ-2

代表教員：吉川 さとみ

曜日時限：その他

学 期：後期

単 位 数：3

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

1年次：古典曲、宮城曲の基礎的な弾き方、歌い方の技術を習得する。

2年次：古典曲、宮城曲のより高度な技術を習得する。

3年次：1・2年で習得した基礎を基に、豊かな演奏力を養う。

4年次：演奏家としての資質を養い、多方面にわたって経験を積む。

■授業計画及び内容

1年次：《六段の調》《夕顔》《末の契》《遠砧》《都踊》《軒の雫》など。および合奏曲。

2年次：《四季の眺》《茶音頭》《けしの花》《磯千鳥》《楫枕》《唐砧》《比良》など。および合奏曲。

3年次：《石橋》《吾妻獅子》《吼?》《御山獅子》《高麗の春》《四季の柳》など。および合奏曲。

4年次：《笹の露》《残月》《尾上の松》など。および合奏曲。

■教材・参考書

宮城道雄著 大日本家庭音楽会発行楽譜

安藤政輝編著 大日本家庭音楽会発行楽譜

宮城道雄著 邦楽社発行楽譜

安藤政輝著『生田流の箏曲』（講談社）

■成績評価の方法

平常点・出席、及び試験の結果

■履修上の指示事項

選曲は教員の指示による。

■備考（オフィスアワー）

メール：[メールアドレスはG-net シラバスに記載]で問い合わせること。

三絃実技（山田流）Ⅱ

代表教員：萩岡 松韻

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

山田流箏曲における三絃の演奏技術の習得

■授業計画及び内容

三絃の奏法、及び箏との合奏表現を学ぶ 1年次～4年次までの専攻学生個人レッスン

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

出席状況、年度末の試験による。（1年次のみ前期にも試験を課す）

■履修上の指示事項

1年次は前期・後期各2単位。2年次以降は通年で4単位。（平成20年度以降入学生）

■備考（オフィスアワー）

平成19年度以前に入学の者は通年で6単位。

三絃実技（山田流）Ⅲ

代表教員：萩岡 松韻
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

山田流箏曲における三絃の演奏技術の習得

■授業計画及び内容

三絃の奏法、及び箏との合奏表現を学ぶ 1年次～4年次までの専攻学生個人レッスン

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

出席状況、年度末の試験による。（1年次のみ前期にも試験を課す）

■履修上の指示事項

1年次は前期・後期各2単位。2年次以降は通年で4単位。（平成20年度以降入学生）

■備考（オフィスアワー）

平成19年度以前に入学の者は通年で6単位。

三絃実技（山田流）Ⅳ

代表教員：萩岡 松韻
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

山田流箏曲における三絃の演奏技術の習得

■授業計画及び内容

三絃の奏法、及び箏との合奏表現を学ぶ 1年次～4年次までの専攻学生個人レッスン

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

出席状況、年度末の試験による。（1年次のみ前期にも試験を課す）

■履修上の指示事項

1年次は前期・後期各2単位。2年次以降は通年で4単位。（平成20年度以降入学生）

■備考（オフィスアワー）

平成19年度以前に入学の者は通年で6単位。

地拍子（観世流）Ⅰ

代表教員：関根 知孝

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

演能に不可欠の囃子謡（地拍子）の理論と実技の習得

■授業計画及び内容

個人授業

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

平成21年度以降入学の者は、通年2単位なので、ここを取ること。

平成19年度以前に入学の者は、通年1単位なので、ここを取らない。

■備考（オフィスアワー）

地拍子（観世流）Ⅱ

代表教員：関根 知孝

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

演能に不可欠の囃子謡（地拍子）の理論と実技の習得

■授業計画及び内容

個人授業

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

平成21年度以降入学の者は、通年2単位なので、ここを取ること。

平成19年度以前に入学の者は、通年1単位なので、ここを取らない。

■備考（オフィスアワー）

地拍子（観世流）Ⅲ

代表教員：関根 知孝

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

演能に不可欠の囃子謡（地拍子）の理論と実技の習得

■授業計画及び内容

個人授業

■教材・参考書

[教材・参考書] 最終更新日：2010-02-25

特定しない

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

平成21年度以降入学の者は、通年2単位なので、ここを取ることに。

平成19年度以前に入学の者は、通年1単位なので、ここを取らない。

■備考（オフィスアワー）

地拍子（観世流）Ⅳ

代表教員：関根 知孝

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

演能に不可欠の囃子謡（地拍子）の理論と実技の習得

■授業計画及び内容

個人授業

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成21年度以降入学の者は、通年2単位なので、ここを取ることに。

平成19年度以前に入学の者は、通年1単位なので、ここを取らない。

地拍子（宝生流）Ⅰ

代表教員：武田 孝史

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

演能に不可欠な囃子謡（地拍子）の理論と実技の修得

■授業計画及び内容

個人指導による授業

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成20年度入学の者より2単位

地拍子（宝生流）Ⅱ

代表教員：武田 孝史

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

演能に不可欠な囃子謡（地拍子）の理論と実技の修得

■授業計画及び内容

個人指導による授業

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成20年度入学の者より2単位

地拍子（宝生流）Ⅲ

代表教員：武田 孝史

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

演能に不可欠な囃子謡（地拍子）の理論と実技の修得

■授業計画及び内容

個人指導による授業

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成20年度入学の者より2単位

地拍子（宝生流）Ⅳ

代表教員：武田 孝史

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

演能に不可欠な囃子謡（地拍子）の理論と実技の修得

■授業計画及び内容

個人指導による授業

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成20年度入学の者より2単位

仕舞実技（日本舞踊）

代表教員：関根 知孝
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

2年次で必修の仕舞実技を行う。

■授業計画及び内容

仕舞の基本的な型の実践を通じて身体表現を学ぶ。

■教材・参考書

授業で指示

■成績評価の方法

平常点及び出席を重視

■履修上の指示事項

白足袋着用。男子は袴着用。

■備考（オフィスアワー）

平成23年度は開講しない。

仕舞実技（日本舞踊）

代表教員：武田 孝史
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

2年次で必修の仕舞実技を行う。

■授業計画及び内容

仕舞の基本的な型の実践を通じて身体表現を学ぶ。

■教材・参考書

授業で指示

■成績評価の方法

平常点及び出席を重視

■履修上の指示事項

白足袋着用

■備考（オフィスアワー）

仕舞実技（能楽）Ⅱ

代表教員：関根 知孝

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

観世流の現行曲（仕舞）の基本技術の習得

■授業計画及び内容

個人指導による技術習得

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

試験と平常点

■履修上の指示事項

1年次は前期・後期各2単位。2年次以降は通年で4単位。

■備考（オフィスアワー）

仕舞実技（能楽）Ⅱ

代表教員：武田 孝史

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

宝生流現行曲（仕舞）の基本技術の習得

■授業計画及び内容

個人指導による技術習得

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

試験及び平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成20年度入学の者は前期・後期各2単位。平成19年度以前に入学の者は1年次は前期・後期各3単位。2年次以降は通年で6単位。

仕舞実技（能楽）Ⅲ

代表教員：武田 孝史

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

室生流現行曲（仕舞）の基本技術の習得

■授業計画及び内容

個人指導による技術習得

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

試験及び平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度入学の者は前期・後期各 2 単位。平成 19 年度以前に入学の者は 1 年次は前期・後期各 3 単位。2 年次以降は通年で 6 単位。

仕舞実技（能楽）Ⅲ

代表教員：関根 知孝

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

観世流の現行曲（仕舞）の基本技術の習得

■授業計画及び内容

個人指導による技術習得

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

試験と平常点

■履修上の指示事項

1 年次は前期・後期各 2 単位。2 年次以降は通年で 4 単位。

■備考（オフィスアワー）

仕舞実技（能楽）Ⅳ

代表教員：武田 孝史

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

宝生流現行曲（仕舞）の基本技術の習得

■授業計画及び内容

個人指導による技術習得

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

試験及び平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度入学の者は前期・後期各 2 単位。平成 19 年度以前に入学の者は 1 年次は前期・後期各 3 単位。2 年次以降は通年で 6 単位。

仕舞実技（能楽）Ⅳ

代表教員：関根 知孝

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

観世流の現行曲（仕舞）の基本技術の習得

■授業計画及び内容

個人指導による技術習得

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

試験と平常点

■履修上の指示事項

1 年次は前期・後期各 2 単位。2 年次以降は通年で 4 単位。

■備考（オフィスアワー）

尺八アンサンブル演習

代表教員：徳丸 裕二
曜日時限：水曜 2 限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

尺八のみによる合奏に必要な能力の習得

■授業計画及び内容

杵屋正邦、諸井誠、牧野由多可、山本邦山などの尺八重奏現代作品を教材に、アンサンブルに必要な能力を身につけるとともに、作品を理解する能力を養う。

■教材・参考書

その都度指示する。

■成績評価の方法

出席日数及び学習態度とその成果による。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

尺八関連実技（三絃実技（生田流））

代表教員：吉川 さとみ
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

生田流三絃実技の基礎的技術の習得

■授業計画及び内容

尺八専攻 2 年次生を対象とし、個人レッスンを基本とする。

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

出席及び試験による。

■履修上の指示事項

楽器は学校所有の物を使用。撥は別途購入する。流派の選択は各自行うこと。

■備考（オフィスアワー）

尺八関連実技（箏曲実技（生田流））

代表教員：吉川 さとみ

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

生田流箏曲実技の基礎的技術の習得。

■授業計画及び内容

尺八専攻 1 年次生を対象とし、個人レッスンを基本とする。

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

出席及び試験による。

■履修上の指示事項

楽器は学校所有の物を使用。爪は別途購入する。流派の選択は各自行うこと。

■備考（オフィスアワー）

三味線作曲法

代表教員：鈴木 淳雄

曜日時限：火曜 4 限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の形式による楽曲の作曲に必要な基礎知識の講義と実習。

■授業計画及び内容

- ①様々なテーマを設け、実際にフレーズを作曲してみる。
- ②作曲に必要なプロセスを講義。

■教材・参考書

授業の都度指示するか、必要な資料の配布を行う。

■成績評価の方法

授業の出席、授業内における作曲発表。

■履修上の指示事項

積極的出席が必要である。

■備考（オフィスアワー）

主専攻（清元）Ⅱ

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：8
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

清元の基本技術習得及び曲の理解
素浄瑠璃と舞踊地方の場合の演奏方法の違い等の理解

■授業計画及び内容

個人指導による技術習得

■教材・参考書

清元浄瑠璃本・清元三味線譜

■成績評価の方法

前期・後期、試験及び出席を考慮しながらの評価

■履修上の指示事項

前期・後期各4単位（1年次のみ）、2・3・4年次は通年で8単位を履修すること。

■備考（オフィスアワー）

主専攻（清元）Ⅲ

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：8
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

清元の基本技術習得及び曲の理解
素浄瑠璃と舞踊地方の場合の演奏方法の違い等の理解

■授業計画及び内容

個人指導による技術習得

■教材・参考書

清元浄瑠璃本・清元三味線譜

■成績評価の方法

前期・後期、試験及び出席を考慮しながらの評価

■履修上の指示事項

前期・後期各4単位（1年次のみ）、2・3・4年次は通年で8単位を履修すること。

■備考（オフィスアワー）

主専攻（清元）Ⅳ

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：8
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

清元の基本技術習得及び曲の理解
素浄瑠璃と舞踊地方の場合の演奏方法の違い等の理解

■授業計画及び内容

個人指導による技術習得

■教材・参考書

清元浄瑠璃本・清元三味線譜

■成績評価の方法

前期・後期、試験及び出席を考慮しながらの評価

■履修上の指示事項

前期・後期各4単位（1年次のみ）、2・3・4年次は通年で8単位を履修すること。

■備考（オフィスアワー）

主専攻（清元三味線）Ⅱ

代表教員：小島 直文
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：8
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

清元三味線の基本技術習得及び曲の理解
素浄瑠璃と舞踊地方の場合の演奏方法の違い等の理解

■授業計画及び内容

個人指導による技術習得

■教材・参考書

清元浄瑠璃本・清元三味線譜

■成績評価の方法

前期・後期、試験及び出席を考慮しながらの評価

■履修上の指示事項

前期・後期各4単位（1年次のみ）、2・3・4年次は通年で8単位を履修すること。

■備考（オフィスアワー）

主専攻（清元三味線）Ⅲ

代表教員：小島 直文

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：8

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

清元三味線の基本技術習得及び曲の理解
素浄瑠璃と舞踊地方の場合の演奏方法の違い等の理解

■授業計画及び内容

個人指導による技術習得

■教材・参考書

清元浄瑠璃本・清元三味線譜

■成績評価の方法

前期・後期、試験及び出席を考慮しながらの評価

■履修上の指示事項

前期・後期各4単位（1年次のみ）、2・3・4年次は通年で8単位を履修すること。

■備考（オフィスアワー）

主専攻（清元三味線）Ⅳ

代表教員：小島 直文

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：8

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

清元三味線の基本技術習得及び曲の理解
素浄瑠璃と舞踊地方の場合の演奏方法の違い等の理解

■授業計画及び内容

個人指導による技術習得

■教材・参考書

清元浄瑠璃本・清元三味線譜

■成績評価の方法

前期・後期、試験及び出席を考慮しながらの評価

■履修上の指示事項

前期・後期各4単位（1年次のみ）、2・3・4年次は通年で8単位を履修すること。

■備考（オフィスアワー）

主専攻（常磐津）Ⅱ

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：8
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

常磐津の基本技術の習得及び曲の理解
素浄瑠璃と舞踊地方の場合の演奏方法の違い等の理解

■授業計画及び内容

個人指導による技術履修

■教材・参考書

個人指導による技術

■成績評価の方法

前期・後期、試験及び出席を考慮しながらの評価

■履修上の指示事項

前期・後期各4単位（1年次のみ）、2・3・4年次は通年で8単位を履修すること。

■備考（オフィスアワー）

主専攻（常磐津）Ⅲ

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：8
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

常磐津の基本技術の習得及び曲の理解
素浄瑠璃と舞踊地方の場合の演奏方法の違い等の理解

■授業計画及び内容

個人指導による技術履修

■教材・参考書

個人指導による技術

■成績評価の方法

前期・後期、試験及び出席を考慮しながらの評価

■履修上の指示事項

前期・後期各4単位（1年次のみ）、2・3・4年次は通年で8単位を履修すること。

■備考（オフィスアワー）

主専攻（常磐津）Ⅳ

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：8
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

常磐津の基本技術の習得及び曲の理解
素浄瑠璃と舞踊地方の場合の演奏方法の違い等の理解

■授業計画及び内容

個人指導による技術履修

■教材・参考書

個人指導による技術

■成績評価の方法

前期・後期、試験及び出席を考慮しながらの評価

■履修上の指示事項

前期・後期各4単位（1年次のみ）、2・3・4年次は通年で8単位を履修すること。

■備考（オフィスアワー）

主専攻（常磐津三味線）Ⅱ

代表教員：小島 直文
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：8
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

常磐津三味線の基本技術習得及び曲の理解
素浄瑠璃と舞踊地方の場合の演奏方法の違い等の理解

■授業計画及び内容

個人指導による技術習得

■教材・参考書

常磐津浄瑠璃本・常磐津三味線譜

■成績評価の方法

前期・後期、試験及び出席を考慮しながらの評価

■履修上の指示事項

前期・後期各4単位（1年次のみ）、2・3・4年次は通年で8単位を履修すること。

■備考（オフィスアワー）

主専攻（常磐津三味線）Ⅲ

代表教員：小島 直文

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：8

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

常磐津三味線の基本技術習得及び曲の理解
素浄瑠璃と舞踊地方の場合の演奏方法の違い等の理解

■授業計画及び内容

個人指導による技術習得

■教材・参考書

常磐津浄瑠璃本・常磐津三味線譜

■成績評価の方法

前期・後期、試験及び出席を考慮しながらの評価

■履修上の指示事項

前期・後期各4単位（1年次のみ）、2・3・4年次は通年で8単位を履修すること。

■備考（オフィスアワー）

主専攻（常磐津三味線）Ⅳ

代表教員：小島 直文

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：8

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

常磐津三味線の基本技術習得及び曲の理解
素浄瑠璃と舞踊地方の場合の演奏方法の違い等の理解

■授業計画及び内容

個人指導による技術習得

■教材・参考書

常磐津浄瑠璃本・常磐津三味線譜

■成績評価の方法

前期・後期、試験及び出席を考慮しながらの評価

■履修上の指示事項

前期・後期各4単位（1年次のみ）、2・3・4年次は通年で8単位を履修すること。

■備考（オフィスアワー）

主専攻（長唄）Ⅱ

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：8
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

長唄の習得（基本技術・演奏技術・曲の理解）

■授業計画及び内容

年次毎に習得曲を定め、各学年の目的に添っての個人指導

- 1年次：基本技術の習得及び演習
- 2年次：演奏技術の習得及び演習
- 3年次：曲の解析に基づいた演奏技術の習得及び演習
- 4年次：技術・曲の解析・演出等、総合的な演奏形態の演習及び 発表

■教材・参考書

長唄譜本（研精会譜、文化譜、青柳譜等）

■成績評価の方法

前期・後期、試験及び出席を考慮しながらの評価

■履修上の指示事項

前期・後期各4単位（1年次のみ）、2・3・4年次は通年で8単位を履修すること。

■備考（オフィスアワー）

主専攻（長唄）Ⅲ

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：8
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

長唄の習得（基本技術・演奏技術・曲の理解）

■授業計画及び内容

年次毎に習得曲を定め、各学年の目的に添っての個人指導

- 1年次：基本技術の習得及び演習
- 2年次：演奏技術の習得及び演習
- 3年次：曲の解析に基づいた演奏技術の習得及び演習
- 4年次：技術・曲の解析・演出等、総合的な演奏形態の演習及び 発表

■教材・参考書

長唄譜本（研精会譜、文化譜、青柳譜等）

■成績評価の方法

前期・後期、試験及び出席を考慮しながらの評価

■履修上の指示事項

前期・後期各4単位（1年次のみ）、2・3・4年次は通年で8単位を履修すること。

■備考（オフィスアワー）

主専攻（長唄）Ⅳ

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：8
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

長唄の習得（基本技術・演奏技術・曲の理解）

■授業計画及び内容

年次毎に習得曲を定め、各学年の目的に添っての個人指導

- 1年次：基本技術の習得及び演習
- 2年次：演奏技術の習得及び演習
- 3年次：曲の解析に基づいた演奏技術の習得及び演習
- 4年次：技術・曲の解析・演出等、総合的な演奏形態の演習及び 発表

■教材・参考書

長唄譜本（研精会譜、文化譜、青柳譜等）

■成績評価の方法

前期・後期、試験及び出席を考慮しながらの評価

■履修上の指示事項

前期・後期各4単位（1年次のみ）、2・3・4年次は通年で8単位を履修すること。

■備考（オフィスアワー）

主専攻（長唄三味線）Ⅱ

代表教員：小島 直文
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：8
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

長唄三味線の習得（基本技術・演奏技術・曲の理解）

■授業計画及び内容

年次毎に習得曲を定め、各学年の目的に添っての個人指導

- 1年次：基本技術の習得及び演習
- 2年次：演奏技術の習得及び演習
- 3年次：曲の解析に基づいた演奏技術の習得及び演習
- 4年次：技術・曲の解析・演出等、総合的な演奏形態の演習及び発表

■教材・参考書

長唄譜本（研精会譜、文化譜、青柳譜等）

■成績評価の方法

前期・後期、試験及び出席を考慮しながらの評価

■履修上の指示事項

前期・後期各4単位（1年次のみ）、2・3・4年次は通年で8単位を履修すること。

■備考（オフィスアワー）

主専攻（長唄三味線）Ⅲ

代表教員：小島 直文

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：8

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

長唄三味線の習得（基本技術・演奏技術・曲の理解）

■授業計画及び内容

年次毎に習得曲を定め、各学年の目的に添っての個人指導

1年次：基本技術の習得及び演習

2年次：演奏技術の習得及び演習

3年次：曲の解析に基づいた演奏技術の習得及び演習

4年次：技術・曲の解析・演出等、総合的な演奏形態の演習及び発表

■教材・参考書

長唄譜本（研精会譜、文化譜、青柳譜等）

■成績評価の方法

前期・後期、試験及び出席を考慮しながらの評価

■履修上の指示事項

前期・後期各4単位（1年次のみ）、2・3・4年次は通年で8単位を履修すること。

■備考（オフィスアワー）

主専攻（長唄三味線）Ⅳ

代表教員：小島 直文

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：8

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

長唄三味線の習得（基本技術・演奏技術・曲の理解）

■授業計画及び内容

年次毎に習得曲を定め、各学年の目的に添っての個人指導

1年次：基本技術の習得及び演習

2年次：演奏技術の習得及び演習

3年次：曲の解析に基づいた演奏技術の習得及び演習

4年次：技術・曲の解析・演出等、総合的な演奏形態の演習及び発表

■教材・参考書

長唄譜本（研精会譜、文化譜、青柳譜等）

■成績評価の方法

前期・後期、試験及び出席を考慮しながらの評価

■履修上の指示事項

前期・後期各4単位（1年次のみ）、2・3・4年次は通年で8単位を履修すること。

■備考（オフィスアワー）

主専攻（日本舞踊）Ⅱ

代表教員：露木 雅弥

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：8

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

歌舞伎舞踊を稽古事として家庭教育に取り入れ独自に発達した日本舞踊は、現在様々な流派に分かれ展開をしている。流派に関係なく存在すべき歌舞伎舞踊の本質的技法を修得、また日本舞踊独自の分野である素踊り、創作へと技術を展開させる。

■授業計画及び内容

1. 1、2年度に於いては、基本技法の確認と修得。同時に作品内容などへの理解力を深める。2. 3年度においては、女形、立ち役の典型的な作品を題材に、両役、またその他の様々な役柄を正確に踊り分ける技術を習得する。小曲などに振付をする。3. 4年度に於いては、いわゆる大曲、上級とされる作品を題材として、舞台上で踊るという事、即ち衣裳、かつらなどをつけて踊ることの技術面を特に重点的に修得する。4. 邦楽以外の音楽で創作作品を創る。

■教材・参考書

特に定めない。その都度、必要に応じて使用。

■成績評価の方法

実技試験、および作品発表などによる。

■履修上の指示事項

1年次は前期・後期各4単位、2年次以上は通年で8単位。出席日数を重視する。

■備考（オフィスアワー）

主専攻（日本舞踊）Ⅲ

代表教員：露木 雅弥

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：8

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

歌舞伎舞踊を稽古事として家庭教育に取り入れ独自に発達した日本舞踊は、現在様々な流派に分かれ展開をしている。流派に関係なく存在すべき歌舞伎舞踊の本質的技法を修得、また日本舞踊独自の分野である素踊り、創作へと技術を展開させる。

■授業計画及び内容

1. 1、2年度に於いては、基本技法の確認と修得。同時に作品内容などへの理解力を深める。2. 3年度においては、女形、立ち役の典型的な作品を題材に、両役、またその他の様々な役柄を正確に踊り分ける技術を習得する。小曲などに振付をする。3. 4年度に於いては、いわゆる大曲、上級とされる作品を題材として、舞台上で踊るという事、即ち衣裳、かつらなどをつけて踊ることの技術面を特に重点的に修得する。4. 邦楽以外の音楽で創作作品を創る。

■教材・参考書

特に定めない。その都度、必要に応じて使用。

■成績評価の方法

実技試験、および作品発表などによる。

■履修上の指示事項

1年次は前期・後期各4単位、2年次以上は通年で8単位。出席日数を重視する。

■備考（オフィスアワー）

主専攻（日本舞踊）Ⅳ

代表教員：露木 雅弥

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：8

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

歌舞伎舞踊を稽古事として家庭教育に取り入れ独自に発達した日本舞踊は、現在様々な流派に分かれ展開をしている。流派に関係なく存在すべき歌舞伎舞踊の本質的技法を修得、また日本舞踊独自の分野である素踊り、創作へと技術を展開させる。

■授業計画及び内容

1. 1、2年度に於いては、基本技法の確認と修得。同時に作品内容などへの理解力を深める。2. 3年度においては、女形、立ち役の典型的な作品を題材に、両役、またその他の様々な役柄を正確に踊り分ける技術を習得する。小曲などに振付をする。3. 4年度に於いては、いわゆる大曲、上級とされる作品を題材として、舞台上で踊るという事、即ち衣裳、かつらなどをつけて踊ることの技術面を特に重点的に修得する。4. 邦楽以外の音楽で創作作品を創る。

■教材・参考書

特に定めない。その都度、必要に応じて使用。

■成績評価の方法

実技試験、および作品発表などによる。

■履修上の指示事項

1年次は前期・後期各4単位、2年次以上は通年で8単位。出席日数を重視する。

■備考（オフィスアワー）

主専攻謡（能楽）Ⅱ

代表教員：関根 知孝

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：8

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

観世流の現行曲（謡曲）の基本技術の習得と曲の理解

■授業計画及び内容

個人指導による技術習得

■教材・参考書

観世流謡本（大成版、檜書店発行本）

■成績評価の方法

試験と平常点

■履修上の指示事項

1年次は前期・後期各4単位。2年次以降は通年で8単位。

■備考（オフィスアワー）

主専攻謡（能楽）Ⅱ

代表教員：武田 孝史

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：8

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

宝生流の現行曲（謡曲）の基本技術の習得と曲の理解

■授業計画及び内容

個人指導による技術習得

■教材・参考書

謡曲本

■成績評価の方法

試験と平常点

■履修上の指示事項

1年次は前期・後期各4単位。2年次以降は通年で8単位。

■備考（オフィスアワー）

主専攻謡（能楽）Ⅲ

代表教員：関根 知孝

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：8

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

観世流の現行曲（謡曲）の基本技術の習得と曲の理解

■授業計画及び内容

個人指導による技術習得

■教材・参考書

観世流謡本（大成版、檜書店発行本）

■成績評価の方法

試験と平常点

■履修上の指示事項

1年次は前期・後期各4単位。2年次以降は通年で8単位。

■備考（オフィスアワー）

主専攻謡（能楽）Ⅲ

代表教員：武田 孝史

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：8

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

宝生流の現行曲（謡曲）の基本技術の習得と曲の理解

■授業計画及び内容

個人指導による技術習得

■教材・参考書

謡曲本

■成績評価の方法

試験と平常点

■履修上の指示事項

1年次は前期・後期各4単位。2年次以降は通年で8単位。

■備考（オフィスアワー）

主専攻謡（能楽）Ⅳ

代表教員：関根 知孝

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：8

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

観世流の現行曲（謡曲）の基本技術の習得と曲の理解

■授業計画及び内容

個人指導による技術習得

■教材・参考書

観世流謡本（大成版、檜書店発行本）

■成績評価の方法

試験と平常点

■履修上の指示事項

1年次は前期・後期各4単位。2年次以降は通年で8単位。

■備考（オフィスアワー）

主専攻謡（能楽）Ⅳ

代表教員：武田 孝史

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：8

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

宝生流の現行曲（謡曲）の基本技術の習得と曲の理解

■授業計画及び内容

個人指導による技術習得

■教材・参考書

謡曲本

■成績評価の方法

試験と平常点

■履修上の指示事項

1年次は前期・後期各4単位。2年次以降は通年で8単位。

■備考（オフィスアワー）

主専攻大鼓（能楽囃子）Ⅱ

代表教員：佃 良勝

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：8

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

高安流大鼓の演奏技術習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで高安流手附に添っての個人指導

■教材・参考書

高安流大鼓手附

■成績評価の方法

試験及び出席を考慮しながら平常点重視の評価

■履修上の指示事項

1年次は前期・後期各4単位、2年次以降は通年で8単位

■備考（オフィスアワー）

主専攻大鼓（能楽囃子）Ⅲ

代表教員：佃 良勝
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：8
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

高安流大鼓の演奏技術習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで高安流手附に添っての個人指導

■教材・参考書

高安流大鼓手附

■成績評価の方法

試験及び出席を考慮しながら平常点重視の評価

■履修上の指示事項

1年次は前期・後期各4単位、2年次以降は通年で8単位

■備考（オフィスアワー）

主専攻大鼓（能楽囃子）Ⅳ

代表教員：佃 良勝
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：8
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

高安流大鼓の演奏技術習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで高安流手附に添っての個人指導

■教材・参考書

高安流大鼓手附

■成績評価の方法

試験及び出席を考慮しながら平常点重視の評価

■履修上の指示事項

1年次は前期・後期各4単位、2年次以降は通年で8単位

■備考（オフィスアワー）

主専攻外曲（琴古流）Ⅱ

代表教員：徳丸 裕二

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

琴古流尺八の演奏技術の習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次までの専攻学生個人レッスン

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

平常点及び、年度末の試験による。（1年次のみ前期にも試験を課す）

■履修上の指示事項

個人所有の楽器を使用のこと。

■備考（オフィスアワー）

平成19年度以前に入学の者は尺八実技（外曲（琴古流））と合わせて、半期4単位（通年8単位）とする。

主専攻外曲（琴古流）Ⅲ

代表教員：徳丸 裕二

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

琴古流尺八の演奏技術の習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次までの専攻学生個人レッスン

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

平常点及び、年度末の試験による。（1年次のみ前期にも試験を課す）

■履修上の指示事項

個人所有の楽器を使用のこと。

■備考（オフィスアワー）

平成19年度以前に入学の者は尺八実技（外曲（琴古流））と合わせて、半期4単位（通年8単位）とする。

主専攻外曲（琴古流）Ⅳ

代表教員：徳丸 裕二

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

琴古流尺八の演奏技術の習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次までの専攻学生個人レッスン

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

平常点及び、年度末の試験による。（1年次のみ前期にも試験を課す）

■履修上の指示事項

個人所有の楽器を使用のこと。

■備考（オフィスアワー）

平成19年度以前に入学の者は尺八実技（外曲（琴古流））と合わせて、半期4単位（通年8単位）とする。

主専攻外曲（都山流）Ⅱ

代表教員：藤原 圭太

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

都山流尺八の演奏技術の習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次までの専攻学生個人レッスン

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

平常点及び、年度末の試験による。（1年次のみ前期にも試験を課す）

■履修上の指示事項

個人所有の楽器を使用のこと。

■備考（オフィスアワー）

平成19年度以前に入学の者は尺八実技（外曲（都山流））と合わせて、半期4単位（通年8単位）とする。

主専攻外曲（都山流）Ⅲ

代表教員：藤原 圭太
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

都山流尺八の演奏技術の習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次までの専攻学生個人レッスン

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

平常点及び、年度末の試験による。（1年次のみ前期にも試験を課す）

■履修上の指示事項

個人所有の楽器を使用のこと。

■備考（オフィスアワー）

平成19年度以前に入学の者は尺八実技（外曲（都山流））と合わせて、半期4単位（通年8単位）とする。

主専攻外曲（都山流）Ⅳ

代表教員：藤原 圭太
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

都山流尺八の演奏技術の習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次までの専攻学生個人レッスン

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

平常点及び、年度末の試験による。（1年次のみ前期にも試験を課す）

■履修上の指示事項

個人所有の楽器を使用のこと。

■備考（オフィスアワー）

平成19年度以前に入学の者は尺八実技（外曲（都山流））と合わせて、半期4単位（通年8単位）とする。

主専攻小鼓（能楽囃子）Ⅱ

代表教員：曾和 正博

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：8

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

幸流小鼓の演奏技術の習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで幸流小鼓手附に添っての個人指導

■教材・参考書

幸流小鼓手附

■成績評価の方法

試験及び出席を考慮しながら平常点重視の評価

■履修上の指示事項

1年次は前期・後期各4単位、2年次以降は通年で8単位

■備考（オフィスアワー）

主専攻小鼓（能楽囃子）Ⅲ

代表教員：曾和 正博

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：8

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

幸流小鼓の演奏技術の習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで幸流小鼓手附に添っての個人指導

■教材・参考書

幸流小鼓手附

■成績評価の方法

試験及び出席を考慮しながら平常点重視の評価

■履修上の指示事項

1年次は前期・後期各4単位、2年次以降は通年で8単位

■備考（オフィスアワー）

主専攻小鼓（能楽囃子）Ⅳ

代表教員：曾和 正博

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：8

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

幸流小鼓の演奏技術の習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで幸流小鼓手附に添っての個人指導

■教材・参考書

幸流小鼓手附

■成績評価の方法

試験及び出席を考慮しながら平常点重視の評価

■履修上の指示事項

1年次は前期・後期各4単位、2年次以降は通年で8単位

■備考（オフィスアワー）

主専攻太鼓（能楽囃子）Ⅱ

代表教員：観世 元則

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：8

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

観世流太鼓の演奏技術習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで観世流太鼓手附に添っての個人指導

■教材・参考書

観世流太鼓手附

■成績評価の方法

試験及び出席を考慮しながら平常点重視の評価

■履修上の指示事項

1年次は前期・後期各4単位、2年次以降は通年で8単位

■備考（オフィスアワー）

主専攻太鼓（能楽囃子）Ⅲ

代表教員：観世 元則

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：8

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

観世流太鼓の演奏技術習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで観世流太鼓手附に添っての個人指導

■教材・参考書

観世流太鼓手附

■成績評価の方法

試験及び出席を考慮しながら平常点重視の評価

■履修上の指示事項

1年次は前期・後期各4単位、2年次以降は通年で8単位

■備考（オフィスアワー）

主専攻太鼓（能楽囃子）Ⅳ

代表教員：観世 元則

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：8

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

観世流太鼓の演奏技術習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで観世流太鼓手附に添っての個人指導

■教材・参考書

観世流太鼓手附

■成績評価の方法

試験及び出席を考慮しながら平常点重視の評価

■履修上の指示事項

1年次は前期・後期各4単位、2年次以降は通年で8単位

■備考（オフィスアワー）

主専攻笛（能楽囃子）Ⅱ

代表教員：藤田 次郎
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：8
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

能管の唱歌及び演奏の習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで一噌流唱歌集に添っての舞物の個人指導

■教材・参考書

一噌流唱歌集（上・下巻）。一噌流指附

■成績評価の方法

試験及び出席を考慮しながら平常点重視の評価

■履修上の指示事項

1年次は前期・後期各4単位、2年次以降は通年で8単位

■備考（オフィスアワー）

主専攻笛（能楽囃子）Ⅲ

代表教員：藤田 次郎
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：8
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

能管の唱歌及び演奏の習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで一噌流唱歌集に添っての舞物の個人指導

■教材・参考書

一噌流唱歌集（上・下巻）。一噌流指附

■成績評価の方法

試験及び出席を考慮しながら平常点重視の評価

■履修上の指示事項

1年次は前期・後期各4単位、2年次以降は通年で8単位

■備考（オフィスアワー）

主専攻笛（能楽囃子）Ⅳ

代表教員：藤田 次郎
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：8
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

能管の唱歌及び演奏の習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで一噌流唱歌集に添っての舞物の個人指導

■教材・参考書

一噌流唱歌集（上・下巻）。一噌流指附

■成績評価の方法

試験及び出席を考慮しながら平常点重視の評価

■履修上の指示事項

1年次は前期・後期各4単位、2年次以降は通年で8単位

■備考（オフィスアワー）

主専攻本曲（琴古流）Ⅱ

代表教員：徳丸 裕二
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

琴古流尺八の演奏技術の習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次までの専攻学生個人レッスン

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

平常点及び、年度末の試験による。（1年次のみ前期にも試験を課す）

■履修上の指示事項

個人所有の楽器を使用のこと。

■備考（オフィスアワー）

平成19年度以前に入学の者は尺八実技（外曲（琴古流））と合わせて1年次は半期4単位（通年8単位）とする。

主専攻本曲（琴古流）Ⅲ

代表教員：徳丸 裕二

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

琴古流尺八の演奏技術の習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次までの専攻学生個人レッスン

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

平常点及び、年度末の試験による。（1年次のみ前期にも試験を課す）

■履修上の指示事項

個人所有の楽器を使用のこと。

■備考（オフィスアワー）

平成19年度以前に入学の者は尺八実技（外曲（琴古流））と合わせて一年次は半期4単位（通年8単位）とする。

主専攻本曲（琴古流）Ⅳ

代表教員：徳丸 裕二

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

琴古流尺八の演奏技術の習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次までの専攻学生個人レッスン

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

平常点及び、年度末の試験による。（1年次のみ前期にも試験を課す）

■履修上の指示事項

個人所有の楽器を使用のこと。

■備考（オフィスアワー）

平成19年度以前に入学の者は尺八実技（外曲（琴古流））と合わせて一年次は半期4単位（通年8単位）とする。

主専攻本曲（都山流）Ⅱ

代表教員：藤原 圭太
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

都山流尺八の演奏技術の習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次までの専攻学生個人レッスン

■教材・参考書

適宜指示する

■成績評価の方法

平常点及び、年度末の試験による（1年次のみ前期にも試験を課す）

■履修上の指示事項

個人所有の楽器を使用のこと

■備考（オフィスアワー）

平成21年度以降の入学生が履修（1年次は半期2単位ずつの通年4単位）

主専攻本曲（都山流）Ⅲ

代表教員：藤原 圭太
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

都山流尺八の演奏技術の習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次までの専攻学生個人レッスン

■教材・参考書

適宜指示する

■成績評価の方法

平常点及び、年度末の試験による（1年次のみ前期にも試験を課す）

■履修上の指示事項

個人所有の楽器を使用のこと

■備考（オフィスアワー）

平成21年度以降の入学生が履修（1年次は半期2単位ずつの通年4単位）

主専攻本曲（都山流）Ⅳ

代表教員：藤原 圭太
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

都山流尺八の演奏技術の習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次までの専攻学生個人レッスン

■教材・参考書

適宜指示する

■成績評価の方法

平常点及び、年度末の試験による（1年次のみ前期にも試験を課す）

■履修上の指示事項

個人所有の楽器を使用のこと

■備考（オフィスアワー）

平成21年度以降の入学生が履修（1年次は半期2単位ずつの通年4単位）

箏曲（生田流）尺八実技

代表教員：青木 彰時
曜日時限：水曜3限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

箏曲（生田流）専攻の学生を対象とし、尺八について基礎的な技術、知識の習得を目的とする。

■授業計画及び内容

■教材・参考書

適宜配布する。

■成績評価の方法

授業時における平常点と学年末に行う試験による。

■履修上の指示事項

面談時に、本授業として履修するか、副科実技として履修するか担当教員に必ず申し出ること。

■備考（オフィスアワー）

箏曲（生田流・他様式）

代表教員：吉川 さとみ
曜日時限：その他
学 期：後期
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

生田流箏曲の演奏技術の習得

■授業計画及び内容

他流派の実技を学ぶことにより、それぞれの流派の特徴を知る。

《砧》宮城道雄作曲

《春の海》宮城道雄作曲

他

■教材・参考書

大日本家庭音楽会発行楽譜
安藤政輝著『生田流の箏曲』（講談社）

■成績評価の方法

出席率を含む平常点および年度末の実技試験による。

■履修上の指示事項

対象は山田流箏曲専攻3年次とする。

■備考（オフィスアワー）

メール：[メールアドレスはG-net シラバスに記載]
で相談すること。

箏曲（山田流・他様式）

代表教員：太田 聡子
曜日時限：その他
学 期：後期
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

山田流箏曲の演奏技術の習得

■授業計画及び内容

他流派の実技を学ぶことによりそれぞれの流派の特徴を知る。生田流箏曲3年次個人レッスン

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

出席及び年度末の試験による。

■履修上の指示事項

対象は生田流箏曲専攻3年次とする。

■備考（オフィスアワー）

箏曲実技（生田流）Ⅲ-1

代表教員：吉川 さとみ

曜日時限：その他

学 期：前期

単 位 数：3

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

1年次：古典曲、宮城曲の基礎的な弾き方、歌い方の技術を習得する。

2年次：古典曲、宮城曲のより高度な技術を習得する。

3年次：1・2年で習得した基礎を基に、豊かな演奏力を養う。

4年次：演奏家としての資質を養い、多方面にわたって経験を積む。

■授業計画及び内容

1年次：《箏基礎奏法学習のための さくら～主題と変奏～》《六段の調》《千鳥の曲》《夕顔》《春の曲》《砧》《初鶯》《春の海》など。

2年次：《四季の眺》《茶音頭》《けしの花》《磯千鳥》《楫枕》《秋の曲》《虫の武蔵野》《唐砧》《比良》《さらし風手事》など。

3年次：《御山獅子》《松竹梅》《萩の露》《さしそう光》《高麗の春》《さくら変奏曲》《泉》など。および現代曲。

4年次：学内演奏、卒業演奏の曲他。

■教材・参考書

『生田流の箏曲』（講談社） 安藤政輝著
宮城道雄著 大日本家庭音楽会発行楽譜
安藤政輝編著 大日本家庭音楽会発行楽譜
宮城道雄著 邦楽社発行楽譜

■成績評価の方法

平常点及び試験の結果

■履修上の指示事項

選曲は教員の指示による。

■備考（オフィスアワー）

メール：[メールアドレスはG-net シラバスに記載]
で問い合わせること。

箏曲実技（生田流）Ⅲ-2

代表教員：吉川 さとみ

曜日時限：その他

学 期：後期

単 位 数：3

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

1年次：古典曲、宮城曲の基礎的な弾き方、歌い方の技術を習得する。

2年次：古典曲、宮城曲のより高度な技術を習得する。

3年次：1・2年で習得した基礎を基に、豊かな演奏力を養う。

4年次：演奏家としての資質を養い、多方面にわたって経験を積む。

■授業計画及び内容

1年次：《箏基礎奏法学習のための さくら～主題と変奏～》《六段の調》《千鳥の曲》《夕顔》《春の曲》《砧》《初鶯》《春の海》など。

2年次：《四季の眺》《茶音頭》《けしの花》《磯千鳥》《楫枕》《秋の曲》《虫の武蔵野》《唐砧》《比良》《さらし風手事》など。

3年次：《御山獅子》《松竹梅》《萩の露》《さしそう光》《高麗の春》《さくら変奏曲》《泉》など。および現代曲。

4年次：学内演奏、卒業演奏の曲他。

■教材・参考書

『生田流の箏曲』（講談社） 安藤政輝著
宮城道雄著 大日本家庭音楽会発行楽譜
安藤政輝編著 大日本家庭音楽会発行楽譜
宮城道雄著 邦楽社発行楽譜

■成績評価の方法

平常点及び試験の結果

■履修上の指示事項

選曲は教員の指示による。

■備考（オフィスアワー）

メール：[メールアドレスはG-net シラバスに記載]
で問い合わせること。

箏曲実技（生田流）IV-1

代表教員：吉川 さとみ

曜日時限：その他

学 期：前期

単 位 数：3

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

1年次：古典曲、宮城曲の基礎的な弾き方、歌い方の技術を習得する。

2年次：古典曲、宮城曲のより高度な技術を習得する。

3年次：1・2年で習得した基礎を基に、豊かな演奏力を養う。

4年次：演奏家としての資質を養い、多方面にわたって経験を積む。

■授業計画及び内容

1年次：《箏基礎奏法学習のための さくら～主題と変奏～》《六段の調》《千鳥の曲》《夕顔》《春の曲》《砧》《初鶯》《春の海》など。

2年次：《四季の眺》《茶音頭》《けしの花》《磯千鳥》《楫枕》《秋の曲》《虫の武蔵野》《唐砧》《比良》《さらし風手事》など。

3年次：《御山獅子》《松竹梅》《萩の露》《さしそう光》《高麗の春》《さくら変奏曲》《泉》など。および現代曲。

4年次：学内演奏、卒業演奏の曲他。

■教材・参考書

『生田流の箏曲』（講談社） 安藤政輝著
宮城道雄著 大日本家庭音楽会発行楽譜
安藤政輝編著 大日本家庭音楽会発行楽譜
宮城道雄著 邦楽社発行楽譜

■成績評価の方法

平常点及び試験の結果

■履修上の指示事項

選曲は教員の指示による。

■備考（オフィスアワー）

メール：[メールアドレスはG-net シラバスに記載]
で問い合わせること。

箏曲実技（生田流）IV-2

代表教員：吉川 さとみ

曜日時限：その他

学 期：後期

単 位 数：3

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

1年次：古典曲、宮城曲の基礎的な弾き方、歌い方の技術を習得する。

2年次：古典曲、宮城曲のより高度な技術を習得する。

3年次：1・2年で習得した基礎を基に、豊かな演奏力を養う。

4年次：演奏家としての資質を養い、多方面にわたって経験を積む。

■授業計画及び内容

1年次：《箏基礎奏法学習のための さくら～主題と変奏～》《六段の調》《千鳥の曲》《夕顔》《春の曲》《砧》《初鶯》《春の海》など。

2年次：《四季の眺》《茶音頭》《けしの花》《磯千鳥》《楫枕》《秋の曲》《虫の武蔵野》《唐砧》《比良》《さらし風手事》など。

3年次：《御山獅子》《松竹梅》《萩の露》《さしそう光》《高麗の春》《さくら変奏曲》《泉》など。および現代曲。

4年次：学内演奏、卒業演奏の曲他。

■教材・参考書

『生田流の箏曲』（講談社） 安藤政輝著
宮城道雄著 大日本家庭音楽会発行楽譜
安藤政輝編著 大日本家庭音楽会発行楽譜
宮城道雄著 邦楽社発行楽譜

■成績評価の方法

平常点及び試験の結果

■履修上の指示事項

選曲は教員の指示による。

■備考（オフィスアワー）

メール：[メールアドレスはG-net シラバスに記載]
で問い合わせること。

総合実習（生田流） I -1

代表教員：吉川 さとみ
曜日時限：その他
学 期：前期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

演奏に関わる多方面にわたる経験を積む。独奏の他、箏、三味線、尺八等による合奏も行う。

■授業計画及び内容

単に演奏のみにとどまらず、調絃、伴奏、舞台設営、録音、録画、楽器のセット(ステージマネージャー)、替箏、替三味線などの係を担当する。
また、舞台上のマナーも重要な事項である。
演奏後の反省会において、教員が個々に批評を行う。

■教材・参考書

■成績評価の方法

演奏及び各係の成果

■履修上の指示事項

他の人の演奏を可能な限り聴くこと。

■備考（オフィスアワー）

メール：[メールアドレスはG-net シラバスに記載]
で問い合わせること。

総合実習（生田流） I -2

代表教員：吉川 さとみ
曜日時限：その他
学 期：後期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

演奏に関わる多方面にわたる経験を積む。独奏の他、箏、三味線、尺八等による合奏も行う。

■授業計画及び内容

単に演奏のみにとどまらず、調絃、伴奏、舞台設営、録音、録画、楽器のセット(ステージマネージャー)、替箏、替三味線などの係を担当する。
また、舞台上のマナーも重要な事項である。
演奏後の反省会において、教員が個々に批評を行う。

■教材・参考書

■成績評価の方法

演奏及び各係の成果

■履修上の指示事項

他の人の演奏を可能な限り聴くこと。

■備考（オフィスアワー）

メール：[メールアドレスはG-net シラバスに記載]
で問い合わせること。

総合実習（生田流）Ⅱ-1

代表教員：吉川 さとみ
曜日時限：その他
学 期：前期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

演奏に関わる多方面にわたる経験を積む。独奏の他、箏、三味線、尺八等による合奏も行う。

■授業計画及び内容

単に演奏のみにとどまらず、調絃、伴奏、舞台設営、録音、録画、楽器のセット(ステージマネージャー)、替箏、替三味線などの係を担当する。
また、舞台上のマナーも重要な事項である。
演奏後の反省会において、教員が個々に批評を行う。

■教材・参考書

■成績評価の方法

演奏及び各係の成果

■履修上の指示事項

他の人の演奏を可能な限り聴くこと。

■備考（オフィスアワー）

メール：[メールアドレスはG-net シラバスに記載]
で問い合わせること。

総合実習（生田流）Ⅱ-2

代表教員：吉川 さとみ
曜日時限：その他
学 期：後期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

演奏に関わる多方面にわたる経験を積む。独奏の他、箏、三味線、尺八等による合奏も行う。

■授業計画及び内容

単に演奏のみにとどまらず、調絃、伴奏、舞台設営、録音、録画、楽器のセット(ステージマネージャー)、替箏、替三味線などの係を担当する。
また、舞台上のマナーも重要な事項である。
演奏後の反省会において、教員が個々に批評を行う。

■教材・参考書

■成績評価の方法

演奏及び各係の成果

■履修上の指示事項

他の人の演奏を可能な限り聴くこと。

■備考（オフィスアワー）

メール：[メールアドレスはG-net シラバスに記載]
で問い合わせること。

総合実習（生田流）Ⅲ-1

代表教員：吉川 さとみ
曜日時限：その他
学 期：前期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

演奏に関わる多方面にわたる経験を積む。独奏の他、箏、三味線、尺八等による合奏も行う。

■授業計画及び内容

単に演奏のみにとどまらず、調絃、伴奏、舞台設営、録音、録画、楽器のセット(ステージマネージャー)、替箏、替三味線などの係を担当する。
また、舞台上のマナーも重要な事項である。
演奏後の反省会において、教員が個々に批評を行う。

■教材・参考書

■成績評価の方法

演奏及び各係の成果

■履修上の指示事項

他の人の演奏を可能な限り聴くこと。

■備考（オフィスアワー）

メール：[メールアドレスはG-net シラバスに記載]
で問い合わせること。

総合実習（生田流）Ⅲ-2

代表教員：吉川 さとみ
曜日時限：その他
学 期：後期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

演奏に関わる多方面にわたる経験を積む。独奏の他、箏、三味線、尺八等による合奏も行う。

■授業計画及び内容

単に演奏のみにとどまらず、調絃、伴奏、舞台設営、録音、録画、楽器のセット(ステージマネージャー)、替箏、替三味線などの係を担当する。
また、舞台上のマナーも重要な事項である。
演奏後の反省会において、教員が個々に批評を行う。

■教材・参考書

■成績評価の方法

演奏及び各係の成果

■履修上の指示事項

他の人の演奏を可能な限り聴くこと。

■備考（オフィスアワー）

メール：[メールアドレスはG-net シラバスに記載]
で問い合わせること。

総合実習（生田流）IV-1

代表教員：吉川 さとみ
曜日時限：その他
学 期：前期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

演奏に関わる多方面にわたる経験を積む。独奏の他、箏、三味線、尺八等による合奏も行う。

■授業計画及び内容

単に演奏のみにとどまらず、調絃、伴奏、舞台設営、録音、録画、楽器のセット(ステージマネージャー)、替箏、替三味線などの係を担当する。
また、舞台上のマナーも重要な事項である。
演奏後の反省会において、教員が個々に批評を行う。

■教材・参考書

■成績評価の方法

演奏及び各係の成果

■履修上の指示事項

他の人の演奏を可能な限り聴くこと。

■備考（オフィスアワー）

メール：[メールアドレスはG-net シラバスに記載]
で問い合わせること。

総合実習（生田流）IV-2

代表教員：吉川 さとみ
曜日時限：その他
学 期：後期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

演奏に関わる多方面にわたる経験を積む。独奏の他、箏、三味線、尺八等による合奏も行う。

■授業計画及び内容

単に演奏のみにとどまらず、調絃、伴奏、舞台設営、録音、録画、楽器のセット(ステージマネージャー)、替箏、替三味線などの係を担当する。
また、舞台上のマナーも重要な事項である。
演奏後の反省会において、教員が個々に批評を行う。

■教材・参考書

■成績評価の方法

演奏及び各係の成果

■履修上の指示事項

他の人の演奏を可能な限り聴くこと。

■備考（オフィスアワー）

メール：[メールアドレスはG-net シラバスに記載]
で問い合わせること。

総合実習（清元） I-1

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：前期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術および曲の全体的印象の把握

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

清元浄瑠璃・清元三味線譜本

■成績評価の方法

演奏会での成果を評価し、平常点も考慮する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度以降に入学の者は、前期・後期 1 単位ずつとし、平成 19 年度以前に入学の者は、前期・後期 2 単位ずつとする。

総合実習（清元） I-2

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：後期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術および曲の全体的印象の把握

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

清元浄瑠璃・清元三味線譜本

■成績評価の方法

演奏会での成果を評価し、平常点も考慮する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度以降に入学の者は、前期・後期 1 単位ずつとし、平成 19 年度以前に入学の者は、前期・後期 2 単位ずつとする。

総合実習（清元）Ⅱ-1

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：前期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術および曲の全体的印象の把握

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

清元浄瑠璃・清元三味線譜本

■成績評価の方法

演奏会での成果を評価し、平常点も考慮する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度以降に入学の者は、前期・後期 1 単位ずつとし、平成 19 年度以前に入学の者は、前期・後期 2 単位ずつとする。

総合実習（清元）Ⅱ-2

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：後期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術および曲の全体的印象の把握

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

清元浄瑠璃・清元三味線譜本

■成績評価の方法

演奏会での成果を評価し、平常点も考慮する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度以降に入学の者は、前期・後期 1 単位ずつとし、平成 19 年度以前に入学の者は、前期・後期 2 単位ずつとする。

総合実習（清元）Ⅲ-1

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：前期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術および曲の全体的印象の把握

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

清元浄瑠璃・清元三味線譜本

■成績評価の方法

演奏会での成果を評価し、平常点も考慮する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度以降に入学の者は、前期・後期 1 単位ずつとし、平成 19 年度以前に入学の者は、前期・後期 2 単位ずつとする。

総合実習（清元）Ⅲ-2

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：後期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術および曲の全体的印象の把握

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

清元浄瑠璃・清元三味線譜本

■成績評価の方法

演奏会での成果を評価し、平常点も考慮する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度以降に入学の者は、前期・後期 1 単位ずつとし、平成 19 年度以前に入学の者は、前期・後期 2 単位ずつとする。

総合実習（清元）IV-1

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：前期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術および曲の全体的印象の把握

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

清元浄瑠璃・清元三味線譜本

■成績評価の方法

演奏会での成果を評価し、平常点も考慮する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度以降に入学の者は、前期・後期 1 単位ずつとし、平成 19 年度以前に入学の者は、前期・後期 2 単位ずつとする。

総合実習（清元）IV-2

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：後期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術および曲の全体的印象の把握

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

清元浄瑠璃・清元三味線譜本

■成績評価の方法

演奏会での成果を評価し、平常点も考慮する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度以降に入学の者は、前期・後期 1 単位ずつとし、平成 19 年度以前に入学の者は、前期・後期 2 単位ずつとする。

総合実習（清元三味線） I -1

代表教員：小島 直文

曜日時限：その他

学 期：前期

単 位 数：1

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術および曲の全体的印象の把握

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

清元浄瑠璃・清元三味線譜本

■成績評価の方法

演奏会での成果を評価し、平常点も考慮する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度以降に入学の者は、前期・後期 1 単位ずつとし、平成 19 年度以前に入学の者は、前期・後期 2 単位ずつとする。

総合実習（清元三味線） I -2

代表教員：小島 直文

曜日時限：その他

学 期：後期

単 位 数：1

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術および曲の全体的印象の把握

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

清元浄瑠璃・清元三味線譜本

■成績評価の方法

演奏会での成果を評価し、平常点も考慮する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度以降に入学の者は、前期・後期 1 単位ずつとし、平成 19 年度以前に入学の者は、前期・後期 2 単位ずつとする。

総合実習（清元三味線）Ⅱ-1

代表教員：小島 直文

曜日時限：その他

学 期：前期

単 位 数：1

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術および曲の全体的印象の把握

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

清元浄瑠璃・清元三味線譜本

■成績評価の方法

演奏会での成果を評価し、平常点も考慮する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成20年度以降に入学の者は、前期・後期1単位ずつとし、平成19年度以前に入学の者は、前期・後期2単位ずつとする。

総合実習（清元三味線）Ⅱ-2

代表教員：小島 直文

曜日時限：その他

学 期：後期

単 位 数：1

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術および曲の全体的印象の把握

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

清元浄瑠璃・清元三味線譜本

■成績評価の方法

演奏会での成果を評価し、平常点も考慮する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成20年度以降に入学の者は、前期・後期1単位ずつとし、平成19年度以前に入学の者は、前期・後期2単位ずつとする。

総合実習（清元三味線）Ⅲ-1

代表教員：小島 直文

曜日時限：その他

学 期：前期

単 位 数：1

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術および曲の全体的印象の把握

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

清元浄瑠璃・清元三味線譜本

■成績評価の方法

演奏会での成果を評価し、平常点も考慮する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成20年度以降に入学の者は、前期・後期1単位ずつとし、平成19年度以前に入学の者は、前期・後期2単位ずつとする。

総合実習（清元三味線）Ⅲ-2

代表教員：小島 直文

曜日時限：その他

学 期：後期

単 位 数：1

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術および曲の全体的印象の把握

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

清元浄瑠璃・清元三味線譜本

■成績評価の方法

演奏会での成果を評価し、平常点も考慮する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成20年度以降に入学の者は、前期・後期1単位ずつとし、平成19年度以前に入学の者は、前期・後期2単位ずつとする。

総合実習（清元三味線）IV-1

代表教員：小島 直文

曜日時限：その他

学 期：前期

単 位 数：1

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術および曲の全体的印象の把握

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

清元浄瑠璃・清元三味線譜本

■成績評価の方法

演奏会での成果を評価し、平常点も考慮する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成20年度以降に入学の者は、前期・後期1単位ずつとし、平成19年度以前に入学の者は、前期・後期2単位ずつとする。

総合実習（清元三味線）IV-2

代表教員：小島 直文

曜日時限：その他

学 期：後期

単 位 数：1

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術および曲の全体的印象の把握

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

清元浄瑠璃・清元三味線譜本

■成績評価の方法

演奏会での成果を評価し、平常点も考慮する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成20年度以降に入学の者は、前期・後期1単位ずつとし、平成19年度以前に入学の者は、前期・後期2単位ずつとする。

総合実習（常磐津） I -1

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：前期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術および曲の全体的印象の把握

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

常磐津浄瑠璃・常磐津三味線譜本

■成績評価の方法

演奏会での成果を評価し、平常点も考慮する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度以降に入学の者は、前期・後期 1 単位ずつとし、平成 19 年度以前に入学の者は、前期・後期 2 単位ずつとする。

総合実習（常磐津） I -2

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：後期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術および曲の全体的印象の把握

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

常磐津浄瑠璃・常磐津三味線譜本

■成績評価の方法

演奏会での成果を評価し、平常点も考慮する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度以降に入学の者は、前期・後期 1 単位ずつとし、平成 19 年度以前に入学の者は、前期・後期 2 単位ずつとする。

総合実習（常磐津）Ⅱ-1

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：前期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術および曲の全体的印象の把握

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

常磐津浄瑠璃・常磐津三味線譜本

■成績評価の方法

演奏会での成果を評価し、平常点も考慮する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成20年度以降に入学の者は、前期・後期1単位ずつとし、平成19年度以前に入学の者は、前期・後期2単位ずつとする。

総合実習（常磐津）Ⅱ-2

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：後期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術および曲の全体的印象の把握

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

常磐津浄瑠璃・常磐津三味線譜本

■成績評価の方法

演奏会での成果を評価し、平常点も考慮する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成20年度以降に入学の者は、前期・後期1単位ずつとし、平成19年度以前に入学の者は、前期・後期2単位ずつとする。

総合実習（常磐津）Ⅲ-1

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：前期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術および曲の全体的印象の把握

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

常磐津浄瑠璃・常磐津三味線譜本

■成績評価の方法

演奏会での成果を評価し、平常点も考慮する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度以降に入学の者は、前期・後期 1 単位ずつとし、平成 19 年度以前に入学の者は、前期・後期 2 単位ずつとする。

総合実習（常磐津）Ⅲ-2

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：後期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術および曲の全体的印象の把握

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

常磐津浄瑠璃・常磐津三味線譜本

■成績評価の方法

演奏会での成果を評価し、平常点も考慮する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度以降に入学の者は、前期・後期 1 単位ずつとし、平成 19 年度以前に入学の者は、前期・後期 2 単位ずつとする。

総合実習（常磐津）IV-1

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：前期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術および曲の全体的印象の把握

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

常磐津浄瑠璃・常磐津三味線譜本

■成績評価の方法

演奏会での成果を評価し、平常点も考慮する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度以降に入学の者は、前期・後期 1 単位ずつとし、平成 19 年度以前に入学の者は、前期・後期 2 単位ずつとする。

総合実習（常磐津）IV-2

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：後期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術および曲の全体的印象の把握

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

常磐津浄瑠璃・常磐津三味線譜本

■成績評価の方法

演奏会での成果を評価し、平常点も考慮する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度以降に入学の者は、前期・後期 1 単位ずつとし、平成 19 年度以前に入学の者は、前期・後期 2 単位ずつとする。

総合実習（常磐津三味線） I -1

代表教員：小島 直文

曜日時限：その他

学 期：前期

単 位 数：1

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術および曲の全体的印象の把握

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

常磐津浄瑠璃・常磐津三味線譜本

■成績評価の方法

演奏会での成果を評価し、平常点も考慮する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度以降に入学の者は、前期・後期 1 単位ずつとし、平成 19 年度以前に入学の者は、前期・後期 2 単位ずつとする。

総合実習（常磐津三味線） I -2

代表教員：小島 直文

曜日時限：その他

学 期：後期

単 位 数：1

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術および曲の全体的印象の把握

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

常磐津浄瑠璃・常磐津三味線譜本

■成績評価の方法

演奏会での成果を評価し、平常点も考慮する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度以降に入学の者は、前期・後期 1 単位ずつとし、平成 19 年度以前に入学の者は、前期・後期 2 単位ずつとする。

総合実習（常磐津三味線）Ⅱ-1

代表教員：小島 直文

曜日時限：その他

学 期：前期

単 位 数：1

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術および曲の全体的印象の把握

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

常磐津浄瑠璃・常磐津三味線譜本

■成績評価の方法

演奏会での成果を評価し、平常点も考慮する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成20年度以降に入学の者は、前期・後期1単位ずつとし、平成19年度以前に入学の者は、前期・後期2単位ずつとする。

総合実習（常磐津三味線）Ⅱ-2

代表教員：小島 直文

曜日時限：その他

学 期：後期

単 位 数：1

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術および曲の全体的印象の把握

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

常磐津浄瑠璃・常磐津三味線譜本

■成績評価の方法

演奏会での成果を評価し、平常点も考慮する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成20年度以降に入学の者は、前期・後期1単位ずつとし、平成19年度以前に入学の者は、前期・後期2単位ずつとする。

総合実習（常磐津三味線）Ⅲ-1

代表教員：小島 直文
曜日時限：その他
学 期：前期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術および曲の全体的印象の把握

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

常磐津浄瑠璃・常磐津三味線譜本

■成績評価の方法

演奏会での成果を評価し、平常点も考慮する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成20年度以降に入学の者は、前期・後期1単位ずつとし、平成19年度以前に入学の者は、前期・後期2単位ずつとする。

総合実習（常磐津三味線）Ⅲ-2

代表教員：小島 直文
曜日時限：その他
学 期：後期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術および曲の全体的印象の把握

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

常磐津浄瑠璃・常磐津三味線譜本

■成績評価の方法

演奏会での成果を評価し、平常点も考慮する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成20年度以降に入学の者は、前期・後期1単位ずつとし、平成19年度以前に入学の者は、前期・後期2単位ずつとする。

総合実習（常磐津三味線）IV-1

代表教員：小島 直文

曜日時限：その他

学 期：前期

単 位 数：1

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術および曲の全体的印象の把握

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

常磐津浄瑠璃・常磐津三味線譜本

■成績評価の方法

演奏会での成果を評価し、平常点も考慮する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成20年度以降に入学の者は、前期・後期1単位ずつとし、平成19年度以前に入学の者は、前期・後期2単位ずつとする。

総合実習（常磐津三味線）IV-2

代表教員：小島 直文

曜日時限：その他

学 期：後期

単 位 数：1

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術および曲の全体的印象の把握

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

常磐津浄瑠璃・常磐津三味線譜本

■成績評価の方法

演奏会での成果を評価し、平常点も考慮する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成20年度以降に入学の者は、前期・後期1単位ずつとし、平成19年度以前に入学の者は、前期・後期2単位ずつとする。

総合実習（長唄） I-1

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：前期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線・唄・囃子との総合的かつ応用的な演奏技術の向上

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を各学年毎にまとめ、前期・後期に総合的な形（舞台形式）で成果を公開発表する。

■教材・参考書

年次毎の習得曲中より

■成績評価の方法

演奏会での成果を評価し、平常点も考慮する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度以降に入学の者は各 1 単位。平成 19 年度以前に入学の者は各 2 単位とする。

総合実習（長唄） I-2

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：後期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線・唄・囃子との総合的かつ応用的な演奏技術の向上

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を各学年毎にまとめ、前期・後期に総合的な形（舞台形式）で成果を公開発表する。

■教材・参考書

年次毎の習得曲中より

■成績評価の方法

演奏会での成果を評価し、平常点も考慮する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度以降に入学の者は各 1 単位。平成 19 年度以前に入学の者は各 2 単位とする。

総合実習（長唄）Ⅱ-1

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：前期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線・唄・囃子との総合的かつ応用的な演奏技術の向上

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を各学年毎にまとめ、前期・後期に総合的な形（舞台形式）で成果を公開発表する。

■教材・参考書

年次毎の習得曲中より

■成績評価の方法

演奏会での成果を評価し、平常点も考慮する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度以降に入学の者は各 1 単位。平成 19 年度以前に入学の者は各 2 単位とする。

総合実習（長唄）Ⅱ-2

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：後期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線・唄・囃子との総合的かつ応用的な演奏技術の向上

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を各学年毎にまとめ、前期・後期に総合的な形（舞台形式）で成果を公開発表する。

■教材・参考書

年次毎の習得曲中より

■成績評価の方法

演奏会での成果を評価し、平常点も考慮する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度以降に入学の者は各 1 単位。平成 19 年度以前に入学の者は各 2 単位とする。

総合実習（長唄）Ⅲ-1

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：前期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線・唄・囃子との総合的かつ応用的な演奏技術の向上

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を各学年毎にまとめ、前期・後期に総合的な形（舞台形式）で成果を公開発表する。

■教材・参考書

年次毎の習得曲中より

■成績評価の方法

演奏会での成果を評価し、平常点も考慮する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度以降に入学の者は各 1 単位。平成 19 年度以前に入学の者は各 2 単位とする。

総合実習（長唄）Ⅲ-2

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：後期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線・唄・囃子との総合的かつ応用的な演奏技術の向上

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を各学年毎にまとめ、前期・後期に総合的な形（舞台形式）で成果を公開発表する。

■教材・参考書

年次毎の習得曲中より

■成績評価の方法

演奏会での成果を評価し、平常点も考慮する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度以降に入学の者は各 1 単位。平成 19 年度以前に入学の者は各 2 単位とする。

総合実習（長唄）IV-1

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：前期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線・唄・囃子との総合的かつ応用的な演奏技術の向上

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を各学年毎にまとめ、前期・後期に総合的な形（舞台形式）で成果を公開発表する。

■教材・参考書

年次毎の習得曲中より

■成績評価の方法

演奏会での成果を評価し、平常点も考慮する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度以降に入学の者は各 1 単位。平成 19 年度以前に入学の者は各 2 単位とする。

総合実習（長唄）IV-2

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：後期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線・唄・囃子との総合的かつ応用的な演奏技術の向上

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を各学年毎にまとめ、前期・後期に総合的な形（舞台形式）で成果を公開発表する。

■教材・参考書

年次毎の習得曲中より

■成績評価の方法

演奏会での成果を評価し、平常点も考慮する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度以降に入学の者は各 1 単位。平成 19 年度以前に入学の者は各 2 単位とする。

総合実習（長唄三味線） I -1

代表教員：小島 直文

曜日時限：その他

学 期：前期

単 位 数：1

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

三味線・唄・囃子との総合的かつ応用的な演奏技術の向上

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を各学年毎にまとめ、前期・後期に総合的な形（舞台形式）で成果を公開発表する。

■教材・参考書

年次毎の習得曲中より

■成績評価の方法

演奏会での成果を評価し、平常点も考慮する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度以降に入学の者は、前期・後期 1 単位ずつとし、平成 19 年度以前に入学の者は、前期・後期 2 単位ずつとする。

総合実習（長唄三味線） I -2

代表教員：小島 直文

曜日時限：その他

学 期：後期

単 位 数：1

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

三味線・唄・囃子との総合的かつ応用的な演奏技術の向上

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を各学年毎にまとめ、前期・後期に総合的な形（舞台形式）で成果を公開発表する。

■教材・参考書

年次毎の習得曲中より

■成績評価の方法

演奏会での成果を評価し、平常点も考慮する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度以降に入学の者は、前期・後期 1 単位ずつとし、平成 19 年度以前に入学の者は、前期・後期 2 単位ずつとする。

総合実習（長唄三味線）Ⅱ-1

代表教員：小島 直文

曜日時限：その他

学 期：前期

単 位 数：1

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

三味線・唄・囃子との総合的かつ応用的な演奏技術の向上

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を各学年毎にまとめ、前期・後期に総合的な形（舞台形式）で成果を公開発表する。

■教材・参考書

年次毎の習得曲中より

■成績評価の方法

演奏会での成果を評価し、平常点も考慮する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度以降に入学の者は、前期・後期 1 単位ずつとし、平成 19 年度以前に入学の者は、前期・後期 2 単位ずつとする。

総合実習（長唄三味線）Ⅱ-2

代表教員：小島 直文

曜日時限：その他

学 期：後期

単 位 数：1

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

三味線・唄・囃子との総合的かつ応用的な演奏技術の向上

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を各学年毎にまとめ、前期・後期に総合的な形（舞台形式）で成果を公開発表する。

■教材・参考書

年次毎の習得曲中より

■成績評価の方法

演奏会での成果を評価し、平常点も考慮する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度以降に入学の者は、前期・後期 1 単位ずつとし、平成 19 年度以前に入学の者は、前期・後期 2 単位ずつとする。

総合実習（長唄三味線）Ⅲ-1

代表教員：小島 直文

曜日時限：その他

学 期：前期

単 位 数：1

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

三味線・唄・囃子との総合的かつ応用的な演奏技術の向上

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を各学年毎にまとめ、前期・後期に総合的な形（舞台形式）で成果を公開発表する。

■教材・参考書

年次毎の習得曲中より

■成績評価の方法

演奏会での成果を評価し、平常点も考慮する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度以降に入学の者は、前期・後期 1 単位ずつとし、平成 19 年度以前に入学の者は、前期・後期 2 単位ずつとする。

総合実習（長唄三味線）Ⅲ-2

代表教員：小島 直文

曜日時限：その他

学 期：後期

単 位 数：1

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

三味線・唄・囃子との総合的かつ応用的な演奏技術の向上

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を各学年毎にまとめ、前期・後期に総合的な形（舞台形式）で成果を公開発表する。

■教材・参考書

年次毎の習得曲中より

■成績評価の方法

演奏会での成果を評価し、平常点も考慮する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度以降に入学の者は、前期・後期 1 単位ずつとし、平成 19 年度以前に入学の者は、前期・後期 2 単位ずつとする。

総合実習（長唄三味線）IV-1

代表教員：小島 直文

曜日時限：その他

学 期：前期

単 位 数：1

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

三味線・唄・囃子との総合的かつ応用的な演奏技術の向上

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を各学年毎にまとめ、前期・後期に総合的な形（舞台形式）で成果を公開発表する。

■教材・参考書

年次毎の習得曲中より

■成績評価の方法

演奏会での成果を評価し、平常点も考慮する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度以降に入学の者は、前期・後期 1 単位ずつとし、平成 19 年度以前に入学の者は、前期・後期 2 単位ずつとする。

総合実習（長唄三味線）IV-2

代表教員：小島 直文

曜日時限：その他

学 期：後期

単 位 数：1

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

三味線・唄・囃子との総合的かつ応用的な演奏技術の向上

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を各学年毎にまとめ、前期・後期に総合的な形（舞台形式）で成果を公開発表する。

■教材・参考書

年次毎の習得曲中より

■成績評価の方法

演奏会での成果を評価し、平常点も考慮する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度以降に入学の者は、前期・後期 1 単位ずつとし、平成 19 年度以前に入学の者は、前期・後期 2 単位ずつとする。

総合実習（長唄三味線）

代表教員：小島 直文

曜日時限：その他

学 期：前期

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

三味線・唄・囃子との総合的かつ応用的な演奏技術の向上

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を各学年毎にまとめ、前期・後期に総合的な形（舞台形式）で成果を公開発表する。

■教材・参考書

年次毎の習得曲中より

■成績評価の方法

演奏会での成果を評価し、平常点も考慮する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度以降入学の者は、前期・後期 1 単位ずつとし、平成 19 年度以前に入学の者は、前期・後期 2 単位ずつとする。

総合実習（長唄三味線）

代表教員：小島 直文

曜日時限：その他

学 期：後期

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

三味線・唄・囃子との総合的かつ応用的な演奏技術の向上

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を各学年毎にまとめ、前期・後期に総合的な形（舞台形式）で成果を公開発表する。

■教材・参考書

年次毎の習得曲中より

■成績評価の方法

演奏会での成果を評価し、平常点も考慮する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度以降に入学の者は、前期・後期 1 単位ずつとし、平成 19 年度以前に入学の者は、前期・後期 2 単位ずつとする。

総合実習（日本舞踊） I -1

代表教員：露木 雅弥
曜日時限：その他
学 期：前期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の楽曲を用いて曲のニュアンスを変えることなく踊りあげる、形ばかりにとらわれず自然な振付を習得する。

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

■成績評価の方法

出席を考慮し平常点及び試験で評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度入学の者は各 1 単位。平成 19 年度より以前に入学の者は各 2 単位とする。

総合実習（日本舞踊） I -2

代表教員：露木 雅弥
曜日時限：その他
学 期：後期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の楽曲を用いて曲のニュアンスを変えることなく踊りあげる、形ばかりにとらわれず自然な振付を習得する。

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

■成績評価の方法

出席を考慮し平常点及び試験で評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度入学の者は各 1 単位。平成 19 年度より以前に入学の者は各 2 単位とする。

総合実習（日本舞踊）Ⅱ-1

代表教員：露木 雅弥
曜日時限：その他
学 期：前期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の楽曲を用いて曲のニュアンスを変えることなく踊りあげる、形ばかりにとらわれず自然な振付を習得する。

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

■成績評価の方法

出席を考慮し平常点及び試験で評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度入学の者は各 1 単位。平成 19 年度より以前に入学の者は各 2 単位とする。

総合実習（日本舞踊）Ⅱ-2

代表教員：露木 雅弥
曜日時限：その他
学 期：後期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の楽曲を用いて曲のニュアンスを変えることなく踊りあげる、形ばかりにとらわれず自然な振付を習得する。

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

■成績評価の方法

出席を考慮し平常点及び試験で評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度入学の者は各 1 単位。平成 19 年度より以前に入学の者は各 2 単位とする。

総合実習（日本舞踊）Ⅲ-1

代表教員：露木 雅弥
曜日時限：その他
学 期：前期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の楽曲を用いて曲のニュアンスを変えることなく踊りあげる、形ばかりにとらわれず自然な振付を習得する。

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

■成績評価の方法

出席を考慮し平常点及び試験で評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度入学の者は各 1 単位。平成 19 年度より以前に入学の者は各 2 単位とする。

総合実習（日本舞踊）Ⅲ-2

代表教員：露木 雅弥
曜日時限：その他
学 期：後期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の楽曲を用いて曲のニュアンスを変えることなく踊りあげる、形ばかりにとらわれず自然な振付を習得する。

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

■成績評価の方法

出席を考慮し平常点及び試験で評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度入学の者は各 1 単位。平成 19 年度より以前に入学の者は各 2 単位とする。

総合実習（日本舞踊）Ⅳ-1

代表教員：露木 雅弥
曜日時限：その他
学 期：前期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の楽曲を用いて曲のニュアンスを変えることなく踊りあげる、形ばかりにとらわれず自然な振付を習得する。

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

■成績評価の方法

出席を考慮し平常点及び試験で評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度入学の者は各 1 単位。平成 19 年度より以前に入学の者は各 2 単位とする。

総合実習（日本舞踊）Ⅳ-2

代表教員：露木 雅弥
曜日時限：その他
学 期：後期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の楽曲を用いて曲のニュアンスを変えることなく踊りあげる、形ばかりにとらわれず自然な振付を習得する。

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

■成績評価の方法

出席を考慮し平常点及び試験で評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度入学の者は各 1 単位。平成 19 年度より以前に入学の者は各 2 単位とする。

総合実習（能楽）Ⅰ

代表教員：武田 孝史

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

謡・仕舞・囃子実技の総合的かつ応用的技術向上

■授業計画及び内容

日頃習得した実技をより総合的な形（舞台形式）で
成果発表する。

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

勉強会での演奏

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

総合実習（能楽）Ⅰ

代表教員：関根 知孝

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

謡・仕舞・囃子実技の総合的かつ応用的技術向上

■授業計画及び内容

日頃習得した実技をより総合的な形（舞台形式）で
成果発表する。

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

勉強会での演奏

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

総合実習（能楽）Ⅱ

代表教員：関根 知孝

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

謡・仕舞・囃子実技の総合的かつ応用的技術向上

■授業計画及び内容

日頃習得した実技をより総合的な形（舞台形式）で
成果発表する。

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

勉強会での演奏

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

総合実習（能楽）Ⅱ

代表教員：武田 孝史

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

謡・仕舞・囃子実技の総合的かつ応用的技術向上

■授業計画及び内容

日頃習得した実技をより総合的な形（舞台形式）で
成果発表する。

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

勉強会での演奏

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

総合実習（能楽）Ⅲ

代表教員：関根 知孝

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

謡・仕舞・囃子実技の総合的かつ応用的技術向上

■授業計画及び内容

日頃習得した実技をより総合的な形（舞台形式）で
成果発表する。

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

勉強会での演奏

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

総合実習（能楽）Ⅲ

代表教員：武田 孝史

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

謡・仕舞・囃子実技の総合的かつ応用的技術向上

■授業計画及び内容

日頃習得した実技をより総合的な形（舞台形式）で
成果発表する。

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

勉強会での演奏

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

総合実習（能楽）Ⅳ

代表教員：関根 知孝

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

謡・仕舞・囃子実技の総合的かつ応用的技術向上

■授業計画及び内容

日頃習得した実技をより総合的な形（舞台形式）で
成果発表する。

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

勉強会での演奏

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

総合実習（能楽）Ⅳ

代表教員：武田 孝史

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

謡・仕舞・囃子実技の総合的かつ応用的技術向上

■授業計画及び内容

日頃習得した実技をより総合的な形（舞台形式）で
成果発表する。

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

勉強会での演奏

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

総合実習（能楽囃子）Ⅰ

代表教員：武田 孝史

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

謡・仕舞・囃子実技の総合的かつ応用的技術向上

■授業計画及び内容

日頃修得した実技をより総合的な形（舞台形式）で
成果発表する

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

勉強会での演奏

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

総合実習（能楽囃子）Ⅱ

代表教員：武田 孝史

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

謡・仕舞・囃子実技の総合的かつ応用的技術向上

■授業計画及び内容

日頃修得した実技をより総合的な形（舞台形式）で
成果発表する

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

勉強会での演奏

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

総合実習（能楽囃子）Ⅲ

代表教員：武田 孝史

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

謡・仕舞・囃子実技の総合的かつ応用的技術向上

■授業計画及び内容

日頃修得した実技をより総合的な形（舞台形式）で
成果発表する

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

勉強会での演奏

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

総合実習（能楽囃子）Ⅳ

代表教員：武田 孝史

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

謡・仕舞・囃子実技の総合的かつ応用的技術向上

■授業計画及び内容

日頃修得した実技をより総合的な形（舞台形式）で
成果発表する

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

勉強会での演奏

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

総合実習（邦楽囃子（大鼓）） I-1

代表教員：盧 慶順
曜日時限：その他
学 期：前期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術およびアンサンブル技術の習得

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

邦楽囃子譜本

■成績評価の方法

出席を考慮し平常点及び試験で評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度入学の者は各 1 単位。平成 19 年度より以前に入学の者は各 2 単位とする。

総合実習（邦楽囃子（大鼓）） I-2

代表教員：盧 慶順
曜日時限：その他
学 期：後期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術およびアンサンブル技術の習得

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

邦楽囃子譜本

■成績評価の方法

出席を考慮し平常点及び試験で評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度入学の者は各 1 単位。平成 19 年度より以前に入学の者は各 2 単位とする。

総合実習（邦楽囃子（大鼓））Ⅱ-1

代表教員：盧 慶順
曜日時限：その他
学 期：前期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術およびアンサンブル技術の習得

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

邦楽囃子譜本

■成績評価の方法

出席を考慮し平常点及び試験で評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度入学の者は各 1 単位。平成 19 年度より以前に入学の者は各 2 単位とする。

総合実習（邦楽囃子（大鼓））Ⅱ-2

代表教員：盧 慶順
曜日時限：その他
学 期：後期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術およびアンサンブル技術の習得

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

邦楽囃子譜本

■成績評価の方法

出席を考慮し平常点及び試験で評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度入学の者は各 1 単位。平成 19 年度より以前に入学の者は各 2 単位とする。

総合実習（邦楽囃子（大鼓））Ⅲ-1

代表教員：盧 慶順
曜日時限：その他
学 期：前期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術およびアンサンブル技術の習得

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

邦楽囃子譜本

■成績評価の方法

出席を考慮し平常点及び試験で評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度入学の者は各 1 単位。平成 19 年度より以前に入学の者は各 2 単位とする。

総合実習（邦楽囃子（大鼓））Ⅲ-2

代表教員：盧 慶順
曜日時限：その他
学 期：後期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術およびアンサンブル技術の習得

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

邦楽囃子譜本

■成績評価の方法

出席を考慮し平常点及び試験で評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度以降に入学の者は各 1 単位。平成 19 年度以前に入学の者は各 2 単位とする。

総合実習（邦楽囃子（大鼓））IV-1

代表教員：盧 慶順
曜日時限：その他
学 期：前期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術およびアンサンブル技術の習得

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

邦楽囃子譜本

■成績評価の方法

出席を考慮し平常点及び試験で評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度入学の者は各 1 単位。平成 19 年度より以前に入学の者は各 2 単位とする。

総合実習（邦楽囃子（大鼓））IV-2

代表教員：盧 慶順
曜日時限：その他
学 期：後期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術およびアンサンブル技術の習得

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

邦楽囃子譜本

■成績評価の方法

出席を考慮し平常点及び試験で評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度入学の者は各 1 単位。平成 19 年度より以前に入学の者は各 2 単位とする。

総合実習（邦楽囃子（小鼓）） I-1

代表教員：盧 慶順
曜日時限：その他
学 期：前期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術およびアンサンブル技術の習得

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

邦楽囃子譜本

■成績評価の方法

出席を考慮し平常点及び試験で評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度入学の者は各 1 単位。平成 19 年度より以前に入学の者は各 2 単位とする。

総合実習（邦楽囃子（小鼓）） I-2

代表教員：盧 慶順
曜日時限：その他
学 期：後期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術およびアンサンブル技術の習得

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

邦楽囃子譜本

■成績評価の方法

出席を考慮し平常点及び試験で評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度入学の者は各 1 単位。平成 19 年度より以前に入学の者は各 2 単位とする。

総合実習（邦楽囃子（小鼓））Ⅱ-1

代表教員：盧 慶順
曜日時限：その他
学 期：前期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術およびアンサンブル技術の習得

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

邦楽囃子譜本

■成績評価の方法

出席を考慮し平常点及び試験で評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度入学の者は各 1 単位。平成 19 年度より以前に入学の者は各 2 単位とする。

総合実習（邦楽囃子（小鼓））Ⅱ-2

代表教員：盧 慶順
曜日時限：その他
学 期：後期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術およびアンサンブル技術の習得

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

邦楽囃子譜本

■成績評価の方法

出席を考慮し平常点及び試験で評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度入学の者は各 1 単位。平成 19 年度より以前に入学の者は各 2 単位とする。

総合実習（邦楽囃子（小鼓））Ⅲ-1

代表教員：盧 慶順
曜日時限：その他
学 期：前期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術およびアンサンブル技術の習得

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

邦楽囃子譜本

■成績評価の方法

出席を考慮し平常点及び試験で評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度入学の者は各 1 単位。平成 19 年度より以前に入学の者は各 2 単位とする。

総合実習（邦楽囃子（小鼓））Ⅲ-2

代表教員：盧 慶順
曜日時限：その他
学 期：後期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術およびアンサンブル技術の習得

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

邦楽囃子譜本

■成績評価の方法

出席を考慮し平常点及び試験で評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度入学の者は各 1 単位。平成 19 年度より以前に入学の者は各 2 単位とする。

総合実習（邦楽囃子（小鼓））IV-1

代表教員：盧 慶順
曜日時限：その他
学 期：前期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術およびアンサンブル技術の習得

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

邦楽囃子譜本

■成績評価の方法

出席を考慮し平常点及び試験で評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度入学の者は各 1 単位。平成 19 年度より以前に入学の者は各 2 単位とする。

総合実習（邦楽囃子（小鼓））IV-2

代表教員：盧 慶順
曜日時限：その他
学 期：後期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術およびアンサンブル技術の習得

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

邦楽囃子譜本

■成績評価の方法

出席を考慮し平常点及び試験で評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度入学の者は各 1 単位。平成 19 年度より以前に入学の者は各 2 単位とする。

総合実習（邦楽囃子（太鼓）） I-1

代表教員：盧 慶順
曜日時限：その他
学 期：前期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術およびアンサンブル技術の習得

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

邦楽囃子譜本

■成績評価の方法

出席を考慮し平常点及び試験で評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度入学の者は各 1 単位。平成 19 年度より以前に入学の者は各 2 単位とする。

総合実習（邦楽囃子（太鼓）） I-2

代表教員：盧 慶順
曜日時限：その他
学 期：後期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術およびアンサンブル技術の習得

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

邦楽囃子譜本

■成績評価の方法

出席を考慮し平常点及び試験で評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度入学の者は各 1 単位。平成 19 年度より以前に入学の者は各 2 単位とする。

総合実習（邦楽囃子（太鼓））Ⅱ-1

代表教員：盧 慶順
曜日時限：その他
学 期：前期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術およびアンサンブル技術の習得

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

邦楽囃子譜本

■成績評価の方法

出席を考慮し平常点及び試験で評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度入学の者は各 1 単位。平成 19 年度より以前に入学の者は各 2 単位とする。

総合実習（邦楽囃子（太鼓））Ⅱ-2

代表教員：盧 慶順
曜日時限：その他
学 期：後期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術およびアンサンブル技術の習得

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

邦楽囃子譜本

■成績評価の方法

出席を考慮し平常点及び試験で評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度入学の者は各 1 単位。平成 19 年度より以前に入学の者は各 2 単位とする。

総合実習（邦楽囃子（太鼓））Ⅲ-1

代表教員：盧 慶順
曜日時限：その他
学 期：前期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術およびアンサンブル技術の習得

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

邦楽囃子譜本

■成績評価の方法

出席を考慮し平常点及び試験で評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度入学の者は各 1 単位。平成 19 年度より以前に入学の者は各 2 単位とする。

総合実習（邦楽囃子（太鼓））Ⅲ-2

代表教員：盧 慶順
曜日時限：その他
学 期：後期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術およびアンサンブル技術の習得

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

邦楽囃子譜本

■成績評価の方法

出席を考慮し平常点及び試験で評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度入学の者は各 1 単位。平成 19 年度より以前に入学の者は各 2 単位とする。

総合実習（邦楽囃子（太鼓））IV-1

代表教員：盧 慶順
曜日時限：その他
学 期：前期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術およびアンサンブル技術の習得

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

邦楽囃子譜本

■成績評価の方法

出席を考慮し平常点及び試験で評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度入学の者は各 1 単位。平成 19 年度より以前に入学の者は各 2 単位とする。

総合実習（邦楽囃子（太鼓））IV-2

代表教員：盧 慶順
曜日時限：その他
学 期：後期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術およびアンサンブル技術の習得

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

邦楽囃子譜本

■成績評価の方法

出席を考慮し平常点及び試験で評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度入学の者は各 1 単位。平成 19 年度より以前に入学の者は各 2 単位とする。

総合実習（邦楽囃子（笛）） I -1

代表教員：盧 慶順
曜日時限：その他
学 期：前期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術およびアンサンブル技術の習得

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

邦楽囃子譜本

■成績評価の方法

出席を考慮し平常点及び試験で評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度入学の者は各 1 単位。平成 19 年度より以前に入学の者は各 2 単位とする。

総合実習（邦楽囃子（笛）） I -2

代表教員：盧 慶順
曜日時限：その他
学 期：後期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術およびアンサンブル技術の習得

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

邦楽囃子譜本

■成績評価の方法

出席を考慮し平常点及び試験で評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度入学の者は各 1 単位。平成 19 年度より以前に入学の者は各 2 単位とする。

総合実習（邦楽囃子（笛））Ⅱ-1

代表教員：盧 慶順
曜日時限：その他
学 期：前期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術およびアンサンブル技術の習得

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

邦楽囃子譜本

■成績評価の方法

出席を考慮し平常点及び試験で評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度入学の者は各 1 単位。平成 19 年度より以前に入学の者は各 2 単位とする。

総合実習（邦楽囃子（笛））Ⅱ-2

代表教員：盧 慶順
曜日時限：その他
学 期：後期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術およびアンサンブル技術の習得

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

邦楽囃子譜本

■成績評価の方法

出席を考慮し平常点及び試験で評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度入学の者は各 1 単位。平成 19 年度より以前に入学の者は各 2 単位とする。

総合実習（邦楽囃子（笛））Ⅲ-1

代表教員：盧 慶順
曜日時限：その他
学 期：前期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術およびアンサンブル技術の習得

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

邦楽囃子譜本

■成績評価の方法

出席を考慮し平常点及び試験で評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度入学の者は各 1 単位。平成 19 年度より以前に入学の者は各 2 単位とする。

総合実習（邦楽囃子（笛））Ⅲ-2

代表教員：盧 慶順
曜日時限：その他
学 期：後期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術およびアンサンブル技術の習得

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

邦楽囃子譜本

■成績評価の方法

出席を考慮し平常点及び試験で評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度入学の者は各 1 単位。平成 19 年度より以前に入学の者は各 2 単位とする。

総合実習（邦楽囃子（笛））IV-1

代表教員：盧 慶順
曜日時限：その他
学 期：前期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術およびアンサンブル技術の習得

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

邦楽囃子譜本

■成績評価の方法

出席を考慮し平常点及び試験で評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度入学の者は各 1 単位。平成 19 年度より以前に入学の者は各 2 単位とする。

総合実習（邦楽囃子（笛））IV-2

代表教員：盧 慶順
曜日時限：その他
学 期：後期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三味線音楽の総合的実習により演奏技術およびアンサンブル技術の習得

■授業計画及び内容

習得した専攻実技を総合的な舞台形式で前期・後期に公開発表する。

■教材・参考書

邦楽囃子譜本

■成績評価の方法

出席を考慮し平常点及び試験で評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成 20 年度入学の者は各 1 単位。平成 19 年度より以前に入学の者は各 2 単位とする。

総合実習（山田流） I -1

代表教員：萩岡 松韻
曜日時限：その他
学 期：前期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

箏・三絃の合奏を通して楽曲の演奏法、表現法を学ぶ。

■授業計画及び内容

1年次～4年次までの専攻学生個人レッスンをふまえ、年度内各期1回、舞台上で発表する。

■教材・参考書

■成績評価の方法

舞台上での演奏による。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成20年度入学の者は各1単位。平成19年度より以前に入学の者は各2単位とする。

総合実習（山田流） I -2

代表教員：萩岡 松韻
曜日時限：その他
学 期：後期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

箏・三絃の合奏を通して楽曲の演奏法、表現法を学ぶ。

■授業計画及び内容

1年次～4年次までの専攻学生個人レッスンをふまえ、年度内各期1回、舞台上で発表する。

■教材・参考書

■成績評価の方法

舞台上での演奏による。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成20年度入学の者は各1単位。平成19年度より以前に入学の者は各2単位とする。

総合実習（山田流）Ⅱ-1

代表教員：萩岡 松韻

曜日時限：その他

学 期：前期

単 位 数：1

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

箏・三絃の合奏を通して楽曲の演奏法、表現法を学ぶ。

■授業計画及び内容

1年次～4年次までの専攻学生個人レッスンをふまえ、年度内各期1回、舞台上で発表する。

■教材・参考書

■成績評価の方法

舞台上での演奏による。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成20年度入学の者は各1単位。平成19年度より以前に入学の者は各2単位とする。

総合実習（山田流）Ⅱ-2

代表教員：萩岡 松韻

曜日時限：その他

学 期：後期

単 位 数：1

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

箏・三絃の合奏を通して楽曲の演奏法、表現法を学ぶ。

■授業計画及び内容

1年次～4年次までの専攻学生個人レッスンをふまえ、年度内各期1回、舞台上で発表する。

■教材・参考書

■成績評価の方法

舞台上での演奏による。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成20年度入学の者は各1単位。平成19年度より以前に入学の者は各2単位とする。

総合実習（山田流）Ⅲ-1

代表教員：萩岡 松韻
曜日時限：その他
学 期：前期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

箏・三絃の合奏を通して楽曲の演奏法、表現法を学ぶ。

■授業計画及び内容

1年次～4年次までの専攻学生個人レッスンをふまえ、年度内各期1回、舞台上で発表する。

■教材・参考書

■成績評価の方法

舞台上での演奏による。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成20年度入学の者は各1単位。平成19年度より以前に入学の者は各2単位とする。

総合実習（山田流）Ⅲ-2

代表教員：萩岡 松韻
曜日時限：その他
学 期：後期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

箏・三絃の合奏を通して楽曲の演奏法、表現法を学ぶ。

■授業計画及び内容

1年次～4年次までの専攻学生個人レッスンをふまえ、年度内各期1回、舞台上で発表する。

■教材・参考書

■成績評価の方法

舞台上での演奏による。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成20年度入学の者は各1単位。平成19年度より以前に入学の者は各2単位とする。

総合実習（山田流）IV-1

代表教員：萩岡 松韻
曜日時限：その他
学 期：前期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

箏・三絃の合奏を通して楽曲の演奏法、表現法を学ぶ。

■授業計画及び内容

1年次～4年次までの専攻学生個人レッスンをふまえ、年度内各期1回、舞台上で発表する。

■教材・参考書

■成績評価の方法

舞台上での演奏による。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成20年度入学の者は各1単位。平成19年度より以前に入学の者は各2単位とする。

総合実習（山田流）IV-2

代表教員：萩岡 松韻
曜日時限：その他
学 期：後期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

箏・三絃の合奏を通して楽曲の演奏法、表現法を学ぶ。

■授業計画及び内容

1年次～4年次までの専攻学生個人レッスンをふまえ、年度内各期1回、舞台上で発表する。

■教材・参考書

■成績評価の方法

舞台上での演奏による。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成20年度入学の者は各1単位。平成19年度より以前に入学の者は各2単位とする。

総合実習外曲（琴古流） I-1

代表教員：徳丸 裕二

曜日時限：その他

学 期：前期

単 位 数：1

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

三曲合奏形式による箏曲との合奏の技術向上

■授業計画及び内容

1年次～4年次までの専攻学生個人レッスン及び箏曲との合奏レッスンをふまえ、年度内各期1回、舞台での発表を行う。

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

舞台での演奏による。

■履修上の指示事項

演奏曲目の選定にあたっては指導教員と十分な相談の上決定すること。

■備考（オフィスアワー）

平成20年度以降入学の者は、前期・後期1単位ずつとし、平成19年度以前に入学の者は、前期・後期2単位ずつとする。

総合実習外曲（都山流） I-1

代表教員：藤原 圭太

曜日時限：その他

学 期：前期

単 位 数：1

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

三曲合奏形式による箏曲との合奏の技術向上

■授業計画及び内容

1年次～4年次までの専攻学生個人レッスン及び箏曲との合奏レッスンをふまえ、年度内各期1回、舞台での発表を行う。

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

舞台での演奏による。

■履修上の指示事項

演奏曲目の選定にあたっては指導教員と十分な相談の上決定すること。

■備考（オフィスアワー）

平成20年度以降入学の者は、前期・後期1単位ずつとし、平成19年度以前に入学の者は、前期・後期2単位ずつとする。

総合実習外曲（琴古流）Ⅰ-2

代表教員：徳丸 裕二

曜日時限：その他

学 期：後期

単 位 数：1

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

三曲合奏形式による箏曲との合奏の技術向上

■授業計画及び内容

1年次～4年次までの専攻学生個人レッスン及び箏曲との合奏レッスンをふまえ、年度内各期1回、舞台での発表を行う。

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

舞台での演奏による。

■履修上の指示事項

演奏曲目の選定にあたっては指導教員と十分な相談の上決定すること。

■備考（オフィスアワー）

平成20年度以降入学の者は、前期・後期1単位ずつとし、平成19年度以前に入学の者は、前期・後期2単位ずつとする。

総合実習外曲（琴古流）Ⅱ-1

代表教員：徳丸 裕二

曜日時限：その他

学 期：前期

単 位 数：1

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

三曲合奏形式による箏曲との合奏の技術向上

■授業計画及び内容

1年次～4年次までの専攻学生個人レッスン及び箏曲との合奏レッスンをふまえ、年度内各期1回、舞台での発表を行う。

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

舞台での演奏による。

■履修上の指示事項

演奏曲目の選定にあたっては指導教員と十分な相談の上決定すること。

■備考（オフィスアワー）

平成20年度以降入学の者は、前期・後期1単位ずつとし、平成19年度以前に入学の者は、前期・後期2単位ずつとする。

総合実習外曲（琴古流）Ⅱ-2

代表教員：徳丸 裕二

曜日時限：その他

学 期：後期

単 位 数：1

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

三曲合奏形式による箏曲との合奏の技術向上

■授業計画及び内容

1年次～4年次までの専攻学生個人レッスン及び箏曲との合奏レッスンをふまえ、年度内各期1回、舞台での発表を行う。

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

舞台での演奏による。

■履修上の指示事項

演奏曲目の選定にあたっては指導教員と十分な相談の上決定すること。

■備考（オフィスアワー）

平成20年度以降入学の者は、前期・後期1単位ずつとし、平成19年度以前に入学の者は、前期・後期2単位ずつとする。

総合実習外曲（琴古流）Ⅲ-1

代表教員：徳丸 裕二

曜日時限：その他

学 期：前期

単 位 数：1

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

三曲合奏形式による箏曲との合奏の技術向上

■授業計画及び内容

1年次～4年次までの専攻学生個人レッスン及び箏曲との合奏レッスンをふまえ、年度内各期1回、舞台での発表を行う。

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

舞台での演奏による。

■履修上の指示事項

演奏曲目の選定にあたっては指導教員と十分な相談の上決定すること。

■備考（オフィスアワー）

平成20年度以降入学の者は、前期・後期1単位ずつとし、平成19年度以前に入学の者は、前期・後期2単位ずつとする。

総合実習外曲（琴古流）Ⅲ-2

代表教員：徳丸 裕二
曜日時限：その他
学 期：後期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三曲合奏形式による箏曲との合奏の技術向上

■授業計画及び内容

1年次～4年次までの専攻学生個人レッスン及び箏曲との合奏レッスンをふまえ、年度内各期1回、舞台での発表を行う。

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

舞台での演奏による。

■履修上の指示事項

演奏曲目の選定にあたっては指導教員と十分な相談の上決定すること。

■備考（オフィスアワー）

平成20年度以降入学の者は、前期・後期1単位ずつとし、平成19年度以前に入学の者は、前期・後期2単位ずつとする。

総合実習外曲（琴古流）Ⅳ-1

代表教員：徳丸 裕二
曜日時限：その他
学 期：前期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三曲合奏形式による箏曲との合奏の技術向上

■授業計画及び内容

1年次～4年次までの専攻学生個人レッスン及び箏曲との合奏レッスンをふまえ、年度内各期1回、舞台での発表を行う。

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

舞台での演奏による。

■履修上の指示事項

演奏曲目の選定にあたっては指導教員と十分な相談の上決定すること。

■備考（オフィスアワー）

平成20年度以降入学の者は、前期・後期1単位ずつとし、平成19年度以前に入学の者は、前期・後期2単位ずつとする。

総合実習外曲（琴古流）IV-2

代表教員：徳丸 裕二
曜日時限：その他
学 期：後期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三曲合奏形式による箏曲との合奏の技術向上

■授業計画及び内容

1年次～4年次までの専攻学生個人レッスン及び箏曲との合奏レッスンをふまえ、年度内各期1回、舞台での発表を行う。

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

舞台での演奏による。

■履修上の指示事項

演奏曲目の選定にあたっては指導教員と十分な相談の上決定すること。

■備考（オフィスアワー）

平成20年度以降入学の者は、前期・後期1単位ずつとし、平成19年度以前に入学の者は、前期・後期2単位ずつとする。

総合実習外曲（都山流）I-2

代表教員：藤原 圭太
曜日時限：その他
学 期：後期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三曲合奏形式による箏曲との合奏の技術向上

■授業計画及び内容

1年次～4年次までの専攻学生個人レッスン及び箏曲との合奏レッスンをふまえ、年度内各期1回、舞台での発表を行う。

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

舞台での演奏による。

■履修上の指示事項

演奏曲目の選定にあたっては指導教員と十分な相談の上決定すること。

■備考（オフィスアワー）

平成20年度以降入学の者は、前期・後期1単位ずつとし、平成19年度以前に入学の者は、前期・後期2単位ずつとする。

総合実習外曲（都山流）Ⅱ-1

代表教員：藤原 圭太
曜日時限：その他
学 期：前期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三曲合奏形式による箏曲との合奏の技術向上

■授業計画及び内容

1年次～4年次までの専攻学生個人レッスン及び箏曲との合奏レッスンをふまえ、年度内各期1回、舞台での発表を行う。

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

舞台での演奏による。

■履修上の指示事項

演奏曲目の選定にあたっては指導教員と十分な相談の上決定すること。

■備考（オフィスアワー）

平成20年度以降入学の者は、前期・後期1単位ずつとし、平成19年度以前に入学の者は、前期・後期2単位ずつとする。

総合実習外曲（都山流）Ⅱ-2

代表教員：藤原 圭太
曜日時限：その他
学 期：後期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三曲合奏形式による箏曲との合奏の技術向上

■授業計画及び内容

1年次～4年次までの専攻学生個人レッスン及び箏曲との合奏レッスンをふまえ、年度内各期1回、舞台での発表を行う。

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

舞台での演奏による。

■履修上の指示事項

演奏曲目の選定にあたっては指導教員と十分な相談の上決定すること。

■備考（オフィスアワー）

平成20年度以降入学の者は、前期・後期1単位ずつとし、平成19年度以前に入学の者は、前期・後期2単位ずつとする。

総合実習外曲（都山流）Ⅲ-1

代表教員：藤原 圭太

曜日時限：その他

学 期：前期

単 位 数：1

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

三曲合奏形式による箏曲との合奏の技術向上

■授業計画及び内容

1年次～4年次までの専攻学生個人レッスン及び箏曲との合奏レッスンをふまえ、年度内各期1回、舞台での発表を行う。

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

舞台での演奏による。

■履修上の指示事項

演奏曲目の選定にあたっては指導教員と十分な相談の上決定すること。

■備考（オフィスアワー）

平成20年度以降入学の者は、前期・後期1単位ずつとし、平成19年度以前に入学の者は、前期・後期2単位ずつとする。

総合実習外曲（都山流）Ⅲ-2

代表教員：藤原 圭太

曜日時限：その他

学 期：後期

単 位 数：1

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

三曲合奏形式による箏曲との合奏の技術向上

■授業計画及び内容

1年次～4年次までの専攻学生個人レッスン及び箏曲との合奏レッスンをふまえ、年度内各期1回、舞台での発表を行う。

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

舞台での演奏による。

■履修上の指示事項

演奏曲目の選定にあたっては指導教員と十分な相談の上決定すること。

■備考（オフィスアワー）

平成20年度以降入学の者は、前期・後期1単位ずつとし、平成19年度以前に入学の者は、前期・後期2単位ずつとする。

総合実習外曲（都山流）IV-1

代表教員：藤原 圭太
曜日時限：その他
学 期：前期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三曲合奏形式による箏曲との合奏の技術向上

■授業計画及び内容

1年次～4年次までの専攻学生個人レッスン及び箏曲との合奏レッスンをふまえ、年度内各期1回、舞台での発表を行う。

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

舞台での演奏による。

■履修上の指示事項

演奏曲目の選定にあたっては指導教員と十分な相談の上決定すること。

■備考（オフィスアワー）

平成20年度以降入学の者は、前期・後期1単位ずつとし、平成19年度以前に入学の者は、前期・後期2単位ずつとする。

総合実習外曲（都山流）IV-2

代表教員：藤原 圭太
曜日時限：その他
学 期：後期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

三曲合奏形式による箏曲との合奏の技術向上

■授業計画及び内容

1年次～4年次までの専攻学生個人レッスン及び箏曲との合奏レッスンをふまえ、年度内各期1回、舞台での発表を行う。

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

舞台での演奏による。

■履修上の指示事項

演奏曲目の選定にあたっては指導教員と十分な相談の上決定すること。

■備考（オフィスアワー）

平成20年度以降入学の者は、前期・後期1単位ずつとし、平成19年度以前に入学の者は、前期・後期2単位ずつとする。

総合実習本曲（都山流）Ⅰ

代表教員：藤原 圭太
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

都山流尺八本曲の奏法等総合的な技術向上

■授業計画及び内容

1年次～4年次までの専攻学生個人レッスンをふまえ、年度内1回、舞台での発表を行う。平成18年度以降の入学者は年度内1回（通年2単位）

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

舞台での演奏による。

■履修上の指示事項

演奏曲目の選定にあたっては指導教員と十分な相談の上決定すること。

■備考（オフィスアワー）

総合実習本曲（都山流）Ⅱ

代表教員：藤原 圭太
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

都山流尺八本曲の奏法等総合的な技術向上

■授業計画及び内容

1年次～4年次までの専攻学生個人レッスンをふまえ、年度内1回、舞台での発表を行う。平成18年度以降の入学者は年度内1回（通年2単位）

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

舞台での演奏による。

■履修上の指示事項

演奏曲目の選定にあたっては指導教員と十分な相談の上決定すること。

■備考（オフィスアワー）

総合実習本曲（都山流）Ⅲ

代表教員：藤原 圭太
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

都山流尺八本曲の奏法等総合的な技術向上

■授業計画及び内容

1年次～4年次までの専攻学生個人レッスンをふまえ、年度内1回、舞台での発表を行う。平成18年度以降の入学者は年度内1回（通年2単位）

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

舞台での演奏による。

■履修上の指示事項

演奏曲目の選定にあたっては指導教員と十分な相談の上決定すること。

■備考（オフィスアワー）

総合実習本曲（都山流）Ⅳ

代表教員：藤原 圭太
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

都山流尺八本曲の奏法等総合的な技術向上

■授業計画及び内容

1年次～4年次までの専攻学生個人レッスンをふまえ、年度内1回、舞台での発表を行う。平成18年度以降の入学者は年度内1回（通年2単位）

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

舞台での演奏による。

■履修上の指示事項

演奏曲目の選定にあたっては指導教員と十分な相談の上決定すること。

■備考（オフィスアワー）

総合実習本曲（琴古流）Ⅰ

代表教員：徳丸 裕二

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

琴古流尺八本曲の奏法等総合的な技術向上

■授業計画及び内容

1年次～4年次までの専攻学生個人レッスンをふまえ、年度内1回、舞台での発表を行う。平成18年度以降の入学者は年度内1回（通年2単位）

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

舞台での演奏による。

■履修上の指示事項

演奏曲目の選定にあたっては指導教員と十分な相談の上決定すること。

■備考（オフィスアワー）

総合実習本曲（琴古流）Ⅱ

代表教員：徳丸 裕二

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

琴古流尺八本曲の奏法等総合的な技術向上

■授業計画及び内容

1年次～4年次までの専攻学生個人レッスンをふまえ、年度内1回、舞台での発表を行う。平成18年度以降の入学者は年度内1回（通年2単位）

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

舞台での演奏による。

■履修上の指示事項

演奏曲目の選定にあたっては指導教員と十分な相談の上決定すること。

■備考（オフィスアワー）

総合実習本曲（琴古流）Ⅲ

代表教員：徳丸 裕二

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

琴古流尺八本曲の奏法等総合的な技術向上

■授業計画及び内容

1年次～4年次までの専攻学生個人レッスンをふまえ、年度内1回、舞台での発表を行う。平成18年度以降の入学者は年度内1回（通年2単位）

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

舞台での演奏による。

■履修上の指示事項

演奏曲目の選定にあたっては指導教員と十分な相談の上決定すること。

■備考（オフィスアワー）

総合実習本曲（琴古流）Ⅳ

代表教員：徳丸 裕二

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

琴古流尺八本曲の奏法等総合的な技術向上

■授業計画及び内容

1年次～4年次までの専攻学生個人レッスンをふまえ、年度内1回、舞台での発表を行う。平成18年度以降の入学者は年度内1回（通年2単位）

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

舞台での演奏による。

■履修上の指示事項

演奏曲目の選定にあたっては指導教員と十分な相談の上決定すること。

■備考（オフィスアワー）

卒業演奏（雅楽）

代表教員：増田 千斐
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

習得した専門技術の総合的実習

■授業計画及び内容

4年次後期に行う、公開演奏会形式の試験

■教材・参考書

■成績評価の方法

演奏会での成績

■履修上の指示事項

曲目、助演者の選定にあたっては指導教員との十分な相談の上決定すること。

■備考（オフィスアワー）

卒業演奏（清元）

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

習得した専門技術の総合的実習

■授業計画及び内容

学外からの助演者を認めた舞台での公開演奏会による試験

※助演者の選定にあたっては指導教員との十分な相談の上決定すること。

■教材・参考書

■成績評価の方法

公開試験を重視する評価法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

卒業演奏（清元三味線）

代表教員：小島 直文

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

習得した専門技術の総合的実習

■授業計画及び内容

学外からの助演者を認めた舞台での公開演奏会による試験

※助演者の選定にあたっては指導教員との十分な相談の上決定すること。

■教材・参考書

■成績評価の方法

公開試験を重視する評価法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

卒業演奏（尺八（琴古流））

代表教員：徳丸 裕二

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

習得した専門技術の総合的実習

■授業計画及び内容

公開による演奏会形式の試験

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

舞台での演奏によるが、4年間のレッスンの総合的な面も考慮する。

■履修上の指示事項

曲目の選定にあたっては、指導教員と十分に相談すること。

■備考（オフィスアワー）

卒業演奏（尺八（都山流））

代表教員：藤原 圭太
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

習得した専門技術の総合的実習

■授業計画及び内容

公開による演奏会形式の試験

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

舞台での演奏によるが、4年間のレッスンの総合的な面も考慮する。

■履修上の指示事項

曲目の選定にあたっては、指導教員と十分に相談すること。

■備考（オフィスアワー）

卒業演奏（箏曲（生田流））

代表教員：吉川 さとみ
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

4年間の修学の成果を発表する。独奏の他、箏・十七絃・三味線・尺八との合奏を行うこともある。

■授業計画及び内容

4年次の1月ごろに公開で行われる。伴奏が必要な場合には、原則として助手・大学院生が行う。

■教材・参考書

大日本家庭音楽会発行楽譜 邦楽社発行楽譜

■成績評価の方法

演奏の成果

■履修上の指示事項

選曲は、教員の指定による。

■備考（オフィスアワー）

メールで問い合わせること。

卒業演奏（箏曲（山田流））

代表教員：萩岡 松韻

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

習得した専門技術の総合的実習

■授業計画及び内容

公開による演奏会形式の試験

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

舞台での演奏によるが、4年間のレッスンの総合的な面も考慮する。

■履修上の指示事項

曲目の選定にあたっては、指導教員と十分に相談すること。

■備考（オフィスアワー）

卒業演奏（常磐津）

代表教員：味見 純

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

習得した専門技術の総合的実習

■授業計画及び内容

学外からの助演者を認めた舞台での公開演奏会による試験

※助演者の選定にあたっては指導教員との十分な相談の上決定すること。

■教材・参考書

■成績評価の方法

公開試験を重視する評価法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

卒業演奏（常磐津三味線）

代表教員：小島 直文
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

習得した専門技術の総合的実習

■授業計画及び内容

学外からの助演者を認めた舞台での公開演奏会による試験

※助演者の選定にあたっては指導教員との十分な相談の上決定すること。

■教材・参考書

■成績評価の方法

公開試験を重視する評価法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

卒業演奏（長唄）

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

習得した専門技術の総合的実習

■授業計画及び内容

学外からの助演者を認めた舞台での公開演奏会による試験

※助演者の選定にあたっては指導教員との十分な相談の上決定すること。

■教材・参考書

■成績評価の方法

公開試験を重視する評価法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

卒業演奏（長唄三味線）

代表教員：小島 直文

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

習得した専門技術の総合的実習

■授業計画及び内容

学外からの助演者を認めた舞台での公開演奏会による試験

※助演者の選定にあたっては指導教員との十分な相談の上決定すること。

■教材・参考書

■成績評価の方法

公開試験を重視する評価法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

卒業演奏（日本舞踊）

代表教員：味見 純

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

習得した専門技術の総合的習得

■授業計画及び内容

学外からの助演者を認めた舞台での公開演奏会による試験

■教材・参考書

■成績評価の方法

試験の成績

■履修上の指示事項

助演者の選定にあたっては指導教員との十分な相談の上決定すること。

■備考（オフィスアワー）

卒業演奏（能楽）

代表教員：武田 孝史

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

習得した専門技術（シテ・ワキ・狂言・能楽囃子）
の総合的実習

■授業計画及び内容

舞台での演能・演奏による試験

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

演能・演奏を評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

卒業演奏（能楽）

代表教員：関根 知孝

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

習得した専門技術（シテ・ワキ・狂言・能楽囃子）
の総合的実習

■授業計画及び内容

舞台での演能・演奏による試験

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

演能・演奏を評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

卒業演奏（能楽囃子（大鼓））

代表教員：佃 良勝
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

習得した専門技術（シテ・ワキ・狂言・能楽囃子）
の総合的実習

■授業計画及び内容

舞台での演能・演奏による試験

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

演能・演奏を評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

卒業演奏（能楽囃子（小鼓））

代表教員：曾和 正博
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

習得した専門技術（シテ・ワキ・狂言・能楽囃子）
の総合的実習

■授業計画及び内容

舞台での演能・演奏による試験

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

演能・演奏を評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

卒業演奏（能楽囃子（太鼓））

代表教員：観世 元則

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

習得した専門技術（シテ・ワキ・狂言・能楽囃子）
の総合的実習

■授業計画及び内容

舞台での演能・演奏による試験

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

演能・演奏を評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

卒業演奏（能楽囃子（笛））

代表教員：藤田 次郎

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

習得した専門技術（シテ・ワキ・狂言・能楽囃子）
の総合的実習

■授業計画及び内容

舞台での演能・演奏による試験

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

演能・演奏を評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

卒業演奏（邦楽囃子（打物））

代表教員：盧 慶順
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

習得した高度な専門技術の総合的実習

■授業計画及び内容

教員が許可する助演者と舞台形式で演奏する公開試験（4年次）

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

平常点を加味しつつ公開試験を重視する評価法

■履修上の指示事項

曲目の選定にあたっては、指導教員と十分に相談すること。

■備考（オフィスアワー）

技術面と精神面の訓育を重視

卒業演奏（邦楽囃子（大鼓））

代表教員：盧 慶順
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

習得した高度な専門技術の総合的実習

■授業計画及び内容

教員が許可する助演者と舞台形式で演奏する公開試験（4年次）

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

平常点を加味しつつ公開試験を重視する評価法

■履修上の指示事項

曲目の選定にあたっては、指導教員と十分に相談すること。

■備考（オフィスアワー）

技術面と精神面の訓育を重視

卒業演奏（邦楽囃子（小鼓））

代表教員：盧 慶順
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

習得した高度な専門技術の総合的実習

■授業計画及び内容

教員が許可する助演者と舞台形式で演奏する公開試験（4年次）

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

平常点を加味しつつ公開試験を重視する評価法

■履修上の指示事項

曲目の選定にあたっては、指導教員と十分に相談すること。

■備考（オフィスアワー）

技術面と精神面の訓育を重視

卒業演奏（邦楽囃子（太鼓））

代表教員：盧 慶順
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

習得した高度な専門技術の総合的実習

■授業計画及び内容

教員が許可する助演者と舞台形式で演奏する公開試験（4年次）

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

平常点を加味しつつ公開試験を重視する評価法

■履修上の指示事項

曲目の選定にあたっては、指導教員と十分に相談すること。

■備考（オフィスアワー）

技術面と精神面の訓育を重視

卒業演奏（邦楽囃子（笛））

代表教員：盧 慶順
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

習得した高度な専門技術の総合的実習

■授業計画及び内容

教員が許可する助演者と舞台形式で演奏する公開試験（4年次）

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

平常点を加味しつつ公開試験を重視する評価法

■履修上の指示事項

曲目の選定にあたっては、指導教員と十分に相談すること。

■備考（オフィスアワー）

技術面と精神面の訓育を重視

他様式の浄瑠璃

代表教員：テスト教員1
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

常磐津浄瑠璃・常磐津三味線のより高度な技術の習得

■授業計画及び内容

個人指導による履習曲の習得

■教材・参考書

常磐津浄瑠璃譜本・常磐津三味線譜本

■成績評価の方法

出席を考慮しながら平常点及び総合実習に於ける演奏評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

他様式の能楽

代表教員：野村 武司
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

能楽専攻生が専攻意外のシテ・ワキ・狂言の実習を通して、総合的な技術向上を目指す。

■授業計画及び内容

個人指導による授業

■教材・参考書

■成績評価の方法

平常点及び出席

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

他流派の尺八（琴古流）

代表教員：徳丸 裕二
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

琴古流尺八の演奏技術の習得

■授業計画及び内容

3年次の都山流専攻生を対象とし、実技レッスンをふまえ、年度末に試験を課す。

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

出席及び試験による。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平成20年度生は半期2単の通年4単位

他流派の尺八（都山流）

代表教員：藤原 圭太

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

都山流尺八曲の基本的技術の習得

■授業計画及び内容

3年次の琴古流専攻学生を対象とし、実技レッスンをふまえ、年度末に試験を課す

■教材・参考書

適宜指示する

■成績評価の方法

出席及び試験による

■履修上の指示事項

楽器は個人所有のもので構わない

■備考（オフィスアワー）

平成20年度生は半期2単位の通年4単

舞楽実技 I

代表教員：岩波 孝昌

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

各人の専門の舞（左方・右方のうち一つ）の技術の習得

■授業計画及び内容

平舞及び走舞を課題に沿って順次習得

■教材・参考書

特に使用しない

■成績評価の方法

試験及び平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

舞楽実技Ⅱ

代表教員：岩波 孝昌

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

各人の専門の舞（左方・右方のうち一つ）の技術の習得

■授業計画及び内容

平舞及び走舞を課題に沿って順次習得

■教材・参考書

特に使用しない

■成績評価の方法

試験及び平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

舞楽実技Ⅲ

代表教員：岩波 孝昌

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

各人の専門の舞（左方・右方のうち一つ）の技術の習得

■授業計画及び内容

平舞及び走舞を課題に沿って順次習得

■教材・参考書

特に使用しない

■成績評価の方法

試験及び平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

舞楽実技Ⅳ

代表教員：岩波 孝昌

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

各人の専門の舞（左方・右方のうち一つ）の技術の習得

■授業計画及び内容

平舞及び走舞を課題に沿って順次習得

■教材・参考書

特に使用しない

■成績評価の方法

試験及び平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

副主専攻大鼓（能楽囃子）Ⅰ

代表教員：佃 良勝

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

高安流大鼓の演奏技術習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで高安流手附に添っての個人指導

■教材・参考書

高安流大鼓手附

■成績評価の方法

出席を考慮しながら平常点重視の評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

副主専攻大鼓（能楽囃子）Ⅱ

代表教員：佃 良勝
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

高安流大鼓の演奏技術習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで高安流手附に添っての個人指導

■教材・参考書

高安流大鼓手附

■成績評価の方法

出席を考慮しながら平常点重視の評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

副主専攻大鼓（能楽囃子）Ⅲ

代表教員：佃 良勝
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

高安流大鼓の演奏技術習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで高安流手附に添っての個人指導

■教材・参考書

高安流大鼓手附

■成績評価の方法

出席を考慮しながら平常点重視の評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

副主専攻大鼓（能楽囃子）Ⅳ

代表教員：佃 良勝
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

高安流大鼓の演奏技術習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで高安流手附に添っての個人指導

■教材・参考書

高安流大鼓手附

■成績評価の方法

出席を考慮しながら平常点重視の評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

副主専攻清元（三味線音楽）Ⅰ

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

清元・清元三味線専攻生に対して清元三味線・清元の基礎的演奏技術の習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで必修個人指導

■教材・参考書

清元浄瑠璃・清元三味線譜本

■成績評価の方法

出席を考慮し平常点及び試験で評価

■履修上の指示事項

前期・後期各2単位

■備考（オフィスアワー）

副主専攻清元（三味線音楽）Ⅱ

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

清元・清元三味線専攻生に対して清元三味線・清元の基礎的演奏技術の習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで必修個人指導

■教材・参考書

清元浄瑠璃・清元三味線譜本

■成績評価の方法

出席を考慮し平常点及び試験で評価

■履修上の指示事項

前期・後期各2単位

■備考（オフィスアワー）

副主専攻清元（三味線音楽）Ⅲ

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

清元・清元三味線専攻生に対して清元三味線・清元の基礎的演奏技術の習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで必修個人指導

■教材・参考書

清元浄瑠璃・清元三味線譜本

■成績評価の方法

出席を考慮し平常点及び試験で評価

■履修上の指示事項

前期・後期各2単位

■備考（オフィスアワー）

副主専攻清元（三味線音楽）Ⅳ

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

清元・清元三味線専攻生に対して清元三味線・清元の基礎的演奏技術の習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで必修個人指導

■教材・参考書

清元浄瑠璃・清元三味線譜本

■成績評価の方法

出席を考慮し平常点及び試験で評価

■履修上の指示事項

前期・後期各2単位

■備考（オフィスアワー）

副主専攻清元三味線（三味線音楽）Ⅰ

代表教員：小島 直文
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

清元・清元三味線専攻生に対して清元三味線・清元の基礎的演奏技術の習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで必修個人指導

■教材・参考書

清元浄瑠璃・清元三味線譜本

■成績評価の方法

出席を考慮し平常点及び試験で評価

■履修上の指示事項

前期・後期各2単位

■備考（オフィスアワー）

副主専攻清元三味線（三味線音楽）Ⅱ

代表教員：小島 直文

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

清元・清元三味線専攻生に対して清元三味線・清元の基礎的演奏技術の習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで必修個人指導

■教材・参考書

清元浄瑠璃・清元三味線譜本

■成績評価の方法

出席を考慮し平常点及び試験で評価

■履修上の指示事項

前期・後期各2単位

■備考（オフィスアワー）

副主専攻清元三味線（三味線音楽）Ⅲ

代表教員：小島 直文

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

清元・清元三味線専攻生に対して清元三味線・清元の基礎的演奏技術の習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで必修個人指導

■教材・参考書

清元浄瑠璃・清元三味線譜本

■成績評価の方法

出席を考慮し平常点及び試験で評価

■履修上の指示事項

前期・後期各2単位

■備考（オフィスアワー）

副主専攻清元三味線（三味線音楽）Ⅳ

代表教員：小島 直文

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

清元・清元三味線専攻生に対して清元三味線・清元の基礎的演奏技術の習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで必修個人指導

■教材・参考書

清元浄瑠璃・清元三味線譜本

■成績評価の方法

出席を考慮し平常点及び試験で評価

■履修上の指示事項

前期・後期各2単位

■備考（オフィスアワー）

副主専攻小鼓（能楽囃子）Ⅰ

代表教員：曾和 正博

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

幸流小鼓の演奏技術習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで幸流手附に添っての個人指導

■教材・参考書

幸流手附

■成績評価の方法

出席を考慮しながら平常点重視の評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

副主専攻小鼓（能楽囃子）Ⅱ

代表教員：曾和 正博
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

幸流小鼓の演奏技術習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで幸流手附に添っての個人指導

■教材・参考書

幸流手附

■成績評価の方法

出席を考慮しながら平常点重視の評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

副主専攻小鼓（能楽囃子）Ⅲ

代表教員：曾和 正博
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

幸流小鼓の演奏技術習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで幸流手附に添っての個人指導

■教材・参考書

幸流手附

■成績評価の方法

出席を考慮しながら平常点重視の評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

副主専攻小鼓（能楽囃子）Ⅳ

代表教員：曾和 正博

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

幸流小鼓の演奏技術習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで幸流手附に添っての個人指導

■教材・参考書

幸流手附

■成績評価の方法

出席を考慮しながら平常点重視の評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

副主専攻太鼓（能楽囃子）Ⅰ

代表教員：観世 元則

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

観世流太鼓の演奏技術の習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで観世流太鼓手附に添っての個人指導

■教材・参考書

観世流太鼓手附

■成績評価の方法

出席を考慮しながら平常点重視の評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

副主専攻太鼓（能楽囃子）Ⅱ

代表教員：観世 元則

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

観世流太鼓の演奏技術の習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで観世流太鼓手附に添っての個人指導

■教材・参考書

観世流太鼓手附

■成績評価の方法

出席を考慮しながら平常点重視の評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

副主専攻太鼓（能楽囃子）Ⅲ

代表教員：観世 元則

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

観世流太鼓の演奏技術の習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで観世流太鼓手附に添っての個人指導

■教材・参考書

観世流太鼓手附

■成績評価の方法

出席を考慮しながら平常点重視の評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

副主専攻太鼓（能楽囃子）Ⅳ

代表教員：観世 元則

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

観世流太鼓の演奏技術の習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで観世流太鼓手附に添っての個人指導

■教材・参考書

観世流太鼓手附

■成績評価の方法

出席を考慮しながら平常点重視の評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

副主専攻常磐津（三味線音楽）Ⅰ

代表教員：味見 純

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

常磐津、常磐津三味線の専攻生に対して、常磐津三味線、常磐津の基礎的演奏技術の習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで必修個人指導

■教材・参考書

常磐津浄瑠璃・清元浄瑠璃譜本

■成績評価の方法

出席を考慮し平常点及び別科試験で評価

■履修上の指示事項

前期・後期各2単位

■備考（オフィスアワー）

副主専攻常磐津（三味線音楽）Ⅱ

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

常磐津、常磐津三味線の専攻生に対して、常磐津三味線、常磐津の基礎的演奏技術の習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで必修個人指導

■教材・参考書

常磐津浄瑠璃・清元浄瑠璃譜本

■成績評価の方法

出席を考慮し平常点及び別科試験で評価

■履修上の指示事項

前期・後期各2単位

■備考（オフィスアワー）

副主専攻常磐津（三味線音楽）Ⅲ

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

常磐津、常磐津三味線の専攻生に対して、常磐津三味線、常磐津の基礎的演奏技術の習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで必修個人指導

■教材・参考書

常磐津浄瑠璃・清元浄瑠璃譜本

■成績評価の方法

出席を考慮し平常点及び別科試験で評価

■履修上の指示事項

前期・後期各2単位

■備考（オフィスアワー）

副主専攻常磐津（三味線音楽）Ⅳ

代表教員：味見 純

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

常磐津、常磐津三味線の専攻生に対して、常磐津三味線、常磐津の基礎的演奏技術の習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで必修個人指導

■教材・参考書

常磐津浄瑠璃・清元浄瑠璃譜本

■成績評価の方法

出席を考慮し平常点及び別科試験で評価

■履修上の指示事項

前期・後期各2単位

■備考（オフィスアワー）

副主専攻常磐津三味線（三味線音楽）

I

代表教員：小島 直文

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

常磐津、常磐津三味線の専攻生に対して、常磐津三味線、常磐津の基礎的演奏技術の習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで必修個人指導

■教材・参考書

常磐津浄瑠璃・清元浄瑠璃譜本

■成績評価の方法

出席を考慮し平常点及び別科試験で評価

■履修上の指示事項

前期・後期各2単位

■備考（オフィスアワー）

副主専攻常磐津三味線（三味線音楽）

Ⅱ

代表教員：小島 直文
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

常磐津、常磐津三味線の専攻生に対して、常磐津三味線、常磐津の基礎的演奏技術の習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで必修個人指導

■教材・参考書

常磐津浄瑠璃・清元浄瑠璃譜本

■成績評価の方法

出席を考慮し平常点及び別科試験で評価

■履修上の指示事項

前期・後期各2単位

■備考（オフィスアワー）

副主専攻常磐津三味線（三味線音楽）

Ⅲ

代表教員：小島 直文
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

常磐津、常磐津三味線の専攻生に対して、常磐津三味線、常磐津の基礎的演奏技術の習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで必修個人指導

■教材・参考書

常磐津浄瑠璃・清元浄瑠璃譜本

■成績評価の方法

出席を考慮し平常点及び別科試験で評価

■履修上の指示事項

前期・後期各2単位

■備考（オフィスアワー）

副主専攻常磐津三味線（三味線音楽）

IV

代表教員：小島 直文
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

常磐津、常磐津三味線の専攻生に対して、常磐津三味線、常磐津の基礎的演奏技術の習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで必修個人指導

■教材・参考書

常磐津浄瑠璃・清元浄瑠璃譜本

■成績評価の方法

出席を考慮し平常点及び別科試験で評価

■履修上の指示事項

前期・後期各2単位

■備考（オフィスアワー）

副主専攻長唄（三味線音楽） I

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

専門分野の理解と技術向上の為、長唄の習得

■授業計画及び内容

演奏技術及び曲の理解を深めることで、専門分野の視野を広げる。

対象：長唄三味線専攻生（1～4年次）
日本舞踊専攻生（1～3年次）

■教材・参考書

長唄譜本

■成績評価の方法

出席を考慮した平常点と副科試験の成果を評価する。

■履修上の指示事項

日本舞踊専攻生は通年2単位、長唄三味線専攻生は通年4単位を履修すること。

■備考（オフィスアワー）

副主専攻長唄（三味線音楽）Ⅱ

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

専門分野の理解と技術向上の為、長唄の習得

■授業計画及び内容

演奏技術及び曲の理解を深めることで、専門分野の視野を広げる。

対象：長唄三味線専攻生（1～4年次）
日本舞踊専攻生（1～3年次）

■教材・参考書

長唄譜本

■成績評価の方法

出席を考慮した平常点と副科試験の成果を評価する。

■履修上の指示事項

日本舞踊専攻生は通年2単位、長唄三味線専攻生は通年4単位を履修すること。

■備考（オフィスアワー）

副主専攻長唄（三味線音楽）Ⅲ

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

専門分野の理解と技術向上の為、長唄の習得

■授業計画及び内容

演奏技術及び曲の理解を深めることで、専門分野の視野を広げる。

対象：長唄三味線専攻生（1～4年次）
日本舞踊専攻生（1～3年次）

■教材・参考書

長唄譜本

■成績評価の方法

出席を考慮した平常点と副科試験の成果を評価する。

■履修上の指示事項

日本舞踊専攻生は通年2単位、長唄三味線専攻生は通年4単位を履修すること。

■備考（オフィスアワー）

副主専攻長唄（三味線音楽）Ⅳ

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

専門分野の理解と技術向上の為、長唄の習得

■授業計画及び内容

演奏技術及び曲の理解を深めることで、専門分野の視野を広げる。

対象：長唄三味線専攻生（1～4年次）
日本舞踊専攻生（1～3年次）

■教材・参考書

長唄譜本

■成績評価の方法

出席を考慮した平常点と副科試験の成果を評価する。

■履修上の指示事項

日本舞踊専攻生は通年2単位、長唄三味線専攻生は通年4単位を履修すること。

■備考（オフィスアワー）

副主専攻長唄（日本舞踊）Ⅰ

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

専門分野の理解と技術向上の為、長唄の習得

■授業計画及び内容

演奏技術及び曲の理解を深めることで、専門分野の視野を広げる。

対象：長唄三味線専攻生（1～4年次）
日本舞踊専攻生（1～3年次）

■教材・参考書

長唄譜本

■成績評価の方法

出席を考慮した平常点と副科試験の成果を評価する。

■履修上の指示事項

日本舞踊専攻生は通年2単位、長唄三味線専攻生は通年4単位を履修すること。

■備考（オフィスアワー）

副主専攻長唄（日本舞踊）Ⅱ

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

専門分野の理解と技術向上の為、長唄の習得

■授業計画及び内容

演奏技術及び曲の理解を深めることで、専門分野の視野を広げる。

対象：長唄三味線専攻生（1～4年次）
日本舞踊専攻生（1～3年次）

■教材・参考書

長唄譜本

■成績評価の方法

出席を考慮した平常点と副科試験の成果を評価する。

■履修上の指示事項

日本舞踊専攻生は通年2単位、長唄三味線専攻生は通年4単位を履修すること。

■備考（オフィスアワー）

副主専攻長唄（日本舞踊）Ⅲ

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

専門分野の理解と技術向上の為、長唄の習得

■授業計画及び内容

演奏技術及び曲の理解を深めることで、専門分野の視野を広げる。

対象：長唄三味線専攻生（1～4年次）
日本舞踊専攻生（1～3年次）

■教材・参考書

長唄譜本

■成績評価の方法

出席を考慮した平常点と副科試験の成果を評価する。

■履修上の指示事項

日本舞踊専攻生は通年2単位、長唄三味線専攻生は通年4単位を履修すること。

■備考（オフィスアワー）

副主専攻長唄（日本舞踊）Ⅳ

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

専門分野の理解と技術向上の為、長唄の習得

■授業計画及び内容

演奏技術及び曲の理解を深めることで、専門分野の視野を広げる。

対象：長唄三味線専攻生（1～4年次）
日本舞踊専攻生（1～3年次）

■教材・参考書

長唄譜本

■成績評価の方法

出席を考慮した平常点と副科試験の成果を評価する。

■履修上の指示事項

日本舞踊専攻生は通年2単位、長唄三味線専攻生は通年4単位を履修すること。

■備考（オフィスアワー）

副主専攻長唄三味線（三味線音楽）Ⅰ

代表教員：小島 直文
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

専門分野の理解と技術向上の為、長唄三味線の習得

■授業計画及び内容

毎年初級・中級・上級と各3曲ずつ曲を決め、その演奏技術及び曲の理解を深めることで、専門分野の視野を広げる。

対象：長唄専攻生（1～4年次）
日本舞踊専攻生（1～3年次）

■教材・参考書

長唄譜本

■成績評価の方法

出席を考慮した平常点と副科試験の成果を評価する。

■履修上の指示事項

この副主専攻は通年4単位の長唄専攻生用です。
日本舞踊専攻生は通年2単位の方の副主専攻を履修すること。

■備考（オフィスアワー）

副主専攻長唄三味線（三味線音楽）Ⅱ

代表教員：小島 直文
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

専門分野の理解と技術向上の為、長唄三味線の習得

■授業計画及び内容

毎年初級・中級・上級と各3曲ずつ曲を決め、その演奏技術及び曲の理解を深めることで、専門分野の視野を広げる。

対象：長唄専攻生 （1～4年次）
日本舞踊専攻生（1～3年次）

■教材・参考書

長唄譜本

■成績評価の方法

出席を考慮した平常点と副科試験の成果を評価する。

■履修上の指示事項

この副主専攻は通年4単位の長唄専攻生用です。
日本舞踊専攻生は通年2単位の方の副主専攻を履修すること。

■備考（オフィスアワー）

副主専攻長唄三味線（三味線音楽）Ⅲ

代表教員：小島 直文
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

専門分野の理解と技術向上の為、長唄三味線の習得

■授業計画及び内容

毎年初級・中級・上級と各3曲ずつ曲を決め、その演奏技術及び曲の理解を深めることで、専門分野の視野を広げる。

対象：長唄専攻生 （1～4年次）
日本舞踊専攻生（1～3年次）

■教材・参考書

長唄譜本

■成績評価の方法

出席を考慮した平常点と副科試験の成果を評価する。

■履修上の指示事項

この副主専攻は通年4単位の長唄専攻生用です。
日本舞踊専攻生は通年2単位の方の副主専攻を履修すること。

■備考（オフィスアワー）

副主専攻長唄三味線（三味線音楽）Ⅳ

代表教員：小島 直文
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

専門分野の理解と技術向上の為、長唄三味線の習得

■授業計画及び内容

毎年初級・中級・上級と各3曲ずつ曲を決め、その演奏技術及び曲の理解を深めることで、専門分野の視野を広げる。

対象：長唄専攻生 （1～4年次）
日本舞踊専攻生（1～3年次）

■教材・参考書

長唄譜本

■成績評価の方法

出席を考慮した平常点と副科試験の成果を評価する。

■履修上の指示事項

この副主専攻は通年4単位の長唄専攻生用です。
日本舞踊専攻生は通年2単位の方の副主専攻を履修すること。

■備考（オフィスアワー）

副主専攻長唄三味線（日本舞踊）Ⅰ

代表教員：小島 直文
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

専門分野の理解と技術向上の為、長唄三味線の習得

■授業計画及び内容

毎年初級・中級・上級と各3曲ずつ曲を決め、その演奏技術及び曲の理解を深めることで、専門分野の視野を広げる。

対象：長唄専攻生 （1～4年次）
日本舞踊専攻生（1～3年次）

■教材・参考書

長唄譜本

■成績評価の方法

出席を考慮した平常点と副科試験の成果を評価する。

■履修上の指示事項

この副主専攻は通年4単位の長唄専攻生用です。
日本舞踊専攻生は通年2単位の方の副主専攻を履修すること。

■備考（オフィスアワー）

副主専攻長唄三味線（日本舞踊）Ⅱ

代表教員：小島 直文
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

専門分野の理解と技術向上の為、長唄三味線の習得

■授業計画及び内容

毎年初級・中級・上級と各3曲ずつ曲を決め、その演奏技術及び曲の理解を深めることで、専門分野の視野を広げる。

対象：長唄専攻生（1～4年次）
日本舞踊専攻生（1～3年次）

■教材・参考書

長唄譜本

■成績評価の方法

出席を考慮した平常点と副科試験の成果を評価する。

■履修上の指示事項

この副主専攻は通年4単位の長唄専攻生用です。
日本舞踊専攻生は通年2単位の方の副主専攻を履修すること。

■備考（オフィスアワー）

副主専攻長唄三味線（日本舞踊）Ⅲ

代表教員：小島 直文
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

専門分野の理解と技術向上の為、長唄三味線の習得

■授業計画及び内容

毎年初級・中級・上級と各3曲ずつ曲を決め、その演奏技術及び曲の理解を深めることで、専門分野の視野を広げる。

対象：長唄専攻生（1～4年次）
日本舞踊専攻生（1～3年次）

■教材・参考書

長唄譜本

■成績評価の方法

出席を考慮した平常点と副科試験の成果を評価する。

■履修上の指示事項

この副主専攻は通年4単位の長唄専攻生用です。
日本舞踊専攻生は通年2単位の方の副主専攻を履修すること。

■備考（オフィスアワー）

副主専攻長唄三味線（日本舞踊）Ⅳ

代表教員：小島 直文

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

専門分野の理解と技術向上の為、長唄三味線の習得

■授業計画及び内容

毎年初級・中級・上級と各3曲ずつ曲を決め、その演奏技術及び曲の理解を深めることで、専門分野の視野を広げる。

対象：長唄専攻生（1～4年次）

日本舞踊専攻生（1～3年次）

■教材・参考書

長唄譜本

■成績評価の方法

出席を考慮した平常点と副科試験の成果を評価する。

■履修上の指示事項

この副主専攻は通年4単位の長唄専攻生用です。
日本舞踊専攻生は通年2単位の方の副主専攻を履修すること。

■備考（オフィスアワー）

副主専攻笛（能楽囃子）Ⅰ

代表教員：藤田 次郎

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

能管の唱歌及び演奏の習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで、一噌流唱歌集に添っての舞物の個人指導

■教材・参考書

一噌流笛唱歌集（上・下巻）。一噌流笛指附

■成績評価の方法

出席を考慮しながら平常点重視の評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

副主専攻笛（能楽囃子）Ⅱ

代表教員：藤田 次郎
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

能管の唱歌及び演奏の習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで、一噌流唱歌集に添っての舞物の個人指導

■教材・参考書

一噌流笛唱歌集（上・下巻）。一噌流笛指附

■成績評価の方法

出席を考慮しながら平常点重視の評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

副主専攻笛（能楽囃子）Ⅲ

代表教員：藤田 次郎
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

能管の唱歌及び演奏の習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで、一噌流唱歌集に添っての舞物の個人指導

■教材・参考書

一噌流笛唱歌集（上・下巻）。一噌流笛指附

■成績評価の方法

出席を考慮しながら平常点重視の評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

副主専攻笛（能楽囃子）Ⅳ

代表教員：藤田 次郎
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

能管の唱歌及び演奏の習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで、一噌流唱歌集に添っての舞物の個人指導

■教材・参考書

一噌流笛唱歌集（上・下巻）。一噌流笛指附

■成績評価の方法

出席を考慮しながら平常点重視の評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

副専攻大鼓（三味線音楽）Ⅲ

代表教員：盧 慶順
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

専門分野の理解と技術向上の為、長唄の習得

■授業計画及び内容

演奏技術及び曲の理解を深めることで、専門分野の視野を広げる。

対象：長唄三味線専攻生（1～4年次）
日本舞踊専攻生（1～3年次）

■教材・参考書

長唄譜本

■成績評価の方法

出席を考慮した平常点と副科試験の成果を評価する。

■履修上の指示事項

日本舞踊専攻生は通年2単位、長唄三味線専攻生は通年4単位を履修すること。

■備考（オフィスアワー）

副専攻長唄三味線（邦楽囃子）Ⅰ

代表教員：小島 直文

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

専門分野の理解と技術向上の為、長唄三味線の習得

■授業計画及び内容

毎年初級・中級・上級と各3曲ずつ曲を決め、その演奏技術及び曲の理解を深めることで、専門分野の視野を広げる。

対象：邦楽囃子専攻生（2～3年次）

■教材・参考書

長唄譜本

■成績評価の方法

出席を考慮した平常点と副科試験の成果

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

副専攻長唄三味線（邦楽囃子）Ⅱ

代表教員：小島 直文

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

専門分野の理解と技術向上の為、長唄三味線の習得

■授業計画及び内容

毎年初級・中級・上級と各3曲ずつ曲を決め、その演奏技術及び曲の理解を深めることで、専門分野の視野を広げる。

対象：邦楽囃子専攻生（2～3年次）

■教材・参考書

長唄譜本

■成績評価の方法

出席を考慮した平常点と副科試験の成果

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

副専攻長唄三味線（邦楽囃子）Ⅲ

代表教員：小島 直文
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

専門分野の理解と技術向上の為、長唄三味線の習得

■授業計画及び内容

毎年初級・中級・上級と各3曲ずつ曲を決め、その演奏技術及び曲の理解を深めることで、専門分野の視野を広げる。

対象：邦楽囃子専攻生（2～3年次）

■教材・参考書

長唄譜本

■成績評価の方法

出席を考慮した平常点と副科試験の成果

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

副専攻長唄三味線（邦楽囃子）Ⅳ

代表教員：小島 直文
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

専門分野の理解と技術向上の為、長唄三味線の習得

■授業計画及び内容

毎年初級・中級・上級と各3曲ずつ曲を決め、その演奏技術及び曲の理解を深めることで、専門分野の視野を広げる。

対象：邦楽囃子専攻生（2～3年次）

■教材・参考書

長唄譜本

■成績評価の方法

出席を考慮した平常点と副科試験の成果

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

副専攻謡曲（能楽囃子）Ⅰ

代表教員：武田 孝史

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

宝生流現行曲（謡曲）の基本技術習得と曲の理解

■授業計画及び内容

個人指導による授業

■教材・参考書

謡曲本

■成績評価の方法

出席を考慮しながら平常点重視の評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

副専攻謡曲（能楽囃子）Ⅱ

代表教員：武田 孝史

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

宝生流現行曲（謡曲）の基本技術習得と曲の理解

■授業計画及び内容

個人指導による授業

■教材・参考書

謡曲本

■成績評価の方法

出席を考慮しながら平常点重視の評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

副専攻謡曲（能楽囃子）Ⅲ

代表教員：武田 孝史

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

宝生流現行曲（謡曲）の基本技術習得と曲の理解

■授業計画及び内容

個人指導による授業

■教材・参考書

謡曲本

■成績評価の方法

出席を考慮しながら平常点重視の評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

副専攻謡曲（能楽囃子）Ⅳ

代表教員：武田 孝史

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

宝生流現行曲（謡曲）の基本技術習得と曲の理解

■授業計画及び内容

個人指導による授業

■教材・参考書

謡曲本

■成績評価の方法

出席を考慮しながら平常点重視の評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

副専攻大鼓（能楽）Ⅰ

代表教員：佃 良勝
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

高安流大鼓の演奏技術の習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで高安流手附に添っての指導

■教材・参考書

高安流大鼓手附

■成績評価の方法

出席を考慮しながら平常点重視の評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

副専攻大鼓（能楽）Ⅱ

代表教員：佃 良勝
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

高安流大鼓の演奏技術の習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで高安流手附に添っての指導

■教材・参考書

高安流大鼓手附

■成績評価の方法

出席を考慮しながら平常点重視の評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

副専攻大鼓（能楽）Ⅲ

代表教員：佃 良勝
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

高安流大鼓の演奏技術の習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで高安流手附に添っての指導

■教材・参考書

高安流大鼓手附

■成績評価の方法

出席を考慮しながら平常点重視の評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

副専攻大鼓（能楽）Ⅳ

代表教員：佃 良勝
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

高安流大鼓の演奏技術の習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで高安流手附に添っての指導

■教材・参考書

高安流大鼓手附

■成績評価の方法

出席を考慮しながら平常点重視の評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

副専攻小鼓（能楽）Ⅰ

代表教員：曾和 正博
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

幸流小鼓の演奏技術修得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで幸流手附の添っての指導

■教材・参考書

幸流手附による

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

副専攻小鼓（能楽）Ⅱ

代表教員：曾和 正博
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

幸流小鼓の演奏技術修得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで幸流手附の添っての指導

■教材・参考書

幸流手附による

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

副専攻小鼓（能楽）Ⅲ

代表教員：曾和 正博

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：1

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

幸流小鼓の演奏技術修得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで幸流手附の添っての指導

■教材・参考書

幸流手附による

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

副専攻小鼓（能楽）Ⅳ

代表教員：曾和 正博

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：1

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

幸流小鼓の演奏技術修得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで幸流手附の添っての指導

■教材・参考書

幸流手附による

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

副専攻仕舞（能楽囃子）Ⅲ

代表教員：武田 孝史

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

宝生流現行曲（舞物）の技術習得

■授業計画及び内容

個人指導による技術習得

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

能楽囃子専攻3・4年次必修

■備考（オフィスアワー）

平成20年度入学の者より謡曲実技と別に履修の事

副専攻仕舞（能楽囃子）Ⅳ

代表教員：武田 孝史

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

宝生流現行曲（舞物）の技術習得

■授業計画及び内容

個人指導による技術習得

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

能楽囃子専攻3・4年次必修

■備考（オフィスアワー）

平成20年度入学の者より謡曲実技と別に履修の事

副専攻太鼓（能楽）Ⅰ

代表教員：観世 元則
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

観世流太鼓の演奏技術の習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで観世流太鼓手附に添っての指導

■教材・参考書

観世流太鼓手附

■成績評価の方法

観世流太鼓の演奏技術の習得

■履修上の指示事項

1年次～4年次まで観世流太鼓手附に添っての指導

■備考（オフィスアワー）

観世流太鼓手附

副専攻太鼓（能楽）Ⅱ

代表教員：観世 元則
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

観世流太鼓の演奏技術の習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで観世流太鼓手附に添っての指導

■教材・参考書

観世流太鼓手附

■成績評価の方法

出席を考慮しながら平常点重視の評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

副専攻太鼓（能楽）Ⅲ

代表教員：観世 元則
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

観世流太鼓の演奏技術の習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで観世流太鼓手附に添っての指導

■教材・参考書

観世流太鼓手附

■成績評価の方法

出席を考慮しながら平常点重視の評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

副専攻太鼓（能楽）Ⅳ

代表教員：観世 元則
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

観世流太鼓の演奏技術の習得

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで観世流太鼓手附に添っての指導

■教材・参考書

観世流太鼓手附

■成績評価の方法

出席を考慮しながら平常点重視の評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽歌詞研究

代表教員：土田 牧子

曜日時限：月曜4限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

日本の古典芸能を理解する上で不可欠な歌詞の問題について、講義を通じて広く古典芸能全般への理解を持つとともに、自ら歌詞の解釈等をおこなうことにより、実演者としての芸能への理解を深める。

■授業計画及び内容

前期は講義を中心におこない、後期は演習形式により、履修者自身が調べてきたことを口頭発表する。

【前期】主として近代以前の日本の芸能を、歌詞の面から理解するために、さまざまな文字・図像・映像資料にあたる。雅楽・能楽・箏曲・歌舞伎音楽・浄瑠璃等、自らの専門領域に関係なく、古典芸能の世界においてどのような表現がおこなわれてきたか、あるいはそれらがどのような媒体を通じて伝承されてきたかを学習する。

【後期】演習形式で、発表担当者が邦楽作品のテキストに注釈をつけ、作者や成立した時代的背景等にも触れながら説明を行ってもらう。出席者の人数によっては、グループでの発表形式をとることもある。なお、既存の「注釈」を棒読みすることは認めない。発表担当者自らが理解している事が重要である。

■教材・参考書

開講時および授業時間中に適宜指示する。

■成績評価の方法

前期は試験、後期は発表内容およびレポートによって評価する。ただし、授業中の態度や出席の状況も併せて評価対象とするので、十分留意して履修・学修をおこなうこと。

■履修上の指示事項

遅刻・早期退出・無断欠席等、授業への取り組みが不真面目であると判断された学生は、その時点で履

修停止とする。

■備考（オフィスアワー）

邦楽合奏研究

代表教員：吉村 七重
曜日時限：水曜3限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

現代邦楽作品を通し、伝統的な音の色彩、深み、広がり等「音を楽しむ精神」を再認識し、合奏研究の中から日本楽器と様々な民俗音楽、西洋楽器との融合性と独創性を体験、これからの合奏の可能性を探ります。

■授業計画及び内容

現代の邦楽作品に大きな影響を与えた中能島欣一作品と、早くから日本楽器と東洋、西洋楽器との融合を目指した初世宮下秀冽作品を中心に上げます。また、後期では二十世紀後半に創られた三十絃との合奏を致します。

中能島欣一作曲「伽藍」

初世宮下秀冽作曲「仏足跡讚抄」他

※作品は履修者の楽器編成により変更する場合があります。

邦楽器を研究している作曲科の人の履修を歓迎します。

■教材・参考書

適宜支持する

■成績評価の方法

日頃の学習態度と出席日数による。

■履修上の指示事項

特になし

■備考（オフィスアワー）

邦楽研究旅行

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

邦楽科において実施する近畿地方（主に奈良・京都）への1週間程度の研究旅行

■授業計画及び内容

- ①邦楽関係所事蹟の見学
- ②仏教関係の見学と講義
- ③雅楽の講義
- ④その他

■教材・参考書

「古美術見学手引き」東京芸術大学美術学部
(1,500円)

■成績評価の方法

出席率及びレポートによる。

■履修上の指示事項

全工程参加者のみ単位を取得できる。参加費は年によって変更がある。

■備考（オフィスアワー）

原則として、3年時の年度末に参加し、その後、4年生になってから登録する。

邦楽研究旅行

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

邦楽科において実施する近畿地方（主に奈良・京都）への1週間程度の研究旅行

■授業計画及び内容

- ①邦楽関係所事蹟の見学
- ②仏教関係の見学と講義
- ③雅楽の講義
- ④その他

■教材・参考書

「古美術見学手引き」東京芸術大学美術学部
(1,500円)

■成績評価の方法

出席率及びレポートによる。

■履修上の指示事項

全工程参加者のみ単位を取得できる。参加費は年によって変更がある。

■備考（オフィスアワー）

山田流箏曲にとって重要である箏歌の歌唱法及び表現法を学ぶ。

邦楽囃子実技（笛）

代表教員：盧 慶順
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：8
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

邦楽囃子（笛）の基本技術習得及び三味線音楽アンサンブル演奏法と曲の理解

■授業計画及び内容

1年次～4年次まで必修個人指導及び四拍子演奏法指導

■教材・参考書

邦楽囃子譜本

■成績評価の方法

出席を考慮し平常点及び試験で評価

■履修上の指示事項

1年次は前期・後期各4単位、2年次以降は通年で8単位

■備考（オフィスアワー）

山田流アンサンブル実技Ⅲ-1

代表教員：萩岡 松韻
曜日時限：その他
学 期：前期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

様々な演奏形態によるアンサンブル

■授業計画及び内容

三曲合奏形式により演奏技術の習得をめざす

■教材・参考書

適宜指示する

■成績評価の方法

平常点及び実技

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

山田流アンサンブル実技Ⅲ-2

代表教員：萩岡 松韻
曜日時限：その他
学 期：後期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

様々な演奏形態によるアンサンブル

■授業計画及び内容

三曲合奏形式により演奏技術の習得をめざす

■教材・参考書

適宜指示する

■成績評価の方法

平常点及び実技

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

山田流アンサンブル実技IV-1

代表教員：萩岡 松韻
曜日時限：その他
学 期：前期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

様々な演奏形態によるアンサンブル

■授業計画及び内容

三曲合奏形式により演奏技術の習得をめざす

■教材・参考書

適宜指示する

■成績評価の方法

平常点及び実技

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

山田流アンサンブル実技IV-2

代表教員：萩岡 松韻
曜日時限：その他
学 期：後期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（邦楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

様々な演奏形態によるアンサンブル

■授業計画及び内容

三曲合奏形式により演奏技術の習得をめざす

■教材・参考書

適宜指示する

■成績評価の方法

平常点及び実技

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

山田流箏曲演奏論

代表教員：萩岡 松韻

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（邦楽）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

山田流箏曲の箏歌と箏奏法について。

■授業計画及び内容

年間を通して、山田流箏曲の古曲及び現在演奏されていない稀曲等を交えて、演奏の形式を講義と実習で学ぶ。

教材として、CD及びDVDを使用。

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

平常点。

■履修上の指示事項

履修者は箏曲山田流専攻学生とする。

■備考（オフィスアワー）

この授業は、4年に一度の開講となるため、開講年度に注意すること。

専門科目（音楽学）

音楽学実習Ⅲ

代表教員：大角 欣矢

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（音楽学）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

楽理科3年次生を対象とする。1、2年次に身につけた音楽学の基礎に基づき、各受講者が卒業論文の執筆を目標として、教員の指導のもとに設定する研究課題に即した研究に関し、指導助言する。

■授業計画及び内容

〔前期〕

面談を通じて研究課題を絞り込みつつ、幅広く関連文献の探索・概観を行わせ、その結果を報告させる。

〔後期〕

卒業論文仮題提出(11月)に向け、論文テーマを確定するとともに、先行研究の徹底的な調査・咀嚼・批判を行わせる。

■教材・参考書

■成績評価の方法

平常点・出席

■履修上の指示事項

履修希望者は、必ず初回の授業に出席してガイダンスを受けること。

■備考（オフィスアワー）

電子メールで予約を取ること。

音楽学実習Ⅲ

代表教員：土田 英三郎

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（音楽学）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

音楽学に関する個人指導

■授業計画及び内容

楽理科3年次生を対象に、各自の研究テーマについて個人指導を行なう。

■教材・参考書

■成績評価の方法

平常点（楽理科総合ゼミナールを含む）

■履修上の指示事項

3年次生は早めに、なるべくグループで出席のこと。前もって予約を取れば、定時（火曜3限）以外の時間帯も可能。

■備考（オフィスアワー）

火曜3限（総合ゼミナール、音楽学実習等がない場合）、その他の空き時間（要予約）。

音楽学実習Ⅲ

代表教員：塚原 康子

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（音楽学）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

3年生への卒業論文指導

■授業計画及び内容

楽理科3年生に対し、卒業論文で取り上げる研究内容についての助言と、秋に提出する卒業論文題目および概要をまとめるための指導を行う。

■教材・参考書

■成績評価の方法

平常点（総合ゼミナールへの出席を含む）

■履修上の指示事項

研究は、よくわからない事象を扱う活動なので、萌芽的でも自分で感じたり考えたりしたことを大切に、自主的に取り組み具体化していくこと。

■備考（オフィスアワー）

音楽学実習Ⅲ

代表教員：植村 幸生

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（音楽学）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

各自の研究課題および卒業論文作成に関する指導・助言

■授業計画及び内容

個人指導を原則とする。

■教材・参考書

■成績評価の方法

出席回数と研究への取り組み状況によって評価する。

■履修上の指示事項

4月の授業時に打ち合わせを行うので必ず出席すること。詳細は掲示等で指示する。

■備考（オフィスアワー）

所定の時限以外にも予約制により指導・助言に応じる。

音楽学実習Ⅲ

代表教員：片山 千佳子

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（音楽学）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

学部3年生を対象に、各自の研究テーマについて指導する。

■授業計画及び内容

- (1) 自分が関心のある問題について、どのような概説や研究書があるかを調べ、実際に読んでみる。
- (2) どのような角度からテーマを論じることが可能か、語学能力などを含めて検討する。
- (3) 卒業論文の仮題提出(11月)に向け、論文のテーマを確定し、具体的な研究計画を考える。

■教材・参考書

■成績評価の方法

総合ゼミナールには必ず出席すること。
成績は、総合ゼミナールの出席回数と、研究の進度によって判定する。

■履修上の指示事項

原則として予約制とする。下記のアドレスに実習を希望する日時をメールすること。

■備考（オフィスアワー）

以下のアドレスに予約を申し込むこと。
[メールアドレスはG-net シラバスに記載]

音楽学実習Ⅲ

代表教員：福中 冬子

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（音楽学）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

論文執筆に向けた指導（3年次）。

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

履修予定者は必ず初回の授業に出席すること。

■備考（オフィスアワー）

音楽学実習Ⅳ

代表教員：福中 冬子

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（音楽学）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

論文執筆にむけた指導（学部4年次）。

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

初回に予定を組むので、必ず出席すること。連絡なしに欠席した場合は、指導を履修を認めない場合がある。

■備考（オフィスアワー）

音楽学実習Ⅳ

代表教員：土田 英三郎

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（音楽学）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

音楽学に関する個人指導

■授業計画及び内容

楽理科4年次生以上を対象に、卒業論文に関する各自の研究テーマについて個人指導を行なう。

■教材・参考書

■成績評価の方法

平常点（楽理科総合ゼミナールを含む）

■履修上の指示事項

今年度に卒業論文を提出する予定の学生は定期的に出席すること。

前もって予約を取れば、定時（火曜3限）以外の時間帯も可能。

■備考（オフィスアワー）

火曜3限（総合ゼミナール、音楽学実習等がない場合）、その他の空き時間（要予約）。

音楽学実習Ⅳ

代表教員：植村 幸生

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（音楽学）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

各自の研究課題および卒業論文作成に関する指導・助言

■授業計画及び内容

個人指導を原則とする。

■教材・参考書

■成績評価の方法

出席回数と研究への取り組み状況によって評価する。

■履修上の指示事項

4月の授業時に打ち合わせを行うので必ず出席すること。詳細は掲示等で指示する。

■備考（オフィスアワー）

所定の時限以外にも予約制により指導・助言に応じる。

音楽学実習Ⅳ

代表教員：片山 千佳子

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（音楽学）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

4年生を対象に、卒業論文のテーマについて指導する。

■授業計画及び内容

- (1) 4月中に、これまで自分が調査した結果と今後の予定を、文章にまとめて提出すること。
- (2) 夏休み前に、卒論の大まかな章立てを作成すること。

■教材・参考書

■成績評価の方法

総合ゼミナールに必ず出席すること。
成績は、総合ゼミナールの出席回数と、研究の進捗によって判定する。

■履修上の指示事項

原則として予約制とする。メールで下記のアドレスまで希望の日時を伝えること。

■備考（オフィスアワー）

以下のアドレスに予約を申し込むこと。
[メールアドレスはG-net シラバスに記載]

音楽学実習Ⅳ

代表教員：塚原 康子

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（音楽学）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

4年生に対する卒業論文指導

■授業計画及び内容

年度始めに面談の上、研究計画をまとめて発表すること。以下、年間スケジュールに従って卒業論文を期日までにとりまとめるための助言と指導を行う。

■教材・参考書

■成績評価の方法

平常点（総合ゼミナールへの出席を含む）

■履修上の指示事項

自主的に取り組み、できるだけ定期的に受講することが望ましい。

■備考（オフィスアワー）

音楽学実習Ⅳ

代表教員：大角 欣矢

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（音楽学）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

楽理科 4 年次生以上を対象とする。前年度に決定した卒業論文のテーマに即した研究に関し、指導助言する。

■授業計画及び内容

〔前期〕

後期初めに開催される卒業論文中間発表に向けて、具体的な論文の構想を練り、同時に執筆のための実質的な作業を進める。

〔後期〕

実際の論文執筆に際して指導助言を行う。

■教材・参考書

■成績評価の方法

平常点・出席

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

電子メールで予約を取ること。

音楽学特論 I

代表教員：橋本 久美子

曜日時限：金曜 3限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（音楽学）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

藝大音楽学部の歴史をたどる【服部幸三先生のご遺志に基づく寄附講座】

■授業計画及び内容

開国以降の日本は、それ以前とは異なり式日大祭日唱歌、学校唱歌、校歌や団体歌などによって地域や身分を越えて同じ歌を歌う文化を作り上げ、日本人の心のふるさととなる歌を創出してきた。その拠点となった機関が本学音楽学部の前身、すなわち明治12年に創設された音楽取調掛と明治20年創立の東京音楽学校である。音楽取調掛から135年を迎える今年、本学の歴史が日本近代史とどのようにかわり、日本人は自らどのような音楽を作り出し、今日の日本人の音楽のルーツとどのようにかわっているのか明らかにしてゆきたい。

関東大震災と戦災の被害が少なかった本学には明治以来の文書が残されている。古い文書類や手書き楽譜などの原資料を読み解くほか、戦前の録音を聴き、キャンパス内および寛永寺を含む上野台地を歩き、卒業生に戦時中および音楽学部初期の話を伺うなど、音楽取調掛や東京音楽学校の空気を間近に感じ取りながら学んでいく。日頃親しんでいる音楽のルーツに向き合い、藝大で学ぶことの意味を問い直し、自ら考え学ぶ力を養う。藝大史は研究テーマの宝庫であり、卒論等の研究対象にもつながる。史料の保存・伝承・活用といったアーカイブズ学視点も養う。

以下の内容で順番は入れ替わることがあり、複数回に及ぶテーマもある。

1. 藝大史を学ぶ意味 創立の経緯から今日まで
2. 上野台地略史と幕末維新
3. 東叡山寛永寺と幕末維新
4. 伊澤修二の幕末維新
5. エドワード・S・モースが見聞した上野、音楽など

6. 藝大はなぜ上野にあるのか
7. 唱歌教育事始
8. 音楽取調掛の教師と伝習生
9. 東京音楽学校存廢の危機
10. 6年間の高等師範学校附属音楽学校時代
11. オペラ《オルフォイス》上演
12. 山田耕柝の学生時代 自伝から読み解く東京音楽学校演奏会
13. 山田耕柝の学生時代 自伝から読み解く授業、個人レッスン、師弟関係
14. 滝廉太郎と山田耕柝
15. 作歌とその時代
16. 藝大史と邦楽
17. 東京音楽学校の歴代校長
18. 大正時代の東京音楽学校
19. 昭和の東京音楽学校(1) 社会教育の実践
20. 昭和の東京音楽学校(2) 戦争と東京音楽学校
21. 昭和の東京音楽学校(3) 東京音楽学校生徒の陸軍軍楽隊入隊
22. 東京芸術大学 敗戦からの出発
23. 旧奏楽堂はなぜ上野公園にあるのか
24. 歴史の伝承と価値の再発見・再構築（大学アーカイブズと歴史研究）
25. 135年のその先へ 未踏の戦後史としての藝大、研究資源としての藝大史

■教材・参考書

プリント配布

『東京芸術大学百年史』（「東京音楽学校篇第一巻」「同第二巻」「音楽学部篇」「演奏会篇第一巻」「同二巻」「同三巻」[音楽之友社1987?2004]、「大学篇」[ぎょうせい2003]）他、授業中に適宜指示する

■成績評価の方法

出席、発表、レポート、試験

■履修上の指示事項

講義を主体とするが、受講生による発表もあり、積極的な参加が望まれる。自ら課題を見出し取り組むことを重視する。受講生の希望によりテーマの追加もあり得る。教室を出て附属図書館、大学史史料室、上野公園等に移動して授業を行うことがある。平成24年度に開講された音楽学特論Ⅱの履修者も新たに履修することが可能である。楽理科以外の学部学生、大学院生の受講・履修を歓迎する。

■備考（オフィスアワー）

授業終了後、それ以外は予約により随時

音楽美学演習

代表教員：福中 冬子

曜日時限：月曜4限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（音楽学）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

音楽史研究と批評

■授業計画及び内容

音楽史研究と批評 criticism/critiqueはどのような関係にあるべきか、という大きな問い立ての上で、その問いに付随する諸問題を考察する。主たる問題は以下の通り。1) 音楽史研究と批評は共立すべきものかどうか；2) 80年代の音楽学における、いわゆる「パラダイム・シフト」は、音楽史研究と批評との関係性にどのような影響を与えたか；3) 音楽史研究における「理論」の位置付けはどのように変化し、またそれは何を反映するものなのか

■教材・参考書

初回のゼミで指定するが、スタートアップとして J. Kerman, *Contemplating Music* より第2章「Musicology and Positivism」、R. Subotnik, *Developing Variations* より「Musicology and Criticism」、および A. Williams, 「Musicology and Postmodernism」(*Music Analysis*, Oct. 2000) を扱うので、各自で手にいれておくこと。

■成績評価の方法

授業における貢献度および期末レポート

■履修上の指示事項

担当者が順に発表を行なうことになるが、当然ながら、毎回全員が文献を読み込み、積極的に議論に参加することが求められる。

■備考（オフィスアワー）

随時受け付ける

音楽美学概説

代表教員：山上 揚平

曜日時限：火曜2限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（音楽学）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

西洋美学史の中の音楽 / 西洋音楽史の中の美学

■授業計画及び内容

古代ギリシャから現代までに著された膨大な音楽著述の中から、広義の「美学」に関わる記述を取り上げ、できるだけ同時代の哲学ないし科学思潮と共に理解することで、西洋音楽を巡る思索の歴史を概観することが本授業の目的になります。将来的に、各々の学生が自分自身のテーマと格闘する際に役立つであろう人文学的基礎力を高めることが一つの趣旨です。人名や書名、思想的タームの暗記以上に先人の思考の（各自なりの）理解・体得が目指されます。その為にも逐次こちらが挙げる課題テキストにきちんと目を通して来てもらうことが望まれます。授業計画は以下のとおりですが、聴講者の理解度に合わせ授業進行には幅を持たせます。

前期

- ① ガイダンス：「美学」ってなに？
- ②～⑤ 古代ギリシャ、ヘレニズム世界：ムーシケーとハルモニア
- ⑥～⑨ 古代・中世キリスト教世界：自由学芸としての音楽の意義
- ⑩～⑪ 中世～ルネッサンスの音楽理論：実践としての音楽の諸相
- ⑫～⑭ 近世（フランス）：感情の美学と音楽／自然の模倣
- ⑮ 前期のまとめ

後期

- ① ガイダンス：前期のおさらい／近世哲学史概観
- ②～③ 近世（ドイツ）：近代的美学の形成／I. カントの「美の批判」
- ④ 近代①：ドイツ・ロマン主義の美学と音楽
- ⑤～⑥ 近代②：ドイツ観念論と音楽
- ⑦～⑧ 近代③：E. ハンスリック『音楽美について』とその反響

⑨～⑩ 近代④：実証的学問の発展と音楽著述への影響／「音楽学」の誕生

⑪～⑭ 現代音楽美学の諸相：前衛芸術運動と音楽作品概念の問い直し／マルクス主義と音楽／「批判的音楽学」という思潮／高度情報化社会における音楽、etc.

⑮ 後期のまとめ

■教材・参考書

教科書は特に用いず、適宜プリントを配布します。西洋美学史の概観を行う際に有用な参考書としては竹内敏雄編『美学事典』（1974）の「美学芸術論史の部」や今道友信編『講座美学』第一巻（1984）の「西洋の美学」、または当津武彦編『美の変貌—西洋美学史への展望』（1988）などが挙げられます。また美学の基礎的な概念を確認するには佐々木健一『美学辞典』（1995）もお勧めです。音楽美学史の概観に関しては、日本語で簡単に読めるものとして、国安洋『音楽美学入門』（1981）の「第

■成績評価の方法

期末レポート＋ 出席、授業態度。

■履修上の指示事項

使用言語は日本語。履修に際し外国語の運用能力および美学の予備知識は問いません。毎週、日本語の課題テキストを指定、または Web 上にアップロードしますので、事前に読んでおいて下さい。

■備考（オフィスアワー）

個別の質問は授業後の時間帯に受け付けます。またメールでの質問も[メールアドレスはG-net シラバスに記載]にて受け付けます。

音楽分析論

代表教員：久保田 慶一

曜日時限：金曜2限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（音楽学）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

音楽分析の歴史と方法(論)を講義する。また実際の分析を行う演習を随時実施する。

■授業計画及び内容

前期)

1. 音楽分析とは
2. 分析演習1
3. ブルマイスターの『ムシカ・ポエティカ』
4. マッテゾンの『完全なる楽長』
5. 分析演習2
6. リーペルのフレーズ分析
7. コッホの形式分析
8. 分析演習3
9. マルクスの有機的生成と形式
10. 有機体的音楽理論
11. 分析演習4
12. リーマンの和声学
13. リーマンのリズム論
14. 分析演習5
15. 予備日

(後期)

1. クルトとハルムのエネルギー説
2. シェリングーの還元主義的分析
3. 分析演習6
4. イェベセンとフィッシャーの様式分析
5. 分析演習7
6. シェンカーの音楽分析(1)
7. シェンカーの音楽分析(2)
8. 分析演習8
9. 無調音楽の分析(シーエンベルク)
10. 無調音楽の分析(ピッチクラスセット)分析演習
11. 分析演習9
12. ナティエの記号論的分析
13. 分析演習10
14. まとめ

15. 予備日

■教材・参考書

随時指摘する。

■成績評価の方法

出席状況とレポートの成績(前期・後期、各1回)でもって総合的評価する。

■履修上の指示事項

特になし

■備考(オフィスアワー)

メールでアポイントを取って下さい([メールアドレスはG-net シラバスに記載])

音楽民族学演習

代表教員：増野 亜子
曜日時限：木曜5限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（音楽学）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

社会的行動としての音楽

音楽的なパフォーマンスに参加する（演奏と聴取の両方をを含む）という体験の社会的な意味について多角的に考える。

■授業計画及び内容

先行研究（文献）の講読、それに基づく討論と、受講生の関心に基づく研究発表によって進める

■教材・参考書

- (1) クリストファー・スモール『ミュージッキング—音楽は行為である』（水声社）
- (2) Thomas Turino. Music as Social Life— the politics of participation. Chicago University Press.

■成績評価の方法

学生自身による授業内での発表、議論への積極的な参加、およびレポート課題により総合的に評価する。

■履修上の指示事項

教材（1）は各自で用意する。最初の授業時に持参すること。教材（2）に関しては必ずしも購入する必要はない。

履修者の人数、関心や興味を反映して授業のプログラムを行う。演習形式の授業であり、当然ながら履修者が主体となって討論を行うことを目的とする。テキストの予習、主体的な発言と議論への参加を望む。

■備考（オフィスアワー）

初回授業時に指示する。

音楽民族学概説

代表教員：早稲田 みな子
曜日時限：火曜4限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（音楽学）
開設区分：音楽併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

音楽民族学（従来「民族音楽学」といわれてきた学問）の基本的な考え方、歴史、方法、理論、研究動向等を、多様な音楽文化の実例とともに概説する。

■授業計画及び内容

前期・後期、それぞれ1～2回、ゲストによるレクチャーデモンストレーションや、学生個人またはサークル等による自主的な発表を予定しています（日程未定）。積極的な発表を期待しています。

講義は以下のようなテーマにそって進めます。具体例としてアジア、アフリカ、アメリカ、オセアニア各地の音楽文化を紹介する予定です。

<前期>

- 第1回： 音楽民族学とは？
- 第2～5回： 音楽民族学の態度・アプローチ
- 第6～7回： 音楽民族学の歴史
- 第8回： 楽器分類
- 第9回： 楽器の伝播と変容
- 第10回： 宗教音楽の伝播と変容
- 第11回： 音楽民族学の展開
- 第12回： 文化接触・文化変容
- 前期最終回： 試験

<後期>

- 第1回： 学会紹介
- 第2～4回： 音体系の多様性
- 第5回： フィールドワーク
- 第6回： 採譜
- 第7～8回： 楽譜の多様性
- 第9～10回： ディアスポラの音楽
- 第11～12回： 社会運動と音楽
- 後期最終回： 試験

授業の進捗状況により、順番や内容が変更されることがあります。

■教材・参考書

教科書：

- ・柘植元一『世界音楽への招待』（音楽之友社、1991）
→ 絶版のため随時プリントを配布します。

参考書：

- ・柘植元一・塚田健一 編 『はじめての世界音楽』（音楽之友社、1999）
- ・徳丸吉彦 『民族音楽学理論』（放送大学、1996）
- ・藤井知昭 他編 『民族音楽概論』（東京書籍、1992）
- ・山口修 『応用音楽学と民族音楽学』（放送大学、2004）
- ・櫻井哲男・水野信男 編 『諸民族の音楽を

■成績評価の方法

出席（50%）、試験・課題（50%）

■履修上の指示事項

基本的に上記の方法で成績評価しますが、積極的な授業への関与は加味します。

■備考（オフィスアワー）

Eメール：[メールアドレスはG-net シラバスに記載]

音楽理論概説

代表教員：片山 千佳子

曜日時限：火曜5限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（音楽学）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

音楽について客観的に論じるためには、音楽を理論的に把握することが非常に重要である。そのために必要不可欠な基礎概念について概観する。

■授業計画及び内容

- ・音楽の理論的基礎概念について
「音」とは何か、音組織とその構成原理、音階、調、近親性、音律、和声、旋法性、調性、対位法など
- ・様々な理論的概念の歴史的展開
- ・「学問としての音楽理論」について

■教材・参考書

必要に応じてプリントを配布。

参考書等については、その都度指示する。

■成績評価の方法

前期レポートと後期試験による。

■履修上の指示事項

ノートのほかに、五線紙を常備すること。

■備考（オフィスアワー）

[メールアドレスはG-net シラバスに記載]

音楽理論史演習

代表教員：片山 千佳子
曜日時限：金曜3限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（音楽学）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

17世紀イングランドにおける音楽理論

■授業計画及び内容

以下の研究書を分担して読む。

Rebecca Herissone.

Music theory in seventeenth-century England.

Oxford: Oxford University Press, 2000.

■教材・参考書

受講登録者にはコピーを配布する。

■成績評価の方法

出席の状況、および担当した部分の発表内容によって評価する。

あらかじめ決めた担当日に無断欠席をした場合は失格とするので、注意すること。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

katayama (at)ms.geidai.ac.jp

楽書講読（英）

代表教員：福中 冬子
曜日時限：月曜5限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（音楽学）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

英語の音楽関係書（学術書および楽譜）の購読

■授業計画及び内容

専門書読解に必要な語彙を習得する事を目的に、音楽史、音楽理論、音楽学をまたいで異なる内容・スタイルの学術書を幅広くよむ。テキストは決めずに、1～2週にひとつの頻度で音楽学専門誌、楽譜中の解説、専門書からの抜粋を使用する。前期は楽譜解説、楽理および音楽史関係の文献を中心に、後期は80年代以降の音楽学研究を中心に購読する。

■教材・参考書

毎週配布。

■成績評価の方法

平常点（出席・予習含む）および期末試験。

■履修上の指示事項

輪読形式で進めるので、予習は必須。辞書を必ず携帯すること。

■備考（オフィスアワー）

メール等で連絡の事。

楽書講読（英）

代表教員：植村 幸生
曜日時限：月曜5限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（音楽学）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

専門書の徹密な読み方を学習するとともに、音楽学の基本概念の習得を目指す。内容は担当教員の専門領域のなかから、履修者のレベルに応じて決定する。

■教材・参考書

教員側で準備するが、受講生が自主的に入手してもよい。

■成績評価の方法

平常点（25%）、試験（75%）

■履修上の指示事項

楽理科1年次生の必修科目。
受講生を二つのクラスに機械的に振り分ける。各受講生は振り分けられたクラスで一年を通して履修する。
予習が必須である。

■備考（オフィスアワー）

初回授業時に指示する。

楽書講読（露）

代表教員：一柳 富美子
曜日時限：木曜2限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（音楽学）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

ロシア語で書かれた音楽関連文献の講読を通して、ロシア音楽研究を行うために必要な基礎知識と実践的スキルを同時に習得することを目指す授業です。講義・語学・講読の3本柱で運営します。

■授業計画及び内容

- ①「基礎知識」としては、まずロシア学の基礎に始まり、音源を鑑賞しながら16世紀半ばからのロシア音楽史を講義します。並行して、ロシア史全般、文学(特に詩)、ロシア正教、フォークロアについても言及します。
- ②「実践的スキル」としては、音楽研究に必要なロシア語力を磨きます。具体的には、音楽事典の読み方・定番の略語に始まり、重要なのに現行の露和辞典には載っていないような専門用語も紹介します。文法力は、ロシア語能力検定2級(対外文化協会主催ロシア語検定なら第2レベル)合格程度にまで引き上げます。
- ③講読書は参加者の語学力と興味を考慮して決定します。第一回の授業で、早速、2014年現在のロシア音楽に関する基本文献(露・英、他)の概要を紹介します。

■教材・参考書

教材は授業時に毎回配布するプリント。辞書・参考書に関しては随時コメントします。
目を通して欲しい参考図書：一柳富美子著「ムソルグスキー」(東洋書店、ユーラシア・ブックレット No. 115)、同「ラフマニノフ」(同 No. 180)

■成績評価の方法

授業参加の姿勢・課題への取り組みなど、平常点のみで評価。個々の語学力は評価対象にはなりません。

■履修上の指示事項

第一回から早速授業を開始します。最初に様々な注

意事項を指示、また簡単なアンケートを実施しますので、受講希望者は必ず出席してください。その際、出版社は問わないので、ロシア語の辞書を持参してください。ロシア語未習者も受け付け、ロシア語独習法を伝授します。

■備考（オフィスアワー）

木曜日は、3限以外は大体3-1-23にいますので、アポがあれば受け付けます。

楽書講読（独）

代表教員：土田 英三郎

曜日時限：月曜3限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（音楽学）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

音楽学に関するドイツ語専門文献の講読

■授業計画及び内容

ドイツ語による音楽学の専門文献の厳密な読み方を習得すると同時に、音楽学の基本問題について考察を深める。

テキストは受講者の能力や関心に応じて決定する。

過去の例：

Alfred Durr, Johann Sebastian Bach. Die Kantaten, Kassel: Barenreiter, 7/1999.

Idem, Johann Sebastian Bach. Das Wohltemperierte Klavier, Kassel: Barenreiter, 1998.

Idem, "De vita cum imperfectis", in Studies in Renaissance and Baroque Music in Honor of Arthur Mendel, Kassel: Barenreiter, 1974.

Werner Breig, "Versuch einer Theorie der Bachschen Orgelfuge", in Die Musikforschung 48/1 (1995).

William Kinderman, "Bach und Beethoven", in Bach und die Nachwelt 1: 1750-1850, Laaber: Laaber verlag, 1997.

Peter Wollny, "Abschriften und Autographe, Sammler und Kopisten. Aspekte der Bach-Pflege in 18. Jahrhundert", in Bach und die Nachwelt 1: 1750-1850, Laaber: Laaber verlag, 1997.

James Webster, "Zur Form des Finales von Beethovens 9. Symphonie", in Probleme der symphonischen Tradition im 19. Jh., Tutzing: H. Schneider, 1990.

Sieghard Brandenburg, "Die Skizzen zur Neunten Symphonie", in Zu Beethoven 2, Berlin: Neue Musik Berlin, 1984.

Karen Lehmann, "Die Idee einer Gesamtausgabe: Projekte und Probleme", in Bach und die Nachwelt 1: 1750-1850, Laaber: Laaber verlag, 1997.

■教材・参考書

適宜配布する。

■成績評価の方法

平常点と学年末試験

■履修上の指示事項

輪読形式。必ず十分な予習と復習をすること。辞書は小学館の独和大辞典を常備すること。西洋音楽史、特にドイツ・オーストリア音楽の研究を希望する学生はできるだけ受講することが望ましい。単位取得済みの学生の聴講も歓迎する。

■備考（オフィスアワー）

火曜3限（総合ゼミナール、音楽学実習等がない場合）、その他予約による。

楽書講読（日）

代表教員：塚原 康子

曜日時限：金曜3限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（音楽学）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

幕末・明治期の音楽関係の公文書や日記等を読む

■授業計画及び内容

翻刻資料を用いて当時の文書の言い回しに慣れるとともに、くずし字の初歩を学ぶ。その上で、(1)本学附属図書館貴重書データベースおよびアジア歴史資料センターで Web 公開されている文書から選んだ音楽関係の公文書、(2)当時の音楽家が記した日記の一部、などを講読する。

■教材・参考書

授業時に指示する

■成績評価の方法

平常点と試験

■履修上の指示事項

輪読形式

■備考（オフィスアワー）

火曜日の9:30~10:20

楽書講読（仏）

代表教員：片山 千佳子
曜日時限：月曜4限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（音楽学）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

音楽に関する専門書をフランス語で読解すること。

■授業計画及び内容

以下の文献を読み進める。読み終えた場合には、別の論文を取り上げる。

Jean Molino. "Pour une autre histoire de la musique: les reecritures de l'histoire dans la musique du XXe siecle."

In: Musiques - Une encyclopedie pour le XXe siecle, tome 4: Histoires des musiques europeennes, sous la direction de Jean-Jacques Natiez, 2006, pp. 1386-1440.

■教材・参考書

最初の授業の際にコピーを配布する。

■成績評価の方法

出席状況、および学期末におけるフランス語読解力で評価する。

■履修上の指示事項

中級を終了した程度のフランス語能力を必要とする。なお、フランス語の発音規則は必ず身につけていること。
輪読形式なので、毎回必ず予習をしてくること。

■備考（オフィスアワー）

以下のアドレスに予約を申し込むこと。
[メールアドレスはG-net シラバスに記載]

楽書講読（羅）

代表教員：片山 千佳子
曜日時限：金曜4限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（音楽学）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

ラテン語による音楽理論書を読み解く。

■授業計画及び内容

今年度は昨年に引き続き、13世紀の音楽理論書である「第4無名著者 Anonymus IV」を読解する。

校訂版は、以下の版を使用する。

Fritz Reckow, Der Musiktraktat des Anonymus 4, 2 vols., Beihefte zum Archiv für Musikwissenschaft, vols. 4-5 (Wiesbaden: Steiner, 1967), 1:22-89.

■教材・参考書

辞書については、最初の講義の際に紹介する。

インターネットでこの論文が無料公開されているサイトは以下の通り。テキストは、ここからダウンロードしたものを配布する。

http://www.chmtl.indiana.edu/tml/13th/ANO4MUS_TEXT.html

■成績評価の方法

出席状況と、学年末の時点でのラテン語読解力によって成績を評価する。

■履修上の指示事項

ラテン語初等文法を習得していること（本学で授業として履修したか、独習したかは問わない）。

英訳、研究書は、授業のなかで紹介する。

大学院生でラテン語による音楽理論書購読を履修する人は、「楽書購読（羅）」ではなく、この時間の「音楽学特殊研究（西洋B）」を履修登録すること。

■備考（オフィスアワー）

楽理科研究旅行

代表教員：塚原 康子

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（音楽学）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

日本の伝統文化についての理解を深めるための研究旅行

■授業計画及び内容

楽理科では、わが国の伝統文化に関する見聞・理解を深めることを目的として研究旅行を実施している。本年度は8月29日から9月3日までの5泊6日を予定しており、宿泊拠点として美術学部付属の古美術研究施設（奈良市登大路）を利用する。主な内容は、関西方面の重要な有形文化財（建築物・彫刻・絵画等）と無形文化財（社寺の行事、芸能等）の見学、博物館・資料館、および伝統楽器の製造現場などの見学のほか、関西在住の諸分野の専門家（数名）から臨時の特別講義（主として見学対象に関連した内容）を受けることが含まれる。詳細な予定・日程は、6月初旬に掲示する。本旅行の準備として6月と7月に2回のガイダンスを開催するので旅行参加者は必ず出席すること。

■教材・参考書

2回のガイダンスの際に指示

■成績評価の方法

主にレポートによる評価。単位取得は、2回のガイダンスへの参加、旅行の全日程参加、レポートの提出を条件とする。部分参加も認めるが、この場合は単位を取得できない。

■履修上の指示事項

参加申込みについては5月中に楽理科教員室前に掲示する。この研究旅行は、主に楽理科3年生を対象とするが、人数に余裕のある場合は、他の学生の参加も認める。希望者は楽理科教員室にその旨を申し出ること。

■備考（オフィスアワー）

ガムラン演奏Ⅰ

代表教員：皆川 厚一
曜日時限：月曜4限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（音楽学）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

東南アジアの代表的合奏音楽であるインドネシア、バリ島のガムランを実習し、口頭伝承による音楽学習を体験する。

■授業計画及び内容

前期は基本形式「ギラッ」の習得。後期は応用編として「シノム」という古典曲を学習する。いずれの曲も譜面を用いずに教員の実演を模倣するやり方で習得する。全ての種類の楽器を交代で演奏する。

■教材・参考書

皆川厚一『ガムランを楽しもう』音楽之友社 1998 皆川厚一（編著）『インドネシア芸能への招待』東京堂出版 2010 吉田禎吾（監修）『神々の島バリ』春秋社 1994

■成績評価の方法

出席率を重視する。また難易度の高い楽器に積極的にトライする学生には高評価を与える。

■履修上の指示事項

楽譜等は用いないため記録の為に各自録音機を利用する事を薦める。

■備考（オフィスアワー）

毎月曜日 14：00 から 14：40 まで

ガムラン演奏Ⅱ

代表教員：皆川 厚一
曜日時限：月曜5限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（音楽学）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

ガムランの様々な演奏形態を実習する。

■授業計画及び内容

前期はインドネシア、バリ島のグンデル・ワヤン実習。後期は中部ジャワ様式ガムランの実習。地方様式、音階組織、楽式の多様性等を学ぶ。

■教材・参考書

皆川厚一『ガムランを楽しもう』音楽之友社 1998 皆川厚一（編著）『インドネシア芸能への招待』東京堂出版 2010 吉田禎吾（監修）『神々の島バリ』春秋社 1994

■成績評価の方法

出席率を重視する。また難易度の高い楽器に積極的にトライする学生には高評価を与える。

■履修上の指示事項

楽譜等は用いないため記録の為に各自録音機を利用する事を薦める。

■備考（オフィスアワー）

毎月曜日 14：00 から 14：40 まで

記譜法

代表教員：吉川 文
曜日時限：金曜 2 限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（音楽学）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

楽譜は、本来は目に見えない音楽を可視化したものと言えるが、そこで何を書き記そうとしたのか、書き記されないものは何かを考えてみることは、音楽そのものの本質を問うことにもつながるだろう。この授業では、現在一般的に広く用いられている五線譜による記譜法の成立過程を、ネウマ譜の段階から追いながら、西洋音楽の変遷を辿る。

■授業計画及び内容

五線譜成立までを概観する。
以下のような記譜法について、基本的に時代順に紹介する。

- ・古代ギリシャの文字譜
- ・グレゴリオ聖歌のネウマ譜
- ・リズム・モード譜
- ・中世後期、ルネサンス期の計量記譜法
- ・鍵盤楽器や弦楽器などの楽器奏法譜
- ・活版印刷譜

様々な楽譜の形で残された音楽を、できるだけ具体的な音でも確認する。

■教材・参考書

適宜プリントを配布する。
必要に応じて、随時参考書など紹介する。

■成績評価の方法

出席状況と学期末の課題への取り組み。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

現代音楽講義

代表教員：谷口 昭弘
曜日時限：金曜 3 限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（音楽学）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

20 世紀アメリカのクラシック音楽

■授業計画及び内容

20 世紀アメリカのクラシック音楽を概観する。またその理解に不可欠な 19 世紀までのアメリカ音楽の流れも最初に扱う。以下はおおよその講義計画である。

- (1) アメリカ音楽を考える視点：宗教、民族、ヨーロッパ
- (2) 20 世紀への道 (1) 植民地時代、独立戦争と愛国主義、ヨーロッパ音楽の吸収
- (3) 20 世紀への道 (2) 18・19 世紀の流れ
- (4) 20 世紀への道 (3) 第 2 ニューイングランド楽派、アイデンティティーの目覚め
- (5) 20 世紀初頭のさまざまな流派 (1)
- (6) 20 世紀初頭のさまざまな流派 (2)
- (7) チャールズ・アイヴズ (1)
- (8) チャールズ・アイヴズ (2)
- (9) 実験音楽への道：ウルトラモダニズム (1)
- (10) 実験音楽への道：ウルトラモダニズム (2)
- (11) ジョージ・ガーシュウィンとシンフォニック・ジャズ
- (12) 1930 年代とナショナリズム
- (13) アーロン・コープランドと「アメリカーナ」
- (14) アメリカの古典主義、ロマン主義
- (15) 実験主義（パーチ、ナンカロウ）、東洋との対話（カウエル、ホヴァネス）
- (16) アカデミズムと戦中?戦後のクラシック音楽
- (17) 折衷主義の系譜 (1)
- (18) アメリカの 12 音音楽、セリエリズム
- (19) アメリカの電子音楽、コンピュータ音楽
- (20) ジョン・ケージ
- (21) ニューヨーク・スクール
- (22) ケージ後の流れ
- (23) ミニマル・ミュージック (1)
- (24) ミニマル・ミュージック (2)
- (25) 折衷主義の系譜 (2)

- (26) 折衷主義の系譜 (3) ポストモダン、「トータリズム」
 (27) ルロイ・アンダーソンと「セミクラシック」
 (28) ポップス・オーケストラ
 (29) アメリカ・クラシック音楽の現在

■教材・参考書

授業内で資料を配布したり紹介したりするが、以下を参考書として挙げておく。

- ・ Richard Crawford, An Introduction to America's Music
- ・ Kyle Gann, American Music in the Twentieth Century.

■成績評価の方法

レポート、テスト、出席状況等による。

■履修上の指示事項

特になし。

■備考（オフィスアワー）

授業終了後などに随時質問を受け付ける。その他はメールで連絡を。[メールアドレスはG-net シラバスに記載]

初級演習C（西洋音楽史）

代表教員：大角 欣矢

曜日時限：月曜4限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（音楽学）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

西洋音楽史研究のための基礎訓練

■授業計画及び内容

【授業で取り扱う内容】

- ・ 西洋音楽の歴史を研究するとはどういうことか
- ・ 研究資料へのアプローチ
- ・ 西洋音楽史研究の諸分野と方法

【授業の進め方】

受講者を小グループに分けて、課題毎にグループワークによるディスカッション・リサーチ・プレゼンテーションを常時行う。

【初回の課題】

「歴史」という概念の定義について、各自が最もふさわしいと思うものを調べ／考えて来て、それが意味するところと、それが音楽に適用された場合にどうなのかについて、説明できるようにしておくこと。初回授業時にグループ分けを行い、時間内にグループ毎にこの課題についてディスカッションやリサーチを行い、プレゼンをしてもらう。

■教材・参考書

必要に応じ指示する。

■成績評価の方法

授業への積極的参与（発言、質問、発表、討議への参加等）を主な評価の対象とする。黙って聴いているだけの学生は全く評価しない。

■履修上の指示事項

受講者多数の場合、2クラスに分けることもあり得る。

■備考（オフィスアワー）

大角のアドレス（G-net を参照）

初級演習 D (音楽民族学)

代表教員：佐藤 文香
曜日時限：木曜 4 限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目 (音楽学)
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

音楽民族学の展望

■授業計画及び内容

「音をめぐる世界に主体的に関わり、資料を収集し、分析して書く」ということは、音楽民族学を特色づける一連の技法である。この授業では、これらの技法を、それらに関連する基礎的概念を学ぶと同時に、それらが歴史的に内包してきた諸問題を批判的に検証しながら、修得することをめざす。

■教材・参考書

Timothy Rice. *Ethnomusicology: A Very Short Introduction*. Oxford University Press, 2014. その他は授業中に指示。

■成績評価の方法

平常点、発表内容、レポート

■履修上の指示事項

演習形式のため、無断欠席・遅刻はしないこと。各自が関心や疑問を抱き、意欲的に授業に参加し、課題にとりくむこと。

■備考 (オフィスアワー)

初回授業時に指示。

西洋音楽史 I 講義

代表教員：大角 欣矢
曜日時限：金曜 4 限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目 (音楽学)
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

J. S. バッハ研究の現在——バッハの「謎」に迫る！

■授業計画及び内容

膨大な研究の蓄積を土台として日夜進められている J. S. バッハ研究だが、これだけ研究の進んだ現在でもまだ未解明の問題が多くあり、またこれまで自明・解決済みと思われていた事柄が改めて問いに付されるといった事態も絶えず起こっている。本授業では、まずバッハ研究で今何が問題になっているのかについて、受講者自身がリサーチを行って課題を見出し、それについてさらにリサーチ・ディスカッションを行い、バッハの音楽についてのより深い理解を追求して行く。例えば、あくまでイメージであるが、次のようなテーマがあり得る (別にこれにとられる必要はない)。

- ・有名な《トッカータ ニ短調》BWV 565 はバッハの作なのか？
 - ・バッハが用いた「チェロ」とはどんな楽器だったのか？
 - ・バッハの器楽アンサンブル曲 (ソナタ、コンチェルト等) はいつどこで作曲されたのか？
 - ・《平均律クラヴィーア》の「平均律」とはどんな調律だったのか？
 - ・バッハはいくつのカンタータ年巻を書いたのか？
 - ・1730 年代以降、バッハは教会音楽の領域で何をやっていたのか？
 - ・《口短調ミサ》は、何の目的で完成されたのか？
- etc. etc....

■教材・参考書

■成績評価の方法

ディスカッションへの参加、リサーチやプレゼンテーションの成果によって評価する。

■履修上の指示事項

本授業では、履修者自らが見出した課題毎に小グループを編成し、グループワークによってディスカッション、リサーチ、プレゼンテーションを行ってもらう。

■備考（オフィスアワー）

大角のアドレス（G-net を参照）

西洋音楽史Ⅱ演習

代表教員：藤本 一子

曜日時限：木曜 4 限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（音楽学）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

シューマンとブラームスを通してみる 19 世紀ロマン派の音楽

■授業計画及び内容

19 世紀は一般にロマン派音楽の時代として括られますがその局面はじつに多様です。本授業ではシューマンとブラームスの創作における形式の革新とその変容の観点から、音楽におけるロマン主義を考察します。

改作問題、版の扱いも視野に入ります。前期は 1830—56 年まで、後期は 19 世紀後半を対象とし、研究モデルとしてピアノ曲ほか複数のジャンルの作品を提示します。発表者は各自の関心に基づいて作品をとりあげ、踏み込んだ論点のもとに発表を行っていただきたい。

■教材・参考書

研究モデルとして提案する二人の作曲家の作品、ならびに参考文献を初回に配付します。

■成績評価の方法

研究発表とレポート、出席率と討論への参加など。専攻によっては演奏発表も可。

■履修上の指示事項

時代思潮に関心をもっていただきたい。

楽理科以外、とくに演奏領域の学生さんの履修を大いに歓迎します。

■備考（オフィスアワー）

授業終了後、楽理科教員室にて。

西洋音楽史概説

代表教員：土田 英三郎

曜日時限：火曜 4 限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（音楽学）

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

西洋音楽の通史

■授業計画及び内容

楽理科の1、2年次生を対象とし、西洋音楽史の流れを概説するとともに、音楽史学全体や各時代の研究にとって重要な問題を紹介する。

〔前期〕

1. 「歴史」「歴史記述」とは何か
2. 西洋音楽史研究の基本問題
3. 単旋聖歌と中世世俗歌曲
4. 多声音楽の成立と発展
5. アルス・ノヴァとトレチェントの音楽
6. 中世からルネサンスへ
7. フランドル楽派の音楽

〔後期〕

8. バロック様式の成立
9. バロック音楽のジャンルと形式
10. バロックの音楽
11. バロックから古典派へ
12. 初期古典派の音楽
13. 盛期古典派の音楽
14. 19世紀前半の音楽
15. 19世紀後半の音楽
16. 世紀転換期の音楽
17. 20世紀以降の音楽の特質
18. 20世紀以降の音楽の歴史

■教材・参考書

教 材：プリントを授業中に配布する。

参考書：初めに基本文献表を配布し、音楽史記述の諸傾向と問題点を紹介する。受講者はグラウト／パリスカ『新西洋音楽史』上中下（音楽之友社）や U. ミヒェルス編『図解音楽事典』（白水社）等をもとに、各自で重要事項を整理してゆくこと。

■成績評価の方法

学期末にレポートを課し、学年末に試験を行う予定。

■履修上の指示事項

楽理科の1、2年次生は必修。他科の学生も履修・聴講可能。

■備考（オフィスアワー）

火曜 3限（総合ゼミナール、音楽学実習等がない場合）、その他の空き時間（要予約）。

西洋古楽演奏 I

代表教員：廣沢 麻美

曜日時限：水曜 3限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（音楽学）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

鍵盤楽器（チェンバロ）上での通奏低音奏法の基礎習得を中心とし、補足的に、関連する様々な音楽を鑑賞体験する。

■授業計画及び内容

毎回、宿題としてあらかじめ準備させる課題と、初見の課題によって全員がチェンバロで通奏低音奏法の実習を行う。その際、必要に応じて歴史的教材も参考にする。場合によってリアリゼーションを筆記させるが、あくまでもチェンバロ上での実践を優先とする。チェンバロやクラヴィコードを実際に弾くことによって古楽器への理解を深める一方、所謂「クラシック」というジャンルや「古楽」という時代区分に留まらない出来るだけ多彩な音楽の鑑賞を通して、声楽を含む「古楽」の可能性を考える機会を作る。また、受講者の進捗状況、希望者の有無、時間的余裕に応じて、チェンバロを含むアンサンブルの実技指導を補足的に行うこともある。その場合レパートリーは古典派初期頃までとし、広範囲の様式を知ることを目的とする。

■教材・参考書

教材は全て授業中に配布する。「ヘンデルの数字付低音課題に基づく通奏低音奏法」（レッドベター解説、全音楽譜出版社）「鍵盤による数字つき和声」（R. O. モリス著、音楽之友社）などを中心とし、その他グラブナー、テレマン、ダンドリュウ、パスクイーニなどの教則本やヘンデル、バッハなどの楽曲を使用。

■成績評価の方法

出席状況と学習態度を重視。各学期末に実技による試験を実施し総合評価する。1/3 以上欠席した者は試験の受験を認めないので注意すること。

■履修上の指示事項

年に 20 回ほどの授業で、実技である通奏低音奏法を

ひとつとマスターすることを目標とするので、授業時間外での各自の復習が不可欠となる。欠席が進度の遅れをまねくので、やむを得ず欠席した場合は、必ず各自の責任で十分補習すること。そのための資料配布や質問は常時受け付ける。

■備考（オフィスアワー）

授業日の空き時間。メールでの質問や面談予約も受け付けるので、希望者は楽理科教員室までメールアドレスを問い合わせること。

西洋古楽演奏Ⅱ

代表教員：廣沢 麻美

曜日時限：水曜 4 限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（音楽学）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

西洋古楽演奏Ⅰで学んだ通奏低音奏法を基盤としての演奏実践。チェンバロを含む、声楽・器楽によるアンサンブル指導に重点を置く。レパートリーは古典派初期までとする。

■授業計画及び内容

チェンバロによる通奏低音奏法の実践をベースとするが、基本的にその年度始めに受講者の希望をきき、なるべくそれに沿った内容にする。Ⅰに較べ、より現場に密着した観点からのアドバイスを与える。全員がチェンバロでの実習をした上で、希望者による、旋律楽器や声楽での積極的な参加を歓迎する。アンサンブルの際のピッチは問わない。より深い、様式の理解を目的とする。チェンバロやクラヴィコードを実際に弾くことによって、古楽器への理解を深める。時間に余裕がある場合には、希望者にそれらの楽器によるソロも指導する。また、古楽のみに留まらず様々なジャンルの音楽や映像鑑賞などを通して、音楽との柔軟な関わりを試みる。

■教材・参考書

授業中に配布、また受講生が持参。参考として B. パスキューニ、ダンドリュー、ハイニヒェン、マテゾン、サンタンベール、ダングルベール、ドウレール、ガスパリーニ、パスクワーリなどの課題ほか、P. ウィリアムズ、クリステンセンの著書など。

■成績評価の方法

出席状況と学習態度を重視。各学期末に実技による試験を実施し総合評価する。1/3 以上欠席した者は試験の受験を認めないので注意すること。

■履修上の指示事項

西洋古楽演奏Ⅰを履修し、基礎を習得したと評価された者の受講が望ましい。その見地から、場合によっては履修を認められないこともあるので、上記以

外で受講を希望する場合は必ず第 1 回目の授業にて相談すること。

■備考（オフィスアワー）

授業日の空き時間。メールでの質問や面談予約も受け付けるので、希望者は楽理科教員室までメールアドレスを問い合わせること。

総合ゼミナール

代表教員：福中 冬子
曜日時限：火曜3～4限
学 期：通年
単 位 数：0
ジャンル：専門科目（音楽学）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

楽理科三年生以上および大学院生（音楽学専攻の修士・博士課程）を対象とし、内外の講師による特別講義、博士課程学生研究発表、卒業論文・修士論文の中間発表、学生の自主企画によるゼミナール等を随時開催する。毎年度の日程は、楽理科教員室前に掲示する。

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

総合ゼミナールへの参加は、音楽学実習の単位取得に勘案される。年間を通して所定の回数以上の出席がない者には音楽学実習の単位を与えないので注意すること。

■備考（オフィスアワー）

卒業論文

代表教員：福中 冬子
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（音楽学）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

卒論執筆にむけた指導。

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

東洋音楽演奏Ⅱ

代表教員：王 暁東
曜日時限：水曜2限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（音楽学）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

中国琵琶演奏法

■授業計画及び内容

中国琵琶の演奏様式の手ほどきをする。また楽器の実習を通じて、中国音楽の理論と歴史に関する知識を習得する。授業はグループレッスンを基本とし、必要に応じて個人指導を行なう。以下に内容を記す。

- ①中国琵琶の各流派、そして文人音楽と民間音楽の違いを理解する。
- ②中国琵琶の基本的な伝統演奏技法の修得。
- ③現代における中国琵琶の可能性を再認識する。

■教材・参考書

授業に際して、プリント等を配布。

■成績評価の方法

出席・レポート或いは試験

■履修上の指示事項

別途指示する。

■備考（オフィスアワー）

東洋音楽史演習

代表教員：植村 幸生
曜日時限：水曜3限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（音楽学）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

「東アジアの琴・箏とその音楽」

いわゆるコトにあたる弦鳴楽器（ロング・ツィター）の広範な分布と長い歴史は東アジアの音楽文化を特徴づけている。本科目では、特に中国の古箏と古琴を中心にすえながら、東アジア琴・箏類とその音楽を、俯瞰的（マクロな）視点と個別的（ミクロな）視点を交錯させながら総合的に理解していく。本科目のなかで展開される論点を列挙すれば以下の通り。

- 1) 琴・箏類の定義と分類、語源と字源
 - 2) 楽器の構造、素材、製作過程と製作技術、音響特性
 - 3) 楽器の象徴性、楽器に対する思想、文学のなかの琴・箏類
 - 4) 琴・箏類の考古学と歴史学、分布と伝播
 - 5) 演奏者：性差、身分、職業性
 - 6) 伝承と教育、流派
 - 7) 楽譜と記譜法
 - 8) 演奏技法と演奏習慣
 - 9) 音楽ジャンルと様式、調弦、楽曲の構造
 - 10) 近代化と琴・箏音楽、楽器の「改良」
- 本科目の受講を通じて、東アジアの音楽文化を研究する方法と視点を身につけることが目標である。

■授業計画及び内容

前期は古箏、後期は古琴を主たるテーマとし、それぞれ担当講師およびゲストによる講義、デモンストレーション、受講生に対する奏法の実習で構成する。

■教材・参考書

教科書：なし。参考書：多数あり。授業中に紹介する。

■成績評価の方法

出席状況、授業への参加の積極性、期末（前期・後期）レポートの内容を総合して評価する。

■履修上の指示事項

大学院音楽学専攻「音楽学特殊研究（東洋）」との合同で授業を行う。学部生と大学院生が互いに協力しあって本科目を受講することを期待する。

■備考（オフィスアワー）

東洋音楽史概説

代表教員：植村 幸生

曜日時限：火曜 2限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（音楽学）

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

アジア諸民族の音楽文化とその歴史

■授業計画及び内容

テーマ別の単元を設定し、その中で数回ずつの講義を行う。アジア音楽を正しく「読み取る」力を身につけ、研究的な関心をはぐくむことが本科目の目標である。予定されている単元は次の通り。

（前期）

1. 総論：アジアの音楽文化圏
2. 声と楽器
3. 音楽・芸能の場
4. 古代東アジアの音楽文化

（後期）

5. 音の組織化
6. 物語と音楽・芸能
7. アジアの宗教と音楽
8. 近現代のアジア音楽

■教材・参考書

特定の教科書は用いないが、次の書籍を教科書に準ずる参考書としてあげる：柘植・植村『アジア音楽史』（音楽之友社、1996年）柘植・塚田『はじめての世界音楽』（音楽之友社、1999年）
その他の参考書（多数あり）は授業中に指示する。

■成績評価の方法

筆記試験（前期・後期の二回）を行う。また、毎回提出させるコメントの内容も評価に加味される。

■履修上の指示事項

楽理科（1，2年生）の必修科目。他科の学生の受講も妨げないが、楽理科の必修科目であることを了解の上受講すること。

■備考（オフィスアワー）

随時応じる。ただし原則として予約制とする。[メー

東洋音楽史講義

代表教員：尾高 暁子
曜日時限：金曜 5 限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（音楽学）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

「中国音楽史」

中国の伝統音楽を古代から近代にわたって概観する。また各時期の主要な研究課題と進展状況も簡単に紹介する。中国は、歴史的に周辺地域に多大な影響を与えたので、東アジアや東南アジアとの関連にも目をむける。

■授業計画及び内容

1. ガイダンス：中国音楽史の歴史区分、担い手と主要ジャンルの推移、研究機関紹介
2. 太古から先秦時代へ：神話と伝承、理論、思想
3. 秦漢から魏晋南北朝：漢代の楽府、鼓吹楽、琴楽、百戯、
4. 隋唐：唐の大曲、唐代宮廷の教坊と梨園、主要なジャンル（俗講、散楽、琵琶、琴など）、周辺地域への影響
5. 宋元：宋词と姜?の創作、語り物音楽の台頭、伝統劇の発展（雑劇と南戯）、少数民族の音楽状況
6. 明清：現代に繋がる語り物音楽の発生、琴・琵琶・三弦の発展、多彩な語り物音楽、伝統劇音楽の本格的な発展と系統、
7. 近代：学堂楽歌の重視、京劇の発展、小規模な地方伝統劇の勃興、近代器楽の創出と発展、諸外国との交流と洋楽導入

備考1：上記6期を3，4回にわけて講義する。

備考2：通史以外に、楽器や記譜法などについては、別途発展経緯を概観する

■教材・参考書

柘植元一、植村幸生編『アジア音楽史』音楽之友社、1996

■成績評価の方法

- ・前期と後期に期末テストを実施
- ・合計得点の平均が6割に達すれば合格の最低ライ

ンとする。

■履修上の指示事項

出席回数は評点の対象外。ただし、講義内容も多様で年代も長期にわたるので、出席頻度が理解度に影響することは必至。

■備考（オフィスアワー）

講義時に指示する

日本音楽史 I 演習

代表教員：スティーブン・G・ネルソン

曜日時限：月曜5限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（音楽学）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

日本の古楽譜

■授業計画及び内容

隋・唐の先進文化に接した日本にとっては、東アジア世界における律令国家としての体制を整えるために、礼楽思想に基づいた年中行事の実践を可能にする楽舞の導入は急務だった。その楽舞（実は隋・唐の宴饗楽）を求めて遣隋・遣唐の使節に参加した者たちにとって、伝授の証にせよ、私的な備忘録にせよ、授かった内容を何らかの形で書き留めた楽譜が必要だったのはいうまでもない。この演習では、隋・唐代伝来の楽譜とその影響の下で日本で成立した楽譜を主たる対象に、古楽譜の研究方法を学んでいく。前期は近年の研究成果の講読（和文中心、英文少々）を通して理解と問題意識を高め、後期は各自の関心及び問題意識に即して対象を選び発表を行う。

■教材・参考書

教材は授業の際に適宜配付する。参考書は『別冊太陽 雅楽』（平凡社、2004年）。その他については適宜紹介する。

■成績評価の方法

授業への参加態度（出席状況、リアクション・ペーパー、発表など）及び期末レポートで総合的に評価する。

■履修上の指示事項

演習は出席と授業参加が重要。事前に連絡のない欠席が重なれば即失格。

■備考（オフィスアワー）

授業終了後。「オフィス」はないので、教室にて。

日本音楽史 I 講義

代表教員：遠藤 徹

曜日時限：金曜 2 限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（音楽学）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

中世、近世の楽理研究を追体験する。

■授業計画及び内容

日本の楽理研究は近代に始まったものではなく、近代以前にも豊富な営みがあった。それらは当時の問題意識や思想・方法に基づいて行われたため、西洋の学問の影響を受けた今日の研究とは様相が異なる面も少なくない。本講義では中世、近世に行われた楽理研究の代表的な例を取り上げ、当時の人々が考えていたことを当時の文脈に沿って追体験することを通じて、日本の伝統音楽の楽理を研究する方法や意味について、より深く考える思考を得ることを目指す。はじめに近代以降の代表的な研究として上原六四郎、兼常清佐、小泉文夫等の事績を確認した上で、中世の例としては藤原師長（雅楽）、湛智（天台声明）、隆然（真言声明）、近世の例としては中村惕斎（儒学者）、荻生徂徠（儒学者）、中根元圭（和算家）、岡昌名（雅楽）等を取り上げる予定である。

■教材・参考書

参考書『日本音楽基本用語辞典』（音楽之友社、2007年）、『日本古典音楽文献解題』（講談社、1987年）。その他は適宜指示する。

■成績評価の方法

レポート

■履修上の指示事項

馴染みの薄いテーマだと思いますが、予め平野健次「日本音楽学史序説」（岩波講座『日本の音楽・アジアの音楽 7』岩波書店、1989年）、前田昭雄「音楽学の領域と日本の音楽」（岩波講座『日本の音楽・アジアの音楽 6』岩波書店、1988年）等に目を通しておくと、少し様子がわかると思います。

■備考（オフィスアワー）

日本音楽史概説

代表教員：塚原 康子

曜日時限：火曜5限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（音楽学）

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

日本における音楽文化の成立と展開を、各時代を特徴づける新しい種目の生成と既存種目の変化を軸に、通史的に把握する。

■授業計画及び内容

古代から現代にいたるまで、多種多様な音楽種目を発達させてきた日本の音楽文化の歴史的変遷を、考古学資料、楽譜をふくむ文献資料、図像資料、現存する音楽伝承などを手がかりに概説する。近年の新しい研究動向やその成果もできるだけ紹介する。

1. 総説
2. 5世紀以前
3. 東アジア外来楽舞の伝来
4. 外来楽舞の日本化
5. 声明の伝来と展開
6. 中世の新しい歌謡
7. 能楽の源流
8. 能楽の大成
9. 三味線伝来とキリシタン音楽
10. 近世の中国系外来音楽
11. 近世の雅楽・声明・能楽
12. 三味線音楽の始まり
13. 近世箏曲の始まり
14. 地歌箏曲の展開
15. 尺八音楽の展開
16. 人形浄瑠璃の始まり
17. 人形浄瑠璃の音楽
18. 歌舞伎の始まり
19. 歌舞伎の音楽1（浄瑠璃）
20. 歌舞伎の音楽2（長唄、陰囃子）
21. 近代の日本音楽1（戦前）
22. 近代の日本音楽2（戦後）

■教材・参考書

国立劇場編『日本の伝統芸能講座－音楽』淡交社、2008年刊。その他、参考資料は随時指示する。

■成績評価の方法

試験（前期・後期）

■履修上の指示事項

楽理科1・2年生の必修科目。各人が現存する日本音楽の資料や実技・実演に接し、また諸外国の音楽史との類似点や相違点を考えることを通して、日本音楽史に関心をもち、その特質をつかむことを期待する。

■備考（オフィスアワー）

火日 9:30～10:20

專門科目（音樂環境創造）

DTP出版編集演習

載] まで。

代表教員：岸本 剛

曜日時限：木曜5限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

美しく読みやすい本・雑誌・チラシ・パンフレットなどのデザイン・制作を通じ、自分や他者の意図を正確に相手に伝える技術を学ぶ。パソコンでの文字や画像の扱いに強くなる。

また、だれもがメディアになれる時代のプロデューサー行為、編集行為について考える。

■授業計画及び内容

Macintosh を用いた実習。取材や執筆を行うこともある。使用アプリケーションは、Word、Photoshop、Illustrator、InDesign 等。アプリケーションの習熟だけでなく、ブックデザインのルール、日本語や文字の知識、印刷・製本、著作権についても学ぶ。また、制作側としての企画立案、原稿編集、校正、進行管理などのワークフローについてもふれる。

なお、千住アートパスのデザイン担当者が履修している場合は、後期授業内で作業を行う可能性あり。本年度は数コマ、Web サイト作成の入門講義も行う予定。

講 義 レ ジ ュ メ は <http://homepage.mac.com/ksmt/mce/> を参照。

聴講は応相談。

■教材・参考書

レジュメを配布。随時参考文献指示。

■成績評価の方法

理解度を問うテストあり。随時作品提出あり。ひたすら実習なので出席は必須。

■履修上の指示事項

パソコン操作の経験不問。ノートパソコンの持ち込み可。

■備考（オフィスアワー）

質問があれば[メールアドレスはG-net シラバスに記

音楽環境創造概説 1

代表教員：西岡 龍彦
曜日時限：月曜3限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（音楽環境創造）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

西洋音楽を中心とした創作技法

■授業計画及び内容

スタイル、楽曲の構造や楽器法の分析など。
与えられたテーマについて発表させる。

■教材・参考書

必要に応じて指示する。

■成績評価の方法

レポート

■履修上の指示事項

音楽環境創造科対象

■備考（オフィスアワー）

木曜日、金曜4限

音楽環境創造概説 2

代表教員：亀川 徹
曜日時限：月曜2限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（音楽環境創造）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

音を扱う上で必要となる音響の知識を習得する。

■授業計画及び内容

講義では以下のテーマを扱う。

【前期】

音の物理
耳の仕組み
音響心理学の基礎
電気音響
コンピュータとデジタルの基礎

【後期】

音のデジタル化
楽器音響
建築音響
録音技術
音響に関する研究の計画と実行

■教材・参考書

教科書は特に定めませんが、必要に応じて参考書を紹介する。

■成績評価の方法

評価はレポートあるいは試験および出席によって行う。ただし出席回数が全体の2/3に満たない場合は失格、不正行為（データの改ざん、アイディアの盗用など）は不可とする。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

奇数週の木曜日3?5限。ただし、会議が入ることが多いので、メールにて予約を取ることが望ましい。

音楽環境創造概説3

代表教員：熊倉 純子

曜日時限：金曜1～2限

学 期：前期

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

芸術と社会の関係を今日どのように考えればいいのか。社会学、文化環境論、NPO論の観点から考察する。

■授業計画及び内容

講義形式と計画

三人の担当教員がリレー式で講義を行う。

内容は以下のとおり

ポピュラー音楽と資本主義（毛利）

芸術環境・文化政策（熊倉）

芸術の位置づけ（市村）

■教材・参考書

『アーツマネジメント概論（三訂版）』小林真理・片山泰輔監修編 水曜社 2009年

『増補 ポピュラー音楽と資本主義』毛利嘉孝 せりか書房 2012年

そのほかの参考書・教材は授業中に指示する。

■成績評価の方法

出席を重視（40%）

各担当教員に指示にしたがってレポート・課題を提出（60%）

■履修上の指示事項

希望者は、必ず事前に担当教員に確認すること。

■備考（オフィスアワー）

金曜日 5時より（市村） 金曜日 5限（熊倉） 水曜日 3限（毛利）

音楽環境創造概説4

代表教員：熊倉 純子

曜日時限：金曜1～2限

学 期：後期

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

今日、「芸術」とはなんだろうか。どのように発達し、どのように変わっていくのだろうか。身体表現やアートプロジェクト、都市やメディアにおける「芸術」のあり方を考える。

■授業計画及び内容

講義形式と計画

三人の担当教員がリレー式で講義を行う。

内容は以下のとおり

都市空間とメディアと芸術（毛利）

アートプロジェクトと市民参加・文化政策（熊倉）

舞台芸術・ダンス演劇の現在の課題（市村）

■教材・参考書

『ストリートの思想』毛利嘉孝 NHK出版 2009年
参考書・教材は授業中に指示する。

■成績評価の方法

出席を重視（40%）

各担当教員に指示にしたがってレポート・課題を提出（60%）

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

金曜日 5時より（市村） 金曜日 5限（熊倉） 水曜日 3限（毛利）

音楽基礎演習・上級

代表教員：浅田 淳子

曜日時限：水曜 1～2限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

- ・音楽学習の基礎となる楽典に関する学習
- ・読譜力の育成と聴音の学習
- ・音楽作品の鑑賞にあたって必要な基礎知識の修得

■授業計画及び内容

- ・年度初めの第1回目の授業でクラス分け試験を実施し、履修希望者の過去の音楽体験や各自の能力に応じて、初級、中級、上級の履修者を決定する。
- ・この授業は教職の単位に関係する。教職を希望する者は、教職に関する規定を理解した上で受講すること。
- ・音楽学習の基礎となる楽典について、後述の教材に沿って学習する（前期は楽典教科書の序章～第5章、後期は第6章～最後まで）。
- ・譜表、音程、リズムなどの要素に分け、読譜力を養う。
- ・和音に関する学習として、楽典に加えコードネームを用いた分析を行う。
- ・演奏可能な楽器を用いたアンサンブルの実習を行う。
- ・各種の音楽作品を採りあげ、各時代や地域の音楽について考察・学習する。

■教材・参考書

- ・『楽典』理論と実習（音楽之友社）を音楽基礎演習共通の教科書として用いる。
- ・原則的に毎回教材のプリントを配布する。
- ・五線紙または五線ノートと筆記用具を用意すること。

■成績評価の方法

- ・前期と後期の試験期間に筆記と実技の期末試験を実施する。
- ・筆記試験…音楽理論と聴音 ・実技試験…新曲視唱、リズム読み（打ち）

■履修上の指示事項

- ・基礎的な訓練は今後の学習効率にも大きく影響するため、自主的な参加、学習が不可欠である。
- ・クラス分け試験で上級に認定された者、及び中級の単位を取得した者は、上野校地で開講する「ソルフェージュ」（音楽環境創造科科目）を履修することができる。なお、クラス分け試験で上級に認定された場合でも、千住校地で開講する「音楽基礎演習・上級」の4単位は必修である。

■備考（オフィスアワー）

- ・特に設けないが、メールでの質問は受け付ける。

音楽基礎演習・初級

代表教員：茂木 真理子

曜日時限：水曜 1～2 限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

- ・音楽学習の基礎となる楽典に関する学習
- ・初歩的な読譜力の育成と聴音の学習
- ・クラス分け試験によって初級を履修する者は、初級の単位を認定された後に中級を履修することができる。その後中級の単位を認定された者はさらにこの上の、上級またはソルフェージュ（音楽環境創造科科目）」を履修することができる。

■授業計画及び内容

- ・年度初めの第1回目の授業で、クラス分け試験を実施し、履修希望者の過去の音楽体験や各自の能力に応じて、初級、中級及び上級の履修者を決定する。中級を超える実力を認めた者に対しては、「ソルフェージュ（音楽環境創造科科目）」の授業の受講を認定する。この授業は教職の単位に関係するものなので、教職を希望する者は、教職に関する規定を理解して受講すること。
- ・音楽学習の基礎となる楽典について、下記教材に沿って学習する。
- ・譜表、音程、リズムなどの要素に分け、読譜力を養う。
- ・和音に関する講義として、下記教材に加えコードネームを用いた分析、演奏を行う。
- ・音楽作品を採りあげ、各時代や地域の音楽について学習する。

■教材・参考書

- ・原則的には毎回教材のプリントを配布する。
- ・五線紙または五線ノートと筆記用具を用意すること。
- ・『楽典』（理論と実習）音楽之友社 を共通の教科書として用いる。

■成績評価の方法

- ・前期と後期の試験期間に筆記と実技の期末試験を実施する。

- ・筆記試験…音楽理論と聴音
- ・実技試験…新曲視唱、リズム読み（打ち）

■履修上の指示事項

- ・基礎的な訓練は今後の学習効率にも大きく影響する為、自主的な参加、学習が不可欠である。

■備考（オフィスアワー）

- ・特に設けないが、常時メールでの質問は受け付ける。[メールアドレスはG-net シラバスに記載]

音楽基礎演習・中級

代表教員：小林 弘人

曜日時限：水曜 1～2限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

- ・音楽学習の基礎となる楽典に関する学習
- ・読譜力の育成と聴音の学習
- ・音楽作品の鑑賞にあたって必要な基礎知識の修得

■授業計画及び内容

- ・年度初めの第1回目の授業でクラス分け試験を実施し、履修希望者の過去の音楽体験や各自の能力に応じて、初級、中級、上級の履修者を決定する。
- ・この授業は教職の単位に関係する。教職を希望する者は、教職に関する規定を理解した上で受講すること。
- ・音楽学習の基礎となる楽典について、後述の教材に沿って学習する（前期は楽典教科書の序章～第5章、後期は第6章～最後まで）。
- ・譜表、音程、リズムなどの要素に分け、読譜力を養う。
- ・和音に関する学習として、楽典に加えコードネームを用いた分析を行う。
- ・演奏可能な楽器を用いたアンサンブルの実習を行う。
- ・各種の音楽作品を採りあげ、各時代や地域の音楽について考察・学習する。

■教材・参考書

- ・『楽典』理論と実習（音楽之友社）を音楽基礎演習共通の教科書として用いる。
- ・原則的に毎回教材のプリントを配布する。
- ・五線紙または五線ノートと筆記用具を用意すること。

■成績評価の方法

- ・前期と後期の試験期間に筆記と実技の期末試験を実施する。
- ・筆記試験…音楽理論と聴音 ・実技試験…新曲視唱、リズム読み（打ち）

■履修上の指示事項

- ・基礎的な訓練は今後の学習効率にも大きく影響するため、自主的な参加、学習が不可欠である。
- ・クラス分け試験で上級に認定された者、及び中級の単位を取得した者は、上野校地で開講する「ソルフェージュ」（音楽環境創造科科目）を履修することができる。なお、クラス分け試験で上級に認定された場合でも、千住校地で開講する「音楽基礎演習・上級」の4単位は必修である。

■備考（オフィスアワー）

- ・特に設けないが、メールでの質問は受け付ける。

音楽理論演習 A

代表教員：西岡 龍彦

曜日時限：金曜 3 限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

音楽制作（作曲、録音エンジニア、音響デザイナー、音楽プロデューサー、音楽ディレクター）のための音楽理論を習得する。

■授業計画及び内容

和声と作品分析、様式分析を段階的に学習する。

■教材・参考書

必要に応じて指示する。

■成績評価の方法

試験

■履修上の指示事項

音楽環境創造科の学生で、音楽基礎演習中級を履修した者、もしくは同等の能力があると認められたものを対象とする。

前・後期ともに上野校地で開講する。

■備考（オフィスアワー）

木曜日、金曜 4 限

音楽理論演習 B

代表教員：山口 博史

曜日時限：木曜 3 限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

音楽制作（作曲、録音エンジニア、音響デザイナー、音楽プロデューサー、音楽ディレクター）のための音楽理論を習得する。

■授業計画及び内容

和声と作品分析、様式分析を段階的に学習する。

■教材・参考書

必要に応じて指示する。

■成績評価の方法

試験

■履修上の指示事項

音楽環境創造科の学生で、音楽基礎演習中級を履修した者、もしくは同等の能力があると認められたものを対象とする。

前・後期ともに千住校地で開講する。

■備考（オフィスアワー）

金曜 II 限

音響技術史

代表教員：君塚 雅憲

曜日時限：木曜 4 限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

音の記録・再生技術（ハードウェア）の歴史およびその簡単な技術解説と、それらが社会に与えた影響、また音楽家や演奏者（ソフトウェア）がこれらの技術をどのように受け止め発展させてきたか、加えて、そのハード、ソフト両輪がさらに新しい技術を生み出していく過程を、文化的、社会的側面を含めて考察する。

■授業計画及び内容

音の記録・再生技術の進化と変遷を辿り、その時々々の新技術と、それらが誕生した背景を考える。併せて、これらの音響技術が音楽芸術や表現にどのような影響を与えてきたかを研究・考察する。

19 世紀末に誕生した電話、蓄音機、映画などの発明が 20 世紀を大きく変え、これらの技術が進化していった。さらに、20 世紀後半にデジタル技術による大きなパラダイムシフトが起こり、これが 21 世紀をリードするものとなった。エジソンの錫箔円筒式蓄音機「フォノグラフ」の発明から、今日の DVD や SACD、さらに Blu-ray Disc などによる高密度記録メディア誕生まで、その技術変遷とエポックメイキングな技術を追ってみる。

難しい音響理論の講義ではなく、その技術を平易に解説し、これらが社会に与えた文化的、経済的な影響にもスポットを当てる。

課外授業として、レコード会社の録音スタジオ見学なども予定。

■教材・参考書

『音響技術史』森芳久著 東京芸術大学出版会

『デジタル・オーディオの全知識』柿崎景二著 白夜書房

『カラヤンとデジタル』森芳久著 ワック出版

その他の資料についてはその都度指示する。また、必要に応じコピーを配布する。

■成績評価の方法

出席状況と履修態度、

夏季課題発表＝自由テーマによる簡単な研究発表

通期末のテスト又はレポート提出

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

講義日（木曜）Ⅲ限の授業の前後（要事前予約）

[メールアドレスは G-net シラバスに記載]

音響心理研究法

代表教員：丸井 淳史

曜日時限：金曜 2限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

音と音楽を科学的に扱うためには注意深く計画された実験が不可欠である。この講義では特に音響心理実験における、実験素材の作り方、実験計画、実施、分析などを学習・研究する。

■授業計画及び内容

授業中に取り上げるトピックとしては以下のものを予定している。

- ・音の心理学的測定法
- ・実験方法
- ・統計分析手法

■教材・参考書

Soren Bech & Nick Zacharov “Perceptual Audio Evaluation” を教科書として用いる。購入は必須ではない。

■成績評価の方法

評価はレポートあるいは試験によって行う。配分は前期課題 35%・後期課題 35%・出席および講義への寄与 30%とする。ただし出席回数が全体の 2/3 に満たない場合は失格、不正行為（データの改ざん、アイデアの盗用など）は不可とする。

■履修上の指示事項

音楽環境創造概説 1 および 2 を履修済みであること。数学の基礎的な知識があると望ましい。英語の文献を読むこともある。

■備考（オフィスアワー）

オフィスアワーは原則として奇数週の木曜日 3?5 限とするが、会議が入ることがあるので、あらかじめメールなどで時間を相談すること。

講義資料は <http://www.geidai.ac.jp/~marui> に掲載する（学内のみ閲覧可能）。

空間音響研究

代表教員：中原 雅考

曜日時限：月曜 2限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

空間に放射された音の振る舞いに関して理論的に理解し、実空間における適切な音響コントロール手法を身につける。

■授業計画及び内容

1. 物理音響の基礎
2. インピーダンス
3. 共鳴, 音響素子
4. 反射, 吸音, 拡散
5. 音源, 伝搬, 減衰
6. 波動音響理論
7. 幾何音響理論
8. 統計音響理論
9. 演習

■教材・参考書

必要に応じて配付する。

■成績評価の方法

課題評点, 出席率, 授業態度等により評価する。

■履修上の指示事項

最低限の数学の知識と基礎的な音響学の知識を要する。

特に、音楽音響創造領域以外の履修者に関しては、音響についてのある程度の知識を修得していることが望ましい。

学部講座と大学院講座を同じ枠で解説しているが、大学院の履修生は、演習や課題において学部の履修生をフォローし、より多くの作業を行わなくてはならない。一方、学部の履修生は、演習や課題における提出物に関しては、大学院生と同等の内容のものを提出しなければならない。

■備考（オフィスアワー）

芸術運営論 I : 音楽マネジメント 1

代表教員：西巻 正史

曜日時限：木曜 2限

学 期：後期

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■備考（オフィスアワー）

学外（コンサートホール）での視察&ワークショップを行います。

■授業のテーマ

長年、様々なジャンルのアートの現場に携わりながら、現在は日本のクラシック音楽シーンの数少ないプロデューサーとして活動する私自身の目線に立って、作品を作る側に立つ人（アーティスト）、供給する手法を自身の作品とする人（プロデューサー）、享受しエンジョイする人（聴衆、観客）の関係を見つめ直し、多角的に音楽をどう捉えて行ったらよいかを考えていきます。

新鮮な感受性と柔軟な思考を持つうちに受講することを希望します。そうすれば自身のスタンスの確立に役立つと思います。

■授業計画及び内容

・ 授業の進め方は、講義をベースに、学生からのコメント、感想を集め、意見交換しながらさらに問題を深めて考えていきます。したがって、出席とコメントを重視します。

- ・ 日本人の感性のルーツとその可能性
 - ・ 日本人のアート受容の特質と特異性
 - ・ 音楽と社会との関係
 - ・ アーティストとは
 - ・ 聴衆（観客）とは
 - ・ プロデューサーを産まない土壌と必要性
- ・・・など

■教材・参考書

教科書は使いません。資料を必要に応じてその都度配布します。

参考書は授業の中で指示します。

■成績評価の方法

出席して授業に参加することを最重視します。

■履修上の指示事項

芸術運営論 I : 音楽マネジメント 2

代表教員：山中 聡
曜日時限：木曜 2 限
学 期：前期
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（音楽環境創造）
開設区分：音楽併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

新たな時代の「音楽の仕事」。
ポピュラー音楽の歴史を鑑みつつ、アーティスト、プロデューサー、マネージメントなどの「音楽の仕事」を具体的な事例をテーマにしながら考察します。

■授業計画及び内容

1. マネージメントとは？プロデュースとは？音楽業界概論。
2. 新人アーティストの多面的プロデュース論。
3. ライブ・ビジネスをマネージメントする。
4. 新たな時代のマネージメントとそのビジネスを考える。
5. レーベルとは。ブランドや style の戦略。
6. 音楽のグローバル化。マーケットとマーケティング考察。
7. プロモーションとメディア、そして WEB を考える。
8. イベント・フェスティバルにおけるプロデュース論。
9. カウンターカルチャーからポップカルチャー考察。
10. 地球環境問題と観光誘致的側面からのフェスティバル考察。
11. 世代別マーケットと新たな音楽ビジネスの多面性。
12. 音楽ビジネスの明日を創造する。
13. 「音楽の仕事」総括。

■教材・参考書

その都度、紹介します。

■成績評価の方法

レポートを課す。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

芸術運営論 I : 著作権

代表教員：福井 健策
曜日時限：月曜 4～5 限
学 期：後期
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（音楽環境創造）
開設区分：音楽併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

あらゆる表現分野にとって必須の知識「著作権」を、基礎から学ぶ講座。
論争になった作品や事件を題材に、「アーカイブ」「二次創作」「ソーシャルメディア」などの現代的なトピックを考えることで、著作権が、私たちの情報社会のゆくえにかかわる刺激的な問題であることがわかるだろう。
最終回では、アーティストのマネージメントに欠かせない、「契約」の入門編もレクチャーする。

講師：福井健策 弁護士（日本・ニューヨーク州）
／日本大学芸術学部 客員教授
東京大学法学部卒。米国コロンビア大学法学修士。
現在、骨董通り法律事務所 代表パートナー。専門分野は著作権法・芸術文化法。 Twitter: @fukuikensaku

協力講師：北澤尚登弁護士、諏訪公一弁護士（骨董通り法律事務所）
<http://www.kottolaw.com>

■授業計画及び内容

- (1) 著作物とは何だろうか？
- (2) それは著作権に触れるだろうか？
- (3) 模倣とオリジナルの境界、日々の音色、ミッフィー vs キャシー、廃墟写真・・・「盗作論争」を考える
- (4) 許される使用の限界 — 引用の限度、海賊版、ダウンロード刑罰化とソーシャルメディア
- (5) 知の共有 — パブリックドメイン、クリエイティブコモンズ、各種のデジタルアーカイブと「孤児作品」問題
- (6) 20 世紀芸術と著作権 — リミックス、二次創作、ボカロ
- (7) 人工知能は星新一の夢を見るか？ — ビッグデータとコンピュータの知的作業の限界、アンドロイ

ド・ボーカロイドと著作隣接権

(8) 擬似著作権：ペットの肖像権？、「オリンピック
ク応募禁止令」

(9) 契約超入門

(10) アーティスト・マネジメントと契約書の注意
点

■教材・参考書

参考書：福井健策『著作権とは何か』『著作権の世紀』
『デジタルアーカイブ（仮・近刊）』（ともに集英社
新書）、『契約の教科書』（文春新書）、『ネットの自由
vs. 著作権』（光文社新書）

■成績評価の方法

出席・授業の参加を中心に、参考として小テストを
実施

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

芸術運営論Ⅱ：芸術支援

代表教員：熊倉 純子

曜日時限：水曜4限

学 期：前期

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

芸術支援について

■授業計画及び内容

アーティストで文化経済学者でもあるオランダのハ
ンス・アビングの著書『金と芸術—なぜアーティスト
は貧乏なのか？』（和訳）の第7章から終章までを
題材に授業をおこなう。

他学部、他学科からの履修も歓迎する。

特に、アーティストを志望する学生と、芸術環境を
専門とする学生の議論を期待する。

■教材・参考書

ハンス・アビング著『金と芸術—なぜアーティスト
は貧乏なのか？』（山本和弘訳、grambooks、2007）

■成績評価の方法

出席、授業への参加。大学院生による輪読を聞いて
議論に参加し、レポートを提出。

■履修上の指示事項

大学院との共通科目のため、基本的には学部の3・
4年生を対象とする。

■備考（オフィスアワー）

金曜5限

芸術運営論Ⅱ：社会事業マネジメント

代表教員：松山 真之助

曜日時限：

学 期：集中講義

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

社会をよりよきものにするビジネスを起こす。
素敵なことです。
それが芸術という世界に関わればなおのこと。
そんな思いを大切にしながら
ソーシャルビジネスを創出するために必要な
3つの視点を、ワークを交えながら習得します。

- 1) アイデアを生み出す力
- 2) コンセプトを伝えるための力
- 3) 仲間を集める力

■授業計画及び内容

1日目 社会起業家得論1 （夢のかけらの見つけ方）

仕事の思想 — 私がここにいる訳
マンドマップ演習

創発ワークショップ
マンダラート演習
ミートザワード演習
ムービーメーカー演習
MQ演習 (Moso Quotient)

2日目 組織マネジメント得論 （思いの昇華と組織への展開）

マネジメント手法—バランススコアカード (BSC)
ミッション・ビジョン・ストラテジー演習
BSC演習

SCM (ストーリーチェーンマネジメント)
この作品、商品の空間的歴史的連鎖

3日目 社会起業家得論2 （相互支援、見えない

価値の創造)

ソーシャルアントレプレナーの心得
Invisible Value
私の夢
究極のコンサルテーション演習（相互支援）

ふりかえり

■教材・参考書

とくにありません。
当日、資料を配布します。

■成績評価の方法

出席 (20%)
受講の姿勢 (40%)
グループワークへの貢献度 (40%)

■履修上の指示事項

<履修に必要な宿題> 授業開始の1週間前まで！

(1) ■履修開始までに、自己紹介のメールを講師までお願いします。

[メールアドレスは G-net シラバスに記載]まで

(2) ■素敵だと思う会社、事業、商品、サービスなどを1つ選び

その理由をレポートする。

テキスト形式で。(最低5行くらいでもOK)

(パワーポイントやワードでがっつり書いてもOK)

(1)の自己紹介とともに 松山へメールして

■備考 (オフィスアワー)

チームに一台PCがあること (多くの学生の皆さんはPC持参ですね)

プレゼンムービーを作ってくださいますので、

そのために必要。

プロジェクター

OHC (書画カメラ)

ホワイトボード

ポスティブ (たくさん)

芸術環境創造特殊研究(16)身体芸術論

術論

代表教員：市村 作知雄
曜日時限：金曜3限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（音楽環境創造）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

身体芸術の基礎を中心に、現在に至るまでを解明する。
ダンス、演劇、その関連分野も触れる。

■授業計画及び内容

参考映像を見る。

■教材・参考書

適宜配布

■成績評価の方法

レポート

■履修上の指示事項

作品を多く見ること

■備考（オフィスアワー）

金曜日5時より

高臨場感音響設計概論

代表教員：大出 訓史
曜日時限：水曜1限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（音楽環境創造）
開設区分：音楽併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

ヒトが知覚する音響的な空間印象や臨場感を再現するための基礎を理解し、高臨場感音響システムを設計するために必要な音場再現技術を習得するとともに、高臨場感音響システムの研究および実用化動向を考察する。

■授業計画及び内容

■前期

高臨場感音響の要件

高臨場感音響技術の基礎と理論的背景

様々な高臨場感音響技術の研究開発状況

高臨場感音響技術に用いられる音響トランスデューサ

次世代音響技術のための符号化

■後期

臨場感の要因

視聴覚情報処理の基礎

聴覚心理に基づく高臨場感音響システム設計

マルチモーダルによる高臨場感と超臨場感

高臨場感音響映像システムの国際標準化と実用化動向

■教材・参考書

その都度必要に応じ指示、配布する。

■成績評価の方法

出席状況と授業態度、レポート、試験等により総合的に評価する。

■履修上の指示事項

最低限の音響、数学、物理の知識を有していることが望ましい。ただし、必要な基礎知識は授業の中でも解説する。

■備考（オフィスアワー）

講義終了後必要に応じて設定する。

コマーシャルにおける映像と音楽

代表教員：高橋 和江

曜日時限：木曜3限

学 期：後期

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

日本のコマーシャルの歴史

選曲の実習

■授業計画及び内容

日本のコマーシャル放映は昭和28年8月28日に始まり、昭和64年1月7日の1日を除いて現在も留まることなく続いている。このコマーシャル史をいくつかの時代に分けてひもとき、各時代のエポック・メイキング的な作品を逐次見ていき、映像と音楽との関わり方を探っていく。また、現在のコマーシャル制作においては、選曲（与えられた映像にふさわしい音源を実際にある楽曲の中より探し出すこと）という工程が非常に重要となっている。これは、作曲未経験者でも取り組める作業なので実際に実習を行い、プロの選曲したものをつき合わせてみることでさらに視野を広めたい。

■教材・参考書

その都度必要に応じ配布する。

■成績評価の方法

平常点と実習の結果を評価する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

コンピュータ音楽基礎演習

代表教員：中川 善裕

曜日時限：月曜1限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

コンピュータによる新しい芸術表現の可能性を探るうえで必要となる基礎的な知識の習得が主な目的となる。

■授業計画及び内容

前期はシーケンスソフト（Logic）を使用して、MIDIとサウンドファイルを用いた音楽制作方法の基礎を学ぶ。

後期は、Macintosh用のソフトであるMax/mspを用いてMIDI信号処理、デジタル音声処理の基礎を学びつつ、アルゴリズム作曲、インスタレーション等、コンピュータを用いた音楽・音響表現の基礎を習得する。

■教材・参考書

「Logic Pro X 攻略BOOK」 東 哲哉（著）/サウンド・デザイナー

「2061:Max オデッセイ」

ノイマンピアノ著 リットーミュージック

「Maxの教科書」

ノイマンピアノ 著 リットーミュージック

■成績評価の方法

学期末に何らかの音楽制作物を提出してもらう。

その提出物と出席、平常点により成績を判断する。

■履修上の指示事項

- ・受講資格はコンピュータの基本的操作ができること。
- ・全授業回数の1/3以上の欠席者には単位を与えない。
- ・音楽環境創造科の学生を対象とする。

■備考（オフィスアワー）

サウンド・シンセシス

代表教員：岩崎 真
曜日時限：金曜 4 限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（音楽環境創造）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

「音とは何か」という点を電子音響による音づくりを通して学ぶこと、様々な音響作品制作に必要な常識を習得すること、この二点を目標とする。

■授業計画及び内容

年間を通じ、以下のようなテーマを考えている。

- ・電子音響制作の基礎
- ・様々なシンセサイザーの構成と原理
- ・減算式シンセサイザーによる音作りの実習
- ・マイクロフォンなどスタジオ機器の基本
- ・テープによるモンタージュの技法
- ・電子音響音楽の歴史

■教材・参考書

『サウンドシンセシス』（講談社サイエンティフィック社）

この書籍を教科書として使用する。また適宜プリントも配布する。

参考文献は授業内で指示する。

■成績評価の方法

出席を重視する。年間授業数の 4 分の 3 以上の出席は必要。前・後期末、或いは年度末に何らかの課題やレポートを与える予定。詳しくは第 1 回目の授業ガイダンスで説明するので、第 1 回目には出席することが望ましい。

■履修上の指示事項

特にないが、音楽音響一般の理解が深められるよう他の関連講義の受講を合わせてすすめる。

■備考（オフィスアワー）

サウンドデザイン演習

代表教員：沢口 真生
曜日時限：水曜 5 限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（音楽環境創造）
開設区分：音楽併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

映画やテレビなどにおいて音楽・効果音・ダイアログなどの音が果たす役割を様々な作品例をとおして学び、実際の作品制作を想定したサウンドデザインの実習をおこなう。

■授業計画及び内容

授業計画

- ・概説
- ・サウンドデザインの流れ
- ・音と知覚
- ・音楽の役割
- ・声の役割
- ・効果音の役割
- ・クリティカル リスニング トレーニング
- ・映像とサウンドの相乗効果
- ・サラウンド音響表現の基礎

上記の内容を目安に様々な作品の試聴や実際の音響構成の実践をおこなう。

制作実習は、スタジオでの録音や、屋外フィールド録音も行う。

■教材・参考書

サラウンド制作ハンドブック

Sound for TV/Film 等

サラウンド入門（2010ー3 芸大出版）

■成績評価の方法

出席と授業態度を重視しつつ課題作品の内容で評価。

■履修上の指示事項

夏期集中ワークショップで 1 週間の制作実習を予定

希望者のみの限定ワークショップ

■備考（オフィスアワー）

視覚表現演習 1

代表教員：岩井 成昭

曜日時限：金曜 4～5 限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

空間において形や色などの視覚情報を使ってメッセージを伝えること。この仕組みを学ぶことはあらゆる表現ジャンルにおいて大きく役立つ。この演習では、視覚芸術の基本である 2 次元及び 3 次元空間の把握や映像の機能などを実践の中から理解し、自身の研究や制作に役立てることを目標とする。具体的には、①空間構成（インスタレーション）の実践。②基本的なビデオ映像の技術と映像表現の理解。③社会とリンクする芸術表現における視覚表現の特質と役割の理解。この三点が主なテーマとなる。

■授業計画及び内容

- ・空間を扱う現代美術と多ジャンル（演劇・ダンス・音楽・映像）との接点と、そこから生まれる新しい表現の可能性を解説。
- ・映画・ビデオ・写真・絵画などの表現メディアに共通する「矩形フレーム」の機能を解説。
- ・実際の展示空間に対して与えられた任意の物質の要素（光、色、質量など）の配置や制御によって変化する心理的な効果とそれを活用した配置の法則を学び、同様のテーマにおいて作品制作を行う。
- ・特定の素材を手にしながらかその実在感を享受し、活用させながら作品完成までのコンセプトを平行して考える実践を行う。つまり、作品制作の中で「作業」と「思考」を同時にバランス良く進行させる方法を学ぶ。

■教材・参考書

必要に応じて指示する。

■成績評価の方法

授業への取り組み（40%）、課題作品（60%）で評価する。

■履修上の指示事項

本演習を履修する者は、集中講義「視覚表現演習 2」

を履修することが望ましい。

昨年履修した者は単位取得の可否に関わらず履修不可。

■備考（オフィスアワー）

視覚表現演習 2

代表教員：岩井 成昭

曜日時限：

学 期：集中講義

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

視覚表現演習 1 において掲げた「視覚芸術の根本である 2 次元及び 3 次元空間の把握や映像の機能などを実践の中から理解し、自身の研究や制作に役立てる」というテーマを完結させるために、特に空間構成と概念的な表現を中心とした制作を行う。また、自身をとりまく環境や日常生活の中から主題や手法を導き出し、表現として成立させる手法をワークショップ形式で学習する。

■授業計画及び内容

5 日間連続のワークショップ形式で、履修生には、ほぼ毎日異なる課題が与えられる予定。課題はそれぞれの主題と共に、空間、時間、使用メディア、個人又はグループ制作、などの個別の条件を持ち、その条件を満たしたうえで制作する。完成作品は、その日内か翌日にプレゼンテーションされ、毎回全員によるディスカッション形式で講評を行う。

■教材・参考書

必要に応じて指示する。

また、特定の素材を扱う課題においては全履修生分を一括購入し、同素材費を徴収する場合がある。

■成績評価の方法

授業への取組み（40%）、課題作品（60%）で評価する。

■履修上の指示事項

昨年履修した者は単位取得の可否に関わらず履修不可。

■備考（オフィスアワー）

ジャズ・ポピュラー音楽演習

代表教員：香取 良彦

曜日時限：月曜 5 限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

ジャズ・ポピュラー音楽がどのように作られるか、演奏を主体とした音楽の実践を通して学ぶ。アンサンブル、楽器、アレンジ、アドリブのノウハウを習得、機会があれば演奏イベント・録音制作などについても知識を深める。

■授業計画及び内容

【前期】

? リズムや歌のように、演奏／アンサンブルの礎になるものについて学ぶ。

? アドリブの実践。

? アレンジの実際について。

? エスニック・リズムなどについて、可能な範囲で講師を招聘する。

【後期】

? 演奏会または録音の制作を目標に、バンドを編成する。

? 制作内容により、付随して必要な知識を学ぶ。

■教材・参考書

（参考）『ジャズのオキテ』（山下洋輔・香取良彦他／全音出版社・教員室所蔵）

■成績評価の方法

出席（70%）、個人の進捗（30%）

■履修上の指示事項

五線紙・筆記用具は必ず持参のこと。声または楽器の演奏が主になるので、個人練習が必要になる場合がある。アンサンブルでは出席の責任は重大なので、責任感ある授業参加が望まれる。大学の楽器備品等を要する場合は、その有無および貸出要件などを確認しておくこと。・学生の作・編曲を強く勧める。

■備考（オフィスアワー）

[メールアドレスは G-net シラバスに記載]

ジャズ・ポピュラー音楽理論

代表教員：香取 良彦

曜日時限：月曜 4 限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

演奏、作・編曲に必要なことがらを、ジャズ・ポピュラー的方法論を用いて、基礎から修得する。

■授業計画及び内容

【ジャズ・ハーモニー】

1. コード・ネーム
2. テンションとヴォイシング
3. ハーモニー進行の分析
 - ①メジャー・キー
 - ②マイナー・キー
 - ③モーダル・インターチェンジ
4. モード

【アドリブ】

5. インプロビゼーションとコード・スケール (5. →4. の順に学ぶ)

■教材・参考書

<参考図書> 『音楽理論ワークブック』（北川祐著／リットー・ミュージック）

『よくわかるやさしい音楽理論』（香取良彦著／リットー・ミュージック）

■成績評価の方法

成績は、出席（50%）、試験（30%）、課題（20%）により決まる。

単位取得の条件は、相当回数以上の出席、試験の受検、課題全ての提出。

■履修上の指示事項

音楽基礎演習を修得していること（または同等の予備知識を持っていること）。簡単なリード・シートを実ながらメロディとコードをピアノ演奏できることが望ましい。

■備考（オフィスアワー）

[メールアドレスは G-net シラバスに記載]

身体芸術論

代表教員：市村 作知雄

曜日時限：金曜 3 限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

身体芸術の基礎を中心に講義する。
演劇、ダンス、関連分野に触れながら、現代のアートのあり方を解明する

■授業計画及び内容

映像を見る

■教材・参考書

適宜配布

■成績評価の方法

出席とレポート

■履修上の指示事項

作品を多く見ること

■備考（オフィスアワー）

金曜日 5 時より

スタディスキル

代表教員：西岡 龍彦

曜日時限：火曜 1～2 限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

音楽環境創造科で学習する上で必要となる基礎的な知識を習得する。

■授業計画及び内容

講義は以下の内容を予定している。

- ・東京藝術大学の歴史
- ・芸術に対する価値観等
- ・情報収集、図書館の利用、情報の整理、フィールドワーク
- ・発表の仕方、ディスカッション
- ・コンピュータやインターネットの利用、ソフトウェアの使用
- ・音と音楽の聴取
- ・プロジェクト、アートパスについて

■教材・参考書

教科書は特に定めないが、必要に応じて参考書を紹介する。

■成績評価の方法

評価は課題および出席などによって行う。ただし出席回数が全体の 2/3 に満たない場合は失格、不正行為（データの改ざん、アイデアの盗用など）は不可とする。

■履修上の指示事項

音楽環境創造学科（1年生）を対象とする。

■備考（オフィスアワー）

教員によって異なるため、メールなどの手段で予約をとること。

声楽実技演習

代表教員：平松 英子

曜日時限：月曜 2 限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

声を使った音楽表現の実践と研究

■授業計画及び内容

- 1) 発声のメカニズム（声と身体の仕組み）
 - 2) 母音と響きの関連性
 - 3) 声という楽器
 - 4) 言葉と音楽
 - 5) 歌唱による自由な音楽表現
- 以上の内容を通年で研究する。

■教材・参考書

学期はじめにガイダンスを行う。様々な「歌」作品を扱う。
楽譜などに関しては適宜指示。

■成績評価の方法

平常点、授業態度、レポートなど総合的な評価によるが、出席を重視する。
前期／後期の各学期末に演奏を発表する。

■履修上の指示事項

身体運動しやすい服と履物で授業に出席すること。

■備考（オフィスアワー）

担当教員の空き時間に対応する。（要予約）

卒業制作

代表教員：西岡 龍彦
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：12
ジャンル：専門科目（音楽環境創造）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

音楽環境創造科4年生を対象に、卒業制作・卒業論文の指導を行う。

■授業計画及び内容

西岡龍彦 金曜Ⅱ限 [上野校地開設]
熊倉純子 金曜Ⅳ限
亀川徹 金曜Ⅳ限
市村作知雄 金曜Ⅳ限
毛利嘉孝 金曜Ⅳ限
丸井淳史 金曜Ⅳ限

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

卒業制作・研究

代表教員：市村 作知雄
曜日時限：月曜2限
学 期：通年
単 位 数：8
ジャンル：専門科目（音楽環境創造）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

卒論、卒業制作の指導をおこなう

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

金曜5時より

卒業制作・研究

代表教員：毛利 嘉孝

曜日時限：水曜 2限

学 期：通年

単 位 数：8

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

卒業論文指導

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

事前に指導教員に必ず相談のこと。

■備考（オフィスアワー）

卒業制作・研究

代表教員：西岡 龍彦

曜日時限：金曜 2限

学 期：通年

単 位 数：8

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

卒業作品、卒業論文

■授業計画及び内容

卒業作品、卒業論文の指導を行う。

■教材・参考書

授業内で指示する。

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

木曜日、金曜 4限

卒業制作・研究

代表教員：熊倉 純子
曜日時限：金曜2限
学 期：通年
単 位 数：8
ジャンル：専門科目（音楽環境創造）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

卒業制作・卒業論文の指導

■授業計画及び内容

ゼミ形式で毎回1名が卒業制作・卒業論文に関する発表をおこない、全員でディスカッションする。

■教材・参考書

■成績評価の方法

卒業制作（基本的に論文を課す）

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

金曜5限

卒業制作・研究

代表教員：亀川 徹
曜日時限：金曜3限
学 期：通年
単 位 数：8
ジャンル：専門科目（音楽環境創造）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

録音、サウンドデザイン、音響に関する卒業研究・制作に関する指導をおこなう。

■授業計画及び内容

各自の研究、制作の進捗状況に応じて適宜指導をおこなう。

■教材・参考書

■成績評価の方法

日常の取り組みと提出された卒業論文・作品を総合的に評価する。

■履修上の指示事項

音楽環境創造科4年生対象

■備考（オフィスアワー）

メールにて適宜指示する。

卒業制作・研究

代表教員：丸井 淳史

曜日時限：金曜3限

学 期：通年

単 位 数：8

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

卒業制作・卒業論文の研究指導を行う。

■授業計画及び内容

受講生の進度に合わせ個人指導を行う。

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

音楽環境創造科4年生対象。

■備考（オフィスアワー）

ソルフェージュ（音楽基礎演習 A）

代表教員：テシュネ ローラン

曜日時限：金曜3限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

ソルフェージュ実技と音楽理論の習得

■授業計画及び内容

音楽的能力の総合的開発と向上を目指し、古典から現代にいたる幅広いレパートリーを楽譜読解能力を深めながら、研究する。

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

平常点と試験

■履修上の指示事項

音楽基礎演習（中級）を履修した学生、あるいは同程度の能力のあると認められた学生。前・後期ともに上野校地で開講する。

■備考（オフィスアワー）

[メールアドレスはG-net シラバスに記載]

<http://musique-art-vie.seesaa.net/>

ソルフェージュ（音楽基礎演習 B）

代表教員：照屋 正樹
曜日時限：月曜3限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（音楽環境創造）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

ソルフェージュ実技と音楽理論の習得

■授業計画及び内容

音楽的能力の総合的開発と向上を目指し、古典から近・現代にいたる幅広いレパートリーを楽譜読解能力を深めながら、研究する。

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

平常点と試験

■履修上の指示事項

音楽基礎演習（中級）を履修した学生、あるいは同程度の能力があると認められた学生。教職課程を履修している者は、履修便覧記載通りに履修すること。上野校地で開講する。

■備考（オフィスアワー）

日本音楽概論

代表教員：森重 行敏
曜日時限：金曜2限
学 期：前期
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（音楽環境創造）
開設区分：音楽併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

日本における過去から現在までの様々な音楽のあり方について、時代背景、ジャンル別などの特徴を概観する。

■授業計画及び内容

日本における多文化並立的音楽の様相を、映像・音響資料を活用して概観するとともに、実際の楽器にも触れてみるにより、日本音楽の特性を実感したい。また、総合芸術的發展を遂げている各種の古典芸能鑑賞の予備知識を得るとともに、新しい表現分野における、音楽のあり方を模索するきっかけとしたい。

予定される主なテーマ

雅楽
能楽
近世邦楽・歌舞伎
近世邦楽・三曲
民俗芸能
現代邦楽
唱歌・童謡・歌謡曲

■教材・参考書

資料はプリント配布。参考書は必要に応じて指示する。

■成績評価の方法

レポート、出席率。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

日本音楽概論

代表教員：森重 行敏

曜日時限：金曜2限

学 期：前期

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

日本における過去から現在までの様々な音楽のあり方について、時代背景、ジャンル別などの特徴を概観する。

■授業計画及び内容

日本における多文化並立的音楽の様相を、映像・音響資料を活用して概観するとともに、実際の楽器にも触れてみることにより、日本音楽の特性を実感したい。また、総合芸術的発展を遂げている各種の古典芸能鑑賞の予備知識を得るとともに、新しい表現分野における、音楽のあり方を模索するきっかけとしたい。

予定される主なテーマ

雅楽

能楽

近世邦楽・歌舞伎

近世邦楽・三曲

民俗芸能

現代邦楽

唱歌・童謡・歌謡曲

■教材・参考書

資料はプリント配布。参考書は必要に応じて指示する。

■成績評価の方法

レポート、出席率。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

日本のコマースの歴史
選曲の実習

プロジェクト1

代表教員：西岡 龍彦

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：12

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

音楽・音響作品の制作と発表。

■授業計画及び内容

楽音、ノイズ、声、言葉などさまざまな素材による表現技術を習得する。他分野（映像、舞台等）との共同制作を行う。

・作品制作のための楽器の研究（歴史、楽器法、音響的特性、サンプリングなど）。

・マルチチャンネルによる音響表現。

■教材・参考書

必要に応じて指示する。

■成績評価の方法

作品の評価と平常点。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

個人面談を前期と後期に設ける。

プロジェクト1Ⅱ

代表教員：西岡 龍彦

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：8

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

音楽・音響作品の制作と発表。

■授業計画及び内容

楽音、ノイズ、声、言葉などさまざまな素材による表現技術を習得する。他分野（映像、舞台等）との共同制作を行う。

- ・ 作品制作のための楽器の研究（歴史、楽器法、音響的特性、サンプリングなど）、今年度は邦楽器。
- ・ マルチチャンネルによる音響表現。

■教材・参考書

必要に応じて指示する。

■成績評価の方法

作品の評価と平常点（企画力、計画性、協調性など）

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

音楽・音響作品の制作と発表。

プロジェクト1Ⅲ

代表教員：西岡 龍彦

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：8

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

音楽・音響作品の制作と発表。

■授業計画及び内容

楽音、ノイズ、声、言葉などさまざまな素材による表現技術を習得する。他分野（映像、舞台等）との共同制作を行う。

- ・ 作品制作のための楽器の研究（歴史、楽器法、音響的特性、サンプリングなど）、今年度は邦楽器。
- ・ マルチチャンネルによる音響表現。

■教材・参考書

必要に応じて指示する。

■成績評価の方法

作品の評価と平常点（企画力、計画性、協調性など）

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

個人面談を前期と後期に設ける。

プロジェクト2

代表教員：熊倉 純子
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：12
ジャンル：専門科目（音楽環境創造）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

平成20年度以前の入学者対象

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

プロジェクト2 II

代表教員：熊倉 純子
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：8
ジャンル：専門科目（音楽環境創造）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

芸術表現を通じた地域社会へのアプローチを実践的に模索する。
共同で企画を立ち上げ場を作ることのマネジメントを学ぶ。
または、作品制作を通して社会に新たな表現の場の提示をおこなう。

■授業計画及び内容

学部2年次の履修科目。共同で取り組む実践活動のほか、個々人でテーマを決めて研究発表会にむけて調査研究を行う。

■教材・参考書

必要に応じて指示する。

■成績評価の方法

出席と製作／制作への姿勢、作品あるいは企画や調査研究の実施。
12月のアートパスでの発表、1月の研究発表会における個人プレゼンテーションも評価の対象とする。

■履修上の指示事項

アートマネジメントの実践現場に関しては、教員と相談の上、決定する。また、実践より調査や理論研究に重点に置く場合も、教員と相談の上、実施スケジュールや課題設定をおこなう。

■備考（オフィスアワー）

プロジェクト2Ⅲ

代表教員：熊倉 純子
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：8
ジャンル：専門科目（音楽環境創造）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

芸術表現を通じた地域社会へのアプローチを実践的に模索する。
共同で企画を立ち上げ場を作ることのマネジメントを学ぶ。
または、作品制作を通して社会に新たな表現の場の提示をおこなう。

■授業計画及び内容

学部3年次の履修科目。共同で取り組む実践活動のほか、個々人でテーマを決めて研究発表会にむけて調査研究を行う。

■教材・参考書

必要に応じて指示する。

■成績評価の方法

出席と製作／制作への姿勢、作品あるいは企画や調査研究の実施。
12月のアートパスでの発表、1月の研究発表会における個人プレゼンテーションも評価の対象とする。

■履修上の指示事項

アートマネジメントの実践現場に関しては、教員と相談の上、決定する。また、実践より調査や理論研究に重点に置く場合も、教員と相談の上、実施スケジュールや課題設定をおこなう。

■備考（オフィスアワー）

プロジェクト3

代表教員：亀川 徹
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：12
ジャンル：専門科目（音楽環境創造）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

録音制作、舞台音響、サウンドデザインなどの研究・実践を通して、音の扱い方について学ぶ。
千住キャンパスのスタジオシステムや録音、音響機材の概要を理解し、録音制作、編集作業などの実習をおこなう。

■授業計画及び内容

授業計画

聴能形成とクリティカルリスニング
スタジオシステムの概要と録音作業の基本
ステレオ録音実習
サウンドデザイン制作実習
サラウンドサウンドの概要と録音実習
空間音響のシミュレーション技術
アートパス及び研究発表に向けた準備と総括
上記内容を目安にすすめる。
千住のスタジオを中心に作業するが、必要に応じて上野（第6ホール、奏楽堂）での録音や、屋外でのフィールド録音も行う。

■教材・参考書

その都度必要に応じ配付する。

■成績評価の方法

出席と授業態度を重視しつつ、アートパスと研究発表会の内容を評価する。

■履修上の指示事項

音楽環境創造科（2、3年）生対象
合わせて録音技法研究を履修すること。

■備考（オフィスアワー）

メールにて個別に設定。

プロジェクト3Ⅱ

代表教員：亀川 徹
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：8
ジャンル：専門科目（音楽環境創造）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

録音制作、舞台音響、サウンドデザインなどの研究・実践を通して、音の扱い方について学ぶ。
千住キャンパスのスタジオシステムや録音、音響機材の概要を理解し、録音制作、編集作業などの実習をおこなう。

■授業計画及び内容

授業計画

聴能形成とクリティカルリスニング
スタジオシステムの概要と録音作業の基本
ステレオ録音実習
サウンドデザイン制作実習
サラウンドサウンドの概要と録音実習
空間音響のシミュレーション技術
アートパス及び研究発表に向けた準備と総括

上記内容を目安にすすめる。

千住のスタジオを中心に作業するが、必要に応じて上野（第6ホール、奏楽堂）での録音や、屋外でのフィールド録音も行う。

■教材・参考書

その都度必要に応じ配付する。

■成績評価の方法

出席と授業態度を重視しつつ、アートパスと研究発表会の内容を評価する。

■履修上の指示事項

音楽環境創造科（2年）生対象
合わせて録音技法研究を履修すること。

■備考（オフィスアワー）

メールにて個別に設定。

プロジェクト3Ⅲ

代表教員：亀川 徹
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：8
ジャンル：専門科目（音楽環境創造）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

録音制作、舞台音響、サウンドデザインなどの研究・実践を通して、音の扱い方について学ぶ。
千住キャンパスのスタジオシステムや録音、音響機材の概要を理解し、録音制作、編集作業などの実習をおこなう。

■授業計画及び内容

授業計画

聴能形成とクリティカルリスニング
スタジオシステムの概要と録音作業の基本
ステレオ録音実習
サウンドデザイン制作実習
サラウンドサウンドの概要と録音実習
空間音響のシミュレーション技術
アートパス及び研究発表に向けた準備と総括

上記内容を目安にすすめる。

千住のスタジオを中心に作業するが、必要に応じて上野（第6ホール、奏楽堂）での録音や、屋外でのフィールド録音も行う。

■教材・参考書

その都度必要に応じ配付する。

■成績評価の方法

出席と授業態度を重視しつつ、アートパスと研究発表会の内容を評価する。

■履修上の指示事項

音楽環境創造科（3年）生対象
合わせて録音技法研究を履修すること。

■備考（オフィスアワー）

メールにて個別に設定。

プロジェクト4

代表教員：市村 作知雄
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：12
ジャンル：専門科目（音楽環境創造）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

演劇・ダンスの創作
その公演の実現

■授業計画及び内容

演劇とダンスの実践を年間を通じておこなう。
ダンスは森川弘和氏を招く。演劇は、長島確氏と
ともにおこなう。

■教材・参考書

適宜配布

■成績評価の方法

平常点と出席

■履修上の指示事項

2年生以上はできるかぎり舞台芸術論を取ること
プロジェクトの時間以外でもおこなう。

■備考（オフィスアワー）

火曜 5 限以降

プロジェクト4 II

代表教員：市村 作知雄
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：8
ジャンル：専門科目（音楽環境創造）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

演劇・ダンスの創作
その公演の実現

■授業計画及び内容

演劇とダンスの実践を年間を通じておこなう。
ダンスは、森川弘和氏を招く。演劇は、長島確氏と
ともにおこなう。

■教材・参考書

適宜配布

■成績評価の方法

平常点と出席

■履修上の指示事項

2年生以上はできるかぎり舞台芸術論を取ること
プロジェクトの時間以外でもおこなう。

■備考（オフィスアワー）

火曜 5 限以降

プロジェクト4Ⅲ

代表教員：市村 作知雄
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：8
ジャンル：専門科目（音楽環境創造）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

演劇・ダンスの創作
その公演の実現

■授業計画及び内容

演劇とダンスの実践を年間を通じておこなう。
ダンスは、森川弘和氏を招く。演劇は、長島確氏と
ともにおこなう。

■教材・参考書

適宜配布

■成績評価の方法

平常点と出席

■履修上の指示事項

2年生以上はできるかぎり舞台芸術論を取ること
プロジェクトの時間以外でもおこなう。

■備考（オフィスアワー）

火曜 5 限以降

プロジェクト5

代表教員：毛利 嘉孝
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：12
ジャンル：専門科目（音楽環境創造）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

表現の全領域に拡大しつつあるデジタル化によって
音楽や美術、映像の表現はどのように変化しつつあ
るだろうか。理論研究と実践を通じて文化の未来形
を考える。

■授業計画及び内容

演習及びフィールドワーク。
適宜、外部講師を交えたディスカッションを行うと
ともに、メディアを通じた情報発信の実習を行う。

■教材・参考書

年度の開始時に指示

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

きちんと論理的に文章を読解し、記述する能力が求
められる。視覚文化に興味のある学生はその旨、担
当教官と相談すること。

■備考（オフィスアワー）

火曜日 12:00-1300

プロジェクト5Ⅱ

代表教員：毛利 嘉孝

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：8

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

表現の全領域に拡大しつつあるデジタル化によって音楽や美術、映像の表現はどのように変化しつつあるだろうか。理論研究と実践を通じて文化の未来形を考える。

■授業計画及び内容

演習及びフィールドワーク。

適宜、外部講師を交えたディスカッションを行うとともに、メディアを通じた情報発信の実習を行う。

■教材・参考書

年度の開始時に指示

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

きちんと論理的に文章を読解し、記述する能力が求められる。視覚文化に興味のある学生はその旨、担当教官と相談すること。

■備考（オフィスアワー）

火曜日 12:00-1300

プロジェクト5Ⅲ

代表教員：毛利 嘉孝

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：8

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

表現の全領域に拡大しつつあるデジタル化によって音楽や美術、映像の表現はどのように変化しつつあるだろうか。理論研究と実践を通じて文化の未来形を考える。

■授業計画及び内容

演習及びフィールドワーク。

適宜、外部講師を交えたディスカッションを行うとともに、メディアを通じた情報発信の実習を行う。

■教材・参考書

年度の開始時に指示

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

きちんと論理的に文章を読解し、記述する能力が求められる。視覚文化に興味のある学生はその旨、担当教官と相談すること。

■備考（オフィスアワー）

火曜日 12:00-1300

プロジェクト6Ⅱ

代表教員：丸井 淳史

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：8

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

- * コンピュータプログラミングや音響実験などの研究・実践を通して、音の扱い方について学ぶ。
- * 千住キャンパスのスタジオシステムや録音・音響機材の概要を理解し、音響信号処理や音響心理実験の基礎を身につける。

■授業計画及び内容

- * 聴能形成とクリティカルリスニング
- * 音の測定
- * コンピュータでの音の扱い
- * デジタル音響の理解と信号処理
- * 空間音響のシミュレーション技術
- * 千住 Art Path および研究発表に向けた準備と総括

■教材・参考書

- * その都度必要に応じ配付する。

■成績評価の方法

- * 出席と授業態度を重視しつつ、千住 Art Path と研究発表会の内容を評価する。

■履修上の指示事項

- * 音楽環境創造科2年生対象。
- * あわせて音楽環境創造概説2を履修する(もしくは履修済みである)こと。

■備考（オフィスアワー）

- * 隔週木曜日午後 あるいは メール連絡にて個別に設定
- * 資料類は<http://www.geidai.ac.jp/~marui>に掲載する。(学内からのみアクセス可能)

プロジェクト6Ⅲ

代表教員：丸井 淳史

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：8

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

- * コンピュータプログラミングや音響実験などの研究・実践を通して、音響心理研究について学ぶ。
- * 基礎的な統計処理を身につけ、音響心理実験の実施方法を学習する。

■授業計画及び内容

- * 聴能形成とクリティカルリスニング
- * 音の測定・校正
- * 科学的方法論の学習
- * 音響心理実験と統計処理
- * 千住 Art Path および研究発表に向けた準備と総括

■教材・参考書

- * その都度必要に応じ配付する。

■成績評価の方法

- * 出席と授業態度を重視しつつ、千住 Art Path と研究発表会の内容を評価する。

■履修上の指示事項

- * 音楽環境創造科3年生対象。
- * 音楽環境創造概説2を履修済みであること。
- * あわせて音響心理研究法を履修するのが望ましい。

■備考（オフィスアワー）

- * 隔週木曜日午後 あるいは メール連絡にて個別に設定
- * 資料類は<http://www.geidai.ac.jp/~marui>に掲載する。(学内からのみアクセス可能)

文献講読演習 1

代表教員：熊倉 純子
曜日時限：水曜3限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（音楽環境創造）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

芸術環境創造に関する専門的な文献（和書あるいは洋書）を講読する。

■授業計画及び内容

基本的には昨年に引き続き、Nicola Bourriaoud “Esthetique Relationnelle”（仏語）を扱うが、履修希望者の語学能力に応じて、英語あるいは日本語の別の文献を対象とする可能性もある。

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

金曜5限

ポピュラー音楽研究

代表教員：東谷 護
曜日時限：金曜5限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（音楽環境創造）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

ポピュラー音楽研究(Popular Music Studies)の諸相

■授業計画及び内容

ポピュラー音楽は、我々にとって身近な存在であり、ポピュラー音楽を誰しもが知っていることだろう。具体的にこういう音楽だ、ということを知ることが口に出るだろう。だが、その指し示す範囲は、共通している部分があれば、大きく異なってくることは想像に難くない。というのは、ポピュラー音楽に確たる定義はない、といえるからである。にもかかわらず、あまりに我々の身近なところに存在しているが故に、それらを自明のものとし、あらためてポピュラー音楽について考えることはあまりなかった。学術研究の場では、散発的ではあるが、研究対象となってきたことはある。だが芸術音楽とはちがうく価値の低いもの>という呪縛によって、研究対象とすることさえ憚れてきた。

近年、様々な価値観の変化、学問の世界でも研究のパラダイム・シフトが様々な領域で行われてきたことによって、ようやく、ポピュラー音楽に対しても研究対象として正面からアプローチする試みが欧米を中心に増えてきている。日本では、大学院生の修士論文、学部生の卒業論文としては、ポピュラー音楽を正面から扱うものが増えつつある。（現に授業担当者の博士論文は、ポピュラー音楽をテーマとしたものである。）

ポピュラー音楽は20世紀の文化を代表するものの一つである、といっても過言ではない。実際に事象として存在するポピュラー音楽に対して、学術研究を行うにはどのようにアプローチしていけばいいのか、ということを念頭に、授業では理論と方法を多角的に検討していきたい。

■教材・参考書

適宜、紹介する。

■成績評価の方法

平常点（研究発表）、研究レポート（予定）

■履修上の指示事項

積極的な受講を歓迎する。

■備考（オフィスアワー）

- ・原則として、授業終了後。
- ・電子メールで事前に連絡をしてもらうことも可能です。

その際には、メールの表題に必ず「芸大PM研究・氏名」を書き込み、：[メールアドレスは G-net シラバスに記載]

宛に送ってください。

メディア・リテラシー

代表教員：水越 伸

曜日時限：月曜5限

学 期：前期

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

現代の複雑なメディア社会をとらえ、その中を生きていくために、メディア論およびメディア・リテラシーの基本的な考え方を学ぶ。授業は、講義とグループワークを総合して進める。前半は、講義形式でメディア論およびメディア・リテラシーに関する基礎的な知識を学ぶ。後半は、なんらかのメディア表現実践をグループワークでおこない、身体的に理解を深めていく。

今年度はラジオをトピックとして扱う予定。

■授業計画及び内容

- 01回目 4月07日 オリエンテーション&講義（メディア論の基礎）
- 02回目 4月14日 講義（メディアの歴史）
- 03回目 4月21日 講義（メディア・リテラシーとはなにか）
- 04回目 4月28日 講義（メディア・リテラシーの実践）
- 05回目 5月12日 グループ分け&テーマの決定
- 06回目 5月19日 グループワーク 01
- 07回目 5月26日 グループワーク 01
- 08回目 6月02日 発表と中間まとめ
- 09回目 6月09日 グループワーク 02
- 10回目 6月16日 グループワーク 02
- 11回目 6月23日 グループワーク 02
- 12回目 6月30日 発表とまとめ

（変更もあり得る、その都度連絡をする）
くことが求められます。

■教材・参考書

- ・水越伸『メディア・ビオトープ：メディア生態系をデザインする』紀伊国屋書店、2005年。
- ・水越伸『改訂版 21世紀メディア論』放送大学教育振興会、2014年

■成績評価の方法

出席状況とグループワークの成果を総合的に勘案する。試験やレポートはおこなわない。出席は厳しくチェックする。

■履修上の指示事項

授業時間以外でグループワークをおこなう必要がある。

■備考（オフィスアワー）

水越研究室 www.mediabiotope.com

録音技法研究

代表教員：亀川 徹

曜日時限：月曜3限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（音楽環境創造）

開設区分：音楽併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

マイクロホンを用いた收音、ミキシング手法や、マルチチャンネルステレオ方式による録音再生方法など、録音技術に関するテーマについて研究する。

■授業計画及び内容

録音に係る音響技術（聴覚、楽器音響、建築音響などの概要）

録音機器の概要

マイクロホンテクニック

エフェクタの原理と実践

編集とマスタリング

サラウンドサウンドの概要と收音方式

録音の評価とクリティカルリスニング

上記テーマに関連して適宜スタジオでの録音実習をおこなう。

■教材・参考書

「サラウンド入門」(芸大出版) 他、適宜指示する。

■成績評価の方法

出席、期末レポート、平常の授業態度を総合的に評価する。

■履修上の指示事項

学部開講の「音響学」か「音楽環境創造概説2」を履修しておくことを推奨する。

■備考（オフィスアワー）

木曜Ⅱ?Ⅴ限（会議の無い日）、金曜Ⅴ限

専門科目（オーケストラ室内楽）

オーケストラⅡ-1

代表教員：山本 正治

曜日時限：その他

学 期：前期

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（オーケストラ室内楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

オーケストラ授業は、学部の弦楽、管・打楽専攻生の必修授業として、指揮科常勤及び非常勤教員が行っている。3年間（2学年～4学年）を通し、管弦楽曲・協奏曲・歌劇などの様々な楽曲から、オーケストラの基礎奏法を学び、その成果を発表する実技指導を行っている。

■授業計画及び内容

〈授業計画〉

毎週：火曜 1 限?2 限（9:00?12:10）／木曜 4～5 限（14:40～17:50）

また、臨時授業が追加される場合がある。

〈2013 年度演奏会予定〉

4 月 9 日（火）学生オーケストラガイダンス 於：5-109

※ガイダンスは履修者全員参加

4 月 24 日（水）日本国際賞授与式演奏会 於：国立劇場 指揮：D. ポストック

5 月 23 日（木）学生オーケストラ 第 48 回定期演奏会 於：奏楽堂 指揮：尾高忠明

6 月 22 日（土）「学長と語ろう」こんさーと 於：奏楽堂 指揮：澤 和樹

7 月 2 日（火）学生オーケストラ プロムナードコンサート5 於：奏楽堂 指揮：D. ポストック

10 月 10 日（木）学生オーケストラ プロムナードコンサート6 於：奏楽堂 指揮：湯浅卓雄

10 月 26 日（土）伊澤修二先生記念音楽祭 於：伊那文化会館 指揮：D. ポストック（25 日?27 日=伊那市）

11 月 28 日（木）学生オーケストラ 第 49 回定期演奏会 於：奏楽堂 指揮：D. ポストック

12 月 1 日（日）音楽大学オーケストラフェスティル 於：ミューザ川崎 指揮：D. ポストック

※ 演奏会や演習等の追加及び練習の詳細は掲示にて知らせる

■教材・参考書

オーケストラ作品総譜及びパート譜等

■成績評価の方法

出席日数及び授業態度（学生オケ演奏会の手伝い、鑑賞等も考慮する）

演奏会参加機会の少ない学生には、レポートを課す場合がある

■履修上の指示事項

オーケストラ授業は 1 パートがかけても成り立たないので、遅刻及び欠席は認めない

授業で使用する楽譜は、レンタル譜も含めて厳重に管理し、演奏会終了後はすみやかに返却すること

■備考（オフィスアワー）

オーケストラⅡ-2

代表教員：山本 正治

曜日時限：その他

学 期：後期

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（オーケストラ室内楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

オーケストラ授業は、学部の弦楽、管・打楽専攻生の必修授業として、指揮科常勤及び非常勤教員が行っている。3年間（2学年～4学年）を通し、管弦楽曲・協奏曲・歌劇などの様々な楽曲から、オーケストラの基礎奏法を学び、その成果を発表する実技指導を行っている。

■授業計画及び内容

〈授業計画〉

毎週：火曜 1 限?2 限（9:00?12:10）／木曜 4～5 限（14:40～17:50）

また、臨時授業が追加される場合がある。

〈2013 年度演奏会予定〉

4 月 9 日（火）学生オーケストラガイダンス 於：5-109

※ガイダンスは履修者全員参加

4 月 24 日（水）日本国際賞授与式演奏会 於：国立劇場 指揮：D. ポストック

5 月 23 日（木）学生オーケストラ 第 48 回定期演奏会 於：奏楽堂 指揮：尾高忠明

6 月 22 日（土）「学長と語ろう」こんさーと 於：奏楽堂 指揮：澤 和樹

7 月 2 日（火）学生オーケストラ プロムナードコンサート5 於：奏楽堂 指揮：D. ポストック

10 月 10 日（木）学生オーケストラ プロムナードコンサート6 於：奏楽堂 指揮：湯浅卓雄

10 月 26 日（土）伊澤修二先生記念音楽祭 於：伊那文化会館 指揮：D. ポストック（25 日?27 日=伊那市）

11 月 28 日（木）学生オーケストラ 第 49 回定期演奏会 於：奏楽堂 指揮：D. ポストック

12 月 1 日（日）音楽大学オーケストラフェスティル 於：ミューザ川崎 指揮：D. ポストック

※ 演奏会や演習等の追加及び練習の詳細は掲示にて知らせる

■教材・参考書

オーケストラ作品総譜及びパート譜等

■成績評価の方法

出席日数及び授業態度（学生オケ演奏会の手伝い、鑑賞等も考慮する）

演奏会参加機会の少ない学生には、レポートを課す場合がある

■履修上の指示事項

オーケストラ授業は 1 パートがかけても成り立たないので、遅刻及び欠席は認めない

授業で使用する楽譜は、レンタル譜も含めて厳重に管理し、演奏会終了後はすみやかに返却すること

■備考（オフィスアワー）

オーケストラⅢ-1

代表教員：山本 正治

曜日時限：その他

学 期：前期

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（オーケストラ室内楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

オーケストラ授業は、学部の弦楽、管・打楽専攻生の必修授業として、指揮科常勤及び非常勤教員が行っている。3年間（2学年～4学年）を通し、管弦楽曲・協奏曲・歌劇などの様々な楽曲から、オーケストラの基礎奏法を学び、その成果を発表する実技指導を行っている。

■授業計画及び内容

〈授業計画〉

毎週：火曜 1 限?2 限（9:00?12:10）／木曜 4～5 限（14:40～17:50）

また、臨時授業が追加される場合がある。

〈2013 年度演奏会予定〉

4 月 9 日（火）学生オーケストラガイダンス 於：5-109

※ガイダンスは履修者全員参加

4 月 24 日（水）日本国際賞授与式演奏会 於：国立劇場 指揮：D. ポストック

5 月 23 日（木）学生オーケストラ 第 48 回定期演奏会 於：奏楽堂 指揮：尾高忠明

6 月 22 日（土）「学長と語ろう」こんさーと 於：奏楽堂 指揮：澤 和樹

7 月 2 日（火）学生オーケストラ プロムナードコンサート5 於：奏楽堂 指揮：D. ポストック

10 月 10 日（木）学生オーケストラ プロムナードコンサート6 於：奏楽堂 指揮：湯浅卓雄

10 月 26 日（土）伊澤修二先生記念音楽祭 於：伊那文化会館 指揮：D. ポストック（25 日?27 日=伊那市）

11 月 28 日（木）学生オーケストラ 第 49 回定期演奏会 於：奏楽堂 指揮：D. ポストック

12 月 1 日（日）音楽大学オーケストラフェスティル 於：ミューザ川崎 指揮：D. ポストック

※ 演奏会や演習等の追加及び練習の詳細は掲示にて知らせる

■教材・参考書

オーケストラ作品総譜及びパート譜等

■成績評価の方法

出席日数及び授業態度（学生オケ演奏会の手伝い、鑑賞等も考慮する）

演奏会参加機会の少ない学生には、レポートを課す場合がある

■履修上の指示事項

オーケストラ授業は 1 パートがかけても成り立たないので、遅刻及び欠席は認めない

授業で使用する楽譜は、レンタル譜も含めて厳重に管理し、演奏会終了後はすみやかに返却すること

■備考（オフィスアワー）

オーケストラⅢ-2

代表教員：山本 正治

曜日時限：その他

学 期：後期

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（オーケストラ室内楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

オーケストラ授業は、学部の弦楽、管・打楽専攻生の必修授業として、指揮科常勤及び非常勤教員が行っている。3年間（2学年～4学年）を通し、管弦楽曲・協奏曲・歌劇などの様々な楽曲から、オーケストラの基礎奏法を学び、その成果を発表する実技指導を行っている。

■授業計画及び内容

〈授業計画〉

毎週：火曜 1 限?2 限（9:00?12:10）／木曜 4～5 限（14:40～17:50）

また、臨時授業が追加される場合がある。

〈2013 年度演奏会予定〉

4 月 9 日（火）学生オーケストラガイダンス 於：5-109

※ガイダンスは履修者全員参加

4 月 24 日（水）日本国際賞授与式演奏会 於：国立劇場 指揮：D. ポストック

5 月 23 日（木）学生オーケストラ 第 48 回定期演奏会 於：奏楽堂 指揮：尾高忠明

6 月 22 日（土）「学長と語ろう」こんさーと 於：奏楽堂 指揮：澤 和樹

7 月 2 日（火）学生オーケストラ プロムナードコンサート5 於：奏楽堂 指揮：D. ポストック

10 月 10 日（木）学生オーケストラ プロムナードコンサート6 於：奏楽堂 指揮：湯浅卓雄

10 月 26 日（土）伊澤修二先生記念音楽祭 於：伊那文化会館 指揮：D. ポストック（25 日?27 日=伊那市）

11 月 28 日（木）学生オーケストラ 第 49 回定期演奏会 於：奏楽堂 指揮：D. ポストック

12 月 1 日（日）音楽大学オーケストラフェスティル 於：ミューザ川崎 指揮：D. ポストック

※ 演奏会や演習等の追加及び練習の詳細は掲示にて知らせる

■教材・参考書

オーケストラ作品総譜及びパート譜等

■成績評価の方法

出席日数及び授業態度（学生オケ演奏会の手伝い、鑑賞等も考慮する）

演奏会参加機会の少ない学生には、レポートを課す場合がある

■履修上の指示事項

オーケストラ授業は 1 パートがかけても成り立たないので、遅刻及び欠席は認めない

授業で使用する楽譜は、レンタル譜も含めて厳重に管理し、演奏会終了後はすみやかに返却すること

■備考（オフィスアワー）

オーケストラⅣ-1

代表教員：山本 正治

曜日時限：その他

学 期：前期

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（オーケストラ室内楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

オーケストラ授業は、学部の弦楽、管・打楽専攻生の必修授業として、指揮科常勤及び非常勤教員が行っている。3年間（2学年～4学年）を通し、管弦楽曲・協奏曲・歌劇などの様々な楽曲から、オーケストラの基礎奏法を学び、その成果を発表する実技指導を行っている。

■授業計画及び内容

〈授業計画〉

毎週：火曜 1 限?2 限（9:00?12:10）／木曜 4～5 限（14:40～17:50）

また、臨時授業が追加される場合がある。

〈2013 年度演奏会予定〉

4 月 9 日（火）学生オーケストラガイダンス 於：5-109

※ガイダンスは履修者全員参加

4 月 24 日（水）日本国際賞授与式演奏会 於：国立劇場 指揮：D. ポストック

5 月 23 日（木）学生オーケストラ 第 48 回定期演奏会 於：奏楽堂 指揮：尾高忠明

6 月 22 日（土）「学長と語ろう」こんさーと 於：奏楽堂 指揮：澤 和樹

7 月 2 日（火）学生オーケストラ プロムナードコンサート5 於：奏楽堂 指揮：D. ポストック

10 月 10 日（木）学生オーケストラ プロムナードコンサート6 於：奏楽堂 指揮：湯浅卓雄

10 月 26 日（土）伊澤修二先生記念音楽祭 於：伊那文化会館 指揮：D. ポストック（25 日?27 日=伊那市）

11 月 28 日（木）学生オーケストラ 第 49 回定期演奏会 於：奏楽堂 指揮：D. ポストック

12 月 1 日（日）音楽大学オーケストラフェスティル 於：ミューザ川崎 指揮：D. ポストック

※ 演奏会や演習等の追加及び練習の詳細は掲示にて知らせる

■教材・参考書

オーケストラ作品総譜及びパート譜等

■成績評価の方法

出席日数及び授業態度（学生オケ演奏会の手伝い、鑑賞等も考慮する）

演奏会参加機会の少ない学生には、レポートを課す場合がある

■履修上の指示事項

オーケストラ授業は 1 パートがかけても成り立たないので、遅刻及び欠席は認めない

授業で使用する楽譜は、レンタル譜も含めて厳重に管理し、演奏会終了後はすみやかに返却すること

■備考（オフィスアワー）

オーケストラⅣ-2

代表教員：山本 正治

曜日時限：その他

学 期：後期

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（オーケストラ室内楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

オーケストラ授業は、学部の弦楽、管・打楽専攻生の必修授業として、指揮科常勤及び非常勤教員が行っている。3年間（2学年～4学年）を通し、管弦楽曲・協奏曲・歌劇などの様々な楽曲から、オーケストラの基礎奏法を学び、その成果を発表する実技指導を行っている。

■授業計画及び内容

〈授業計画〉

毎週：火曜 1 限?2 限（9:00?12:10）／木曜 4～5 限（14:40～17:50）

また、臨時授業が追加される場合がある。

〈2013 年度演奏会予定〉

4 月 9 日（火）学生オーケストラガイダンス 於：5-109

※ガイダンスは履修者全員参加

4 月 24 日（水）日本国際賞授与式演奏会 於：国立劇場 指揮：D. ポストック

5 月 23 日（木）学生オーケストラ 第 48 回定期演奏会 於：奏楽堂 指揮：尾高忠明

6 月 22 日（土）「学長と語ろう」こんさーと 於：奏楽堂 指揮：澤 和樹

7 月 2 日（火）学生オーケストラ プロムナードコンサート5 於：奏楽堂 指揮：D. ポストック

10 月 10 日（木）学生オーケストラ プロムナードコンサート6 於：奏楽堂 指揮：湯浅卓雄

10 月 26 日（土）伊澤修二先生記念音楽祭 於：伊那文化会館 指揮：D. ポストック（25 日?27 日=伊那市）

11 月 28 日（木）学生オーケストラ 第 49 回定期演奏会 於：奏楽堂 指揮：D. ポストック

12 月 1 日（日）音楽大学オーケストラフェスティル 於：ミューザ川崎 指揮：D. ポストック

※ 演奏会や演習等の追加及び練習の詳細は掲示にて知らせる

■教材・参考書

オーケストラ作品総譜及びパート譜等

■成績評価の方法

出席日数及び授業態度（学生オケ演奏会の手伝い、鑑賞等も考慮する）

演奏会参加機会の少ない学生には、レポートを課す場合がある

■履修上の指示事項

オーケストラ授業は 1 パートがかけても成り立たないので、遅刻及び欠席は認めない

授業で使用する楽譜は、レンタル譜も含めて厳重に管理し、演奏会終了後はすみやかに返却すること

■備考（オフィスアワー）

室内楽（Va 持ち替え）

代表教員：松原 勝也
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（オーケストラ室内楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

ヴァイオリン専攻学生のヴィオラ持ち替えについては、履修便覧「室内楽」の項を参照すること。

■備考（オフィスアワー）

室内楽（金管） I -1

代表教員：日高 剛
曜日時限：月曜3限
学 期：前期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（オーケストラ室内楽）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

金管合奏を通じて、アンサンブルの基礎を身につける。

■授業計画及び内容

学部1年生の必修科目。毎週月曜日の3限に合奏を行う。

■教材・参考書

課題曲は金管アンサンブル（金管10重奏以上）を中心に、編成にあわせた作品を用いる。

■成績評価の方法

出席日数及び授業態度

■履修上の指示事項

その都度指示

■備考（オフィスアワー）

7月7日に前期演奏会を行う。

室内楽（金管） I -2

代表教員：日高 剛
曜日時限：月曜3限
学 期：後期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（オーケストラ室内楽）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

金管合奏を通じて、アンサンブルの基礎を身につける。

■授業計画及び内容

学部1年生の必修科目。毎週月曜日の3限に合奏を行う。

■教材・参考書

課題曲は金管アンサンブル（金管10重奏以上）を中心に、編成にあわせた作品を用いる。

■成績評価の方法

出席日数及び授業態度

■履修上の指示事項

その都度指示

■備考（オフィスアワー）

12月1日に演奏発表会を行う

室内楽 I（弦楽）

代表教員：松原 勝也
曜日時限：月曜5限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（オーケストラ室内楽）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

弦楽アンサンブルの基礎

■授業計画及び内容

弦楽アンサンブルにおける基礎的能力の習得を目的としたクラス授業。課題曲は弦楽四重奏曲・弦楽五重奏曲のレパートリーを中心とする。

■教材・参考書

課題曲パート譜・スコア

■成績評価の方法

出席状況及び授業態度による

■履修上の指示事項

弦楽器専攻の1年生を対象とする。（必修）

■備考（オフィスアワー）

室内楽Ⅱ

代表教員：松原 勝也

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（オーケストラ室内楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

アンサンブル研究

■授業計画及び内容

自主的に編成されたグループを対象としてレッスン形式によるアンサンブル授業を行なう。課題曲の範囲については履修便覧「室内楽」の項を参照すること。

■教材・参考書

研究対象曲パート譜・スコア

■成績評価の方法

期末試験による

■履修上の指示事項

・弦・管・打2、3、4年生を対象とする。・室内楽Ⅰが履修済みであること。・2014年4月にガイダンス・担当教員との面接がある。（日程については学事暦、掲示等参照）

■備考（オフィスアワー）

室内楽Ⅲ

代表教員：松原 勝也

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（オーケストラ室内楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

アンサンブル研究

■授業計画及び内容

自主的に編成されたグループを対象として、レッスン形式によるアンサンブル授業を行なう。課題曲の範囲については、履修便覧「室内楽」の項を参照すること。

■教材・参考書

研究対象曲パート譜・スコア

■成績評価の方法

期末試験による

■履修上の指示事項

・ピアノ・古楽・弦・管・打3、4年生を対象とする。・弦・管打楽器専攻は室内楽Ⅰ・Ⅱが履修済みであること。・2014年4月にガイダンス・担当教員との面接がある。（日程については学事暦、掲示等参照）

■備考（オフィスアワー）

室内楽Ⅳ

代表教員：松原 勝也

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（オーケストラ室内楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

アンサンブル研究

■授業計画及び内容

授業計画及び内容 自主的に編成されたグループを対象としてレッスン形式による授業を行なう。各楽器とも編成・曲目は自由とする。

■教材・参考書

研究対象曲パート譜・スコア

■成績評価の方法

期末試験による

■履修上の指示事項

・ピアノ・古楽・弦・管・打専攻4年生を対象とする。
・弦・管打楽器専攻は室内楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを、ピアノ・古楽専攻はⅢが履修済みであること。
・2014年4月にガイダンス・担当教員との面接がある。（日程については学事暦、掲示等参照）

■備考（オフィスアワー）

チェンバーオーケストラⅡ-1

代表教員：河野 文昭

曜日時限：その他

学 期：前期

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（オーケストラ室内楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

このオーケストラは学部2，3，4年次の弦楽器専攻の学生と大学院の弦楽器及び室内楽専攻の学生によって編成され、演奏曲に応じて管打楽器専攻の学生もこれに参加する。古典から近現代までの幅広い室内オーケストラのためのレパートリーを、指揮者のもとでの演奏と指揮者なしでの演奏の両方を研究発表し、自発的で緻密なアンサンブル能力を培い、研磨することを目的としている。

■授業計画及び内容

「東京藝大チェンバーオーケストラ」という名称で毎年度、2回の定期演奏会と学内演奏会を中心に、学外においても演奏活動を展開している。年間の授業計画および公演活動計画の立案、実施は東京藝大チェンバーオーケストラ運営委員会が行っている。授業日は基本的には火曜、金曜のⅠⅡ限であるが指揮者などの都合により特別の日程や時間帯が組まれることがある。

■教材・参考書

オーケストラスコア及びパート譜（チェンバーオーケストラ運営委員会で用意する。）

■成績評価の方法

出席及び授業態度による

■履修上の指示事項

履修の申し込み方法、単位取得、履修年限などの詳細は履修便覧に記載されている。弦楽器と管打楽器の場合で異なる点があるので注意すること。

■備考（オフィスアワー）

チェンバーオーケストラⅡ-2

代表教員：河野 文昭

曜日時限：その他

学 期：後期

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（オーケストラ室内楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

このオーケストラは学部2，3，4年次の弦楽器専攻の学生と大学院の弦楽器及び室内楽専攻の学生によって編成され、演奏曲に応じて管打楽器専攻の学生もこれに参加する。古典から近現代までの幅広い室内オーケストラのためのレパートリーを、指揮者のもとでの演奏と指揮者なしでの演奏の両方を研究発表し、自発的で緻密なアンサンブル能力を培い、研磨することを目的としている。

■授業計画及び内容

「東京藝大チェンバーオーケストラ」という名称で毎年度、2回の定期演奏会と学内演奏会を中心に、学外においても演奏活動を展開している。年間の授業計画および公演活動計画の立案、実施は東京藝大チェンバーオーケストラ運営委員会が行っている。授業日は基本的には火曜、金曜のⅠⅡ限であるが指揮者などの都合により特別の日程や時間帯が組まれることがある。

■教材・参考書

オーケストラスコア及びパート譜（チェンバーオーケストラ運営委員会で用意する。）

■成績評価の方法

出席及び授業態度による

■履修上の指示事項

履修の申し込み方法、単位取得、履修年限などの詳細は履修便覧に記載されている。弦楽器と管打楽器の場合で異なる点があるので注意すること。

■備考（オフィスアワー）

チェンバーオーケストラⅢ-1

代表教員：河野 文昭

曜日時限：その他

学 期：前期

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（オーケストラ室内楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

このオーケストラは学部2，3，4年次の弦楽器専攻の学生と大学院の弦楽器及び室内楽専攻の学生によって編成され、演奏曲に応じて管打楽器専攻の学生もこれに参加する。古典から近現代までの幅広い室内オーケストラのためのレパートリーを、指揮者のもとでの演奏と指揮者なしでの演奏の両方を研究発表し、自発的で緻密なアンサンブル能力を培い、研磨することを目的としている。

■授業計画及び内容

「東京藝大チェンバーオーケストラ」という名称で毎年度、2回の定期演奏会と学内演奏会を中心に、学外においても演奏活動を展開している。年間の授業計画および公演活動計画の立案、実施は東京藝大チェンバーオーケストラ運営委員会が行っている。授業日は基本的には火曜、金曜のⅠⅡ限であるが指揮者などの都合により特別の日程や時間帯が組まれることがある。

■教材・参考書

オーケストラスコア及びパート譜（チェンバーオーケストラ運営委員会で用意する。）

■成績評価の方法

出席及び授業態度による

■履修上の指示事項

履修の申し込み方法、単位取得、履修年限などの詳細は履修便覧に記載されている。弦楽器と管打楽器の場合で異なる点があるので注意すること。

■備考（オフィスアワー）

チェンバーオーケストラⅢ-2

代表教員：河野 文昭

曜日時限：その他

学 期：後期

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（オーケストラ室内楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

このオーケストラは学部2，3，4年次の弦楽器専攻の学生と大学院の弦楽器及び室内楽専攻の学生によって編成され、演奏曲に応じて管打楽器専攻の学生もこれに参加する。古典から近現代までの幅広い室内オーケストラのためのレパートリーを、指揮者のもとでの演奏と指揮者なしでの演奏の両方を研究発表し、自発的で緻密なアンサンブル能力を培い、研磨することを目的としている。

■授業計画及び内容

「東京藝大チェンバーオーケストラ」という名称で毎年度、2回の定期演奏会と学内演奏会を中心に、学外においても演奏活動を展開している。年間の授業計画および公演活動計画の立案、実施は東京藝大チェンバーオーケストラ運営委員会が行っている。授業日は基本的には火曜、金曜のⅠⅡ限であるが指揮者などの都合により特別の日程や時間帯が組まれることがある。

■教材・参考書

オーケストラスコア及びパート譜（チェンバーオーケストラ運営委員会で用意する。）

■成績評価の方法

出席及び授業態度による

■履修上の指示事項

履修の申し込み方法、単位取得、履修年限などの詳細は履修便覧に記載されている。弦楽器と管打楽器の場合で異なる点があるので注意すること。

■備考（オフィスアワー）

チェンバーオーケストラⅣ-1

代表教員：河野 文昭

曜日時限：その他

学 期：前期

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（オーケストラ室内楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

このオーケストラは学部2，3，4年次の弦楽器専攻の学生と大学院の弦楽器及び室内楽専攻の学生によって編成され、演奏曲に応じて管打楽器専攻の学生もこれに参加する。古典から近現代までの幅広い室内オーケストラのためのレパートリーを、指揮者のもとでの演奏と指揮者なしでの演奏の両方を研究発表し、自発的で緻密なアンサンブル能力を培い、研磨することを目的としている。

■授業計画及び内容

「東京藝大チェンバーオーケストラ」という名称で毎年度、2回の定期演奏会と学内演奏会を中心に、学外においても演奏活動を展開している。年間の授業計画および公演活動計画の立案、実施は東京藝大チェンバーオーケストラ運営委員会が行っている。授業日は基本的には火曜、金曜のⅠⅡ限であるが指揮者などの都合により特別の日程や時間帯が組まれることがある。

■教材・参考書

オーケストラスコア及びパート譜（チェンバーオーケストラ運営委員会で用意する。）

■成績評価の方法

出席及び授業態度による

■履修上の指示事項

履修の申し込み方法、単位取得、履修年限などの詳細は履修便覧に記載されている。弦楽器と管打楽器の場合で異なる点があるので注意すること。

■備考（オフィスアワー）

チェンバーオーケストラⅣ-2

代表教員：河野 文昭

曜日時限：その他

学 期：後期

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（オーケストラ室内楽）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

このオーケストラは学部2，3，4年次の弦楽器専攻の学生と大学院の弦楽器及び室内楽専攻の学生によって編成され、演奏曲に応じて管打楽器専攻の学生もこれに参加する。古典から近現代までの幅広い室内オーケストラのためのレパートリーを、指揮者のもとでの演奏と指揮者なしでの演奏の両方を研究発表し、自発的で緻密なアンサンブル能力を培い、研磨することを目的としている。

■授業計画及び内容

「東京藝大チェンバーオーケストラ」という名称で毎年度、2回の定期演奏会と学内演奏会を中心に、学外においても演奏活動を展開している。年間の授業計画および公演活動計画の立案、実施は東京藝大チェンバーオーケストラ運営委員会が行っている。授業日は基本的には火曜、金曜のⅠⅡ限であるが指揮者などの都合により特別の日程や時間帯が組まれることがある。

■教材・参考書

オーケストラスコア及びパート譜（チェンバーオーケストラ運営委員会で用意する。）

■成績評価の方法

出席及び授業態度による

■履修上の指示事項

履修の申し込み方法、単位取得、履修年限などの詳細は履修便覧に記載されている。弦楽器と管打楽器の場合で異なる点があるので注意すること。

■備考（オフィスアワー）

専門科目（ソルフェージュ和声）

現代音楽ソルフェージュ

代表教員：藤井 一興

曜日時限：木曜3限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（ソルフェージュ和声）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

現代音楽作品演奏のためのソルフェージュ

■授業計画及び内容

20世紀以降、現代に至るまでのあらゆる作品を可能な限り、音組織、リズム、形式、様式について、ソルフェージュ的研究を行う。

また、読譜、リズム、初見、即興を通して、今現在なお進展し続けるこの分野の研究領域についてソルフェージュ的方法論を通じ、その理解をより深める。

■教材・参考書

シェーンベルク、ベルク、ウェーベルン、バルトーク、メシアン、ケージ、デュティユー、ベリオ、クセナキス、リゲティ、イ・サン・ユン、ブーレーズ、邦人作品等、その都度研究目的に応じ、教材とする。

■成績評価の方法

学年末試験による。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

古楽ソルフェージュ

代表教員：栗形 亜樹子

曜日時限：木曜4限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（ソルフェージュ和声）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

バロック以前の音楽の実際演奏の為の基礎知識

■授業計画及び内容

J. S. バッハ迄の音楽作品の演奏に当り、楽譜に記された情報をどのように理解するのか、また、何が書かれていないのが常であるのか、現代のソルフェージュ、楽典とは全く異なった古い音楽の為の「ソルフェージュ」入門。

基本のソルミゼーション、旋法、音律、レトリック、バロックとルネサンスの基本概念、通奏低音の誕生、リズム変更、テンポ表示、というようなテーマの中から適宜取り上げ、演奏実際へのヒントを探る。普段常識として信じている事項の通用範囲がいかに狭いか、ということ具体的を知り脳を柔軟にする。

■教材・参考書

プリント配布。他はその都度指示。

■成績評価の方法

年度末筆記試験

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

スコアリーディングA

代表教員：照屋 正樹

曜日時限：火曜4限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（ソルフェージュ和声）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

総譜（スコア）の読解と、様々な総譜をピアノで演奏する能力を高めることを目的とする。

■授業計画及び内容

多種多様な総譜を読譜し、各種楽器の響きの特徴や表現上の特性を踏まえた上で、ピアノでの表現に置き換える可能性を追究する。

■教材・参考書

弦楽四重奏や合唱曲、室内楽の総譜から、移調楽器の読譜、協奏曲、オペラ、管弦楽作品など、多様な音楽形態をその研究対象とする。

■成績評価の方法

平常点、試験による。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

スコアリーディングB

代表教員：テシュネ ローラン

曜日時限：月曜3限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（ソルフェージュ和声）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

総譜（スコア）の読解と、様々な総譜をピアノで演奏する力を高めることを目的とする。

■授業計画及び内容

声楽作品や器楽作品の多種多様な総譜を読譜し、各種総譜の響きの特性や表現上の特性を踏まえ、ピアノ用にアレンジし、演奏能力をたかめる。授業方法：グレードに分け、それぞれグループプレッソンの形で授業を行う。

■教材・参考書

弦楽四重奏や合唱曲、室内楽の総譜から、移調楽器の読譜、協奏曲、オペラ、管弦楽作品など、多様な音楽形態をその研究対象とする。

■成績評価の方法

平常点、試験による。

■履修上の指示事項

高度な読譜能力とピアノ演奏技術が要求されるが、スコアリーディングに興味を持つ全科の学生に開講される。開講に先立って、クラス分け試験を行う。

■備考（オフィスアワー）

[メールアドレスはG-net シラバスに記載]

<http://musique-art-vie.seesaa.net/>

スコアリーディングB

代表教員：テシュネ ローラン
曜日時限：月曜4限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（ソルフェージュ和声）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

総譜（スコア）の解読と、様々な総譜をピアノで演奏する力を高めることを目的とする。

■授業計画及び内容

声楽作品や器楽作品の多種多様な総譜を読譜し、各種総譜の響の特性や表現上の特性を踏まえ、ピアノ用アレンジし、演奏能力をたかめる。授業方法：グレードに分け、それぞれグループレッスンの形で授業を行う。

■教材・参考書

弦楽四重奏や合唱曲、室内楽の総譜から、移調楽器の読譜、協奏曲、オペラ、管弦楽作品など、多様な音楽形態をその研究対象とする。

■成績評価の方法

平常点、試験による。

■履修上の指示事項

高度な読譜能力とピアノ演奏技術が要求されるが、スコアリーディングに興味を持つ全科の学生に開講される。開講に先立って、クラス分け試験を行う。

■備考（オフィスアワー）

[メールアドレスはG-net シラバスに記載]
<http://musique-art-vie.seesaa.net/>

即興演奏ソルフェージュ

代表教員：平野 公崇
曜日時限：木曜4限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（ソルフェージュ和声）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

即興演奏の習得とそれに付随するソルフェージュカ、アナリーゼカ、室内楽力、創造力等の向上を目指します。

■授業計画及び内容

授業は即興演奏の実演を基本に進めますが、瞬間の作曲と呼ばれる即興演奏を習得するためには楽器の演奏能力以外にも、ソルフェージュカ、アナリーゼカ、室内楽力、創造力、美意識等、多くの知識や能力、感性が求められます。この授業では、特に、ソルフェージュカ、アナリーゼカ、室内楽力の向上を中心に、適宜参考資料、エクササイズを通して目指します。また、年間で数回のコンサートを異ジャンルとのコラボレーションを視野に入れながら行う予定です。皆さんと新しい「何か」に出会えることを楽しみにしています。

■教材・参考書

特に準備しなくて結構です。

■成績評価の方法

平常点とコンサート（試験の代わり）によって決めます。

■履修上の指示事項

先ずは基本的に全員が初心者であることを前提に進めますので、経験の有無は心配せずに。但し、音楽、芸術に対し強く興味を持っていること。

■備考（オフィスアワー）

質問や相談があれば直接授業に来てください。

ソルフェージュ（基礎）

代表教員：照屋 正樹

曜日時限：月曜1限・木曜1限

学 期：前期

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（ソルフェージュ和声）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

楽譜を中心に据えた実践的・理論的な音楽言語の基礎能力の習得

■授業計画及び内容

能力別グレード制クラスにより聴音、視唱、リズム、クレ読み、理論の5種を柱に訓練を行い、音楽家としての基礎能力を習得することを目的とする。統一問題による学期末試験結果により「基礎」の終了を認定されると、次の段階「展開」へ進む。

■教材・参考書

担当教員の指示による。

■成績評価の方法

期末試験による評価

■履修上の指示事項

ソルフェージュ能力は訓練を受けることにより向上する点を鑑み、出席を重視する。遅刻、早退に関しても統一された基準が設けられ、一定以上の出席を満たさない場合は失格となるので注意すること。

■備考（オフィスアワー）

月・木曜 12:10～13:00

ソルフェージュ（基礎）

代表教員：照屋 正樹

曜日時限：月曜1限・木曜1限

学 期：後期

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（ソルフェージュ和声）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

楽譜を中心に据えた実践的・理論的な音楽言語の基礎能力の習得

■授業計画及び内容

能力別グレード制クラスにより聴音、視唱、リズム、クレ読み、理論の5種を柱に訓練を行い、音楽家としての基礎能力を習得することを目的とする。統一問題による学期末試験結果により「基礎」の終了を認定されると、次の段階「展開」へ進む。

■教材・参考書

担当教員の指示による。

■成績評価の方法

期末試験による評価

■履修上の指示事項

ソルフェージュ能力は訓練を受けることにより向上する点を鑑み、出席を重視する。遅刻、早退に関しても統一された基準が設けられ、一定以上の出席を満たさない場合は失格となるので注意すること。

■備考（オフィスアワー）

月・木曜 12:10～13:00

ソルフェージュ（展開）

代表教員：照屋 正樹
曜日時限：月曜 1 限・木曜 1 限
学 期：前期
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（ソルフェージュ和声）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

「ソルフェージュ 基礎」の応用として、学生の専攻分野に、より近い範疇での音楽言語の総合的な習得

■授業計画及び内容

応用ソルフェージュ（より高度、かつ汎用なソルフェージュ）、器楽ソルフェージュ（楽器による聴音、初見奏等）、声楽ソルフェージュ（視唱を中心としたソルフェージュ）、ピアノ伴奏ソルフェージュ（ピアノ視奏法を中心としたソルフェージュ）の 4 種類のクラスがあり、それぞれ統一された理念と方向性をもった授業計画に従って授業が行われる。
また全クラス共、理論の学習が課せられ、上記専門実技に直結したソルフェージュの実技と共に総合的な読譜力を身につける。

■教材・参考書

担当教員の指示による。

■成績評価の方法

期末試験による評価

■履修上の指示事項

ソルフェージュ能力は訓練を受けることにより向上する点を鑑み、出席を重視する。遅刻、早退に関しても統一された基準が設けられ、一定以上の出席を満たさない場合は失格となるので注意すること。

■備考（オフィスアワー）

月・木曜 12:10～13:00

ソルフェージュ（展開）

代表教員：照屋 正樹
曜日時限：月曜 2 限・水曜 2 限
学 期：前期
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（ソルフェージュ和声）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

「ソルフェージュ 基礎」の応用として、学生の専攻分野に、より近い範疇での音楽言語の総合的な習得

■授業計画及び内容

応用ソルフェージュ（より高度、かつ汎用なソルフェージュ）、器楽ソルフェージュ（楽器による聴音、初見奏等）、声楽ソルフェージュ（視唱を中心としたソルフェージュ）、ピアノ伴奏ソルフェージュ（ピアノ視奏法を中心としたソルフェージュ）の 4 種類のクラスがあり、それぞれ統一された理念と方向性をもった授業計画に従って授業が行われる。
また全クラス共、理論の学習が課せられ、上記専門実技に直結したソルフェージュの実技と共に総合的な読譜力を身につける。

■教材・参考書

担当教員の指示による。

■成績評価の方法

期末試験による評価

■履修上の指示事項

ソルフェージュ能力は訓練を受けることにより向上する点を鑑み、出席を重視する。遅刻、早退に関しても統一された基準が設けられ、一定以上の出席を満たさない場合は失格となるので注意すること。

■備考（オフィスアワー）

月・木曜 12:10～13:00

ソルフェージュ（展開）

代表教員：照屋 正樹
曜日時限：月曜1限・木曜1限
学 期：後期
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（ソルフェージュ和声）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

「ソルフェージュ 基礎」の応用として、学生の専攻分野に、より近い範疇での音楽言語の総合的な習得

■授業計画及び内容

応用ソルフェージュ（より高度、かつ汎用なソルフェージュ）、器楽ソルフェージュ（楽器による聴音、初見奏等）、声楽ソルフェージュ（視唱を中心としたソルフェージュ）、ピアノ伴奏ソルフェージュ（ピアノ視奏法を中心としたソルフェージュ）の4種類のクラスがあり、それぞれ統一された理念と方向性をもった授業計画に従って授業が行われる。
また全クラス共、理論の学習が課せられ、上記専門実技に直結したソルフェージュの実技と共に総合的な読譜力を身につける。

■教材・参考書

担当教員の指示による。

■成績評価の方法

期末試験による評価

■履修上の指示事項

ソルフェージュ能力は訓練を受けることにより向上する点を鑑み、出席を重視する。遅刻、早退に関しても統一された基準が設けられ、一定以上の出席を満たさない場合は失格となるので注意すること。

■備考（オフィスアワー）

月・木曜 12:10～13:00

ソルフェージュ（展開）

代表教員：照屋 正樹
曜日時限：月曜2限・木曜2限
学 期：後期
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（ソルフェージュ和声）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

「ソルフェージュ 基礎」の応用として、学生の専攻分野に、より近い範疇での音楽言語の総合的な習得

■授業計画及び内容

応用ソルフェージュ（より高度、かつ汎用なソルフェージュ）、器楽ソルフェージュ（楽器による聴音、初見奏等）、声楽ソルフェージュ（視唱を中心としたソルフェージュ）、ピアノ伴奏ソルフェージュ（ピアノ視奏法を中心としたソルフェージュ）の4種類のクラスがあり、それぞれ統一された理念と方向性をもった授業計画に従って授業が行われる。
また全クラス共、理論の学習が課せられ、上記専門実技に直結したソルフェージュの実技と共に総合的な読譜力を身につける。

■教材・参考書

担当教員の指示による。

■成績評価の方法

期末試験による評価

■履修上の指示事項

ソルフェージュ能力は訓練を受けることにより向上する点を鑑み、出席を重視する。遅刻、早退に関しても統一された基準が設けられ、一定以上の出席を満たさない場合は失格となるので注意すること。

■備考（オフィスアワー）

月・木曜 12:10～13:00

ソルフェージュC-a

代表教員：時松 綾
曜日時限：月曜2限・木曜1限
学 期：前期
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（ソルフェージュ和声）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

邦楽専攻学生のための洋楽の基礎ソルフェージュ

■授業計画及び内容

西洋音楽と日本の音楽の違いを意識しつつ、五線譜の読譜基礎訓練を行う。
五線譜による現代邦楽曲の演奏等。

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

試験による。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

ソルフェージュC-a

代表教員：時松 綾
曜日時限：月曜2限・木曜1限
学 期：後期
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（ソルフェージュ和声）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

邦楽専攻学生のための洋楽の基礎ソルフェージュ

■授業計画及び内容

西洋音楽と日本の音楽の違いを意識しつつ、五線譜の読譜基礎訓練を行う。
五線譜による現代邦楽曲の演奏等。

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

試験による。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

ソルフェージュCーb

代表教員：テシュネ ローラン
曜日時限：木曜2限・金曜4限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（ソルフェージュ和声）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

ソルフェージュ実技の基礎と音楽理論の習得。

■授業計画及び内容

音楽的能力の総合的開発と向上を目指し、幅広いレパートリーを楽譜読解力を深めながら、研究する。

■教材・参考書

楽典、楽譜、ソルフェージュ教材

■成績評価の方法

平常点と試験

■履修上の指示事項

教職課程を履修しているものは必修。

■備考（オフィスアワー）

研究実習と研究演習の履修をセットとして履修すること。

[メールアドレスはG-net シラバスに記載]
<http://musique-art-vie.seesaa.net/>

和声（上級）

代表教員：市川 景之
曜日時限：火曜5限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（ソルフェージュ和声）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

和声は西洋音楽の美質のひとつです。和声中級で学んだ事の実践します。バス課題で構成力を、ソプラノ課題で耳の力を養います。

また、部分的ではありますが、さまざまな作品で和声もたらす魅力について、時には文化的背景も織り交ぜながら解き明かします。

■授業計画及び内容

- 1) 転調・借用
- 2) 変化和音
- 3) 非和声音と内部変換
- 4) 反復進行
- 5) 厳格バス課題 ・ コラルの和声 等

分析：モーツァルト「魔笛」ビゼー「カルメン」
シューマン、ブラームス、フォーレ、ドビュッシー
ラヴェル 等の歌曲、ピアノ曲
バッハの無伴奏作品、平均律 等

■教材・参考書

総合和声（音楽之友社）およびプリント配布

■成績評価の方法

出席・平常点・成績

■履修上の指示事項

「和声中級」単位取得履修済みの者または同等以上の能力を持つ者。

■備考（オフィスアワー）

和声（初級）

代表教員：松下 倫士

曜日時限：火曜3限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（ソルフェージュ和声）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

バス及びソプラノ課題の四声体和声を実習する。
学習範囲は「総合和声」（音楽之友社）第1章～第3章までを目処とする。

■教材・参考書

総合和声（音楽之友社）

■成績評価の方法

後期試験でバス及びソプラノ課題を実施させる。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

和声（初級）

代表教員：斉木 由美

曜日時限：火曜3限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（ソルフェージュ和声）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

バス及びソプラノ課題の四声体和声を実習する。学
習範囲は「総合和声」（音楽之友社）第1章～第3章
までを目処とする。

■教材・参考書

総合和声（音楽之友社）

■成績評価の方法

後期試験でバス及びソプラノ課題を実施させる。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

和声（初級）

代表教員：樋村 絢
曜日時限：火曜3限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（ソルフェージュ和声）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

バス及びソプラノ課題の四声体和声を実習する。学習範囲は「総合和声」（音楽之友社）第1章～第3章までを目処とする。

■教材・参考書

総合和声（音楽之友社）

■成績評価の方法

後期試験でバス及びソプラノ課題を実施させる。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

和声（初級）

代表教員：安田 結衣子
曜日時限：火曜3限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（ソルフェージュ和声）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

バス及びソプラノ課題の四声体和声を実習する。学習範囲は「総合和声」（音楽之友社）第1章～第3章までを目処とする。

■教材・参考書

総合和声（音楽之友社）

■成績評価の方法

後期試験でバス及びソプラノ課題を実施させる。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

和声（初級）

代表教員：市川 景之

曜日時限：火曜3限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（ソルフェージュ和声）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

バス及びソプラノ課題の四声体和声を実習する。学習範囲は「総合和声」（音楽之友社）第1章～第3章までを目処とする。

■教材・参考書

総合和声（音楽之友社）

■成績評価の方法

後期試験でバス及びソプラノ課題を実施させる。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

和声（初級）

代表教員：鈴木 輝昭

曜日時限：金曜4限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（ソルフェージュ和声）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

バス及びソプラノ課題の四声体和声を実習する。学習範囲は「総合和声」（音楽之友社）第1章～第3章までを目処とする。

■教材・参考書

総合和声（音楽之友社）

■成績評価の方法

後期試験でバス及びソプラノ課題を実施させる。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

和声（初級）

代表教員：神本 真理

曜日時限：金曜 4 限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（ソルフェージュ和声）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

バス及びソプラノ課題の四声体和声を実習する。
学習範囲は「総合和声」（音楽之友社）第1章～第3章までを目処とする。

■教材・参考書

総合和声（音楽之友社）

■成績評価の方法

後期試験でバス及びソプラノ課題を実施させる。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

和声（初級）

代表教員：渡辺 俊哉

曜日時限：金曜 4 限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（ソルフェージュ和声）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

バス及びソプラノ課題の四声体和声を実習する。学
習範囲は「総合和声」（音楽之友社）第1章～第3章
までを目処とする。

■教材・参考書

総合和声（音楽之友社）

■成績評価の方法

後期試験でバス及びソプラノ課題を実施させる。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

和声（中級）

代表教員：安田 結衣子

曜日時限：火曜 4 限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（ソルフェージュ和声）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

バス及びソプラノ課題の四声体和声を実習する。学習範囲は、「総合和声」（音楽之友社）第4章～第6章までを目処とする。

■教材・参考書

総合和声（音楽之友社）

■成績評価の方法

後期試験でバス及びソプラノ課題を実施させる。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

和声（中級）

代表教員：松下 倫士

曜日時限：火曜 4 限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（ソルフェージュ和声）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

バス及びソプラノ課題の四声体和声を実習する。学習範囲は、「総合和声」（音楽之友社）第4章～第6章までを目処とする。

■教材・参考書

総合和声（音楽之友社）

■成績評価の方法

後期試験でバス及びソプラノ課題を実施させる。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

和声（中級）

代表教員：樋村 絢
曜日時限：火曜4限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（ソルフェージュ和声）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

バス及びソプラノ課題の四声体和声を実習する。
学習範囲は、「総合和声」（音楽之友社）第4章～第6章までを目処とする。

■教材・参考書

総合和声（音楽之友社）

■成績評価の方法

後期試験でバス及びソプラノ課題を実施させる。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

和声（中級）

代表教員：斉木 由美
曜日時限：火曜4限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：専門科目（ソルフェージュ和声）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

バス及びソプラノ課題の四声体和声を実習する。
学習範囲は、「総合和声」（音楽之友社）第4章～第6章までを目処とする。

■教材・参考書

総合和声（音楽之友社）

■成績評価の方法

後期試験でバス及びソプラノ課題を実施させる。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

和声 I

代表教員：渡辺 俊哉

曜日時限：金曜 3 限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（ソルフェージュ和声）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

非和声音を含む和声課題の実施と楽曲分析。

■授業計画及び内容

非和声音を含むソプラノ課題の実施から始め、後期はシャランなどの課題を行う予定。

また楽曲分析も行う。

■教材・参考書

プリントを配布する。

■成績評価の方法

試験及び平常点。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

和声 II

代表教員：神本 真理

曜日時限：金曜 5 限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：専門科目（ソルフェージュ和声）

開設区分：音楽併設

交流区分：

■授業のテーマ

和声課題の実習及び楽曲分析

■授業計画及び内容

【訂正後】

HENRY CHALLAN 380 BASSES ET CHANTS DONNES RECUEIL No. 7 以降の課題を中心に、非和声音、偶成和音について深め、また、様々な形のバス課題を実施し、楽曲の形を認識する。

【訂正前】

数字付きバス課題をさらに進め、より高度な和声理論を学ぶ。後期は大作曲家の作品の分析に発展させる。

■教材・参考書

【訂正後】

「総合和声」の他、配布プリント

【訂正前】

配布プリント

■成績評価の方法

【訂正後】

試験及び平常

【訂正前】

試験及びレポート

■履修上の指示事項

【訂正後】

記載なし

【訂正前】

和声 I の単位を修得した者

■備考（オフィスアワー）

專門科目（副科実技）

副科B V c (初級)

代表教員：鈴木 秀美

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（副科実技）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

バロック時代のチェロとバロック音楽の特徴、現代の楽器や演奏法との違いを学ぶ。

■授業計画及び内容

エンドピンがない楽器の構え方、ガット弦や弓の扱いなど基礎的な楽器のテクニックを学び、18世紀前半のレパートリーを習得する。現代の演奏法との違いや繋がりについて学ぶ。程度によっては勉強会での演奏もあり得る。

■教材・参考書

授業の中で時に応じて指示する。

■成績評価の方法

平常点と実技試験

■履修上の指示事項

原則としてチェロ科以外の履修は認めない。見学は常に歓迎。

■備考（オフィスアワー）

古楽研究室

副科B V c (中級)

代表教員：鈴木 秀美

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（副科実技）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

バロック時代のチェロとバロック音楽の特徴、現代の楽器や演奏法との違いを学ぶ。

■授業計画及び内容

エンドピンがない楽器の構え方、ガット弦や弓の扱いなど基礎的な楽器のテクニックを学び、18世紀前半のレパートリーを習得する。現代の演奏法との違いや繋がりについて学ぶ。程度によっては勉強会での演奏もあり得る。

■教材・参考書

授業の中で時に応じて指示する。

■成績評価の方法

平常点と実技試験

■履修上の指示事項

原則としてチェロ科以外の履修は認めない。見学は常に歓迎。

■備考（オフィスアワー）

古楽研究室

副科B V n（初級）

代表教員：若松 夏美

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（副科実技）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

1600年頃から1800年頃のヴァイオリンのレパートリーを実際に古楽器を使って演奏することによって、当時のスタイルを学ぶ。

■授業計画及び内容

1. バロックヴァイオリンの基礎技術を練習する。
(顎あて・肩あてのない楽器のかまえかた、ポジションチェンジなどの左手の技術、ポウイング)
2. 時代、地域によって異なる演奏様式を実践を通して学ぶ。
3. 希望者は古楽科の発表会に参加することが可能。

■教材・参考書

時に応じて指示する。

■成績評価の方法

平常点、実技試験と簡単なレポート提出

■履修上の指示事項

基本的にヴァイオリンの基礎を習得している学生を対象とする。楽器及び弓は大学所蔵のものを使用することができる。

■備考（オフィスアワー）

古楽研究室

副科B V n（中級）

代表教員：若松 夏美

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（副科実技）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

1600年頃から1800年頃のヴァイオリンのレパートリーを実際に古楽器を使って演奏することによって、当時のスタイルを学ぶ。

■授業計画及び内容

1. バロックヴァイオリンの基礎技術を練習する。
(顎あて・肩あてのない楽器のかまえかた、ポジションチェンジなどの左手の技術、ポウイング)
2. 時代、地域によって異なる演奏様式を実践を通して学ぶ。初級からの延長として、時代・地域を限定したレパートリーを選んでも良い。
3. 希望者は古楽科の発表会への参加が可能である。

■教材・参考書

時に応じて指示する。

■成績評価の方法

平常点と実技試験

■履修上の指示事項

初級を履修した者に限る

■備考（オフィスアワー）

古楽研究室

副科 C e m b (初級)

代表教員：廣沢 麻美

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（副科実技）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

チェンバロ奏法の基礎（1）

■授業計画及び内容

- 1) チェンバロの発音の仕組みを理解し、美しい響きを生み出すタッチを体得し、楽器に親しむ。
- 2) F. クープランの「8つのプレリュード」、J. S. バッハの「インヴェンションとシンフォニア」等のバロック時代の短い作品を使って、チェンバロ独特のアーティキュレーションやフレージングや、様式に沿った楽譜の読み方を学ぶ。
- 3) 受講生の希望があれば、通奏低音やオブリガートチェンバロによるアンサンブルのレッスンも行う。

■教材・参考書

F. クープラン「クラヴサン奏法」（シンフォニア刊）
J. S. バッハ「インヴェンションとシンフォニア」（ベーレンライター刊）
など

■成績評価の方法

平常点に実技試験等の成績を加味して行う。

■履修上の指示事項

必ずチェンバロで練習してレッスンに臨むこと。また、レッスンでのピッチは基本的に a=415 で行う。

■備考（オフィスアワー）

古楽研究室

副科 C e m b (中級)

代表教員：廣沢 麻美

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（副科実技）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

チェンバロ奏法の応用

■授業計画及び内容

基本的に、初級を履修しチェンバロ奏法の基礎を学んだ学生が、より楽器に親しんで楽器の特性を深く理解し、レパートリーを広げることを目的とする。レッスンのレパートリーは、履修学生の希望を第一としながら各時代、各地域の様々な様式のものを選ぶ。通奏低音やアンサンブルも歓迎。ほぼ専攻生と同じレベルの、専門的かつ本格的な演奏を習得できることを目指す。

■教材・参考書

履修学生の希望によって随時指示

■成績評価の方法

出席率と平常点に、実技試験での成績を加えて採点する。

■履修上の指示事項

必ずチェンバロで練習してレッスンに臨むこと。

■備考（オフィスアワー）

古楽研究室

副科 C I (初級)

代表教員：山本 正治

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（副科実技）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

副科 F I (初級)

代表教員：高木 綾子

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（副科実技）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

シラバスなし

■授業計画及び内容

シラバスなし

■教材・参考書

シラバスなし

■成績評価の方法

シラバスなし

■履修上の指示事項

シラバスなし

■備考（オフィスアワー）

シラバスなし

副科 F p (初級)

代表教員：小倉 貴久子

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（副科実技）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

1700年頃発明されたピアノから現代のピアノになるまでの200年間の重要なピアノレパートリーを、それらの作品を生み出したフォルテピアノでの演奏スタイル、構造、時代背景などを学びながら、作品の本質に迫る。学内ではウィーンの楽器製作者A. Walterの5オクターブのモデルをコピーしたフォルテピアノを用いて、18世紀後半から19世紀初頭にかけてのいわゆる古典派の音楽におけるピアノ奏法について学ぶ。希望者には学外での、浜松市楽器博物館その他の協力による18、19世紀のウィーン式、イギリス式のさまざまなタイプのフォルテピアノによる演奏法を学ぶ機会も与えられる。

■授業計画及び内容

グループレッスン形式で行う。バロック時代から受け継がれたもの（アーティキュレーションや拍節感など）と、バロックとは異なる古典派音楽特有のフレージング、アゴーギクなどを18世紀後半に新しい波を起こした作曲家たち（前古典派）が音楽に求めていたものを探りながら追求する。そしてその後の古典派全盛期に活躍していた作曲家たちの作品を幅広く認識することで、当時の時代様式、奏法、価値観などを明らかにする。とりあげる作品は、クラヴィアソロ曲に限らず、4手用作品、歌曲、クラヴィアを含むアンサンブル作品、コンチェルトなど、幅広く学生の技能に応じておこなう。初級受講者の選ばれた学生には、発表の場としての研究発表会に出演する機会が与えられる。テーマは以下の通り。日程はレッスン時に指示する。

前期「ハイドン」「J. S. バッハの息子たち」

後期「モーツァルト」「ベートーヴェン」

学外では、浜松市楽器博物館その他の協力により、クリストフォリから19世紀のさまざまなフォルテピアノでのレッスンや演奏の場が提供される。

■教材・参考書

授業中に指示

■成績評価の方法

学年末実技試験

■履修上の指示事項

十分な準備を以てレッスンに臨むこと。欠席の多い学生は後期の履修が認められなくなることがあるので、注意。

■備考（オフィスアワー）

水曜3限・古楽研究室

副科 F p (中級)

代表教員：小倉 貴久子

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（副科実技）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

1700年頃発明されたピアノから現代のピアノになるまでの200年間の重要なピアノレパートリーを、それらの作品を生み出したフォルテピアノでの演奏スタイル、構造、時代背景などを学びながら、作品の本質に迫る。学内ではウィーンの楽器製作者A. Walterの5オクターブのモデルをコピーしたフォルテピアノを用いて、18世紀後半から19世紀初頭にかけてのいわゆる古典派の音楽におけるピアノ奏法について学ぶ。希望者には学外での、浜松市楽器博物館その他の協力による18、19世紀のウィーン式、イギリス式のさまざまなタイプのフォルテピアノによる演奏法を学ぶ機会も与えられる。

■授業計画及び内容

バロック時代から受け継がれたもの（アーティキュレーションや拍節感など）と、バロックとは異なる古典派音楽特有のフレージング、アゴーギクなどを18世紀後半に新しい波を起こした作曲家たち（前古典派）が音楽に求めていたものを探りながら追求する。そしてその後の古典派全盛期に活躍していた作曲家たちの作品を幅広く認識することで、当時の時代様式、奏法、価値観などを明らかにする。とりあげる作品は、クラヴィーアソロ曲に限らず、4手用作品、歌曲、クラヴィーアを含むアンサンブル作品、コンチェルトなど、幅広く学生の技能に応じておこなう。中級受講者は、発表の場としての研究発表会に出演する機会が与えられる。テーマは以下の通り。日程はレッスン時に指示する。

前期「ハイドン」「J. S. バッハの息子たち」

後期「モーツァルト」「ベートーヴェン」

学外では、浜松市楽器博物館その他の協力により、クリストフォリから19世紀のさまざまなフォルテピアノでのレッスンや演奏の場が提供される。

■教材・参考書

授業中に指示

■成績評価の方法

学年末実技試験

■履修上の指示事項

十分な準備を以てレッスンに臨むこと。欠席の多い学生は後期の履修が認められなくなることがあるので、注意。

■備考（オフィスアワー）

水曜4限・古楽研究室

副科H r (初級)

代表教員：古賀 慎治
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（副科実技）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

シラバスなし

■授業計画及び内容

シラバスなし

■教材・参考書

シラバスなし

■成績評価の方法

シラバスなし

■履修上の指示事項

シラバスなし

■備考（オフィスアワー）

シラバスなし

副科O b (初級)

代表教員：小畑 善昭
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（副科実技）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

シラバスなし

■授業計画及び内容

シラバスなし

■教材・参考書

シラバスなし

■成績評価の方法

シラバスなし

■履修上の指示事項

シラバスなし

■備考（オフィスアワー）

シラバスなし

副科Org（初級）

代表教員：徳岡 めぐみ
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（副科実技）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

オルガン実技の基礎の習得

■授業計画及び内容

グループレッスンによりおこなう。

■教材・参考書

担当教員と相談の上、適宜決める。

■成績評価の方法

実技試験による。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

副科Org（中級）

代表教員：徳岡 めぐみ
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（副科実技）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

簡易なオルガン・レパートリーの習得

■授業計画及び内容

原則として個人レッスンによりおこなう。

■教材・参考書

担当教員と相談の上、適宜決める。

■成績評価の方法

実技試験による。

■履修上の指示事項

原則として初級を履修し、試験に合格したものに
限る。

■備考（オフィスアワー）

副科 P c (初級) A

代表教員：藤本 隆文

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（副科実技）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

シラバスなし

■授業計画及び内容

シラバスなし

■教材・参考書

シラバスなし

■成績評価の方法

シラバスなし

■履修上の指示事項

シラバスなし

■備考（オフィスアワー）

シラバスなし

副科 P c (初級) B

代表教員：藤本 隆文

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（副科実技）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

シラバスなし

■授業計画及び内容

シラバスなし

■教材・参考書

シラバスなし

■成績評価の方法

シラバスなし

■履修上の指示事項

シラバスなし

■備考（オフィスアワー）

シラバスなし

副科 P f I

代表教員：東 誠三
曜日時限：その他
学 期：前期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（副科実技）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

ピアノ実技個人レッスン

■授業計画及び内容

個人レッスンでおこなわれる。半期毎に行われる試験では、伴奏、エチュード、バロック、古典派、ロマン派、近現代、の6つの区分を選択する。

■教材・参考書

半期ごとの実技試験での評価。

■成績評価の方法

副科ピアノ履修はいろいろな条件があるので、自分が必修として履修するのか選択として履修するのか、自分に合った履修条件（途中の中断は認められない等）はどうか、試験での課題曲区分等、各自履修便覧を熟読すること。特に、教職希望者は休学以外の履修の中断が認められないことに十分注意すること。

■履修上の指示事項

0

■備考（オフィスアワー）

9:00～17:00

副科 P f I

代表教員：東 誠三
曜日時限：その他
学 期：後期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（副科実技）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

ピアノ実技個人レッスン

■授業計画及び内容

個人レッスンでおこなわれる。半期毎に行われる試験では、伴奏、エチュード、バロック、古典派、ロマン派、近現代、の6つの区分を選択する。

■教材・参考書

半期ごとの実技試験での評価。

■成績評価の方法

副科ピアノ履修はいろいろな条件があるので、自分が必修として履修するのか選択として履修するのか、自分に合った履修条件（途中の中断は認められない等）はどうか、試験での課題曲区分等、各自履修便覧を熟読すること。特に、教職希望者は休学以外の履修の中断が認められないことに十分注意すること。

■履修上の指示事項

0

■備考（オフィスアワー）

9:00～17:00

副科 P f II

代表教員：東 誠三
曜日時限：その他
学 期：前期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（副科実技）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

ピアノ実技個人レッスン

■授業計画及び内容

個人レッスンでおこなわれる。半期毎に行われる試験では、伴奏、エチュード、バロック、古典派、ロマン派、近現代、の6つの区分を選択する。

■教材・参考書

半期ごとの実技試験での評価。

■成績評価の方法

副科ピアノ履修はいろいろな条件があるので、自分が必修として履修するのか選択として履修するのか、自分に合った履修条件（途中の中断は認められない等）はどうか、試験での課題曲区分等、各自履修便覧を熟読すること。特に、教職希望者は休学以外の履修の中断が認められないことに十分注意すること。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

9:00～17:00

副科 P f II

代表教員：東 誠三
曜日時限：その他
学 期：後期
単 位 数：1
ジャンル：専門科目（副科実技）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

ピアノ実技個人レッスン

■授業計画及び内容

個人レッスンでおこなわれる。半期毎に行われる試験では、伴奏、エチュード、バロック、古典派、ロマン派、近現代、の6つの区分を選択する。

■教材・参考書

半期ごとの実技試験での評価。

■成績評価の方法

副科ピアノ履修はいろいろな条件があるので、自分が必修として履修するのか選択として履修するのか、自分に合った履修条件（途中の中断は認められない等）はどうか、試験での課題曲区分等、各自履修便覧を熟読すること。特に、教職希望者は休学以外の履修の中断が認められないことに十分注意すること。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

9:00～17:00

副科 S x (初級)

代表教員：須川 展也

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（副科実技）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

シラバスなし

■授業計画及び内容

シラバスなし

■教材・参考書

シラバスなし

■成績評価の方法

シラバスなし

■履修上の指示事項

シラバスなし

■備考（オフィスアワー）

シラバスなし

副科 T b (初級)

代表教員：古賀 慎治

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（副科実技）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

シラバスなし

■授業計画及び内容

シラバスなし

■教材・参考書

シラバスなし

■成績評価の方法

シラバスなし

■履修上の指示事項

シラバスなし

■備考（オフィスアワー）

シラバスなし

副科 T p (初級)

代表教員：栃本 浩規
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（副科実技）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

シラバスなし

■授業計画及び内容

シラバスなし

■教材・参考書

シラバスなし

■成績評価の方法

シラバスなし

■履修上の指示事項

シラバスなし

■備考（オフィスアワー）

シラバスなし

副科 V a (初級)

代表教員：市坪 俊彦
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（副科実技）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

注意！●●●平成 21 年度は開講しない●●●

楽器演奏の基礎的なテクニックを学ぶ。

■授業計画及び内容

グループレッスンにより行われる。

■教材・参考書

各教員が指定する。

■成績評価の方法

授業での平常点。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

副科 V a (中級)

代表教員：川崎 和憲

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（副科実技）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

楽器演奏の基礎的なテクニックを学ぶ。

■授業計画及び内容

個人レッスンにより行われる。

■教材・参考書

各教員が指定する。

■成績評価の方法

授業での平常点。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

副科 V c (初級)

代表教員：福富 祥子

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（副科実技）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

楽器演奏の基礎的なテクニックを学ぶ。

■授業計画及び内容

グループレッスンにより行われる。

■教材・参考書

各教員が指定する。

■成績評価の方法

授業での平常点。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

副科 V c (中級)

代表教員：河野 文昭

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（副科実技）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

楽器演奏の基礎的なテクニックを学ぶ。

■授業計画及び内容

個人レッスンにより行われる。

■教材・参考書

各教員が指定する。

■成績評価の方法

授業での平常点。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

副科 V n (初級) A

代表教員：村津 瑠紀

曜日時限：水曜3限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（副科実技）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

楽器演奏の基礎的なテクニックを学ぶ。

■授業計画及び内容

グループレッスンにより行われる。

■教材・参考書

各教員が指定する。

■成績評価の方法

授業での平常点。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

副科Vn（中級）

代表教員：澤 和樹
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（副科実技）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

楽器演奏の基礎的なテクニックを学ぶ。

■授業計画及び内容

個人レッスンにより行われる。

■教材・参考書

各教員が指定する。

■成績評価の方法

授業での平常点。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

副科ヴィオラ・ダ・ガンバ（初級）

代表教員：福澤 宏
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（副科実技）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

楽器の歴史を学ぶとともに、ヴィオラ・ダ・ガンバの基礎的技術を身につける。

■授業計画及び内容

初級

楽器と弓の持ち方、フレットの巻き方と調弦についての指導。

主にルネサンスのコンソート音楽を通してボーイング、音程について指導を行う。

中級

各種の楽器（トレブル、テノール、バス）の演奏を体験し、3声～5声のコンソートを実演する。

バロックの通奏低音におけるアーティキレーション、フレージングなどについての指導を行う。

■教材・参考書

授業中に指示

■成績評価の方法

実技試験

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

古楽研究室（2-1-9）

副科ヴィオラ・ダ・ガンバ（中級）

代表教員：福澤 宏
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（副科実技）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

楽器の歴史を学ぶとともに、ヴィオラ・ダ・ガンバの基礎的技術を身につける。

■授業計画及び内容

初級

楽器と弓の持ち方、フレットの巻き方と調弦についての指導。

主にルネサンスのコンソート音楽を通してボーイング、音程について指導を行う。

中級

各種の楽器（トレブル、テノール、バス）の演奏を体験し、3声～5声のコンソートを実演する。

バロックの通奏低音におけるアーティキレーション、フレージングなどについての指導を行う。

■教材・参考書

授業中に指示

■成績評価の方法

実技試験

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

古楽研究室

副科雅楽（初級）

代表教員：新谷 恵
曜日時限：水曜3限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（副科実技）
開設区分：音楽併設
交流区分：

■授業のテーマ

雅楽への導入的知識に触れるとともに、笙・箏・篳篥・龍笛の一つを選択し、唐楽管絃の初歩的演奏法および歌物の唱法を学ぶ。

■授業計画及び内容

各管の唱歌と演奏法を課題曲にそって、分奏及び合奏する。

また絃・打物、歌物の初歩的な奏法に触れる。

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

出席及び平常点

■履修上の指示事項

原則としてグループレッスンにより授業を行う。

■備考（オフィスアワー）

副科合唱

代表教員：松村 努
曜日時限：金曜3限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（副科実技）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

古今の合唱芸術作品の演奏。

■授業計画及び内容

合唱を通じて様々な時代の様式感を学ぶ。
音楽の源である「歌う」事を学び、合唱を通じて得た体験を
それぞれの専門分野に生かすことを目的とする。
また、教職に於いて必要となる合唱指導方法も同時に学ぶ。

■教材・参考書

授業時に配布、又は指示をする。

■成績評価の方法

合唱（授業）への積極的な参加（歌唱）態度と出席率。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

0

副科清元（初級）

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（副科実技）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

清元の基本技術の習得

■授業計画及び内容

少人数のグループによる実技レッスン形式の授業

■教材・参考書

清元浄瑠璃本・清元三味線譜

■成績評価の方法

出席を考慮した平常点と副科試験での評価

■履修上の指示事項

原則としてグループレッスンにより授業を行う。

■備考（オフィスアワー）

副科清元三味線（初級）

代表教員：長谷川 千春

曜日時限：火曜3限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（副科実技）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

清元三味線の基本技術の習得

■授業計画及び内容

少人数のグループによる実技レッスン形式の授業

■教材・参考書

清元浄瑠璃本・清元三味線譜

■成績評価の方法

出席を考慮した平常点と副科試験での評価

■履修上の指示事項

原則としてグループレッスンにより授業を行う。

■備考（オフィスアワー）

副科指揮法Ⅰ

代表教員：山下 一史

曜日時限：火曜3限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（副科実技）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

指揮の実習と表現

■授業計画及び内容

各自、主にピアノに向かって、実際に曲を指揮し、そこで起きる問題を具体的に取り上げ研究する。

■教材・参考書

授業中に指示

※指揮棒は不要

■成績評価の方法

試験による。但し出席を重視する。

■履修上の指示事項

※第1回の授業は特に大切なので必ず出席すること。

■備考（オフィスアワー）

0

副科指揮法Ⅱ

代表教員：鈴木 織衛
曜日時限：水曜2限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（副科実技）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

指揮法の基礎、実習、表現

■授業計画及び内容

実技実習を通して、指揮法での音楽表現の可能性を考える

■教材・参考書

指揮棒。使用楽譜については授業時に指定する。

■成績評価の方法

平常点及び実技試験

■履修上の指示事項

初回授業までに指揮棒を用意しておくこと

■備考（オフィスアワー）

（特に無し）

副科指揮法Ⅲ

代表教員：三河 正典
曜日時限：水曜3限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（副科実技）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

指揮法の基礎とその実践

■授業計画及び内容

基礎的な指揮法の指導は指揮の技術に偏りがちであるが、本講ではテクニックはあくまで表現の手段であるという観点から、さまざまな楽曲の指揮で直面する問題をできるだけ具体的にとりあげ、いくつかの解釈の可能性にも触れながら研究していく。これまで、ベートーヴェンの交響曲、シュトラウスのワルツ、「展覧会の絵」、バルトークのピアノ曲などを扱った。履修者には演奏家として特に音楽表現上の積極性がのぞまれる。ピアノを指揮する実技指導を基本とする。

■教材・参考書

授業中に指定する。

■成績評価の方法

試験による。

■履修上の指示事項

各自、指定されたスコアおよび指揮棒を用意すること。

■備考（オフィスアワー）

0

副科箏曲（生田流）（初級）

代表教員：吉川 さとみ

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（副科実技）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

生田流箏曲の基礎（グルーブレッスン）

■授業計画及び内容

《さくら》《さくらの変奏》

《宮城道雄小曲集》

《六段の調》

■教材・参考書

安藤政輝著『生田流の箏曲』（講談社発行）

『箏～さくらを弾きましょう～』（ビクター伝統文化振興財団発行のビデオ教材）

箏爪（生田流 大大・象牙製） 必須

《宮城道雄小曲集》《六段の調》（邦楽社発行・宮城道雄著）

《さくら》の楽譜はプリントを配布。

■成績評価の方法

出席状況と試験による。

■履修上の指示事項

楽器は貸与。爪は各自用意すること。

■備考（オフィスアワー）

作曲科、指揮科の学生、および

教職のための「和楽器実技」をより深く学習したい学生に勧めます。

副科箏曲（山田流）（初級）

代表教員：太田 聡子

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（副科実技）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

山田流箏曲の基礎的な演奏技法の習得

■授業計画及び内容

少人数のグループによる、実技レッスン形式の授業
学生一人一人の能力に応じ、適宜個々の学生にふさわしい課題を選択し、指導する
楽器の扱い、楽譜の読み方、基本的な奏法を練習曲を通じて学ぶ

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

出席状況、年度末の試験による。

■履修上の指示事項

楽器は借用することが出来る。

■備考（オフィスアワー）

0

副科常磐津（初級）

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（副科実技）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

常磐津の基本技術の習得

■授業計画及び内容

少人数のグループによる実技レッスン形式の授業

■教材・参考書

常磐津浄瑠璃本・常磐津三味線譜

■成績評価の方法

出席を考慮した平常点と副科試験での評価

■履修上の指示事項

原則としてグループレッスンにより授業を行う。

■備考（オフィスアワー）

副科常磐津三味線（初級）

代表教員：小島 直文
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（副科実技）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

常磐津三味線の基本技術の習得

■授業計画及び内容

少人数のグループによる実技レッスン形式の授業

■教材・参考書

常磐津浄瑠璃本・常磐津三味線譜

■成績評価の方法

出席を考慮した平常点と副科試験での評価

■履修上の指示事項

原則としてグループレッスンにより授業を行う。

■備考（オフィスアワー）

副科独唱（初級）

代表教員：佐々木 典子
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（副科実技）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

副科としての独唱。「教員免許状」取得希望者に科せられる「教科に関する科目」のひとつである。

■授業計画及び内容

初級：西洋のベルカント発声法を基本としながら、歌を歌う楽しみを体験させる。声楽発声法の基本となる姿勢・呼吸法・横隔膜の支え・口腔内部の空間の取り方等を指導した後、ヴォカリーゼなどを使って各母音の発声法・声区の転換点の問題などを演習形式で指導する。歌唱の実際を身につけるために「イタリア古典アリア集」等を使用し指導する。後期実技試験にむけて集団演習形式から、個人レッスン形式を取る事もある。

■教材・参考書

「イタリア古典アリア集」全音出版、教育芸術社等。
「コンコーネ 50 番」全音出版、音楽之友社、カワイ楽譜等。

■成績評価の方法

出席状況と後期実技試験の成績による評価。

■履修上の指示事項

履修希望者は教務係に履修希望届を定められた期間内に提出する事。

■備考（オフィスアワー）

0

副科長唄（初級）A

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（副科実技）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

長唄の基礎的知識、実技

■授業計画及び内容

毎年初級・中級・上級と各3曲ずつ曲を決め、その演奏技術及び曲の理解を深めることで、専門分野の視野を広げる。

■教材・参考書

長唄譜本

■成績評価の方法

出席を考慮した平常点と副科試験での評価

■履修上の指示事項

原則としてグループレッスンにより授業を行う。

■備考（オフィスアワー）

邦楽科以外の学生は、初級Aを履習すること。

副科長唄（初級）B

代表教員：西垣 和彦
曜日時限：水曜4限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（副科実技）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

長唄の基礎的知識、実技

■授業計画及び内容

毎年初級・中級・上級と各3曲ずつ曲を決め、その演奏技術及び曲の理解を深めることで、専門分野の視野を広げる。

■教材・参考書

長唄譜本

■成績評価の方法

出席を考慮した平常点と副科試験での評価

■履修上の指示事項

原則としてグループレッスンにより授業を行う。

■備考（オフィスアワー）

邦楽科以外の学生は、初級Aを履習すること。

副科長唄（初級）C

代表教員：西垣 和彦
曜日時限：月曜3限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（副科実技）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

長唄の基礎的知識、実技

■授業計画及び内容

毎年初級・中級・上級と各3曲ずつ曲を決め、その演奏技術及び曲の理解を深めることで、専門分野の視野を広げる。

■教材・参考書

長唄譜本

■成績評価の方法

出席を考慮した平常点と副科試験での評価

■履修上の指示事項

原則としてグループレッスンにより授業を行う。

■備考（オフィスアワー）

邦楽科以外の学生は、初級Aを履習すること。

副科長唄三味線（初級）A

代表教員：小島 直文

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（副科実技）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

長唄三味線の基礎的知識、実技

■授業計画及び内容

毎年初級・中級・上級と各3曲ずつ曲を決め、その演奏技術及び曲の理解を深めることで、専門分野の視野を広げる。

■教材・参考書

長唄譜本

■成績評価の方法

出席を考慮した平常点と副科試験での評価

■履修上の指示事項

原則としてグループレッスンにより授業を行う。

■備考（オフィスアワー）

邦楽科以外の学生は、初級Aを履習すること。

副科長唄三味線（初級）B

代表教員：小島 直文

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（副科実技）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

長唄三味線の基礎的知識、実技

■授業計画及び内容

毎年初級・中級・上級と各3曲ずつ曲を決め、その演奏技術及び曲の理解を深めることで、専門分野の視野を広げる。

■教材・参考書

長唄譜本

■成績評価の方法

出席を考慮した平常点と副科試験での評価

■履修上の指示事項

原則としてグループレッスンにより授業を行う。

■備考（オフィスアワー）

邦楽科以外の学生は、初級Aを履習すること。

副科日本舞踊（初級）A

代表教員：渡邊 彰子
曜日時限：火曜 1 限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（副科実技）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

日本舞踊の基本技術の習得

■授業計画及び内容

少人数のグループによる実技レッスン形式の授業

■教材・参考書

レッスン時に着用する、白足袋、和服（浴衣でも可）、帯、持参。
貸出については要相談。

■成績評価の方法

出席を考慮しながら平常点重視の評価

■履修上の指示事項

原則としてグループレッスンにより授業を行う。

■備考（オフィスアワー）

0

副科日本舞踊（初級）B

代表教員：渡邊 彰子
曜日時限：火曜 2 限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（副科実技）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

日本舞踊の基本技術の習得

■授業計画及び内容

少人数のグループによる実技レッスン形式の授業

■教材・参考書

レッスン時に着用する、白足袋、和服（浴衣でも可）、帯、持参。
貸出については要相談。

■成績評価の方法

出席を考慮しながら平常点重視の評価

■履修上の指示事項

原則としてグループレッスンにより授業を行う。

■備考（オフィスアワー）

副科能楽（観世流）（初級）

代表教員：関根 知孝

曜日時限：木曜3限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（副科実技）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

観世流謡曲の基礎知識の習得及び曲の理解

■授業計画及び内容

観世流初級謡の節扱い及び拍子当たりについての講義及び実技。

■教材・参考書

観世流大成版謡本（檜書店）初心者用五番綴上巻など。

■成績評価の方法

出席を考慮しながら平常点重視の評価。

■履修上の指示事項

礼儀・作法の重視

原則としてグループレッスンにより授業を行う。

■備考（オフィスアワー）

0

副科能楽（宝生流）（初級）

代表教員：武田 孝史

曜日時限：水曜2限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（副科実技）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

宝生流謡曲の基礎知識の習得及び曲の理解

■授業計画及び内容

宝生流初級 謡の節扱い及び拍子当たりについての講義及び実技

■教材・参考書

宝生流謡本

■成績評価の方法

出席を考慮しながら平常点重視の評価

■履修上の指示事項

礼儀・作法の重視

原則としてグループレッスンにより授業を行う。

■備考（オフィスアワー）

0

副科能楽狂言（初級）

代表教員：野村 武司

曜日時限：月曜2限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（副科実技）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

和泉流狂言現行曲中の小舞の基本技術習得

■授業計画及び内容

小舞の基本的な型、所作の指導

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

出席を考慮した平常点重視の評価

■履修上の指示事項

原則としてグループレッスンにより授業を行う。

■備考（オフィスアワー）

0

副科能楽囃子（大鼓）（初級）

代表教員：佃 良勝

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（副科実技）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

高安流大鼓の演奏技術習得

■授業計画及び内容

高安流大鼓手附に添っての指導

■教材・参考書

高安流大鼓手附

■成績評価の方法

出席を考慮しながら平常点重視の評価

■履修上の指示事項

原則としてグループレッスンにより授業を行う

■備考（オフィスアワー）

副科能楽囃子（小鼓）（初級）

代表教員：曾和 正博

曜日時限：火曜2限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（副科実技）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

幸流小鼓の演奏技術習得

■授業計画及び内容

幸流小鼓手附に添っての個人指導

■教材・参考書

幸流小鼓手附

■成績評価の方法

出席を考慮しながら平常点重視の評価

■履修上の指示事項

原則としてグループレッスンにより授業を行う。

■備考（オフィスアワー）

0

副科能楽囃子（太鼓）（初級）

代表教員：観世 元則

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（副科実技）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

観世流太鼓の演奏技術修得

■授業計画及び内容

観世流太鼓手附に添っての個人指導

■教材・参考書

観世流太鼓手附

■成績評価の方法

出席を考慮しながら平常点重視の評価

■履修上の指示事項

原則としてグループレッスンにより授業を行う。

■備考（オフィスアワー）

副科能楽囃子（笛）（初級）

代表教員：藤田 次郎

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（副科実技）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

一噌流笛の演奏技術習得

■授業計画及び内容

一噌流唱歌集に添っての舞物の指導

■教材・参考書

一噌流笛唱歌集（上・下巻）。一噌流笛指附

■成績評価の方法

出席を考慮しながら平常点重視の評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

副科フラウト・トラヴェルソ（初級）

代表教員：前田 リリ子

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（副科実技）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

18世紀に使われていた、歴史的な楽器の演奏法を習得することを通じて、バロック時代の演奏習慣を学ぶ。

■授業計画及び内容

初心者は、楽器演奏の基本的技術と、舞曲やイネガールなどの18世紀特有の演奏習慣をフランス・バロックのデュエットを教材に学ぶ。

フルート専攻者と経験者は、個人の興味に従って、装飾法、アーティキュレーション、様式感など、よりふみこんだ学習を行う。

■教材・参考書

授業中に指示

■成績評価の方法

平常点及び実技試験

■履修上の指示事項

0

■備考（オフィスアワー）

古楽研究室

副科フラウト・トラヴェルソ（中級）

代表教員：前田 リリ子

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（副科実技）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

18世紀に使われていた、歴史的な楽器の演奏法を習得することを通じて、バロック時代の演奏習慣を学ぶ。

■授業計画及び内容

初心者には、楽器演奏の基本的技術と、舞曲やイネガールなどの18世紀特有の演奏習慣をフランス・バロックのデュエットを教材に学ぶ。

フルート専攻者と経験者は、個人の興味に従って、装飾法、アーティキュレーション、様式感など、よりふみこんだ学習を行う。

■教材・参考書

授業中に指示

■成績評価の方法

平常点及び実技試験

■履修上の指示事項

0

■備考（オフィスアワー）

古楽研究室

副科邦楽囃子（大鼓）（初級）A

代表教員：盧 慶順

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（副科実技）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

邦楽囃子の基本技術の習得

■授業計画及び内容

少人数のグループによる実技レッスン形式の授業

■教材・参考書

適宜配布する。

■成績評価の方法

出席を考慮しながら平常点重視の評価

■履修上の指示事項

原則としてグループレッスンにより授業を行う。

■備考（オフィスアワー）

0

副科邦楽囃子（大鼓）（初級） B

代表教員：盧 慶順

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（副科実技）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

邦楽囃子の基本技術の習得

■授業計画及び内容

少人数のグループによる実技レッスン形式の授業

■教材・参考書

適宜配布する。

■成績評価の方法

出席を考慮しながら平常点重視の評価

■履修上の指示事項

原則としてグループレッスンにより授業を行う。

■備考（オフィスアワー）

邦楽囃子の基本技術の習得

副科邦楽囃子（小鼓）（初級） A

代表教員：盧 慶順

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（副科実技）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

邦楽囃子の基本技術の習得

■授業計画及び内容

少人数のグループによる実技レッスン形式の授業

■教材・参考書

適宜配布する。

■成績評価の方法

出席を考慮しながら平常点重視の評価

■履修上の指示事項

原則としてグループレッスンにより授業を行う。

■備考（オフィスアワー）

0

副科邦楽囃子（小鼓）（初級） B

代表教員：盧 慶順
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（副科実技）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

邦楽囃子の基本技術の習得

■授業計画及び内容

少人数のグループによる実技レッスン形式の授業

■教材・参考書

適宜配布する。

■成績評価の方法

出席を考慮しながら平常点重視の評価

■履修上の指示事項

原則としてグループレッスンにより授業を行う。

■備考（オフィスアワー）

0

副科邦楽囃子（太鼓）（初級） A

代表教員：盧 慶順
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（副科実技）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

邦楽囃子の基本技術の習得

■授業計画及び内容

少人数のグループによる実技レッスン形式の授業

■教材・参考書

適宜配布する。

■成績評価の方法

出席を考慮しながら平常点重視の評価

■履修上の指示事項

原則としてグループレッスンにより授業を行う。

■備考（オフィスアワー）

0

副科邦楽囃子（太鼓）（初級） B

代表教員：盧 慶順
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（副科実技）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

邦楽囃子の基本技術の習得

■授業計画及び内容

少人数のグループによる実技レッスン形式の授業

■教材・参考書

適宜配布する。

■成績評価の方法

出席を考慮しながら平常点重視の評価

■履修上の指示事項

原則としてグループレッスンにより授業を行う。

■備考（オフィスアワー）

0

副科邦楽囃子（笛）（初級） A

代表教員：盧 慶順
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：専門科目（副科実技）
開設区分：音楽学部
交流区分：

■授業のテーマ

少人数のグループによる実技レッスン形式の授業

■授業計画及び内容

適宜配布する。

■教材・参考書

出席を考慮しながら平常点重視の評価

■成績評価の方法

原則としてグループレッスンにより授業を行う。

■履修上の指示事項

0

■備考（オフィスアワー）

邦楽囃子の基本技術の習得

副科邦楽囃子（笛）（初級）B

代表教員：盧 慶順

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：専門科目（副科実技）

開設区分：音楽学部

交流区分：

■授業のテーマ

少人数のグループによる実技レッスン形式の授業

■授業計画及び内容

適宜配布する。

■教材・参考書

出席を考慮しながら平常点重視の評価

■成績評価の方法

原則としてグループレッスンにより授業を行う。

■履修上の指示事項

0

■備考（オフィスアワー）

美術学部開設科目

I M A 概論 A (取手)

代表教員：長谷部 浩・八谷 和彦

曜日時限：水曜 1～2 限

学 期：前期

単 位 数：4

ジャンル：美術学部開設科目

開設区分：美術併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

先端芸術表現科常勤教員が、順次、それぞれの活動の紹介と共に、その背景となっている思想、考え方、方法論などについて講義する。

■授業計画及び内容

[長谷部 浩]

舞台芸術において、現在、直面しているさまざまな問題について考えます。

第一回：「リアリズムと様式について」

第二回：「演出権とはなにか 歌舞伎をめぐる諸問題」

第三回：「批評の果たすべき役割とはなにか」

[八谷和彦]

美術、デザイン、エンジニアリング、それぞれの違いと、それを横断するような活動について考えていきます。

[日比野 克彦]

自分自身の現在進行中の作品・アートプロジェクトを中心にその成り立ち、背景について語る。また過去に於いて行ってきた活動に関して、今との繋がりを含め、時代と共に移り変わってきたアートの社会における役割を検証していく。

[佐藤 時啓]

美術の制度から、制度を越えた表現への展開について、その歴史性と意味合いを考え我々の表現をさぐる。

第一回：自作を中心に、2次元と3次元の間を往来する表現とともに、現実の社会空間における芸術行為について、その可能性を考える。

第二回：美術館、画廊から野外空間、パブリックスペースへのアートの展開、そして写真のありようとの交差点について。

第三回：写真を中心とした今日の表現について。

■教材・参考書

教員により、授業中、適宜指示する。

■成績評価の方法

出欠席を重視する。単位認定にあたっては、授業日数の2/3以上を必要とする。

■履修上の指示事項

先端芸術表現科必修科目。他科、大学院生の履修、飛び入り受講も歓迎する。

■備考（オフィスアワー）

授業終了後、直接教員と連絡をとること。

I M A 概論 B (取手)

代表教員：伊藤 俊治・たほ りつこ

曜日時限：木曜 1～2 限

学 期：前期

単 位 数：4

ジャンル：美術学部開設科目

開設区分：美術併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

先端芸術表現科常勤教員が、順次、それぞれの活動の紹介と共に、その背景となっている思想、考え方、方法論などについて講義する。

■授業計画及び内容

[古川 聖]

新しいメディアと音楽：

アートと科学技術との接点においてどのような表現、感性が開かれつつあるのか作品や実践例を見ていく。

現在の音楽のかたち：

今日我々は実に様々な音楽に接することができるが、それらの音楽を共時的、継時的に見ていった時に、創作者としての自分の立ち位置も見えてくるかもしれない。現在の音楽のありようと自分との関係、距離について話す。

[たほ りつこ]

地域における現代アートの始まりと展開の中から重要な概念を抽出しながら現代のアースワーク、環境芸術がもつ重要性和可能性を考察していく。

過去の作品や事例と共に作品の喚起力とリアリティ、現在の環境や状況における課題と芸術表現を具体的な実践の場を考える。

[伊藤 俊治]

アウトサイダーアートとプリミティブアートという

2つの視点から 20 世紀、21 世紀美術を再考する。

1. アウトサイダーアートの起源を求めて
2. プリミティブアートと民族学

■教材・参考書

教員により、授業中、適宜指示する。

■成績評価の方法

出欠席を重視する。単位認定にあたっては、授業日

数の 2 / 3 以上を必要とする。

■履修上の指示事項

先端芸術表現科必修科目。他科、大学院生の履修、飛び入り受講も歓迎する。

■備考 (オフィスアワー)

授業終了後、直接教員と連絡をとること。

I M A 概論 C (取手)

代表教員：鈴木 理策・小谷 元彦

曜日時限：木曜 1～2 限

学 期：後期

単 位 数：4

ジャンル：美術学部開設科目

開設区分：美術併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

先端芸術表現科常勤教員が、順次、それぞれの活動の紹介と共に、その背景となっている思想、考え方、方法論などについて講義する。

■授業計画及び内容

[鈴木 理策]

写真と映画、写真と絵画、それぞれの境界線を意識して見ていくことで、写真とは何なのか、その魅力を考えて行きます。

[小谷 元彦]

彫刻というメディアに立脚点をおき、活動してきた経緯について。

実制作の紹介とその背景。

「彫刻」メディアの遠心力・拡張と求心力・深部について。

■教材・参考書

教員により、授業中、適宜指示する。

■成績評価の方法

出欠席を重視する。単位認定にあたっては、授業日数の2/3以上を必要とする。

■履修上の指示事項

先端芸術表現科必修科目。他科、大学院生の履修、飛び入り受講も歓迎する。

■備考 (オフィスアワー)

授業終了後、直接教員と連絡をとること。

アートプロジェクト運営論

代表教員：伊藤 達矢

曜日時限：

学 期：集中講義

単 位 数：2

ジャンル：美術学部開設科目

開設区分：美術併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

東京都美術館と東京藝術大学でおこなわれている「アートコミュニティ形成事業」(とびらプロジェクト)を授業の題材として取り上げる。

地域やアーティストが主体となって行われるアートプロジェクトの運営方法やその目的などについて理解を深め、オルタナティブスペースにおける展覧会開催に必要な知識を身につける。

また、表現行為そのものが一つの活動体として社会に接点を持つことを試みた様々な事例を紹介し、考察することで、アートの社会的役割についても見識を深める。

少人数で対話を通してながら授業を進めて行きたいと考えています。具体的なプロジェクトの運営に携わっている学生については、活動の相談などにも乗ります。

■授業計画及び内容

アーティストが新しい表現の場と形を求めて地域社会を舞台に活動を展開している。

この授業ではこうしたアーティストの活動やその意味、またはそれを支える仕組みに焦点を当てる。

東京都美術館×東京芸術大学「とびらプロジェクト」との連携をはかり、美術館見学なども視野に入れる。

■教材・参考書

授業内で指示。

■成績評価の方法

出席点とレポートの総合評価でおこなう。

■履修上の指示事項

■備考 (オフィスアワー)

[メールアドレスは G-net シラバスに記載]

質問等については上記アドレスで受け付ける。

映像芸術論

代表教員：伊藤 俊治

曜日時限：

学 期：集中講義

単 位 数：2

ジャンル：美術学部開設科目

開設区分：美術併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

写真や映画からビデオやCGに至る人間の映像体験の意味を再検証する。過去2世紀あまり大きく変化してきた映像の歴史をたどりながら、「映像を見る」とはどのような営みなのかを自分の身体感覚を通じて問い直してゆく。映像の変容が新しい表現を生み出してゆくばかりではなく、映像の見方に本質的な変化を与え、世界の認識法や世界の感じ方に大きな変質をもたらしてきたことを実感させる。

■授業計画及び内容

こうした視覚メディアの考古学を試みながら映像表現や映像芸術の構造や形式について多面的な角度から考察し、映像という魔術の輪郭を浮かび上がらせる。

まず見ることを徹底的に意識化し、集中的に見続けることからこの講義は始まる。多様な映像の運動に身をまかせながら、それらの映像を見ている自分自身にも注意を向け、自己の意識が映像の流れの中でどのように変化してゆくのか、映像と自己の関係の変容を感じ取って欲しい。

さらに次の段階ではただ見るだけではなく、映像の作り手の思考にも手を伸ばして行って欲しい。映像を漠然と見るのではなく、なぜこんな表現をしたのか、どうしてこのようなカットなのか、この編集の流れや構成をとったのはどのような意図なのか、この色彩や言葉やキャラクターはどのような効果を持つのか、という具合にさまざまな設問を発し、映像の組織に深く入り込んでもらいたい。

そのことは必ず自分の表現や作品づくりと重なってゆくはずである。絵を描いたり、研究しようとする時、古今東西の優れた名作をたくさん見たり、模倣したりするように、映像芸術も名作をなるべく多くじっくり吟味して鑑賞することが重要である。ここでは厳選された映像作品を集中的に見ながら記憶や身体、無意識や感情と密接に結びついた未来の映像の見取り図を描き出したい。

■教材・参考書

伊藤俊治「ジオラマ論」ちくま学芸文庫 1350円

■成績評価の方法

出席・レポート

■履修上の指示事項

集団で集中して見るという共通体験を重視したいので時間は厳守すること。上映中は私語はもちろん厳禁。

■備考（オフィスアワー）

音表現論（取手）

代表教員：川崎 義博

曜日時限：木曜 2 限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：美術学部開設科目

開設区分：美術併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

音（環境音、音楽等あらゆる音が対象）を主体に、サウンドスケープ概念を軸にして、我々を取り巻く環境、社会、歴史、文化などを捉えて行くこと、そこから〈音〉で表親していく方法論を学び、音の表現の多様性を学んでいきます。

具体的には、我々にとって〈音〉とは何か？〈音〉を聴く行為とは？などから始め、そこから生まれてくる「表現」、「作品」に触れつつ、〈音〉をメインの素材として、どのように表現していくのか？を学びます。また、映像作品（ビデオインスタレーションや映画など）に置ける「音と映像の関係」を構造的に捉え、映像作品の実例などを見つつ、音の持つ可能性を探って行きます。さらに、絵画、写真、身体表現、文学作品、WEB上の作品など、他の表現領域に分け入り、〈音〉の存在、役割を探って行きます。音が〈在る〉こと、音が〈無い〉こととは？

■授業計画及び内容

前期授業計画 Input＝聞く、聴く、聴かぬ事
まず、サウンドスケープという概念を通じて〈音〉で物事をとらえていくことを学びます。実際にはワークショップ等を交えながら、「聴く事」を体験しつつ、音の物理的特性、我々の音に対する生理的特性にも触れ、我々が環境情報を「音」としてどう認知しているのか？聞きながらも何故認知していないのか？などを学んで行きます。そして、サウンドアートからのアプローチとして、「聴く事＝表現」という方法論の作品に触れ、作品として成り立っていく過程を検証し、新たな表現の領域へと進んで行きます。また、文学作品、絵画、写真などの他の表現領域において、〈音〉でどのような表現がなされえるのか？なども検証して行きます。

後期授業計画 Output＝聴く事から表現する事へ
様々なアプローチを持つサウンドアートの作品を探る中から、新たな音の表現方法を学びます。また、

新しいメディアにも積極的にアプローチし、WEB上の作品などにも触れ、その中の〈音の位置〉を確認して行きます。そして何よりも、映像作品に置ける〈音の役割〉、〈音と映像の関係〉を構造的に捉え、実際の作品（映画、ビデオ作品）を見つつ、その関係性、表現方法の変遷を検証します。

前期後期通じて

- ・音とは？
- ・サウンドスケープ
- ・聞く事、聴く事、聴かぬ事
- ・聴く＝表現
- ・サウンドアートとは、その方法論
- ・映像と音の関係
- ・サウンドデザイン
- ・変わりゆくメディアより

以上の事項に関連持たせつつ、進めて行きます。

基本的には講義形式ですが、時に理解を深めるためワークショップ等も行いつつ進めていきます。

定まった教科書は使用しませんので、折に触れコピー等を使用します。また実例としての、「音」「映像」の作品を多用して行きます。

■教材・参考書

特定の教科書は使いません。参考文献等は開講時等、随時指示します。また必要資料はコピーで配布します。

■成績評価の方法

出席・課題提出

■履修上の指示事項

通年出席できる人。自らの作品の中で音を思考していける人。

■備考（オフィスアワー）

絵画創作概論

■備考（オフィスアワー）

授業中に指示

代表教員：油画教員

曜日時限：水曜5限

学 期：前期

単 位 数：2

ジャンル：美術学部開設科目

開設区分：美術併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

油画の創作の基礎となる「絵画」「表現」についての授業を、油画教員の実際の制作に即して各教員の考えや作品を紹介しながら、開講科目のなかで毎年続けて実施する。油画の創作における、表現の展開、実験的な例、ドローイングから制作までのプロセス等、思考や活動の変遷を示し、創作の基礎（ベース）となる考え方を述べる。油画の学生だけでなく、広く他科の学生も受講できる。

■授業計画及び内容

- 1) 東谷武美 黒の系譜・ポップアートと現代版画 (4/16・4/23)
- 2) 坂口寛敏 ドローイングから空間へ拡張する表現一場のパワー?特性に接続してー (4/30・5/7)
- 3) 秋本貴透 絵画について I II (5/14・5/21)
- 4) 齋藤芽生 第一回目「色の旅」 第二回目「歌の旅」 (5/28・6/4)
- 5) 工藤晴也 1日目 壁画の歴史と絵画について 2日目 壁画の思考 (6/11・6/18)
- 6) 坂田哲也 平らな奥行き - 具象絵画の事物と発想 その色彩と変容 I II (6/25・7/2)
- 7) 保科豊巳 第1回、インスタレーションとは何か、第2回「場」に関わる作品制作について (7/9・7/16)

■教材・参考書

授業中に指示

■成績評価の方法

出席・レポート提出 油画教員室へ8月末に提出

■履修上の指示事項

授業中に指示

絵画創作概論

代表教員：油画教員

曜日時限：水曜5限

学 期：前期

単 位 数：2

ジャンル：美術学部開設科目

開設区分：美術併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

油画の創作の基礎となる「絵画」「表現」についての授業を、油画教員の実際の制作に即して各教員の考えや作品を紹介しながら、開講科目のなかで毎年続けて実施する。油画の創作における、表現の展開、実験的な例、ドローイングから制作までのプロセス等、思考や活動の変遷を示し、創作の基礎（ベース）となる考え方を述べる。油画の学生だけでなく、広く他科の学生も受講できる。

■授業計画及び内容

- 1) 東谷武美 黒の系譜・ポップアートと現代版画 (4/16・4/23)
- 2) 坂口寛敏 ドローイングから空間へ拡張する表現一場のパワー?特性に接続してー (4/30・5/7)
- 3) 秋本貴透 絵画について I II (5/14・5/21)
- 4) 齋藤芽生 第一回目「色の旅」 第二回目「歌の旅」 (5/28・6/4)
- 5) 工藤晴也 1日目 壁画の歴史と絵画について 2日目 壁画の思考 (6/11・6/18)
- 6) 坂田哲也 平らな奥行き - 具象絵画の事物と発想 その色彩と変容 I II (6/25・7/2)
- 7) 保科豊巳 第1回、インスタレーションとは何か、第2回「場」に関わる作品制作について (7/9・7/16)

■教材・参考書

授業中に指示

■成績評価の方法

出席・レポート提出 油画教員室へ8月末に提出

■履修上の指示事項

授業中に指示

■備考（オフィスアワー）

大学での学習に必要な基本的スキルや自校史、並びに今後のキャリア形成を考えるための自己理解等について。

主なトピックは、授業マナー、芸大史、健康管理、資料の検索、レポート・発表について、キャリアを考える、ロールモデル講演等。

現代芸術概論（取手）

代表教員：小沢 剛
曜日時限：火曜2限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：美術学部開設科目
開設区分：美術併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

現代芸術は流動的でその中の領域それぞれの輪郭も柔らかい。そして次々と新しい作品や新しい考え方が生まれ続け変化は止まらない。芸術と観客の関係、見せる場所や流通のありようまでも常に更新されてゆく。それらを紹介しつつ、芸術の精神、根源を探ってゆきたい。

■授業計画及び内容

【前期】ほぼ毎回、様々なジャンルで活躍するゲストを迎え、それぞれジャンルの門を開けてゆく。

【後期】自主研究、発表、編集。

このほか通年、指定する展覧会、講演会、舞台に行き、レポートを提出する。

■教材・参考書

授業中に適宜指示

■成績評価の方法

出席率。自主研究、レポートの評価。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

現代写真論

代表教員：飯沢 耕太郎
曜日時限：木曜4限
学 期：後期
単 位 数：2
ジャンル：美術学部開設科目
開設区分：美術併設
交流区分：交流

■授業のテーマ

私は現役の写真評論家なので、日本の写真表現の「現場」にかかわるトピックスを、なるべく新鮮にパッケージしてお伝えしたい。もし、写真を使った作品（ポートフォリオ）を作っている方がおられたら、講評の時間も設けたいと思う。（飯沢耕太郎）

デュッセルドルフ芸術アカデミーKunstakademie Dusseldorf のアーティストを中心に、いわゆる“アーティスト・フォトグラファーArtist Photographer”[写真を主要メディアとして用いるアーティスト]の作品構造・その歴史的意義について批評的に考察することを中心に、写真をピクチャー改革メディアとしてとらえるアーティスト（一部思想家）を考察します。（山本和弘）

■授業計画及び内容

飯沢耕太郎 写真評論家/きのこ文学研究家第1回
10/2 ポートフォリオを作る
第2回 10/9 写真集を読む
第3回 10/16 写真展を歩く
第4回 10/23 写真をコレクションする
第5回 10/30 震災後の写真について
第7回 11/13 日本の現代写真
第8回 11/27 ポートフォリオ講評

山本和弘 美術評論家/栃木県立美術館シニア・キュレーター

第6回 11/6 アタナシウス・キルヒャーAthanasius Kircher(1601-1680)
第9回 12/4 山中信夫 Nobuo Yamanaka(1948-1982)
第10回 12/11 デイヴィッド・ホックニーDavid Hockney(1937-)
第11回 12/18 ゲルハルト・リヒターGerhard Richter(1932-)
第12回 12/25 ジグマール・ポルケ Sigmar Polke(1941-2010)

第 13 回 1/8 アンドレアス・グルスキー Andreas Gursky(1955-)

第 14 回 1/15 トーマス・ルフ Thomas Ruff(1958-)

第 15 回 1/22 オラファー・エリアソン Olafur Eliasson(1967-)

■教材・参考書

- 『写真を愉しむ』飯沢耕太郎（岩波新書，2007）
『写真美術館へようこそ』飯沢耕太郎（講談社現代新書，1996）
『深読み！ 日本写真の超名作100』（パイインターナショナル，2012）
『複製技術時代の芸術作品』ヴァルター・ベンヤミン（晶文社，1999）
『明るい部屋』ロラン・バルト（みすず書房，新装版，1997）
『写真論』スーザン・ソントグ（晶文社，1979）

■成績評価の方法

出席点、平常点、レポート。

■履修上の指示事項

授業内容等変更の可能性あり。詳細授業初回時に指示。

■備考（オフィスアワー）

E-mail：[メールアドレスはG-net シラバスに記載]
URL：<http://www.geidai.ac.jp/pc/>

色彩学

代表教員：日比野 克彦

曜日時限：

学 期：集中講義

単 位 数：2

ジャンル：美術学部開設科目

開設区分：美術併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

色彩には、さまざまな側面がある。科学的側面、心理的側面、絵画材料的側面、色彩光学の側面、また工学的側面などがある。特に近年は、色彩の再現技術がデジタルの技術によって進化したために、従来型の絵の具を中心とした色彩の扱いとは異なった問題が出てきているこれらの問題点についても検討を加えていく。

■授業計画及び内容

各分野で研究実践を進めるアーティスト、研究者を講師として招き、色彩学を多角的に捉える。

■教材・参考書

授業中に適宜指示する。

■成績評価の方法

出席、提出物等で総合的に判断を行う

■履修上の指示事項

予定：トータルカラー、スケッチブック、のり、はさみ等

- * 詳細は、集中講義履修登録時に確認のこと。
- * 詳細は、教務掲示板を確認のこと。
- * 授業内容によって教材費を徴収することがあります。

■備考（オフィスアワー）

写真映像論

代表教員：伊藤 俊治

曜日時限：火曜 4 限

学 期：前期

単 位 数：2

ジャンル：美術学部開設科目

開設区分：美術併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

170 年にも渡る歴史的遺産を再構築し続ける写真表現は、現代美術や映像映画といった他ジャンルと関係しつつ、テクノロジーの変容と共振しながら、大きな広がりを見せています。この写真映像論では、そうした 21 世紀の写真状況を、記録、複製、歴史、境界、記憶、無意識、知覚といった様々な視点から読みときながら、“写真の現在性”とは何かを考えてゆきます。

■授業計画及び内容

伊藤俊治先生

第 1 回 写真以前への新たな眼差し-絵画、カメラオブスキュラ、パノラマ、ジオラマ-

第 2 回 FILM UND FOTO-映画と写真のアルケオロジ-

第 3 回 映像の歴史哲学-写真/映像へのアプローチ-(今福、多木、伊藤)

第 4 回 イメージの通路-絵画/写真/映画、そしてデジタル統合-

北澤ひろみ先生

第 5 回 未定

第 6 回 未定

第 7 回 未定

鈴木理策先生

第 8 回 写真のリテラシーとその実践：ゲストを招き、講評会形式で進める。見る側の任意性が強いメディアである写真を、表現としていかに成立させてゆくか、実践的に考えてゆく

第 9 回 現代写真家研究：明解な視座を持ち 活躍する写真家を招き、映像表現が多層化する現代において「写真」という作業を進めることの可能性を探る

土屋誠一先生

第 10 回 現代美術と写真 (1)：ポストミニマリズム

ム (ロバート・スミッソンなど) 以降における、現代美術の写真使用について

第 11 回 現代美術と写真 (2)：ゲルハルト・リヒターとジェフ・ウォールを例として

第 12 回 美術史と写真：美術作品の分析ツールとしての写真使用と美術史の言説形成について

小原真史先生

第 13 回 写真と共同体：ダムに沈んだ村を撮影した増山たづ子とナチスによって消滅の危機にあったユダヤ人共同体を撮影したローマン・ヴィシュニアクの写真について紹介します。

第 14 回 写真の政治学：欧米と日本の博覧会で行われていた「ヒトの展示」についてや戦前と戦後の天皇の肖像写真について紹介します。

第 15 回 写真と死：日本における典型的な遺影の在り方や亡き妻の写真を発表し続けている古屋誠一の写真、無名の職人たちによって制作されてきたヴァナキュラー写真、ポール・ポト派のカメラマンが撮影した囚人たちの写真などを紹介します。

■教材・参考書

特になし。必要な際は、都度指示をする。

■成績評価の方法

出席点、平常点、レポート。

■履修上の指示事項

授業内容等変更の可能性あり。詳細授業初回時に指示。

■備考 (オフィスアワー)

E-mail：[メールアドレスは G-net シラバスに記載]

URL：<http://www.geidai.ac.jp/pc/>

写真史

代表教員：倉石 信乃

曜日時限：火曜 5 限

学 期：前期

単 位 数：2

ジャンル：美術学部開設科目

開設区分：美術併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

前半（第1回～第7回）の授業では、ヨーロッパで1839年に「発明」された写真が、様々な方面にもたらしたインパクトを、具体的な事例を通して検証する。今日の私たちは、自分や他人が誰であるのかを証明するのに写真を求め、ニュースの真偽を写真で判断し、旅先などで見たものを撮影することで、写真に記憶を肩代わりさせる。写真の「発明」は、単なる一つの技術の発明という枠組みを超えて、私たちの生活に深く根を張っており、写真のなかった世界は、もはや想像することも困難なほどだ。写真に対する私たちの信頼はかくも大きく、それだけに写真に裏切られたときの絶望もまた深刻である。現代の私たちは、「写真的信仰」の敬虔な信徒であると言っても過言ではないだろう。こうした「信仰」を客観的に見つめなおし、その過去・現在そして未来——写真の滅亡？——を想像して見るのが、この授業の最終的な目標となる。（橋本一径）

後半（第8回～15回）の授業では、「日本写真史」の再考を試みる。近代日本において、一般の人々が「内国」と「外国」の地理的な境界や分離をはっきりと知ようになるのは、おおむね日清戦争（1894-95）の時代と見られる。その頃より、中央から離れた「地方」や他の東アジア諸国に対する「国民」的な差別感情もいっそう根付いていった。こうした「日本」の地政学的な観念の形成に、写真というメディアが深く関与した事績を踏まえつつ、当の地政学に対する批判の可能性を、いくつかの作例・資料例から探りたい。（倉石信乃）

■授業計画及び内容

橋本一径 早稲田大学文学学術院准教授

第1回 イン트로ダクション：写真—芸術と記録の間で

第2回 写真と指紋—顔、アイデンティティ、複製

第3回 写真と著作権—写真の「私」は誰の「もの」

か？

第4回 定点観測写真—すでにないものの痕跡

第5回 心霊写真—アウラ、プンクトウム、ノスタルジー

第6回 写真と科学—稲妻はジグザグか

第7回 写真と修整—写真的信仰を超えて

倉石信乃 明治大学大学院理工学研究科教授

第8回 植民—北海道、中国、朝鮮

第9回 反復—沖縄戦、以前と以後

第10回 災厄—関東大震災、東日本大震災

第11回 現実—土門拳、木村伊兵衛

第12回 占領—東松照明、伊志嶺隆

第13回 観光—中平卓馬 1

第14回 国境—中平卓馬 2

第15回 まとめ

■教材・参考書

教科書は使用しない。参考書は授業内に指示する。

■成績評価の方法

平常点（出席点を含む）20%、中間レポート40%、期末試験40%を内訳として、合計して60%以上の評点を得た者を合格とする。

■履修上の指示事項

遅刻は2回で欠席1回に数える。授業内容等変更の可能性あり。詳細授業初回時に指示。

■備考（オフィスアワー）

E-mail：[メールアドレスはG-net シラバスに記載]

URL：<http://www.geidai.ac.jp/pc/>

写真表現演習Ⅱ

代表教員：佐藤 時啓

曜日時限：月曜3～4限

学 期：前期

単 位 数：4

ジャンル：美術学部開設科目

開設区分：美術併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

写真の基礎的な銀塩写真過程経験者を対象に、カメラの構造やその扱い方を詳しく学び、写真における実践的な制作とその表現の可能性を探る。大判カメラのあおりの使用を中心に、4×5 inch サイズのフィルムを使用して、屋外撮影やスタジオワークなどの実習を行い、表現者としての強度を身に付ける。各自がテーマを持ち、それに向けてどのように取り組むべきかを主体的に考える積極性が求められる。

■授業計画及び内容

実習と平行して各自が課題制作に取り組み、中期講評会（プレゼンテーション形式）と学期末講評会（展示形式）を行う。

【日程】

- ・ガイダンス（4月）
- ・カメラのメカニズム--大判カメラのアオリ（1）
- ・カメラのメカニズム--大判カメラのアオリ（2）
- ・シートフィルム現像--皿現象と自動現像機（JOB0）
- ・撮影、シートフィルム現像
- ・白黒プリント（バライタ紙）
- ・撮影、フィルム現像、プリント
- ・中期講評会（プレゼンテーション形式）
- ・スタジオワーク--ライティング、接写撮影など
- ・撮影（スタジオ、屋外）フィルム現像プリント
- ・白黒大伸ばしプリント--壁面投影による
- ・中期講評会（プレゼンテーション形式）
- ・ゲスト講習会
- ・大型プリンター講習/マウントについて
- ・学期末講評会（展示形式）

■教材・参考書

■成績評価の方法

出席と作品による総合評価。

■履修上の指示事項

教材費として初回に 7500 円（予定）が必要です。4月にガイダンスを設け、そこで受講者を決定する。よって、ガイダンス出席は必須。また、履修条件として「写真表現演習Ⅰ」または、各科の写真授業の単位取得者、あるいは写真センター講習会の「白黒フィルム現像」と「白黒プリント」を受講した者に限る。前期、後期ともに10名を限度とする。スケジュールは変更の可能性あり。その都度、指示する。

■備考（オフィスアワー）

E-mail：[メールアドレスはG-net シラバスに記載]

URL：http://www.geidai.ac.jp/pc/

写真表現演習Ⅱ

代表教員：佐藤 時啓

曜日時限：月曜3～4限

学 期：後期

単 位 数：4

ジャンル：美術学部開設科目

開設区分：美術併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

写真の基礎的な銀塩写真過程経験者を対象に、カメラの構造やその扱い方を詳しく学び、写真における実践的な制作とその表現の可能性を探る。大判カメラのあおりの使用を中心に、4×5 inch サイズのフィルムを使用して、屋外撮影やスタジオワークなどの実習を行い、表現者としての強度を身に付ける。各自がテーマを持ち、それに向けてどのように取り組むべきかを主体的に考える積極性が求められる。

■授業計画及び内容

実習と平行して各自が課題制作に取り組み、中期講評会（プレゼンテーション形式）と学期末講評会（展示形式）を行う。

【日程】

- ・ガイダンス（4月）
- ・カメラのメカニズム--大判カメラのアオリ（1）
- ・カメラのメカニズム--大判カメラのアオリ（2）
- ・シートフィルム現像--皿現象と自動現像機（JOB0）
- ・撮影、シートフィルム現像
- ・白黒プリント（バライタ紙）
- ・撮影、フィルム現像、プリント
- ・中期講評会（プレゼンテーション形式）
- ・スタジオワーク--ライティング、接写撮影など
- ・撮影（スタジオ、屋外）フィルム現像プリント
- ・白黒大伸ばしプリント--壁面投影による
- ・中期講評会（プレゼンテーション形式）
- ・ゲスト講習会
- ・大型プリンター講習/マウントについて
- ・学期末講評会（展示形式）

■教材・参考書

■成績評価の方法

出席と作品による総合評価

■履修上の指示事項

教材費として初回に 7500 円（予定）が必要です。4月にガイダンスを設け、そこで受講者を決定する。よって、ガイダンス出席は必須。また、履修条件として「写真表現演習Ⅰ」または、各科の写真授業の単位取得者、あるいは写真センター講習会の「白黒フィルム現像」と「白黒プリント」を受講した者に限る。前期、後期ともに10名を限度とする。スケジュールは変更の可能性あり。その都度、指示する。

■備考（オフィスアワー）

E-mail：[メールアドレスはG-net シラバスに記載]

URL：http://www.geidai.ac.jp/pc/

身体言語論（取手）

代表教員：長谷部 浩

曜日時限：月曜 2限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：美術学部開設科目

開設区分：美術併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

身体芸術を深く理解するためには、コードを読み解く技法が必要です。

ピナ・バウシュや坂東玉三郎の舞踊、蜷川幸雄、野田秀樹の演出の舞台について、映像資料を参照しながらその作品がいかに世界に向かって開かれているかを考えつつ、パフォーマンスの基礎的な理論を学びます。また、講義のみならず、実際にパフォーマンスの制作を平行して行い、個人制作ではなく、集団によって作品を創造する喜びを体験してもらいます。

また、後期は、前期に続いてパフォーマンスの制作を続行するとともに、クリエイティブな文章の成り立ちについて、基礎から指導を行います。作文でもない、論文でもない。読み手を意識した文章を書くための技芸を鍛えていきます。

取手に在籍する多くの科、及び大学院からの「参加」を期待しています。

■授業計画及び内容

第一回 ピナ・バウシュ 1 ダンスとは何か？

第二回 ピナ・バウシュ 2 ダンスと演劇のあいだ

第三回 野田秀樹「パンドラの鐘」を分析する 1 天皇と政治責任

第四回 野田秀樹「パンドラの鐘」を分析する 2 日本人の精神性

第五回 野田秀樹「パンドラの鐘」を分析する 3 アメリカと日本の関係

第六回 蜷川幸雄演出『マクベス』1 舞台における権力の描かれ方

第七回 蜷川幸雄演出『マクベス』2 時間と空間をまたぎこすための技法

第八回 蜷川幸雄演出『マクベス』3 スペクタクルな演出とはなにか。

第九回 坂東玉三郎『京鹿子娘道成寺』を分析する 1 女形と性の横断

第十回 坂東玉三郎『京鹿子娘道成寺』を分析する

2 伝説と神話

第十一回 坂東玉三郎『京鹿子娘道成寺』を分析する 3 イメージの描出とは何か。

第十二回 （以降は授業開始時に発表する）

■教材・参考書

教科書 長谷部 浩 『傷ついた性 デヴィッド・ルヴォー演出の技法』（紀伊國屋書店）、『演出術』（ちくま文庫）、『野田秀樹論』（河出書房新社）、『坂東三津五郎 踊りの愉しみ』（岩波書店）。

■成績評価の方法

作品評価（50%）、出席（50%）

■履修上の指示事項

身体と言語、表現の根底にあるふたつの大切な概念を、理論と実践の両輪で学んでいく意欲的な学生を求めます。

■備考（オフィスアワー）

月曜日の午後。事前にコンタクトを取ってください。

図学Ⅱ（取手）

代表教員：たほ りつこ

曜日時限：

学 期：集中講義

単 位 数：4

ジャンル：美術学部開設科目

開設区分：美術併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

図は美術のみならず視覚言語の重要な位置を占めている。図は描かれたものの形・位置・関係を人に伝えるとともに、解釈を通じて内容や意味を伝える。現代においては科学や技術による多様な図の表現が展開されている。人間の視覚・知覚の科学的分析、認知のメカニズムと心理、視覚情報と図法、多様な図法など、現代科学技術の変化とともにひろがる図の在り方を紹介する。また、現在の領域横断研究から、さまざまな時代の芸術にみられる美と図について触れると共に、同じ図が条件や時間、環境変化とよって異なる知覚と心理的効果をもたらす芸術表現となるかを学ぶ。演習課題として、基本的な幾何学及び図法と製図、2次元と3次元の演習をおこなう。

■授業計画及び内容

第一日 講義1：視覚と知覚、生態学的視覚 演習課題

第二日 講義2：幾何学図形（平面）錯視 演習課題

第三日 講義3：幾何学図形（立体）不可能な図形 演習課題

第四日 講義4：投影図、遠近法、透視図法 演習課題

第五日 講義5：多次元の変化を把える図法 パラドックス 演習課題

第六日 講義6：図と多様な芸術表現Ⅰ 演習問題

第七日 講義7：図と多様な芸術表現Ⅱ 演習問題

■教材・参考書

脳は絵をどのように理解するか（ロバートソルソ 新潮社）、図形科学（朝倉書店・宮崎・小高著）美を脳から考える（共著 新曜社）美の図学（日本図学会編）、エッシャーの宇宙（ブルーノエルンスト朝日新聞社出版局）

■成績評価の方法

授業での課題提出物によって評価します。

■履修上の指示事項

- ・筆記用具、製図道具（定規、三角定規、コンパス、シャープペンシル、消しゴム等）持参のこと。
- ・受講参加者でメールアドレスがある人は登録すること。
- ・事前に説明会を開きますので必ず参加すること。
- ・材料費を徴収します。
- ・課題はすべて授業日に終了し、自宅作業はありません。

■備考（オフィスアワー）

授業終了後、コンタクトを取ってください。

複合表現演習 I

代表教員：八谷 和彦

曜日時限：

学 期：集中講義

単 位 数：2

ジャンル：美術学部開設科目

開設区分：美術併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

各自が東京の家を出た時から、この授業がスタートしている。

独自のルートを辿って秋田県の森吉山麓の小さな町、阿仁合（あにあい）に集合する。

1日目は「里」。独自の言葉遊びを仕掛けて、歴史探訪とは違った方法で、町の知られざる場所を探索し人と出会い、人間社会の里をフィールドワークする。

2日目は「山」。森吉山へトレッキングし森吉避難小屋でアートワーク見学と一泊。天候によっては夜のフィールドワークも行う。

3日目は下山し、里のロッジで講師と学生の1対1の作品なんでも相談会と、最後に阿仁合の人々の手料理を囲んで報告&交流会をする。東北を移動し山小屋に宿泊することによって、昼や夜のこと、見えること見えないことを考え、肉体で地形をデッサンし、人と会って物語り、構想力を鍛え、体内の奥よりから起こってくる何ものかに耳を傾け、誠実に作品として表現できる力を遊びで鍛えてゆく。

■授業計画及び内容

講師：鴻池朋子（アーティスト）

開催期間：9月中旬以降で5日間の演習を予定。現地集合、現地解散。（※詳細は6月上旬に決定）

開催場所：秋田県北秋田市阿仁合町と森吉山（※詳細は集中講義受講者に対して6月下旬頃説明会を行う。）

■教材・参考書

山小屋で一泊するので秋山登山装備および寝袋を準備すること。

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

学部二年生以上であれば、全学部・全学科受講可能。ただし人数制限による抽選の可能性、実習費の徴収

の可能性がある。

複合表現演習 I、IIIと合わせて履修することを勧める。

■備考（オフィスアワー）

複合表現演習Ⅱ

代表教員：八谷 和彦

曜日時限：

学 期：集中講義

単 位 数：2

ジャンル：美術学部開設科目

開設区分：美術併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

能は、能舞台という空間が、能装束というコスチュームが、面という顔が、謡や囃子などの音楽が、そしてその戯曲が、その中に居る能役者をがんじがらめにするのですが、さてそこからどう自由になっていくのでしょうか？

■授業計画及び内容

講師：清水寛二（観世流シテ方、鏡仙会理事、能楽協会会員、日本能楽会会員、重要無形文化財総合指定、沖縄県立芸術大学非常勤講師）

この講義では、能について包括的に学ぶ。能の基本的事項に続き、古典と新作についての解説などへ広げる。また、謡の実習および本物の装束着けの見学も行う。最終日には学生ひとりひとりが実際に面を着けて摺り足で動き、どのように身体と声が使われるのかを体感する。

この講義はパフォーマンスを志す学生はもちろん、絵画、音楽、写真、彫刻、デザイン、インスタレーション、などなどあらゆる方向性を持った学生にも広く開かれている。パフォーマンスや身体表現の経験は不要であり、ただ好奇心と意欲を持って参加して頂きたい。

■教材・参考書

■成績評価の方法

出席と課題による総合評価。

■履修上の指示事項

開講予定日と場所は集中講義履修登録時に確認する事。

適切な木の床が必要なため、期間中の場所変更がある。

実習費を徴収する。

「複合表現演習Ⅰ、Ⅲ」と合わせて履修することを勧める。

■備考（オフィスアワー）

複合表現演習Ⅲ（取手）

代表教員：八谷 和彦

曜日時限：

学 期：集中講義

単 位 数：2

ジャンル：美術学部開設科目

開設区分：美術併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

「耳と心の森に入る—音楽表現とその領域」
西洋クラシック音楽の呪縛を解き、種々の社会、生活、労働、遊び、美意識を背景に生まれた民俗、民衆の音楽を題材に、音楽表現のコアを探る。100点余りの音源と映像により、社会環境の変容、美意識の変遷による表現の変貌と、交差する表現領域との確執を検証、音楽表現の領域について分析、考察し、音楽を軸とする複層的な表現演習を体感する。

■授業計画及び内容

講師：野口実（音楽家、開成高校講師）

※開講予定日と場所は集中講義履修登録時に確認する事。

I…変貌する音楽表現

- 1) . エスニック・ミュージックの位相と表情
- 2) . クラシック音楽の系譜と表現
- 3) . 北米黒人音楽の発生とロック・ミュージック

の潮流

II…音楽表現の技法

- 1) . 時間感覚への介入
- 2) . 構造と形成プロセスの認知
- 3) . 情動・知覚のモデリング
- 4) . 記号と概念提示

III…複層メディアの諸様態

IV…創作演習に向けて（最終日に短いパフォーマンス／プレゼンテーションを予定）

■教材・参考書

■成績評価の方法

出席と課題による総合評価。

■履修上の指示事項

「複合表現演習Ⅰ、Ⅱ」と合わせて履修することを勧める。

■備考（オフィスアワー）

メディア概論（取手）

代表教員：樽沼 範久

曜日時限：金曜 2限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：美術学部開設科目

開設区分：美術併設

交流区分：交流

■授業のテーマ

「あらゆるメディアは私たちに完全に打ちのめす」（マーシャル・マクルーハン『メディアはマッサージである』1967年）。しかしながら、いわゆる「メディア」も「メディア論」も飽和状態にあるのかもしれない。もちろん、「メディア」や「メディア論」は更新され続け、「メディア」に関する社会的出来事は生まれていくでしょうが、もはや私たちに心の底から興奮させたり、何か重要な予兆を伝えたりする響きを持っていくのかは、まだ見えません。では現在、「メディア概論」の意味はどこにあるのでしょうか。「樽沼概論」と呼ばれることもある「メディア概論」。しかし自分の知っていることよりむしろ、自分が知りたいことにむけて話をしたいと思っています。また、この授業の場所・時間自体を受講者たちの制作・行為へのメディア（媒介・触媒）に変容させたいという欲望も、毎年変わりません。私たちの心を心の底から、私たちの体を体の底から動かすもの、という意味でのメディア（媒介・触媒）。それが「メディア概論」の、ひとつの大きな主題だと考えています。また、「媒質」「生存環境」の意味での「メディア」は、いかなる現代の変容のもとであれ、われわれ人類を含む生きものにとって不可欠であることに変わりはなく、その歴史的「条件・状況」を思考することは、生と世界への関係を生き直すことにつながるのではないのでしょうか。

■授業計画及び内容

いろいろな困難が待ち構えているでしょうが、それでもなお、「様々な分野」の作品・言葉・事象を媒介に、「常に世界へと向う新たな視点」（取手 ART PATH 2012 ゲスト討論会[畠山直哉×樽沼範久]案内より）を受講者の皆さんとともに探求したいと願っています。私たち自身がこの世界に生きものとして存在するという基礎から出発して、芸術を表現をメディアを考えていくのが基本姿勢です。一昨年度／昨年度は（年度による違いはあれど）概ね、次のような授

業を展開していきました（ひとつの主題が複数回にわたるときがあります）。「サンバとは何か」「メディアの定義～アルヴィン・ルシエの音実験を聴く」「人工－自然、複製について：自然史、ダーウインの視座から」「塵埃について（1）（2）」（ルクレティウス、デュシャン、バタイユ、ギブソン、寺田寅彦、中谷宇吉郎、パイク、ラウシェンバーグ、野坂昭如、もも いろくローバーZなどを素材に）「ひとはいかにして作曲家になるか」「ひとはいかにして写真家になるか」「地球物理学者・寺田寅彦のサウンドトラック」「現代芸術は何と闘ってきたのか／何を求めてきたのか」、「ダンス（1）（2）：行為論からフォーサイス、ポロックへ」「ダンス（3）：インプロヴィゼーションについて」「ダンス（4）（5）：土方巽」、「日記を考える：第五回恵比寿映像祭に向けて」（カント、内田百閒、ソントグ、メカス、バルト、河原温などを媒介に）「表現のくふるさと」について一坂口安吾の視座から「表現と不能性」（イサム・ノグチ、ドゥルーズ、リルケなどを媒介に）「表現と社会（1）：民主主義をめぐる」（チョムスキー、フーコー、ピンク・フロイドの言葉、そして衆議院議員総選挙を媒介に）「表現と社会（2）：Dumb Type『pH』、土本典昭『原発切抜帖』を観る」「放射性物質と人間の尺度の乖離について」「芸術における否定性：アルヴォ・ペルトとジョン・ケージの場合」「ルイス・カーンの建築」「高嶺格のクールジャパン」（本人を招いての特別授業[昨年度のゲストは集団「悪魔のしるし」の危口統之さん]）。一昨年度・昨年度と同じ内容の反復もあるでしょうが、今年度は「メディア概論」の進めかたを見直し、「教科書」を指定することで、ある程度の安定したフレームを履修者が自分で得られるようにしたいと考えています。前期は「インスタレーション・アート」「環境美学」「空間構築」をめぐる諸問題を主軸に展開していく予定です。

■教材・参考書

指定教科書（各自で事前に入手のこと）

1) Claire Bishop, Installation Art: A Critical History (London: Tate Publishing, 2005)

2) ハル・フォスター編『視覚論』（樽沼範久訳、平凡社ライブラリー、2007）

後期に追加の可能性もあります。その他、参考になる文献・視聴覚資料は、授業のなかで言及していきます。

■成績評価の方法

出席（40%）、学期末レポート（40%）を予定。授業

後に提出する紙も参考にします（20%）。なお、学期末レポートは「言葉採集（語録作成）」を構想中です。「メディア概論」の授業を踏まえつつ、先人たちが「個々」の生のために「個」として表現してきた言葉を、自分の視座から採集し（分野は問いません）、採集者自身の言葉や編集も加味しながら、ひとつの方向性（意味）を備えた「語録」を制作する。表現媒体は文字のみならず映像・音声なども可能です。この作業は、過去の言葉のなかに未来の幻像を見つめることであり、過去の言葉や

■履修上の指示事項

意味を頭で理解するだけでなく、授業に対して感覚・情動のレベルで反応したり、授業を契機に制作に新たに向かったりすることも理解のひとつだと考えています。各自の制作・探求における問いを持ちこんでほしいと思います。願うことならば、この講義を各自の制作・探求のための触媒にしてみたい。「探究者の社会では、人間は考えている。探究者としての人間(…)は無数の問題が出来する可能性の海に投げられるのだ」(マイケル・ポラニー『暗黙知の次元』1966年)。また、簡単に理解してしまうのは止めようと思います。「大体、私たち

■備考（オフィスアワー）

オフィスは横浜国立大学にあるため、質問などは当日に。

大学院開設科目（作曲）

原書講読Ⅰ

代表教員：恩地 元子

曜日時限：金曜 4 限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（作曲）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

1950 年以降の現代音楽理論を英語で理解する。

■授業計画及び内容

言語はコミュニケーション・ツールであると同時に、その国の思想も表すものである。この授業の目的は、基礎資料を通して 1950 年以降の現代音楽理論を理解することにあり、そのために必要な英語の専門用語に慣れることにあるが、それと同時に日本語では表現し得ない、作曲思想の理論的明晰さ、構築性を感じ得ることも目指したい。

■教材・参考書

Die Reihe : a periodical devoted to developments in contemporary music, など。

受講生の顔ぶれによって、補助教材を考える。

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

作品演奏会

代表教員：小鍛冶 邦隆

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：6

ジャンル：大学院開設科目（作曲）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

1 年次作品を 2 年次前期に、学内の作品演奏会で演奏審査を行う。

■教材・参考書

■成績評価の方法

演奏審査。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

担当教員に問い合わせのこと。

作曲実技演習 I

代表教員：小鍛冶 邦隆
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：8
ジャンル：大学院開設科目（作曲）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

平成 25 年度入学生より、1 年次作品は 2 年次前期に
学内での演奏審査（作品演奏会）を行う。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

担当教員に問い合わせのこと。

作曲実技演習 II

代表教員：小鍛冶 邦隆
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：10
ジャンル：大学院開設科目（作曲）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

担当教員に問い合わせのこと。

大学院楽曲研究

代表教員：野平 一郎

曜日時限：金曜3限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（作曲）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

20世紀後半の重要な作品を、あらゆる視点から検証、分析する。

■授業計画及び内容

前期：ピエール・ブーレーズ 15 楽器のための「エク
ラ」(1965) 後期：ハインツ・ホリガー フルート、
室内オーケストラ、合唱のための「スカルダネッリ・
ツィクルス」(1975-1991) 楽曲の構造・音組織・
楽器法・演奏法等を分析すると同時に、その作品を
生み出す技術的・思想的背景、後世への影響等につ
いて詳しく見て行く。

■教材・参考書

特に前期については各自楽譜を用意することが望ま
しい(UE 17746)。後期については、楽譜の入手が困
難であり、必要な指示を授業中に与える。

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

担当教員への問い合わせ

博士専門科目（作曲） I

代表教員：小鍛冶 邦隆

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（作曲）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

担当教員に問い合わせのこと。

博士専門科目（作曲）Ⅱ

代表教員：小鍛冶 邦隆

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（作曲）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

担当教員に問い合わせのこと。

博士特別研究（作曲）Ⅰ

代表教員：小鍛冶 邦隆

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（作曲）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

担当教員に問い合わせのこと。

博士特別研究（作曲）Ⅱ

代表教員：小鍛冶 邦隆

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（作曲）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

担当教員に問い合わせのこと。

大学院開設科目（声楽・オペラ）

オペラ実習（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）A

代表教員：安達 悦子

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（声楽・オペラ）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

◇（ⅠA・B）舞台上の所作や表現の基礎を学び、主体的に演じられる舞台人を目指す。（市瀬陽子）

◇（ⅡA・B）身体で音楽を感じ、自由に表現できることをめざす。（安達悦子）

◇（ⅢA・B）オペラの演技表現と身体訓練（十川稔）／（ⅢA）オペラのための演技表現（三輪えり花）／（ⅢB）演出家の要求に応えられるように、主に身体的な面でスキルアップを図る（市瀬陽子）

■授業計画及び内容

◇1）身体の成り立ち（骨格や筋肉）について基礎的な知識を持ち、論理的に思考する。

2）身体的な意志表示（コミュニケーション）の能力を養う。

3）言葉（歌詞）の内容を表や動作と自然に一致させ、音楽的に表現する。

4）作品の背景やストーリー、役柄、場面の意味などを的確に捉えて演じる。

5）空間的なセンスを磨き、個性や魅力を自ら発見し引き出し、存在感を高める。

6）時代に即した所作や表現を学ぶと共に、西欧オペラ史に関する教養を深める。

以上を念頭に置き、履修者に合わせて課題を設定しながら進めてゆく。身体的な表現力を高める手段として、特に15世紀から19世紀ヨーロッパのダンスを積極的に採り入れる。（ⅠA B）

◇バレエは全身で観客に話しかける言葉、まさしくボディランゲージです。音楽やドラマ、感性を表現するために、ダンサーにとっては身体が楽器です。楽器である身体を作り上げ、調整するための毎日のトレーニングがバレエのレッスンです。このクラシックバレエの基本レッスンを通して、オペラに必要な姿勢、立ち居振る舞い音楽的な動き（リズム・メ

ロディー）、呼吸法、エレガンス等が身につくようにします。また、簡単な踊りを踊ることにより、ペア、アンサンブル、プレイスメント等の感覚が身につくようになります。

以上を含め、毎週のレッスン（授業）を通し、舞台上で表現することに必要な身体の自由を得るようにします。学部4年の「ボディテクニク」より、上級の内容になります。（ⅡA B）

◇舞台芸術の表現者として、オペラ歌手に要求される演技とはどのようなものか。日本の伝統的舞台芸術の身体感覚を活かしたトレーニングによって、身体への集中力、身体コントロール能力を習得する。（ⅢA B十川）

◇オペラ歌手として歌いながら演技をするうえで必要な事項を体系的に学び、演劇の台本等を使用しながら、より深い理解とともに身につけ、それを実際に演じる際に使っていく方法を探ります。欧米の最新の演技訓練方法を用いて以下の事項をみていきます。

- ・台本読解
- ・登場人物解釈の方法
- ・他の登場人物との関わり方
- ・独白（アリア等）の表現方法
- ・ことば（歌詞や台詞）に連動する気持ちと動きの訓練
- ・西洋古典演技の時代と様式 究極的には世界に通用する演技力を身につけるのが目標です。（ⅢA三輪）

◇時代設定に相応しい所作、役柄に見合った身のこなし、ダンスの素養など、舞台に立つ上で必須の基礎を押さえ、更に個性を生かした魅力的な表現を目指します。

前期はオペラ定期の演目《秘密の結婚》、後期は各自の修士演奏や発表作品などを視野に入れて進めます。（ⅢB市瀬）

■教材・参考書

◇授業において適宜指示する。（ⅠA B）

◇演技参考書「クラシカル・アクティング」（ⅢA）

◇資料・教材は適宜配布する。

参考書：・Acting Techniques for Opera, LizBeth Lucca. Vivace Opera, 2007

・Singing, Acting, and Movement in Opera: A Guide to Singer-geitics, Mark Ross Clark, Indiana Uni

■成績評価の方法

- ・出席および積極的な参加を重視します。(ⅠA B)
- ・出席を重視します。(ⅡA B)
- ・出席と積極性。遅刻厳禁(ⅢA B)

◇単位は オペラ実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを加えた平均評価から取得することになる。

■履修上の指示事項

◇動きやすい服装、底の柔らかいシューズ(バレエシューズ等)を各自用意。詳細は、初回授業に於いて指示する。(ⅠA B市瀬)

◇レオタード、バレエシューズ等を各自用意する。身体で感じる授業なので、積み重ねの効果を体感して欲しい。(ⅡA B安達)

◇動きやすい服装で参加して下さい。但し、台本を演じる上で女性はロングスカートにハイヒール男性はジャケットにネクタイと革靴を要することがあります。その都度指示します。(ⅢA三輪)

◇動きやすい服装、底の柔らか

■備考 (オフィスアワー)

金曜 (Ⅰ)

オペラ実習 (Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ) B

代表教員：安達 悦子

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目 (声楽・オペラ)

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

舞台上の所作や表現の基礎を学び、主体的に演じられる舞台人を目指す。(Ⅰ)

身体で音楽を感じ、自由に表現できることをめざす。(Ⅱ)

オペラのための演技表現(三輪)/オペラの演技表現と身体訓練(十川)(Ⅲ)

■授業計画及び内容

- 1) 身体の成り立ち(骨格や筋肉)について基礎的な知識を持ち、論理的に思考する。
- 2) 身体的な意志表示(コミュニケーション)の能力を養う。
- 3) 言葉(歌詞)の内容を表や動作と自然に一致させ、音楽的に表現する。
- 4) 作品の背景やストーリー、役柄、場面の意味などを的確に捉えて演じる。
- 5) 空間的なセンスを磨き、個性や魅力を自ら発見し引き出し、存在感を高める。
- 6) 時代に即した所作や表現を学ぶと共に、西欧オペラ史に関する教養を深める。

以上を念頭に置き、履修者に合わせて課題を設定しながら進めてゆく。

身体的な表現力を高める手段として、特に15世紀から19世紀ヨーロッパのダンス

積極的に採り入れる。(Ⅰ)

バレエは全身で観客に話しかける言葉、まさしくボディランゲージです。

音楽やドラマ、感性を表現するために、ダンサーにとっては身体が楽器です。楽器である身体を作り上げ、調整するための毎日のトレーニングがバレエのレッスンです。

このクラシックバレエの基本レッスンを通して、オペラに必要な姿勢、立ち居振る舞い音楽的な動き(リズム・メロディー)、呼吸法、エレガンス等が身につくようになります。

また、簡単な踊りを踊ることにより、ペア、アンサンブル、プレイスメント等の感覚が身につくようになります。

以上を含め、毎週のレッスン(授業)を通し、舞台上で表現することに必要な身体の内自由を得るようにします。学部4年の「ボディテクニク」より、上級の内容になります。(Ⅱ)

オペラ歌手として歌いながら演技をするうえで必要な事項を体系的に学び、演劇の台本等を使用しながら、より深い理解とともに身につけ、それを実際に演じる際に使っていく方法を探ります。欧米の最新の演技訓練方法を用いて以下の事項をみていきます。

- ・台本読解
- ・登場人物解釈の方法
- ・他の登場人物との関わり方
- ・独白(アリア等)の表現方法
- ・ことば(歌詞や台詞)に連動する気持ちと動きの訓練
- ・西洋古典演技の時代と様式 究極的には世界に通用する演技力を身につけるのが目標です。(Ⅲ)(三輪)

舞台芸術の表現者として、オペラ歌手に要求される演技とはどのようなものか。日本の伝統的舞芸の身体感覚を活かしたトレーニングによって、身体への集中力、身体コントロール能力を習得する。(Ⅲ)(十川)

■教材・参考書

授業において適宜指示する。(Ⅰ)

演技参考書「クラシカル・アクティング」(Ⅲ)

■成績評価の方法

出席および積極的な参加を重視します。

*単位は オペラ実習ⅡとⅢを加え、その平均評価で取得することになる。(Ⅰ)

出席を重視します。(Ⅱ)

出席と積極性。遅刻厳禁(Ⅲ)

*単位は オペラ実習ⅠとⅡを加えた平均評価から取得することになる。

*単位は オペラ実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを加えた平均評価から取得することになる。

■履修上の指示事項

動きやすい服装、底の柔らかいシューズ(バレエシューズ等)を各自用意。

詳細は、初回授業に於いて指示する。(Ⅰ)

レオタード、バレエシューズ等を各自用意する。身体で感じる授業なので、積み重ねの効果を体感して欲しい。(Ⅱ)

動きやすい服装で参加して下さい。但し、台本を演じる上で女性はロングスカートにハイヒール男性はジャケットにネクタイと革靴を要することがあります。その都度指示します。(Ⅲ)

■備考(オフィスアワー)

オペラ総合実習A

代表教員：川上 茂
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：6
ジャンル：大学院開設科目（声楽・オペラ）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

オペラの歌唱・演技法の探求

■授業計画及び内容

オペラ・ハイライトのために各履修者の声種に合わせ選曲、配役を決定する。幅広い時代と国のオペラから主に重唱曲を抜粋し歌唱・演技表現について総合的に研究する。年3回の「オペラハイライト」で、練習ホールで演奏発表を行う。またⅠ期とⅡ期、Ⅲ期では異なる選曲をし、より多くの役について歌唱・演技の探求をする。

オペラハイライトについて

第Ⅰ・Ⅱ期・・・衣裳、メイク付きで簡単な道具を用いて場面設定をし、同時に簡単な照明による効果も体感しながらオペラ歌手として広い視野に立って演奏する。（第6ホール予定）

第Ⅲ期・・・演奏会形式とし、特にオペラの歌唱表現について探求体験する。（第1ホール予定）

また、秋のオペラ定期公演に学生スタッフとして参加することで公演の大きな支えとなるばかりでなく、総合舞台芸術としてのオペラを歌手の立場をはなれより深く体感するとともに、外部スタッフの指導を受けることで社会性も身につける。

■教材・参考書

指示に従い各自用意すること。

■成績評価の方法

オペラハイライト演奏と平常点による。

■履修上の指示事項

立ち稽古時は、特に動きやすい服装でのぞむこと。
継続出席のこと。

■備考（オフィスアワー）

昼休み、他（金）12:00～12:30 ミーティング時

オペラ総合実習B

代表教員：川上 茂
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：6
ジャンル：大学院開設科目（声楽・オペラ）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

オペラの歌唱・演技法の研究と実際

■授業計画及び内容

オペラ総合実習Aで習得した歌唱・演技表現の研究を更に深め、秋に開催されるオペラ定期公演に出演することでオペラ歌手として総合的な体験をする。実際のオペラ制作と同等の計画に従って音楽稽古、立ち稽古、衣裳合わせ等行い、オケ合わせ、舞台稽古そして本公演へと進行する。オペラ教員と共演すること、更に外部スタッフとの交流からオペラ歌手としての技術面だけの研究を超えて社会性も身につける。

また、翌年1、2月に行われる修士学位審査演奏会（衣裳、メイク、照明等付き。奏楽堂）のために、選曲から共演者及びスタッフの希望選択へと、制作の主体となって総合芸術としてのオペラに中心的に関わることを、歌唱・演技表現の探求とともに体感する。

■教材・参考書

各自用意すること。

■成績評価の方法

オペラ定期演奏と平常点による。

■履修上の指示事項

立ち稽古時は、特に動きやすい服装でのぞむこと。
継続出席のこと。

■備考（オフィスアワー）

昼休み、他（金）12:00～12:30 ミーティング時

オペラ台本講読法

代表教員：Ermanno Arienti
曜日時限：水曜5限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：大学院開設科目（声楽・オペラ）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

リブレット（オペラ台本）の発語・解釈に関する探究。

■授業計画及び内容

総合芸術たるオペラの《先ずは、台本ありき》の観点から、発語・解釈の基礎を学び、幅広い歌唱表現の探求と充実を計りたい。

■教材・参考書

指定された楽譜を各自用意。

■成績評価の方法

出席重視。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

オペラ分析演習

代表教員：小畑 恒夫・井形 ちづる
曜日時限：月曜5限・火曜1限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：大学院開設科目（声楽・オペラ）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

オペラの分析と解釈（井形）

イタリア・オペラの分析と解釈—論文執筆のために（小畑）

■授業計画及び内容

〔前期〕オペラ科履修生全員を対象に、研究テーマの決定、資料の探し方、研究方法、論文の書き方等について概説する。

〔後期〕修士課程終了予定者を対象に、論文及びレポートの研究方法、書き方等を個人指導する。なお、最後の講義時限には次期終了予定者全員に、研究をすすめる心構え、研究テーマの探し方等のガイダンスを行う。

（以上、井形）

〔前期〕論文・レポートを書くために、テーマの見つけ方、研究方法、具体的な書き方などを学ぶ。平行して早い段階で各学生個人の希望するテーマの妥当性を検討し、小レポートを作成する。

〔後期〕前期の小レポートを基に各自研究を進め、論文・レポートを執筆する。授業は、各学生の進捗状況に合わせた個人指導になる。（以上、小畑）

■教材・参考書

■成績評価の方法

出席点と平常の研究姿勢。（出席点を重視）

■履修上の指示事項

後期に論文・レポートを書かない学生も、論文個人指導を聴講することが望ましい。（井形）

■備考（オフィスアワー）

歌曲分析演習

代表教員：長木 誠司
曜日時限：月曜2限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：大学院開設科目（声楽・オペラ）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

主として歌曲を専攻する学生のための、論文指導的な授業である。

■授業計画及び内容

各自のテーマに沿って、論文の書き方の基本的な方法（研究としての方法論や実際の執筆書式等々）を示し、必要な資料の探し方、各自の書いた物の具体的な検討などを行う。

■教材・参考書

授業中に提示する。

■成績評価の方法

平常点。

■履修上の指示事項

まずは自分でテーマについて書き進めることが肝心である。

■備考（オフィスアワー）

授業に関する連絡はメールで行う。

歌曲分析演習

代表教員：園田 みどり
曜日時限：火曜3限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：大学院開設科目（声楽・オペラ）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

大学院声楽（独唱）専攻生のための修士論文指導

■授業計画及び内容

毎回3～4人ずつ履修者に各自の研究について個人的に報告してもらう。前期および1月については、各回の報告者を事前に決定する。報告にあたっては、調査結果をまとめた文書、あるいは実際に執筆した論文原稿を必ず持参すること。履修者全員に対して、最低でも前期2回、後期2回の報告を義務付ける。

今年の修士論文提出予定者は、上記4回の研究報告に加え、後期の冒頭3回のうちのいずれかにおいて、履修者全員の前で論文について中間発表を行うこと。なお、中間発表の際には全員の出席をとる。

今年修士論文を提出する予定のない者は、上記4回の研究報告（内1回は1月に行うものとする）に加え、7月と12月にレポートの提出を義務付ける。内容や締め切り等は追って指示する。

第1回の授業時に、前期および1月の研究報告と、中間発表の日程を履修者全員で調整・決定するので、必ず出席すること。

■教材・参考書

必携：東京芸術大学音楽学部『論文作成の手引き』（2011年改訂）

■成績評価の方法

(1) 研究報告の内容、(2) 提出した修士論文またはレポート、(3) 出席状況、
以上3点に基づいて総合的に評価する。

■履修上の指示事項

特になし。

■備考（オフィスアワー）

授業の前後など。

歌曲分析演習

代表教員：一柳 富美子

曜日時限：木曜 4限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（声楽・オペラ）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

修士論文提出予定者への論文個人指導。

■授業計画及び内容

担当が決まった時点で各人の時間割を決める。ゴールデン・ウィーク前に目次を立てて参考文献リストを作成、仮題提出後は読むべき外国語文献を確認して夏休み中に読み込み、秋以降は分析・執筆・完成という年間構想で臨んで欲しい。

■教材・参考書

教務課で配布する「論文執筆の手引き」だけは早めに入手せよ。

■成績評価の方法

平常点。完成した論文内容とは別で、書き上げるまでの過程を評価対象とする。

■履修上の指示事項

例年、スタートが遅れて秋に慌てる者がいるので、4月中に必ず面接にくること。

■備考（オフィスアワー）

今年度から、木曜日は朝から出校している。15時以降なら3-1-23か声楽科研究室にいますので、アポがあれば受け付ける。

楽曲分析演習（オペラ）

代表教員：川上 茂
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：大学院開設科目（声楽・オペラ）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

オペラ独唱曲・重唱曲における楽曲分析の演習

■授業計画及び内容

声楽実技・個人レッスン形式の授業の中で、歌唱技術向上を目指しながら演奏解釈論を教授するが、同時にオペラ曲の「楽曲分析」に対する理解を深める教授を行う。

■教材・参考書

個人レッスンで受講するオペラ曲そのものが教材となる。使用楽譜の選定は声楽実技担当教員の指示による。

■成績評価の方法

出席率と平常授業の研究姿勢を評価。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

各実技担当教員の空き時間に対応する。（要予約）

楽曲分析演習（独唱）

代表教員：佐々木 典子
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：大学院開設科目（声楽・オペラ）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

声楽独唱曲における楽曲分析の演習

■授業計画及び内容

声楽実技・個人レッスン形式の授業のなかで、歌唱技術向上を目指しながら演奏解釈論を教授するが、同時に声楽独唱曲の「楽曲分析」に対する理解を深める教授を行う。

■教材・参考書

個人レッスンで受講する声楽曲そのものが教材となる。使用楽譜の選定は声楽実技担当教員の指示による。

■成績評価の方法

出席率と平常授業の研究姿勢を評価。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

各実技担当教員の空き時間に対応する。（要予約）

重唱特別演習(アンサンブル特別演習)

担当教員の空き時間に対応する。(要予約)

代表教員：平松 英子

曜日時限：水曜2限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（声楽・オペラ）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

室内歌曲及び世俗曲等における声楽重唱作品の演奏実践と研究

■授業計画及び内容

主にロマン派から近代にかけての作曲家の作品を中心に研究する。

シューマン、G.シューマン、ブラームス、メンデルスゾーン、M.レーガー他の重唱作品を演奏実践しながら様々な音楽表現を研究する。

(予定曲)

J. Brahms : Zigeunerlieder, Liebeslieder, Deutsche Volkslieder

R. Schumann : Zigeunerleben Op. 74, Op. 78, Op. 79

Mendelssohn : Duette

M. Reger : 5 Duette

などの作品を中心に研究するが、上記の作品以外にも適宜作品を選び、演奏しながら作品の解釈と研究を深めたい。

■教材・参考書

全音、音楽之友社、Schott, Peters, N. Simrock, Doblinger 等の各出版社の楽譜を使用する。学期はじめにガイダンスをする。

■成績評価の方法

平常点、授業時の演奏、期末発表会などの総合評価によるが、出席を重視する。

■履修上の指示事項

課題曲については学期はじめにガイダンスをする。

課題曲をアンサンブルを組む履修者同士で、事前に音楽的準備をして授業に臨んでほしい。

履修者は、演奏する作品の楽譜、資料などを事前に準備し、受講者全員に配布すること。

■備考(オフィスアワー)

修士リサイタル（独唱）

代表教員：佐々木 典子

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（声楽・オペラ）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

修士課程履修年次期間中、修士学位演奏審査会とは別に、1回のリサイタルを行うことが義務づけられている。

原則的に履修者の修士課程における研究課題に沿って演奏プログラムを立案し演奏を行う。これを「修士リサイタル」と呼ぶ。

■授業計画及び内容

履修者全員が観る中での歌唱演習により、イタリア語ディクシオン、歌唱表現のポイントの指摘、指導をする。殊にオペラのレチタティーヴォの表現法や演奏法及びオペラアリアや重唱曲を組み合わせることによって演奏を指導する。

■教材・参考書

声楽実技担当教員の指示による。

■成績評価の方法

出席及び平常点

■履修上の指示事項

リサイタル実施時期については、声楽科の指定する日時・場所で行うが、1年次の最後に実施する事を原則とする。各履修者の演奏時間は20分程度のプログラムとする。

■備考（オフィスアワー）

昼休み

声楽実習（オペラ）

代表教員：川上 茂

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（声楽・オペラ）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

大学院声楽実習は、修士課程における履修者自身の研究課題に沿って、選んだ演奏曲目を実習するものである。声楽実技担当教員による指導を個人レッスン形式で受ける事が出来る。

■授業計画及び内容

履修者は、自己の選んだ研究科目に添って年間の研究計画を考え、指導教員と面談する。それを踏まえて声楽実技担当教員は年間の授業計画を立案し、指導する。従って、この実習の内容は履修者によって、全く異なる。また、各声楽特殊研究での課題に対する声楽技術・言語表現・音楽表現等に対する助言も、この実習での指導対象となる。

■教材・参考書

声楽実技担当教員のアドバイスを受け、出来るだけ信頼性の高い楽譜や参考書・資料等を購入すること。

■成績評価の方法

平常点による。

■履修上の指示事項

個人レッスン形式においては、演奏曲目の事前の十分な音楽的準備が不可欠であり、そのための方法論を確立しておく事が先決である。

■備考（オフィスアワー）

声楽実習（独唱）

代表教員：佐々木 典子
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：3
ジャンル：大学院開設科目（声楽・オペラ）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

大学院声楽実習は、修士課程における履修者自身の研究課題に沿って、選んだ演奏曲目を実習するものである。声楽実技担当教員による指導を個人レッスン形式で受ける事が出来る。

■授業計画及び内容

履修者は、自己の選んだ研究題目に沿って年間の研究計画を考え、指導教員と面談する。それを踏まえて声楽実技担当教員は年間の授業計画を立案し、指導する。従って、この実習の内容は履修者によって、全く異なる。また、各声楽特殊研究での課題に対する声楽技術・言語表現・音楽表現等に対する助言も、この実習での指導対象となる。

■教材・参考書

声楽実技担当教員のアドバイスを受け、出来るだけ信頼性の高い楽譜や参考書・資料等を購入すること。

■成績評価の方法

平常点による。

■履修上の指示事項

個人レッスン形式においては、演奏曲目の事前の十分な音楽的準備が不可欠であり、そのための方法論を確立しておく事が先決である。

■備考（オフィスアワー）

各実技担当教員の空き時間に対応する。（要予約）

声楽特殊研究 I（イタリア歌曲）

代表教員：吉田 浩之
曜日時限：金曜5限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：大学院開設科目（声楽・オペラ）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

イタリア近代歌曲の研究

■授業計画及び内容

前期、後期共にイタリア近代歌曲を中心に研究する。履修者が交代で演奏する演習形式である。イタリア語のニュアンス・音楽の表現・声の音色などを受講者全員で共に考え、研究する。

前期は川上、後期は直野が担当する。
曲目の詳細については学期初めに指示する。

■教材・参考書

RICORDI を始めとする内外の出版社による楽譜を使用するが、どの版を使用するかについて学期初めに指示する。

■成績評価の方法

平常点、出席日数、発表会の総合評価。

■履修上の指示事項

日本歌曲歌唱における発語法、歌唱表現、解釈についての研究

■備考（オフィスアワー）

前期は北原白秋を中心に、山田耕筰作品を取り上げる。

後期は前期を踏まえ、同一詩による複数の作曲家の作品を取り上げる。

声楽特殊研究 I (韻律学概論 (イタリ

ア詩))

代表教員：Ermanno Arienti
曜日時限：水曜 4 限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：大学院開設科目 (声楽・オペラ)
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

特にイタリア詩に於ける韻律学。

■授業計画及び内容

前期
エルマンノ・アリエンティ先生の用意する教材において、韻律学の基礎的な勉強をする。

後期
Francesco Cavalli 作曲「La Galisto」を教材として、実践的な韻律学の勉強をする。

■教材・参考書

教材については授業ごとにコピー譜を用意する。

■成績評価の方法

平常点、出席点

■履修上の指示事項

■備考 (オフィスアワー)

教材などに関する授業にとって重要な事柄は担当教員が肌理細かく指示をする。

声楽特殊研究 I (英米歌曲)

代表教員：勝部 太
曜日時限：火曜 4 限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：大学院開設科目 (声楽・オペラ)
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

英語による歌曲 (英米歌曲) の演奏法
— その詩の解釈と演奏法 —

■授業計画及び内容

演習形式による授業。
Samuel Barber, Aaron Copland, Dominick Argento, Ned Rorem, Leonard Bernstein, Lee Hoiby, Henry Purcell, Benjamin Britten, Ralph Vaughan Williams, Roger Quilter, Gerald Finzi, Edward Elgar 等, アメリカおよびイギリスの作曲家の作品を取り上げ、歌詞と原詩を比較研究し、曲の解釈および
発音等その演奏法を考究する。
前期および後期末には演奏会を行い、研究成果を発表する。

■教材・参考書

初回の授業に課題曲を提示する。楽譜は履修者自身が用意すること。但し入手が困難な楽譜についてはプリントを配布する。

■成績評価の方法

出席率と平常点。

■履修上の指示事項

■備考 (オフィスアワー)

各実技担当教員の空き時間に対応する。(要予約)

声楽特殊研究 I (オペラ A)

代表教員：影井 サラ
曜日時限：火曜 3 限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：大学院開設科目（声楽・オペラ）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

イタリア語のリブレット朗読法
(declamazione)

■授業計画及び内容

年間を通しイタリア語のオペラ台本を朗読することで、ディクシオン・発音を学びよりイタリア語に親しむと同時にドラマの解釈を深め表現の幅を広げる。

■教材・参考書

指定したものを各自用意すること。

■成績評価の方法

平常点に出席率を勘案して評価する。

■履修上の指示事項

オペラ科学生においては、1 年次に履修することを原則とする。

■備考 (オフィスアワー)

声楽特殊研究 I (オペラ B)

代表教員：三ツ石 潤司
曜日時限：木曜 4 限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：大学院開設科目（声楽・オペラ）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

個人コレペティツィオン

■授業計画及び内容

レパートリーの充実のため、或いは個々の学生が当面必要としているレパートリーを用いた、個人コレペティツィオンを行う。

レパートリーは、オペラ、歌曲、宗教曲、声楽を含むアンサンブルなど、枠は特に設けない。

■教材・参考書

各自用意すること。

■成績評価の方法

出席及び平常点

■履修上の指示事項

オペラ科学生は、二年次に履修することを原則とする。

■備考 (オフィスアワー)

声楽特殊研究 I (オペラ史)

代表教員：井形 ちづる

曜日時限：金曜 5 限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（声楽・オペラ）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

オペラ史

■授業計画及び内容

- ①オペラ以前の音楽劇
- ②ルネサンスとオペラの誕生（ヴィチェンツァ、フィレンツェ、マントヴァ）
- ③商業オペラ劇場の誕生と前期バロック・オペラ
- ④フランスのバロック・オペラ：トラジェディ・リリック
- ⑤後期バロック・オペラ：ナポリ派オペラとグルックの改革
- ⑥オペラ・ブッフアの誕生、コメディア・デラルテ、インテルメッツォからチマローザへ
- ⑦モーツァルトのオペラ
- ⑧フランス革命と古典派オペラ
- ⑨ロッシーニのオペラ
- ⑩ドイツ後期ロマン派オペラ：シュポーア、ウェーバー、マツシュナー
- ⑪ベルカント・オペラ：ベッリーニとドニゼッティ
- ⑫フランス・グランド・オペラの誕生（マイヤー・ベーア、アレヴィからグノー、サン・サーンスへ）
- ⑬ヴェルディのオペラ
- ⑭ヴァーグナーのオペラ
- ⑮国民楽派オペラ（ロシア、チェコを中心に）
- ⑯19 世紀後半のフランス・オペラ
- ⑰イタリア・グランド・オペラ（ボーイト、ポンキエリ）からヴェリズモ・オペラ（マスカーニ）まで
- ⑱プッチーニのオペラ
- ⑲フンパーディンク、R. シュトラウスから 20 世紀のオペラへ
- ⑳日本のオペラ

■教材・参考書

永竹由幸著「オペラと歌舞伎」（丸善）、痛快「オペラ学」（集英社インターナショナル）

■成績評価の方法

出席とレポート

■履修上の指示事項

特になし

■備考（オフィスアワー）

声楽特殊研究 I (ドイツ歌曲)

代表教員：寺谷 千枝子
曜日時限：火曜 2限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：大学院開設科目 (声楽・オペラ)
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

ドイツ歌曲の解釈と演奏法

■授業計画及び内容

F. Schubert, R. Schumann, J. Brahms, H. Wolf, G. Mahler, R. Strauss などの作曲家の歌曲について、テキストとなっている詩と作曲との関連、造形法の特徴などを考慮し、その演奏法と演奏解釈を研究する演習形式による授業。

年度末には演奏会を行い、研究成果を発表する。

■教材・参考書

『シューベルト歌曲選集』I II III (教育芸術社)、全音楽譜出版社、Barenreiter, Breitkopf, G. Henle, International, Peters, Universal 等、各社刊の各作曲家歌曲集の楽譜。Dietrich Fischer-Dieskau 編：Texte deutscher Lieder「ドイツ歌曲のテキスト」(Ein Handbuch) Deutscher Taschenbuch Verlag GmbH&Co. KG. (ISBN3-423-03091-7)<BR /

■成績評価の方法

出席率と受講時の理解度、及び演奏による評価。年度末にレポートを提出し、演奏会を行って成果を発表する。

■履修上の指示事項

常に演奏できる状況を保つこと。

■備考 (オフィスアワー)

各実技担当教員の空き時間に対応する。(要予約)

声楽特殊研究 I (日本歌曲)

代表教員：永井 和子
曜日時限：月曜 5限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：大学院開設科目 (声楽・オペラ)
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

日本歌曲歌唱における発語法、歌唱表現、解釈についての研究

■授業計画及び内容

前期は北原白秋を中心に、山田耕筰作品を取り上げる。
後期は前期を踏まえ、同一詩による複数の作曲家の作品を取り上げる。

■教材・参考書

特に定めず

■成績評価の方法

出席を重視すると共に、平常点、及び学年末の演奏により評価する。

■履修上の指示事項

聴講を希望する者は、履修登録をせず、直接授業に出席のこと。

■備考 (オフィスアワー)

声楽特殊研究 I (フランス歌曲)

代表教員：太田 朋子

曜日時限：金曜 3限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目 (声楽・オペラ)

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

「フランス歌曲—洗練の極みを表現する」

この講座では、フランスの歌曲が平易で耳に心地よいだけのロマンスから脱して「メロディ」と呼ばれ始めて発展し洗練の極みに到達する時代の作家と作品を展望する。具体的にはベルリオーズからプーランクまでの主要な作品を取り上げ、実習を中心に進めていく。

■授業計画及び内容

前期

1. フランス歌曲の特徴とは
教材・参考資料についての説明
発語法 (ディクシオン) ① 母音
2. 発語法 (ディクシオン) ② 母音と半母音、子音
3. 発語法 (ディクシオン) ③ アクセント・イントネーション・フランス語特有の現象 (リエゾンなど)
現代口語との若干の相違・辞書にあたる
ときの注意事項
4. 歌唱へ導入：短く比較的平易な作品を
全員で実習する。
詩の朗読から歌唱までひとりずつチェック
5. この回からはフランス歌曲最盛期の作品を、
時代を追ってみていく。
ベルリオーズの作品 ①
6. ベルリオーズの作品 ②
7. グノーの作品 ①
8. グノーの作品 ②
9. シャブリエの作品 ①

10. シャブリエの作品 ②

11. フォーレの作品 ①

12. フォーレの作品 ②

13. トピック 詩人と音楽家 「ポール・ヴェルレーヌの詩による歌曲」

14. デュパルクの作品 ①

15. デュパルクの作品 ②

後期

1. ショーソンの作品 ①

2. ショーソンの作品 ②

3. ドビュッシーの作品 ①

4. ドビュッシーの作品 ②

5. サティの作品 ①

6. サティの作品 ②

7. ルッセルの作品 ①

8. ルッセルの作品 ②

9. ラヴェルの作品 ①

10. ラヴェルの作品 ②

11. プーランクの作品 ①

12. プーランクの作品 ②

13. トピック プーランクの詩人たち
アポリネール・エリュアール・ジャコブ・ヴィルモラン

14. 質問・意見交換

15. 発表会

■教材・参考書

実習曲目は前期第4回目の授業までにリストアップして授業内および掲示で発表するので各自揃えられる譜面は用意してください。入手困難なものなどはコピーを配布します。

その他の参考資料については第1回の授業で説明します。

■成績評価の方法

出席率 30%、授業への意欲 (平常点) 30%、
学年末発表会の歌唱 40%

■履修上の指示事項

授業には常に歌える態勢で臨んでください。はじめの3回の授業でのディクシオンの実習には鏡・録音機器など持ち込んで結構です。それ以降の授業での録音は申し出てください。

■備考（オフィスアワー）

とくになし。

声楽特殊研究Ⅱ（宗教音楽）

代表教員：菅 英三子

曜日時限：水曜3限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（声楽・オペラ）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

宗教的声楽作品の演奏解釈

■授業計画及び内容

西洋音楽の声楽を学ぶものにとって、古今の作曲家が珠玉の作品を残している宗教的声楽作品は声楽家にとって重要なレパートリーであり、社会的にも演奏の需要が高い。その作品それぞれの様式感・解釈の理解と共に、その演奏法を実際の演奏を通して学ぶ。受講生が交替で演奏する演習形式。学年末に、履修生による研究発表会を学内公開で行うことを原則とする。

下記の作品郡の中から原則的に重唱部分（duetto, terzetto, quartetto, ・ ・ etc.）を抽出して教材とするが、独唱部分も可とする。

G. B. Pergolesi: Stabat Mater

J. S. Bach: Kantaten, Magnificat, Johannes-Passion, Matthaus-Passion, h-Moll Messe, Weihnachts-Oratorium, Messe A-Dur, Motetten,

G. F. Handel: The Messiah

J. Haydn: Die Schopfung, Die Jahreszeiten

W. A. Mozart: Messe c-Moll, Requiem

L. v. Beethoven: Missa solennis, Messe C-Dur,

F. Mendelssohn: Elias, Paulus,

G. Rossini: Petite Messe solennelle, Stabat Mater

G. Verdi: Messa da Requiem,

J. Brahms: Ein deutsches Requiem,

A. Bruckner: Te Deum,

G. Faure: Requiem

■教材・参考書

出来るだけ信頼性の高い楽譜（原典版・比較校訂版等）を使用すること。

楽譜については学期初めにガイダンスする。

■成績評価の方法

平常演奏点、出席日数、研究発表会出演の有無など

の総合評価であるが、なかでも出席を重視した評価である。

■履修上の指示事項

学期はじめに、授業の進め方についてガイダンスを行う。原則的にこのシラバスに提示した課題から演奏箇所を抽出し履修生の演奏により授業を進める。授業を円滑に進めるために、履修生の中からインスペクターを複数互選する。演奏をする事になった履修生は、インスペクターの協力を得て授業に必要な楽譜と日本語対訳を事前に用意し、受講者全員に配布すること。履修者が自発的に課題に取り組み、十分な音楽的準備をして授業に臨むことが必須である。

■備考（オフィスアワー）

連絡先メールアドレス：[メールアドレスはG-netシラバスに記載]

大学院開設科目（器楽）

オルガン即興実技（大学院）Ⅰ

代表教員：近藤 岳
曜日時限：月曜 4限
学 期：通年
単 位 数：1
ジャンル：大学院開設科目（器楽）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

オルガン即興演奏の理論と実践

■授業計画及び内容

- ①オルガン即興演奏の技術向上を軸に、それらに必要な総合的な音楽力（和声力、ソルフェージュカ、アナリーゼカ、等）や、実現するための発想力・演奏力を同時に高めることを主眼とする。また、「作曲＝演奏＝即興」という不可分な音楽行為を体現することで、それによって得られるオルガニストの音楽的資質を磨くことを目的とする。
- ②授業では、理論のための「和声、作曲、作品アナリーゼ」、実践のための「オルガンにおける技術習練」、これら2つの内容を常に並行して行う。
- ③上記①②に基づき、授業展開は基本的にグループで行う。また、定期的に研究課題テーマを設け、学生・教員ともに演奏とディスカッションを積極的に行い、個々に研究の成果を発表する。

■教材・参考書

授業中の配布資料による。また、参考資料や文献についてもその都度指示し、研究課題の一環とする。

■成績評価の方法

出席率、研究課題への自発的な取り組み（発表・演奏）に従って評価。

■履修上の指示事項

オルガン専攻生対象

■備考（オフィスアワー）

オルガン即興実技（大学院）Ⅱ

代表教員：近藤 岳
曜日時限：月曜 4限
学 期：通年
単 位 数：1
ジャンル：大学院開設科目（器楽）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

オルガン即興演奏の理論と実践

■授業計画及び内容

- ①オルガン即興演奏の技術向上を軸に、それらに必要な総合的な音楽力（和声力、ソルフェージュカ、アナリーゼカ、等）や、実現するための発想力・演奏力を同時に高めることを主眼とする。また、「作曲＝演奏＝即興」という不可分な音楽行為を体現することで、それによって得られるオルガニストの音楽的資質を磨くことを目的とする。
- ②授業では、理論のための「和声、作曲、作品アナリーゼ」、実践のための「オルガンにおける技術習練」、これら2つの内容を常に並行して行う。
- ③上記①②に基づき、授業展開は基本的にグループで行う。また、定期的に研究課題テーマを設け、学生・教員ともに演奏とディスカッションを積極的に行い、個々に研究の成果を発表する。

■教材・参考書

授業中の配布資料による。また、参考資料や文献についてもその都度指示し、研究課題の一環とする。

■成績評価の方法

出席率、研究課題への自発的な取り組み（発表・演奏）に従って評価。

■履修上の指示事項

オルガン専攻生対象

■備考（オフィスアワー）

歌曲伴奏概論

代表教員：平島 誠也

曜日時限：木曜 4 限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（器楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

ドイツ歌曲伴奏法

■授業計画及び内容

歌曲集などに取り組み、コンサートの1ステージを想定したプログラムをレパートリーとする。

作品の文学的背景を研究し、深い理解に基づくピアノの構築と、歌手に自由に対応できる柔軟性、またインスピレーションに基づいた即興性を身に付ける。

自ら演奏を楽しみ、聴衆と作品を共有する喜びを得ることを目的とする。

ヴォルフのメーリケ歌曲集を中心に。

■教材・参考書

開講後最も信頼できる楽譜を各々の希望曲に応じて指示する。

またはプリントによる提供。

■成績評価の方法

出席及び演奏（コンサート形式）

■履修上の指示事項

声楽科の学生の参加を歓迎する。

声楽に対するアドヴァイスがピアノパートの在り方を考える重要なヒントと成り得るからである。

■備考（オフィスアワー）

9 時～17 時

楽曲分析演習（C I）

代表教員：山本 正治

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（器楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

古典から現代まで多種多様なレパートリーの研究

■授業計画及び内容

担当教員の指示による。

■教材・参考書

その都度指示

■成績評価の方法

平時要点及び修士演奏

■履修上の指示事項

特になし

■備考（オフィスアワー）

楽曲分析演習（E u p h）

代表教員：露木 薫
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：大学院開設科目（器楽）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

古典から現代まで多種多様なレパートリーの研究

■授業計画及び内容

担当教員の指示による。

■教材・参考書

その都度指示

■成績評価の方法

平時要点及び修士演奏

■履修上の指示事項

特になし

■備考（オフィスアワー）

楽曲分析演習（F g）

代表教員：岡崎 耕治
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：大学院開設科目（器楽）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

古典から現代まで多種多様なレパートリーの研究

■授業計画及び内容

担当教員の指示による。

■教材・参考書

その都度指示

■成績評価の方法

平時要点及び修士演奏

■履修上の指示事項

特になし

■備考（オフィスアワー）

楽曲分析演習（F I）

代表教員：高木 綾子

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（器楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

古典から現代まで多種多様なレパートリーの研究

■授業計画及び内容

担当教員の指示による。

■教材・参考書

その都度指示

■成績評価の方法

平時要点及び修士演奏

■履修上の指示事項

特になし

■備考（オフィスアワー）

楽曲分析演習（H r）

代表教員：日高 剛

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（器楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

古典から現代まで多種多様なレパートリーの研究

■授業計画及び内容

担当教員の指示による。

■教材・参考書

その都度指示

■成績評価の方法

平時要点及び修士演奏

■履修上の指示事項

特になし

■備考（オフィスアワー）

楽曲分析演習（O b）

代表教員：小畑 善昭

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（器楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

古典から現代まで多種多様なレパートリーの研究

■授業計画及び内容

担当教員の指示による。

■教材・参考書

その都度指示

■成績評価の方法

平時要点及び修士演奏

■履修上の指示事項

特になし

■備考（オフィスアワー）

楽曲分析演習（O r g）I

代表教員：廣江 理枝

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（器楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

楽曲の構造の分析により、作品内容の根本的理解と演奏技術の向上に役立てる。

■授業計画及び内容

作曲家の生涯とその作曲技法、時代背景など作品の周辺にある諸問題の理解を基礎として、作品の構造、響き、様式的特徴などを分析的にとらえて、専攻実技と連携させながら理論的研究と演奏実践に役立てる。

■教材・参考書

担当教員との意見交換により適宜選択する。

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

オルガン科専攻生対象

■備考（オフィスアワー）

楽曲分析演習（O r g）Ⅱ

代表教員：廣江 理枝

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（器楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

楽曲の構造の分析により、作品内容の根本的理解と演奏技術の向上に役立てる。

■授業計画及び内容

作曲家の生涯とその作曲技法、時代背景など作品の周辺にある諸問題の理解を基礎として、作品の構造、響き、様式的特徴などを分析的にとらえて、専攻実技と連携させながら理論的研究と演奏実践に役立てる。

■教材・参考書

担当教員との意見交換により適宜選択する。

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

オルガン科専攻生対象

■備考（オフィスアワー）

楽曲分析演習（P c）

代表教員：藤本 隆文

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（器楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

打楽器のための独奏曲

■授業計画及び内容

特に邦人作曲家の打楽器作品を取り上げ、その解釈・奏法について考察・実習する。

■教材・参考書

その都度指示

■成績評価の方法

平時要点及び修士演奏

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

楽曲分析演習（P f）

代表教員：東 誠三
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：大学院開設科目（器楽）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

ピアノ実技レッスン

■授業計画及び内容

個人実技レッスンを通して、大学で学んだことをさらに研究を推し進め、ピアニストとして、あるいはピアノ教育者として必要とされる、より専門的で高度な分析力・理解力・技術の習得を目指す。
修士リサイタルは大学院在籍中に1度おこなうことが必修となっており、概ね1時間程度のプログラム（一部室内楽を加えてもよい）を準備する。
修了演奏と論文が学位審査の対象となる。

■教材・参考書

適宜

■成績評価の方法

1・2年次：平常点
修了年次：修了演奏と論文の評価

■履修上の指示事項

「器楽実習」と「楽曲分析演習」は実技レッスンの中で並行しておこなわれる。

■備考（オフィスアワー）

楽曲分析演習（S x）

代表教員：須川 展也
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：大学院開設科目（器楽）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

古典から現代まで多種多様なレパートリーの研究

■授業計画及び内容

担当教員の指示による。

■教材・参考書

その都度指示

■成績評価の方法

平時要点及び修士演奏

■履修上の指示事項

特になし

■備考（オフィスアワー）

楽曲分析演習（T b）

代表教員：古賀 慎治
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：大学院開設科目（器楽）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

古典から現代まで多種多様なレパートリーの研究

■授業計画及び内容

担当教員の指示による。

■教材・参考書

その都度指示

■成績評価の方法

平時要点及び修士演奏

■履修上の指示事項

特になし

■備考（オフィスアワー）

楽曲分析演習（T p）

代表教員：栃本 浩規
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：大学院開設科目（器楽）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

古典から現代まで多種多様なレパートリーの研究

■授業計画及び内容

担当教員の指示による。

■教材・参考書

その都度指示

■成績評価の方法

平時要点及び修士演奏

■履修上の指示事項

特になし

■備考（オフィスアワー）

楽曲分析演習（Tu）

代表教員：池田 幸広

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（器楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

古典から現代まで多種多様なレパートリーの研究

■授業計画及び内容

担当教員の指示による。

■教材・参考書

その都度指示

■成績評価の方法

平時要点及び修士演奏

■履修上の指示事項

特になし

■備考（オフィスアワー）

楽曲分析演習（弦楽）I

代表教員：清水 高師

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（器楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

学部レベルで習得した演奏法、楽曲解釈などをテーマを絞りより専門的に研究する。

■授業計画及び内容

修士リサイタルを2年次前期終了までに行う。
2年次以降の学位審査会でその研究を発表する。

■教材・参考書

各教員が個別に指示する

■成績評価の方法

平常点及び修士リサイタル、学位審査会より評価する。

■履修上の指示事項

大学院修士課程 修士リサイタル及び学位審査会内規の注意事項を参照する事

■備考（オフィスアワー）

楽曲分析演習（弦楽）Ⅱ

代表教員：清水 高師

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（器楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

学部レベルで習得した演奏法、楽曲解釈などをテーマを絞りより専門的に研究する。

■授業計画及び内容

修士リサイタルを2年次前期終了までに行う。
2年次以降の学位審査会でその研究を発表する。

■教材・参考書

各教員が個別に指示する

■成績評価の方法

平常点及び修士リサイタル、学位審査会より評価する。

■履修上の指示事項

大学院修士課程 修士リサイタル及び学位審査会内規の注意事項を参照する事

■備考（オフィスアワー）

器楽実習（C I）

代表教員：山本 正治

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（器楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

学部で学んだ事柄を更に応用発展させ音楽文化全般に関する見聞理解を深めること。

■授業計画及び内容

担当教員の指示による。

■教材・参考書

その都度指示する。

■成績評価の方法

平常点及び学位審査会

■履修上の指示事項

特になし

■備考（オフィスアワー）

器楽実習（Euph）

代表教員：露木 薫

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（器楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

学部で学んだ事柄を更に応用発展させ音楽文化全般に関する見聞理解を深めること。

■授業計画及び内容

担当教員の指示による。

■教材・参考書

その都度指示する。

■成績評価の方法

平常点及び学位審査会

■履修上の指示事項

特になし

■備考（オフィスアワー）

器楽実習（Fg）

代表教員：岡崎 耕治

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（器楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

学部で学んだ事柄を更に応用発展させ音楽文化全般に関する見聞理解を深めること。

■授業計画及び内容

担当教員の指示による。

■教材・参考書

その都度指示する。

■成績評価の方法

平常点及び学位審査会

■履修上の指示事項

特になし

■備考（オフィスアワー）

器楽実習（F I）

代表教員：高木 綾子

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（器楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

学部で学んだ事柄を更に応用発展させ音楽文化全般に関する見聞理解を深めること。

■授業計画及び内容

担当教員の指示による。

■教材・参考書

その都度指示する。

■成績評価の方法

平常点及び学位審査会

■履修上の指示事項

特になし

■備考（オフィスアワー）

器楽実習（H r）

代表教員：日高 剛

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（器楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

学部で学んだ事柄を更に応用発展させ音楽文化全般に関する見聞理解を深めること。

■授業計画及び内容

担当教員の指示による。

■教材・参考書

その都度指示する。

■成績評価の方法

平常点及び学位審査会

■履修上の指示事項

特になし

■備考（オフィスアワー）

器楽実習（O b）

代表教員：小畑 善昭

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（器楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

学部で学んだ事柄を更に応用発展させ音楽文化全般に関する見聞理解を深めること。

■授業計画及び内容

担当教員の指示による。

■教材・参考書

その都度指示する。

■成績評価の方法

平常点及び学位審査会

■履修上の指示事項

特になし

■備考（オフィスアワー）

器楽実習（P c）

代表教員：藤本 隆文

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（器楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

打楽器のための独奏曲

■授業計画及び内容

特に邦人作曲家の打楽器作品を取り上げ、その解釈・奏法について考察・実習する。

■教材・参考書

その都度指示

■成績評価の方法

平常点及び学位審査会

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

器楽実習（P f）

代表教員：東 誠三
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：3
ジャンル：大学院開設科目（器楽）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

ピアノ実技レッスン

■授業計画及び内容

個人実技レッスンを通して、大学で学んだことをさらに研究を推し進め、ピアニストとして、あるいはピアノ教育者として必要とされる、より専門的で高度な分析力・理解力・技術の習得を目指す。修士リサイタルは大学院在籍中に1度おこなうことが必修となっており、概ね1時間程度のプログラム（一部室内楽を加えてもよい）を準備する。修了演奏と論文が学位審査の対象となる。

■教材・参考書

適宜

■成績評価の方法

1・2年次：平常点
修了年次：修了演奏と論文の評価

■履修上の指示事項

「器楽実習」と「楽曲分析演習」は実技レッスンの中で並行しておこなわれる。

■備考（オフィスアワー）

9:00～17:00

器楽実習（S x）

代表教員：須川 展也
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：3
ジャンル：大学院開設科目（器楽）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

学部で学んだ事柄を更に応用発展させ音楽文化全般に関する見聞理解を深めること。

■授業計画及び内容

担当教員の指示による。

■教材・参考書

その都度指示する。

■成績評価の方法

平常点及び学位審査会

■履修上の指示事項

特になし

■備考（オフィスアワー）

器楽実習（T b）

代表教員：古賀 慎治

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（器楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

学部で学んだ事柄を更に応用発展させ音楽文化全般に関する見聞理解を深めること。

■授業計画及び内容

担当教員の指示による。

■教材・参考書

その都度指示する。

■成績評価の方法

平常点及び学位審査会

■履修上の指示事項

特になし

■備考（オフィスアワー）

器楽実習（T p）

代表教員：栃本 浩規

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（器楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

学部で学んだ事柄を更に応用発展させ音楽文化全般に関する見聞理解を深めること。

■授業計画及び内容

担当教員の指示による。

■教材・参考書

その都度指示する。

■成績評価の方法

平常点及び学位審査会

■履修上の指示事項

特になし

■備考（オフィスアワー）

器楽実習（Tu）

代表教員：池田 幸広

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（器楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

学部で学んだ事柄を更に応用発展させ音楽文化全般に関する見聞理解を深めること。

■授業計画及び内容

担当教員の指示による。

■教材・参考書

その都度指示する。

■成績評価の方法

平常点及び学位審査会

■履修上の指示事項

特になし

■備考（オフィスアワー）

器楽実習（弦楽）I

代表教員：清水 高師

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（器楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

学部レベルで習得した演奏法、楽曲解釈などをテーマを絞りより専門的に研究する。

■授業計画及び内容

修士リサイタルを2年次前期終了までに行う。2年次以降の学位審査会でその研究を発表する。

■教材・参考書

各教員が個別に指示する

■成績評価の方法

平常点及び修士リサイタル、学位審査会より評価する。

■履修上の指示事項

大学院修士課程 修士リサイタル及び学位審査会内規の注意事項を参照する事

■備考（オフィスアワー）

器楽実習（弦楽）Ⅱ

代表教員：清水 高師

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（器楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

学部レベルで習得した演奏法、楽曲解釈などをテーマを絞りより専門的に研究する。

■授業計画及び内容

修士リサイタルを2年次前期終了までに行う。2年次以降の学位審査会でその研究を発表する。

■教材・参考書

各教員が個別に指示する

■成績評価の方法

平常点及び修士リサイタル、学位審査会より評価する。

■履修上の指示事項

大学院修士課程 修士リサイタル及び学位審査会内規の注意事項を参照する事

■備考（オフィスアワー）

器楽特殊研究（2）

代表教員：清水 高師

曜日時限：木曜5限

学 期：前期

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（器楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

前期

ヴァイオリン、音楽と自分の関係を再考する。

後期

奏法の研究、実践

■授業計画及び内容

前期

自分の音楽との関わりを再考する。

音楽を言葉で表現することに関する考察。

現在の音楽界、往年の演奏家、現代の演奏家をアナライズする。

後期

奏法の研究、身体と演奏の関係分析

オーケストラスタディー実践

■教材・参考書

岡田暁生著：音楽の聴き方

村上春樹著：意味がなければスイングはない

The art of violin

他、その都度指示

■成績評価の方法

出席、平常点、レポート

■履修上の指示事項

ヴァイオリン以外の学生の履修は不可。聴講は随時可。

■備考（オフィスアワー）

器楽特殊研究（2）

代表教員：清水 高師

曜日時限：木曜5限

学 期：後期

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（器楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

前期

ヴァイオリン、音楽と自分の関係を再考する。

後期

奏法の研究、実践

■授業計画及び内容

前期

自分の音楽との関わりを再考する。

音楽を言葉で表現することに関する考察。

現在の音楽界、往年の演奏家、現代の演奏家をアナライズする。

後期

奏法の研究、身体と演奏の関係分析

オーケストラスタディー実践

■教材・参考書

岡田暁生著：音楽の聴き方

村上春樹著：意味がなければスイングはない

The art of violin

他、その都度指示

■成績評価の方法

出席、平常点、レポート

■履修上の指示事項

ヴァイオリン以外の学生の履修は不可。聴講は随時可。

■備考（オフィスアワー）

器楽特殊研究（3）

代表教員：川崎 和憲

曜日時限：月曜2限

学 期：前期

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（器楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

前期 後期：オーケストラの中のヴィオラの役割について検証する

■授業計画及び内容

前期 後期：オーケストラの中での奏法をオーケストラ・スタディを使って実習する。

■教材・参考書

楽譜

■成績評価の方法

出席及び平常点

■履修上の指示事項

ビオラ（大学院、室内楽科を含む）

■備考（オフィスアワー）

[メールアドレスはG-net シラバスに記載]

器楽特殊研究（3）

代表教員：川崎 和憲

曜日時限：月曜2限

学 期：後期

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（器楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

前期：グループレッスンについて考える

後期：オーケストラの中のヴィオラの役割について
検証する

■授業計画及び内容

前期：グループレッスンを通じて教材作りを考える。
後期：オーケストラの中での奏法をオーケストラ・
スタディを使って実習する。

■教材・参考書

楽譜、CD

■成績評価の方法

出席及び平常点

■履修上の指示事項

ビオラ（大学院、室内楽科を含む）

■備考（オフィスアワー）

[メールアドレスはG-net シラバスに記載]

器楽特殊研究（4）

代表教員：河野 文昭

曜日時限：木曜3限

学 期：前期

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（器楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

チェロ奏法、及び演奏解釈

■授業計画及び内容

大学院学生の研究発表を中心にチェロ奏法、演奏解
釈についてディスカッションをしながら検証してい
く。

■教材・参考書

授業で指示する

■成績評価の方法

出席と平常点による

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

器楽特殊研究（４）

代表教員：河野 文昭

曜日時限：木曜３限

学 期：後期

単 位 数：２

ジャンル：大学院開設科目（器楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

チェロ・ソナタの演奏解釈

■授業計画及び内容

大学院学生の研究発表を中心にチェロ奏法、演奏解釈についてディスカッションをしながら検証していく。

■教材・参考書

授業で指示する

■成績評価の方法

出席と平常点による

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

器楽特殊研究（５）

代表教員：永島 義男

曜日時限：木曜４限

学 期：前期

単 位 数：２

ジャンル：大学院開設科目（器楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

- ・オーケストラ及び室内楽における奏法の研究
- ・独奏における諸問題の研究
- ・歴史的見地からの考察

■授業計画及び内容

上記における問題点、あるいは問題提起をし、面接、実技指導を行う。

■教材・参考書

楽譜、スコア、歴史書等文献、CD、ビデオ等

■成績評価の方法

平常点、又はレポートを提出する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

器楽特殊研究（５）

代表教員：永島 義男

曜日時限：木曜４限

学 期：後期

単 位 数：２

ジャンル：大学院開設科目（器楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

- ・オーケストラ及び室内楽における奏法の研究
- ・独奏における諸問題の研究
- ・歴史的見地からの考察

■授業計画及び内容

上記における問題点、あるいは問題提起をし、面接、実技指導を行う。

■教材・参考書

楽譜、スコア、歴史書等文献、CD、ビデオ等

■成績評価の方法

平常点、又はレポートを提出する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

器楽特殊研究（６）

代表教員：小畑 善昭

曜日時限：月曜５限

学 期：通年

単 位 数：４

ジャンル：大学院開設科目（器楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

１８世紀の音楽の演奏法と解釈

■授業計画及び内容

教員の指示による。

■教材・参考書

その都度指示する。

■成績評価の方法

出席状況、レポート等

■履修上の指示事項

特になし

■備考（オフィスアワー）

器楽特殊研究（7）

代表教員：古賀 慎治

曜日時限：月曜4限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（器楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

金管楽器演奏概論

■授業計画及び内容

18世紀及び19世紀に於ける管弦楽作品と同時代の管楽器によるオリジナルサウンドの考察。

■教材・参考書

そのつど指示

■成績評価の方法

レポートと学習態度で総合的に評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

器楽特殊研究（8）

代表教員：藤本 隆文

曜日時限：月曜4限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（器楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

打楽器演奏概論

■授業計画及び内容

独奏・室内楽・オーケストラ等の様々な場面で登場する打楽器の奏法・解釈について、それらが「他ジャンルの音楽・芸術」から受けた影響についての考察。

■教材・参考書

その都度指示

■成績評価の方法

平常点又は、レポート提出。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

器楽特殊研究（O r g）

代表教員：廣江 理枝

曜日時限：金曜3限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（器楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

楽器としてのオルガン、音楽作品の歴史的背景と様式、演奏上の諸問題（パフォーマンス・プラクティス）の個別的研究

■授業計画及び内容

学期開始時に、教員と学生との話し合いにより、個別的なテーマを決定し、主として原書講読と演奏実践により研究を進める。

■教材・参考書

担当教員との意見交換により適宜選択する。

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

オルガン専攻生対象

■備考（オフィスアワー）

オルガン科研究室

器楽特殊研究（P f）

代表教員：植田 克己

曜日時限：木曜3限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（器楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

ベートーヴェンのピアノソナタの研究

■授業計画及び内容

ベートーヴェンのピアノソナタ第1～11番を題材にして読譜と演奏を考察する。

■教材・参考書

ベートーヴェン ピアノソナタ集

他についてはその都度指示する。

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

学年末に簡単なレポート提出を求める。

■備考（オフィスアワー）

古楽アンサンブルⅠ（大学院）

代表教員：大塚 直哉
曜日時限：水曜2限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：大学院開設科目（器楽）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

古楽アンサンブルの基礎を学ぶ。

■授業計画及び内容

鍵盤楽器（Cemb, Org, Fp）やリコーダー、オーボエ、フルートなどを中心とした小編成の古楽器および声楽によるアンサンブルの実習を行う。履修者は各自でアンサンブルを組み、各回2組ずつのレッスンを割り当てる。レッスン後各自でさらに仕上げ、前期末、学年末の勉強会で演奏する。

レパートリーについては初回の授業でガイダンスを行う。

■教材・参考書

■成績評価の方法

平常点（授業への参加の積極度）及び勉強会での演奏をあわせて評価する。

■履修上の指示事項

各回の演奏者は楽譜を履修者全員分用意すること。また声楽曲の場合はかならず訳を書き込むこと。

■備考（オフィスアワー）

古楽研究室

履修登録：学部生
古楽科の学生は、古楽アンサンブルⅠ～Ⅲのうち一つを一年間履修する。
なお古楽アンサンブル（集中）は、古楽科のプロジェクトとして企画される。

古楽アンサンブルⅡ（大学院）

代表教員：野々下 由香里
曜日時限：火曜5限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：大学院開設科目（器楽）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

バロック時代の声楽と器楽を中心としたアンサンブルの実習。
歌詞の持つ修辭的意味と様式を反映させる演奏をめざす。

■授業計画及び内容

受講生の専攻や声種に従ってアンサンブルを組み、毎回1～2組ずつ演奏する。

■教材・参考書

適宜指示する

■成績評価の方法

この授業では出席を重視する。
平常点と学年末の試験（発表演奏会）の評価による。

■履修上の指示事項

各回の演奏者は楽譜を履修者全員分用意すること。また声楽曲の場合はかならず訳を書き込むこと。

■備考（オフィスアワー）

火曜IV限 古楽研究室

履修登録：大学院生
古楽科の学生は、古楽アンサンブルⅠ～Ⅲのうち一つを一年間履修する。
なお古楽アンサンブル（集中）は、古楽科のプロジェクトとして企画される。

古楽アンサンブルⅢ（大学院）

代表教員：鈴木 秀美

曜日時限：木曜3限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（器楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

後期バロック時代～初期古典派の弦楽器を中心としたアンサンブルの実習

■授業計画及び内容

グループを組織し、バロック時代から古典派にかけての室内楽、小規模なオーケストラ音楽などを実際に演奏して、当時の基礎的な演奏法、語法などを探る。現代一般的な演奏法との違い、その背景にある美観の違い等について考え、それらを反映しつつ活きた演奏をする方法を目指す。

■教材・参考書

必要に応じて授業中に指示する。

■成績評価の方法

平常点と学年末の試験およびレポート提出

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

古楽研究室

履修登録：大学院生

古楽科学生は、古楽アンサンブルⅠ～Ⅲのうち一つを一年間履修する。

古楽特殊研究Ⅰ

代表教員：大塚 直哉

曜日時限：金曜3限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（器楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

古楽演奏をめぐる諸問題

■授業計画及び内容

今年度は以下の2つの課題に取り組む。

1. ワークショップ（主として前期）
古楽の演奏を志す者にとって問題となるいくつかのトピックを取り上げ、学生各自がその問題と取り組むための古今のさまざまな方法論を体験する。その際に必要な文献の力も借りながら、しかし最終的には演奏者自らの身体を通して理解を深めることを重要視したい。

今年度、予定しているトピックは以下の4つである。

- 1) 合理的な身体の使用方の研究～脱力とバランスを中心に～
- 2) 器楽奏者にとってのディクシオン（朗誦法）の研究
（イタリア語、フランス語、ドイツ語、英語のディクシオンの基礎を学び、演奏の際の様式感に繋げる。）
- 3) 「歴史的」和声感の研究（バロック時代の通奏低音理論書を参照しながら当時の和声感についての研究を行う。合わせて様々な歴史的調律法を体験する。）
- 4) 「歴史的」即興演奏の研究

2. 古楽特殊研究Ⅱのクラスとも連携して、バロック時代の舞台作品の上演に取り組む。曲目等の詳細は前期の授業の中で説明する。（主として後期）

■教材・参考書

■成績評価の方法

平常点（授業への参加の積極度）による。

■履修上の指示事項

床に寝転がれるような格好で来ること。

■備考（オフィスアワー）

古楽研究室(1-2-24)

古楽特殊研究Ⅱ

代表教員：野々下 由香里

曜日時限：金曜2限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（器楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

バロック時代の声楽作品における演奏解釈について
（歌唱法・装飾法の実践）

テーマは以下のとおり

奇数年：17, 18世紀イタリア、ドイツ

偶数年：17, 18世紀イギリス、フランス

■授業計画及び内容

今日の記譜法とは、かなり異なった原理で書かれた
当時の楽譜などを利用し、歌詞の持つ修辭的意味を
歌唱に反映させる演奏をめざす。

（ヴィブラートのコントロールの仕方、音律を考慮
した音程のとり方、装飾法の研究と実践等）前期は
発表形式、後期はレッスン形式で授業を行う。

（前期）：テーマに応じたレパートリー授業、歌唱法・
装飾法研究

（後期）：履修生の声種・楽器・人数によってコンサ
ートのプログラムを構成し、演奏会にむけてレッス
ンをする。年度末演奏会予定。

■教材・参考書

適宜指示する

■成績評価の方法

平常点、発表会、レポートによる。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

古楽研究室

古楽分析演習Ⅰ

代表教員：大塚 直哉
曜日時限：金曜 1限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：大学院開設科目（器楽）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

修士論文の指導

■授業計画及び内容

古楽科の大学院生を対象とし、各自の研究テーマに従って、一次・二次文献の読解や楽曲分析など修士論文執筆に必要な助言を行う。※今年度は個人指導の形で行う。詳細を前期の初回に説明するので、欠席しないこと。

■教材・参考書

「論文の手引き」(教務係配布)

■成績評価の方法

レポートによる。

■履修上の指示事項

「論文の手引き」(教務係配布)を熟読してから授業に参加すること。毎回持参することが望ましい。

■備考（オフィスアワー）

古楽研究室

古楽分析演習Ⅱ

代表教員：大塚 直哉
曜日時限：金曜 1限
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：大学院開設科目（器楽）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

修士論文の指導

■授業計画及び内容

古楽科の大学院生を対象とし、各自の研究テーマに従って、一次・二次文献の読解や楽曲分析など修士論文執筆に必要な助言を行う。※今年度は個人指導の形で行う。詳細を前期の初回に説明するので、欠席しないこと。

■教材・参考書

「論文の手引き」(教務係配布)

■成績評価の方法

レポートによる。

■履修上の指示事項

「論文の手引き」(教務係配布)を熟読してから授業に参加すること。毎回持参することが望ましい。

■備考（オフィスアワー）

古楽研究室

室内楽演習

代表教員：松原 勝也

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（器楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

修士演奏に向けて論文指導を含めた個人指導を行なう。

■教材・参考書

■成績評価の方法

平常点による。

■履修上の指示事項

室内楽専攻学生を対象とする

■備考（オフィスアワー）

室内楽実習

代表教員：松原 勝也

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（器楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

アンサンブル研究

■授業計画及び内容

自主的に編成されたグループを対象としてレッスン形式による授業を行なう。編成・曲目は自由とする。

■教材・参考書

研究対象曲パート譜・スコア

■成績評価の方法

期末試験による

■履修上の指示事項

- ・ピアノ・弦・管・打・室内楽専攻学生を対象とする。
- ・2014年4月にガイダンス・担当教員との面接がある。
（日程については学事暦、掲示等参照）

■備考（オフィスアワー）

室内楽実習（室内楽専攻）

代表教員：松原 勝也

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（器楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

研究テーマおよび研究対象作品について個人、あるいはグループセッション形式で授業を行なう。

■教材・参考書

担当教員から適宜指示する。

■成績評価の方法

年2回の期末発表会および修了演奏。

■履修上の指示事項

室内楽専攻学生を対象とする

■備考（オフィスアワー）

室内楽特殊研究

代表教員：松原 勝也

曜日時限：水曜4限

学 期：前期

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（器楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

R. シューマン：ピアノ四重奏曲

作品 47

ヴァイオリンソナタ第1番作品 105

おとぎの絵本作品 113

ピアノトリオ第1番作品 63

■授業計画及び内容

前期：上記楽曲の演奏解釈の研究を基にアンサンブル演習と研究発表を行なう。

■教材・参考書

上記楽曲の総譜と演奏パート譜。

■成績評価の方法

研究発表の内容、出席状況。

■履修上の指示事項

履修対象者は室内楽、弦、ピアノ専攻の学生であるが、聴講は他科の学生も可。

■備考（オフィスアワー）

室内楽特殊研究

代表教員：松原 勝也
曜日時限：水曜 4 限
学 期：後期
単 位 数：2
ジャンル：大学院開設科目（器楽）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

J. ブラームス：ピアノ四重奏曲第 3 番作品 60
ヴァイオリンソナタ第 2 番作品 100
ヴィオラソナタ第 1 番作品 120-1
ピアノ三重奏曲第 2 番作品 87

■授業計画及び内容

上記楽曲の演奏解釈を基にアンサンブル演習と研究発表を行なう。

■教材・参考書

上記楽曲の総譜と演奏パート譜。

■成績評価の方法

研究発表の内容、出席状況。

■履修上の指示事項

履修対象者は室内楽、弦、ピアノ専攻の学生であるが、聴講は他科の学生も可。

■備考（オフィスアワー）

修士リサイタル（C b）

代表教員：永島 義男
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：大学院開設科目（器楽）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

目標に応じた研究の総合的実習

■授業計画及び内容

2 年次前期終了までに 30～60 分の小リサイタル形式で公開による演奏を行う。

■教材・参考書

各教員が個別に指示する

■成績評価の方法

演奏の成績による

■履修上の指示事項

修士リサイタル及び学位審査会内規の注意事項を参照する事

■備考（オフィスアワー）

修士リサイタル (H p)

代表教員：早川 りさこ
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：大学院開設科目（器楽）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

目標に応じた研究の総合的実習

■授業計画及び内容

2年次前期終了までに30～60分の小リサイタル形式で公開による演奏を行う。

■教材・参考書

各教員が個別に指示する

■成績評価の方法

演奏の成績による

■履修上の指示事項

修士リサイタル及び学位審査会内規の注意事項を参照する事

■備考（オフィスアワー）

修士リサイタル (O r g)

代表教員：廣江 理枝
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：大学院開設科目（器楽）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

実技と理論の両側面から研究を深め、その成果を総括し確かめると同時に、社会に向けて、その成果を発表していく演奏家・研究者としての訓練をする。

■授業計画及び内容

リサイタルに取り組むことの総合的体験。プログラミング、演奏する作品の技術的・音楽的側面からの徹底した研究、音楽による自己表現への挑戦。演奏会の広報、チラシ、プログラム作成など。

■教材・参考書

担当教員と意見交換しながら学生が自主的に検討する。

■成績評価の方法

実技試験に準じる。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

修士リサイタル (P f)

代表教員：東 誠三

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（器楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

公開演奏(リサイタル)の準備と演奏。

■授業計画及び内容

大学院在籍中に一度おこなうことが必修となっている。概ね一時間程度のプログラム(一部室内楽を加えてもよい)を準備する。

■教材・参考書

適宜

■成績評価の方法

「器楽実習」の評価に准ずる

■履修上の指示事項

■備考 (オフィスアワー)

9:00-17:00

修士リサイタル (V a)

代表教員：川崎 和憲

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（器楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

目標に応じた研究の総合的実習

■授業計画及び内容

2年次前期終了までに30～60分の小リサイタル形式で公開による演奏を行う。

■教材・参考書

各教員が個別に指示する

■成績評価の方法

演奏の成績による

■履修上の指示事項

修士リサイタル及び学位審査会内規の注意事項を参照する事

■備考 (オフィスアワー)

修士リサイタル（Vc）

代表教員：河野 文昭

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（器楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

目標に応じた研究の総合的実習

■授業計画及び内容

2年次前期終了までに30～60分の小リサイタル形式で公開による演奏を行う。

■教材・参考書

各教員が個別に指示する

■成績評価の方法

演奏の成績による

■履修上の指示事項

修士リサイタル及び学位審査会内規の注意事項を参照する事

■備考（オフィスアワー）

修士リサイタル（Vn）

代表教員：清水 高師

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（器楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

目標に応じた研究の総合的実習

■授業計画及び内容

2年次前期終了までに30～60分の小リサイタル形式で公開による演奏を行う。

■教材・参考書

各教員が個別に指示する

■成績評価の方法

演奏の成績による

■履修上の指示事項

修士リサイタル及び学位審査会内規の注意事項を参照する事

■備考（オフィスアワー）

修士リサイタル（管打楽）

代表教員：山本 正治

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（器楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

器楽演習及び楽曲分析演習でつちかった事を元に、更に緻密な演奏を目指す。

■授業計画及び内容

修了するまでの間に行うこと。

■教材・参考書

その都度指示する。

■成績評価の方法

修士リサイタルの評価

■履修上の指示事項

特になし

■備考（オフィスアワー）

修士リサイタル（チェンバロ）

代表教員：大塚 直哉

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（器楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

修士課程に在学している学生が、年に1度の公開リサイタルによって、研究の成果を発表する。

■授業計画及び内容

修士課程に在学している間、年に1回の公開リサイタル（学内）によって、その研究成果を発表する。レポーターについては各担当教員と相談すること。詳しい日程は別途指示する。

■教材・参考書

■成績評価の方法

演奏実技試験による

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

古楽研究室

修士リサイタル(バロックヴァイオリ

ン)

代表教員：若松 夏美

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（器楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

修士課程に在学している学生（バロックヴァイオリン）が、年に1度の公開リサイタルによって、研究の成果を発表する。

■授業計画及び内容

修士課程に在学している間、年に1回の公開リサイタル（学内）によって、その研究成果を発表する。レパトリーについては各担当教員と相談すること。詳しい日程は別途指示する。

■教材・参考書

■成績評価の方法

演奏実技試験

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

古楽研究室

修士リサイタル（バロック声楽）

代表教員：野々下 由香里

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（器楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

修士課程に在学している学生（バロック声楽）が、年に1度の公開リサイタルによって、研究の成果を発表する。

■授業計画及び内容

修士課程に在学している間、年に1回の公開リサイタル（学内）によって、その研究成果を発表する。レパトリーについては各担当教員と相談すること。詳しい日程は別途指示する。

■教材・参考書

■成績評価の方法

演奏実技試験による

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

古楽研究室

修士リサイタル（フォルテピアノ）

代表教員：小倉 貴久子
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：大学院開設科目（器楽）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

修士課程に在学している学生（フォルテピアノ）が、年に1度の公開リサイタルによって、研究の成果を発表する。

■授業計画及び内容

修士課程に在学している間、年に1回の公開リサイタル（学内）によって、その研究成果を発表する。レパトリーについては各担当教員と相談すること。詳しい日程は別途指示する。

■教材・参考書

■成績評価の方法

演奏実技試験による

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

古楽研究室

専攻外古楽実習（大学院）

代表教員：野々下 由香里
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：大学院開設科目（器楽）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

主に古楽科大学院生を対象とし、専門以外の古楽器演奏法の基礎を学ぶことを目的とする。

■授業計画及び内容

下記の8つの専修を含むが、これは教授能力に余力のある時のみ開設される。内容については、各楽器の副科実技の項を参照のこと。

バロック声楽
バロックチェロ
フォルテピアノ
チェンバロ
バロックバイオリン
フラウトラヴェルソ
バロックオーボエ
ヴィオラ・ダ・ガンバ

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

古楽研究室

履修登録：大学院生（原則として履修は1年間のみ）

専攻実技 (O r g) I

代表教員：廣江 理枝

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（器楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

学部で修得した基本的成果をもとに、理論的研究と演奏実践を深め、レパートリーを広げ、より高度なものとする。視野を広げると共に、特定の課題に絞ってさらに深く研究する。

■授業計画及び内容

研究課題を自主的に設定し、楽器、作品様式の研究、演奏法の実践的訓練から、多角的に研究していく。

■教材・参考書

担当教員と意見交換により適宜定める。

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

専攻実技 (O r g) II

代表教員：廣江 理枝

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（器楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

学部で修得した基本的成果をもとに、理論的研究と演奏実践を深め、レパートリーを広げ、より高度なものとする。視野を広げると共に、特定の課題に絞ってさらに深く研究する。

■授業計画及び内容

研究課題を自主的に設定し、楽器、作品様式の研究、演奏法の実践的訓練から、多角的に研究していく。

■教材・参考書

担当教員と意見交換により適宜定める。

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

専攻実技（古楽）Ⅰ

代表教員：野々下 由香里

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（器楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

古楽演奏家としてのより専門的な演奏技術ならびに表現力の向上を目指す

■授業計画及び内容

授業の概要

・バロック声楽：発音・共鳴・支えのバランスを考慮しながら、ヴィブラートのコントロールの仕方、音律やピッチを考えた音程の取り方、装飾や即興を反映させた演奏を指導する。

・バロックヴァイオリン：1600年頃から1800年頃のヴァイオリンのレパートリーにおいて、その時代の様式に適した演奏を実践する。

・リコーダー：中世、ルネッサンス、バロック、現代に至るまで幅広いレパートリーを持つリコーダーの演奏法とその音楽を各時代の様式とともに学び、真のプロフェッショナルを育成する。

・チェンバロ：より専門的なチェンバロの演奏技術を身につけ、歴史的な観点から各時代各地域の作品演奏に求められる個々の特殊な表現方法について研究する。

・フォルテピアノ：1700年頃発明されたピアノから現代のピアノになるまでの200年間の重要なピアノレパートリーを、それらの作品を生み出したフォルテピアノでの演奏スタイル、構造、時代背景などを学びながら、作品の本質に迫る。

・バロックチェロ：17世紀後半～18世紀を中心としたチェロのレパートリーを習得すること。時代や地域によって異なる演奏様式を理解し演奏できるようにすること。

バロックオルガン：17～18世紀のオルガンレパートリーを中心に、当時の楽器の特性に注目しつつ、ふさわしい演奏法を研究する。

・修士リサイタル・学位審査会で研究成果を発表する。

授業計画

- ・教員が学生を一人ずつ担当し、個人レッスンを行う。
- ・学生一人一人の能力に応じて目標設定し、適宜個々の学生にふさわしい課題を選択し、指導する。

■教材・参考書

- ・授業時に適宜指示する。

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

専攻実技（古楽）Ⅱ

代表教員：野々下 由香里

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（器楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

古楽演奏家としてのより専門的な演奏技術ならびに表現力の向上を目指す

■授業計画及び内容

授業の概要

・バロック声楽：発音・共鳴・支えのバランスを考慮しながら、ヴィブラートのコントロールの仕方、音律やピッチを考えた音程の取り方、装飾や即興を反映させた演奏を指導する。

・バロックヴァイオリン：1600年頃から1800年頃のヴァイオリンのレパートリーにおいて、その時代の様式に適した演奏を実践する。

・リコーダー：中世、ルネッサンス、バロック、現代に至るまで幅広いレパートリーを持つリコーダーの演奏法とその音楽を各時代の様式とともに学び、真のプロフェッショナルを育成する。

・チェンバロ：より専門的なチェンバロの演奏技術を身につけ、歴史的な観点から各時代各地域の作品演奏に求められる個々の特殊な表現方法について研究する。

・フォルテピアノ：1700年頃発明されたピアノから現代のピアノになるまでの200年間の重要なピアノレパートリーを、それらの作品を生み出したフォルテピアノでの演奏スタイル、構造、時代背景などを学びながら、作品の本質に迫る。

・バロックチェロ：17世紀後半～18世紀を中心としたチェロのレパートリーを習得すること。時代や地域によって異なる演奏様式を理解し演奏できるようにすること。

バロックオルガン：17～18世紀のオルガンレパートリーを中心に、当時の楽器の特性に注目しつつ、ふさわしい演奏法を研究する。

・修士リサイタル・学位審査会で研究成果を発表する。

授業計画

- ・教員が学生を一人ずつ担当し、個人レッスンを行う。
- ・学生一人一人の能力に応じて目標設定し、適宜個々の学生にふさわしい課題を選択し、指導する。

■教材・参考書

- ・授業時に適宜指示する。

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

博士専門科目（古楽）Ⅰ

代表教員：野々下 由香里

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（器楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

・古楽器・バロック声楽について、修士課程より専門的な演奏技術・表現力の習得をめざす。

■授業計画及び内容

授業の概要

・バロック声楽：発音・共鳴・支えのバランスを考慮しながら、ヴィブラートのコントロールの仕方、音律やピッチを考えた音程の取り方、装飾や即興を反映させた演奏を指導する。

・バロックヴァイオリン：1600年頃から1800年頃のヴァイオリンのレパートリーにおいて、その時代の様式に適した演奏を実践する。

・リコーダー：中世、ルネッサンス、バロック、現代に至るまで幅広いレパートリーを持つリコーダーの演奏法とその音楽を各時代の様式とともに学び、真のプロフェッショナルを育成する。

・チェンバロ：より専門的なチェンバロの演奏技術を身につけ、歴史的な観点から各時代各地域の作品演奏に求められる個々の特殊な表現方法について研究する。

・フォルテピアノ：1700年頃発明されたピアノから現代のピアノになるまでの200年間の重要なピアノレパートリーを、それらの作品を生み出したフォルテピアノでの演奏スタイル、構造、時代背景などを学びながら、作品の本質に迫る。

・バロックチェロ：17世紀後半～18世紀を中心としたチェロのレパートリーを習得すること。時代や地域によって異なる演奏様式を理解し演奏できるようにすること。

バロックオルガン：17～18世紀のオルガンレパートリーを中心に、当時の楽器の特性に注目しつつ、ふさわしい演奏法を研究する。

授業計画

・教員が学生を一人ずつ担当し、個人レッスンを行う。

・研究の進展に従って、自分自身でコーディネートした「博士リサイタル」を年に一度開催することで成果を発表する。

■教材・参考書

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

博士専門科目（古楽）Ⅱ

代表教員：野々下 由香里

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（器楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

・古楽器・バロック声楽について、修士課程より専門的な演奏技術・表現力の習得をめざす。

■授業計画及び内容

授業の概要

・バロック声楽：発音・共鳴・支えのバランスを考慮しながら、ヴィブラートのコントロールの仕方、音律やピッチを考えた音程の取り方、装飾や即興を反映させた演奏を指導する。

・バロックヴァイオリン：1600年頃から1800年頃のヴァイオリンのレパートリーにおいて、その時代の様式に適した演奏を実践する。

・リコーダー：中世、ルネッサンス、バロック、現代に至るまで幅広いレパートリーを持つリコーダーの演奏法とその音楽を各時代の様式とともに学び、真のプロフェッショナルを育成する。

・チェンバロ：より専門的なチェンバロの演奏技術を身につけ、歴史的な観点から各時代各地域の作品演奏に求められる個々の特殊な表現方法について研究する。

・フォルテピアノ：1700年頃発明されたピアノから現代のピアノになるまでの200年間の重要なピアノレパートリーを、それらの作品を生み出したフォルテピアノでの演奏スタイル、構造、時代背景などを学びながら、作品の本質に迫る。

・バロックチェロ：17世紀後半～18世紀を中心としたチェロのレパートリーを習得すること。時代や地域によって異なる演奏様式を理解し演奏できるようにすること。

バロックオルガン：17～18世紀のオルガンレパートリーを中心に、当時の楽器の特性に注目しつつ、ふさわしい演奏法を研究する。

授業計画

・教員が学生を一人ずつ担当し、個人レッスンを行う。

・研究の進展に従って、自分自身でコーディネートした「博士リサイタル」を年に一度開催することで成果を発表する。

■教材・参考書

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

博士特別研究（古楽）Ⅰ

代表教員：野々下 由香里
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：大学院開設科目（器楽）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

「博士特別研究」は、博士リサイタルをもってあてる。

■授業計画及び内容

博士課程に在学している学生が、研究の進展に基づいて、年に1度の公開リサイタルを開催し、研究成果を発表する。レパートリーについて各担当教員と相談するが、リサイタルすべてを学生自身がコーディネートする。
詳しい日程は別途指示する。

■教材・参考書

■成績評価の方法

演奏実技試験による

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

古楽研究室

博士特別研究（古楽）Ⅱ

代表教員：野々下 由香里
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：大学院開設科目（器楽）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

「博士特別研究」は、博士リサイタルをもってあてる。

■授業計画及び内容

博士課程に在学している学生が、研究の進展に基づいて、年に1度の公開リサイタルを開催し、研究成果を発表する。レパートリーについて各担当教員と相談するが、リサイタルすべてを学生自身がコーディネートする。
詳しい日程は別途指示する。

■教材・参考書

■成績評価の方法

演奏実技試験による

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

古楽研究室

伴奏実技演習

代表教員：東 誠三

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（器楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

声楽・器楽伴奏の実習

■授業計画及び内容

他専攻の学生（声楽・器楽）のレッスンに伴奏者として参加し、伴奏の実技経験をつむ。

■教材・参考書

独奏（唱）者のレッスン曲

■成績評価の方法

参加したレッスンの出席回数による。

■履修上の指示事項

履修表を携行し、独奏（唱）者の担当教員より出席のサインをもらうこと。十分な準備をしてレッスンに臨むこと。

■備考（オフィスアワー）

大学院開設科目（指揮）

指揮演習

代表教員：尾高 忠明

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（指揮）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

高度なバトンテクニック、深い演奏解釈及び効率のよいリハーサルテクニックを、レッスンを通じて身につける。

■授業計画及び内容

- ・平常のレッスンは2台ピアノによる。
- ・学年末に芸大フィルハーモニアによるオーケストラ実習をおこなう。

■教材・参考書

オーケストラスコア

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

指揮楽書特殊研究

代表教員：尾高 忠明

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（指揮）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

西洋音楽に関係する文献を研究する。

■授業計画及び内容

ギリシャ神話、ケルト伝説、聖書、シェイクスピア等の文献及び、それらにかかわる音楽作品の演奏解釈について研究する。

■教材・参考書

授業時に指示する。

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

平常点

指揮実習

代表教員：尾高 忠明

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（指揮）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

オーケストラ・リハーサルに必要なテクニックを現場において学習する。

■授業計画及び内容

芸大フィルハーモニアのリハーサルの立ち会い、及び必要に応じてアシスタント（副指揮者）

■教材・参考書

オーケストラスコア

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

指揮特殊研究（1）

代表教員：尾高 忠明

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（指揮）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

交響曲、管弦楽曲の演奏解釈及び指揮法について学習する。

■授業計画及び内容

ロマン派以降、特に近代の管弦楽作品の研究。
ブルックナー、マーラー、バルトーク、R. シュトラウス、ドビュッシー、ラヴェル等を中心に取り上げる。

■教材・参考書

オーケストラスコア 他

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

授業時に指示する

指揮特殊研究（2）

代表教員：尾高 忠明

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（指揮）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

オペラ、バレエを中心とした舞台作品の演奏解釈、及び指揮法について学習する。

■授業計画及び内容

舞台作品の指揮において起こりうる、様々な問題も含め、指揮者として必要な知識を身につけることを目的とする。

モーツァルト、ヴェルディ、プッチーニ、ヴァグナー、R. シュトラウス、チャイコフスキー、ストラヴィンスキー等を中心に取り上げる。

■教材・参考書

オーケストラスコア 他

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

授業時に指示する

大学院開設科目（邦楽）

三味線音楽関連実技

代表教員：小島 直文

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

邦楽の他専攻の基礎的知識、実技。

■授業計画及び内容

邦楽の他専攻の演奏実技及び曲の理解を深めることで、専門分野の視野を広げる。

■教材・参考書

■成績評価の方法

出席を考慮した平常点と試験の成果。

■履修上の指示事項

三味線音楽・邦楽囃子の修士学生対象

■備考（オフィスアワー）

時間などは担当教員の指示による。

箏曲実技（演奏）論

代表教員：萩岡 松韻

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

注意！●●●平成24年度は開講しない●●●

■授業計画及び内容

担当教官の指示による。

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

4年に一度の開講のため学生は気をつけること（次回26年度）

■備考（オフィスアワー）

日本舞踊関連実技

代表教員：露木 雅弥

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

専攻以外の関連実技の研究

■授業計画及び内容

それぞれの実技の個人指導

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

平常点及び実技採点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

能楽関連実技

代表教員：武田 孝史

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

専攻以外の能楽の研究

■授業計画及び内容

それぞれの実技の個人指導

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

平常点及び実技採点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

能楽関連実技

代表教員：関根 知孝
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：大学院開設科目（邦楽）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

専攻以外の能楽の研究

■授業計画及び内容

それぞれの実技の個人指導

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

平常点および実技採点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

博士専門科目（邦楽） I

代表教員：盧 慶順
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：大学院開設科目（邦楽）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

論文の個人指導

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

博士専門科目（邦楽）Ⅱ

代表教員：盧 慶順

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

論文の個人指導

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

博士特別研究（邦楽）Ⅰ

代表教員：盧 慶順

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

専攻楽器の通常レッスン、博士リサイタル

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

博士特別研究（邦楽）Ⅱ

代表教員：盧 慶順

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

専攻楽器の通常レッスン、博士リサイタル

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽アンサンブル実習（清元）Ⅰ

代表教員：味見 純

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

清元・清元三味線の創作理論、技術の確立
音楽的な相違の理解及び応用技術の習得

■授業計画及び内容

個人指導による技術習得

テーマに沿った創作実技専修

■教材・参考書

清元浄瑠璃譜本・清元三味線譜本

■成績評価の方法

出席を考慮した演奏会に於ける評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽アンサンブル実習（清元）Ⅱ

代表教員：味見 純

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

清元・清元三味線の創作理論、技術の確立
音楽的な相違の理解及び応用技術の習得

■授業計画及び内容

個人指導による技術習得

テーマに沿った創作実技専修

■教材・参考書

清元浄瑠璃譜本・清元三味線譜本

■成績評価の方法

出席を考慮した演奏会に於ける評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽アンサンブル実習（清元三味線）

I

代表教員：小島 直文

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

高度な演奏形式及び技法の習得

■授業計画及び内容

専門分野の合奏

①三味線本手・替手・上調子

②三味線と長唄

③三味線と長唄と邦楽囃子古典の正確な伝承

■教材・参考書

適宜

■成績評価の方法

出席を考慮した演奏会に於ける評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽アンサンブル実習（清元三味線）

Ⅱ

代表教員：小島 直文
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：3
ジャンル：大学院開設科目（邦楽）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

高度な演奏形式及び技法の習得

■授業計画及び内容

専門分野の合奏

- ①三味線本手・替手・上調子
- ②三味線と長唄
- ③三味線と長唄と邦楽囃子古典の正確な伝承

■教材・参考書

適宜

■成績評価の方法

出席を考慮した演奏会に於ける評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽アンサンブル実習（尺八）Ⅰ

代表教員：徳丸 裕二
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：3
ジャンル：大学院開設科目（邦楽）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

様々な演奏形態による尺八音楽の技法の習得

■授業計画及び内容

重奏形式の尺八曲をはじめ、箏曲等他の楽器との合奏曲を通じ、より高度な演奏技術の習得をめざす

■教材・参考書

適宜指示する

■成績評価の方法

平常点及び実技

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽アンサンブル実習（尺八）Ⅰ

代表教員：藤原 圭太

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

様々な演奏形態による尺八音楽の技法の習得

■授業計画及び内容

重奏形式の尺八曲をはじめ、箏曲等他の楽器との合奏曲を通じ、より高度な演奏技術の習得をめざす。

■教材・参考書

適宜指示する

■成績評価の方法

平常点及び実技

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽アンサンブル実習（尺八）Ⅱ

代表教員：藤原 圭太

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

様々な演奏形態による尺八音楽の技法の習得

■授業計画及び内容

重奏形式の尺八曲をはじめ、箏曲等他の楽器との合奏曲を通じ、より高度な演奏技術の習得をめざす。

■教材・参考書

適宜指示する

■成績評価の方法

平常点及び実技

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽アンサンブル実習（尺八）Ⅱ

代表教員：徳丸 裕二

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

様々な演奏形態による尺八音楽の技法の習得

■授業計画及び内容

重奏形式の尺八曲をはじめ、箏曲等他の楽器との合奏曲を通じ、より高度な演奏技術の習得をめざす

■教材・参考書

適宜指示する

■成績評価の方法

平常点及び実技

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽アンサンブル実習（箏曲（生田流））

I

代表教員：吉川 さとみ

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

生田流箏曲のアンサンブル

■授業計画及び内容

箏・三味線・十七絃・歌・尺八などによる合奏および伴奏法についての研究を行い、定期演奏会、卒業演奏会、学内演奏会、総合実習、学内外における依頼演奏などの舞台を通じてその成果を実践する。

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

達成度による。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

メールで問い合わせること。

邦楽アンサンブル実習(箏曲(生田流))

Ⅱ

代表教員：吉川 さとみ
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：3
ジャンル：大学院開設科目（邦楽）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

生田流箏曲のアンサンブル

■授業計画及び内容

箏・三味線・十七絃・歌・尺八などによる合奏および伴奏法についての研究を行い、定期演奏会、卒業演奏会、学内演奏会、総合実習、学内外における依頼演奏などの舞台を通じてその成果を実践する。

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

達成度による。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

メールで問い合わせること。

邦楽アンサンブル実習(箏曲(山田流))

Ⅰ

代表教員：萩岡 松韻
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：3
ジャンル：大学院開設科目（邦楽）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

様々な演奏形態によるアンサンブル

■授業計画及び内容

三曲合奏形式により高度な演奏技術の習得をめざす。

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

平常点及び実技

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽アンサンブル実習(箏曲(山田流))

Ⅱ

代表教員：萩岡 松韻
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：3
ジャンル：大学院開設科目（邦楽）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

様々な演奏形態によるアンサンブル

■授業計画及び内容

三曲合奏形式により高度な演奏技術の習得をめざす。

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

平常点及び実技

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽アンサンブル実習（常磐津）Ⅰ

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：3
ジャンル：大学院開設科目（邦楽）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

常磐津・常磐津三味線の創作理論、技術の確立
音楽的な相違の理解及び応用技術の習得

■授業計画及び内容

個人指導による技術習得
テーマに沿った創作実技専修

■教材・参考書

常磐津浄瑠璃譜本・常磐津三味線譜本

■成績評価の方法

出席を考慮した演奏会に於ける評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽アンサンブル実習（常磐津）Ⅱ

代表教員：味見 純

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

常磐津・常磐津三味線の創作理論、技術の確立
音楽的な相違の理解及び応用技術の習得

■授業計画及び内容

個人指導による技術習得

テーマに沿った創作実技専修

■教材・参考書

常磐津浄瑠璃譜本・常磐津三味線譜本

■成績評価の方法

出席を考慮した演奏会に於ける評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽アンサンブル実習（常磐津三味線）

I

代表教員：小島 直文

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

常磐津・常磐津三味線の創作理論、技術の確立
音楽的な相違の理解及び応用技術の習得

■授業計画及び内容

個人指導による技術習得

テーマに沿った創作実技専修

■教材・参考書

常磐津浄瑠璃譜本・常磐津三味線譜本

■成績評価の方法

出席を考慮した演奏会に於ける評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽アンサンブル実習(常磐津三味線)

Ⅱ

代表教員：小島 直文
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：3
ジャンル：大学院開設科目（邦楽）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

常磐津・常磐津三味線の創作理論、技術の確立
音楽的な相違の理解及び応用技術の習得

■授業計画及び内容

個人指導による技術習得
テーマに沿った創作実技専修

■教材・参考書

常磐津浄瑠璃譜本・常磐津三味線譜本

■成績評価の方法

出席を考慮した演奏会に於ける評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽アンサンブル実習（長唄）Ⅰ

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：3
ジャンル：大学院開設科目（邦楽）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

高度な演奏形式及び技法の習得

■授業計画及び内容

専門分野の合奏

- ①三味線と長唄
- ②三味線と長唄と邦楽囃子古典の正確な伝承

■教材・参考書

適宜

■成績評価の方法

出席を考慮した演奏会に於ける評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽アンサンブル実習（長唄）Ⅱ

代表教員：味見 純

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

高度な演奏形式及び技法の習得

■授業計画及び内容

専門分野の合奏

- ①三味線と長唄
- ②三味線と長唄と邦楽囃子古典の正確な伝承

■教材・参考書

適宜

■成績評価の方法

出席を考慮した演奏会に於ける評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽アンサンブル実習（長唄三味線）

I

代表教員：小島 直文

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

高度な演奏形式及び技法の習得

■授業計画及び内容

専門分野の合奏

- ①三味線本手・替手・上調子
- ②三味線と長唄
- ③三味線と長唄と邦楽囃子古典の正確な伝承

■教材・参考書

適宜

■成績評価の方法

出席を考慮した演奏会に於ける評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽アンサンブル実習（長唄三味線）

Ⅱ

代表教員：小島 直文
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：3
ジャンル：大学院開設科目（邦楽）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

高度な演奏形式及び技法の習得

■授業計画及び内容

専門分野の合奏

- ①三味線本手・替手・上調子
- ②三味線と長唄
- ③三味線と長唄と邦楽囃子古典の正確な伝承

■教材・参考書

適宜

■成績評価の方法

出席を考慮した演奏会に於ける評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽アンサンブル実習（日本舞踊）Ⅰ

代表教員：露木 雅弥
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：3
ジャンル：大学院開設科目（邦楽）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

高度な日本舞踊技法の習得

■授業計画及び内容

様々な様式による創作舞踊の研究

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

平常点及び実技採点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽アンサンブル実習（日本舞踊）Ⅱ

代表教員：露木 雅弥

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

高度な日本舞踊技法の習得

■授業計画及び内容

様々な様式による創作舞踊の研究

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

平常点及び実技採点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽アンサンブル実習（邦楽囃子）

代表教員：盧 慶順

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

現代邦楽の技術の確立

音楽的な相違の理解及び応用技術の習得

■授業計画及び内容

個人指導、アンサンブル指導による技術習得

テーマに沿った創作実技

■教材・参考書

■成績評価の方法

出席を考慮しながら平常点重視の評価

■履修上の指示事項

笛専攻の学生は、現代邦楽(笛)担当教員の指導を受けること。

■備考（オフィスアワー）

邦楽アンサンブル実習（邦楽囃子）Ⅰ

代表教員：盧 慶順

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

邦楽囃子の創作理論、技術の確立
音楽的な相違の理解及び応用技術の習得

■授業計画及び内容

個人指導による技術習得
テーマに沿った創作実技専

■教材・参考書

■成績評価の方法

出席を考慮しながら平常点重視の評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽アンサンブル実習（邦楽囃子）Ⅱ

代表教員：盧 慶順

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

邦楽囃子の創作理論、技術の確立
音楽的な相違の理解及び応用技術の習得

■授業計画及び内容

個人指導による技術習得
テーマに沿った創作実技専

■教材・参考書

■成績評価の方法

出席を考慮しながら平常点重視の評価

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽演習（清元）Ⅰ

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：大学院開設科目（邦楽）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

完成度の高い演奏

■授業計画及び内容

- 履修曲の解析・構成・演出の総合研究
- 高度の演奏技法マスター
- 学部演奏会の助演・伴奏

■教材・参考書

適宜

■成績評価の方法

平常点と実技採点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽演習（清元）Ⅱ

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：大学院開設科目（邦楽）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

完成度の高い演奏

■授業計画及び内容

- 履修曲の解析・構成・演出の総合研究
- 高度の演奏技法マスター
- 学部演奏会の助演・伴奏

■教材・参考書

適宜

■成績評価の方法

平常点と実技採点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽演習（清元三味線）Ⅰ

代表教員：小島 直文

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

完成度の高い演奏

■授業計画及び内容

○履修曲の解析・構成・演出の総合研究

○高度の演奏技法マスター

○学部演奏会の助演・伴奏

■教材・参考書

適宜

■成績評価の方法

平常点と実技採点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽演習（清元三味線）Ⅱ

代表教員：小島 直文

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

完成度の高い演奏

■授業計画及び内容

○履修曲の解析・構成・演出の総合研究

○高度の演奏技法マスター

○学部演奏会の助演・伴奏

■教材・参考書

適宜

■成績評価の方法

平常点と実技採点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽演習（尺八）Ⅰ

代表教員：藤原 圭太

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

よりハイレベルな演奏の実践

■授業計画及び内容

○個人指導により、楽曲の解析等尺八音楽の理解をより深める。

○学部において開催される演奏会の伴奏及び助演

■教材・参考書

適宜指示する

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽演習（尺八）Ⅰ

代表教員：徳丸 裕二

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

よりハイレベルな演奏の実践

■授業計画及び内容

○個人指導により、楽曲の解析等尺八音楽の理解をより深める。

○学部において開催される演奏会の伴奏及び助演

■教材・参考書

適宜指示する

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽演習（尺八）Ⅱ

代表教員：藤原 圭太

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

よりハイレベルな演奏の実践

■授業計画及び内容

○個人指導により、楽曲の解析等尺八音楽の理解をより深める。

○学部において開催される演奏会の伴奏及び助演

■教材・参考書

適宜指示する

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽演習（尺八）Ⅱ

代表教員：徳丸 裕二

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

よりハイレベルな演奏の実践

■授業計画及び内容

○個人指導により、楽曲の解析等尺八音楽の理解をより深める。

○学部において開催される演奏会の伴奏及び助演

■教材・参考書

適宜指示する

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽演習（箏曲（生田流））Ⅰ

代表教員：吉川 さとみ

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

生田流箏曲の解釈と演奏法

■授業計画及び内容

研究の成果は、修士演奏として発表される。

■教材・参考書

■成績評価の方法

達成度による。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

メールで問い合わせること。

邦楽演習（箏曲（生田流））Ⅱ

代表教員：吉川 さとみ

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

生田流箏曲の解釈と演奏法

■授業計画及び内容

研究の成果は、修士演奏として発表される。

■教材・参考書

■成績評価の方法

達成度による。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

メールで問い合わせること。

邦楽演習（箏曲（山田流））Ⅰ

代表教員：萩岡 松韻

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

山田検校の「作歌」を中心にその演奏法について

■授業計画及び内容

「作歌」の中の叙景的・又は物語り性の特徴ある箏歌、箏及び三絃の演奏研究。楽曲の解析等山田流箏曲の理解をより深める。

学部において開催される演奏会の伴奏及び助演

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽演習（箏曲（山田流））Ⅱ

代表教員：萩岡 松韻

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

山田検校の「作歌」を中心にその演奏法について

■授業計画及び内容

「作歌」の中の叙景的・又は物語り性の特徴ある箏歌、箏及び三絃の演奏研究。楽曲の解析等山田流箏曲の理解をより深める。

学部において開催される演奏会の伴奏及び助演

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽演習（常磐津）Ⅰ

代表教員：味見 純

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

完成度の高い演奏

■授業計画及び内容

○履修曲の解析・構成・演出の総合研究

○高度の演奏技法マスター

○学部演奏会の助演・伴奏

■教材・参考書

適宜

■成績評価の方法

平常点と実技採点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽演習（常磐津）Ⅱ

代表教員：味見 純

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

完成度の高い演奏

■授業計画及び内容

○履修曲の解析・構成・演出の総合研究

○高度の演奏技法マスター

○学部演奏会の助演・伴奏

■教材・参考書

適宜

■成績評価の方法

平常点と実技採点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽演習（常磐津三味線）Ⅰ

代表教員：小島 直文

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

完成度の高い演奏

■授業計画及び内容

○履修曲の解析・構成・演出の総合研究

○高度の演奏技法マスター

○学部演奏会の助演・伴奏

■教材・参考書

適宜

■成績評価の方法

平常点と実技採点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽演習（常磐津三味線）Ⅱ

代表教員：小島 直文

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

完成度の高い演奏

■授業計画及び内容

○履修曲の解析・構成・演出の総合研究

○高度の演奏技法マスター

○学部演奏会の助演・伴奏

■教材・参考書

適宜

■成績評価の方法

平常点と実技採点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽演習（長唄）Ⅰ

代表教員：味見 純

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

完成度の高い演奏

■授業計画及び内容

○履修曲の解析・構成・演出の総合研究

○高度の演奏技法マスター

○学部演奏会の助演・伴奏

■教材・参考書

適宜

■成績評価の方法

平常点と実技採点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽演習（長唄）Ⅱ

代表教員：味見 純

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

完成度の高い演奏

■授業計画及び内容

○履修曲の解析・構成・演出の総合研究

○高度の演奏技法マスター

○学部演奏会の助演・伴奏

■教材・参考書

適宜

■成績評価の方法

平常点と実技採点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽演習（長唄三味線）Ⅰ

代表教員：小島 直文

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

完成度の高い演奏

■授業計画及び内容

○履修曲の解析・構成・演出の総合研究

○高度の演奏技法マスター

○学部演奏会の助演・伴奏

■教材・参考書

適宜

■成績評価の方法

平常点と実技採点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽演習（長唄三味線）Ⅱ

代表教員：小島 直文

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

完成度の高い演奏

■授業計画及び内容

○履修曲の解析・構成・演出の総合研究

○高度の演奏技法マスター

○学部演奏会の助演・伴奏

■教材・参考書

適宜

■成績評価の方法

平常点と実技採点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽演習（日本舞踊）Ⅰ

代表教員：露木 雅弥

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

課題曲（履修曲）を決定し、まず手順（踊りの振）をマスターし、自身の表現力を養う。

■授業計画及び内容

個人レッスン及び学部勉強会等を通して舞台構成・創造面を学ぶ。

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

平常点、実技採点

■履修上の指示事項

履修曲は担当教員と相談の上、決定する。

■備考（オフィスアワー）

邦楽演習（日本舞踊）Ⅱ

代表教員：露木 雅弥

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

課題曲（履修曲）を決定し、まず手順（踊りの振）をマスターし、自身の表現力を養う。

■授業計画及び内容

個人レッスン及び学部勉強会等を通して舞台構成・創造面を学ぶ。

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

平常点、実技採点

■履修上の指示事項

履修曲は担当教員と相談の上、決定する。

■備考（オフィスアワー）

邦楽演習（能楽）Ⅰ

代表教員：武田 孝史

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

論文作成のための個人的実技指導

■授業計画及び内容

学生の論文作成テーマに合わせて行われる。

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

平常点及び実技採点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽演習（能楽）Ⅰ

代表教員：関根 知孝

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

論文作成のための個人的実技指導

■授業計画及び内容

学生の論文テーマに合わせて行われる

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

平常点および実技採点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽演習（能楽）Ⅱ

代表教員：関根 知孝

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

論文作成のための個人的実技指導

■授業計画及び内容

学生の論文テーマに合わせて行われる

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

平常点および実技採点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽演習（能楽）Ⅱ

代表教員：武田 孝史

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

論文作成のための個人的実技指導

■授業計画及び内容

学生の論文作成テーマに合わせて行われる。

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

平常点及び実技採点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽演習（能楽囃子）Ⅰ

代表教員：武田 孝史

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

論文作成のための個人的実技指導

■授業計画及び内容

学生の論文作成テーマに合わせて行われる。

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

平常点及び実技採点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽演習（能楽囃子）Ⅱ

代表教員：武田 孝史

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

論文作成のための個人的実技指導

■授業計画及び内容

学生の論文作成テーマに合わせて行われる。

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

平常点及び実技採点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽演習（邦楽囃子）

代表教員：盧 慶順
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：大学院開設科目（邦楽）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

四拍子アンサンブル、三味線音楽アンサンブルに重点を置く完成度の高い演奏技法のマスター
履修曲の解析・構成・演出の総合研究

■授業計画及び内容

個人レッスン及び学部演奏会等の助演伴奏を通じて実習

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

平常点と実技採点

■履修上の指示事項

履修曲は担当教員と相談の上決定

■備考（オフィスアワー）

邦楽演習（邦楽囃子） I

代表教員：盧 慶順
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：大学院開設科目（邦楽）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

四拍子アンサンブル、三味線音楽アンサンブルに重点を置く完成度の高い演奏技法のマスター
履修曲の解析・構成・演出の総合研究

■授業計画及び内容

個人レッスン及び学部演奏会等の助演伴奏を通じて実習

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

平常点と実技採点

■履修上の指示事項

履修曲は担当教員と相談の上決定

■備考（オフィスアワー）

邦楽演習（邦楽囃子）Ⅱ

代表教員：盧 慶順

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

四拍子アンサンブル、三味線音楽アンサンブルに重点を置く完成度の高い演奏技法のマスター
履修曲の解析・構成・演出の総合研究

■授業計画及び内容

個人レッスン及び学部演奏会等の助演伴奏を通じて
実習

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

平常点と実技採点

■履修上の指示事項

履修曲は担当教員と相談の上決定

■備考（オフィスアワー）

邦楽合奏関連実技

代表教員：盧 慶順

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

担当教官の指示による。

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽実習（能楽）Ⅰ

代表教員：武田 孝史
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：3
ジャンル：大学院開設科目（邦楽）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

論文作成のための個人指導

■授業計画及び内容

学生の論文に合わせて行われる。

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

平常点及び実技採点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽実習（能楽）Ⅱ

代表教員：武田 孝史
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：3
ジャンル：大学院開設科目（邦楽）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

論文作成のための個人指導

■授業計画及び内容

学生の論文に合わせて行われる。

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

平常点及び実技採点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽実習（能楽囃子）Ⅰ

代表教員：武田 孝史

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

論文作成のための個人指導

■授業計画及び内容

学生の論文に合わせて行われる。

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

平常点及び実技採点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽実習（能楽囃子）Ⅱ

代表教員：武田 孝史

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

論文作成のための個人指導

■授業計画及び内容

学生の論文に合わせて行われる。

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

平常点及び実技採点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽特殊研究（1）Ⅰ

代表教員：小島 直文

曜日時限：木曜1限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

長唄三味線の総合研究

■授業計画及び内容

- 長唄三味線音楽の技法と演習
- 長唄三味線音楽の構成と演出の研究
- 長唄三味線音楽の総譜（スコア）の研究
- 大学院習得曲の実技個人指導

■教材・参考書

特定なし

■成績評価の方法

出席率と演奏実習

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽特殊研究（1）Ⅱ

代表教員：小島 直文

曜日時限：木曜1限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

長唄三味線の総合研究

■授業計画及び内容

- 長唄三味線音楽の技法と演習
- 長唄三味線音楽の構成と演出の研究
- 長唄三味線音楽の総譜（スコア）の研究
- 大学院習得曲の実技個人指導

■教材・参考書

特定なし

■成績評価の方法

出席率と演奏実習

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽特殊研究（2）Ⅰ

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：大学院開設科目（邦楽）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

各種三味線音楽の研究

■授業計画及び内容

- （1）専攻外三味線音楽の技術と特殊性の研究
- （2）専攻曲の総譜の作成
- （3）専門書の購読
- （4）個人指導による

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

出席率と演奏実習

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽特殊研究（2）Ⅱ

代表教員：味見 純
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：大学院開設科目（邦楽）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

各種三味線音楽の研究

■授業計画及び内容

- （1）専攻外三味線音楽の技術と特殊性の研究
- （2）専攻曲の総譜の作成
- （3）専門書の購読
- （4）個人指導による

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

出席率と演奏実習

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽特殊研究（3）Ⅰ

代表教員：吉川 さとみ

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

生田流箏曲の総合研究

■授業計画及び内容

個々のテーマにそった論文指導。毎回レポートを提出し、それを基にしてディスカッションを行う。

■教材・参考書

安藤政輝著『生田流の箏曲』（講談社発行）

■成績評価の方法

達成度による。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

メールで問い合わせること。

邦楽特殊研究（3）Ⅱ

代表教員：吉川 さとみ

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

生田流箏曲の総合研究

■授業計画及び内容

個々のテーマにそった論文指導。毎回レポートを提出し、それを基にしてディスカッションを行う。

■教材・参考書

安藤政輝著『生田流の箏曲』（講談社発行）

■成績評価の方法

達成度による。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

メールで問い合わせること。

邦楽特殊研究（４）Ⅰ

代表教員：萩岡 松韻

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

山田流箏曲の楽曲の研究

■授業計画及び内容

修士論文指導

実技を伴う個人指導とする。

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽特殊研究（４）Ⅱ

代表教員：萩岡 松韻

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

山田流箏曲の楽曲の研究

■授業計画及び内容

修士論文指導

実技を伴う個人指導とする。

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽特殊研究（5）Ⅰ

代表教員：徳丸 裕二

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

琴古流尺八音楽の研究

■授業計画及び内容

- 琴古流尺八音楽の技法と奏法の研究
 - 他流派の尺八音楽の技法と奏法の研究
 - 専門書の講読
 - 修士論文指導
- 実技を伴う個人指導とする。

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽特殊研究（5）Ⅱ

代表教員：徳丸 裕二

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

琴古流尺八音楽の研究

■授業計画及び内容

- 琴古流尺八音楽の技法と奏法の研究
 - 他流派の尺八音楽の技法と奏法の研究
 - 専門書の講読
 - 修士論文指導
- 実技を伴う個人指導とする。

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽特殊研究（6）Ⅰ

代表教員：藤原 圭太

曜日時限：水曜3限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

都山流尺八音楽の研究

■授業計画及び内容

- 都山流尺八音楽の技法と奏法の研究
 - 他流派の尺八音楽の技法と奏法の研究
 - 専門書の講読
 - 修士論文指導
- 実技を伴う個人指導とする。

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽特殊研究（6）Ⅱ

代表教員：藤原 圭太

曜日時限：水曜3限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（邦楽）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

都山流尺八音楽の研究

■授業計画及び内容

- 都山流尺八音楽の技法と奏法の研究
 - 他流派の尺八音楽の技法と奏法の研究
 - 専門書の講読
 - 修士論文指導
- 実技を伴う個人指導とする。

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

邦楽特殊研究（9）Ⅰ

代表教員：盧 慶順
曜日時限：火曜3限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：大学院開設科目（邦楽）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

邦楽囃子音楽の技法と研究三味線音楽スコアの作成

■授業計画及び内容

- ①専攻楽器外の技法と研究
- ②専攻曲の各楽器のアンサンブル研究

授業方法

個人指導
アンサンブル指導

■教材・参考書

特定せず

■成績評価の方法

平常点及び実技採点

■履修上の指示事項

譜本・楽器等は、本人が用意する。

■備考（オフィスアワー）

論文指導もこの授業です。邦楽囃子（笛）の専攻生も受講する事。

邦楽特殊研究（9）Ⅱ

代表教員：盧 慶順
曜日時限：火曜3限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：大学院開設科目（邦楽）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

邦楽囃子音楽の技法と研究三味線音楽スコアの作成

■授業計画及び内容

- ①専攻楽器外の技法と研究
- ②専攻曲の各楽器のアンサンブル研究

授業方法

個人指導
アンサンブル指導

■教材・参考書

特定せず

■成績評価の方法

平常点及び実技採点

■履修上の指示事項

譜本・楽器等は、本人が用意する。

■備考（オフィスアワー）

論文指導もこの授業です。邦楽囃子（笛）の専攻生も受講する事。

邦楽特殊研究（10）Ⅰ

代表教員：露木 雅弥
曜日時限：火曜3限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：大学院開設科目（邦楽）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

前期に1曲、後期に1曲、出来れば2曲の作品を決めて、舞台上演する場合を総合的に研究し、発表する。

■授業計画及び内容

- ①歌詞と振付けとの分析
- ②課題曲の舞台装置、照明、衣裳、小道具等、上演に必要な事を全て整えられるようにする。

授業方法
個人指導

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

平常点、実技採点

■履修上の指示事項

必要な音楽等、本人が用意する。

■備考（オフィスアワー）

邦楽特殊研究（10）Ⅱ

代表教員：露木 雅弥
曜日時限：火曜3限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：大学院開設科目（邦楽）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

前期に1曲、後期に1曲、出来れば2曲の作品を決めて、舞台上演する場合を総合的に研究し、発表する。

■授業計画及び内容

- ①歌詞と振付けとの分析
- ②課題曲の舞台装置、照明、衣裳、小道具等、上演に必要な事を全て整えられるようにする。

授業方法
個人指導

■教材・参考書

特定しない

■成績評価の方法

平常点、実技採点

■履修上の指示事項

必要な音楽等、本人が用意する。

■備考（オフィスアワー）

大学院開設科目（音楽文化学）

「ソルフェージュ実技」研究（１）

代表教員：糀場 富美子

曜日時限：月曜３限

学 期：通年

単 位 数：４

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

大学院レベルでのより高度で包括的なソルフェージュ能力を培うための実技を主体とした授業を行う。

■授業計画及び内容

ソルフェージュ指導者に必要な総合的な音楽力を培うために、さまざまな視点から実技を主体とした授業を行う。

ソルフェージュ教材研究を行い、課題作成および指導法を中心に学ぶ。また初見視奏、スコアリーディング、移調奏等の実技の向上も目指し、音楽的教養を習得したソルフェージュ教育者、研究者として総合的なソルフェージュ力を身につける事を目的とする。

■教材・参考書

授業の度に指示する。

■成績評価の方法

実技能力の上達度、授業態度、出席率など平常点など総合的に評価する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

月曜１２時１０分から１３時 ソルフェージュ教員室にて

「ソルフェージュ実技」研究（２）

代表教員：三ツ石 潤司

曜日時限：木曜３限

学 期：通年

単 位 数：４

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

大学院レベルでのより高度なソルフェージュ能力を培うための実技を主体とした授業。

■授業計画及び内容

ピアノ演奏を中心とした包括的なソルフェージュ能力の開発を目的とする。具体的内容としては、多様な伴奏法、歌曲、オペラなどのコレペティートルに必要な声楽作品の理解と伴奏法の実践、初見視奏、移調、通奏低音、スコアリーディング、西洋の言語と音楽との結びつきについての講義なども行う。

■教材・参考書

授業の際にその都度指示する。

■成績評価の方法

実技能力の向上の成果と授業態度、出席率などの平常点を加味した総合的評価。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

木曜日１２時４０分から１３時までソルフェージュ教員室にて。

応用音楽学演習（1-1）

代表教員：畑 瞬一郎

曜日時限：月曜3限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

【芸術文化論】芸術文化の諸問題を考察するゼミナール

keyword：音楽史・音楽興行史・舞台芸術

■授業計画及び内容

芸術文化は広義の文化の一側面を構成していると言えるが、他の社会事象から独立して存存する対象ではない。それゆえ、芸術活動には経済・思想・政治・心理など社会の様々な要素が反映されているし、またこれらは相互に影響をあたえあっている。

この演習ではおもに社会（文化）と芸術の関係を中心テーマとし、芸術文化に関連した諸問題を考察していく。

《今年度のテーマ》

地域公共ホールの活用は、その地に暮らす住民のみならず、音楽家にとっても、また自治体職員にとっても重要な課題のひとつとなっている。とりわけ、文化活動の質と量がすでに一定レベルにある大都市圏を離れ、地方都市のおかれた実態を見ると、そこでの文化活動には多くの問題が認められるとともに、大きな可能性が残されていることにも気がつく。今年度も、引き続きある地方都市の協力のもとに、コンサート等の音楽芸術を通じた町づくりを学生諸君とともに＜思考＝試行＞する。

■教材・参考書

■成績評価の方法

平常点とレポート等により成績評価を行なう。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

応用音楽学演習（1-2）

代表教員：畑 瞬一郎

曜日時限：水曜2限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

【音楽応用論】芸術文化の諸問題を考察するゼミナール

音楽療法の理論的側面の探求、実践と理論の橋渡しのための議論を重視する。

keyword：音楽理論・音楽療法・臨床音楽

■授業計画及び内容

芸術文化は広義の文化の一側面を構成していると言えるが、他の社会事象から独立して存在する対象ではない。それゆえ、芸術活動には経済・思想・政治・心理など社会の様々な要素が反映されているし、またこれらは相互に影響をあたえあっている。

この演習ではおもに人の精神と芸術の関係を中心テーマとし、音楽療法の諸理論を検討の題材としつつ、芸術文化に関連した諸問題を考察していく。

《本年度のテーマ》

音楽を中心とした芸術療法について臨床からの知見と理論を結びつけ、音楽療法の現場にいかすための方法論を考察する。とりわけ児童領域において、発達段階に合った音楽の活用法に注目してみたい。

■教材・参考書

使用するテキスト類は、受講生と相談して決める。

■成績評価の方法

平常点とレポートにより成績評価を行なう。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

水曜日 12:00～13:00

（メール等による事前予約が望ましい [メールアドレスは G-net シラバスに記載]）

応用音楽学演習（3）

代表教員：枝川 明敬

曜日時限：水曜5限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

芸術文化活動を経営学及び経済学の諸理論・手法からの検討並びに文化施設の運営に関する討議

■授業計画及び内容

芸術文化活動が盛んになるにつれ、先進国を中心に、急速にその必要性が認識されるようになってきた「芸術経営＝アート・マネージメント」は、広義には「芸術家の持つ創造性」「聴衆を中心とする社会」「これらを支える基盤」との間の連携・接続の機能全般として考えられているが、多分にこれらは国・地方政府の文化政策と極めて密接に関係している。本講は、今日の芸術・文化の問題点を踏まえながら、芸術経営の理念と役割、その制度的枠組み、芸術・文化支援活動の実態などを考察するとともに、実演芸術を中心に、劇場、ホール等の歴史と運営方法を考え、近年地方において多く開設されている文化会館等の文化施設の果たすべき機能を検討しながら地域文化振興の現状とあり方に触れる。

■教材・参考書

教材：必要に応じ資料を配布する。

枝川明敬『新時代の文化振興論』小学館スクウェア、枝川明敬『文化芸術の経営・政策論』小学館スクウェア

【参】池上惇等編 枝川明敬他『文化経済学』有斐閣

■成績評価の方法

討議内容

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

応用音楽学実習（1-1）

代表教員：畑 瞬一郎

曜日時限：水曜3限

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

学生の論文作成計画にあわせて行われる。主に音楽文化史（および音楽文化史の理解を基礎としたコンサート企画論や音楽作品論）を研究テーマとする学生を対象に、修士論文作成のための指導を行う。音楽史を包括的に捉えた上で、あらゆる音楽実践が固有の歴史的・文化的文脈に織り込まれたものであるという認識に立った指導を行う。

■授業計画及び内容

■教材・参考書

研究の進捗と成果、および、平常点により成績評価を行なう。

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

応用音楽学実習（1－2）

代表教員：畑 瞬一郎
曜日時限：水曜1限
学 期：通年
単 位 数：3
ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

論文作成のための個人指導

■授業計画及び内容

学生の論文作成計画にあわせて行われる。
主に音楽療法を研究テーマとする学生を対象に、修士論文作成のための指導を行う。音楽理論を包括的に据えた上で、音楽療法に应用されている理論と学生の実践活動との論理的整合性に注意を払いながら、説得力の高い論文の執筆を促すことを目的とする。

■教材・参考書

■成績評価の方法

研究の進捗と成果、および、平常点により成績評価を行なう。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

応用音楽学実習（3）

代表教員：枝川 明敬
曜日時限：月曜1限
学 期：通年
単 位 数：3
ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

修士論文個人指導

主に、アートマネージメント、地域文化に関してそれぞれの指導生のテーマにそって制重点的に行う。

■授業計画及び内容

修士論文としての様式、研究方法等につき個別に指導する。

■教材・参考書

教材：必要に応じ資料を配布する。

枝川明敬『新時代の文化振興論』小学館スクウェア、枝川明敬『文化芸術の経営・政策論』小学館スクウェア

【参】池上惇等編 枝川明敬他『文化経済学』有斐閣

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

応用音楽学実習（４）

代表教員：佐野 靖
曜日時限：火曜 1 限
学 期：通年
単 位 数：3
ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

応用音楽学の修士論文指導

■授業計画及び内容

応用音楽学専攻の大学院生を対象に、各人の研究課題について、論考や書式等の個別指導を行う。

■教材・参考書

■成績評価の方法

研究への取り組み方ならびに成果を総合的に評価する。

■履修上の指示事項

指導を希望する学生はあらかじめ予約をとること。

■備考（オフィスアワー）

金曜日 16：10～17：00

応用音楽学特殊研究（３）

代表教員：枝川 明敬
曜日時限：水曜 4 限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

地域文化振興について、歴史的な観点、その政策面からの検討を通じて、その内容と諸活動及び将来展望について教授する。

■授業計画及び内容

1. 行政における「文化」の意味合いについて分析する。文化政策の対象となる「文化」について、一般的に使用される文化とは意味合いが異なっている。結論からいうと行政で対象となっている「文化」はかなり限定的になっている。本講では、文化政策制度面からの歴史をふまえ、その行政的な意味合いについて検討する。
2. 地域の文化活動の状況について、そのフィールドワークを通じて概観し、その問題点について検証する。
3. ここ 10 年間に盛んとなってきた企業、民間団体等によるメセナ活動について地域文化活動に焦点を当て、地域の文化活動が行政のみならず民間部門での支援に大きく依存していることにも触れる。
4. 地域文化振興の拠点である文化施設（いわゆる文化ホールのみならず美術館も含む）について、その成り立ちからハード的な構造、運営手法等ソフト部分について、豊富な事例とフィールドワークによるデータを基に評価を行う。
5. 全体の締めくくりとしては、今までの分析、評価を通じて、地域振興を縦軸に、地方分権、地域政策を横軸に、住民の文化への意欲ある参加活動と文化施設の在り方について提言する。

■教材・参考書

教材：必要に応じ資料を配布する。

枝川明敬『新時代の文化振興論』小学館スクウェア、枝川明敬『文化芸術の経営・政策論』小学館スクウェア

【参】池上惇等編 枝川明敬他『文化経済学』有斐閣

■成績評価の方法

平常点とレポートによる。

■履修上の指示事項**■備考（オフィスアワー）****応用音楽学特殊研究（8）**

代表教員：菊地 由記子

曜日時限：月曜4限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

音楽療法などで用いる楽器や楽曲について、その特性を理解するとともに、演奏技法・編曲技法に関する知識と技術を習得する。

■授業計画及び内容

ピアノによる演奏技法を中心に、テンポ設定、転調、編曲、即興の方法論について考察を深める。

■教材・参考書

授業内で適宜紹介・指示する。

■成績評価の方法

授業への参加態度、レポートの提出等に基づいて評価する。

■履修上の指示事項

履修を希望する者はかならず初回に出席すること。

■備考（オフィスアワー）

応用音楽学特殊研究（10）

代表教員：阪上 正巳
曜日時限：水曜4限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

音楽療法の理論

■授業計画及び内容

音楽療法を実践するさいには、治療の背景となる理論を明確にもつことが必要である。治療理論は対象疾患や障害の理解のみならず、治療者の人間観や音楽観をも映し出している。この授業では、古今の音楽療法理論を検討した上で、学生自らの理論を模索する。

具体的には、神経学的音楽療法などの医学モデルによる音楽療法、行動療法的音楽療法、発達理論をベースにした音楽療法、各種の精神分析的音楽療法、ノードフ・ロビンズ音楽療法、人間主義的音楽療法、ベネンソンの音楽療法、音楽中心音楽療法、文化中心音楽療法、その他必要に応じて世界各地で実践されている音楽療法の諸理論を検討する。その上で、学生が自らの実践にもとづき現時点での音楽療法に関する考え方を整理していく。講義形式でなくディスカッションを中心に授業を進めていきたい。

■教材・参考書

授業内で随時掲示していく。

■成績評価の方法

平常点および学年末のレポートによる。

■履修上の指示事項

特になし

■備考（オフィスアワー）

応用音楽学特殊研究（11）

代表教員：今野 貴子
曜日時限：水曜3限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

音楽をノンバーバルコミュニケーションのツールとしてとらえ、音楽療法を含む様々な対象者にあわせ、音楽をいかに利用するかの実践方法を習得する。

■授業計画及び内容

授業では、様々な対象者にあわせて音楽を使う上での基本的な考え方や技法について説明するほか、実際に音を出したり意見交換をしたりしながら、音楽の使い方を実践的に習得する。

- 1, 臨床における音・音楽・楽器の使い方について
- 2, 対象者の観察、情報の重要性
- 3, 発達障害児を対象とした音楽療法技法
- 4, 高齢者を対象とした音楽療法技法
- 5, 乳幼児を対象とした音楽技法
- 6, 様々な施設、対象者に合わせた音楽療法、音楽活動および演奏会について
- 7, 即興について

■教材・参考書

■成績評価の方法

出席および授業参加態度
レポートの提出

■履修上の指示事項

千住校地開設。履修を希望する者はかならず初回に出席すること。

■備考（オフィスアワー）

応用音楽学特殊研究（13）

代表教員：山本 久美子

曜日時限：火曜2限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

特別支援学校及び学級における音楽療法

■授業計画及び内容

1 特別支援教育は心身に障害を抱える一人一人の子どもへの教育的ニーズに応じて、生活や学習上の困難を改善または克服するため、適切な指導や支援を行い、その可能性を最大限に育むことを目的としている。

障害児のほとんどが特別支援学校や特別支援学級で学んでいる。近年、小・中学校においても、LD や ADHD、高機能自閉症など、知的に遅れはないが、多動であり、コミュニケーションが成立しにくい子どもが増え、その教育の在り方や内容方法が検討されている。

特別支援教育において、子どもたちが生活をする上で必要な諸能力の発達を促す機能を持つ音楽の果たす役割は大きく、軽・重度化、多様化する障害児の実態に対応して、教科の中に音楽療法の考え方を導入する場合や、自立活動において、音楽療法の内容や方法を用いている学校も出現し始めている。

授業では、これらの教育機関で行われている教育の実態を紹介し、基礎知識と実践内容を幅広く取り上げ、特別支援学校及び小・中学校通級学級及び特別支援学級の音楽教育の実際及び音楽療法の在り方についての理解を深めることを目標とする。

1 特別支援教育における音楽教育

(1) 特別支援教育における音楽教育の意義

(2) 特別支援学校や特別支援学級の音楽教育の実際と課題

(3) 音楽教育と音楽療法（良き教師は良き音楽療法士）

2 知的障害特別支援学校における音楽活動の実際（事例の内容と展開）

(1) 教科音楽

音楽教科書（おんがく☆～音楽☆☆☆☆、解説及び伴奏・・・活用の実際）

(2) 自立活動と音楽療法

音楽療法的視点を取り入れた個別授業の実際

(3) 教科と領域を合わせた指導における音楽活動

生活に結び付いた音楽活動、美術、国語、体育等他教科と合わせた音楽活動、他校及び域との交流による音楽活動

3 小学校通級学級、及び特別支援学級での音楽療法を取り入れた授業

(1) 小・中・高等学校における発達障害児の実態及び現状

(2) 小・中学校の通級、特別支援学級で行われている音楽療法を取り入れた授業の事例

4 学校以外の現場における音楽療法の実践

(1) 多様な大集団における個に対応し、集団の力動を効果的に用いたプログラムと働きかけ

(2) 知的障害成人の通所施設における気持ちの発散と共有感を高める試案

5 肢体不自由特別支援学校における音楽の指導

(1) 障害が最も重い子どもの音・音楽の気づき?外界とのつながり

(2) 口腔ケアの重要性、歌うことと口腔ケア

(3) 進行性の病気を持つ子どもに対する音楽療法的アプローチ

(4) 障害の状態や発達段階を考慮した合奏指導

6 子どもから学んだ事例紹介

(1) 個人セッション（異食の低減を図った事例）
（攻撃制の低減を図った事例）

(2) 集団セッション（発達段階が様々な子どもたちに対する事例）

（虐待を受け施設入所の生徒たちのバンド活動の試み）

7 音楽療法を活用した生涯学習、ミニコンサート

(1) 特別支援学校の卒業生が参加する地域でのコンサート活動（音楽療法士企画）

(2) 一夏燃えた高校生のミュージカル

～肢体不自由特別支援学校、ろう学校の高等部、高校生の交流～

(3) 緩和ケア病棟でのミニコンサートから学んだこと

■教材・参考書

資料随時配布、参考図書を紹介、教材や自作楽器の実物紹介、映像の視聴

■成績評価の方法

出席および授業参加態度
期末のレポート提出
提出

■履修上の指示事項**■備考（オフィスアワー）****応用音楽学特殊研究（14）**

代表教員：石田 麻子

曜日時限：金曜2限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

国内外の歌劇場や音楽祭等の組織運営や舞台制作の事例研究を通して、音楽を中心とする舞台芸術創造の今後の展開に関する幅広い考察を行う。

■授業計画及び内容

1. 日本における舞台芸術公演の歴史と現状を、データや映像資料などを用いて明らかにする。なぜ現在のような公演状況に至ったのか、具体的なトピックを取り上げながら、その経緯を考察し、今後を展望する。

2. 世界の歌劇場や音楽祭から提供を受けた最新情報をもとにして、それらの運営の現状、および問題点をまとめ、世界の舞台芸術公演の動向や取り巻く環境を把握する。

（例）ミラノ・スカラ座、ロイヤル・オペラハウス、メトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座、バイエルン州立歌劇場、グラインドボーン音楽祭、ザルツブルク音楽祭、ブレゲンツ音楽祭など

3. 国内の各種芸術関連組織へのヒアリング調査を実施し、課題の検証と解決策の検討を行う。

（例）オペラやオーケストラ等の演奏団体、助成組織など

■教材・参考書

石田麻子他著『クラシック・コンサート制作の基礎知識』ヤマハ・ミュージック・メディア発行

■成績評価の方法

授業内のディスカッションへの参加状況、および課題レポート、発表で評価する。

■履修上の指示事項

音楽だけでなく、幅広いジャンルの舞台芸術公演に実際に足を運んで知識を得たうえで、授業でのディスカッションに参加することが望ましい。

応用音楽学特殊研究（15）

代表教員：加納 民夫

曜日時限：水曜2限

学 期：前期

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

「ラジオ・テレビ音楽番組研究」

- ・わが国、および諸外国における放送の歴史の中で、音楽番組が果たしてきた社会的、文化的役割、その功罪を考察する。
- ・「応用音楽学」とりわけ「アート・マネージメント研究」において、デジタル時代の放送メディアの研究が占めるべき位置と役割を考える。
- ・できるだけ具体事例を視聴し、意見交換を進めたい。

■授業計画及び内容

- 第1回：放送界、最前線の事情。その公共性について。
- 第2回：放送が犯す社会誘導。
- 第3回～第4回：わが国の放送の歴史。放送法による公共放送（NHK）と民放の併存体制（音楽放送を中心として）。
- 第5回：諸外国（イギリス、ドイツ、アメリカなど）の放送法制とその特色（音楽放送を中心として）。
- 第6回：ラジオ音楽番組の変遷、その役割。音楽活動への影響。
- 第7回～第9回：テレビ音楽番組の変遷、その役割。
- ・コンサート番組の現場。音楽の視覚化・映像化がもたらす効果と問題点。
 - ・音楽ドキュメンタリー番組、インタビュー番組等がもたらす効果と問題点。
 - ・放送局が実施する音楽イベント、公開番組、派遣番組等の現場。
- 第10回以降：マルチメディア時代における放送が果たすべき役割を考える。

■教材・参考書

授業内容に即して各種メディアを視聴。
世界の放送／洋楽放送70年／その他。

■成績評価の方法

平常点及びレポートにより評価する。

■履修上の指示事項

指定資料の事前視聴、事前講読。

■備考（オフィスアワー）

[メールアドレスは G-net シラバスに記載]（メールで対応）

応用音楽学特殊研究（17）

代表教員：依田 俊伸

曜日時限：金曜3限

学 期：前期

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

音楽を中心とした芸術活動を考える際に必要な会計の知識を学ぶ。

■授業計画及び内容

芸術活動は、あらゆる社会活動と同様に経済行動をとまなうものであり、理念だけで実現することはできない。この講義では、会計学の基礎的な概念を理解してもらいながら、芸術活動に固有の問題も検討する。

■教材・参考書

適宜、指示する。

■成績評価の方法

平常点、レポート等で評価する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

応用音楽学特殊研究（18）

代表教員：小栗 哲家

曜日時限：水曜2限

学 期：後期

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

これからの劇場がどういう方向性をもって運営していくか？

新しい視点を見つける！

劇場が地域とどのように共有していくのか？

マーケティングの方法・新しい方法を考える！

■授業計画及び内容

- ・上の視点から、制作体制について！
- ・（オペラ、バレエ、芝居）舞台芸術がどのように制作（マネージメント）されているか！
- ・世界に於ける日本の位置、組織論、行動論！
- ・様々な世代における新しいマーケティングを考える！
- ・新しい劇場の在り方、及び地域性の多様化された使い方！

■教材・参考書

新編・舞台テレビジョン照明（知識編1部）

■成績評価の方法

テーマによる論文形式

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

応用音楽学特殊研究（19）

代表教員：桑野 雄一郎

曜日時限：火曜2限

学 期：前期

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

芸術と最も縁が深い法律である著作権について、その基本的な考え方を習得すること。

■授業計画及び内容

法律の基本的な読み方、考え方を説明し、その上で著作権法の全体像について講義を行う。概ね以下のような内容である。詳細はガイダンスにおいて行う。

第1章 ガイダンス

第2章 著作権とはどんな権利だろうか

第1 はじめに

第2 著作物

第3 著作者

第4 著作権と著作者人格権

第3章 著作隣接権とはどんな権利だろうか

第4章 舞台芸術に関する法律

私は学者ではなく弁護士なので、机上の議論にとらわれず、裁判になった事例や私が携わった事件なども適宜紹介しながら、著作権法をめぐる紛争の実態も紹介したいと考えている。芸術に携わる者として社会に出た際には否が応でも著作権法と関わり合うことになるので、最低限の知識を習得してもらいたいと考えている。

■教材・参考書

（教材）

講義の際にレジュメを配布する。

（参考書）

前田哲男・谷口元「音楽ビジネスの著作権」

（著作権情報センター）

■成績評価の方法

後期終了時にある課題についてレポートを提出してもらう。課題の詳細は講義の際に指示をする。

なお、出典を明記するなど、引用のルールを守らず他人の論稿を流用したものは不可とする。

■履修上の指示事項

著作権法が問題になる事例は諸君にとっても身近な問題が多いので、関心をもって積極的に取り組む学生の参加を希望する。

■備考（オフィスアワー）

応用音楽学特殊研究（20）

代表教員：渡辺 隆

曜日時限：月曜2限

学 期：後期

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

マーケティングの本質と企業活動
——企業や公益法人に就職する場合も想定してその基本原理を学ぶ——

■授業計画及び内容

- 1) マーケティングの視点その機能と役割
- 2) 企業の経済活動
- 3) マーケティングミックスと4つのP(製品・価格・流通・販売促進)
- 4) マーケティングチャンネル
- 5) 欲望・消費と広告
- 6) ブランド戦略
- 7) マーケティング演習
- 8) マネージメントとは何か
- 9) 起業家(アントレプレナー)とは何か
- 10) 企業の社会的責任
- 11) 公益法人の活動

■教材・参考書

授業の都度プリント教材を配布する。

■成績評価の方法

授業への出席と参画態度による。

■履修上の指示事項

企業の経済活動や公益法人の活動に関心を持つ諸君の受講を期待。

履修者の修士・博士論文テーマに応じその参考になる様、授業内容を調整する場合がある。聴講も可。

■備考（オフィスアワー）

随時メールで問い合わせ可

[メールアドレスはG-net シラバスに記載]

応用音楽学特殊研究（23）

メール等で随時対応する。

代表教員：中村 晃也

曜日時限：月曜2限

学 期：前期

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

公立ホール運営～公立ホールの機能と役割～

■授業計画及び内容

本講座では、公立ホールの運営と経営について資料や討論などを通して研究し、現場でのアート・マネジメントの行動理念や戦略の基礎を学ぶ。

①文化・芸術の社会的機能と役割について

・Christo&Janne-Claude プロジェクトのケーススタディー

・エル システムのケーススタディー

②国や公的機関が文化芸術とどのように関わり、いかに社会的役割を果たすかを公立ホールの運営事例をもとに研究する。

③昨今の社会構造の変化は、公的な文化/芸術事業にも大きな変革を求めている。その中核課題である指定管理者制度・説明責任・評価などについて研究・討論し、具体的な対応を探る。

■教材・参考書

・「芸術の売り方」ジョアン・シェフ・バーンスタイン

・「芸術企業論」村上隆

・「マネジメント 基本と原則」＋非営利関連書籍：

P.F. ドラッカー

・その他授業ごとに配布する。

■成績評価の方法

討論を重視するため出席率。参加への意欲。発言、レポートによる総合評価。

■履修上の指示事項

外部での研修などによる欠席がないよう、事前に対応しておく事。

？

■備考（オフィスアワー）

応用音楽学特殊研究(30) インター

ンシップ

代表教員：畑 瞬一郎

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

主としてアートマネジメントに係る研究を行う学生で、授業で学習した理論を、派遣先期間における実務体験の中で応用ないし発展させることにより、実践的知識として習得させることを目的とする。

■授業計画及び内容

派遣先期間（国もしくは地方公共団体の機関または公益法人もしくは企業等の法人）の業務内容に即して実務を体験する。

原則として、夏季休業期間等を活用した短期間に集中して行うものとする。

総実施時間 160 時間（一日当たり 8 時間、週あたり 5 日、通算 4 週間を基本）を 2 単位とし、4 単位まで認めるものとする。

■教材・参考書

■成績評価の方法

総実施時間数及び派遣先期間の「インターンシップ報告書」等により評価する。

■履修上の指示事項

希望者は、担当教員に相談すること。

■備考（オフィスアワー）

音楽アウトリーチ

代表教員：佐野 靖

曜日時限：水曜 3 限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

音楽によるアウトリーチ活動の実践・研究

■授業計画及び内容

「音楽アウトリーチ」とは、音楽家が学校や地域に出向き、コンサートやワークショップなどを構想、展開すること。実演者とコーディネーター、あるいは実践現場との双方向のコミュニケーションによって、様々な内容の取り組みが構想、展開される。

本授業では、講義において音楽アウトリーチの先行事例などを検討しつつ、実践及び研究のための基礎的な知識を身に付けるとともに、学生自らが主体的・創造的に活動プログラムを企画、提案、実践する。実践編では、幼稚園や学校、病院等でコンサートやワークショップ、レクチャーや指導が展開された。

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

アウトリーチ活動への取り組みの内容、レポートなどから総合的に評価する。

■履修上の指示事項

学部 3 年生以上と大学院生を対象とする。

■備考（オフィスアワー）

佐野：水曜日 15:10～16:00

音楽音響創造演習（1）Ⅰ

代表教員：西岡 龍彦

曜日時限：月曜4限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

作品創作

■授業計画及び内容

年度末に予定されている作品の発表に向けて、創作の指導を行う。

■教材・参考書

授業内で指示する。

■成績評価の方法

作品

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

木曜日、金曜4限

音楽音響創造演習（1）Ⅱ

代表教員：西岡 龍彦

曜日時限：月曜4限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

作品創作

■授業計画及び内容

修了作品の指導を行う。

■教材・参考書

授業内で指示する。

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

木曜日、金曜4限

音楽音響創造演習（2）Ⅰ

代表教員：亀川 徹
曜日時限：月曜4限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

音響や録音に関する文献調査および研究。

■授業計画及び内容

音響や録音に関する文献の抄訳および、各自の研究テーマに関連するトピックについての報告を適宜行う。

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

発表内容と平常の授業態度を総合的に評価する。

■履修上の指示事項

音楽音響創造研究分野対象。

■備考（オフィスアワー）

メールにて個別に設定。

音楽音響創造演習（2）Ⅱ

代表教員：亀川 徹
曜日時限：月曜4限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

音響や録音に関する文献調査および研究。

■授業計画及び内容

音響や録音に関する文献の抄訳および、各自の研究テーマに関連するトピックについての報告を適宜行う。

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

発表内容と平常の授業態度を総合的に評価する。

■履修上の指示事項

音楽音響創造研究分野対象。

■備考（オフィスアワー）

メールにて個別に設定。

音楽音響創造実習（1）Ⅰ

代表教員：西岡 龍彦

曜日時限：月曜5限

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

修士論文

■授業計画及び内容

修士論文の指導を行う。

■教材・参考書

授業内で指示する。

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

木曜日、金曜4限

音楽音響創造実習（1）Ⅱ

代表教員：西岡 龍彦

曜日時限：月曜5限

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

収支論文

■授業計画及び内容

修士論文の指導を行う。

■教材・参考書

授業内で指示する。

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

木曜日、金曜4限

音楽音響創造実習（2）Ⅰ

代表教員：亀川 徹
曜日時限：金曜4限
学 期：通年
単 位 数：3
ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

修士論文の指導。

■授業計画及び内容

個別面談によってテーマ、研究の方向性を決める。
定期的な報告会と個別指導によって研究をすすめる。

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

平常の研究態度を総合的に評価する。

■履修上の指示事項

音楽音響創造研究分野対象。

■備考（オフィスアワー）

木曜Ⅱ?Ⅴ限（会議の無い日）、金曜Ⅴ限

音楽音響創造実習（2）Ⅱ

代表教員：亀川 徹
曜日時限：金曜4限
学 期：通年
単 位 数：3
ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

修士論文の指導。

■授業計画及び内容

個別面談によってテーマ、研究の方向性を決める。
定期的な報告会と個別指導によって研究をすすめる。

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

平常の研究態度を総合的に評価する。

■履修上の指示事項

音楽音響創造研究分野対象。

■備考（オフィスアワー）

木曜Ⅱ?Ⅴ限（会議の無い日）、金曜Ⅴ限

音楽音響創造実習（3）Ⅰ

代表教員：丸井 淳史

曜日時限：金曜4限

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

修士論文の指導を行う。

■授業計画及び内容

音響心理学やコンピュータ技術などを中心とし、各自の研究および論文執筆を個別指導する。

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

平常の研究態度を総合的に評価する。

■履修上の指示事項

音楽音響創造研究分野対象。

■備考（オフィスアワー）

会議のない木曜日 III?V 限、あるいはメールにて個別に設定。

音楽音響創造実習（3）Ⅱ

代表教員：丸井 淳史

曜日時限：金曜4限

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

修士論文の指導を行う。

■授業計画及び内容

音響心理学やコンピュータ技術などを中心とし、各自の研究および論文執筆を個別指導する。

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

平常の研究態度を総合的に評価する。

■履修上の指示事項

音楽音響創造研究分野対象。

■備考（オフィスアワー）

会議のない木曜日 III?V 限、あるいはメールにて個別に設定。

音楽音響創造特殊研究（１）：創作技

法

代表教員：西岡 龍彦

曜日時限：金曜５限

学 期：通年

単 位 数：４

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

映像と音楽

■授業計画及び内容

音楽と映像の関係について分析・研究を行い、作品を美術学部デザイン科と共同制作する。

■教材・参考書

必要に応じて指示する。

■成績評価の方法

作品・研究発表。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

木曜日、金曜４限

音楽音響創造特殊研究（２）：録音技

法研究

代表教員：亀川 徹

曜日時限：月曜３限

学 期：通年

単 位 数：４

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

マイクロホンを用いた收音、ミキシング手法や、マルチチャンネルステレオ方式による録音再生方法など、録音技術に関するテーマについて研究する

■授業計画及び内容

録音に関する音響技術（聴覚、楽器音響、建築音響などの概要）

録音機器の概要

マイクロホンテクニック

エフェクタの原理と実践

編集とマスタリング

サラウンドサウンドの概要と收音方式

録音の評価とクリティカルリスニング

上記テーマに関連して適宜スタジオでの録音実習をおこなう。

■教材・参考書

「サラウンド入門」（芸大出版）他、適宜指示する。

■成績評価の方法

出席、期末レポート、平常の授業態度を総合的に評価する。

■履修上の指示事項

学部開講の「音響学」か「音楽環境創造概説２」を履修しておくことを推奨する。

■備考（オフィスアワー）

木曜Ⅱ?Ⅴ限（会議の無い日）、金曜Ⅴ限

音楽音響創造特殊研究（3）：楽器学

代表教員：香取 良彦

曜日時限：火曜4～5限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

ジャズの手法を中心に、編曲（作曲、即興演奏を含む）の技術を習得、実習する。

■授業計画及び内容

<授業の流れ>

・複数の課題のプラン設定を行う。 ・各課題の内容に沿って、技術的な指導を行う。

・最終課題の発表（パフォーマンス）または音出し。

<授業の構成> ・履修者全員の共通講義と、個々の面談指導による。

■教材・参考書

特になし

■成績評価の方法

単位取得には全ての課題の完成・提出および規定数の出席が必須。成績は、出席 40%、通常課題 30%、最終課題 30%

■履修上の指示事項

本科目はプロジェクト1に属する形で行われる。

■備考（オフィスアワー）

[メールアドレスはG-net シラバスに記載]

音楽音響創造特殊研究（4）：サウン

ドデザイン

代表教員：沢口 真生

曜日時限：水曜5限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

映画やテレビなどにおいて音楽・効果音・ダイアログなどの音が果たす役割を様々な作品例をとおして学び、実際の作品制作を想定したサウンドデザインの実習をおこなう。

■授業計画及び内容

授業計画

- ・概説
- ・サウンドデザインの流れ
- ・音と知覚
- ・音楽の役割
- ・声の役割
- ・効果音の役割
- ・クリティカル リスニング トレーニング
- ・映像とサウンドの相乗効果
- ・サラウンド音響表現の基礎

上記の内容を目安に様々な作品の試聴や実際の音響構成の実践をおこなう。

制作実習は、スタジオでの録音や、屋外フィールド録音も行う。

■教材・参考書

サラウンド制作ハンドブック

Sound for TV/Film等

サラウンド入門（2010—3 芸大出版）

■成績評価の方法

出席と授業態度を重視しつつ課題作品の内容で評価。

■履修上の指示事項

夏期集中ワークショップで1週間の制作実習を予定希望者のみの限定ワークショップ

■備考（オフィスアワー）

音楽音響創造特殊研究（7）：ライブ・エ

レクトロニクス演習

代表教員：森 威功
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

P. ブレーズの「レポン Repons」などライブ・エレクトロニクス作品の歴史研究と演奏システムの分析を行う。

■授業計画及び内容

主要なライブ・エレクトロニクス作品で使用されたライブ・コンピュータシステムを、インタラクティブ性、音声処理アルゴリズム、音響空間処理の観点から分析し、様々なタイプのライブ・エレクトロニクス作品について理解を深める。またこれらの技術を応用して小品を制作する。演奏システムの分析には Max/MSP を、音声処理アルゴリズムの分析には Csound, RTcmix をそれぞれ使用する。必要に応じて、ビデオ入力や PIC 等マイクロコントローラーとセンサー群を組み合わせた音楽入力装置についても考察する。

■教材・参考書

必要に応じて資料を配布する。

■成績評価の方法

提出物、出席率、受講態度を総合的に評価する。

■履修上の指示事項

【訂正前】

特になし。（授業は3限～5限の3コマです。）

【訂正後】

火曜 4・5 限の二時限に渡る授業。

■備考（オフィスアワー）

音楽音響創造特殊研究（8）音響心理

研究法

代表教員：丸井 淳史
曜日時限：金曜2限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

音と音楽を科学的に扱うためには注意深く計画された実験が不可欠である。この講義では特に音響心理実験における、実験素材の作り方、実験計画、実施、分析などを学習・研究する。

■授業計画及び内容

授業中に取り上げるトピックとしては以下のものを予定している。

- ・音の心理学的測定法
- ・実験方法
- ・統計分析手法

■教材・参考書

Soren Bech & Nick Zacharov “Perceptual Audio Evaluation” を教科書として用いる。購入は必須ではない。

■成績評価の方法

評価はレポートあるいは試験によって行う。配分は前期課題 35%・後期課題 35%・出席および講義への寄与 30%とする。ただし出席回数が全体の 2/3 に満たない場合は失格、不正行為（データの改ざん、アイディアの盗用など）は不可とする。

■履修上の指示事項

音楽環境創造概説 1 および 2 を履修済みであること。数学の基礎的な知識があると望ましい。英語の文献を読むこともある。

■備考（オフィスアワー）

オフィスアワーは原則として奇数週の木曜日 3?5 限とするが、会議が入ることがあるので、あらかじめメールなどで時間を相談すること。

講義資料は <http://www.geidai.ac.jp/~marui> に掲載

する（学内のみ閲覧可能）。

音楽音響創造特殊研究（9）空間音響

研究

代表教員：中原 雅考

曜日時限：月曜2限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

空間に放射された音の振る舞いに関して理論的に理解し、実空間における適切な音響コントロール手法を身につける。

■授業計画及び内容

1. 物理音響の基礎
2. インピーダンス
3. 共鳴，音響素子
4. 反射，吸音，拡散
5. 音源，伝搬，減衰
6. 波動音響理論
7. 幾何音響理論
8. 統計音響理論
9. 演習

■教材・参考書

必要に応じて配付する。

■成績評価の方法

課題評点，出席率，授業態度等により評価する。

■履修上の指示事項

最低限の数学の知識と基礎的な音響学の知識を要する。

特に，音楽音響創造領域以外の履修者に関しては，音響についてのある程度の知識を修得していることが望ましい。

学部講座と大学院講座を同じ枠で解説しているが，大学院の履修生は，演習や課題において学部の履修生をフォローし，より多くの作業を行わなくてはならない。一方，学部の履修生は，演習や課題における提出物に関しては，大学院生と同等の内容のものを提出しなければならない。

■備考（オフィスアワー）

音楽音響創造特殊研究（10）音楽情

報論演習

代表教員：坂崎 紀

曜日時限：月曜5限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

音楽情報関連の研究方法を学ぶ。

■授業計画及び内容

受講生の研究テーマに応じて、文献、資料の収集と整理の方法、研究の進め方とデータ処理の方法、研究成果のまとめ方を考える。

■教材・参考書

特になし。

■成績評価の方法

受講生の研究成果をレポートにまとめさせる。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

連絡用メールアドレス：[メールアドレスはG-net シラバスに記載]

音楽音響創造特殊研究（11）：高臨

■備考（オフィスアワー）

講義終了後必要に応じて設定する。

場感音響設計概論

代表教員：大出 訓史

曜日時限：水曜1限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

ヒトが知覚する音響的な空間印象や臨場感を再現するための基礎を理解し、高臨場感音響システムを設計するために必要な音場再現技術を習得するとともに、高臨場感音響システムの研究および実用化動向を考察する。

■授業計画及び内容

■前期

高臨場感音響の要件

高臨場感音響技術の基礎と理論的背景

様々な高臨場感音響技術の研究開発状況

高臨場感音響技術に用いられる音響トランスデューサ

次世代音響技術のための符号化

■後期

臨場感の要因

視聴覚情報処理の基礎

聴覚心理に基づく高臨場感音響システム設計

マルチモーダルによる高臨場感と超臨場感

高臨場感音響映像システムの国際標準化と実用化動向

■教材・参考書

その都度必要に応じ指示、配布する。

■成績評価の方法

出席状況と授業態度、レポート、試験等により総合的に評価する。

■履修上の指示事項

最低限の音響、数学、物理の知識を有していることが望ましい。ただし、必要な基礎知識は授業の中でも解説する。

音楽音響創造博士専門研究

代表教員：西岡 龍彦

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

博士論文と関連する研究テーマについて指導をおこなう。

■授業計画及び内容

研究内容、進捗状況に応じて適宜指示する。

■教材・参考書

博士論文と関連する参考文献などを適宜用いる。

■成績評価の方法

日頃の取り組み状況と論文の進捗状況を総合的に判断する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

適宜指示する。

音楽学演習（第1・美学）

代表教員：福中 冬子

曜日時限：火曜2限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

音楽史記述の諸問題

■授業計画及び内容

前年度のゼミで使用した R. Taruskin, _Oxford History of Western Music_ の翻訳プロジェクト。詳細は初回ゼミで説明するので、必ず出席すること。

■教材・参考書

同上。

■成績評価の方法

発表およびゼミ内でのディスカッション。

■履修上の指示事項

初回の授業で割当を決めるので、必ず出席すること。

■備考（オフィスアワー）

メール等で連絡の事。

音楽学演習（第1・民族）

代表教員：植村 幸生

曜日時限：金曜2限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

民族音楽学の理論と方法

■授業計画及び内容

民族音楽学の理論的・方法的諸問題について、最近の研究成果を参照しながら検討するゼミナール。2014年度のテーマは「西洋音楽の民族音楽学」とする。西洋芸術音楽に対する民族音楽学的アプローチの研究例からその可能性を検討し、ひるがえって民族音楽学そのものの方法的可能性を考えていきたい。

■教材・参考書

Nooshin, Laudan (ed.) The Ethnomusicology of Western Art Music. Routledge, 2014.

Cottrell, Stephen Professional Music-making in London: Ethnography and Experience. Ashgate, 2004.

■成績評価の方法

割り当て文献の理解、研究発表、および議論への参加状況による。

■履修上の指示事項

音楽学第一講座（音楽民族学）専攻の必修科目であるが、他講座、他専攻からの受講を歓迎する。

■備考（オフィスアワー）

随時応じる。ただし原則として予約制とする。[メールアドレスはG-net シラバスに記載]

音楽学演習（第2）

代表教員：土田 英三郎

曜日時限：月曜5限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

音楽学の根本問題

■授業計画及び内容

この演習では音楽学とりわけ西洋音楽史の基本問題を扱う。近年の音楽学で問題化されている事柄について、現状を概観しながら、新旧の関連文献をとりあげる。

過去の例：

- ・一次史料と一次情報の探索
- ・ナショナリズムと音楽
- ・スケッチ研究
- ・楽譜
- ・音楽学の最先端
- ・西洋音楽史ソース・リーディングズ作成の試み1
- ・19世紀音楽史の最前線
- ・音楽批評
- ・音楽解釈学
- ・シェンカー分析
- ・オペラの分析法
- ・19世紀の音楽分析
- ・19世紀の音楽理論
- ・音楽分析
- ・ヴァーグナー研究の現在
- ・ベートーヴェンのピアノ・ソナタ
- ・N. Cook & M. Everist (eds.), Rethinking Music の講読
- ・バッハの口短調ミサ曲
- ・18世紀交響曲のデータベース化の試み
- ・H. Chr. コッホの作曲法入門試論の講読

■教材・参考書

前年度末までに指示してある。

■成績評価の方法

平常点（発表と積極的発言）、場合によりレポートを課すこともある。

■履修上の指示事項

修士課程音楽学第2講座の1, 2年次と西洋音楽史研究に従事する博士後期課程1年次の学生は原則として必修(博士課程の学生は3年次まで参加することが望ましい)。博士課程の学生は「博士専門科目」か「大学院開設科目」として履修することができる。演習では積極的な発言と活発なディスカッションを期待する。特に、博士課程の学生には演習の運営と議論に関してリーダーシップを発揮することが期待されている。

■備考(オフィスアワー)

火曜3限(総合ゼミナール、音楽学実習等がない場合)、その他空き時間(要予約)。

音楽学演習(第3)

代表教員: 塚原 康子

曜日時限: 金曜4限

学 期: 通年

単 位 数: 4

ジャンル: 大学院開設科目(音楽文化学)

開設区分: 音楽研究科

交流区分:

■授業のテーマ

近代日本の音楽研究と資料状況

■授業計画及び内容

音楽研究の進展は一般に、その時点で使用可能な資料の収集・発掘・整理状況と密接に関わっている。どの時期にも、音楽活動の結果として生成される楽譜・音源・記録等の資料があり、また当時特有の問題関心の下で収集され活用された資料が存在する。近代以降の日本の音楽研究においても、各研究分野において性質の異なる資料が生成・集積され、それらに基づいて個々の研究成果が生み出されてきた。近年は、インターネット上での図書館・博物館等の目録や画像・音源の公開などが格段に進み、従来の研究環境を劇的に変えつつある。一方で、ある時期の研究者個人が収集・活用した資料のみならず、それに基づく研究成果自体が、数十年を経た現在、ある種の研究資料として当時の研究関心や研究方法を検証するために対象化される現象も起きている。

今年度の音楽学演習では、以上のような音楽研究と資料状況の関係変化を背景に、雅楽に関連して戦前から戦後にかけて異なるアプローチの研究を行った岸辺成雄・林謙三・平出久雄の足跡を中心に、彼らの研究と資料との関係および現在の雅楽研究と関連資料の状況とのつながりを見ていく。

■教材・参考書

年度当初に指示する。

■成績評価の方法

発表内容、演習時の質疑・討議への参加状況などを総合的に評価する。

■履修上の指示事項

各自の研究課題との接点を生かし、演習を通して履修者全員が、より広汎な近代の「日本語の歌謡」にふれる機会をもち、それらの相互関係を意識化する

ことを望む。

■備考（オフィスアワー）

火曜日 9:30～10:20

音楽学実験

代表教員：岩崎 真

曜日時限：木曜2限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

音響測定的な観点、マイクロフォンなどの音響機器、映像機器、コンピュータなどを自身の論文や作品に、どのように応用していくか。

■授業計画及び内容

共通の内容は定めようがない。

各自の論文や作品に応じてそれぞれテーマを設定し、問題解決の方法を検討していくので、目的意識を持って受講すること。

って、講義時間も木曜のⅡ限に限定されず、場合によっては一日中実験に当てる、といった場合も考えられる。

今までに行った研究は以下のようなものである。

◇声明やモンゴル民謡などの採譜方法に、音響分析手法を用いる可能性について検証

◇民謡とベルカントとの、唱法の相違における音色評価の検討

◇コンピュータによる MIDI プログラミングの基本

◇金管伴奏による歌曲において、どのような金管楽器の voicing がふさわしいかを検証

◇尺八の「ゆり」、トロンボーンのヴィブラートなど、音の揺れに注目した音響分析手法の検討

◇音楽教育領域において、ピアノのレガート奏法の変化を MIDI ピアノとコンピュータを用いて検証

◇サクスの重音奏法により得られる和音の分析

■教材・参考書

個人に応じてそれぞれ指示する。

■成績評価の方法

各人のテーマを授業内で展開し、それらを論文や作品の成果とできた場合に単位を与える。直接論文等に反映できない場合は、サブ・レポートのような形にまとめさせる場合もある。テーマによっては一年間で消化できない場合もありうるが、その場合は考慮する。

■履修上の指示事項

音楽音響学に関する初歩的講義を期待しないこと。それらは既知とする。また以上に述べた事由により、学部生の受講は認められないが、学部学生でこういったことに興味のあるものは、この授業に関係なく相談にのるので日を改めること。

■備考（オフィスアワー）

木曜のⅡ限は最初のみ。あとは個人の研究内容により相談の上実験日を決定する。

音楽学実習（1）Ⅰ

代表教員：植村 幸生

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

民族音楽学・東洋音楽史に関する修士論文・博士論文指導

■授業計画及び内容

各自の研究課題と論文作成について個人指導を行う。修士課程の学生については、一年に一回程度、各自の研究計画および進捗状況について、報告会を実施する予定。

■教材・参考書

受講者各自の研究課題に応じて指示する。

■成績評価の方法

課題に対する取り組みの状況、および報告（あるいはそれに相当する研究成果）の内容によって評価する。

■履修上の指示事項

初回の授業時（日時と場所は掲示で告知）に打ち合わせを行うので必ず出席すること。その後は予約制を原則とする。

■備考（オフィスアワー）

所定の時限以外にも予約制により指導・助言に応じる。

音楽学実習（1）Ⅱ

代表教員：植村 幸生

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

民族音楽学・東洋音楽史に関する修士論文・博士論文指導

■授業計画及び内容

各自の研究課題と論文作成について個人指導を行う。修士課程の学生については、一年に一回程度、各自の研究計画および進捗状況について、報告会を実施する予定。

■教材・参考書

受講者各自の研究課題に応じて指示する。

■成績評価の方法

課題に対する取り組みの状況、および報告（あるいはそれに相当する研究成果）の内容によって評価する。

■履修上の指示事項

初回の授業時（日時と場所は掲示で告知）に打ち合わせを行うので必ず出席すること。その後は予約制を原則とする。

■備考（オフィスアワー）

所定の時限以外にも予約制により指導・助言に応じる。

音楽学実習（2）Ⅰ

代表教員：福中 冬子

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容
研究指導。

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

音楽学実習（2）Ⅱ

代表教員：福中 冬子

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

研究指導。

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

音楽学実習（3）Ⅰ

代表教員：大角 欣矢

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

修士論文作成のための個人指導

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

電子メールで予約を取ること。

音楽学実習（3）Ⅱ

代表教員：大角 欣矢

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

修士論文作成のための個人指導

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

電子メールで予約を取ること。

音楽学実習（4）Ⅰ

代表教員：土田 英三郎

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

音楽学に関する個人指導

■授業計画及び内容

音楽学修士課程第1年次の学生を対象に、修士論文に関する各自の研究テーマについて個人指導を行なう。

■教材・参考書

■成績評価の方法

平常点（音楽学総合ゼミナールを含む）

■履修上の指示事項

前もって予約を取れば定時（火曜3限）以外の時間帯も可能。

■備考（オフィスアワー）

火曜3限（総合ゼミナール、音楽学実習等がない場合）、その他の空き時間（要予約）。

音楽学実習（４）Ⅱ

代表教員：土田 英三郎

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

音楽学に関する個人指導

■授業計画及び内容

音楽学修士課程第2年次の学生を対象に、修士論文に関する各自の研究テーマについて個人指導を行なう。

■教材・参考書

■成績評価の方法

平常点（音楽学総合ゼミナールを含む）

■履修上の指示事項

前もって予約を取れば定時（火曜3限）以外の時間帯も可能。

■備考（オフィスアワー）

火曜3限（総合ゼミナール、音楽学実習等がない場合）、その他の空き時間（要予約）

音楽学実習（５）Ⅰ

代表教員：片山 千佳子

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

修士1年を対象とする研究指導。

■授業計画及び内容

- (1) 修士論文執筆に向けて、具体的な研究計画を作成し、報告すること。
- (2) 複数の先行研究について、批判的な見地から検討を加え、それを言語化すること。

■教材・参考書

■成績評価の方法

総合ゼミナールにかならず出席すること。
研究の進捗により成績を判定する。

■履修上の指示事項

下記のメール・アドレスにより、実習を希望する日時を予約すること。

■備考（オフィスアワー）

メール・アドレス

[メールアドレスはG-net シラバスに記載]

音楽学実習（5）Ⅱ

代表教員：片山 千佳子

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

修士2年生を対象として、研究指導および論文指導を行う。

■授業計画及び内容

- (1) 取り組んでいるテーマについて、自分のアプローチの独自性を明確にすること。
- (2) 6月末の修士論文中間発表に向けて、論文の章立てを考えること。

■教材・参考書

■成績評価の方法

総合ゼミナールには必ず出席すること。
成績は、研究の進捗によって判定する。

■履修上の指示事項

原則として予約制とする。以下のアドレスに希望日時を連絡すること。

■備考（オフィスアワー）

メール・アドレス

[メールアドレスはG-net シラバスに記載]

音楽学実習（6）Ⅰ

代表教員：塚原 康子

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

日本音楽史に関連する音楽学専攻生の修士論文・博士論文執筆のための研究指導

■授業計画及び内容

音楽学専攻の大学院修士課程および博士後期課程の学生に対し、各人の研究課題に即して指導・助言を行う。
修士・博士課程ともに年度当初のゼミ時に研究計画を提出すること。
博士課程の学生については、総合ゼミ発表、指導教員会議、博士コロキウム等の学内発表のほかに、学会等学外での口頭発表や論文投稿など、研究成果をまとめる年間の予定を立てること。

■教材・参考書

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

年度当初の開講時間にはかならず出席し、指示を受けること。

■備考（オフィスアワー）

火曜 9:30~10:20

音楽学実習（6）Ⅱ

代表教員：塚原 康子

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

日本音楽史に関連する音楽学専攻生の修士論文・博士論文執筆のための研究指導

■授業計画及び内容

音楽学専攻の大学院修士課程および博士後期課程の学生に対し、各人の研究課題に即して指導・助言を行う。

修士・博士課程ともに年度当初のゼミ時に研究計画を提出すること。

博士課程の学生については、総合ゼミ発表、指導教員会議、博士コロキウム等の学内発表のほかに、学会等学外での口頭発表や論文投稿など、研究成果をまとめる年間の予定を立てること。

■教材・参考書

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

年度当初の開講時間にはかならず出席し、指示を受けること。

■備考（オフィスアワー）

火曜 9:30~10:20

音楽学特殊研究（西洋A）

代表教員：片山 千佳子

曜日時限：月曜3限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

前期（片山担当）：

後期（大角担当）：履修者と協議の上、テーマを決定する。

■授業計画及び内容

前期：以下の文献を分担して発表する。

Stefano Mengozzi.

The renaissance reform of medieval music theory :

Guido of Arezzo between myth and history.

Cambridge : Cambridge University Press , 2010

後期：履修者間で相談の上、決定。

■教材・参考書

■成績評価の方法

授業への積極的関与度とその内容（50%）、個人研究発表（50%）

■履修上の指示事項

毎回の授業に対し、必ず全員が事前準備をして臨むこと。また成績評価に際しては、授業への積極的関与（出席、発言、質問、討議への参加など）をきわめて重視する。

■備考（オフィスアワー）

片山のアドレス [メールアドレスはG-net シラバスに記載]

音楽学特殊研究（西洋B）

[メールアドレスはG-net シラバスに記載]

代表教員：片山 千佳子

曜日時限：金曜4限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

ラテン語による音楽理論書を読み解く。

■授業計画及び内容

今年度は昨年に引き続き、13世紀の音楽理論書である「第4無名著者 Anonymus IV」を読解する。

校訂版は、以下の版を使用する。

Fritz Reckow, Der Musiktraktat des Anonymus 4, 2 vols., Beihefte zum Archiv für Musikwissenschaft, vols. 4-5 (Wiesbaden: Steiner, 1967), 1:22-89.

■教材・参考書

辞書については、最初の講義の際に紹介する。

英訳と研究書については、授業中に紹介する。

インターネットでこの論文が無料公開されているサイトは以下の通り。テキストは、ここからダウンロードしたものを配布する。

http://www.chmtl.indiana.edu/tml/13th/ANO4MUS_TEXT.html

■成績評価の方法

出席状況と、学年末の時点でのラテン語読解力によって成績を評価する。

■履修上の指示事項

ラテン語初等文法を習得していること（本学で授業として履修したか、独習したかは問わない）。

大学院生でラテン語による音楽理論書購読を履修する人は、「楽書購読（羅）」ではなく、この「音楽学特殊研究（西洋B）」を履修登録すること。

■備考（オフィスアワー）

音楽学特殊研究（東洋）

代表教員：植村 幸生

曜日時限：水曜3限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

「東アジアの琴・箏とその音楽」

いわゆるコトにあたる弦鳴楽器（ロング・ツィター）の広範な分布と長い歴史は東アジアの音楽文化を特徴づけている。本科目では、特に中国の古箏と古琴を中心にすえながら、東アジア琴・箏類とその音楽を、俯瞰的（マクロな）視点と個別的（ミクロな）視点を交錯させながら総合的に理解していく。本科目のなかで展開される論点を列挙すれば以下の通り。

- 1) 琴・箏類の定義と分類、語源と字源
- 2) 楽器の構造、素材、製作過程と製作技術、音響特性
- 3) 楽器の象徴性、楽器に対する思想、文学のなかの琴・箏類
- 4) 琴・箏類の考古学と歴史学、分布と伝播
- 5) 演奏者：性差、身分、職業性
- 6) 伝承と教育、流派
- 7) 楽譜と記譜法
- 8) 演奏技法と演奏習慣
- 9) 音楽ジャンルと様式、調弦、楽曲の構造
- 10) 近代化と琴・箏音楽、楽器の「改良」

本科目の受講を通じて、東アジアの音楽文化を研究する方法と視点を身につけることが目標である。

■授業計画及び内容

前期は古箏、後期は古琴を主たるテーマとし、それぞれ担当講師およびゲストによる講義、デモンストレーション、受講生に対する奏法の実習により構成する。

■教材・参考書

教科書：なし。参考書：多数あり。授業中に紹介する。

■成績評価の方法

出席状況、授業への参加の積極性、期末（前期・後期）レポートの内容を総合して評価する。

■履修上の指示事項

楽理科専門科目「東洋音楽史演習」との合同で授業を行う。学部生と大学院生が互いに協力しあって本科目を受講することを期待する。

■備考（オフィスアワー）

音楽学特殊研究（日本）

代表教員：野川 美穂子

曜日時限：木曜3限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

近世邦楽の文献研究

■授業計画及び内容

近世邦楽の歴史研究に必要な資料には、歌本、丸本、正本、譜本をといった作品の直接の情報源となる資料に加え、江戸時代の人書き残した音楽、演劇、舞踊などに関する歴史書がある。この授業では、その一つである齋藤月岑の『声曲類纂』（弘化4・1847）を取りあげる。『声曲類纂』は、浄瑠璃を中心とする邦楽の資料であると同時に、音楽史研究の一つの軌跡としても重要である。翻刻には、藤田徳太郎校訂による岩波文庫本（昭和16・1941）がある。授業では、原本との照合、記述内容の精読などを通して、『声曲類纂』の資料的価値を検討する。

■教材・参考書

藤田徳太郎校訂『声曲類纂』（岩波書店、1941）ほか。

■成績評価の方法

平常点（発表、課題への取り組み状況）による。

■履修上の指示事項

特になし

■備考（オフィスアワー）

音楽学特殊研究（美学）

代表教員：福中 冬子

曜日時限：月曜4限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

音楽史研究と批評

■授業計画及び内容

音楽史研究と批評 criticism/critique はどのような関係にあるべきか、という大きな問い立ての上で、その問いに付随する諸問題を考察する。主たる問題は以下の通り。1) 音楽史研究と批評は共立すべきものかどうか；2) 80年代の音楽学における、いわゆる「パラダイム・シフト」は、音楽史研究と批評との関係性にどのような影響を与えたか；3) 音楽史研究における「理論」の位置付けはどのように変化し、またそれは何を反映するものなのか

■教材・参考書

初回のゼミで指定するが、スタートアップとして J. Kerman, *Contemplating Music* より第2章「Musicology and Positivism」、R. Subotnik, *Developing Variations* より「Musicology and Criticism」、および A. Williams, 「Musicology and Postmodernism」(*Music Analysis*, Oct. 2000) を扱うので、各自で手にいれておくこと。

■成績評価の方法

授業における貢献度および期末レポート

■履修上の指示事項

担当者が順に発表を行なうことになるが、当然ながら、毎回全員が文献を読み込み、積極的に議論に参加することが求められる。

■備考（オフィスアワー）

随時受け付ける

音楽教育学演習

代表教員：山下 薫子

曜日時限：火曜 4 限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

各自の報告に基づくディスカッション

■授業計画及び内容

予め各自が準備した研究課題について報告し、教員および学生が議論し合う。その内容は報告者によって異なるので、以下の項目は、作業を遂行する上でのおおよその目安と考えること。

1. 課題意識の明確化
2. 先行研究の吟味
3. 研究計画の実現可能性
4. 研究方法の妥当性（フィールドの選択、第1次資料の収集方法について）
5. 資料の分析と考察
6. 論の構成
7. 論述内容の客観性

■教材・参考書

その都度、指示する。

■成績評価の方法

演習課題への取り組み方、研究の過程と成果を、総合的に評価する。

■履修上の指示事項

音楽教育のテーマに取り組む修士課程および博士後期課程の院生を対象とする。
授業時間外の十分な準備が要求される。

■備考（オフィスアワー）

金曜日 16:15～16:45

音楽教育学音楽学実習 I

代表教員：塚原 康子

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

当該科実習の項を参照

■授業計画及び内容

当該科実習の項を参照

■教材・参考書

当該科実習の項を参照

■成績評価の方法

当該科実習の項を参照

■履修上の指示事項

当該科実習の項を参照

■備考（オフィスアワー）

当該科実習の項を参照

音楽教育学音楽学実習Ⅱ

代表教員：塚原 康子

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

当該科実習の項を参照

■授業計画及び内容

当該科実習の項を参照

■教材・参考書

当該科実習の項を参照

■成績評価の方法

当該科実習の項を参照

■履修上の指示事項

当該科実習の項を参照

■備考（オフィスアワー）

当該科実習の項を参照

音楽教育学器楽実習（Org）Ⅰ

代表教員：テスト教員1

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

当該科実習の項を参照

音楽教育学器楽実習（O r g）Ⅱ

代表教員：テスト教員 1

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

当該科実習の項を参照

音楽教育学器楽実習（P f）Ⅰ

代表教員：テスト教員 1

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

当該科実習の項を参照

■授業計画及び内容

当該科実習の項を参照

■教材・参考書

当該科実習の項を参照

■成績評価の方法

当該科実習の項を参照

■履修上の指示事項

当該科実習の項を参照

■備考（オフィスアワー）

当該科実習の項を参照

音楽教育学器楽実習（P f）Ⅱ

代表教員：テスト教員1

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

当該科実習の項を参照

■授業計画及び内容

当該科実習の項を参照

■教材・参考書

当該科実習の項を参照

■成績評価の方法

当該科実習の項を参照

■履修上の指示事項

当該科実習の項を参照

■備考（オフィスアワー）

当該科実習の項を参照

音楽教育学器楽実習（弦楽）Ⅰ

代表教員：澤 和樹

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

当該科実習の項を参照

■授業計画及び内容

当該科実習の項を参照

■教材・参考書

当該科実習の項を参照

■成績評価の方法

当該科実習の項を参照

■履修上の指示事項

当該科実習の項を参照

■備考（オフィスアワー）

当該科実習の項を参照

音楽教育学器楽実習（弦楽）Ⅱ

代表教員：永峰 高志

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

当該科実習の項を参照

■授業計画及び内容

当該科実習の項を参照

■教材・参考書

当該科実習の項を参照

■成績評価の方法

当該科実習の項を参照

■履修上の指示事項

当該科実習の項を参照

■備考（オフィスアワー）

当該科実習の項を参照

音楽教育学器楽実習（古楽）Ⅰ

代表教員：テスト教員1

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

当該科実習の項を参照

音楽教育学器楽実習（古楽）Ⅱ

代表教員：テスト教員 1

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

当該科実習の項を参照

音楽教育学作曲実習Ⅰ

代表教員：テスト教員 1

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

当該科実習の項を参照

音楽教育学作曲実習Ⅱ

代表教員：テスト教員1

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

当該科実習の項を参照

音楽教育学指揮実習Ⅰ

代表教員：テスト教員1

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

当該科実習の項を参照

音楽教育学指揮実習Ⅱ

代表教員：テスト教員1

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

当該科実習の項を参照

音楽教育学実習AⅠ

代表教員：佐野 靖

曜日時限：水曜1限

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

修士論文に関する指導

■授業計画及び内容

修士論文の作成に向けて、基本的に踏まえるべき内容を学習し、研究の構想を実現するための内容・方法などを具体化する。（1年次対象）

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

取り組みの姿勢や研究の成果などを総合的に評価する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

水曜日 15:10～16:00

音楽教育学実習 A II

代表教員：佐野 靖
曜日時限：水曜 1 限
学 期：通年
単 位 数：3
ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

修士論文に関する指導

■授業計画及び内容

理論と実践を関連付けながら、修士論文を仕上げていく。（2 年次対象）

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

取り組みの姿勢や研究の成果などを総合的に評価する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

水曜日 15:10~16:00

音楽教育学実習 B I

代表教員：山下 薫子
曜日時限：火曜 5 限
学 期：通年
単 位 数：3
ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

音楽教育学を専攻する修士課程 1 年の院生に対し、研究の進め方についての個人指導またはグループ指導を行う。ディスカッションを通して、各自のもつ課題意識を明確化するとともに、研究テーマの設定、資料の収集および分析等、考察と執筆の手続きについて助言する。

■授業計画及び内容

予め各自が準備した課題について、個人指導またはグループ指導を行う。その内容は受講生によって異なるので、以下の項目は、作業を遂行する上での目安とおおよその目安と考えること。

1. 課題意識の明確化
2. 先行研究の吟味
3. 研究計画の作成（フィールドの決定等を含む）
4. 研究方法の検討（第 1 次資料の収集方法について）
5. 資料の分析と考察
6. 論の構成と執筆
7. 論述内容の推敲

■教材・参考書

その都度、指示する。

■成績評価の方法

実習課題への取り組み方、研究の過程と成果を、総合的に評価する。

■履修上の指示事項

授業時間外の十分な準備を必要とする。

■備考（オフィスアワー）

金曜日 16:15~16:45

音楽教育学実習 B II

代表教員：山下 薫子

曜日時限：火曜 5 限

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

音楽教育学を専攻する修士課程 2 年（または 2 年以上）の院生に対し、研究の進め方についての個人指導またはグループ指導を行う。ディスカッションを通して、各自のもつ課題意識を明確化するとともに、研究テーマの設定、資料の収集および分析等、考察と執筆の手続きについて助言する。

■授業計画及び内容

予め各自が準備した課題について、個人指導またはグループ指導を行う。その内容は受講生によって異なるので、以下の項目は、作業を遂行する上でののおよその目安と考えること。

1. 課題意識の明確化
2. 先行研究の吟味
3. 研究計画の作成（フィールドの決定等を含む）
4. 研究方法の検討（第 1 次資料の収集方法について）
5. 資料の分析と考察
6. 論の構成と執筆
7. 論述内容の推敲

■教材・参考書

その都度、指示する。

■成績評価の方法

実習課題への取り組み方、研究の過程と成果を、総合的に評価する。

■履修上の指示事項

授業時間外の十分な準備を必要とする。

■備考（オフィスアワー）

金曜日 16:15～16:45

音楽教育学実習 C I

代表教員：塚原 康子

曜日時限：月曜 4 限

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

音楽学（とくに日本音楽史）に関連したトピックを扱う音楽教育学の修士論文及び博士論文の指導

■授業計画及び内容

各大学院生の研究課題に即して、指導と助言を行う。

■教材・参考書

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

指導を希望する学生は予約をとること。

■備考（オフィスアワー）

火曜日 9:30～10:20

音楽教育学実習 C II

代表教員：塚原 康子

曜日時限：月曜 4 限

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

音楽学（とくに日本音楽史）に関連したトピックを扱う音楽教育学の修士論文及び博士論文の指導

■授業計画及び内容

各大学院生の研究課題に即して、指導と助言を行う。

■教材・参考書

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

指導を希望する学生は予約をとること。

■備考（オフィスアワー）

火曜日 9:30~10:20

音楽教育学声楽実習 I

代表教員：青木 道子

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

当該科実習の項を参照

■授業計画及び内容

当該科実習の項を参照

■教材・参考書

当該科実習の項を参照

■成績評価の方法

当該科実習の項を参照

■履修上の指示事項

当該科実習の項を参照

■備考（オフィスアワー）

当該科実習の項を参照

音楽教育学声楽実習Ⅱ

代表教員：福島 明也

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

当該科実習の項を参照

■授業計画及び内容

当該科実習の項を参照

■教材・参考書

当該科実習の項を参照

■成績評価の方法

当該科実習の項を参照

■履修上の指示事項

当該科実習の項を参照

■備考（オフィスアワー）

当該科実習の項を参照

音楽教育学博士専門研究（1）

代表教員：佐野 靖

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

音楽経験の人間形成的・教育的な意味を探る

■授業計画及び内容

学校教育をはじめ、幼児教育や生涯教育において「音楽すること」の持つ意味と機能を理論と実践の両面からアプローチする。

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

発表内容や取り組みの姿勢などを総合的に評価する。

■履修上の指示事項

本テーマについてある程度研究の蓄積がある学生が受講すること。

■備考（オフィスアワー）

水曜日 15:10～16:00

音楽教育学博士専門研究（2）

代表教員：山下 薫子

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

音楽教育学を専攻する博士後期課程の院生を対象とした高度専門職業人の育成

■授業計画及び内容

各自の興味・関心および専門性に応じて、教員養成系学部等における教職科目の講義や実技の指導に対する理解を深めるとともに、指導の計画を立て、模擬的な指導実践を行う。

■教材・参考書

適宜、指示する。

■成績評価の方法

課題への取組と指導計画の作成、模擬授業・模擬レッスンの実際等を総合的に評価する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

金曜日 16:15～16:45

音楽教育学邦楽実習 I

代表教員：テスト教員 1

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

当該科実習の項を参照

音楽教育学邦楽実習Ⅱ

代表教員：テスト教員1

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

当該科実習の項を参照

音楽文芸演習（1）Ⅰ

代表教員：大森 晋輔

曜日時限：水曜5限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

フランス近現代の詩作品の分析

■授業計画及び内容

主に 19-20 世紀の声楽作品（シャンソン含む）の題材となったフランス語の詩を取り上げ、朗読、詩形の分析、解釈などを通じて多角的な視点から原詩の魅力を味わう。次にその詩がどのような音楽にされているのかについて、楽譜も参照しながら詩と音楽の照応関係を考える。出席者にはこちらで指定した、あるいは自分で選んだ詩についてあらかじめ調べ、発表することが求められる。

■教材・参考書

教材：プリント配布

参考書：その都度指示する。

■成績評価の方法

授業への参加度、発表内容、およびそれをもとにしたレポート

■履修上の指示事項

能動的な参加を求める。

■備考（オフィスアワー）

水曜 11 時～。事前連絡のこと。

音楽文芸演習（1）Ⅱ

代表教員：大森 晋輔

曜日時限：水曜5限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

フランス近現代の詩作品の分析

■授業計画及び内容

主に 19-20 世紀の声楽作品（シャンソン含む）の題材となったフランス語の詩を取り上げ、朗読、詩形の分析、解釈などを通じて多角的な視点から原詩の魅力を味わう。次にその詩がどのような音楽にされているのかについて、楽譜や録音資料も参照しながら詩と音楽の照応関係を考える。出席者にはこちらで指定した、あるいは自分で選んだ作品についてあらかじめ調べ、発表することが求められる。

■教材・参考書

教材：プリント配布

参考書：その都度指示する。

■成績評価の方法

授業への参加度、発表内容、およびそれをもとにしたレポート

■履修上の指示事項

授業への積極的な参加を求める。

■備考（オフィスアワー）

水曜 11 時～。事前連絡のこと。

音楽文芸演習（2）Ⅰ

代表教員：侘美 真理

曜日時限：金曜5限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

英米文学の精読・評論。

主に散文作品をじっくり読むことで、英語力の向上につとめる。同時に、作品の批評や分析方法についても学び、文学批評の演習とする。

■授業計画及び内容

Charlotte Bronte (1816-1855) の Jane Eyre、Anne Bronte (1820-1849) の Agnes Grey を読む。この 2 作品は一人称の語りを特徴として伝記的な要素が強いが、この姉妹による作品を比較しながら語りの技法について考察する。その他ブロンテ研究に関する批評文献も読む。

■教材・参考書

Charlotte Bronte, Jane Eyre (Penguin Classics, 2006)

Anne Bronte, Agnes Grey (Penguin Classics, 1998)

■成績評価の方法

出席、平常点、レポート

■履修上の指示事項

初回の授業は授業の進め方や評価及び注意事項について説明するので、出席すること。

演習の趣旨を踏まえて自主的に参加すること。

■備考（オフィスアワー）

音楽文芸演習（2）Ⅱ

代表教員：侘美 真理

曜日時限：金曜5限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

英米文学の精読・評論。

主に散文作品をじっくり読むことで、英語力の向上につとめる。同時に、作品の批評や分析方法についても学び、文学批評の演習とする。

■授業計画及び内容

Charlotte Bronte (1816-1855) の Jane Eyre、Anne Bronte (1820-1849) の Agnes Grey を読む。この2作品は一人称の語りを特徴として伝記的な要素が強いが、この姉妹による作品を比較しながら語りの技法について考察する。その他ブロンテ研究に関する批評文献も読む。

■教材・参考書

Charlotte Bronte, Jane Eyre (Penguin Classics, 2006)

Anne Bronte, Agnes Grey (Penguin Classics, 1998)

■成績評価の方法

出席、平常点、レポート

■履修上の指示事項

初回の授業は授業の進め方や評価及び注意事項について説明するので、出席すること。

演習の趣旨を踏まえて自主的に参加すること。

■備考（オフィスアワー）

音楽文芸演習（3）Ⅰ

代表教員：檜山 哲彦

曜日時限：水曜5限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

ドイツ語を中心とする言語芸術作品の研究

■授業計画及び内容

主としてドイツ語で書かれた詩、舞台用台本、リブレット等を対象として、詩法の分析、台本の分析、解釈、翻詩、朗読のあり方などの研究を行う。

言葉のもつ音楽性を探りたい。

■教材・参考書

プリントによる。

■成績評価の方法

平常点に基づいて行う。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

水・金曜日の17時以降

音楽文芸演習（3）Ⅱ

代表教員：檜山 哲彦

曜日時限：水曜5限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

ドイツ語を中心とする言語芸術作品の研究

■授業計画及び内容

主としてドイツ語で書かれた詩、舞台用台本、リブレット等を対象として、詩法の分析、台本の分析、解釈、翻詩、朗読のあり方などの研究を行う。言葉のもつ音楽性を探りたい。

■教材・参考書

プリントによる。

■成績評価の方法

平常点に基づいて行う。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

水・金曜日の17時以降

音楽文芸演習（4）Ⅰ

代表教員：杉本 和寛

曜日時限：水曜2限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

日本の近代における芸術作品や、古典芸能作品について、注釈的な読解を行う能力を身につけ、作品が作られ、演じられた時代的な文脈の中で理解することを目的とする。

■授業計画及び内容

開講時の受講生の専門領域により、取り上げるテキストを決定する。

■教材・参考書

適宜指定する。

■成績評価の方法

発表内容および出席状況により評価する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

月曜日Ⅱ限目

音楽文芸演習（４）Ⅱ

代表教員：杉本 和寛

曜日時限：水曜 2限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

日本の近代における芸術作品や、古典芸能作品について、注釈的な読解を行う能力を身につけ、作品が作られ、演じられた時代的な文脈の中で理解することを目的とする。

■授業計画及び内容

開講時の受講生の専門領域により、取り上げるテキストを決定する。

■教材・参考書

適宜指定する。

■成績評価の方法

発表内容および出席状況により評価する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

月曜日Ⅱ限目

音楽文芸演習（５）Ⅰ

代表教員：畑 瞬一郎

曜日時限：金曜 5限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

主としてイタリア語による言語芸術作品の研究、および／あるいは、文芸研究のための理論的考察

■授業計画及び内容

主としてイタリア語で書かれた文芸作品を題材としつつ、文学テキストの「読み」と「解釈」に焦点をあてたゼミナールとする。

基本的に学生諸氏の興味と関心を最大限に尊重しながらテーマを設定していく予定である。

■教材・参考書

■成績評価の方法

平常点とレポートから総合的に判断する。

■履修上の指示事項

千住校地開設。 初回到全体の予定を決めるので、受講者は必ず出席すること。

■備考（オフィスアワー）

金曜日 13:00~14:00

（メール等による事前予約が望ましい [メールアドレスは G-net シラバスに記載]）

音楽文芸演習（5）Ⅱ

代表教員：畑 瞬一郎

曜日時限：金曜5限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

主としてイタリア語による言語芸術作品の研究、および／あるいは、文芸研究のための理論的考察

■授業計画及び内容

主としてイタリア語で書かれた文芸作品を題材としつつ、文学テキストの「読み」と「解釈」に焦点をあてたゼミナールとする。

基本的に学生諸氏の興味と関心を最大限に尊重しながらテーマを設定していく予定である。

■教材・参考書

■成績評価の方法

平常点とレポートから総合的に判断する。

■履修上の指示事項

千住校地開設。初回に全体の予定を決めるので、受講者は必ず出席すること。

■備考（オフィスアワー）

金曜日 13:00～14:00

（メール等による事前予約が望ましい [メールアドレスはG-net シラバスに記載]）

音楽文芸実習（1）Ⅰ

代表教員：大森 晋輔

曜日時限：火曜4限

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

修士論文指導

■授業計画及び内容

音楽文芸専攻の学生を対象に、修士論文作成のための個人指導を行う。

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

音楽文芸実習（1）Ⅱ

代表教員：大森 晋輔

曜日時限：火曜4限

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

修士論文指導

■授業計画及び内容

音楽文芸専攻の学生を対象に、修士論文作成のための個人指導を行う。

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

音楽文芸実習（2）Ⅰ

代表教員：侘美 真理

曜日時限：火曜5限

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

音楽文芸専攻学生の研究課題個人指導

■授業計画及び内容

研究テーマ、資料、論考、修士論文・制作等についての指導を行う。

■教材・参考書

■成績評価の方法

平常点、レポート

■履修上の指示事項

最初の時間に指示する。

■備考（オフィスアワー）

音楽文芸実習（2）Ⅱ

代表教員：侘美 真理

曜日時限：火曜5限

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

音楽文芸専攻学生の研究課題個人指導

■授業計画及び内容

研究テーマ、資料、論考、修士論文・制作等についての指導を行う。

■教材・参考書

■成績評価の方法

平常点、レポート

■履修上の指示事項

最初の時間に指示する。

■備考（オフィスアワー）

音楽文芸実習（3）Ⅰ

代表教員：檜山 哲彦

曜日時限：水曜3限

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

修士論文指導

■授業計画及び内容

音楽文芸の大学院生を対象に修士論文作成のための個人指導を行う。

■教材・参考書

■成績評価の方法

平常点に基づいて行う。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

水・金曜日の17時以降

音楽文芸実習（3）Ⅱ

代表教員：檜山 哲彦

曜日時限：水曜3限

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

修士論文指導

■授業計画及び内容

音楽文芸の大学院生を対象に修士論文作成のための個人指導を行う。

■教材・参考書

■成績評価の方法

平常点に基づいて行う。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

水・金曜日の17時以降

音楽文芸実習（4）Ⅰ

代表教員：杉本 和寛

曜日時限：水曜3限

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

修士論文指導

■授業計画及び内容

音楽文芸専攻の学生を対象に、修士論文作成のための個人指導を行う。

■教材・参考書

特になし

■成績評価の方法

平常点により判断する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

月曜日Ⅱ時限目

音楽文芸実習（4）Ⅱ

代表教員：杉本 和寛

曜日時限：水曜3限

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

修士論文指導

■授業計画及び内容

音楽文芸専攻の学生を対象に、修士論文作成のための個人指導を行う。

■教材・参考書

特になし

■成績評価の方法

平常点により判断する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

月曜日Ⅱ時限目

音楽文芸実習（5）Ⅰ

代表教員：畑 瞬一郎

曜日時限：金曜4限

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

音楽文芸専攻学生の修士論文指導。

■授業計画及び内容

音楽文芸専攻の学生を対象に、修士論文作成のための個人指導を行う。

■教材・参考書

■成績評価の方法

研究の進捗と成果、および、平常点により成績評価を行なう。

■履修上の指示事項

千住校地にて行う

■備考（オフィスアワー）

金曜日 13:00~14:00

（メール等による事前予約が望ましい [メールアドレスはG-net シラバスに記載]）

音楽文芸実習（5）Ⅱ

代表教員：畑 瞬一郎

曜日時限：金曜4限

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

音楽文芸専攻学生の修士論文指導。

■授業計画及び内容

音楽文芸専攻の学生を対象に、修士論文作成のための個人指導を行う。

■教材・参考書

■成績評価の方法

研究の進捗と成果、および、平常点により成績評価を行なう。

■履修上の指示事項

千住校地開設

■備考（オフィスアワー）

金曜日 13:00～14:00

（メール等による事前予約が望ましい [メールアドレスはG-net シラバスに記載]）

音楽文芸総合演習

代表教員：大森 晋輔

曜日時限：木曜3限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

音楽文芸全教員と全学生が、専門の枠を越えて一定のテーマのもとに議論を行い、問題の捉え方や、論理的な思考方法を学ぶ。

■授業計画及び内容

主として芸術・思想・文学等にかかわる文献を選択し、担当者の発表をもとにして議論を行う。1年を通じて、3～4種類の文献を扱う。

授業は隔週で、2～4コマを通して行うので、他の授業との重複に留意すること。

■教材・参考書

その都度指定する。

■成績評価の方法

出席状況・発表内容・授業時の発言内容等により評価する。

■履修上の指示事項

他専攻の学生の参加も可能であるが、1年を通じて出席することを求める。

■備考（オフィスアワー）

音楽文芸特殊研究（１）

代表教員：大森 晋輔

曜日時限：金曜 4 限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

フランス語文献の読解能力の涵養

■授業計画及び内容

同時代の文化や歴史動向を視野に入れて、フランス語で書かれたテキストを読む。テキストは初回時に受講生と相談の上、決定する。

■教材・参考書

プリントを配布

■成績評価の方法

出席状況、授業への参加度、発表、レポート

■履修上の指示事項

初回時にテキストと担当者を決めるので出席のこと。担当者はテキストの翻訳を準備し、全員で内容を検討する。テキストの理解を助けるための情報や資料の提供は大いに歓迎される。

■備考（オフィスアワー）

水曜 11:00～

事前連絡のこと。

音楽文芸特殊研究（２）

代表教員：侘美 真理

曜日時限：金曜 4 限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

英米文学の精読・評論。

19世紀～20世紀の英米文学、とくに英国ヴィクトリア朝文学（小説、短編小説、詩）とそれらに関する評論を読む。英語力の向上にもつとめる。

■授業計画及び内容

まずはヴィクトリア朝時代を概観した英文資料を読み、どのような時代であったかを知ってもらう。例えば文化芸術においてはロンドン万国博覧会の盛況やラファエル前派の絵画の流行があった。視覚的なイメージも取り込みつつイントロダクションを行い、読む英文も比較的簡単なものから始める。その後、メインである文学テキストの精読に移る。詩、短編、長編小説の順で読む予定。詩では言葉とそのイメージに着目し、短編小説では文章を読むことに慣れてもらい、筋の展開や心理・情景描写を把握する。長編小説（抜粋）では読んだ上でさらにその場面が担う意味や役割などを考察する。取り上げる作家・詩人は Charles Dickens, Emily Bronte, Elizabeth Gaskell, George Eliot, Mary Elizabeth Braddon, Christina Rossetti など。英文のレベルとしては徐々に難しく、複雑になるようにテキストを選び、受講者の取り組みが期待される。

■教材・参考書

指定教材及びプリント

■成績評価の方法

出席、平常、レポート

■履修上の指示事項

初回の授業は授業の進め方や評価及び注意事項について説明するので、出席すること。

■備考（オフィスアワー）

音楽文芸特殊研究（3）

代表教員：檜山 哲彦

曜日時限：金曜5限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

言語表現論

■授業計画及び内容

日本語の多種多様な文章をドイツ語に移す訓練を行う一方、新聞記事などアクチュアルなドイツ文を日本語に移す能力を養いつつ、言語表現のあるべき姿を考える。全参加者が毎回提出する文章を全員で検討してゆく。

■教材・参考書

コピー

■成績評価の方法

出席を重視する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

水・金曜日の17時以降

音楽文芸特殊研究（6）

代表教員：青井 陽治

曜日時限：火曜2限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

《ミュージカルの基本》ミュージカルのどこが「？」ですか？

ミュージカルとは一体何か？

日本のミュージカルはどこを目指すべきなのか？

ミュージカルの歴史・発展の跡をたどり、現在の停滞の突破口を探り、さまざまな角度から、ミュージカルと向き合い、ミュージカルを考え、ミュージカルと遊ぶ。

■授業計画及び内容

〈前期〉

《西洋大衆音楽劇》としてのミュージカルの成立と特質を知る。映像資料によって、ミュージカルのさまざまな顔と出逢う。

《日本が産んだミュージカル》の素晴らしさに気づく。

〈後期〉

ミュージカルにおいて「歌う」とは？ ミュージカルにとって「音楽」とは？

実技を通して、体験的に学ぶ。

■教材・参考書

教科書的にまとめたものは、残念ながら、日本語ではありません。参考書になるものは、各人の必要やレベルに応じて、なるべく実践的なものを推薦します。

楽譜・台本など、実際に現場で使用しているものにも触れてもらいます。

■成績評価の方法

前期・後期とも、テーマを定めて小論文。

後期は、歌唱・演奏などの実技、もしくは、台本・歌詞・作曲などの作品づくりも評価の対象とする。

■履修上の指示事項

出席を重視して、点数に換算し成績に加味します。

後期の実技・作品の発表に関して、前期終了時に小論文と共に、その構想を提出してもらいます。

■備考（オフィスアワー）

教育学特殊研究（1）

代表教員：佐野 靖

曜日時限：火曜2限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

「音楽と教育」にかかわる基本問題を探究し、実践研究にアプローチする。今年度のテーマは「授業研究」。

■授業計画及び内容

音楽と教育のかかわりにおける基本問題を整理、探究するとともに、歴史的視点から実際の授業研究まで、幅広いアプローチの方法論を学ぶ授業である。今年度は、「授業研究」に焦点化し、学校現場と協働で実践研究に取り組む。

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

各自の発表内容などを総合して評価する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

金曜日 16:10～17:00

教育学特殊研究（2）

代表教員：山下 薫子

曜日時限：火曜3限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

音楽教育学の基本問題

■授業計画及び内容

学校の音楽教育、幼児の音楽教育、障害児の音楽教育、社会教育としての音楽教育、音楽の専門教育などについて、基底論、発達論、教育課程論、授業論を4つの柱として、演習活動を展開する。

今年度は特に、音楽的発達と教育制度、教育課程と教育方法に焦点を当てる計画である。

■教材・参考書

その都度、指示する。

■成績評価の方法

主としてゼミでの発表および議論の内容を評価の対象とする。

■履修上の指示事項

原則として、音楽教育を専攻する修士課程および博士後期課程のすべての院生と研究生を対象とする。授業時間外の十分な準備が要求される。

■備考（オフィスアワー）

金曜日 16:15～16:45（山下）

教育学特殊研究（3）

代表教員：今川 恭子

曜日時限：金曜3限

学 期：前期

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

音楽学習と発達の理論と実際

■授業計画及び内容

人は生涯にわたって様々なフィールドで様々なやり方で音楽を学び、教える。そうした人間の営みに見出される音楽的な学びと育ちを捉えるための理論枠組みについて検討する。主に乳幼児期を起点とし、「身体と環境」「共感」「相互主観性」「想像力と思考力」「言語・非言語コミュニケーションと協働」などをキーワードに、文献購読と意見交換を行う。実際にフィールドで得た映像データ等をもとに、理論枠組みと参照しながらの討議も行う。

■教材・参考書

その都度指示する。

■成績評価の方法

レポートと平常点

■履修上の指示事項

教育学特殊研究（4）と連携してフィールドに出る場合があるので、同時に履修することが望ましい（履修の必須条件ではない）

■備考（オフィスアワー）

教育学特殊研究（4）

代表教員：今川 恭子

曜日時限：金曜2限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

音楽教育研究の方法：子どもを対象とした質的研究の進め方

■授業計画及び内容

子どもを対象とした質的研究方法について、文献講読と体験を通じて「課題設定」「データ収集・記述」「データ分析」「理論の検証・導出」のプロセスをたどって理解し、質的研究を実施するために必要な知識とスキルの習得および子ども理解の基礎知識の習得をめざす。

授業は具体的に、1) 文献を通じた基本的知識の習得、2) ワークショップ形式での体験的理解、3) 実地のフィールド学習、の3つを軸に展開する。1) については、「フィールドワーク」「エスノグラフィー」「聞き取り（ライフストーリーインタビュー等）」「観察」などをキーワードに文献を読み、対概念である「量的方法」（実験や調査・統計に代表される）についても考える。3) は「各自の研究課題に基づく観察やアクションリサーチ」「全員参加による保育現場等での参与観察」を含む予定である。

■教材・参考書

参考書：小川容子・今川恭子他『音楽する子どもをつかまえたい—実験研究者とフィールドワーカーの対話』（ふくろう出版）

柴山真琴『子どもエスノグラフィー入門』（新曜社）

箕浦康子『フィールドワークの技法と実際—マイクロ・エスノグラフィー入門』（ミネルヴァ書房）

佐藤郁哉『フィールドワーク—書を持って街へ出よう』（新曜社）

その他、授業内に指示する。

■成績評価の方法

レポートと平常点

■履修上の指示事項

教育学特殊研究(3)とリンクして実地のフィールド学習を行うこともあるため、できれば同時に履修することが望ましい（必須条件ではない）。

■備考（オフィスアワー）

教育学特殊研究（５）

代表教員：坪能 由紀子

曜日時限：月曜５限

学 期：通年

単 位 数：４

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

創造的音楽学習（音楽づくり・創作）

■授業計画及び内容

創造的音楽学習とは、子どもが身の回りにあるすべての音を用いて、自ら音楽をつくる活動を指す。現在、日本の学習指導要領においては、小学校では「音楽づくり」、中学校では「創作」として、「A 表現」の中にこの「創造的音楽学習」にあたる活動が位置づけられている。

前期は、創造的音楽学習の今日に至るまでの歴史を俯瞰し、また創造的音楽学習をワークショップを通して実際に体験する。さらに幼稚園、小・中学校の授業において、または社会教育の教育プログラムにおいて創造的な活動がどのような意味を持つかを実践例に基づいて検討し、創造的音楽学習とは何かについての知見を深める。

後期は、内外の文献研究、授業実践等の見学、一人ひとりによるワークショップの試案の作成・実施などを通して、創造的音楽学習の理念、カリキュラム化、評価などについて、より詳細な分析と考察を行う。

■教材・参考書

授業中に指示する。

■成績評価の方法

授業内での発表などにより全般的に評価する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

教育学特殊研究（６）

代表教員：横地 早和子

曜日時限：月曜４限

学 期：通年

単 位 数：４

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

心理学的研究手法を援用し音楽教育研究の方法論を探る

■授業計画及び内容

前期：

本授業では、実証的な研究を進める際に必要となる基本的な論理や方法論の理解を目指すとともに、音楽教育研究への援用について考える。特に、教育心理学で広く用いられている研究手法（主に、面接法・調査法・実験法）について演習・実習を通して学び、最終的には簡単な研究計画が立てられるようになることを目指す。

後期：

前期で学んだことをうけて、実証的な研究手法の思考力や批判力をさらに養うために、音楽心理学・教育心理学に関する書籍や論文の講読を行う（日本語論文・英語論文を講読予定）。また、必要に応じて、論文を理解する上で必要な定量・定性的データ分析に関する基礎的な解説も行う。

■教材・参考書

授業の中で適宜紹介する。

■成績評価の方法

授業への参加の程度、レポート等によって総合的に評価する。

■履修上の指示事項

- ・授業ではグループによる実習を行うため、全ての授業への参加はもとより、授業外の活動にも積極的に取り組むことを履修の条件とする。
- ・心理学についての予備知識等は必要ない。

■備考（オフィスアワー）

授業に関する連絡やレポートの提出はe-mailをと

して行うので、事前にメールアカウント等を取得しておくことが望ましい。

芸術環境創造演習（1）Ⅰ

代表教員：熊倉 純子

曜日時限：火曜5限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

芸術と社会（アートマネジメント、文化政策）

■授業計画及び内容

修士課程1年次の履修科目。学部のプロジェクトの授業と共同で、アートマネジメントを実践的に研究する。各自がフィールドワークで得た知見を共有するゼミ形式の授業。

■教材・参考書

■成績評価の方法

出席および授業への積極的な参画

■履修上の指示事項

フィールドワークについては、教員と相談のうえ、決定する。

■備考（オフィスアワー）

金曜日5限

芸術環境創造演習（1）Ⅱ

代表教員：熊倉 純子

曜日時限：火曜5限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

芸術と社会（アートマネジメント、文化政策）

■授業計画及び内容

修士課程2年次の履修科目。学部プロジェクトの授業と共同で、アートマネジメントを実践的に研究する。各自がフィールドワークから得た知見を共有し、ディスカッションを行う

■教材・参考書

■成績評価の方法

出席および授業への積極的な参画

■履修上の指示事項

フィールドワークについては、教員と相談の上、決定する。

■備考（オフィスアワー）

金曜5限

芸術環境創造演習（2）Ⅰ

代表教員：市村 作知雄

曜日時限：金曜4限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

演劇、舞踊作品の論評
芸術フェスティバルの研究

■授業計画及び内容

演劇およびダンス作品を毎回映像で見て、それについて批評する。
テキストを解説する
国際的な芸術フェスティバルの成立過程の研究

■教材・参考書

必要に応じてテキストを配布

■成績評価の方法

レポート

■履修上の指示事項

実際の舞台作品をたくさん見ること

■備考（オフィスアワー）

金曜5限

芸術環境創造演習（2）Ⅱ

代表教員：市村 作知雄

曜日時限：金曜 4 限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

演劇、舞踊作品の論評

芸術フェスティバルの研究

■授業計画及び内容

演劇およびダンス作品を毎回映像で見て、それについて批評する。

テキストを解読する

国際的な芸術フェスティバルの成立過程の研究

■教材・参考書

必要に応じてテキストを配布

■成績評価の方法

レポート

■履修上の指示事項

実際の舞台作品をたくさん見ること

■備考（オフィスアワー）

金曜 5 限

芸術環境創造演習（3）Ⅰ

代表教員：毛利 嘉孝

曜日時限：金曜 4 限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

修士論文の指導

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

履修にあたっては事前に指導教員に相談のこと。

■備考（オフィスアワー）

芸術環境創造演習（3）Ⅱ

代表教員：毛利 嘉孝

曜日時限：金曜 4 限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

修士論文の指導

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

履修前に必ず指導教員に相談のこと。

■備考（オフィスアワー）

芸術環境創造実習（1）Ⅰ

代表教員：熊倉 純子

曜日時限：水曜 5 限

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

芸術と社会（アートマネジメントと文化政策）

■授業計画及び内容

修士課程 1 年次の履修科目。博士課程の学生とともに各自の研究発表をおこなう。後期は水曜 4 限に文献購読をおこなう。

■教材・参考書

英国のシンクタンク DEMOS のメンバーである文化経済学者、John Holden の著作、

“Cultural Value and the Crisis of Legitimacy—Why culture needs a democratic mandate” (2006)

(DEMOS の WEB SITE から無料でダウンロード可能)

■成績評価の方法

出席および授業への積極的な参画

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

金曜 5 限

芸術環境創造実習（1）Ⅱ

代表教員：熊倉 純子

曜日時限：水曜5限

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

芸術と社会（アートマネジメントと文化政策）

■授業計画及び内容

修士課程2年次の履修科目。博士課程の学生とともに各自の研究発表をおこなう。後期は水曜4限に文献購読をおこなう。

■教材・参考書

英国のシンクタンク DEMOS のメンバーである文化経済学者、John Holden の著作、

“Cultural Value and the Crisis of Legitimacy—Why culture needs a democratic mandate” (2006)

(DEMOS の WEB SITE から無料でダウンロード可能)

■成績評価の方法

出席および授業への積極的な参画

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

金曜5限

芸術環境創造実習（2）Ⅰ

代表教員：市村 作知雄

曜日時限：月曜1限

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

修士論文の指導を行う。

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

月曜日V限

芸術環境創造実習（2）Ⅱ

代表教員：市村 作知雄

曜日時限：月曜1限

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

修士論文の指導を行う。

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

月曜日V限

芸術環境創造実習（3）Ⅰ

代表教員：毛利 嘉孝

曜日時限：金曜3限

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

修士課程の学生に対する現代文化研究のための理論とフィールドワーク

■授業計画及び内容

プロジェクト5と共同でワークショップ、輪読形式の授業を行う

■教材・参考書

■成績評価の方法

出席

■履修上の指示事項

受講に対しては必ず指導教員に相談のこと。

■備考（オフィスアワー）

水曜日3限

芸術環境創造実習（3）Ⅱ

代表教員：毛利 嘉孝

曜日時限：金曜3限

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

修士課程の学生に対する現代文化研究のための理論とフィールドワーク

■授業計画及び内容

プロジェクト5と共同でワークショップや輪読を行う

■教材・参考書

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

履修前に必ず指導教員に相談のこと。

■備考（オフィスアワー）

水曜日3限

芸術環境創造特殊研究（1）：芸術運

堂

代表教員：児玉 真

曜日時限：月曜4限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

日本の音楽シーンにおいては、日本の公共ホールが担うべき芸術普及の手法の一つとして生まれたアウトリーチは、受容的な意味で聴く人に新たな体験と世界観の拡大をもたらす事が認識されているとともに、公共ホールの役割から社会の中での音楽のあり方まで広く視野が広がる分野である。この授業では、単に音楽と社会の関係を論じるのではなく、アウトリーチという事業を通じて見えてくる、公共的な役割を担う音楽ホールのその地域社会、コミュニティとの関わりから、プロデューサーや演奏家の考え方の変化までを視野に入れつつ様々な「関係」を考えて行く。アウトリーチの取り組みは、単にアートマネジメントの問題ではなく、演奏家をめざす人にとっても「演奏行為＝聴き手の存在」にたいする意識だけでなく、社会で生きるための演奏家のキャリアマネジメントとしても取り組む価値のある分野であろう。

■授業計画及び内容

21世紀においては、プロデューサーは情報を独占し決定する人ではなく、関係を編集したりコーディネートする役割を持つ。アウトリーチは文化施設や演奏家、企画者が社会とコミットし、聴き手とインタラクティブな関係を持つ手法であるが、それを通じて演奏家や文化施設の社会における役割を考えていく。

また、アンジェラ・ビーチングの実践による音楽家のキャリアマネジメントの考察を通じて、日本での芸術の振興施策と芸術家の生き方に関わる可能性を考える

■教材・参考書

参考資料：

David Wallece : Reaching Out

理論社 アンジェラ・ビーチング（箕口一美訳）：
ビヨンド・タレント
地域創造 新アウトリーチのすすめ
地域創造 おんかつハンドブック
ほか適宜紹介する

■成績評価の方法

問題を発見使用とする意識と積極的発言を重視する。
また、現場で起こる様々なことを方向性をもって纏めてアウトプットする力を評価する。

■履修上の指示事項

芸術ジャンル意外にも広がる教養が必要な分野であり、薄くても広い視野をつけるための読書、実践現場での洞察力を意識して多くの現場に関わることを勧める。

■備考（オフィスアワー）

芸術環境創造特殊研究（6）：文化批

評方法論

代表教員：福住 廉

曜日時限：木曜3限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

大きなテーマは美術を中心とした芸術や文化をめぐる批評の方法論を実践的に習得すること。さまざまなトレーニングによって論文の執筆に必要とされる基本的な「書く」技術を身につけることを到達目標とする。

■授業計画及び内容

全体的には講義と実践の二部構成をとる。
実際の講義では日本語の文献をもとに批評文の構成を分析する。「何が書かれているのか」だけでなく、「どのように書かれているのか」という視点から批評文を読み解き、それぞれの批評の書かれ方を理解する。この読解と分析を繰り返すなかから、各自の批評のスタイルを確立するための手がかりを得る。
また、各回の講義では必ずエッセイを課す。講義で使用した文献について、あるいは各種のイベントや展覧会など広く文化芸術にかんする批評文を講義終了後の指定された日時までに自分で書き、それを担当教員が適時添削しながら指導するという実践的なトレーニングを繰り返す。最初は短文から、徐々に文字数を増やしていき、最終的には論文に組み込むことができる程度の課題論文を前期と後期にそれぞれ書く。目指すのは書き慣れることである。

■教材・参考書

履修生と相談の上、その都度指定する。美術批評のみならず、社会学や人類学、文化研究、都市論といった多様な文献を教材とする。また、文献だけでなく、各種のイベントや展覧会、プロジェクトなどの調査やフィールドワークも重要な教材である。

■成績評価の方法

- ①出席
- ②毎回のエッセイ

③前期末と後期末にそれぞれ一本ずつの課題論文

■履修上の指示事項

プログラムの詳細は履修生との相談によって決める。
したがって、履修生は各自の研究テーマや問題関心の所在を、ある程度明確にしておくことを希望する。

■備考（オフィスアワー）

授業終了後に随時設ける。

芸術環境創造特殊研究（10）：社会

事業マネジメント

代表教員：松山 真之助

曜日時限：

学 期：集中講義

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

社会をよりよきものにするビジネスを起こす。
素敵なことです。
それが藝術という世界に関わればなおのこと。
そんな思いを大切にしながら
ソーシャルビジネスを創出するために必要な
3つの視点を、ワークを交えながら習得します。

- 1) アイデアを生み出す力
- 2) コンセプトを伝えるための力
- 3) 仲間を集める力

■授業計画及び内容

▼1日目 社会起業家得論1 （夢のかけらの見つけ方）

仕事の思想 — 私がここにいる訳
マンドマップ演習

創発ワークショップ
マンダラート演習
ミートザワード演習
ムービーメーカー演習
MQ演習 (Moso Quotient)

▼2日目 組織マネジメント得論 （思いの昇華と組織への展開）

マネジメント手法—バランススコアカード（BSC）
ミッション・ビジョン・ストラテジー演習
BSC演習

SCM (ストーリーチェーンマネジメント)
この作品、商品の空間的歴史的連鎖

▼3日目 社会起業家得論2 (相互支援、見えない価値の創造)

ソーシャルアントレプレナーの心得
Invisible Value
私の夢
究極のコンサルテーション演習 (相互支援)

ふりかえり

■教材・参考書

とくにありません。
当日、資料を配布します。

■成績評価の方法

出席 (20%)
受講の姿勢 (40%)
グループワークへの貢献度 (40%)

■履修上の指示事項

<履修に必要な事前ワーク> 授業開始の1週間前まで!

(1) ■履修開始までに、自己紹介のメールを講師までお願いします。

[メールアドレスは G-net シラバスに記載]まで

(2) ■素敵だと思ふ会社、事業、商品、サービスなどを1つ選び

その理由をレポートする。

テキスト形式で。(最低5行くらいでもOK)

(パワーポイントやワードでがっつり書いてもOK)

(1)の自己紹介とともに 松山へメール

■備考 (オフィスアワー)

チームに一台PCがあること (多くの学生の皆さんはPC持参ですね)

プロジェクター

OHC (書画カメラ)

ホワイトボード

ポストイット (たくさん)

芸術環境創造特殊研究 (11): 芸術

支援

代表教員: 熊倉 純子

曜日時限: 水曜4限

学期: 前期

単位数: 2

ジャンル: 大学院開設科目 (音楽文化学)

開設区分: 音楽研究科

交流区分:

■授業のテーマ

芸術支援について

■授業計画及び内容

アーティストで文化経済学者でもあるオランダのハンス・アビングの著書『金と芸術—なぜアーティストは貧乏なのか』の第7章から終章までを題材に授業をおこなう。

他の研究科や他専攻からの履修も歓迎する。

特に、アーティストを志望する学生と、芸術環境を専門とする学生の議論を期待する。

■教材・参考書

ハンス・アビング著『金と芸術—なぜアーティストは貧乏なのか?』(山本和弘訳、grambooks、2007)

■成績評価の方法

出席、授業への参加。大学院生は毎回順番に分担を決め、担当する章のレジュメを作成し、ディスカッションのテーマを提供する。

■履修上の指示事項

■備考 (オフィスアワー)

金曜5限

芸術環境創造特殊研究（17）：アジア

ア文化研究

代表教員：葛西 周

曜日時限：水曜2限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

近現代アジアにおける文化表象の諸相

近代以降のアジア諸国では、西洋との対峙と隣国との相互作用を繰り返しながら、文化をめぐる慣習や価値観、イデオロギーが絶えず構築・再構築され、あるいは淘汰されてきた。

この授業では、音楽のみならず映画・美術・文学・建築・写真など多様なメディアを対象とし、自文化／異文化表象や文化帝国主義といった問題も射程に入れながら、アジアにおける文化表象の歴史的展開について考察を試みる。

主として論文執筆を控えた大学院生を対象とし、文献講読・論文構想発表・ディスカッションを通じて実践的にアカデミック・スキルを高めることを目標とする。

■授業計画及び内容

〈前期〉

授業のテーマに関連した文献を講読し、論文を書く上で必要な知見を身に付ける。今年度は特に「他者」をテーマとし、自文化と異文化の線引きや、他者をいかに観察・記述するかというアプローチ、舞台芸術ないし音楽イベントにおける当事者性といった問題について議論することを予定している。

また、方法論や資料の扱い方についても随時指導をおこなう。

〈後期〉

受講者の論文構想発表を中心とし、各自の研究テーマに関する議論を深めることで、論理性と説得力を備えた論文の完成を目指す。

■教材・参考書

授業内で適宜紹介する。

■成績評価の方法

- ・出席状況
- ・授業内での発表および議論への参加度
- ・期末課題

以上に基づき、総合的に判断する。

■履修上の指示事項

演習形式で授業を進めるため、受講者には半期一回以上の発表と毎回の議論への積極的な参加が求められる。

なお、受講者全員が年度内に学位論文、学術雑誌・紀要等への投稿論文、あるいはそれに準じたレポートを最低一本は執筆することを前提とする。

■備考（オフィスアワー）

質問等は授業終了後に受け付ける。

必要に応じて、メールでの個別相談も可。

メールアドレス：[メールアドレスはG-net シラバスに記載]

芸術環境創造博士専門研究

代表教員：熊倉 純子

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

芸術と社会（アートマネジメント、文化政策）

■授業計画及び内容

博士課程の学生のみを対象としたゼミ

■教材・参考書

■成績評価の方法

総合的に評価する

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

金曜 5 限

総合演習（音楽音響創造）

代表教員：西岡 龍彦

曜日時限：金曜 1 限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

音楽音響に関連する研究テーマについての実践をおこなう。

■授業計画及び内容

音楽音響に関する学会参加や受託研究、奏楽堂やトッパンホールの収録などの対外的な活動について総合的な実践研究をおこなう。

年度末に報告会を開催し、実践した成果について報告をおこなう。

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

発表内容と平常の授業態度を総合的に評価する。

■履修上の指示事項

音楽音響創造研究分野対象。

■備考（オフィスアワー）

総合演習（芸術環境創造）

代表教員：熊倉 純子

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

芸術環境をめぐるさまざまな領域・研究方法を比較検討することを通じて総合的な知識と方法論、実践を学ぶ。

■授業計画及び内容

演習参加者の個人研究の報告を中心に担当教員を交えたディスカッションを行う。

また研究テーマや研究方法、調査方法、実践当について、さまざまな領域から包括的な指導を行う。

■教材・参考書

特になし

■成績評価の方法

年間1回または2回の研究発表(60%) 平常点(40%)

■履修上の指示事項

各自の指導教員に相談のこと

■備考（オフィスアワー）

総合ゼミナール（大学院）

代表教員：福中 冬子

曜日時限：火曜3～4限

学 期：通年

単 位 数：0

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

楽理科三年生以上および大学院生（音楽学専攻の修士・博士課程）を対象とし、内外の講師による特別講義、博士課程学生研究発表、卒業論文・修士論文の中間発表、学生の自主企画によるゼミナール等を随時開催する。毎年度の日程は、楽理科教員室前に掲示する。

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

この科目の履修登録をする必要はないが、修士課程、博士課程の学生は必ず参加すること。出席状況は、「音楽学実習」「博士特別研究」の成績評価において参考とされる。

■備考（オフィスアワー）

ソルフェージュ器楽実習 (O r g) I

代表教員：テスト教員 1

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

当該科実習の項を参照

ソルフェージュ器楽実習 (O r g) II

代表教員：テスト教員 1

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

当該科実習の項を参照

ソルフェージュ器楽実習（P f）Ⅰ

代表教員：有森 博
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：3
ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

当該科実習の項を参照

ソルフェージュ器楽実習（P f）Ⅱ

代表教員：岡田 敦子
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：3
ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

当該科実習の項を参照

ソルフェージュ器楽実習（管打楽）Ⅰ

代表教員：テスト教員 1

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

当該科実習の項を参照

ソルフェージュ器楽実習（管打楽）Ⅱ

代表教員：テスト教員 1

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

当該科実習の項を参照

ソルフェージュ器楽実習（弦楽）Ⅰ

代表教員：テスト教員 1

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

当該科実習の項を参照

ソルフェージュ器楽実習（弦楽）Ⅱ

代表教員：テスト教員 1

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

当該科実習の項を参照

ソルフェージュ器楽実習（古楽）Ⅰ

代表教員：テスト教員1

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

当該科実習の項を参照

ソルフェージュ器楽実習（古楽）Ⅱ

代表教員：テスト教員1

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

当該科実習の項を参照

ソルフェージュ研究演習（1）Ⅰ

代表教員：テシュネ ローラン
曜日時限：月曜5限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

この授業では、フォルマシオン・ミュージカル（新たなソルフェージュ）の発想を取り入れます。この授業を通じて、生徒がソルフェージュの様々な手法を自分で用いることを学び、知覚する能力を高めることによって、音楽的实践、理解を改善し、芸術家としての世界を広げることができればと思います。またこの授業では、実践と理論、音楽の個人的な側面と集団的な側面、一人ひとりの生徒の欠点（ア・ラ・カルトの授業）と全員に必要な部分、両方を重視したいと思います。

■授業計画及び内容

本年度の授業で扱う項目の例：

○ソルフェージュの手法の探求

” 音楽的な聴覚の活性化—旋律と和声：できるだけ広い音域での音感、音楽の音色や様式の認識、欠落声部の聴音、聴覚記憶の訓練

” 音楽的な視覚の活性化—水平と垂直、7つの音部記号のマスター、譜面の黙読、視覚記憶の訓練

” 音楽のリズム：打楽器や好きな楽器による肉体的な実体験、自分の内なる拍動

” アナリゼー和声と形式

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

研究実習と研究演習の履修をセットとして履修すること。

[メールアドレスはG-net シラバスに記載]
<http://musique-art-vie.seesaa.net/>

ソルフェージュ研究演習（1）Ⅱ

代表教員：テシュネ ローラン
曜日時限：月曜5限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

この授業では、フォルマシオン・ミュージカル（新たなソルフェージュ）の発想を取り入れます。この授業を通じて、生徒がソルフェージュの様々な手法を自分で用いることを学び、知覚する能力を高めることによって、音楽的实践、理解を改善し、芸術家としての世界を広げることができればと思います。またこの授業では、実践と理論、音楽の個人的な側面と集団的な側面、一人ひとりの生徒の欠点（ア・ラ・カルトの授業）と全員に必要な部分、両方を重視したいと思います。

■授業計画及び内容

本年度の授業で扱う項目の例：

○ソルフェージュの手法の探求

” 音楽的な聴覚の活性化—旋律と和声：できるだけ広い音域での音感、音楽の音色や様式の認識、欠落声部の聴音、聴覚記憶の訓練

” 音楽的な視覚の活性化—水平と垂直、7つの音部記号のマスター、譜面の黙読、視覚記憶の訓練

” 音楽のリズム：打楽器や好きな楽器による肉体的な実体験、自分の内なる拍動

” アナリゼー和声と形式

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

研究実習と研究演習の履修をセットとして履修すること。

[メールアドレスはG-net シラバスに記載]
<http://musique-art-vie.seesaa.net/>

ソルフェージュ研究演習（2）Ⅰ

代表教員：照屋 正樹

曜日時限：金曜4限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

修士・博士論文指導

■授業計画及び内容

ソルフェージュの分野に関わる個々の研究を個人指導し、論文執筆のための助言を与える。

■教材・参考書

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

研究実習と研究演習の履修をセットとして履修すること。

ソルフェージュ研究演習（2）Ⅱ

代表教員：照屋 正樹

曜日時限：金曜4限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

修士・博士論文指導

■授業計画及び内容

ソルフェージュの分野に関わる個々の研究を個人指導し、論文執筆のための助言を与える。

■教材・参考書

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

研究実習と研究演習の履修をセットとして履修すること。

ソルフェージュ研究演習（3）Ⅰ

代表教員：テシュネ ローラン

曜日時限：金曜5限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

この授業では、フォルマシオン・ミュージカル（新たなソルフェージュ）の発想を取り入れます。この授業を通じて、生徒がソルフェージュの様々な手法を自分で用いることを学び、知覚する能力を高めることによって、音楽的实践、理解を改善し、芸術家としての世界を広げることができればと思います。またこの授業では、実践と理論、音楽の個人的な側面と集団的な側面、一人ひとりの生徒の欠点（ア・ラ・カルトの授業）と全員に必要な部分、両方を重視したいと思います。

■授業計画及び内容

本年度の授業で扱う項目の例：

1. 音楽表現、音楽と身振り
 - ・声と楽器の関係
 - ・即興演奏
 - ・カデンツァの型、バッハからメシアンに至る偉大な音楽形式
 - ・現代音楽へのアプローチ
 - ・鍵盤楽器での伴奏：初見、移調、和声伴奏法、通奏低音、スコア・リーディング
2. 教育の手法
 - ・いくつかの原理について：プラトン、ルソー、ゲーテ、モンテッソーリ、鈴木鎮一……
 - ・ソルフェージュの歴史的変遷の概観、ガイド・ダレッツォから、コレット、ダンハウザー、カステレードを経て、フォルマシオン・ミュージカルへ……
 - ・将来の自分の研究、さらに自分の教育法を考える上で、それぞれの学生が重要と考えるテキストを集める。

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

研究実習と研究演習の履修をセットとして履修すること。

[メールアドレスはG-net シラバスに記載]

<http://musique-art-vie.seesaa.net/>

ソルフェージュ研究演習（3）Ⅱ

代表教員：テシュネ ローラン

曜日時限：金曜5限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

この授業では、フォルマシオン・ミュージカル（新たなソルフェージュ）の発想を取り入れます。この授業を通じて、生徒がソルフェージュの様々な手法を自分で用いることを学び、知覚する能力を高めることによって、音楽的实践、理解を改善し、芸術家としての世界を広げることができればと思います。またこの授業では、実践と理論、音楽の個人的な側面と集団的な側面、一人ひとりの生徒の欠点（ア・ラ・カルトの授業）と全員に必要な部分、両方を重視したいと思います。

■授業計画及び内容

本年度の授業で扱う項目の例：

1. 音楽表現、音楽と身振り
 - ・声と楽器の関係
 - ・即興演奏
 - ・カデンツァの型、バッハからメシアンに至る偉大な音楽形式
 - ・現代音楽へのアプローチ
 - ・鍵盤楽器での伴奏：初見、移調、和声伴奏法、通奏低音、スコア・リーディング
2. 教育の手法
 - ・いくつかの原理について：プラトン、ルソー、ゲーテ、モンテッソーリ、鈴木鎮一……
 - ・ソルフェージュの歴史的変遷の概観、ガイド・ダレツォから、コレット、ダンハウザー、カステレードを経て、フォルマシオン・ミュージカルへ……
 - ・将来の自分の研究、さらに自分の教育法を考える上で、それぞれの学生が重要と考えるテキストを集める。

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

研究実習と研究演習の履修をセットとして履修すること。

[メールアドレスはG-net シラバスに記載]

<http://musique-art-vie.seesaa.net/>

ソルフェージュ研究実習（1）Ⅰ

代表教員：遠藤 衣穂

曜日時限：火曜3限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

修士論文の執筆に向けて、音楽研究の基礎を身につける。

■授業計画及び内容

前期は、音楽研究の基礎的な方法論を演習形式で学ぶ。

前期末に受講生による研究発表を行う予定。

- ・研究の視点、方法、提示法
- ・資料の種類と探索法
- ・ウェブ情報やデータベースの活用法
- ・演奏実践に即した先行研究の紹介
- ・研究概要、章立て、文献表、研究計画の作成

後期は、各自の研究テーマに応じた個別指導を行う。年度末に研究成果をレポートにまとめて提出すること。

■教材・参考書

研究テーマや進捗状況に応じて指示する。

参考書：

『学位論文作成マニュアル』（教務係）。リチャード・J・ウィンジェル『音楽の文章術——レポートの作成から表現の技法まで』春秋社、1994年。ケイト・L・トゥラビアン『シカゴ・スタイル 研究論文執筆マニュアル』沼口隆、沼口好雄訳、慶応大学出版会、2012年。An Introduction to Music Studies, ed. J.P.E. Harper-Scott and Jim Samson, Cambridge University Press

■成績評価の方法

出席率（50%）、授業への取り組みとレポート（50%）

■履修上の指示事項

修士1年次を対象とする。

履修希望者は、必ず初回の授業に出席してガイダン

スを受けること。

研究実習と研究演習をセットとして履修すること。

■備考（オフィスアワー）

授業前後の時間帯

ソルフェージュ研究実習（１）Ⅱ

代表教員：遠藤 衣穂

曜日時限：火曜 3限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

修士論文の執筆に向けて指導と助言を行う。

■授業計画及び内容

研究テーマに関連する資料や文献の講読と討論を通して、音楽研究の視点と論点を深め、演奏実践に即した研究の可能性を追究する。前期末に受講生による研究発表を行う予定。

■教材・参考書

研究テーマや進捗状況に応じて指示する。

参考書：

『学位論文作成マニュアル』（教務係）。リチャード・J・ウィンジェル『音楽の文章術——レポートの作成から表現の技法まで』春秋社、1994年。ケイト・L・トゥラビアン『シカゴ・スタイル 研究論文執筆マニュアル』沼口隆、沼口好雄訳、慶応大学出版会、2012年。

■成績評価の方法

出席率（50%）、授業への取り組み（50%）

■履修上の指示事項

修士2年次を対象とする。

履修希望者は、必ず初回の授業に出席してガイダンスを受けること。

研究実習と研究演習をセットとして履修すること。

■備考（オフィスアワー）

授業前後の時間帯

ソルフェージュ研究実習（２）Ⅰ

代表教員：遠藤 衣穂

曜日時限：火曜 4限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

博士論文の執筆に向けて、音楽研究の基礎を身につける。

■授業計画及び内容

前期は、音楽研究の基礎的な方法論を演習形式で学ぶ。

前期末に受講生による研究発表を行う予定。

- ・研究の視点、方法、提示法
- ・資料の種類と探索法
- ・ウェブ情報やデータベースの活用法
- ・演奏実践に即した先行研究の紹介
- ・研究概要、章立て、文献表、研究計画の作成

後期は、各自の研究テーマに応じた個別指導を行う。年度末に研究成果をレポートにまとめて提出すること。

■教材・参考書

研究テーマや進捗状況に応じて指示する。

参考書：

『学位論文作成マニュアル』（教務係）。リチャード・J・ウィンジェル『音楽の文章術——レポートの作成から表現の技法まで』春秋社、1994年。ケイト・L・トゥラビアン『シカゴ・スタイル 研究論文執筆マニュアル』沼口隆、沼口好雄訳、慶応大学出版会、2012年。Laurie J. Sampsel, Music Research: A Handbook, Oxford University Press, 2009.

■成績評価の方法

出席率（50%）、授業への取り組みとレポート（50%）

■履修上の指示事項

博士1年次を対象とする。

履修希望者は、必ず初回の授業に出席してガイダンスを受けること。

研究実習と研究演習をセットとして履修すること。

■備考（オフィスアワー）

授業前後の時間帯

ソルフェージュ研究実習（2）Ⅱ

代表教員：遠藤 衣穂

曜日時限：火曜4限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

博士論文の執筆に向けて指導と助言を行う。

■授業計画及び内容

研究テーマに関連する資料や文献の講読と討論を通して、音楽研究の視点と論点を深め、演奏実践に即した研究の可能性を追究する。前期末に受講生による研究発表を行う予定。年度末に研究成果をレポートにまとめて提出すること。

■教材・参考書

研究テーマや進捗状況に応じて指示する。

参考書：

「学位論文作成マニュアル」（教務係）。リチャード・J・ウィンジェル『音楽の文章術——レポートの作成から表現の技法まで』春秋社、1994年。ケイト・L・トゥラビアン『シカゴ・スタイル 研究論文執筆マニュアル』沼口隆、沼口好雄訳、慶応大学出版会、2012年。Laurie J. Sampsel, Music Research: A Handbook, Oxford University Press, 2009.

■成績評価の方法

出席率(50%)、授業への取り組みとレポート(50%)

■履修上の指示事項

博士2年次を対象とする。

履修希望者は、必ず初回の授業に出席してガイダンスを受けること。

研究実習と研究演習をセットとして履修すること。

■備考（オフィスアワー）

授業前後の時間帯

ソルフェージュ研究実習（3）Ⅰ

代表教員：照屋 正樹

曜日時限：月曜4限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

修士・博士論文指導

■授業計画及び内容

ソルフェージュの分野に関わる個々の研究を個人指導し、論文執筆のための助言を与える。

■教材・参考書

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

研究実習と研究演習の履修をセットとして履修すること。

ソルフェージュ研究実習（3）Ⅱ

代表教員：照屋 正樹

曜日時限：月曜4限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

修士・博士論文指導

■授業計画及び内容

ソルフェージュの分野に関わる個々の研究を個人指導し、論文執筆のための助言を与える。

■教材・参考書

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

研究実習と研究演習の履修をセットとして履修すること。

ソルフェージュ作曲実習Ⅰ

代表教員：テスト教員1

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

当該科実習の項を参照

ソルフェージュ作曲実習Ⅱ

代表教員：テスト教員1

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

当該科実習の項を参照

ソルフェージュ指揮実習Ⅰ

代表教員：テスト教員1

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

当該科実習の項を参照

ソルフェージュ指揮実習Ⅱ

代表教員：テスト教員1

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

当該科実習の項を参照

ソルフェージュ声楽実習Ⅰ

代表教員：テスト教員1

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

当該科実習の項を参照

ソルフェージュ声楽実習Ⅱ

代表教員：テスト教員1

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

当該科実習の項を参照

ソルフェージュ特殊研究

代表教員：照屋 正樹

曜日時限：木曜5限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

西洋音楽にとどまらない「全ての音楽領域」と「人間」との関わりを教育的、社会的、文化的な側面から捉え、その中から専門音楽教育のあり方についての問題点を提起し、考察する。

■授業計画及び内容

ゼミナール方式で行う。

前期：日本における音楽教育の現状と諸問題をテーマに展開する。

明治期の西洋文化の導入から今日までに至る日本の音楽教育について。現在の音楽教育機関の諸問題について、等。

後期：音楽と社会をテーマに今後の音楽家と音楽家養成機関のあり方について考察する。

音楽と民族、伝統的文化について、
商業主義と芸術、
優れた音楽家、優れた音楽教育者とは、等。

■教材・参考書

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

ゼミナール方式。テーマを課題として、各人が研究発表の資料を収集する。

■備考（オフィスアワー）

ソルフェージュ邦楽実習Ⅰ

代表教員：テスト教員1

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

当該科実習の項を参照

ソルフェージュ邦楽実習Ⅱ

代表教員：テスト教員1

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：3

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

当該科実習の項を参照

博士専門科目（音楽音響創造）Ⅰ

代表教員：丸井 淳史

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

博士研究の指導を行う。

■授業計画及び内容

研究の進捗に関する報告、ディスカッションを行う。

■教材・参考書

定めない。

■成績評価の方法

研究内容をもとに評価を行う。

■履修上の指示事項

特になし。

■備考（オフィスアワー）

特に定めない。メールなどの手段で予約を取ること。

博士専門科目（音楽音響創造）Ⅰ

代表教員：亀川 徹
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

博士論文に関連する研究について指導をおこなう。

■授業計画及び内容

個別面談によってテーマ、研究の方向性を決める。
定期的な報告会と個別指導によって研究をすすめる。

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

平常の研究態度を総合的に評価する。

■履修上の指示事項

音楽音響創造研究分野対象。

■備考（オフィスアワー）

博士専門科目（音楽音響創造）Ⅱ

代表教員：丸井 淳史
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

博士研究の指導を行う。

■授業計画及び内容

研究の進捗に関する報告、ディスカッションを行う。

■教材・参考書

定めない。

■成績評価の方法

研究内容をもとに評価を行う。

■履修上の指示事項

特になし。

■備考（オフィスアワー）

特に定めない。メールなどの手段で予約を取ること。

博士専門科目（音楽音響創造）Ⅱ

代表教員：亀川 徹
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

博士研究と関連する内容を学会などで発表する。

■授業計画及び内容

学会発表に向けた準備に関する指導。

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

学会発表の内容を総合的に判断する。

■履修上の指示事項

音楽音響創造研究分野対象。

■備考（オフィスアワー）

木曜Ⅱ?Ⅴ限（会議の無い日）、金曜Ⅴ限

博士専門科目（音楽学）Ⅰ

代表教員：植村 幸生
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

博士後期課程一年次の学生を対象とし、「音楽学演習（第1・民族）」をもってあてる。

■授業計画及び内容

「音楽学演習（第1・民族）」のシラバスを参照。（以下同じ）

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

博士専門科目（音楽学）Ⅰ

■備考（オフィスアワー）

火曜日 9:30～10:40

代表教員：塚原 康子

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

近代日本の音楽研究と資料状況

■授業計画及び内容

音楽研究の進展は一般に、その時点で使用可能な資料の収集・発掘・整理状況と密接に関わっている。どの時期にも、音楽活動の結果として生成される楽譜・音源・記録等の資料があり、また当時特有の問題関心の下で収集され活用された資料が存在する。近代以降の日本の音楽研究においても、各研究分野において性質の異なる資料が生成・集積され、それらに基づいて個々の研究成果が生み出されてきた。近年は、インターネット上での図書館・博物館等の目録や画像・音源の公開などが格段に進み、従来の研究環境を劇的に変えつつある。一方で、ある時期の研究者個人が収集・活用した資料のみならず、それに基づく研究成果自体が、数十年を経た現在、ある種の研究資料として当時の研究関心や研究手法を検証するために対象化される現象も起きている。

今年度の音楽学演習では、以上のような音楽研究と資料状況の関係変化を背景に、雅楽に関連して戦前から戦後にかけて異なるアプローチの研究を行った岸辺成雄・林謙三・平出久雄の足跡を中心に、彼らの研究と資料との関係および現在の雅楽研究と関連資料の状況とのつながりを見ていく。

■教材・参考書

年度当初に指示する。

■成績評価の方法

発表内容、演習時の質疑・討論への参加状況などを総合的に評価する。

■履修上の指示事項

各自の研究課題との接点を生かし、演習に積極的に参加・貢献することを望む。

博士専門科目（音楽学）Ⅰ

代表教員：大角 欣矢

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

主任指導教員が大角である学生は、音楽学特殊研究（西洋A）（担当教員：片山千佳子・大角欣矢）への参加をもって充てる。

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

博士専門科目（音楽学）Ⅰ

代表教員：土田 英三郎

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

博士後期課程1年次の学生を対象とし、音楽学第2講座の音楽学演習をもってあてる：
音楽学の根本問題

■授業計画及び内容

音楽学第2講座の音楽学演習を参照（以下同）。

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

火曜3限（総合ゼミナール、音楽学実習等がない場合）、その他空き時間（要予約）

博士専門科目（音楽学）Ⅰ

代表教員：福中 冬子

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

音楽学演習（美学）をもって単位とする。

■教材・参考書

■成績評価の方法

授業内ディスカッションへの参加や予習、発表、平常点をもって評価とする。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

博士専門科目（音楽学）Ⅰ

代表教員：片山 千佳子

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

博士後期課程1年次の学生を対象とする。

主任指導教員が片山である学生は、音楽学特殊研究（西洋A）（担当教員：片山千佳子・大角欣矢）への参加ををもって充てる。

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

[メールアドレスはG-net シラバスに記載]

博士専門科目（音楽学）Ⅱ

代表教員：植村 幸生

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

博士後期課程二年次の学生を対象とし、「音楽学演習（第1・民族）」をもってあてる。

■授業計画及び内容

「音楽学演習（第1・民族）」のシラバスを参照。（以下同じ）

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

博士専門科目（音楽学）Ⅱ

代表教員：福中 冬子

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

音楽学演習（美学）への出席を持って単位とする。

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

博士専門科目（音楽学）Ⅱ

■備考（オフィスアワー）

火曜日 9:30～10:40

代表教員：塚原 康子

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

近代日本の音楽研究と資料状況

■授業計画及び内容

音楽研究の進展は一般に、その時点で使用可能な資料の収集・発掘・整理状況と密接に関わっている。どの時期にも、音楽活動の結果として生成される楽譜・音源・記録等の資料があり、また当時特有の問題関心の下で収集され活用された資料が存在する。近代以降の日本の音楽研究においても、各研究分野において性質の異なる資料が生成・集積され、それらに基づいて個々の研究成果が生み出されてきた。近年は、インターネット上での図書館・博物館等の目録や画像・音源の公開などが格段に進み、従来の研究環境を劇的に変えつつある。一方で、ある時期の研究者個人が収集・活用した資料のみならず、それに基づく研究成果自体が、数十年を経た現在、ある種の研究資料として当時の研究関心や研究手法を検証するために対象化される現象も起きている。

今年度の音楽学演習では、以上のような音楽研究と資料状況の関係変化を背景に、雅楽に関連して戦前から戦後にかけて異なるアプローチの研究を行った岸辺成雄・林謙三・平出久雄の足跡を中心に、彼らの研究と資料との関係および現在の雅楽研究と関連資料の状況とのつながりを見ていく。

■教材・参考書

年度当初に指示する。

■成績評価の方法

発表内容、演習時の質疑・討論への参加状況などを総合的に評価する。

■履修上の指示事項

各自の研究課題との接点を生かし、積極的に演習に参加・貢献することを望む。

博士専門科目（音楽学）Ⅱ

代表教員：片山 千佳子

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

博士後期課程2年次の学生を対象とする。

主任指導教員が片山である学生は、音楽学特殊研究（西洋A）（担当教員：片山千佳子・大角欣矢）への参加をもって充てる。

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

[メールアドレスはG-net シラバスに記載]

博士専門科目（音楽学）Ⅱ

代表教員：大角 欣矢

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

主任指導教員が大角である学生は、音楽学特殊研究（西洋A）（担当教員：片山千佳子・大角欣矢）への参加をもって充てる。

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

博士専門科目（音楽学）Ⅱ

代表教員：土田 英三郎

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

博士後期課程2年次の学生を対象とし、音楽学第2講座の音楽学演習をもってあてる：
音楽学の根本問題

■授業計画及び内容

音楽学第2講座の音楽学演習を参照（以下同）。

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

火曜3限（総合ゼミナール、音楽学実習等がない場合）、その他空き時間（要予約）

博士専門科目（音楽教育）Ⅰ

代表教員：山下 薫子

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

音楽教育学を専門とする博士後期課程1年の院生については、教育学特殊研究（2）および音楽教育学演習の履修をもって、本授業の履修に読み替えるものとする。

■授業計画及び内容

教育学特殊研究（2）および音楽教育学演習の当該項目を参照のこと。

■教材・参考書

教育学特殊研究（2）および音楽教育学演習の当該項目を参照のこと。

■成績評価の方法

教育学特殊研究（2）および音楽教育学演習の当該項目を参照のこと。

■履修上の指示事項

教育学特殊研究（2）および音楽教育学演習の当該項目を参照のこと。

■備考（オフィスアワー）

教育学特殊研究（2）および音楽教育学演習の当該項目を参照のこと。

博士専門科目（音楽教育）Ⅰ

代表教員：佐野 靖
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

博士論文に関する指導（1年次対象）

■授業計画及び内容

リサーチクエスチョンを確定し、研究構想に基づき学習を展開する。

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

取り組みの姿勢や研究の成果などを総合的に評価する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

水曜日 15:10～16:00

博士専門科目（音楽教育）Ⅱ

代表教員：山下 薫子
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

音楽教育学を専門とする博士後期課程2年（または2年以上）の院生については、教育学特殊研究（2）および音楽教育学演習の履修をもって、本授業の履修に読み替えるものとする。

■授業計画及び内容

教育学特殊研究（2）および音楽教育学演習の当該項目を参照のこと。

■教材・参考書

教育学特殊研究（2）および音楽教育学演習の当該項目を参照のこと。

■成績評価の方法

教育学特殊研究（2）および音楽教育学演習の当該項目を参照のこと。

■履修上の指示事項

教育学特殊研究（2）および音楽教育学演習の当該項目を参照のこと。

■備考（オフィスアワー）

教育学特殊研究（2）および音楽教育学演習の当該項目を参照のこと。

博士専門科目（音楽教育）Ⅱ

代表教員：佐野 靖
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

博士論文に関する指導（2年次対象）

■授業計画及び内容

文献資料や実践データ等を吟味し、具体的な論述を展開する。

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

取り組みの姿勢や研究の成果などを総合的に評価する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

水曜日 15:10～16:00

博士専門科目（芸術環境創造）Ⅰ

代表教員：熊倉 純子
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

芸術と社会（アートマネジメント、文化政策）

■授業計画及び内容

博士課程1年次の履修科目。大学院全体のゼミ授業として、文献講読と各自の研究発表をおこなう。

■教材・参考書

英国のシンクタンク DEMOS のメンバーである文化経済学者、John Holden の著作、
“Cultural Value and the Crisis of Legitimacy—Why culture needs a democratic mandate” (2006)
(DEMOS の WEB SITE から無料でダウンロード可能)

■成績評価の方法

総合的に評価する

■履修上の指示事項

水曜5限（後期は4限に文献講読をおこなう）

■備考（オフィスアワー）

金曜5限

博士専門科目（芸術環境創造）Ⅰ

代表教員：市村 作知雄

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

論文指導

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

博士専門科目（芸術環境創造）Ⅰ

代表教員：毛利 嘉孝

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

博士論文の執筆指導

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

博士専門科目（芸術環境創造）Ⅱ

代表教員：熊倉 純子

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

芸術と社会（アートマネジメント、文化政策）

■授業計画及び内容

博士課程2年次の履修科目。大学院全体のゼミ授業として、文献講読と各自の研究発表をおこなう。

■教材・参考書

英国のシンクタンク DEMOS のメンバーである文化経済学者、John Holden の著作、

“Cultural Value and the Crisis of Legitimacy—Why culture needs a democratic mandate” (2006)

(DEMOS の WEB SITE から無料でダウンロード可能)

■成績評価の方法

総合的に評価する

■履修上の指示事項

水曜5限（後期は4限に文献講読をおこなう）

■備考（オフィスアワー）

金曜5限

博士専門科目（芸術環境創造）Ⅱ

代表教員：毛利 嘉孝

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

博士論文の執筆指導

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

博士専門科目（芸術環境創造）Ⅱ

代表教員：市村 作知雄
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

論文指導

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

博士特別研究（音楽音響創造）Ⅰ

代表教員：亀川 徹
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

博士論文に関連する研究について指導をおこなう。

■授業計画及び内容

個別面談によってテーマ、研究の方向性を決める。
定期的な報告会と個別指導によって研究をすすめる。

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

平常の研究態度を総合的に評価する。

■履修上の指示事項

音楽音響創造研究分野対象。

■備考（オフィスアワー）

博士特別研究（音楽音響創造）Ⅰ

代表教員：丸井 淳史

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

博士特別研究（音楽音響創造）Ⅰ

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

博士特別研究（音楽音響創造）Ⅱ

代表教員：亀川 徹

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

博士論文に関連する研究について指導をおこなう。

■授業計画及び内容

個別面談によってテーマ、研究の方向性を決める。
定期的な報告会と個別指導によって研究をすすめる。

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

平常の研究態度を総合的に評価する。

■履修上の指示事項

音楽音響創造研究分野対象。

■備考（オフィスアワー）

博士特別研究（音楽学）Ⅰ

代表教員：土田 英三郎

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

音楽文化学研究領域（音楽学）の博士1年次生を対象とし、下記のように研究成果の発表を課す。

- 1) 総合ゼミナールにおける口頭発表（公開制）を義務とする。
- 2) 『音楽文化学論集』への投稿、その他の学術誌への投稿、および学会等における口頭発表を強く推奨する。掲載・発表がなされた場合に成績評価の対象とする。

■教材・参考書

■成績評価の方法

上記のすべての研究発表の内容、研究発表会への参加状況、および平常点をもって評価する。

■履修上の指示事項

総合ゼミナールのスケジュール、『音楽文化学論集』の投稿要領は別途指示する。

上記の研究発表会には博士3年次生以上も積極的に参加すること。また修士課程学生、学部学生の参加も歓迎する。

■備考（オフィスアワー）

火曜3限（総合ゼミナール、音楽学実習等がない場合）、その他空き時間（要予約）

博士特別研究（音楽学）Ⅰ

代表教員：片山 千佳子

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

研究成果の公表

■授業計画及び内容

音楽文化学研究領域（音楽学）の博士1年次生を対象とし、下記のように研究成果の発表を課す。

- 1) 総合ゼミナールにおける口頭発表を義務とする。
- 2) 『音楽文化学論集』への投稿、および学会等における口頭発表を強く推奨する。掲載・発表がなされた場合に成績評価の対象とする。

■教材・参考書

■成績評価の方法

上記のすべての研究発表の内容、研究発表会への参加状況、および平常点をもって評価する。

■履修上の指示事項

主任指導教員の開設する博士特別研究（音楽学）Ⅰに履修登録すること。

総合ゼミナールのスケジュール、『音楽文化学論集』への投稿要領は別途指示する。

上記の研究発表会には博士3年次生以上も積極的に参加すること。また修士課程学生、学部学生の参加も歓迎する。

■備考（オフィスアワー）

[メールアドレスはG-net シラバスに記載]

博士特別研究（音楽学）Ⅰ

代表教員：塚原 康子

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

音楽文化学研究領域（音楽学）の博士1年次生を対象とし、下記のように研究成果の発表を課す。

- 1) 総合ゼミナールにおける口頭発表（公開制）を義務とする。
- 2) 『音楽文化学論集』への投稿、その他の学術誌への投稿、および学会等における口頭発表を強く推奨する。掲載・発表がなされた場合に成績評価の対象とする。

■教材・参考書

■成績評価の方法

上記のすべての研究発表の内容、研究発表会への参加状況、および平常点をもって評価する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

火曜日 9:30～10:20

博士特別研究（音楽学）Ⅰ

代表教員：植村 幸生

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

音楽文化学研究領域（音楽学）の博士1年次生を対象とし、下記のように研究成果の発表を課す。

- 1) 総合ゼミナールにおける口頭発表（公開制）を義務とする。
- 2) 『音楽文化学論集』への投稿、その他の学術誌への投稿、および学会等における口頭発表を強く推奨する。掲載・発表がなされた場合に成績評価の対象とする。

■教材・参考書

■成績評価の方法

上記のすべての研究発表の内容、研究発表会への参加状況、および平常点をもって評価する。

■履修上の指示事項

総合ゼミナールのスケジュール、『音楽文化学論集』の投稿要領は別途指示する。

上記の研究発表会には博士3年次生以上も積極的に参加すること。また修士課程学生、学部学生の参加も歓迎する。

■備考（オフィスアワー）

博士特別研究（音楽学）Ⅰ

代表教員：福中 冬子

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

研究発表

■授業計画及び内容

音楽文化学研究領域（音楽学）の博士1年次生を対象とし、下記のように研究成果の発表を課す。

1) 総合ゼミナールにおける口頭発表（公開制）を義務とする。

2) 『音楽文化学論集』への投稿、その他の学術誌への投稿、および学会等における口頭発表を強く推奨する。掲載・発表がなされた場合に成績評価の対象とする。

■教材・参考書

■成績評価の方法

上記のすべての研究発表の内容、研究発表会への参加状況、および平常点をもって評価する。また博士コロキウムへの出席も義務とする。

■履修上の指示事項

総合ゼミナールのスケジュール、『音楽文化学論集』の投稿要領は別途指示する。

上記の研究発表会には博士3年次生以上も積極的に参加すること。また修士課程学生、学部学生の参加も歓迎する。

■備考（オフィスアワー）

随時。

博士特別研究（音楽学）Ⅰ

代表教員：大角 欣矢

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

音楽文化学研究領域（音楽学）の博士1、2年次生を対象とし、下記のように研究成果の発表を課す。

1) 1年次生は総合ゼミナールにおける口頭発表、2年次生は博士コロキウムにおける口頭発表を義務とする。いずれの研究発表会も公開制とする。

2) 1、2年次生ともに『音楽文化学論集』への投稿、その他の学術誌への投稿、および学会等における口頭発表を強く推奨する。掲載・発表がなされた場合に成績評価の対象とする。

■教材・参考書

■成績評価の方法

上記のすべての研究発表の内容、研究発表会への参加状況、および平常点をもって評価する。

■履修上の指示事項

主任指導教員の開設する博士特別研究に履修登録すること。

研究発表会のスケジュール、『音楽文化学論集』の投稿要領は別途指示する。

上記の研究発表会には博士3年次生以上も積極的に参加すること。また修士課程学生、学部学生の参加も歓迎する。

■備考（オフィスアワー）

博士特別研究（音楽学）Ⅱ

代表教員：福中 冬子

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

音楽文化学研究領域（音楽学）の博士1年次生を対象とし、下記のように研究成果の発表を課す。

- 1) 総合ゼミナールにおける口頭発表（公開制）を義務とする。
- 2) 『音楽文化学論集』への投稿、その他の学術誌への投稿、および学会等における口頭発表を強く推奨する。掲載・発表がなされた場合に成績評価の対象とする。

■教材・参考書

■成績評価の方法

上記のすべての研究発表の内容、研究発表会への参加状況、および平常点をもって評価する。また博士コロキウムへの出席も義務とする。

■履修上の指示事項

総合ゼミナールのスケジュール、『音楽文化学論集』の投稿要領は別途指示する。

上記の研究発表会には博士3年次生以上も積極的に参加すること。また修士課程学生、学部学生の参加も歓迎する。

■備考（オフィスアワー）

随時。

博士特別研究（音楽学）Ⅱ

代表教員：大角 欣矢

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

音楽文化学研究領域（音楽学）の博士1、2年次生を対象とし、下記のように研究成果の発表を課す。

- 1) 1年次生は総合ゼミナールにおける口頭発表、2年次生は博士コロキウムにおける口頭発表を義務とする。いずれの研究発表会も公開制とする。
- 2) 1、2年次生ともに『音楽文化学論集』への投稿、その他の学術誌への投稿、および学会等における口頭発表を強く推奨する。掲載・発表がなされた場合に成績評価の対象とする。

■教材・参考書

■成績評価の方法

上記のすべての研究発表の内容、研究発表会への参加状況、および平常点をもって評価する。

■履修上の指示事項

主任指導教員の開設する博士特別研究に履修登録すること。

研究発表会のスケジュール、『音楽文化学論集』の投稿要領は別途指示する。

上記の研究発表会には博士3年次生以上も積極的に参加すること。また修士課程学生、学部学生の参加も歓迎する。

■備考（オフィスアワー）

博士特別研究（音楽学）Ⅱ

代表教員：片山 千佳子

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

研究成果の公表

■授業計画及び内容

音楽文化学研究領域（音楽学）の博士2年次生を対象とし、下記のように研究成果の発表を課す。

1) 博士コロキウムにおける口頭発表（公開制）を義務とする。

2) 1年次に終えていなければ『音楽文化学論集』への投稿、それを終えていれば査読のある他の学術誌への投稿、および学会等における口頭発表を強く推奨する。掲載・発表がなされた場合に成績評価の対象とする。

■教材・参考書

■成績評価の方法

上記のすべての研究発表の内容、研究発表会への参加状況、および平常点をもって評価する。

■履修上の指示事項

主任指導教員の開設する博士特別研究（音楽学）Ⅱに履修登録すること。

博士コロキウムのスケジュール、『音楽文化学論集』の投稿要領は別途指示する。

博士コロキウムには博士3年次生以上も積極的に参加すること。また修士課程学生、学部学生の参加も歓迎する。

■備考（オフィスアワー）

[メールアドレスはG-net シラバスに記載]

博士特別研究（音楽学）Ⅱ

代表教員：植村 幸生

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

音楽文化学研究領域（音楽学）の博士2年次生を対象とし、下記のように研究成果の発表を課す。

1) 博士コロキウムにおける口頭発表（公開制）を義務とする。

2) 『音楽文化学論集』への投稿、その他の学術誌への投稿、および学会等における口頭発表を強く推奨する。掲載・発表がなされた場合に成績評価の対象とする。

■教材・参考書

■成績評価の方法

上記のすべての研究発表の内容、研究発表会への参加状況、および平常点をもって評価する。

■履修上の指示事項

博士コロキウムのスケジュール、『音楽文化学論集』の投稿要領は別途指示する。

博士コロキウムには博士3年次生以上も積極的に参加すること。また修士課程学生、学部学生の参加も歓迎する。

■備考（オフィスアワー）

博士特別研究（音楽学）Ⅱ

代表教員：土田 英三郎

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

音楽文化学研究領域（音楽学）の博士2年次生を対象とし、下記のように研究成果の発表を課す。

- 1) 博士コロキウムにおける口頭発表（公開制）を義務とする。
- 2) 『音楽文化学論集』への投稿、その他の学術誌への投稿、および学会等における口頭発表を強く推奨する。掲載・発表がなされた場合に成績評価の対象とする。

■教材・参考書

■成績評価の方法

上記のすべての研究発表の内容、研究発表会への参加状況、および平常点をもって評価する。

■履修上の指示事項

博士コロキウムのスケジュール、『音楽文化学論集』の投稿要領は別途指示する。

博士コロキウムには博士3年次生以上も積極的に参加すること。また修士課程学生、学部学生の参加も歓迎する。

■備考（オフィスアワー）

火曜3限（総合ゼミナール、音楽学実習等がない場合）、その他空き時間（要予約）

博士特別研究（音楽学）Ⅱ

代表教員：塚原 康子

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

■授業計画及び内容

音楽文化学研究領域（音楽学）の博士2年次生を対象とし、下記のように研究成果の発表を課す。

- 1) 博士コロキウムにおける口頭発表（公開制）を義務とする。
- 2) 『音楽文化学論集』への投稿、その他の学術誌への投稿、および学会等における口頭発表を強く推奨する。掲載・発表がなされた場合に成績評価の対象とする。

■教材・参考書

■成績評価の方法

上記のすべての研究発表の内容、研究発表会への参加状況、および平常点をもって評価する。

■履修上の指示事項

博士コロキウムのスケジュール、『音楽文化学論集』の投稿要領は別途指示する。

博士コロキウムには博士3年次生以上も積極的に参加すること。また修士課程学生、学部学生の参加も歓迎する。

■備考（オフィスアワー）

火曜日 9:30~10:20

博士特別研究（音楽教育）Ⅰ

代表教員：佐野 靖
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

博士1年次を対象とした研究指導

■授業計画及び内容

学内外における研究発表をもってあてる。

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

研究発表の成果を評価する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

水曜日 15:10～16:00

博士特別研究（音楽教育）Ⅰ

代表教員：山下 薫子
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：2
ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

音楽教育学を専攻する博士後期課程1年生による研究成果のプレゼンテーションと論文作成

■授業計画及び内容

学会、研究会等における口頭発表および論文発表の準備、実際および省察を通して、博士後期課程における研究計画の遂行と修正を行う。

■教材・参考書

適宜、指示する。

■成績評価の方法

準備と省察等、日常の研究への取組を考慮し、研究の成果物（口頭発表および論文）によって判断する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

金曜日 16:15～16:45

博士特別研究（音楽教育）Ⅱ

代表教員：山下 薫子

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

音楽教育学を専攻する博士後期課程2年生（あるいは2年以上の院生）による研究成果のプレゼンテーションと論文作成

■授業計画及び内容

学会、研究会等における口頭発表および論文発表の準備、実際および省察を通して、博士後期課程における研究計画の遂行と修正を行う。

■教材・参考書

適宜、指示する。

■成績評価の方法

準備と省察等、日常の研究への取組を考慮し、研究の成果物（口頭発表および論文）によって判断する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

金曜日 16:15～16:45

博士特別研究（音楽教育）Ⅱ

代表教員：佐野 靖

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

博士2年次を対象とした研究指導

■授業計画及び内容

学内外における研究発表をもってあてる。

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

研究発表の成果を評価する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

水曜日 15:10～16:00

博士特別研究（芸術環境創造）Ⅰ

代表教員：市村 作知雄

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

ドラマトルギー、ドラマトウルクの研究

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

博士特別研究（芸術環境創造）Ⅰ

代表教員：熊倉 純子

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

芸術環境（アートマネジメント、文化政策）の創造

■授業計画及び内容

博士課程 1 年次における論文指導。論文投稿または学会発表を義務付ける。

■教材・参考書

■成績評価の方法

総合的に評価する

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

金曜 5 限

博士特別研究（芸術環境創造）Ⅱ

代表教員：市村 作知雄

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

論文指導

■授業計画及び内容

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

博士特別研究（芸術環境創造）Ⅱ

代表教員：熊倉 純子

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（音楽文化学）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

芸術環境（アートマネジメント、文化政策）の創造

■授業計画及び内容

博士課程2年次における論文指導。論文投稿または学会発表を義務付ける。

■教材・参考書

■成績評価の方法

総合的に評価する

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

金曜5限

大学院開設科目（オーケストラ）

チェンバーオーケストラ（大学院）

代表教員：河野 文昭

曜日時限：その他

学 期：前期

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（オーケストラ）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

このオーケストラは学部2，3，4年次の弦楽器専攻の学生と大学院の弦楽器及び室内楽専攻の学生によって編成され、演奏曲に応じて管打楽器専攻の学生もこれに参加する。古典から近現代までの幅広い室内オーケストラのためのレパートリーを、指揮者のもとでの演奏と指揮者なしでの演奏の両方を研究発表し、自発的で緻密なアンサンブル能力を培い、研磨することを目的としている。

■授業計画及び内容

「東京藝大チェンバーオーケストラ」という名称で毎年度、2回の定期演奏会と学内演奏会を中心に、学外においても演奏活動を展開している。年間の授業計画および公演活動計画の立案、実施は東京藝大チェンバーオーケストラ運営委員会が行っている。授業日は基本的には火曜、金曜のⅠⅡ限であるが指揮者などの都合により特別の日程や時間帯が組まれることがある。

■教材・参考書

オーケストラスコア及びパート譜（チェンバーオーケストラ運営委員会で用意する。）

■成績評価の方法

出席及び授業態度による

■履修上の指示事項

履修の申し込み方法、単位取得、履修年限などの詳細は履修便覧に記載されている。弦楽器と管打楽器の場合で異なる点があるので注意すること。

■備考（オフィスアワー）

チェンバーオーケストラ（大学院）

代表教員：河野 文昭

曜日時限：その他

学 期：後期

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（オーケストラ）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

このオーケストラは学部2，3，4年次の弦楽器専攻の学生と大学院の弦楽器及び室内楽専攻の学生によって編成され、演奏曲に応じて管打楽器専攻の学生もこれに参加する。古典から近現代までの幅広い室内オーケストラのためのレパートリーを、指揮者のもとでの演奏と指揮者なしでの演奏の両方を研究発表し、自発的で緻密なアンサンブル能力を培い、研磨することを目的としている。

■授業計画及び内容

「東京藝大チェンバーオーケストラ」という名称で毎年度、2回の定期演奏会と学内演奏会を中心に、学外においても演奏活動を展開している。年間の授業計画および公演活動計画の立案、実施は東京藝大チェンバーオーケストラ運営委員会が行っている。授業日は基本的には火曜、金曜のⅠⅡ限であるが指揮者などの都合により特別の日程や時間帯が組まれることがある。

■教材・参考書

オーケストラスコア及びパート譜（チェンバーオーケストラ運営委員会で用意する。）

■成績評価の方法

出席及び授業態度による

■履修上の指示事項

履修の申し込み方法、単位取得、履修年限などの詳細は履修便覧に記載されている。弦楽器と管打楽器の場合で異なる点があるので注意すること。

■備考（オフィスアワー）

「

大学院開設科目（大学院共通）

Advanced Writing (英語作文Ⅲ・大学

院)

代表教員：磯部 美和

曜日時限：水曜3限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（大学院共通）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

パラグラフやエッセイの書き方

■授業計画及び内容

パラグラフやエッセイの構成法を学習しながら、実際に自分でパラグラフやエッセイを作成する。これにより、英語の文章で自分の意見や研究内容をわかりやすく論理的に表現する能力を養う。

■教材・参考書

<教材>

Oshima, A. and A. Hogue (2007) Writing Academic English. Longman.

<参考書>

授業中に紹介する。

■成績評価の方法

各学期末試験・毎回の課題提出・平常点（遅刻回数を含む出席状況および授業態度）を総合的に評価する。各学期、総授業回数の1/3以上無断欠席した場合、および出席は十分であっても、決められた課題を提出しない場合は失格とする。また、課題の作成時に翻訳ソフトの使用や剽窃が認められた場合は、その時点で失格とする。

■履修上の指示事項

・履修希望者は、初回の授業に必ず出席すること（履修人数を制限することがある）。初回授業に出られない場合は、4月11日（金）までに言語・音声トレーニングセンター教員室に相談し、指示を受けること。聴講は不可。

・このクラスのレベルは、「英語上級」（美術学部）・「英語演習」（音楽学部）に相当するので、高等学校までで学習した英文法・表現を復習済みであること

を前提とする。

・課題は文書作成ソフトで作成し、電子メールで提出することが求められる。

■備考（オフィスアワー）

金曜日 15:00-17:00

音楽教育入門

代表教員：佐野 靖
曜日時限：金曜3限
学 期：前期
単 位 数：2
ジャンル：大学院開設科目（大学院共通）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

音楽教育は、学校音楽教育や高度な技能習得をめざす専門音楽教育に限るものではない。幼児教育や障害児教育、あるいは成人を対象とした社会教育等においても音楽活動とその学習は重要な役割を果たしている。そうした広い意味での音楽教育の意義や基礎的な内容を学ぶ授業である。

■授業計画及び内容

授業内容の柱は、以下の通りである。授業の展開は、教員の講義、学生による発表や指導実践を組み合わせたものとなる。1. 音楽教育とは何か 2. 音楽教育の思想と歴史 3. 音楽と発達 4. 音楽・言葉・身体 5. 音楽の教授・学習過程の実際 6. 授業・レッスン研究 7. 音楽教育における実践と研究

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

発表内容やレポート等から総合的に評価する。

■履修上の指示事項

学部3年生以上で音楽教育への興味・関心が高い学生を対象とする。第1回目の授業（オリエンテーション）において詳細を指示するので、履修者は必ず出席すること。

■備考（オフィスアワー）

水曜日 15:10～16:00（佐野）、金曜日 16:15～16:45（山下）

音楽研究基礎（1）

代表教員：植村 幸生
曜日時限：火曜1限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：大学院開設科目（大学院共通）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

音楽学専攻以外の大学院生に対する修士論文・博士論文の執筆指導。担当分野は東洋音楽史、民族音楽学。

■授業計画及び内容

各受講者の論文作成計画に応じて授業計画および内容を設定する。

■教材・参考書

受講者の研究課題に応じて参考書等を指示する。

■成績評価の方法

課題に対する取り組みの程度により評価する。

■履修上の指示事項

音楽学専攻以外の大学院生（修士・博士）対象。この科目を受講したい学生は、下記のメールアドレスあてに受講の意思を伝えた上で、初回の授業に出席すること。

■備考（オフィスアワー）

[メールアドレスはG-net シラバスに記載]

音楽研究基礎（2）

代表教員：福中 冬子

曜日時限：水曜4限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（大学院共通）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

音楽学以外に研究分野を持つ修士・博士課程の学生への研究指導。

■授業計画及び内容

詳細は履修生の研究対象や能力を見た上で決定するが、基本的には論文執筆へ向けた研究指導。学期内に一回、各履修生による口頭発表を行う。論文執筆に伴う「添削補助」ではなく、論文の主たる指導教官は所属する科の指導教員である旨をよく理解した上で履修すること。

■教材・参考書

特になし。

■成績評価の方法

平常点。

■履修上の指示事項

初回に予定を組むので、必ず出席すること。連絡なく欠席した場合は、履修を受け付けない。

■備考（オフィスアワー）

メール等で連絡の事。

音楽研究基礎（3）

代表教員：大角 欣矢

曜日時限：火曜5限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（大学院共通）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

ルネサンス・バロック音楽研究へのアプローチ

■授業計画及び内容

音楽学専攻以外の修士・博士課程の学生のうち、ルネサンス・バロック時代の音楽研究を行う者を対象に、各自の研究課題に応じた指導・助言を行う。個別指導（予約制）を基本とする。

■教材・参考書

参考書：佐藤望ほか著『アカデミック・スキルズ—大学生のための知的技法入門』慶應義塾大学出版会、2006年。

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

- (1) 本授業はルネサンス・バロック時代専門であり、その他の時代については履修を認めない。
- (2) 修士論文・博士論文の執筆サポートを希望する者は、音楽創造・研究センター開設授業を履修するよう、強く推奨する。
- (2) 履修者には、定期的な進捗状況の報告と成果物の提出を義務づける。連絡や特別な事情なしにこれらを怠った場合は失格とする。
- (3) 履修希望者は、必ず初回の授業に出席してガイダンスを受けること。

■備考（オフィスアワー）

大角のアドレス（G e t 参照）

音楽研究基礎（４）

代表教員：土田 英三郎

曜日時限：火曜５限

学 期：通年

単 位 数：４

ジャンル：大学院開設科目（大学院共通）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

音楽研究法入門

■授業計画及び内容

対象学生：音楽学研究分野を除く修士課程学生のうち、西洋音楽史や音楽理論史の 18?19 世紀（特にドイツ語圏）を研究テーマとする者。

目的：大学院における一定水準の研究および論文執筆に役立つような、音楽の学問的研究方法の基礎を習得すること。

授業計画および内容：年度初めに登録した履修者の関心や能力に応じて決定する。最初の何回かは講義形式とし、音楽研究の基礎的な方法論について学習する。その後は、共通の関心をもった履修者が多い場合には演習形式（共通テーマに基づいて各自が研究発表を行なう）、一定水準以上の語学力があれば楽書講読（専門的な音楽文献の輪読）となることもあり得る。必要に応じて実習形式（各自の研究課題に応じた個別指導）でも行なう。

■教材・参考書

適宜指示する。

■成績評価の方法

出席率（きわめて重視する）と平常点、および研究成果報告（レポート）

■履修上の指示事項

・「音楽リサーチ法」や音楽創造・研究センター開設の関連授業を履修している、あるいは並行して履修することが望ましい。

・履修希望者は必ず初回のガイダンスに出席すること（欠席者は履修を認めない）。

・履修希望者が多い場合には、履修者を限定し、論文執筆年の学生を優先する。

・無断欠席は認めない。

・単なる論文の添削を行なう場ではないので、履修

者は問題意識をもって積極的に参加すること。活発なディスカッションを期待する。

■備考（オフィスアワー）

火曜３限（楽理科の音楽学実習や総合ゼミナールがない場合）、その他の空き時間（要予約）。

音楽研究基礎（5）

代表教員：片山 千佳子

曜日時限：火曜4限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（大学院共通）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

大学院における修士論文執筆に役立つような、音楽の学問的研究の基礎的な方法を身につける。

■授業計画及び内容

- ・基本的には、受講生が自らテーマを設定し、それについて指導を行うという形式をとる。
- ・指導を希望するものは、下記のメールアドレスに連絡すること。
- ・外国語文献は、英・仏を中心とする。

■教材・参考書

■成績評価の方法

■履修上の指示事項

「音楽リサーチ法」を受講しておくことが望ましい。必ず年度初めに出席し、受講の意志を表明すること。

■備考（オフィスアワー）

個別に指導を受けたい場合には、下記のメール・アドレスに必ず連絡すること。

[メールアドレスはG-net シラバスに記載]

音楽研究基礎（6）

代表教員：塚原 康子

曜日時限：月曜5限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（大学院共通）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

日本音楽史に関連するテーマでの修士論文・博士論文執筆のための研究指導

■授業計画及び内容

音楽学専攻以外の大学院修士課程および博士後期課程の学生に対し、各人の研究課題に即して指導・助言を行う。

■教材・参考書

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

年度当初の開講時間にはかならず出席し、指示を受けること。また、前期末の指定された日に、執筆予定の修士論文の計画について発表すること。

■備考（オフィスアワー）

火曜 9:30～10:20

音楽リサーチ法 I (大学院)

代表教員：関根 和江

曜日時限：水曜 4 限

学 期：前期

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目 (大学院共通)

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

音楽資料探索

■授業計画及び内容

音楽研究にとって、資料との出会いは欠くことのできない出発点であるといえる。資料を効率よく探し当て、資料への道を開くことができるか否かが、その後の研究の発展を左右するといっても過言ではない。広く、音楽資料との出会いを図る。

実際のケーススタディを多用しながら、実践的に音楽資料検索方法を指導する。実際に資料のリサーチをしながら、資料検索の方向付けを行うため、授業は教室での講義にとどまらず、附属図書館、音楽研究センター等に出向く場合もある。

前期 (音楽リサーチ法 I) は基礎編として主に講義による資料紹介を行い、後期 (音楽リサーチ法 II) は応用編として実践的に資料の使い方を学ぶ。

大学院生対象の授業であるので、音楽事典の使い方等、初歩的文献探索方法をはじめ、レポート・修士論文作成を視野に入れた指導を行う。

■教材・参考書

授業の都度プリントを配布する。

■成績評価の方法

出席、平常点、レポート。特に出席を重視する。

■履修上の指示事項

前期・後期と併せて履修することが望ましい。学部生の履修は、原則として5限の「音楽リサーチ法」を推奨する。

■備考 (オフィスアワー)

木曜 10:30~12:00

音楽リサーチ法 I (大学院)

代表教員：関根 和江

曜日時限：水曜 5 限

学 期：前期

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目 (大学院共通)

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

音楽資料探索

■授業計画及び内容

音楽研究にとって、資料との出会いは欠くことのできない出発点であるといえる。資料を効率よく探し当て、資料への道を開くことができるか否かが、その後の研究の発展を左右するといっても過言ではない。広く、音楽資料との出会いを図る。

実際のケーススタディを多用しながら、実践的に音楽資料検索方法を指導する。実際に資料のリサーチをしながら、資料検索の方向付けを行うため、授業は教室での講義にとどまらず、附属図書館、音楽研究センター等に出向く場合もある。

前期 (音楽リサーチ法 I) は基礎編として主に講義による資料紹介を行い、後期 (音楽リサーチ法 II) は応用編として実践的に資料の使い方を学ぶ。

学部生対象の授業であるので、音楽事典の使い方等、初歩的文献探索方法から指導する。

■教材・参考書

授業の都度、配布する。

■成績評価の方法

出席、平常点、レポート。特に出席を重視する。

■履修上の指示事項

前期・後期と併せて履修することが望ましい。大学院生の履修は、原則として4限の「音楽リサーチ法」を推奨する。

■備考 (オフィスアワー)

木曜 10:00~12:00

音楽リサーチ法Ⅱ（大学院）

代表教員：関根 和江

曜日時限：水曜4限

学 期：後期

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（大学院共通）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

音楽資料探索

■授業計画及び内容

音楽研究にとって、資料との出会いは欠くことのできない出発点であるといえる。資料を効率よく探し当て、資料への道を開くことができるか否かが、その後の研究の発展を左右するといっても過言ではない。広く、音楽資料との出会いを図る。

実際のケーススタディを多用しながら、実践的に音楽資料検索方法を指導する。実際に資料のリサーチをしながら、資料検索の方向付けを行うため、授業は教室での講義にとどまらず、附属図書館、音楽研究センター等に出向く場合もある。

前期（音楽リサーチ法Ⅰ）は基礎編として主に講義による資料紹介を行い、後期（音楽リサーチ法Ⅱ）は応用編として実践的に資料の使い方を学ぶ。

大学院生対象の授業であるので、音楽事典の使い方等、初歩的文献探索方法をはじめ、レポート・修士論文作成を視野に入れた指導を行う。

■教材・参考書

授業の都度プリントを配布する。

■成績評価の方法

出席、平常点、レポート。特に出席を重視する。

■履修上の指示事項

前期・後期と併せて履修することが望ましい。

■備考（オフィスアワー）

木曜 10:30～12:00

音楽リサーチ法Ⅱ（大学院）

代表教員：関根 和江

曜日時限：水曜5限

学 期：後期

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（大学院共通）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

音楽文献探索

■授業計画及び内容

音楽研究にとって、資料との出会いは欠くことのできない出発点であるといえる。資料を効率よく探し当て、資料への道を開くことができるか否かが、その後の研究の発展を左右するといっても過言ではない。広く、音楽資料との出会いを図る。

実際のケーススタディを多用しながら、実践的に音楽資料検索方法を指導する。実際に資料のリサーチをしながら、資料検索の方向付けを行うため、授業は教室での講義にとどまらず、附属図書館、音楽研究センター等に出向く場合もある。

前期（音楽リサーチ法Ⅰ）は基礎編として主に講義による資料紹介を行い、後期（音楽リサーチ法Ⅱ）は応用編として実践的に資料の使い方を学ぶ。

学部生対象の授業であるので、音楽事典の使い方等、初歩的文献探索方法から指導する。

■教材・参考書

授業の都度、配布する。

■成績評価の方法

出席、平常点、レポート。特に出席を重視する。

■履修上の指示事項

前期・後期と併せて履修することが望ましい。

大学院生の履修は、原則として4限の「音楽リサーチ法」を推奨する。

■備考（オフィスアワー）

木曜 10:30～12:00

原典研究（英語）

代表教員：侘美 真理

曜日時限：金曜 2 限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（大学院共通）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

博士課程の論文、文献講読個別指導

■授業計画及び内容

指導計画、内容、曜日等については随時個別に打ち合わせる。

■教材・参考書

個別に打ち合わせる。

■成績評価の方法

平常点

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

原典研究（独語）B

代表教員：檜山 哲彦

曜日時限：金曜 3 限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（大学院共通）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

ドイツ文化史

■授業計画及び内容

上記の趣旨で、ドイツ文化にかかわるさまざまな文（散文・詩・戯曲・評論・エッセイなど）を読むつもりです。

博士論文のための文献講読については個別に相談します。

■教材・参考書

■成績評価の方法

平常点に基づいて行う。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

水・金曜日の 17 時以降

原典研究（日本古典）

代表教員：杉本 和寛

曜日時限：木曜 1限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（大学院共通）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

日本古典文学の研究

■授業計画及び内容

受講生の博士論文執筆のための文献講読をおこなう。

■教材・参考書

特になし

■成績評価の方法

平常点により評価する。

■履修上の指示事項

学生の主体的な研究計画を尊重する。

■備考（オフィスアワー）

月曜日Ⅱ時限目

原典研究（仏語）

代表教員：大森 晋輔

曜日時限：金曜 3限

学 期：通年

単 位 数：2

ジャンル：大学院開設科目（大学院共通）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

博士論文作成のための文献講読

■授業計画及び内容

博士論文作成のために必要な文献の講読を優先するが、受講生の希望によってはより広いテーマに基づいたフランス語の文献を講読することもあり得る。具体的な内容は初回時に相談の上決める。

■教材・参考書

相談の上決める。

■成績評価の方法

平常点により評価する。

■履修上の指示事項

- ・本学の博士後期課程に在籍し、博士論文を作成するためにフランス語のテキストや文献を扱うすべての学生を対象とする。
- ・学生の主体的な研究姿勢を尊重する。
- ・初回の授業には必ず出席すること。

■備考（オフィスアワー）

水曜 11時～

事前連絡のこと。

原典特殊講義（英語）A

代表教員：大橋 洋一

曜日時限：月曜3限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（大学院共通）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

シェイクスピアの演劇

■授業計画及び内容

シェイクスピアの演劇作品を英語で読みます。初期近代の英語でなおかつ劇作品の台詞なので難解かと思われるかもしれませんが、優れた日本語訳も数種あり、注釈書も日本版あるいは英語版が数種出版されていたり、ネット上で参照することができるようになっていたりするため、理解と鑑賞のための環境は整っています。シェイクスピアの作品は5幕に分けられているため、毎回、一幕を読むと、5回で一作品が終わります。実際にこのペースは少しきついので、ゆるめますが、毎回、授業時間の三分の二を講義形式にして内容を説明し、残りの時間を質疑応答にあてたいと考えています。したがって、受講者に対しては、自分の興味のあるよう応じて、また自分の英語読解力に応じて、無理をせずに授業に参加できるように配慮します。今回は『ロミオとジュリエット』『オセロー』、そして『十二夜』を読みます。時間的に余裕があれば、もう一作品、相談のうえ決めることができればと思いますが、この3作品は必ず読みます。

■教材・参考書

教科書はありません。日本語の注釈書としては大修館シェイクスピア双書のなかの『ロミオとジュリエット』『オセロー』『十二夜』を推薦します。

■成績評価の方法

2回のレポートと毎回授業後に提出するコメント・シート。コメントシートは内容を評価するというよりも出席の確認も兼ねている。出席は重視します。欠席が三分の一を超えると失格になります。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

メールのアドレスを授業時に提示します。

原典特殊講義（英語） B

代表教員：侘美 真理

曜日時限：金曜 4 限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（大学院共通）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

英米文学の精読・評論。

19 世紀～20 世紀の英米文学、とくに英国ヴィクトリア朝文学（小説、短編小説、詩）とそれらに関する評論を読む。英語力の向上にもつとめる。

■授業計画及び内容

まずはヴィクトリア朝時代を概観した英文資料を読み、どのような時代であったかを知ってもらう。例えば文化芸術においてはロンドン万国博覧会の盛況やラファエル前派の絵画の流行があった。視覚的なイメージも取り込みつつイントロダクションを行い、読む英文も比較的簡単なものから始める。その後、メインである文学テキストの精読に移る。詩、短編、長編小説の順で読む予定。詩では言葉とそのイメージに着目し、短編小説では文章を読むことに慣れてもらい、筋の展開や心理・情景描写を把握する。長編小説（抜粋）では読んだ上でさらにその場面が担う意味や役割などを考察する。取り上げる作家・詩人は Charles Dickens, Emily Bronte, Elizabeth Gaskell, George Eliot, Mary Elizabeth Braddon, Christina Rossetti など。英文のレベルとしては徐々に難しく、複雑になるようにテキストを選び、受講者の取り組みが期待される。

■教材・参考書

指定教材及びプリント

■成績評価の方法

出席、平常点、レポート

■履修上の指示事項

初回の授業は授業の進め方や評価及び注意事項について説明するので、出席すること。

■備考（オフィスアワー）

原典特殊講義（独語） A

代表教員：藤田 総平

曜日時限：水曜 4 限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（大学院共通）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

ドイツ語の文章の構造

■授業計画及び内容

ドイツ語の作文を行うことと短いテキストを読むことを交互に行うことによって、作文で学んだ文の構造をテキストの読解に生かすと同時に、テキストで読み取った文章構造を、作文をするときに応用する。作文の問題を配布し、その答えをメールで送って、添削を受ける。

■教材・参考書

コピーを配布する。読解のテキストについては、参加者と相談して決めたい。

■成績評価の方法

平常点とメールの作文の内容

■履修上の指示事項

ドイツ語の中級文法を学んでいること

■備考（オフィスアワー）

原典特殊講義（独語）B

代表教員：檜山 哲彦

曜日時限：金曜5限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（大学院共通）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

言語表現論

■授業計画及び内容

日本語の多種多様な文章をドイツ語に移す訓練を行う一方、新聞記事などアクチュアルなドイツ文を日本語に移す能力を養いつつ、言語表現のあるべき姿を考える。全参加者が毎回提出する文章を全員で検討してゆく。

■教材・参考書

コピー

■成績評価の方法

出席を重視する。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

水・金曜日の17時以降

原典特殊講義（日本古典）

代表教員：杉本 和寛

曜日時限：金曜2限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（大学院共通）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

日本の古典作品を読解する能力を身につけることを目的とする。

■授業計画及び内容

対象作品については、授業開始時に相談して決定する。毎時間プリント等を配布し、出席者に現代語訳等を行ってもらおう。また、年に1・2度の文学散歩も予定している。

■教材・参考書

特になし

■成績評価の方法

出席状況および平常の学習状況によって判断する。

■履修上の指示事項

1年を通じて出席が可能な場合のみ履修すること。

■備考（オフィスアワー）

月曜日II時限目

原典特殊講義（仏語）

代表教員：大森 晋輔
曜日時限：金曜 4 限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：大学院開設科目（大学院共通）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

フランス語文献の読解能力の涵養

■授業計画及び内容

同時代の文化や歴史動向を視野に入れて、フランス語で書かれたテキストを読む。テキストは初回時に受講生と相談の上、決定する。

■教材・参考書

プリントを配布

■成績評価の方法

出席状況、授業への参加度、発表、レポート

■履修上の指示事項

初回時にテキストと担当者を決めるので出席のこと。担当者はテキストの翻訳を準備し、全員で内容を検討する。テキストの理解を助けるための情報や資料の提供は大いに歓迎される。

■備考（オフィスアワー）

水曜 11:00～
事前連絡のこと。

原典特殊講義（露語）

代表教員：木村 敦夫
曜日時限：水曜 4 限
学 期：通年
単 位 数：4
ジャンル：大学院開設科目（大学院共通）
開設区分：音楽研究科
交流区分：

■授業のテーマ

「ロシア文化」（広い意味での）を読む
ロシア語特有の文章構造を理解し、そこからうかがえる、ロシア人の思考展開・論展開の特徴を味わう

■授業計画及び内容

この授業は、ロシア語文法を修得した（自分としては一通り身につけたつもり、で勿論 OK, нет ни какой проблемы）学習者を対象として、各自が「ロシア語を読む」力を培うことを目指している。講読文献としては、特にジャンルにはこだわらず、「ロシア文化」を反映しているもの（ロシア語で書かれているもの）を広く取りあげる。

授業方法は、テキスト（ロシア語文献）の講読とその内容に関するディスカッションとする。

参考までに、今までに取り上げたテーマを記しておく：Дягилев（ディアギレフ）の活動— Мир искусства 時代～Ballets Russes 時代；スターリン統治期のソヴィエト全体主義芸術；ロシア・アヴァンギャルド芸術；文化・芸術活動における「伝統」の意味；モンゴル民族音楽における歌謡と旋律；1920～30 年代のソ連音楽文化史；チェチェンをはじめとするロシア国内の少数民族を取り巻く民族問題；チエーホフ劇における「時間」の概念；アクーニン論（おもに三島由紀夫との比較において）；Шостаковичの後期声楽曲；タルコフスキー作『スタルケル』脚本；Татьяна Толстаяのエッセイ；Андрей Курковの短編小説；Борис Акунинの長編小説 Аз азельである。

今年度のテーマ（テキスト）は、受講希望者との話し合いによって決めたい。

■教材・参考書

テキストは、授業中に配布する（冊子体のものを用いるか、プリントを用いるかは、とりあげるテーマによって異なる）。

参考書は、授業中に適宜紹介する。

■成績評価の方法

授業中の平常評価（試験は課さない）

■履修上の指示事項

厳密な知識は要求しないが、解説を聞いてそれを理解できる程度に、ロシア語初等文法を一通り修めていることが望ましい（ロシア語テキストを用いるので）が、必須ではない。

それにまさるとも劣らず必要なのは、学問に対するきらめく情熱と知的好奇心！

最も大切なのは、授業を楽しむこと。

ちらっとでも疑問に思ったことは、いつでも、どこでも訊いてくれていい。

■備考（オフィスアワー）

月曜 2:30pm～

水曜 1:00pm～

大学院研究基礎（演習）

代表教員：佐藤 文香

曜日時限：火曜3限

学 期：前期

単 位 数：1

ジャンル：大学院開設科目（大学院共通）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

ゼミ形式で、大学院レベルの研究を進めるうえで必要な知識・スキルを学ぶ。とりわけ、芸術実践（演奏、創作等）と関連した研究方法を身につけることを目指す。同じテーマで隔週金曜日2限にも開講する。

■授業計画及び内容

専門的研究の基礎（テーマ設定・問題設定のやり方、方法論の選択、論文の構成・章立ての構築、論文の書式、資料の活用法、論考の組み立て方等）を、ゼミ形式で学ぶ。出席重視。履修学生は、課題の提出および発表が義務付けられる。

■教材・参考書

『学位論文作成マニュアル』（教務で入手可）

『アカデミック・スキルズ』（佐藤望ほか著、慶應大学出版会、第2版）

■成績評価の方法

提出課題、出席、学期末の研究発表等をもとに、総合的に判断する。

■履修上の指示事項

必ず履修登録を行うこと。教務を通じて入手可能な「実技系修士・博士論文執筆指導に関する注意書き」によく目を通しておくこと。また初回、授業の進め方等を詳しく説明するので、必ず出席すること。

■備考（オフィスアワー）

初回授業（4月8日）で説明する。

大学院研究基礎（演習）

代表教員：中田 朱美

曜日時限：金曜 2限

学 期：前期

単 位 数：1

ジャンル：大学院開設科目（大学院共通）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

ゼミ形式で、大学院レベルの研究を進めるうえで必要な知識・スキルを学ぶ。とりわけ、芸術実践（演奏、創作等）と関連した研究方法を身につけることを目指す。同じテーマで隔週火曜日3限にも開講する。

■授業計画及び内容

専門的研究の基礎（テーマ設定・問題設定のやり方、方法論の選択、論文の構成・章立ての構築、論文の書式、資料の活用法、論考の組み立て方等）を、ゼミ形式で学ぶ。出席重視。履修学生は、課題の提出および発表が義務付けられる。

■教材・参考書

『学位論文作成マニュアル』（教務で入手可）

『アカデミック・スキルズ』（佐藤望ほか著、慶應大学出版会、第2版）

■成績評価の方法

提出課題、出席、学期末の研究発表等をもとに、総合的に判断する。

■履修上の指示事項

必ず履修登録を行うこと。教務を通じて入手可能な「実技系修士・博士論文執筆指導に関する注意書き」によく目を通しておくこと。また初回、授業の進め方等を詳しく説明するので、必ず出席すること。

■備考（オフィスアワー）

初回授業（4月11日）で説明する。

大学院研究基礎（演習）

代表教員：佐藤 文香

曜日時限：火曜 3限

学 期：後期

単 位 数：1

ジャンル：大学院開設科目（大学院共通）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

ゼミ形式で、大学院レベルの研究を進めるうえで必要な知識・スキルを学ぶ。とりわけ、芸術実践（演奏、創作等）と関連した研究方法を身につけることを目指す。同じテーマで隔週金曜日2限にも開講する。

■授業計画及び内容

専門的研究の基礎（テーマ設定・問題設定のやり方、方法論の選択、論文の構成・章立ての構築、論文の書式、資料の活用法、論考の組み立て方等）を、ゼミ形式で学ぶ。出席重視。履修学生は、課題の提出および発表が義務付けられる。

■教材・参考書

『学位論文作成マニュアル』（教務で入手可）

『アカデミック・スキルズ』（佐藤望ほか著、慶應大学出版会、第2版）

■成績評価の方法

提出課題、出席、学期末の研究発表等をもとに、総合的に判断する。

■履修上の指示事項

必ず履修登録を行うこと。教務を通じて入手可能な「実技系修士・博士論文執筆指導に関する注意書き」によく目を通しておくこと。また初回、授業の進め方等を詳しく説明するので、必ず出席すること。

■備考（オフィスアワー）

初回授業（4月8日）で説明する。

大学院研究基礎（演習）

代表教員：中田 朱美

曜日時限：金曜 2限

学 期：後期

単 位 数：1

ジャンル：大学院開設科目（大学院共通）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

ゼミ形式で、大学院レベルの研究を進めるうえで必要な知識・スキルを学ぶ。とりわけ、芸術実践（演奏、創作等）と関連した研究方法を身につけることを目指す。同じテーマで隔週火曜日3限にも開講する。

■授業計画及び内容

専門的研究の基礎（テーマ設定・問題設定のやり方、方法論の選択、論文の構成・章立ての構築、論文の書式、資料の活用法、論考の組み立て方等）を、ゼミ形式で学ぶ。出席重視。履修学生は、課題の提出および発表が義務付けられる。

■教材・参考書

『学位論文作成マニュアル』（教務で入手可）

『アカデミック・スキルズ』（佐藤望ほか著、慶應大学出版会、第2版）

■成績評価の方法

提出課題、出席、学期末の研究発表等をもとに、総合的に判断する。

■履修上の指示事項

必ず履修登録を行うこと。教務を通じて入手可能な「実技系修士・博士論文執筆指導に関する注意書き」によく目を通しておくこと。また初回、授業の進め方等を詳しく説明するので、必ず出席すること。

■備考（オフィスアワー）

初回授業（4月11日）で説明する。

大学院論文作成（実習）

代表教員：佐藤 文香

曜日時限：火曜 2限

学 期：前期

単 位 数：1

ジャンル：大学院開設科目（大学院共通）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

修士論文、博士論文の執筆のための指導を行う。とりわけ、芸術実践（演奏、創作等）と関連した研究題目の論文執筆の指導が中心となる。同じテーマで金曜日1限にも開講する。

■授業計画及び内容

修士論文、博士論文の執筆のための指導を行う。指導の進め方（指導の内容や頻度、日時など）については初回授業時に説明・決定するので、履修希望者は必ず初回授業に出席すること。初回授業に出席しない場合は、履修を認めない場合がある。

■教材・参考書

『学位論文作成マニュアル』（教務で入手可）

『アカデミック・スキルズ』（佐藤望ほか著、慶應大学出版会、第2版）

■成績評価の方法

出席や進捗状況をもとに、総合的に判断する。

■履修上の指示事項

前年度以前に『実技系博士研究基礎演習』、『実技系博士論文作成実習』、『特殊研究：グローバル時代の芸術実践研究（演習）』、または『特殊研究：グローバル時代の研究発信（演習）』をすでに履修している学生か、あるいは本年度『大学院研究基礎（演習）』を履修する学生のみ、履修可能。

必ず履修登録を行うこと。

教務を通じて入手可能な「実技系修士・博士論文執筆指導に関する注意書き」によく目を通しておくこと。また初回、授業の進め方等を詳しく説明するので、必ず出席すること。初回授業に出席しない場合は、履修を認めない場合がある。

■備考（オフィスアワー）

初回授業（4月8日）で説明する。

大学院論文作成（実習）

代表教員：中田 朱美

曜日時限：金曜 1 限

学 期：前期

単 位 数：1

ジャンル：大学院開設科目（大学院共通）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

修士論文、博士論文の執筆のための指導を行う。とりわけ、芸術実践（演奏、創作等）と関連した研究題目の論文執筆の指導が中心となる。同じテーマで火曜日 2 限にも開講する。

■授業計画及び内容

修士論文、博士論文の執筆のための指導を行う。指導の進め方（指導の内容や頻度、日時など）については初回授業時に説明・決定するので、履修希望者は必ず初回授業に出席すること。初回授業に出席しない場合は、履修を認めない場合がある。

■教材・参考書

『学位論文作成マニュアル』（教務で入手可）

『アカデミック・スキルズ』（佐藤望ほか著、慶應大学出版社、第 2 版）

■成績評価の方法

出席や進捗状況をもとに、総合的に判断する。

■履修上の指示事項

前年度以前に『実技系博士研究基礎演習』、『実技系博士論文作成実習』、『特殊研究：グローバル時代の芸術実践研究（演習）』、または『特殊研究：グローバル時代の研究発信（演習）』をすでに履修している学生か、あるいは本年度『大学院研究基礎（演習）』を履修する学生のみ、履修可能。

必ず履修登録を行うこと。

教務を通じて入手可能な「実技系修士・博士論文執筆指導に関する注意書き」によく目を通しておくこと。また初回、授業の進め方等を詳しく説明するので、必ず出席すること。初回授業に出席しない場合は、履修を認めない場合がある。

■備考（オフィスアワー）

初回授業（4 月 11 日）説明する。

大学院論文作成（実習）

代表教員：佐藤 文香

曜日時限：火曜 2 限

学 期：後期

単 位 数：1

ジャンル：大学院開設科目（大学院共通）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

修士論文、博士論文の執筆のための指導を行う。とりわけ、芸術実践（演奏、創作等）と関連した研究題目の論文執筆の指導が中心となる。同じテーマで金曜日 1 限にも開講する。

■授業計画及び内容

修士論文、博士論文の執筆のための指導を行う。指導の進め方（指導の内容や頻度、日時など）については初回授業時に説明・決定するので、履修希望者は必ず初回授業に出席すること。初回授業に出席しない場合は、履修を認めない場合がある。

■教材・参考書

『学位論文作成マニュアル』（教務で入手可）

『アカデミック・スキルズ』（佐藤望ほか著、慶應大学出版社、第 2 版）

■成績評価の方法

出席や進捗状況をもとに、総合的に判断する。

■履修上の指示事項

前年度以前に『実技系博士研究基礎演習』、『実技系博士論文作成実習』、『特殊研究：グローバル時代の芸術実践研究（演習）』、または『特殊研究：グローバル時代の研究発信（演習）』をすでに履修している学生か、あるいは本年度『大学院研究基礎（演習）』を履修する学生のみ、履修可能。

必ず履修登録を行うこと。

教務を通じて入手可能な「実技系修士・博士論文執筆指導に関する注意書き」によく目を通しておくこと。また初回、授業の進め方等を詳しく説明するので、必ず出席すること。初回授業に出席しない場合は、履修を認めない場合がある。

■備考（オフィスアワー）

初回授業（4 月 8 日）で説明する。

大学院論文作成（実習）

代表教員：中田 朱美

曜日時限：金曜 1限

学 期：後期

単 位 数：1

ジャンル：大学院開設科目（大学院共通）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

修士論文、博士論文の執筆のための指導を行う。とりわけ、芸術実践（演奏、創作等）と関連した研究題目の論文執筆の指導が中心となる。同じテーマで火曜日2限にも開講する。

■授業計画及び内容

修士論文、博士論文の執筆のための指導を行う。指導の進め方（指導の内容や頻度、日時など）については初回授業時に説明・決定するので、履修希望者は必ず初回授業に出席すること。初回授業に出席しない場合は、履修を認めない場合がある。

■教材・参考書

『学位論文作成マニュアル』（教務で入手可）

『アカデミック・スキルズ』（佐藤望ほか著、慶應大学出版社、第2版）

■成績評価の方法

出席や進捗状況をもとに、総合的に判断する。

■履修上の指示事項

前年度以前に『実技系博士研究基礎演習』、『実技系博士論文作成実習』、『特殊研究：グローバル時代の芸術実践研究（演習）』、または『特殊研究：グローバル時代の研究発信（演習）』をすでに履修している学生か、あるいは本年度『大学院研究基礎（演習）』を履修する学生のみ、履修可能。

必ず履修登録を行うこと。

教務を通じて入手可能な「実技系修士・博士論文執筆指導に関する注意書き」によく目を通しておくこと。また初回、授業の進め方等を詳しく説明するので、必ず出席すること。初回授業に出席しない場合は、履修を認めない場合がある。

■備考（オフィスアワー）

初回授業（4月11日）説明する。

レッスン研究

代表教員：山下 薫子

曜日時限：水曜 4限

学 期：通年

単 位 数：4

ジャンル：大学院開設科目（大学院共通）

開設区分：音楽研究科

交流区分：

■授業のテーマ

講義と演習を通して、レッスンの理論と実践に関する基礎的な知識と技能を習得するための授業である。教材やメソッド、演奏技能、学習者とのコミュニケーションの取り方等について学ぶ。ピアノのレッスンを中心に授業を展開するが、履修生の専門性を生かせるように配慮して授業を構成する。

■授業計画及び内容

- ・レッスンを構成する要素
- ・指導のストラテジー
- ・発達段階と学習者の特性
- ・メソッド研究
- ・教材研究
- ・指導方法の研究
- ・奏法の史的変遷
- ・演奏不安や神経疾患
- ・レッシンプラン
- ・模擬レッスン

■教材・参考書

その都度、指示する。

受講生の興味・関心に応じて、英文を講読することがある。

■成績評価の方法

平常点（課題の遂行状況等）

■履修上の指示事項

ピアノ専攻生に限らず、大学院全専攻生を履修の対象とする。

■備考（オフィスアワー）

金曜日 16:15～16:45

別科開設科目

器楽専修実技（古楽）Ⅰ

代表教員：野々下 由香里

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：0

ジャンル：別科開設科目

開設区分：別科

交流区分：

■授業のテーマ

古楽演奏家としてのより基礎的な演奏技術ならびに表現力の習得ならびに向上を目指す

■授業計画及び内容

授業の概要

・バロック声楽：発音・共鳴・支えのバランスを考慮しながら、ヴィブラートのコントロールの仕方、音律やピッチを考えた音程の取り方、装飾や即興を反映させた演奏を指導する。

・バロックヴァイオリン：1600年頃から1800年頃のヴァイオリンのレパートリーにおいて、その時代の様式に適した演奏を実践する。

・リコーダー：中世、ルネッサンス、バロック、現代に至るまで幅広いレパートリーを持つリコーダーの演奏法とその音楽を各時代の様式とともに学び、真のプロフェッショナルを育成する。

・チェンバロ：より専門的なチェンバロの演奏技術を身につけ、歴史的な観点から各時代各地域の作品演奏に求められる個々の特殊な表現方法について研究する。

・フォルテピアノ：1700年頃発明されたピアノから現代のピアノになるまでの200年間の重要なピアノレパートリーを、それらの作品を生み出したフォルテピアノでの演奏スタイル、構造、時代背景などを学びながら、作品の本質に迫る。

・バロックチェロ：17世紀後半～18世紀を中心としたチェロのレパートリーを習得すること。時代や地域によって異なる演奏様式を理解し演奏できるようにすること。

バロックオルガン：17～18世紀のオルガンレパートリーを中心に、当時の楽器の特性に注目しつつ、ふさわしい演奏法を研究する。

・修士リサイタル・学位審査会で研究成果を発表する。

授業計画

- ・教員が学生を一人ずつ担当し、個人レッスンを行う。
- ・学生一人一人の能力に応じて目標設定し、適宜個々の学生にふさわしい課題を選択し、指導する。

■教材・参考書

- ・授業時に適宜指示する。

■成績評価の方法

学年末演奏試験にて評価。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

古楽教員室

器楽専修実技（古楽）Ⅱ

代表教員：野々下 由香里

曜日時限：その他

学 期：通年

単 位 数：0

ジャンル：別科開設科目

開設区分：別科

交流区分：

■授業のテーマ

古楽演奏家としてのより基礎的な演奏技術ならびに表現力の習得ならびに向上を目指す

■授業計画及び内容

授業の概要

・バロック声楽：発音・共鳴・支えのバランスを考慮しながら、ヴィブラートのコントロールの仕方、音律やピッチを考えた音程の取り方、装飾や即興を反映させた演奏を指導する。

・バロックヴァイオリン：1600年頃から1800年頃のヴァイオリンのレパートリーにおいて、その時代の様式に適した演奏を実践する。

・リコーダー：中世、ルネッサンス、バロック、現代に至るまで幅広いレパートリーを持つリコーダーの演奏法とその音楽を各時代の様式とともに学び、真のプロフェッショナルを育成する。

・チェンバロ：より専門的なチェンバロの演奏技術を身につけ、歴史的な観点から各時代各地域の作品演奏に求められる個々の特殊な表現方法について研究する。

・フォルテピアノ：1700年頃発明されたピアノから現代のピアノになるまでの200年間の重要なピアノレパートリーを、それらの作品を生み出したフォルテピアノでの演奏スタイル、構造、時代背景などを学びながら、作品の本質に迫る。

・バロックチェロ：17世紀後半～18世紀を中心としたチェロのレパートリーを習得すること。時代や地域によって異なる演奏様式を理解し演奏できるようにすること。

バロックオルガン：17～18世紀のオルガンレパートリーを中心に、当時の楽器の特性に注目しつつ、ふさわしい演奏法を研究する。

・修士リサイタル・学位審査会で研究成果を発表する。

授業計画

・教員が学生を一人ずつ担当し、個人レッスンを行う。

・学生一人一人の能力に応じて目標設定し、適宜個々の学生にふさわしい課題を選択し、指導する。

■教材・参考書

・授業時に適宜指示する。

■成績評価の方法

学年末演奏試験にて評価。

■履修上の指示事項

■備考（オフィスアワー）

古楽教員室

声楽専修実技Ⅰ

代表教員：佐々木 典子
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：0
ジャンル：別科開設科目
開設区分：別科
交流区分：

■授業のテーマ

別科声楽専修における声楽実技レッスン

■授業計画及び内容

通常の在籍期間2年の間に、簡易な程度の声楽実技教育を与えることがこの別科の本義であるが、履修者の進度によっては、学部生と同程度（又は、それ以上）の課題を与えることがある。

一週一回の実技レッスン時間は学部と同じく、実技担当教員とのマンツーマンで約40分間である。

内容は学生の進度によって大きく異なることは当然であるが、発声法の基本の教授と同時に、ヴォカリーズを使った発声練習を課し、「イタリア古典アリア」を基本とした教材による、歌の実践的指導を行うことを原則とする。

履修者の進度によっては、伊・独・仏語などによる歌曲や、オペラ・アリアを課題として与え、より高度の歌唱技術、音楽表現法、演奏解釈法を教授する。

■教材・参考書

学年初めに声楽実技担当教員の指示を受けて楽譜を購入すること。

■成績評価の方法

出席率と学年末実技試験の総合評価。

■履修上の指示事項

学期のはじめには、決められた日時に行う実技担当教員との面談によって、週1回のレッスン時間を決めること。レッスンにおいては、履修者が学内の友人などの協力を得て、ピアノ伴奏者を同伴しレッスンを受けることが多い。

■備考（オフィスアワー）

各実技担当教員の空き時間に対応する。（要予約）

声楽専修実技Ⅱ

代表教員：佐々木 典子
曜日時限：その他
学 期：通年
単 位 数：0
ジャンル：別科開設科目
開設区分：別科
交流区分：

■授業のテーマ

別科声楽専修における声楽実技レッスン

■授業計画及び内容

通常の在籍期間2年の間に、簡易な程度の声楽実技教育を与えることがこの別科の本義であるが、履修者の進度によっては、学部生と同程度（又は、それ以上）の課題を与えることがある。

一週一回の実技レッスン時間は学部と同じく、実技担当教員とのマンツーマンで約40分間である。

内容は学生の進度によって大きく異なることは当然であるが、発声法の基本の教授と同時に、ヴォカリーズを使った発声練習を課し、「イタリア古典アリア」を基本とした教材による、歌の実践的指導を行うことを原則とする。

履修者の進度によっては、伊・独・仏語などによる歌曲や、オペラ・アリアを課題として与え、より高度の歌唱技術、音楽表現法、演奏解釈法を教授する。

■教材・参考書

学年初めに声楽実技担当教員の指示を受けて楽譜を購入すること。

■成績評価の方法

出席率と学年末実技試験の総合評価。

■履修上の指示事項

学期のはじめには、決められた日時に行う実技担当教員との面談によって、週1回のレッスン時間を決めること。レッスンにおいては、履修者が学内の友人などの協力を得て、ピアノ伴奏者を同伴しレッスンを受けることが多い。

■備考（オフィスアワー）

各実技担当教員の空き時間に対応する。（要予約）

